

令和6年度 講義案内

経済学部 経済学科

RISSHO UNIVERSITY
2024 Guidebook of Lecture
Faculty of Economics
Department of Economics

あ

か

さ

た

な

は

ま

や

ら

わ

第Ⅱ部

講義案内

講義コード	11C0272801	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員	島田 竜登	開講期	第1期
科目名	アジア経済史				島田 竜登		第1期		
履修前提条件					備考				
授業の目的	16世紀から20世紀半ばにかけてのアジア経済史を概説する。特定の地域や一国の経済史分析に偏ることなく、できる限りまんべんなくアジア各地の経済を長期的視野の下に概観することにつとめたい。なお、世界経済全体ならびに日本経済の動向を意識しながら講義を進めることにする。								
到達目標	16世紀から20世紀半ばという長期的な視点で、アジア全般にわたる広域的観点から、現在のアジア経済を見る目を養い、多様なアジア経済の特質を歴史的に理解し、説明できるようになることを目標とする。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	授業外学修としては復習を中心に進めること。各回の授業で扱ったトピックについて、授業で紹介した参考文献を読むなど、インターネット等で復習を行うこととし、授業外に計60時間以上の学修を行うこと。								
授業計画	【第1回】問題の所在 【第2回】銀と大航海時代 【第3回】オランダ東インド会社の貿易 【第4回】近世植民都市バタヴィア 【第5回】近世の中国とインド 【第6回】イギリス産業革命とインド 【第7回】イギリス産業革命と中国 【第8回】農業発展の2つのあり方 【第9回】アジアの工業化と域内貿易 【第10回】東南アジアと移民 【第11回】金本位制度とアジアの通貨 【第12回】世界恐慌とアジア経済 【第13回】近代日本とアジア経済①：台湾経済 【第14回】近代日本とアジア経済②：朝鮮経済 【第15回】まとめ								
成績評価の方法	到達目標の達成度をはかる視点から、期末レポート（70%）および毎回のリアクションペーパー（30%）で評価する。								
フィードバックの内容	毎回のリアクションペーパーに対するフィードバックを翌週授業内にて行う。								
教科書									
指定図書	『グローバル経済史』水島司、島田竜登（放送大学教育振興会）2018、『アジア経済史研究入門』水島司、加藤博、久保亨、島田竜登（名古屋大学出版会）2015、『構造化される世界 14～19世紀（岩波講座世界歴史第11巻）』小川幸司・島田竜登（岩波書店）2022								
参考書									
教員からのお知らせ									
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。また、メール（shimada.classroom@gmail.com）でも受け付けます。								
アクティブラーニングの内容									
その他									

講義コード	11C0118701	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員	苑 志佳	開講期	第1期
科目名	アジア経済論 1 / アジア経済 A				苑 志佳		第1期		
履修前提条件					備考				
授業の目的	20世紀後半の世界経済史を振り返ると、東アジア経済の奇跡的な成功は注目を集めるであろう。僅か30年間の間に、「停滞するアジア」は「世界経済の発展センター」や「東アジアの奇跡」へ変貌してしまった。21世紀の世界経済の3極の1つとなった東アジアの経済成長はどのように実現したか。東アジアの成功はどのような経験と教訓を残しているか。また、今後、東アジア経済の持続的成長は可能であろうか。本講義は、上記の問題意識を持って東アジア経済の発展ダイナミズムを考察する。講義 A は、東アジア経済の分析視点・方法、先行研究、東アジアの経済発展史などの考察に重点を置く。								
到達目標	本講義の勉強を通して出席者は、東アジア経済全般や分析視点・方法などを習得することができる。また、授業を履修することによって学生は、東アジア経済発展の特徴も掴むことができる。また、アジア経済発展メカニズムを理解することができる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	1. この科目では、60時間以上の授業外学修を行うこと。 2. 毎週の授業後に講義ファイルを復習資料として入手し、復習する。 3. 授業のテーマに関連する資料・参考書を自ら収集し、授業後関連章節を読む。								
授業計画	【第1回】イントロダクション 【第2回】アジア経済の研究視点・方法 【第3回】アジア経済研究の理論紹介 【第4回】東アジア経済発展の背景と外部条件 【第5回】東アジア経済発展の内部条件と要因 【第6回】アジア NIEs モデル 【第7回】アジア NIEs の経済開発体制 【第8回】政府主導型の発展モデル 【第9回】東アジア経済発展の担い手 【第10回】東アジアの経済発展と外資の役割 【第11回】東アジアの経済発展における華人・華僑の役割 【第12回】東アジア地域の企業システム 【第13回】東アジア経済発展と海外技術移転の役割 【第14回】東アジアの政治・社会システムとその特徴 【第15回】総括								
成績評価の方法	出席者の成績は、授業への取り組み姿勢（20%）と総合学習効果（80%）を合わせて決める。								
フィードバックの内容	講義された課題に対する講評を翌週授業の冒頭にて行う。								
教科書	『キヤッチアップ型工業化論』末廣 昭（名古屋大学出版会）2000年								
指定図書	『現代東アジア経済論』三重野文・深川由起子（ミネルヴァ書房）2018年								
参考書	『東アジアの奇跡』世界銀行（東洋経済新報社）1998年								
教員からのお知らせ	上記のテキストブック以外に下記の資料を丁寧に作成・保管することを強く薦める。 (1) 授業ノート； (2) 講義 PPT ファイル資料。 講義ファイルは立正 HP 画面からダウンロードすることができる。原則として、授業期間中にはプリントアウトを配布しない。								
オフィスアワー	- 月曜日 3 限 - 品川キャンパス 2 号館 508 室 - 事前に <0918@ris.ac.jp> に連絡すること								
アクティブラーニングの内容	意見共有、能動的な授業外学修								
その他									

講義コード	11C0120101	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員	苑 志佳	開講期	第2期																
科目名	アジア経済論2 / アジア経済B																								
履修前提条件					備考																				
授業の目的	本講義は、前期講義で勉強した基礎知識に基づいて東アジアの経済発展を実証的に考察する。講義Aは「理論・視点・方法」と位置付け、講義Bは「実証」になる。東アジア地域は経済規模と経済発展水準において多様な国々・地域をそのうちに含んでいる。講義Bでは、東アジアの多様性に焦点を当て、講義Aを通じてマスターした研究視点・手法を用いて東アジアの経済発展メカニズムを実証的に考察する。具体的には、アジアNIEs、ASEAN、中国の順で東アジアの経済発展過程・特徴を紹介する。また、東アジア経済の今後については、グローバリゼーションの視点から地域経済一体化の条件および可能性を探る。																								
到達目標	本講義を履修する者は、東アジア経済に関するケーススタディの手法を習得することができる。また、この授業を通じて履修者は、経済発展の異なる段階にある地域・国の発展特徴を理解することができる。																								
授業外学修内容・授業外学修時間数	1. この科目では、60時間以上の授業外学修を行うこと。 2. 毎週の授業後に講義ファイルを復習資料として入手し、復習する。 3. 授業のテーマに関連する資料・参考書を自ら収集し、授業後関連章節を読む。																								
授業計画	<table border="0"> <tr> <td>【第1回】 イントロダクション</td> <td>【第9回】 ベトナム経済発展検証（1）開発独裁の形成</td> </tr> <tr> <td>【第2回】 台湾経済発展検証（1）開発独裁体制の成立</td> <td>【第10回】 ベトナム経済発展検証（2）ドイモイ、外資の役割</td> </tr> <tr> <td>【第3回】 台湾経済発展検証（2）経済発展の戦略</td> <td>【第11回】 中国の経済発展検証（1）発展モデル：東アジアとの比較</td> </tr> <tr> <td>【第4回】 台湾経済発展検証（3）政府の役割</td> <td>【第12回】 中国の経済発展検証（2）外資の役割</td> </tr> <tr> <td>【第5回】 台湾経済発展検証（4）経済発展の担い手</td> <td>【第13回】 中国の経済発展検証（3）工業化の担い手</td> </tr> <tr> <td>【第6回】 台湾経済発展検証（5）外資の役割</td> <td>【第14回】 東アジアの到達点とその将来</td> </tr> <tr> <td>【第7回】 マレーシア経済発展検証（1）開発体制の形成</td> <td>【第15回】 総括</td> </tr> <tr> <td>【第8回】 マレーシア経済発展検証（2）経済発展戦略・手法・特徴</td> <td></td> </tr> </table>									【第1回】 イントロダクション	【第9回】 ベトナム経済発展検証（1）開発独裁の形成	【第2回】 台湾経済発展検証（1）開発独裁体制の成立	【第10回】 ベトナム経済発展検証（2）ドイモイ、外資の役割	【第3回】 台湾経済発展検証（2）経済発展の戦略	【第11回】 中国の経済発展検証（1）発展モデル：東アジアとの比較	【第4回】 台湾経済発展検証（3）政府の役割	【第12回】 中国の経済発展検証（2）外資の役割	【第5回】 台湾経済発展検証（4）経済発展の担い手	【第13回】 中国の経済発展検証（3）工業化の担い手	【第6回】 台湾経済発展検証（5）外資の役割	【第14回】 東アジアの到達点とその将来	【第7回】 マレーシア経済発展検証（1）開発体制の形成	【第15回】 総括	【第8回】 マレーシア経済発展検証（2）経済発展戦略・手法・特徴	
【第1回】 イントロダクション	【第9回】 ベトナム経済発展検証（1）開発独裁の形成																								
【第2回】 台湾経済発展検証（1）開発独裁体制の成立	【第10回】 ベトナム経済発展検証（2）ドイモイ、外資の役割																								
【第3回】 台湾経済発展検証（2）経済発展の戦略	【第11回】 中国の経済発展検証（1）発展モデル：東アジアとの比較																								
【第4回】 台湾経済発展検証（3）政府の役割	【第12回】 中国の経済発展検証（2）外資の役割																								
【第5回】 台湾経済発展検証（4）経済発展の担い手	【第13回】 中国の経済発展検証（3）工業化の担い手																								
【第6回】 台湾経済発展検証（5）外資の役割	【第14回】 東アジアの到達点とその将来																								
【第7回】 マレーシア経済発展検証（1）開発体制の形成	【第15回】 総括																								
【第8回】 マレーシア経済発展検証（2）経済発展戦略・手法・特徴																									
成績評価の方法	出席者の成績は、授業への取り組み姿勢（20%）と総合学習効果（80%）を合わせて決める。																								
フィードバックの内容	講義された課題に対する講評を翌週授業の冒頭にて行う。																								
教科書	『アジア四小龍』E.F.Vogel（中公新書）1995年																								
指定図書	『東アジアの開発経済学』大野健一・桜井宏二郎（有斐閣アルマ）1998年																								
参考書	『アジア経済論』原 洋之介（NTT出版）1999年																								
教員からのお知らせ	上記のテキストブック以外に下記の資料を丁寧に作成・保管することを強く薦める。 (1) 授業ノート； (2) 講義PPTファイル資料。 講義ファイルは立正 HP 画面からダウンロードすることができる。原則として、授業期間中にはプリントアウトを配布しない。																								
オフィスアワー	- 月曜日3限 - 品川キャンパス2号館508室 - 事前に<0918@ris.ac.jp>に連絡すること																								
アクティブラーニングの内容	意見共有、能動的な授業外学修																								
その他																									

講義コード	11C0273002	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員	水野 里香	開講期	第1期																
科目名	アメリカ経済史																								
履修前提条件					備考																				
授業の目的	この講義は、現代にいたるアメリカの歴史を経済史の視点から理解することを目的とする。前半では、アメリカ発見から植民地時代、そして独立を経て、経済大国となる19世紀末までのアメリカについて取り上げる。そして後半では、アメリカが政治・経済的に国外への関与を深めてゆく20世紀初頭から、世界において中心的な位置を占めるようになった現代までを取り上げて解説する。																								
到達目標	・ 授業で取り上げた個別の事項を説明できるようになることに加え、その発生要因と結果および影響について理解できるようにする。 ・ アメリカ経済社会の発展過程について理解を深めるとともに、アメリカにおいて生じた経済的な諸現象が持つ意味を、現代の世界経済との対比から学び、理解する。																								
授業外学修内容・授業外学修時間数	・ 配布資料などを振り返り、授業内で学んだ事柄を、自身の言葉で説明できるようにする。 ・ 理解が不十分な箇所については、下記に掲げた参考図書等を用いて学習する。 ・ これらを合わせ、授業外に計60時間以上の学修を行う。																								
授業計画	<table border="0"> <tr> <td>【第1回】 イントロダクション：講義内容、授業の進め方などの説明</td> <td>【第9回】 世界大恐慌の発生とニューディール政策</td> </tr> <tr> <td>【第2回】 アメリカ発見と植民地時代</td> <td>【第10回】 第二次世界大戦とアメリカ</td> </tr> <tr> <td>【第3回】 独立革命</td> <td>【第11回】 戦後の国際秩序の形成</td> </tr> <tr> <td>【第4回】 新国家の成立</td> <td>【第12回】 IMF・GATT体制</td> </tr> <tr> <td>【第5回】 南北戦争</td> <td>【第13回】 戦後の国内経済の盛衰</td> </tr> <tr> <td>【第6回】 巨大企業の登場</td> <td>【第14回】 新自由主義からニューエコノミーへ</td> </tr> <tr> <td>【第7回】 革新主義運動の展開</td> <td>【第15回】 グローバリゼーションと現代</td> </tr> <tr> <td>【第8回】 第一次世界大戦とアメリカ</td> <td></td> </tr> </table>									【第1回】 イントロダクション：講義内容、授業の進め方などの説明	【第9回】 世界大恐慌の発生とニューディール政策	【第2回】 アメリカ発見と植民地時代	【第10回】 第二次世界大戦とアメリカ	【第3回】 独立革命	【第11回】 戦後の国際秩序の形成	【第4回】 新国家の成立	【第12回】 IMF・GATT体制	【第5回】 南北戦争	【第13回】 戦後の国内経済の盛衰	【第6回】 巨大企業の登場	【第14回】 新自由主義からニューエコノミーへ	【第7回】 革新主義運動の展開	【第15回】 グローバリゼーションと現代	【第8回】 第一次世界大戦とアメリカ	
【第1回】 イントロダクション：講義内容、授業の進め方などの説明	【第9回】 世界大恐慌の発生とニューディール政策																								
【第2回】 アメリカ発見と植民地時代	【第10回】 第二次世界大戦とアメリカ																								
【第3回】 独立革命	【第11回】 戦後の国際秩序の形成																								
【第4回】 新国家の成立	【第12回】 IMF・GATT体制																								
【第5回】 南北戦争	【第13回】 戦後の国内経済の盛衰																								
【第6回】 巨大企業の登場	【第14回】 新自由主義からニューエコノミーへ																								
【第7回】 革新主義運動の展開	【第15回】 グローバリゼーションと現代																								
【第8回】 第一次世界大戦とアメリカ																									
成績評価の方法	毎回の授業で課す小問によって評価する（100%）。																								
フィードバックの内容	・ 授業で出題した小問の解説を行う。 ・ 授業内容に関する質問がある場合は回答し、その内容は皆で共有できるようにする。																								
教科書	『入門アメリカ経済Q&A100』坂出健、秋元英一、加藤一誠編著（中央経済社）2019																								
指定図書																									
参考書	『シリーズ アメリカ合衆国史①～④』和田光弘、貴堂嘉之、中野耕太郎、古矢旬著（岩波新書）2019-2020、『新訂欧米経済史』藤瀬浩司（放送大学教育振興会）2004、『アメリカ経済史』岡田泰男（慶應義塾大学出版会）2000、『アメリカ史（世界各国史）』紀平英作（編）（山川出版社）1999																								
教員からのお知らせ	・ ポータルサイトを利用し、各授業の案内を掲載します（授業資料の配布を含む）。																								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。																								
アクティブラーニングの内容	資料を前もって学生に提示する反転授業、講義中に課す小問へのフィードバック、学生からの講義内容への質問に対する回答、その共有も行います。																								
その他	講義の進捗状況により、授業計画に変更や修正が生じる可能性があります。																								

講義コード	11C0118901	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員	宮崎 礼二	開講期	第1期																
科目名	アメリカ経済論1／アメリカ経済A				宮崎 礼二			第1期																	
履修前提条件					備考																				
授業の目的	本講義はアメリカ経済への理解を深めるだけでなく、アメリカ合衆国を知ることで日本と世界の経済についても相対的に捉えられるようにすることを目的としている。日米両国は、第二次世界大戦では敵国、戦後には最大の同盟国、さらには緊密な経済関係を築いてきた。アメリカ合衆国を知ることなしに、今日の日本経済を知り得ることはない。そのためにも、アメリカ経済の特質を把握しなければならない。本講義は、現代アメリカ経済の特徴と特質を読み解くための知識の習得を目的とする。 後期開講「アメリカ経済論2／アメリカ経済B」も履修することが望ましい。																								
到達目標	1. 新聞の経済欄のアメリカ関係の情報を理解できる。 2. アメリカ経済の特殊性を説明できる。 3. 本年実施の大統領選挙の動向について解説できる。 4. 民主党・共和党の政策志向の相違について説明できる。 5. 講義内容を簡潔かつ的確にノートテイクできる。																								
授業外学修内容・授業外学修時間数	各授業2時間（事前学習1時間＋事後学習1時間）計60時間以上の授業外学修が必須である。 事前学習：前回講義で指示されたテーマを新聞や雑誌などから情報収集して、内容を整理する。 事後学習：毎回の講義で課される課題に取り組む。																								
授業計画	<table border="0"> <tr> <td>【第1回】 ガイダンス & イントロダクション</td> <td>【第9回】 戦争と経済成長</td> </tr> <tr> <td>【第2回】 アメリカ合衆国の概観</td> <td>【第10回】 自由貿易の背景と政策①</td> </tr> <tr> <td>【第3回】 基礎知識①：人工国家アメリカ</td> <td>【第11回】 自由貿易の背景と政策②</td> </tr> <tr> <td>【第4回】 基礎知識②：統治機構の特徴</td> <td>【第12回】 冷戦と日米関係</td> </tr> <tr> <td>【第5回】 現代アメリカ経済の始動①：南北戦争</td> <td>【第13回】 軍産複合体の成立</td> </tr> <tr> <td>【第6回】 現代アメリカ経済の始動②：貿易構造</td> <td>【第14回】 黄金の1960年代と公民権運動</td> </tr> <tr> <td>【第7回】 現代アメリカ経済の始動③：ニューディール政策</td> <td>【第15回】 総括</td> </tr> <tr> <td>【第8回】 建国の理念と経済政策を巡る対抗関係</td> <td></td> </tr> </table>									【第1回】 ガイダンス & イントロダクション	【第9回】 戦争と経済成長	【第2回】 アメリカ合衆国の概観	【第10回】 自由貿易の背景と政策①	【第3回】 基礎知識①：人工国家アメリカ	【第11回】 自由貿易の背景と政策②	【第4回】 基礎知識②：統治機構の特徴	【第12回】 冷戦と日米関係	【第5回】 現代アメリカ経済の始動①：南北戦争	【第13回】 軍産複合体の成立	【第6回】 現代アメリカ経済の始動②：貿易構造	【第14回】 黄金の1960年代と公民権運動	【第7回】 現代アメリカ経済の始動③：ニューディール政策	【第15回】 総括	【第8回】 建国の理念と経済政策を巡る対抗関係	
【第1回】 ガイダンス & イントロダクション	【第9回】 戦争と経済成長																								
【第2回】 アメリカ合衆国の概観	【第10回】 自由貿易の背景と政策①																								
【第3回】 基礎知識①：人工国家アメリカ	【第11回】 自由貿易の背景と政策②																								
【第4回】 基礎知識②：統治機構の特徴	【第12回】 冷戦と日米関係																								
【第5回】 現代アメリカ経済の始動①：南北戦争	【第13回】 軍産複合体の成立																								
【第6回】 現代アメリカ経済の始動②：貿易構造	【第14回】 黄金の1960年代と公民権運動																								
【第7回】 現代アメリカ経済の始動③：ニューディール政策	【第15回】 総括																								
【第8回】 建国の理念と経済政策を巡る対抗関係																									
成績評価の方法	期末試験によって評価する（100％）。																								
フィードバックの内容	適宜、講義中、講義後に質問を受けつける。																								
教科書	『現代アメリカ経済分析』中本・宮崎（日本評論社）2013																								
指定図書																									
参考書	『アメリカ経済政策入門』コーエン&デロング（みすず書房）2017、『現代アメリカ経済史』谷口明丈・須藤功編（有斐閣）2018、『アメリカ経済政策史』萩原伸次郎（有斐閣）1996																								
教員からのお知らせ	参考文献については講義でも適宜紹介する。																								
オフィスアワー	WebClass からメール連絡。																								
アクティブラーニングの内容	・意見共有：挙手による意見表明の共有 ・反転授業：授業外でのオンデマンド動画視聴																								
その他																									

講義コード	11C0118902	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員	宮崎 礼二	開講期	第2期																
科目名	アメリカ経済論2／アメリカ経済B				宮崎 礼二			第2期																	
履修前提条件					備考																				
授業の目的	本講義は、現代アメリカの長期的な世界システムのポジションを明らかにすることを目的に、アメリカ経済の変遷を解説する。とりわけ、政権ごとの経済政策の特徴を捉えながら、それがどのような帰結をもたらし、次の時代の経済を形成してきたのかを具体的に学習する。今日の段階においては、バイデン政権の政策を軸にして、アメリカ経済社会の特質を明らかにする。また、後期授業期間中（11月5日）に実施される大統領選挙、連邦議会選挙についても解説したい。																								
到達目標	1. 新聞の経済欄のアメリカ関係の情報を理解できる。 2. アメリカ経済の特殊性を説明できる。 3. 2024大統領選挙の動向と結果について解説できる。 4. 民主党・共和党の政策志向の相違について説明できる。 5. 講義内容を的確・簡潔にノートテイクできる。																								
授業外学修内容・授業外学修時間数	各授業2時間（事前学習1時間＋事後学習1時間）計60時間以上の授業外学修が必須である。 事前学習：前回講義で指示されたテーマを新聞や雑誌などから情報収集して、内容を整理する。 事後学習：毎回の講義で課される課題に取り組む。																								
授業計画	<table border="0"> <tr> <td>【第1回】 ガイダンス & イントロダクション</td> <td>【第9回】 オバマ政権②：「中間層」の経済へ</td> </tr> <tr> <td>【第2回】 レーガノミクス①：アメリカ経済の「衰退」</td> <td>【第10回】 トランプ政権誕生の背景</td> </tr> <tr> <td>【第3回】 レーガノミクス②：新自由主義の台頭1</td> <td>【第11回】 トランプ政権の4年間</td> </tr> <tr> <td>【第4回】 レーガノミクス③：新自由主義の台頭2</td> <td>【第12回】 2020年大統領選挙の帰結：「分断」のアメリカ</td> </tr> <tr> <td>【第5回】 クリントン政権①：ポスト冷戦と経済再生戦略</td> <td>【第13回】 コロナ禍のバイデン政権</td> </tr> <tr> <td>【第6回】 クリントン政権②：ニューエコノミー論</td> <td>【第14回】 バイデン政権：労働者重視の経済政策</td> </tr> <tr> <td>【第7回】 リーマンショック：住宅バブルの形成と崩壊</td> <td>【第15回】 2024年大統領選挙の結果</td> </tr> <tr> <td>【第8回】 オバマ政権①：“Change”への期待</td> <td></td> </tr> </table>									【第1回】 ガイダンス & イントロダクション	【第9回】 オバマ政権②：「中間層」の経済へ	【第2回】 レーガノミクス①：アメリカ経済の「衰退」	【第10回】 トランプ政権誕生の背景	【第3回】 レーガノミクス②：新自由主義の台頭1	【第11回】 トランプ政権の4年間	【第4回】 レーガノミクス③：新自由主義の台頭2	【第12回】 2020年大統領選挙の帰結：「分断」のアメリカ	【第5回】 クリントン政権①：ポスト冷戦と経済再生戦略	【第13回】 コロナ禍のバイデン政権	【第6回】 クリントン政権②：ニューエコノミー論	【第14回】 バイデン政権：労働者重視の経済政策	【第7回】 リーマンショック：住宅バブルの形成と崩壊	【第15回】 2024年大統領選挙の結果	【第8回】 オバマ政権①：“Change”への期待	
【第1回】 ガイダンス & イントロダクション	【第9回】 オバマ政権②：「中間層」の経済へ																								
【第2回】 レーガノミクス①：アメリカ経済の「衰退」	【第10回】 トランプ政権誕生の背景																								
【第3回】 レーガノミクス②：新自由主義の台頭1	【第11回】 トランプ政権の4年間																								
【第4回】 レーガノミクス③：新自由主義の台頭2	【第12回】 2020年大統領選挙の帰結：「分断」のアメリカ																								
【第5回】 クリントン政権①：ポスト冷戦と経済再生戦略	【第13回】 コロナ禍のバイデン政権																								
【第6回】 クリントン政権②：ニューエコノミー論	【第14回】 バイデン政権：労働者重視の経済政策																								
【第7回】 リーマンショック：住宅バブルの形成と崩壊	【第15回】 2024年大統領選挙の結果																								
【第8回】 オバマ政権①：“Change”への期待																									
成績評価の方法	期末試験100％で評価する。																								
フィードバックの内容	授業中・授業後に質問を受けつける。																								
教科書	『現代アメリカ経済分析』中本悟・宮崎礼二編（日本評論社）2013年																								
指定図書	『アメリカン・グローバリズム』中本悟編（日本経済評論社）2007年、『現代アメリカ経済－アメリカン・グローバリゼーションの構造』萩原伸次郎・中本悟編（日本評論社）2005年、『現代アメリカ経済史』谷口明丈・須藤功編（有斐閣）2018年、『アメリカ経済政策史』萩原伸次郎（有斐閣）1996年																								
参考書	『アメリカン・グローバリズム』中本悟編（日本経済評論社）2007年、『現代アメリカ経済－アメリカン・グローバリゼーションの構造』萩原伸次郎・中本悟編（日本評論社）2005年、『現代アメリカ経済史』谷口明丈・須藤功編（有斐閣）2018年、『アメリカ経済政策史』萩原伸次郎（有斐閣）1996年、『アメリカ経済政策入門』コーエン&デロング（みすず書房）2017、『The Triumph of Injustice』E. Saez & G. Zucman (W.W. Norton & Co.) 2019																								
教員からのお知らせ	参考書については適宜授業内で紹介する。																								
オフィスアワー	WebClass を通じてのメールでのコンタクト。																								
アクティブラーニングの内容	・意見共有：挙手による意見表明の共有 ・反転授業：授業外でのオンデマンド動画教材の利用																								
その他																									

講義コード	11C3116201	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員		開講期																																	
科目名	アメリカの金融				王 ゼイ		第2期																																		
履修前条件					備考																																				
授業の目的	この講義では、アメリカ経済を意識して、アメリカの金融経済事情を紹介しながら、標準的な金融経済学の理論を説明する。具体的に、アメリカ経済を背景として、貨幣の需要と供給、金融政策、金融市場、金融機構、金融危機といったトピックを取り上げて説明する。よって、この講義で得られた知識はアメリカ経済だけではなく、日本経済を理解する際にも役に立つと考えられる。																																								
到達目標	受講生はこの講義を通じて、アメリカ経済を背景とする標準的な金融経済学の理論知識を習得し、アメリカの金融経済事情に対して初歩的認識を身につけることを到達目標とする。具体的に、金融経済学の理論知識を使って、アメリカで実施されている金融政策といった実例を説明できることを目指す。																																								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	この科目では、授業時間外に、60時間以上の学修を行うことを必須とする。講義資料を毎回配布するため、指定された参考書を参照しながら理解を深めて、各回の授業内容をしっかり予習・復習することは望ましい。なお、問題を出すことがあるので、必ず自分で考えて自力で解くようにしてください。																																								
授業計画	<table border="0"> <tr> <td>【第1回】</td> <td>イントロダクション</td> <td>【第9回】</td> <td>金融市場の構造と機能</td> </tr> <tr> <td>【第2回】</td> <td>貨幣供給</td> <td>【第10回】</td> <td>銀行と取り付け騒ぎ</td> </tr> <tr> <td>【第3回】</td> <td>貨幣需要</td> <td>【第11回】</td> <td>金融危機</td> </tr> <tr> <td>【第4回】</td> <td>AS-AD モデル</td> <td>【第12回】</td> <td>AS-AD モデルにおける非伝統的金融政策の分析</td> </tr> <tr> <td>【第5回】</td> <td>AS-AD モデルにおける伝統的金融政策の分析</td> <td>【第13回】</td> <td>アメリカの金融政策の歴史：2008年世界金融危機から直近まで</td> </tr> <tr> <td>【第6回】</td> <td>アメリカの金融政策の歴史：第二次世界大戦後から2008年世界金融危機まで</td> <td>【第14回】</td> <td>金融市場の規制</td> </tr> <tr> <td>【第7回】</td> <td>債券市場と金利の期間構造</td> <td>【第15回】</td> <td>まとめ</td> </tr> <tr> <td>【第8回】</td> <td>株式市場とバブル</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>									【第1回】	イントロダクション	【第9回】	金融市場の構造と機能	【第2回】	貨幣供給	【第10回】	銀行と取り付け騒ぎ	【第3回】	貨幣需要	【第11回】	金融危機	【第4回】	AS-AD モデル	【第12回】	AS-AD モデルにおける非伝統的金融政策の分析	【第5回】	AS-AD モデルにおける伝統的金融政策の分析	【第13回】	アメリカの金融政策の歴史：2008年世界金融危機から直近まで	【第6回】	アメリカの金融政策の歴史：第二次世界大戦後から2008年世界金融危機まで	【第14回】	金融市場の規制	【第7回】	債券市場と金利の期間構造	【第15回】	まとめ	【第8回】	株式市場とバブル		
【第1回】	イントロダクション	【第9回】	金融市場の構造と機能																																						
【第2回】	貨幣供給	【第10回】	銀行と取り付け騒ぎ																																						
【第3回】	貨幣需要	【第11回】	金融危機																																						
【第4回】	AS-AD モデル	【第12回】	AS-AD モデルにおける非伝統的金融政策の分析																																						
【第5回】	AS-AD モデルにおける伝統的金融政策の分析	【第13回】	アメリカの金融政策の歴史：2008年世界金融危機から直近まで																																						
【第6回】	アメリカの金融政策の歴史：第二次世界大戦後から2008年世界金融危機まで	【第14回】	金融市場の規制																																						
【第7回】	債券市場と金利の期間構造	【第15回】	まとめ																																						
【第8回】	株式市場とバブル																																								
成績評価の方法	課題（40%）と期末試験（60%）で評価する。																																								
フィードバックの内容	この科目では、授業用のチームが立ち上げられ、履修者全員に授業用チームに参加していただくことになっている。授業用チームの参加方法は初回の授業時に説明する。事前に Microsoft Outlook と Teams のアプリを所持の端末にインストールしておいて、使用できるような状態にしてください。授業時間外では、授業に関するお知らせ、資料配布、フィードバック等はすべて Microsoft Teams を通じて行われる。課題の提出は WebClass を利用する。																																								
教科書																																									
指定図書	『The Economics of Money, Banking and Financial Markets 13th Global Edition』Frederic Mishkin (Pearson Education Limited) 2021																																								
参考書																																									
教員からのお知らせ	ミクロ・マクロ経済学、経済数学及び金融関係の科目が履修済みであることは望ましい。質問・議論は大歓迎である。ぜひこの「アメリカの金融」という講義を通じて、金融経済学の魅力を感じてください。なお、授業資料は英語を使用することもある。																																								
オフィスアワー	Teams のチャット機能、Microsoft 365 のメール（大学から付与されたメールアドレス）などで、予め教員と連絡を取ってください。																																								
アクティブラーニングの内容 その他	授業中、教員よりの意見共有や学生から意見発表を行ってもらい、問題の演習も行う。																																								

講義コード	11C0105501	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員		開講期	
科目名	アメリカの文化と社会1 / アメリカの文化と社会A				小沢 奈美恵		第1期		
履修前条件					備考				
授業の目的	アメリカ史をスピーチ、重要文書、映像を通して学習する。アメリカ特有の起業精神と、その影で軽視されがちなマイノリティ（人種、ジェンダーに関する少数派）の人権問題を対比しながら考察する。リンカン、ローズヴェルト、ケネディ、オバマ、トランプ、バイデンなど歴代大統領の演説や公民権運動活動家のキング牧師やマルコム X、起業家としては石油王のロックフェラー、CNN 創設者ターナー、アップル創業者ジョブズらも扱う。								
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 高校レベルより専門的なアメリカ史を理解できる。 2. アメリカの有名なスピーチの言葉を学ぶことができる。 3. アメリカの人種問題、性差別の問題、環境問題、起業精神などを理解できる。 4. 上記の内容について、所見を記述できる。 								
授業外学修内容・授業外学修時間数	この科目では、60時間以上の授業外学修を行う。 <ol style="list-style-type: none"> 1. 次の授業に備えて教科書を読み、Webclass の内容理解に関する小テストに備える。 2. 授業で与えられた課題に対して、掲示板に意見を書く。 								
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 【第1回】 授業内容の紹介、アメリカ社会におけるマイノリティ問題と起業精神の拮抗 【第2回】 パトリック・ヘンリーの演説と独立革命：独立宣言、合衆国憲法、権利章典における自由と平等の矛盾 【第3回】 マニフェスト・デスティニー（明白な運命）と先住民の悲劇 【第4回】 アメリカのフェミニズム運動の夜明け：女性の独立宣言 【第5回】 南北戦争と奴隷制：エイブラハム・リンカンのゲティスバーグの演説 vs. 逃亡奴隷フレデリック・ダグラスの演説 【第6回】 アメリカの起業家：ジョン・D・ロックフェラーと巨大石油帝国 【第7回】 F・D・ローズヴェルトの炉端談義：大恐慌に対するニューディール政策と第二次世界大戦への参戦 【第8回】 ジョン・F・ケネディの大統領就任演説とケネディ兄弟による公民権運動への関わり方 【第9回】 キング牧師の演説：公民権運動と人種統合とアフアマティヴ・アクション（積極的差別是正措置） 【第10回】 マルコム・X の演説：ブラック・ナショナリズムの人種分離 【第11回】 LGBTQ の運動：1970年代の胎動期から21世紀の同性婚へ 【第12回】 アメリカのメディア革命：テッド・ターナーによる CNN から現代のジャーナリズムへ 【第13回】 環境問題の告発：レイチェル・カーソンからアル・ゴアへ 【第14回】 アメリカの起業精神：スティーブ・ジョブズとイーロン・マスク 【第15回】 2008年度、2016年度、2020年度、2024年度の大統領選比較：オバマ大統領、トランプ大統領、バイデン大統領の各種演説 								
成績評価の方法	教科書理解度テスト（30%）掲示板への書き込み（30%）定期テスト（40%）どれか一つを行わない場合は、不可とします。								
フィードバックの内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教科書の読解に関して、小テストを行い、解説します。 2. LMS で、授業課題に意見を述べてもらうので、その結果についてコメントします。 3. 質問は、授業内のチャットで受け付けます。 								
教科書	『アメリカの歴史を知るための65章』 富田虎男、鶴月裕典、佐藤円（明石書店）2022年								
指定図書	『アメリカ史〈1〉（世界歴史大系）』 有賀 貞（著）、大下 尚一（著）、志邨 晃佑（著）、平野 孝（著）（山川出版社）1994年、 『アメリカ史〈2〉1877年～1992年（世界歴史大系）』 有賀 貞（著）、大下 尚一（著）、志邨 晃佑（著）、平野 孝（著）（山川出版社）1993年、 『民衆のアメリカ史〈上巻〉1492年から現代まで（世界歴史叢書）』 ハワード・ジン（富田虎男、平野孝、油井大三郎訳）（明石書店）2005年、 『民衆のアメリカ史〈下巻〉1492年から現代まで（世界歴史叢書）』 ハワード・ジン（富田虎男、平野孝、油井大三郎訳）（明石書店）2005年、 『オリバー・ストーンが語る もうひとつのアメリカ史 1 二つの世界大戦と原爆投下』 オリバー・ストーン、ピーター・カズニック（早川書房）2013年、 『オリバー・ストーンが語る もうひとつのアメリカ史 2 ケネディと世界存亡の危機』 オリバー・ストーン、ピーター・カズニック（早川書房）2013年、 『オリバー・ストーンが語る もうひとつのアメリカ史 3 帝国の緩やかな黄昏』 オリバー・ストーン、ピーター・カズニック（早川書房）2013年								
参考書									
教員からのお知らせ									
オフィスアワー	オフィスアワーは金曜の4時限です。ozawa@ris.ac.jp に予め連絡してアポイントを取って下さい。メールやLMSでの質問も受け付けます。								
アクティブラーニングの内容	意見共有、教員からのフィードバックによる振り返り、能動的な授業外学修。								
その他									

講義コード	11C0105601	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員		開講期	
科目名	アメリカの文化と社会2 / アメリカの文化と社会B				小沢 奈美恵		第2期		
履修前提条件					備考				
授業の目的	オバマ政権、トランプ政権、バイデン政権を比較しながら、映画の中に反映する現代アメリカの表象を読み解いていく。映画はフィクションで事実ではないが、大衆が求めるもの、メディアが広めたいもの、特権階級とメディアの関係などが浮かび上がる。現代アメリカの政治、経済、外交、宗教、サブカルチャー、テクノロジー、ジェンダー、セクシュアリティ、ファッション、人種、移民、環境などの観点から現代アメリカ社会を考察する。								
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 各政権時代のアメリカ社会の諸問題を理解し、比較できる。 2. メディア報道・映画と実態の違いを比較することで、メディア・リテラシーの重要性を認識できる。 3. 現代のアメリカと世界の関わりについて、自分の考えを形成できる。 								
授業外学修内容・授業外学修時間数	<p>この科目では、60時間以上の授業外学修を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 毎回授業で教科書内容理解に関する小テストを行うので、教科書を読み、準備を行う。 2. 映画を見て、授業で出された課題についてLMS上で考えを記す。 3. 授業で紹介する映画や参考書を参照して、より理解を深める。 								
授業計画	<p>【第1回】 授業内容の解説 【第2回】 格差社会とトランプ政権誕生の背景：『ジョーカー』『タイム』『キャピタリズム－マネーは踊る』他 【第3回】 パンデミック：『コンテイジョン』『ソングバード』他 【第4回】 移民問題：『ウェスト・サイド・ストーリー』『不法移民と30日間』『マークスマン』他 【第5回】 主流白人とBLM運動：『テッド』『ブラック・パンサー』『私はあなたのニグロではない』他 【第6回】 ユダヤ系アメリカ人とBLM運動：『ミュンヘン』『イコライザー2』他 【第7回】 ジェンダー・セクシュアリティ・ファッション：『マイ・インターン』『ピリブ 未来への大逆転』他 【第8回】 キリスト教原理主義とジェンダー：『ジーザス・キャンブ～アメリカを動かすキリスト教原理主義』『ある少年の告白』『ムーンライト』他 【第9回】 テクノロジーとメディアの変質：『ペンタゴン・ペーパーズ 最高機密文書』『グレート・ハック SNS 史上最悪のスカンダル』『フィフス・エステート / 世界から狙われた男』他 【第10回】 AIと人間：『AI』『マトリックス・リザレクションズ』『ブレッドランナー2049』他 【第11回】 障がい者と共に生きる：『Coda コーダ あいのうた』他 【第12回】 環境エネルギー政策：『ゴジラ』『オッペンハイマー』『アトミック・カフェ』他 【第13回】 食文化の分断：『アメリカン・サイコ』『ファウンダー ハンバーガー帝国のヒミツ』他 【第14回】 宇宙開発と惑星への植民：『アイアン・マン』シリーズ『インターステラー』他 【第15回】 未来を創るミレニアル世代とZ世代：『ブックスマート』『行き止まりの世界に生まれて』他</p>								
成績評価の方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 毎回の授業で行う教科書内容理解度小テスト (30%) 2. LMS への書き込みによる授業参加度 (30%) 3. 期末テスト (40%) <p>上記3つの内一つでも行わない場合は不可とする。</p>								
フィードバックの内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教科書の読解力に関して、LMSで小テストを行い、学生側からも結果を確認できるようにします。 2. LMS への書き込み内容について授業内でコメントを行います。 3. 授業のチャットや授業外のメールを利用して、内容の質問を受けます。 								
教科書	『映画で読み解く現代アメリカ：トランプ政権～バイデン政権 (仮題)』 巽孝之監修、小澤奈美恵・塩谷幸子・塚田幸光編集 (明石書店) 2024年出版予定								
指定図書	『白人ナショナリズム－アメリカを揺るがす「文化的反動」』 渡辺靖 (中央公論新社) 2020年、『歌と映像で読み解くブラック・ライヴズ・マター』 藤田正 (シンコーミュージック) 2020年								
参考書	『9.11とアメリカ：映画にみる現代社会と文化』 越智道雄監修、小澤奈美恵・塩谷幸子編集 (鳳書房) 2008年、『映画で読み解く現代アメリカ：オバマの時代』 越智道雄監修、小澤奈美恵・塩谷幸子編集 (明石書店) 2015年								
教員からのお知らせ	扱う映画には、多少の変更が出る可能性があります。詳細の参考文献は授業で紹介します。								
オフィスアワー	金曜4時限がオフィスアワーです。予め、ozawa@ris.ac.jp へのメールでアポイントを取り、314研究室を訪ねてください。メールやLMSにも対応します。								
アクティブラーニングの内容その他	意見共有、能動的な授業外学修、教員によるフィードバックによる振り返り。								

講義コード	11C0273701	授業形態	講義・演習	抽選の有無	あり	担当教員		開講期	
科目名	中級マクロ経済学2 / EREマクロ演習 / EREマクロ				慶田 昌之		第2期		
履修前提条件					備考				
授業の目的	2年生のマクロ経済学を学んだ後に、経済成長と景気循環に関する通時的マクロ経済モデルの考え方の理解を深め、経済学検定試験（ERE ミクロ・マクロ）のマクロ分野の問題の演習をする。								
到達目標	通時的マクロ経済モデルを用いて経済成長と景気循環に関する分析が可能となるように、モデルに習熟する。経済学検定試験（ERE ミクロ・マクロ）のマクロ分野の問題を解けるようになる。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	この講義の授業外学修時間は60時間必要である。教科書を読み、理解できない点を明らかにして講義に臨むこと。								
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> 【第1回】新古典派成長モデルの含意と実証的事実（1） 【第2回】新古典派成長モデルの含意と実証的事実（2） 【第3回】情報の非対称性と資金調達（1） 【第4回】情報の非対称性と資金調達（2） 【第5回】担保と資金調達（1） 【第6回】担保と資金調達（2） 【第7回】協調の失敗：サーチ・モデル（1） 【第8回】協調の失敗：サーチ・モデル（2） 【第9回】内生的成長モデル（1） 【第10回】内生的成長モデル（2） 【第11回】内生的成長モデル（3） 【第12回】情報の不完全性と金融政策（1） 【第13回】情報の不完全性と金融政策（2） 【第14回】名目価格の硬直性と金融政策（1） 【第15回】名目価格の硬直性と金融政策（2） 								
成績評価の方法	講義内の小テストの成績による（100%）。								
フィードバックの内容	授業内でフィードバックする。								
教科書	『新しいマクロ経済学：クラシカルとケインジアンとの邂逅』齊藤 誠（有斐閣）2006、『CBT ERE ミクロ・マクロ 経済学検定試験 対策問題集』経済法令研究会（経済法令研究会）2021								
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ	『マクロ経済学基礎』『マクロ経済学』の単位を修得済みであることが望ましい。この講義内容を理解するためには、数学、特に微分の知識を必要とする。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部学科にて定めるオフィスアワーにて受付けます。								
アクティブラーニングの内容	意見共有								
その他	この講義は、『中級マクロ経済学』とセットで受講することを推奨する。この講義においても ERE の問題演習を行う。								

講義コード	11C0273601	授業形態	講義・演習	抽選の有無	あり	担当教員		開講期	
科目名	中級ミクロ経済学2 / ERE ミクロ演習 / ERE ミクロ				宮岡 暁		第2期		
履修前提条件					備考				
授業の目的	この授業では、第1期開講科目「中級ミクロ経済学1」の内容をベースとして、ミクロ経済学の発展的なトピックについて学びます。特に「不完全競争(独占と寡占)」「外部性と公共財」「情報の経済学」といったトピックについて、数学(微分・偏微分)を用いて厳密に分析を行う方法について学修します。公務員試験や経済学検定試験(ERE)の問題が解けるようになることを目標に問題演習も行います。								
到達目標	①不完全競争市場における企業行動と、その結果生じる非効率性について、グラフや数式を使った分析ができる。 ②外部性や公共財が存在する場合に生じる市場の非効率性について、グラフや数式を使った分析ができる。 ③不確実性や情報の非対称性が存在する状況での人々の行動について、グラフや数式を使った分析ができる。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	この科目では、60時間以上の授業外学修を行ってください。予習は必要としませんが、復習をしっかりと行うことが大切です。毎回の授業では、その回の内容を復習するための課題(要提出)を出題するので、しっかりと取り組むようにしてください。								
授業計画	【第1回】ガイダンス 【第2回】独占① 【第3回】独占② 【第4回】独占③ 【第5回】寡占① 【第6回】寡占② 【第7回】寡占③ 【第8回】外部性① 【第9回】外部性② 【第10回】公共財① 【第11回】公共財② 【第12回】情報の経済学① 【第13回】情報の経済学② 【第14回】情報の経済学③ 【第15回】まとめ								
成績評価の方法	課題(約30%) + 期末試験(約70%)で評価します。								
フィードバックの内容	課題の解答例を提出後後に掲示するとともに、講評を翌週授業内に行います。								
教科書									
指定図書									
参考書	『ミクロ経済学をつかむ』神戸伸輔 / 寶多康弘 / 濱田弘潤(有斐閣)2006年、『ミクロ経済学』奥野正寛(東京大学出版会)2008年、『ミクロ経済学』芦谷政浩(有斐閣)2009年、『ミクロ経済学の力』神取道宏(日本評論社)2014年								
教員からのお知らせ	この授業では特定の教科書は使用しません。 配布資料や連絡事項については、Microsoft Teams のアプリを利用して掲示する予定です。 詳細については初回の授業で説明します。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、下記の方法で受け付けます： ○学部学科にて定めるオフィスアワー ○メール(宛先は授業内で指示します) ○Microsoft Teams のチャット機能								
アクティブラーニングの内容	教員からのフィードバックによる振り返り								
その他	この授業は第1期開講科目「中級ミクロ経済学1」の内容がベースとなります。したがって、「中級ミクロ経済学1」とセットで履修することを強く推奨します。 また、この授業では微分および偏微分を使用します。授業内でも解説を行います、「経済数学」を履修済みあるいは並行して履修していると、理解がよりスムーズになります。								

講義コード	11C0105901	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員	ホームマン 由佳	開講期	第1期
科目名	異文化コミュニケーションⅠ				ホームマン 由佳		第1期		
履修前提条件					備考				
授業の目的	さまざまな文化が混在する現代社会において、異文化理解の重要性がますます高まっている。異文化理解とは、外国語習得や外国人との交流を意味するだけでなく、自己と他者の関係を考えることである。この授業では、異なる文化的背景を持つ人との間に生じる誤解の原因や対処法を学び、「英語力」と「異文化対応力」の両方を身に付けることを目的とする。授業は(1)異文化コミュニケーションに関する日本語による講義と、(2)異文化理解に関する英語のテキストを解説する2本立てで進められる。								
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 異なる文化的背景を持つ人とのコミュニケーションを前向きにとらえることができる。 自分の物差しだけで物事をとらえない習慣を身につけることができる。 異文化間のコミュニケーションで生じる誤解の原因を見つけるメソッドを使って分析できる。 非言語と言語コミュニケーションに関する知識を英語で理解できる。 異文化対応スキルを使って英語でアクティビティができる。 								
授業外学修内容・授業外学修時間数	指定教科書の復習。 授業外学修時間は60時間以上。								
授業計画	【第1回】 授業概要 【第2回】 異文化コミュニケーションとは 【第3回】 文化とコミュニケーション：Japanese Bow 【第4回】 表情：Smiles 【第5回】 アイコンタクト：Eye Contact 【第6回】 接触：Touching Behavior 【第7回】 ジェスチャー：Hand Gestures 【第8回】 しぐさ：Body Movements				【第9回】 空間と対人距離：Space 【第10回】 時間の感覚 【第11回】 異文化適応力チェック 【第12回】 エンパシー 【第13回】 異文化ケーススタディー（1） 【第14回】 異文化ケーススタディー（2） 【第15回】 まとめ				
成績評価の方法	レポートなどの提出物（50%）とテスト（50%）								
フィードバックの内容	課題のフィードバックを授業内で公開する。								
教科書	『What Do You Mean?』Kyoko Yashiro（金星堂）2019年、『異文化コミュニケーション・ワークブック』八代京子、荒木晶子、樋口容視子、山本志都、コミサロフ喜美（三修社）2001年								
指定図書									
参考書	『異文化間コミュニケーション入門』鍋倉健悦（丸善ライブラリー）2015年								
教員からのお知らせ	教科書は英文で書かれているため英文読解力が必要なので、受講者はTOEIC350点以上程度の英語力があることが望ましい。								
オフィスアワー	金曜2限								
アクティビティの内容	ディスカッション、グループワーク								
その他	外資系航空会社客室乗務員と通訳の、実務経験のある者が英語に関して教える。								

講義コード	11C0106001	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員	ホームマン 由佳	開講期	第2期
科目名	異文化コミュニケーションⅡ				ホームマン 由佳		第2期		
履修前提条件					備考				
授業の目的	さまざまな文化が混在する現代社会において、異文化理解の重要性がますます高まっている。異文化理解とは、外国語習得や外国人との交流を意味するだけでなく、自己と他者の関係を考えることである。この授業では、異なる文化的背景を持つ人との間に生じる誤解の原因や対処法を学び、「英語力」と「異文化対応力」の両方を身に付けることを目的とする。授業は(1)異文化コミュニケーションに関する日本語による講義と、(2)異文化理解に関する英語のテキストを解説する2本立てで進められる。								
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 異なる文化的背景を持つ人とのコミュニケーションを前向きにとらえることができる。 自分の物差しだけで物事をとらえない習慣を身につけることができる。 異文化間のコミュニケーションで生じる誤解の原因を見つけるメソッドを使って分析できる。 非言語と言語コミュニケーションに関する知識を英語で理解できる。 異文化対応スキルを使って英語でアクティビティができる。 								
授業外学修内容・授業外学修時間数	指定教科書の復習。 授業外学修時間は60時間以上。								
授業計画	【第1回】 言語コミュニケーションと非言語コミュニケーション 【第2回】 “Intonation” 【第3回】 “Succinct or Elaborate” 【第4回】 “Personal or Contextual” 【第5回】 “Goal or Process Oriented” 【第6回】 “Politically Correct” 【第7回】 “Social Networking Service” 【第8回】 対立管理スタイル				【第9回】 異文化適応力チェック 【第10回】 エンパシー 【第11回】 異文化コミュニケーションスキル（1） 【第12回】 異文化コミュニケーションスキル（2） 【第13回】 異文化コミュニケーションスキル（3） 【第14回】 異文化コミュニケーションスキル（4） 【第15回】 まとめ				
成績評価の方法	レポートなどの提出物（50%）とテスト（50%）								
フィードバックの内容	課題のフィードバックを授業内で公開する。								
教科書	『What Do You Mean?』Kyoko Yashiro（金星堂）2019年、『異文化コミュニケーション・ワークブック』八代京子、荒木晶子、樋口容視子、山本志都、コミサロフ喜美（三修社）2001年								
指定図書									
参考書	『異文化間コミュニケーション入門』鍋倉健悦（丸善ライブラリー）2015年								
教員からのお知らせ	教科書は英文で書かれているため英文読解力が必要なので、受講者はTOEIC350点以上程度の英語力があることが望ましい。								
オフィスアワー	金曜2限								
アクティビティの内容	ディスカッション、グループワーク								
その他	外資系航空会社客室乗務員と通訳の、実務経験のある者が英語に関して教える。								

講義コード	11C2113001	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員		開講期	
科目名	Introduction to Business and Economy				吉田 友美		第2期		
履修前条件					備考				
授業の目的	この授業の第1の目的は、ミクロ経済学とマクロ経済学の基礎を理解することです。その学習の際には、英語の教科書を使います。第2の目的は、経済学の用語や説明を英語で理解できるようになることです。								
到達目標	ミクロ経済学とマクロ経済学の基礎を英語で理解できるようになること。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	この科目では、60時間以上の授業外学修を行って下さい。予習は必要としませんが、復習をしっかりと行うことが大切です。毎回の授業では、その回の内容を復習するための課題（要提出）を出題するので、しっかりと取り組むようにして下さい。								
授業計画	【第1回】ガイダンス 【第2回】Ten Principles of Economics 1（経済学の十大原理 1） 【第3回】Ten Principles of Economics 2（経済学の十大原理 2） 【第4回】Microeconomics: The Market Forces of Supply and Demand（市場における需要と供給の作用） 【第5回】Microeconomics: Supply and Demand, Government Policies（需要、供給および政府の政策） 【第6回】Microeconomics: Consumers, Producers, and the Efficiency of Market 1（消費者、生産者、市場の効率性 1） 【第7回】Microeconomics: Consumers, Producers, and the Efficiency of Market 2（消費者、生産者、市場の効率性 2） 【第8回】Microeconomics: Externalities 1（外部性 1） 【第9回】Microeconomics: Externalities 2（外部性 2） 【第10回】Macroeconomics: Measuring a Nation's Income（国民所得の測定） 【第11回】Macroeconomics: Measuring a the Cost of Living（生計費の測定） 【第12回】Macroeconomics: Production and Growth（生産と成長） 【第13回】Macroeconomics: Saving Investment, and the Financial System 1（貯蓄、投資と金融システム 1） 【第14回】Macroeconomics: Saving Investment, and the Financial System 2（貯蓄、投資と金融システム 2） 【第15回】総括								
成績評価の方法	課題：20% 期末試験：80%								
フィードバックの内容	課題の解説を授業中に実施します。								
教科書	授業中に指示								
指定図書	『Principles of Economics (Mindtap Course List) 9th Edition』 N. Gregory Mankiw (South-Western Pub) 2020年								
参考書	『マンキュー入門経済学（第3版）』 N・グレゴリー・マンキュー（東洋経済新報社）2019年								
教員からのお知らせ									
オフィスアワー	毎週、木曜日5限 ただし、必ず事前にメールでアポイントメントをとること。 メールアドレスは授業中に指示します。								
アクティブラーニングの内容	授業中に、課題について講評を実施する。								
その他									

講義コード	11C0270701	授業形態	講義・演習	抽選の有無	あり	担当教員		開講期	
科目名	映画で学ぶ英会話 1 / メディア英語 1				ダニエル ルール		第1期		
履修前条件					備考				
授業の目的	The purpose of this class is to provide a general introduction to English language media, especially the appreciation of popular movies without the use of Japanese subtitles.								
到達目標	The goal for students is to become proficient in understanding basic media based vocabulary and develop more fluent listening and speaking skills that will allow better understanding of popular media.								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	Students will be given movie script excerpts to role-play in class and study independently. Viewing of videos will be conducted both with and without subtitles. There will be dictation exercises and gap fill quizzes to help students master the material. Students should spend more than 15 hours outside of class in preparation for this course.								
授業計画	【第1回】 Introduction to media vocabulary and cinema genres / Gone With The Wind 【第2回】 Historical dramas, Gone With The Wind (continued) 【第3回】 Gone With The Wind roleplay using script excerpts 【第4回】 Gone With The Wind conclusion, comprehension and gap-fill quizzes 【第5回】 Introduction to classic TV sitcom "Leave It To Beaver" without subtitles 【第6回】 Leave It To Beaver script roleplay 【第7回】 Leave It To Beaver review, comprehension and gap-fill quizzes 【第8回】 introduction to popular comedy "Happy Gilmore" 【第8回】 Happy Gilmore script roleplay 【第9回】 Happy Gilmore viewed without subtitles 【第10回】 Happy Gilmore review and quizzes, Introduction to All Quiet On The Western Front 【第11回】 All Quiet On The Western Front, historical background, view with subtitles 【第12回】 All Quiet On The Western Front roleplay with script excerpts 【第13回】 All Quiet On The Western Front comprehension quiz 【第14回】 All Quiet On The Western Front conclusion, gap-fill quiz 【第15回】 review test (information questions, gap fill, and dictation)								
成績評価の方法	Grading will be based on 40% in class work, 30% quizzes, and 30% final exam.								
フィードバックの内容	Students will receive feedback in regular class lessons in addition to feedback discussing quizzes.								
教科書									
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ									
オフィスアワー	Students can contact me by email: aeschylus18917@yahoo.com If you have any questions, please don't hesitate to ask me in class or send email anytime.								
アクティブラーニングの内容	Students will receive feedback in regular class lessons in addition to feedback discussing quizzes.								
その他									

講義コード	11C0270801	授業形態	講義・演習	抽選の有無	あり	担当教員		開講期	
科目名	映画で学ぶ英会話2 / メディア英語2					ダニエル ルール		第2期	
履修前提条件						備考			
授業の目的	The purpose of this class is to provide a general introduction to all sorts of English language media, including the history of various forms of media.								
到達目標	The goal for students is to become proficient in using media resources, understand basic media based vocabulary and history, and develop more fluent reading and listening skills that will allow better understanding of newspapers, radio broadcasts and cinema.								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	Students will be given hand-out material for study and will be expected to study at home and retain the material. In addition, regular internet assignments for listening and viewing movies will be required Students must spend more than 15 hours outside of class in preparation for this course.								
授業計画	【第1回】 movie genres: sci-fi, Forbidden Planet 【第2回】 movie genres: cartoons, early Disney clips 【第3回】 modern journalism, objective, biased, and propaganda 【第4回】 propaganda: Potemkin, Riefenstahl, CNN 【第5回】 early television 【第6回】 early advertising 【第7回】 TV sitcoms, Leave It To Beaver clips 【第8回】 classic Japanese films: Rashomon, Seven Samurai 【第9回】 comedy clips: Naked Gun, Dumb And Dumber 【第10回】 internet history, internet tools 【第11回】 cmedy: Groundhog Day 【第12回】 human drama/comedy: Overboard 【第13回】 historic drama: Last Of The Mohicans 【第14回】 future of media, review 【第15回】 review, final exam								
成績評価の方法	Grading will be based on 40% in class work, 30% quizzes, and 30% final exam.								
フィードバックの内容	Students will receive feedback in regular class lessons in addition to feedback discussing quizzes.								
教科書									
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ									
オフィスアワー	Students can contact me by email: aeschylus18917@yahoo.com If you have any questions, please don't hesitate to ask me in class or send email anytime.								
アクティブラーニングの内容	Students will receive feedback in regular class lessons in addition to feedback discussing quizzes.								
その他									

講義コード	授業形態	講義・演習	抽選の有無	あり	担当教員	開講期
科目名	英語リーディングⅠ			各担当教員		第1期
履修前提条件	備考					
授業の目的	主にリーディング力を養う。近年、世界に流れる情報をすばやく捉えて読みとる能力が要求され、社会人になってからもこうした英語の読解力が求められているため、速読力の向上を重視する。授業では、高校までに習ったベーシックな文法や英文読解の技術を復習しながら、速読で内容を把握できる力を訓練する。また、より高度な文にも対応できるよう、基礎的語彙を増やし正確な文法に支えられた読解力を培う。さらに TOEIC の問題形式に慣れることを目的とする。この訓練によって、結果的に TOEIC リーディング・セクションのスコアを伸ばす効果を引き出すことを目指す。					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 語彙数を高校レベルより200～300語程度増やす。 2. 英文をすばやく読むために必要な正確な文法を習得する。 3. 英文をざっと読んで (scanning/skimming)、大意をつかむ。 4. シャドーイングや音読で英語のリズムを身につけ、自然なスピードの英語に慣れる。 5. 日常生活に必要な基礎的な英語を読んで理解でき、英語の質問に英語で回答し、内容説明ができる。 6. TOEIC のリーディング・セクションの問題形式を理解する。 					
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	<ol style="list-style-type: none"> 1. 次の授業に向けて教科書等を読み、理解する。 2. 担当講師から与えられた課題を行う。 3. 単語等、前回学習した内容を復習する。 4. テレビ、ラジオなどの語学講座や、インターネット上の英語関連サイト、参考書等を有効に使う。 上記の学修を自身で各15時間以上行うこと。					
授業計画	【第1回】読解の基本的テクニックと語彙習得 (1) 【第2回】読解の基本的テクニックと語彙習得 (2) 【第3回】読解の基本的テクニックと語彙習得 (3) 【第4回】基礎的文法と文構造の理解 (1) 【第5回】基礎的文法と文構造の理解 (2) 【第6回】速読 【第7回】多読 【第8回】精読・熟読 【第9回】リーディングとスピーキング (1) 【第10回】リーディングとスピーキング (2) 【第11回】リーディングとスピーキング (3) 【第12回】TOEIC リーディング・セクションの基本的攻略法 【第13回】TOEIC リーディング・セクション模擬問題 【第14回】TOEIC 団体試験受験直前対策 (1) 【第15回】TOEIC 団体試験受験直前対策 (2)					
成績評価の方法	各種テストや課題提出 (60%)、授業への取り組み姿勢 (40%)					
フィードバックの内容	課題や小テストに対する講評を授業内で行う。 アクティブ・ラーニングの内容に講評を加える。					
教科書	各担当講師の指示に従う。					
指定図書	『公式 TOEIC Listening & Reading 問題集10』 Educational Testing Service (著), 国際ビジネスコミュニケーション協会 TOEIC 運営委員会 (編集) (国際ビジネスコミュニケーション協会) 2023年					
参考書						
教員からのお知らせ	①教科書や辞書は担当の先生の指示に従ってください。 ② TOEIC 団体試験の受験を奨励します。					
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、メール等で各先生と連絡を取ってください。					
アクティブラーニングの内容	グループワーク、プレゼンテーションを行う。					
その他						

講義コード	授業形態	講義・演習	抽選の有無	あり	担当教員	開講期
科目名	英語リーディング2			各担当教員		第2期
履修前提条件						備考
授業の目的	主にリーディング力を養う。近年、世界に流れる情報をすばやく捉えて読みとる能力が要求され、社会人になってからもこうした英語読解力が求められているため、速読力の向上を重視する。授業では、英語リーディング1より高度な文法や英文読解の技術を応用しながら、速読で内容を把握できる力を訓練する。また、より多様で高度な文にも対応できるよう、いっそう語彙を増強し、複雑な文の構造が含まれた長文も理解できるようにする。この訓練によって、結果的に TOEIC リーディング・セクションのスコアを伸ばす英語力を習得することを目的とする。					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 語彙数を英語リーディング1より、さらに200-300語程度増やす。 2. 英語リーディング1より高度な英文をすばやく読んで理解するために必要な文法を習得する。 3. 英語リーディング1より高度な英文をざっと読んで (scanning/skimming)、大意をつかむ。 4. シャドーイングや音読で英語のリズムを身につけ、自然なスピードの英語に慣れる。 5. 日常生活に必要な多様な英語を読んで理解でき、英語の質問に英語で回答し、内容説明ができる。 6. TOEIC のリーディング・セクションの問題形式を熟知し、より難易度の高い問題も理解できる。 					
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	<ol style="list-style-type: none"> 1. 次の授業に向けて教科書等を読み、理解する。 2. 担当講師から与えられた課題を行う。 3. 単語等、前回学習した内容を復習する。 4. テレビ、ラジオなどの語学講座や、インターネット上の英語関連サイト、参考書等を有効に使う。 上記の学修を自身で各15時間以上行うこと。					
授業計画	【第1回】「英語リーディング1」より高度な読解テクニックと語彙増強 (1) 【第2回】「英語リーディング1」より高度な読解テクニックと語彙増強 (2) 【第3回】「英語リーディング1」より高度な読解テクニックと語彙増強 (3) 【第4回】複雑な文構造の理解 (1) 【第5回】複雑な文構造の理解 (2) 【第6回】速読 【第7回】多読 【第8回】精読・熟読 【第9回】リーディングとスピーキング (1) 【第10回】リーディングとスピーキング (2) 【第11回】リーディングとスピーキング (3) 【第12回】TOEIC リーディング・セクションの攻略法 (応用編) 【第13回】TOEIC リーディング・セクション模擬問題 【第14回】TOEIC 団体試験受験直前対策 (1) 【第15回】TOEIC 団体試験受験直前対策 (2)					
成績評価の方法	各種テストや課題提出 (60%)、授業への取り組み姿勢 (40%)					
フィードバックの内容	課題や小テストに対する講評を授業内で行う。 アクティブ・ラーニングの内容に講評を加える。					
教科書	各担当講師の指示に従う。					
指定図書	『公式 TOEIC Listening & Reading 問題集10』 Educational Testing Service (著), 国際ビジネスコミュニケーション協会 TOEIC 運営委員会 (編集) (国際ビジネスコミュニケーション協会) 2023年					
参考書						
教員からのお知らせ	①教科書や辞書は担当の先生の指示に従ってください。 ② TOEIC 団体試験の受験を奨励します。受験した場合の評価基準は各担当教員に確認して下さい。					
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、メール等で各先生と連絡を取ってください。					
アクティブラーニングの内容	グループワーク、プレゼンテーションを行う。					
その他						

講義コード	授業形態	講義・演習	抽選の有無	あり	担当教員	開講期																
科目名	英語リスニング1				各担当教員	第1期																
履修前提条件	備考																					
授業の目的	主にリスニングを中心に学習し、併せてライティングとスピーキング技能も養う。(リーディングは基礎的補足的には扱う。) 年々国際化する社会の中で、外国の人々と英語でコミュニケーションをとる機会が増えつつあるため、日常会話に使用される様々な表現方法を学びながら、リスニング、スピーキング、プレゼンテーションスキルなどのコミュニケーション全般にかかわる能力を伸ばすことを目標とする。そのために、まず、初歩的なレベルの訓練を行う。この訓練によって、結果的にTOEICのリスニング・セクションのスコアを伸ばす効果を引き出すことを目指す。																					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 基礎的な会話やアナウンスの概略を理解できる。 2. 基礎的なディクテーションができる。 3. 聞き取った内容について簡単な意見やコメントを述べたり、書くことができる。 4. シャドーイングや音読で英語のリズムを身につけ、自然なスピードの英語に慣れる。 5. TOEICのリスニング・セクションの問題形式を理解する。 																					
授業外学修内容・授業外学修時間数	<ol style="list-style-type: none"> 1. 次の授業に向けて教科書等を読み、理解する。 2. 担当講師から与えられた課題を行う。 3. 単語等、前回学習した内容を復習する。 4. テレビ、ラジオなどの語学講座や、インターネット上の英語関連サイト、参考書等を有効に使う。 上記の授業外学修を自身で15時間以上行うこと。																					
授業計画	<table border="0"> <tr> <td>【第1回】 会話やアナウンスの概略を理解 (1)</td> <td>【第9回】 音読</td> </tr> <tr> <td>【第2回】 会話やアナウンスの概略を理解 (2)</td> <td>【第10回】 TOEIC で頻出される語彙</td> </tr> <tr> <td>【第3回】 会話やアナウンスの概略を理解 (3)</td> <td>【第11回】 TOEIC で頻出される文法や文構造</td> </tr> <tr> <td>【第4回】 基礎的なディクテーション (1)</td> <td>【第12回】 TOEIC リスニング・セクションの基本的攻略法</td> </tr> <tr> <td>【第5回】 基礎的なディクテーション (2)</td> <td>【第13回】 TOEIC リスニング・セクション模擬問題</td> </tr> <tr> <td>【第6回】 聞き取った内容について自分の意見を述べる</td> <td>【第14回】 TOEIC 団体試験受験直前対策 (1)</td> </tr> <tr> <td>【第7回】 聞き取った内容について自分の意見を書く</td> <td>【第15回】 TOEIC 団体試験受験直前対策 (2)</td> </tr> <tr> <td>【第8回】 シャドーイング</td> <td></td> </tr> </table>						【第1回】 会話やアナウンスの概略を理解 (1)	【第9回】 音読	【第2回】 会話やアナウンスの概略を理解 (2)	【第10回】 TOEIC で頻出される語彙	【第3回】 会話やアナウンスの概略を理解 (3)	【第11回】 TOEIC で頻出される文法や文構造	【第4回】 基礎的なディクテーション (1)	【第12回】 TOEIC リスニング・セクションの基本的攻略法	【第5回】 基礎的なディクテーション (2)	【第13回】 TOEIC リスニング・セクション模擬問題	【第6回】 聞き取った内容について自分の意見を述べる	【第14回】 TOEIC 団体試験受験直前対策 (1)	【第7回】 聞き取った内容について自分の意見を書く	【第15回】 TOEIC 団体試験受験直前対策 (2)	【第8回】 シャドーイング	
【第1回】 会話やアナウンスの概略を理解 (1)	【第9回】 音読																					
【第2回】 会話やアナウンスの概略を理解 (2)	【第10回】 TOEIC で頻出される語彙																					
【第3回】 会話やアナウンスの概略を理解 (3)	【第11回】 TOEIC で頻出される文法や文構造																					
【第4回】 基礎的なディクテーション (1)	【第12回】 TOEIC リスニング・セクションの基本的攻略法																					
【第5回】 基礎的なディクテーション (2)	【第13回】 TOEIC リスニング・セクション模擬問題																					
【第6回】 聞き取った内容について自分の意見を述べる	【第14回】 TOEIC 団体試験受験直前対策 (1)																					
【第7回】 聞き取った内容について自分の意見を書く	【第15回】 TOEIC 団体試験受験直前対策 (2)																					
【第8回】 シャドーイング																						
成績評価の方法	各種テストや課題提出 (60%)、授業への取り組み姿勢 (40%)																					
フィードバックの内容	課題や小テストに対する講評を授業内で行う。 アクティブ・ラーニングの内容に講評を加える。																					
教科書	各担当講師の指示に従う。																					
指定図書	『公式 TOEIC Listening & Reading 問題集9』 Educational Testing Service (著), 国際ビジネスコミュニケーション協会 TOEIC 運営委員会 (編集) (国際ビジネスコミュニケーション協会) 2022年																					
参考書																						
教員からのお知らせ	この授業は複数クラスなので、担当教員によって教科書が異なります。詳細は授業内で担当教員より告知されるので注意して下さい。																					
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、メール等で各先生と連絡を取ってください。																					
アクティブラーニングの内容	ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーションを行う。																					
その他																						

講義コード	授業形態	講義・演習	抽選の有無	あり	担当教員	開講期
科目名	英語リスニング2			各担当教員		第2期
履修前提条件						備考
授業の目的	主にリスニングを中心に学習し、併せてライティングとスピーキング技能も養う。(リーディングは基礎的補足的には扱う。) 年々国際化する社会の中で、外国の人々と英語でコミュニケーションをとる機会が増えつつあるため、日常会話に使用される様々な表現方法を学びながら、リスニング、スピーキング、プレゼンテーションスキルなどのコミュニケーション全般にかかわる能力を伸ばすことを目標とする。そのために、英語リスニング1より一歩進んだレベルの訓練を行う。この訓練によって、結果的にTOEICリスニング・セクションのスコアを伸ばす英語力を習得することを目指す。					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 英語リスニング1より進んだレベルの会話やアナウンスの概略を理解できる。 2. 英語リスニング1より進んだレベルのディクテーションができる。 3. 聞き取った内容について、より豊富な語彙や文法を用いて、意見やコメントを述べたり書くことができる。 4. シャドーイングや音読で英語のリズムを身につけ、自然なスピードの英語に慣れる。 5. TOEICのリスニング・セクションの問題形式を熟知し、より難易度の高い問題も理解できるようになる。 					
授業外学修内容・授業外学修時間数	<ol style="list-style-type: none"> 1. 次の授業に向けて教科書等を読み、理解する。 2. 担当講師から与えられた課題を行う。 3. 単語等、前回学習した内容を復習する。 4. テレビ、ラジオなどの語学講座や、インターネット上の英語関連サイト、参考書等を有効に使う。 上記の授業外学修を自身で各15時間以上行うこと。					
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> 【第1回】「英語リスニング1」より高度な会話やアナウンスの概略を理解 (1) 【第2回】「英語リスニング1」より高度な会話やアナウンスの概略を理解 (2) 【第3回】「英語リスニング1」より高度な会話やアナウンスの概略を理解 (3) 【第4回】ニュースなど高度な内容のディクテーション (1) 【第5回】ニュースなど高度な内容のディクテーション (2) 【第6回】聞き取った内容について多彩な語彙と表現で自分の意見を述べる 【第7回】聞き取った内容について多彩な語彙と表現で自分の意見を書く 【第8回】ニュースなど高度な内容のシャドーイング 【第9回】ニュースなど高度な内容の音読 【第10回】TOEICで頻出される語彙 【第11回】TOEICで頻出される文法や文構造 【第12回】TOEICリスニング・セクションの攻略法 (応用編) 【第13回】TOEICリスニング・セクション模擬問題 【第14回】TOEIC 団体試験受験直前対策 (1) 【第15回】TOEIC 団体試験受験直前対策 (2) 					
成績評価の方法	各種テストや課題提出 (60%)、授業への取り組み姿勢 (40%)					
フィードバックの内容	課題に対する講評を授業内で行う。 アクティブ・ラーニングの内容に講評を加える。					
教科書	各担当講師の指示に従う。					
指定図書	『公式 TOEIC Listening & Reading 問題集9』Educational Testing Service (著), 国際ビジネスコミュニケーション協会 TOEIC 運営委員会 (編集) (国際ビジネスコミュニケーション協会) 2022年					
参考書						
教員からのお知らせ	この授業は複数クラスなので、担当教員によって教科書が異なります。詳細は授業内で担当教員より告知されるので注意して下さい。					
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、メール等で各先生と連絡を取ってください。					
アクティブラーニングの内容	ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーションを行う。					
その他						

講義コード	11C0272201	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員	平 伊佐雄	開講期	第1期
科目名	欧州経済史				平 伊佐雄		第1期		
履修前条件					備考				
授業の目的	ヨーロッパの近世から現代に至る歴史は、世界に大きな影響を与えた。その一つに、工業化社会の展開や資本主義制度の誕生とその普及がある。ヨーロッパ社会で育まれたこれらの仕組みが歴史の中でどのような影響を与えたのか、そして、その現代的な意義を理解することを本講義の目的とする。								
到達目標	ヨーロッパの近世の時代から現代にかけて生じ、発展してきたヨーロッパの商工業の展開とその特徴を知り、現在の経済との関連性や共通性を説明できるようになる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	各回の講義を受講するにあたり、予習や復習を各自、授業外学修として各回につき4時間（全体で計60時間）以上行うこと。								
授業計画	【第1回】 欧州経済史研究の視角 【第2回】 ポルトガル王国と大航海－アジアへの海路－ 【第3回】 太陽の沈まぬ帝国スペインと植民地支配－価格革命はあったのか－ 【第4回】 バルト海交易におけるポーランド 【第5回】 近世イングランドの経済 【第6回】 ブリテン島における工業化 【第7回】 パークス・ブリタニカの時代 【第8回】 プロイセンにおける農村工業				【第9回】 プロイセンの輸出産業 【第10回】 プロイセン・ドイツの工業化 【第11回】 ロシアにおける産業の発展 【第12回】 ロシアの工業化 【第13回】 フランス王国の政治と経済 【第14回】 フランス王国の産業の展開 【第15回】 フランスの工業化				
成績評価の方法	講義（期間）中に行う小テスト（筆記試験50%）と定期試験（筆記試験50%）をもって評価する。								
フィードバックの内容	講義中に学生に課した課題、学生から出された質問などについて解題し、フィードバックを行う。								
教科書									
指定図書									
参考書	『図説ポルトガルの歴史』金七紀男（河出書房新社）2022、『スペイン・ポルトガルの歴史 上』立石博高（山川出版社）2022、『世界史の中の産業革命』R.C.アレン（名古屋大学出版会）2017、『西ヨーロッパ工業史』D.S.ランデス（みすず書房）1980、『ドイツ農村工業史』馬場哲（東京大学出版会）1993、『ドイツ産業革命』F.キーゼヴェーター（晃洋書房）2006、『ロシアの工業化』フォーカス（日本経済評論社）1985、『イギリス海外貿易の研究』S.B.ソウル（文真堂）1980								
教員からのお知らせ	履修生は、ネット経由でダウンロード可能（期間限定）にしてある教材（参考文献を含む）を利用し、予習した上で講義に望むこと。また、講義内容と成績評価方法は、学生の受講態度や理解度に応じて変更もあり得ます。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部学科にて定めるオフィスアワーにて受け付けます。								
アクティブラーニングの内容	資料を前もって学生に提示して行わせる反転授業や講義中に課す小問へのフィードバック、学生からの講義内容への質問に対する回答、意見共有も行っている。								
その他									

講義コード	11C0173401	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員	中尾 将人	開講期	第1期
科目名	欧州経済論1 / EU 経済論1				中尾 将人		第1期		
履修前条件					備考				
授業の目的	EU 経済がどのようにして成立し、どのような特徴を持っているのかを説明する。また、ユーロがどのような歴史を辿って成立したかについても説明する。								
到達目標	1. EU 経済の成り立ちを説明できる。 2. EU における様々な経済政策の特徴と課題について説明できる。 3. EU 経済が抱える問題点を指摘できる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	この科目では、60時間以上の授業外学修を行うこと。授業外学修として、事前に各回の内容に該当する教科書内容を読むこと。また、授業後は配布資料を読み直し、講義後課題に取り組むこと。								
授業計画	【第1回】 EU の深化と拡大 【第2回】 EU の制度 【第3回】 関税同盟と単一市場 【第4回】 単一市場の拡大 【第5回】 共通農業政策 【第6回】 通商政策 【第7回】 対外通商関係 【第8回】 競争政策				【第9回】 産業政策 【第10回】 雇用政策 【第11回】 移民と難民 【第12回】 地域政策 【第13回】 イギリスと EU 経済 【第14回】 Brexit の過程 【第15回】 Brexit 後のイギリス				
成績評価の方法	講義中課題（30%）講義後課題（45%）、リアクションペーパー提出（15%）、最終課題（10%）								
フィードバックの内容	Microsoft Teams を使用して課題に対するフィードバックを行う。 また講義中にもフィードバックを行う。								
教科書	『現代ヨーロッパ経済』田中素香・長部重康・久保広正・岩田健治（有斐閣）2022								
指定図書									
参考書	『クルーグマン国際経済学 理論と政策（原書第10版）上：貿易編』P.R.クルーグマン, M. オブストフェルド, マーク J. メリッツ（丸善出版）2017、『クルーグマン国際経済学 理論と政策（原書第10版）下：金融編』P.R.クルーグマン, M. オブストフェルド, マーク J. メリッツ（丸善出版）2017、『EU 経済統合』J・ベルクマンズ（文真堂）2004、『ユーロ危機とギリシャ反乱』田中素香（岩波新書）2016、『ユーロ 危機の中の統一通貨』田中素香（岩波新書）2010、『EU 政治論』池本大輔・板橋拓己・川嶋周一・佐藤俊輔（有斐閣）2020、『はじめて学ぶ国際金融論』永易淳・江阪太郎・吉田裕司（有斐閣）2015、『国際経済学へのいざない』友原章典（日本評論社）2014								
教員からのお知らせ	欧州経済論1と欧州経済論2は連続した内容となっているため、合わせて受講することが望ましい。また、国際経済に関する基礎的な内容（国際金融論・貿易論）を理解していることが望ましい。								
オフィスアワー	講義後や Microsoft Teams のチャット機能で質問を受け付ける。								
アクティブラーニングの内容	教員からのフィードバックによる振り返り								
その他									

講義コード	11C0173501	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員		開講期	
科目名	欧州経済論2 / EU 経済論2				中尾 将人		第2期		
履修前条件					備考				
授業の目的	ユーロ危機の原因や対応策について説明する。また、ユーロ圏の金融政策や財政政策の特徴について説明する。								
到達目標	1. ユーロ危機について説明できる。 2. ユーロ圏の金融政策や財政政策の問題点を指摘できる。 3. EU 各国の経済の特徴について説明できる。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	この科目では、60時間以上の授業外学修を行うこと。授業外学修として、事前に各回の内容に該当する教科書内容を読むこと。また、授業後は配布資料を読み直し、講義後課題に取り組むこと。								
授業計画	【第1回】 復習：EU 経済統合 【第2回】 固定相場制と為替介入 【第3回】 為替介入と通貨危機 【第4回】 EMS 【第5回】 通貨統合 【第6回】 最適通貨圏理論 【第7回】 世界金融危機とユーロ経済 【第8回】 ヨーロッパの金融システム				【第9回】 ユーロ危機 【第10回】 ユーロ制度改革 【第11回】 ユーロ危機後の経済停滞 【第12回】 ユーロ圏の財政政策 【第13回】 ドイツと EU 経済 【第14回】 フランスと EU 経済 【第15回】 EU 各国と EU 経済				
成績評価の方法	講義中課題（30%）講義後課題（45%）、リアクションペーパー提出（15%）、最終課題（10%）								
フィードバックの内容	Microsoft Teams を使用して課題に対するフィードバックを行う。 また講義中にもフィードバックを行う。								
教科書 指定図書	『現代ヨーロッパ経済』田中素香・長部重康・久保広正・岩田健治（有斐閣）2022								
参考書	『クルーグマン国際経済学 理論と政策（原書第10版）上：貿易編』P. R. クルーグマン, M. オブストフェルド, マーク J. メリッツ（丸善出版）2017、『クルーグマン国際経済学 理論と政策（原書第10版）下：金融編』P. R. クルーグマン, M. オブストフェルド, マーク J. メリッツ（丸善出版）2017、『EU 経済統合』J・ペルクマンズ（文真堂）2004、『ユーロ危機とギリシャ反乱』田中素香（岩波新書）2016、『ユーロ 危機の中の統一通貨』田中素香（岩波新書）2010、『EU 政治論』池本大輔・板橋拓己・川嶋周一・佐藤俊輔（有斐閣）2020、『はじめて学ぶ国際金融論』永易淳・江阪太郎・吉田裕司（有斐閣）2015、『国際経済学へのいざない』友原章典（日本評論社）2014								
教員からのお知らせ	欧州経済論1と欧州経済論2は連続した内容となっているため、合わせて受講することが望ましい。 また、国際経済に関する基礎的な内容（国際金融論・貿易論）を理解していることが望ましい。								
オフィスアワー	講義後や Microsoft Teams のチャット機能で質問を受け付ける。								
アクティブラーニングの内容 その他	教員からのフィードバックによる振り返り								

講義コード	11C0104801	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員	川久保 浩志	開講期	第1期
科目名	音楽の世界				川久保 浩志			第1期	
履修前条件					備考				
授業の目的	世界中のオペラハウスのシーズンプログラムを見ても、W.A. モーツァルトのオペラ作品が必ず一つは組まれていることが分る。それはこの18世紀の作曲家の作品が、時を経てもお世界中の人々から愛されているからである。本講義は前記をふまえ、優れた音楽芸術作品にふれてもらうことで、豊かな人生を送るための一つの指針となることを目的とする。								
到達目標	商業ベースにのせられ、サブカルチャーとして存在しがちな音楽であるが、本講義を受講し、実生活と密着した音楽の様々な社会性を学ぶことで、音楽に自ら深く積極的に探究していくことができる。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	この科目では60時間の授業外学修をおこなうこと。授業外学修では、講義中書き取ったノートの整理を毎回行うこと。また出題する学習課題に取りくむこと。課題はその都度告知する。								
授業計画	<p>【第1回】 音楽の機能（1）履修ガイダンス。商業ベースに乗った音楽</p> <p>【第2回】 音楽の機能（2）魔術的・呪術的な機能：神話にみる音楽</p> <p>【第3回】 音楽の機能（3）魔術的・呪術的な機能：ところ変われば</p> <p>【第4回】 音楽の機能（4）宗教儀式と結びついた機能：キリスト教と音楽：カトリック、プロテスタント</p> <p>【第5回】 音楽の機能（5）宗教儀式と結びついた機能：仏教</p> <p>【第6回】 音楽の機能（6）労働と結びついた機能：民謡にみる労働歌</p> <p>【第7回】 音楽の機能（7）健康維持、治療としての機能：音楽療法</p> <p>【第8回】 第1回レポート作成</p> <p>【第9回】 時を超え伝播した音楽芸術「W.A. モーツァルト」</p> <p>【第10回】 W.A. モーツァルトとその時代に生きた音楽家</p> <p>【第11回】 映画「アマデウス」から学ぶ（1）：18世紀欧州の宮廷人が白髪なのは。ローテンベルク伯爵とは？ドイツ的美徳＝「愛」でもめる背景。</p> <p>【第12回】 映画「アマデウス」から学ぶ（2）：モーツァルトの下書き譜。フィガロの結婚はご法度？天才台本作家ダ・ポンテとの仕事。</p> <p>【第13回】 映画「アマデウス」から学ぶ（3）：それまでのお笑いオペラを芸術の域に昇華させたモーツァルト。</p> <p>【第14回】 映画「アマデウス」から学ぶ（4）：遺作「レクイエム」。</p> <p>【第15回】 第2回レポート作成</p>								
成績評価の方法	授業内での2回のレポート作成（80%）、授業への取組（20%）で評価する。								
フィードバックの内容	レポートに対する総括したコメントをポータルサイト掲示板にアップする。								
教科書									
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ	授業に毎回出席しないとレポートは書けません。 教科書は使用しませんが、講義内容に合ったレジュメを授業内で配布します。 参考書は使用しませんが、視聴覚資料を授業内で多く用いて参考とします。								
オフィスアワー	本授業に関する質問は、授業終了後、後続授業に支障をきたさない範囲で対応いたします。 相談事項はメールによって受け付けます。E-mail : forzakawakubo0710@icloud.com								
アクティブラーニングの内容	プレゼンテーション								
その他	芸名：川久保博史。オペラ歌手。東京藝術大学大学院修了。宇都宮市エスパー賞受賞・育成金を取得し、また文化庁在外派遣制度特別派遣研修員としてイタリアに渡り、イタリアオペラ作品の研鑽を積む。年間多数のオペラ公演、コンサートに携わる。藤原歌劇団団員、日本オペラ協会会員。日本歌曲振興波の会理事。日蓮宗仏教讃歌振興団体連絡協議会顧問。								

講義コード	11C2104101	授業形態	講義・演習	抽選の有無	あり	担当教員	長澤 里絵	開講期	第1期																
科目名	Online English Conversation 1 A				長澤 里絵			第1期																	
履修前提条件					備考																				
授業の目的	The purpose of this class is for students to practice basic English communication with people in a foreign country. Students of this class use the Internet to connect (using online video chat software) and communicate face-to-face with fluent English students of Mindanao Kokusai Daigaku in the Philippines. This class helps students broaden their view of the world through cross-cultural communication in English. The teacher will use some of the class time to reflect on students' online video chat conversations, and help them become more effective and confident speakers of English.																								
到達目標	The teacher will give students time to enjoy basic English conversations in class. This class makes it possible for students to improve their English speaking and listening, naturally. The goal for this class is for students to feel relaxed when having natural English conversations with fluent English speakers. In this class students can freely share their opinions, hopes and dreams in English with their online friends in the Philippines. Working with the teacher, students can reflect on and strengthen their English abilities.																								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	Students of this class are expected to prepare well for each online, face-to-face conversation. Students are also expected to be active and ready to ask questions to their friends in the Philippines; therefore, students must spend more than 60 hours outside of class in preparation for this course. The teacher will assign homework related to the online discussions, including reading and writing of short reports.																								
授業計画	<table border="0"> <tr> <td>【第1回】 Introduce yourself. Getting to Know Each Other</td> <td>【第9回】 "What do you do?" Occupations</td> </tr> <tr> <td>【第2回】 Weather</td> <td>【第10回】 The Past</td> </tr> <tr> <td>【第3回】 Demonstrative Pronouns</td> <td>【第11回】 The Future</td> </tr> <tr> <td>【第4回】 Numbers</td> <td>【第12回】 Getting Sick</td> </tr> <tr> <td>【第5回】 Shopping</td> <td>【第13回】 Prepositions</td> </tr> <tr> <td>【第6回】 Hobbies and Interests</td> <td>【第14回】 Ordering Food in a Restaurant</td> </tr> <tr> <td>【第7回】 "What is she doing?" The Present Progressive</td> <td>【第15回】 In an Airport</td> </tr> <tr> <td>【第8回】 "What time is it?"</td> <td></td> </tr> </table>									【第1回】 Introduce yourself. Getting to Know Each Other	【第9回】 "What do you do?" Occupations	【第2回】 Weather	【第10回】 The Past	【第3回】 Demonstrative Pronouns	【第11回】 The Future	【第4回】 Numbers	【第12回】 Getting Sick	【第5回】 Shopping	【第13回】 Prepositions	【第6回】 Hobbies and Interests	【第14回】 Ordering Food in a Restaurant	【第7回】 "What is she doing?" The Present Progressive	【第15回】 In an Airport	【第8回】 "What time is it?"	
【第1回】 Introduce yourself. Getting to Know Each Other	【第9回】 "What do you do?" Occupations																								
【第2回】 Weather	【第10回】 The Past																								
【第3回】 Demonstrative Pronouns	【第11回】 The Future																								
【第4回】 Numbers	【第12回】 Getting Sick																								
【第5回】 Shopping	【第13回】 Prepositions																								
【第6回】 Hobbies and Interests	【第14回】 Ordering Food in a Restaurant																								
【第7回】 "What is she doing?" The Present Progressive	【第15回】 In an Airport																								
【第8回】 "What time is it?"																									
成績評価の方法	Participation in online communication with the tutors in the Philippines 100%																								
フィードバックの内容																									
教科書																									
指定図書																									
参考書																									
教員からのお知らせ	100% participation and effort is mandatory. Students must contact the teacher if they cannot attend class.																								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、担当教員にメールでおこなう																								
アクティブラーニングの内容	Students will have one-on-one or in a small group conversation in English with tutors, other students and/or the teacher through the lessons.																								
その他																									

講義コード	11C2104201	授業形態	講義・演習	抽選の有無	あり	担当教員	長澤 里絵	開講期	第2期																
科目名	Online English Conversation 2 A				長澤 里絵			第2期																	
履修前提条件					備考																				
授業の目的	The purpose of this class is for students to practice basic English communication with people in a foreign country. Students of this class use the Internet to connect (using online video chat software) and communicate face-to-face with fluent English students of Mindanao Kokusai Daigaku in the Philippines. This class helps students broaden their view of the world through cross-cultural communication in English. The teacher will use some of the class time to reflect on students' online video chat conversations, and help them become more effective and confident speakers of English.																								
到達目標	The teacher will give students time to enjoy basic English conversations in class. This class makes it possible for students to improve their English speaking and listening, naturally. The goal for this class is for students to feel relaxed when having natural English conversations with fluent English speakers. In this class students can freely share their opinions, hopes and dreams in English with their online friends in the Philippines. Working with the teacher, students can reflect on and strengthen their English abilities.																								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	Students of this class are expected to prepare well for each online, face-to-face conversation. Students are also expected to be active and ready to ask questions to their friends in the Philippines; therefore, students must spend more than 60 hours outside of class in preparation for this course. The teacher will assign homework related to the online discussions, including reading and writing of short reports.																								
授業計画	<table border="0"> <tr> <td>【第1回】 Homestay</td> <td>【第9回】 Apartments for Rent</td> </tr> <tr> <td>【第2回】 Giving Directions</td> <td>【第10回】 Camping Gear</td> </tr> <tr> <td>【第3回】 Making a Reservation at a Hotel</td> <td>【第11回】 Christmas is Coming</td> </tr> <tr> <td>【第4回】 Asking Permission</td> <td>【第12回】 Class Reunion</td> </tr> <tr> <td>【第5回】 Making New Friends</td> <td>【第13回】 Clothing Styles</td> </tr> <tr> <td>【第6回】 Reporting in Class</td> <td>【第14回】 College Life</td> </tr> <tr> <td>【第7回】 Voice Mail</td> <td>【第15回】 First Date</td> </tr> <tr> <td>【第8回】 A Day at School</td> <td></td> </tr> </table>									【第1回】 Homestay	【第9回】 Apartments for Rent	【第2回】 Giving Directions	【第10回】 Camping Gear	【第3回】 Making a Reservation at a Hotel	【第11回】 Christmas is Coming	【第4回】 Asking Permission	【第12回】 Class Reunion	【第5回】 Making New Friends	【第13回】 Clothing Styles	【第6回】 Reporting in Class	【第14回】 College Life	【第7回】 Voice Mail	【第15回】 First Date	【第8回】 A Day at School	
【第1回】 Homestay	【第9回】 Apartments for Rent																								
【第2回】 Giving Directions	【第10回】 Camping Gear																								
【第3回】 Making a Reservation at a Hotel	【第11回】 Christmas is Coming																								
【第4回】 Asking Permission	【第12回】 Class Reunion																								
【第5回】 Making New Friends	【第13回】 Clothing Styles																								
【第6回】 Reporting in Class	【第14回】 College Life																								
【第7回】 Voice Mail	【第15回】 First Date																								
【第8回】 A Day at School																									
成績評価の方法	Participation in online communication with the tutors in the Philippines 100%																								
フィードバックの内容																									
教科書																									
指定図書																									
参考書																									
教員からのお知らせ	100% participation and effort is mandatory. Students must contact the teacher if they cannot attend class.																								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、担当教員にメールでおこなう																								
アクティブラーニングの内容	Students will have one-on-one or in a small group conversation in English with tutors, other students and/or the teacher through the lessons.																								
その他																									

講義コード	11C2104102	授業形態	講義・演習	抽選の有無	あり	担当教員		開講期																	
科目名	Online English Conversation 1 B				マイケル クボ		第1期																		
履修前提条件					備考																				
授業の目的	The purpose of this class is for students to practice basic English communication with people in a foreign country. Students of this class use the Internet to connect (using online video chat software) and communicate face-to-face with fluent English students of Mindanao International University in the Philippines. This class helps students broaden their view of the world through cross-cultural communication in English. The teacher will use some of the class time to reflect on students' online video chat conversations.																								
到達目標	This is a popular class. Students will have a lot of time to enjoy basic English conversations in this class. This class makes it possible for students to improve their English speaking and listening, naturally. Students will feel relaxed when enjoying natural English conversations with fluent English speakers. In this class, students freely share their opinions, hopes and dreams in English with their very friendly online tutors in the Philippines. Working with the teacher and tutors, students reflect on and strengthen their English abilities. Most importantly, on the first day of class, students will feel they are global citizens.																								
授業外学修内容・授業外学修時間数	Students of this class are expected to prepare well for each online face-to-face conversation. Students are also expected to be active and ready to ask questions to their friends in the Philippines; therefore, students must spend more than 60 hours outside of class in preparation for this course. The teacher will assign homework related to the online discussions, including reading and writing of short reports.																								
授業計画	<table border="0"> <tr> <td>【第1回】 Introduce Yourself. Getting to Know Each Other.</td> <td>【第9回】 What do you do? Occupations</td> </tr> <tr> <td>【第2回】 Weather</td> <td>【第10回】 The Past</td> </tr> <tr> <td>【第3回】 Demonstrative Pronouns</td> <td>【第11回】 The Future</td> </tr> <tr> <td>【第4回】 Numbers</td> <td>【第12回】 Getting Sick</td> </tr> <tr> <td>【第5回】 Shopping</td> <td>【第13回】 Prepositions</td> </tr> <tr> <td>【第6回】 Hobbies & Interests</td> <td>【第14回】 Ordering Food in a Restaurant</td> </tr> <tr> <td>【第7回】 What is she doing? (The Present Progressive)</td> <td>【第15回】 In an Airport</td> </tr> <tr> <td>【第8回】 What time is it?</td> <td></td> </tr> </table>									【第1回】 Introduce Yourself. Getting to Know Each Other.	【第9回】 What do you do? Occupations	【第2回】 Weather	【第10回】 The Past	【第3回】 Demonstrative Pronouns	【第11回】 The Future	【第4回】 Numbers	【第12回】 Getting Sick	【第5回】 Shopping	【第13回】 Prepositions	【第6回】 Hobbies & Interests	【第14回】 Ordering Food in a Restaurant	【第7回】 What is she doing? (The Present Progressive)	【第15回】 In an Airport	【第8回】 What time is it?	
【第1回】 Introduce Yourself. Getting to Know Each Other.	【第9回】 What do you do? Occupations																								
【第2回】 Weather	【第10回】 The Past																								
【第3回】 Demonstrative Pronouns	【第11回】 The Future																								
【第4回】 Numbers	【第12回】 Getting Sick																								
【第5回】 Shopping	【第13回】 Prepositions																								
【第6回】 Hobbies & Interests	【第14回】 Ordering Food in a Restaurant																								
【第7回】 What is she doing? (The Present Progressive)	【第15回】 In an Airport																								
【第8回】 What time is it?																									
成績評価の方法	effort: 40%, participation: 30%, attitude: 30%																								
フィードバックの内容																									
教科書																									
指定図書																									
参考書																									
教員からのお知らせ																									
オフィスアワー	The teacher is always available via LINE. Special meeting between student and teacher can be made easily. Traditional office hours are Wednesdays after 16:00, and Thursdays 10:40 to 12:30. Please contact the teacher directly via LINE or email (michaelkubo@ris.ac.jp)																								
アクティブラーニングの内容	Students will regularly be asked to share their opinions on topics and make presentations.																								
その他																									

講義コード	11C2104202	授業形態	講義・演習	抽選の有無	あり	担当教員		開講期																	
科目名	Online English Conversation 2 B				マイケル クボ		第2期																		
履修前提条件					備考																				
授業の目的	The purpose of this class is for students to practice basic English communication with people in a foreign country. Students of this class use the Internet to connect (using online video chat software) and communicate face-to-face with fluent English students of Mindanao International University in the Philippines. This class helps students broaden their view of the world through cross-cultural communication in English. The teacher will use some of the class time to reflect on students' online video chat conversations, and help them become more effective and confident speakers of English.																								
到達目標	This is a popular class. Students will have a lot of time to enjoy basic English conversations in this class. This class makes it possible for students to improve their English speaking and listening, naturally. Students will feel relaxed when enjoying natural English conversations with fluent English speakers. In this class, students freely share their opinions, hopes and dreams in English with their very friendly online tutors in the Philippines. Working with the teacher and tutors, students reflect on and strengthen their English abilities. Most importantly, on the first day of class, students will feel they are global citizens.																								
授業外学修内容・授業外学修時間数	Students of this class are expected to prepare well for each online face-to-face conversation. Students are also expected to be active and ready to ask questions to their friends in the Philippines; therefore, students must spend more than 60 hours outside of class in preparation for this course. The teacher will assign homework related to the online discussions, including reading and writing of short reports.																								
授業計画	<table border="0"> <tr> <td>【第1回】 Homestay</td> <td>【第9回】 Apartments for Rent</td> </tr> <tr> <td>【第2回】 Giving Directions</td> <td>【第10回】 Camping Gear</td> </tr> <tr> <td>【第3回】 Making a Reservation at a Hotel</td> <td>【第11回】 Christmas is Coming</td> </tr> <tr> <td>【第4回】 Asking Permission</td> <td>【第12回】 Class Reunion</td> </tr> <tr> <td>【第5回】 Making New Friends</td> <td>【第13回】 Clothing Styles</td> </tr> <tr> <td>【第6回】 Reporting in Class</td> <td>【第14回】 College Life</td> </tr> <tr> <td>【第7回】 Voicemail</td> <td>【第15回】 First Date</td> </tr> <tr> <td>【第8回】 A Day at School</td> <td></td> </tr> </table>									【第1回】 Homestay	【第9回】 Apartments for Rent	【第2回】 Giving Directions	【第10回】 Camping Gear	【第3回】 Making a Reservation at a Hotel	【第11回】 Christmas is Coming	【第4回】 Asking Permission	【第12回】 Class Reunion	【第5回】 Making New Friends	【第13回】 Clothing Styles	【第6回】 Reporting in Class	【第14回】 College Life	【第7回】 Voicemail	【第15回】 First Date	【第8回】 A Day at School	
【第1回】 Homestay	【第9回】 Apartments for Rent																								
【第2回】 Giving Directions	【第10回】 Camping Gear																								
【第3回】 Making a Reservation at a Hotel	【第11回】 Christmas is Coming																								
【第4回】 Asking Permission	【第12回】 Class Reunion																								
【第5回】 Making New Friends	【第13回】 Clothing Styles																								
【第6回】 Reporting in Class	【第14回】 College Life																								
【第7回】 Voicemail	【第15回】 First Date																								
【第8回】 A Day at School																									
成績評価の方法	effort: 40%, participation: 30%, attitude: 30%																								
フィードバックの内容																									
教科書																									
指定図書																									
参考書																									
教員からのお知らせ																									
オフィスアワー	The teacher is always available via LINE. Special meeting between student and teacher can be made easily. Traditional office hours are Wednesdays after 16:00, and Thursdays 10:40 to 12:30. Please contact the teacher directly via LINE or email (michaelkubo@ris.ac.jp)																								
アクティブラーニングの内容	Students will regularly be asked to share their opinions on topics and make presentations.																								
その他																									

講義コード	11C0123901	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員		開講期	
科目名	会計学				森 寛和		第1期		
履修前提条件					備考				
授業の目的	会計学とは、企業その他の経済活動を認識し、測定し、利害関係者に伝達する際に、その測定方法や報告方法を体系化した学問のことです。本講義では、会計学を通じてビジネス言語としての会計の理解を深めることを目的とします。								
到達目標	会計学を基礎とする各科目を学ぶ上で、必要となる知識を獲得することを到達目標とします。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	本講義では、60時間以上を授業外学修としてあてる事を求めます。前回内容を復習し、疑問点を解消した上で受講することが望ましいです。								
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> 【第1回】 オリエンテーション 【第2回】 会計の役割と機能 【第3回】 会計情報のディスクロージャー 【第4回】 財務会計の基礎 【第5回】 期間損益計算と発生主義会計 【第6回】 発生主義における収益費用の認識（1） 【第7回】 発生主義における収益費用の認識（2） 【第8回】 複式簿記の構造 【第9回】 財務諸表の構造と作成手順 【第10回】 製造原価の計算 【第11回】 棚卸資産と売上原価 【第12回】 固定資産と減価償却 【第13回】 管理会計の基礎 【第14回】 連結財務諸表 【第15回】 会計監査とこれまでのまとめ 								
成績評価の方法	定期試験（80％）および授業への取り組み姿勢（20％）で判定します。								
フィードバックの内容	課題に対する講評を次回授業内にて行います。								
教科書									
指定図書									
参考書	『はじめて出会う会計学 第3版』川本 淳（著）、野口 昌良（著）、浅見 裕子（著）、山田 純平（著）、荒田 映子（著）（有斐閣）2022/ 3 /30、『新・現代会計入門 第5版』伊藤 邦雄（著）（日本経済新聞出版）2022/ 3 /17								
教員からのお知らせ	社会において、会計は長く付き合う必要のある学問の一つです。本講義が将来の一助になればと考えています。また参考書、教科書については初回講義時にお知らせします。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。								
アクティブラーニングの内容	提示する課題に対して教員からのフィードバックによる振り返りを実施します。								
その他									

講義コード	11C0125002	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員		開講期	
科目名	会社法				石岡 克俊		第1期		
履修前提条件					備考				
授業の目的	この講義では、会社の組織やその運営について規定し、これにかかわる様々な利害関係を調整することを目的とする会社法を学んでいく。法は、なぜ会社についてかようなまでに複雑かつ数多くのルールを定めているのだろうか？なぜ、こうした規律が必要とされるのだろうか？この講義は、現代の企業の仕組みについて理解することを目的としている。								
到達目標	会社は、これまで学んできた民法の仕組みを巧妙に利用した制度である。したがって、会社についての理解を深めるにも、まず民法について適切な知識を有していなければならない。この講義では適宜民法との関連に触れながら会社法の知識を定着させ、この法律についての確かな用語を用いて説明することができることを目標とする。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	この科目では、60時間以上の授業外学修を行うこと。授業外学修としては、毎回、事前に配布する講義資料を読み込み授業に臨むこと、また、配布された資料に関連する課題を用いて講義後の復習すること。								
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> 【第1回】 【イントロダクション：何を学ぶのか？】 【第2回】 【会社法総論（1）：会社の意義と特質、株式会社の規制区分】 【第3回】 【会社法総論（2）：会社法の諸原則および規制手法】 【第4回】 【会社法総論（3）：法人としての会社・商人としての会社】 【第5回】 【会社の設立】 【第6回】 【株式（1）】 【第7回】 【株式（2）】 【第8回】 【会社の機関（1）】 【第9回】 【会社の機関（2）】 【第10回】 【会社の機関（3）】 【第11回】 【役員等の義務と責任】 【第12回】 【会社の資金調達】 【第13回】 【会社の計算】 【第14回】 【事業譲渡と組織再編行為】 【第15回】 【会社の解散・清算】 								
成績評価の方法	学期末に課すレポートにより評価を行う（100％）								
フィードバックの内容	配布された資料に関連する課題の解答は、翌週の講義の際に解説する。								
教科書									
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ	教科書、参考書は指定せず、講義において配布する資料を用いる。ただし、より発展的な内容について学習を進めたい者がいれば、適宜、参考文献を紹介する。								
オフィスアワー	この授業に関する質問・相談は、メール（ishioka@a5.keio.jp）にて質問・相談に対応する。								
アクティブラーニングの内容	教員からのフィードバックによる振り返り								
その他									

講義コード		授業形態	講義・演習	抽選の有無	あり	担当教員		開講期	
科目名	学修の基礎Ⅰ				各担当教員		第1期		
履修前提条件					備考				
授業の目的	この講義では、本学が唱導する「モラリスト×エキスパート」の理念を共有するため、本学の教育理念や大学における勉強法、大学で最低限必要とされる知のツール－文献の批判的な読み方、問題意識の絞り方、資料の調べ方と整理の仕方、発表や議論の仕方、レポート作成の基本的なノウハウ－を学修することを目的とする。								
到達目標	この講義では、演習形式を採用することにより、①高校までとは異なる大学における「知の技法」、②自分の問題意識にもとづいて情報を収集する方法、③その情報を整理してまとめる手法、④取りまとめた内容について発表＝プレゼンテーションをする手法、⑤プレゼンテーションの内容に基づいて討論を行う手法、⑥調べたことをレポートにまとめるための基礎的知識、が得られる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	①講義で出された課題を行うこと ②授業前1週間の新聞に目を通すこと ③幅広く読書を行うこと ④図書館を活用すること 以上について、60時間以上の授業外学修を行うこと。								
授業計画	<p>【第1回】イントロダクション－「大学」ってどんなところ？大学と高校での学びの異同－ 【第2回】経済学部では何を学ぶか 【第3回】学びの基礎－問題意識を持つ－ 【第4回】文章の読み方－読む→要約する→疑問を持つ－① 【第5回】文章の読み方－読む→要約する→疑問を持つ－② 【第6回】課題について調べる－図書館の使い方－ 【第7回】課題について調べる－インターネットの活用法－ 【第8回】調べたことをまとめる－資料作りの技術－ 【第9回】レポート作成の技術① 【第10回】レポート作成の技術② 【第11回】レポート作成の技術③ 【第12回】レポート作成の技術④ 【第13回】総括 【第14回】立正大学の歴史と基本理念①（合同授業） 【第15回】立正大学の歴史と基本理念②（合同授業）</p> <p>・上記に加えて、各回の30分程度を「ニュース検定」に関する学習に充てる。 ・立正大学の歴史と基本理念に関する授業（第14・15回）は合同形式で実施する。 ・詳細は授業内で担当教員より告知されるので注意すること。 ・GPSアカデミックを実施すること。</p>								
成績評価の方法	討論など平常の授業への参加態度40%、報告（レポートやプレゼンテーション）40%、ニュース検定への取り組み20%								
フィードバックの内容	レポートやプレゼンテーションについて、授業内でフィードバックする。								
教科書	『START 学修の基礎2024』（立正大学）2024年、『2024年度版 ニュース検定公式テキスト「時事力」発展編（1・2・準2級対応）』日本ニュース時事能力検定協会（毎日新聞出版）2024年、『2024年度版ニュース検定 公式問題集「時事力」（1・2・準2級対応）』日本ニュース時事能力検定協会（毎日新聞出版）2024年								
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ	指定図書・参考書については担当教員より指示がある。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部学科にて定めるオフィスアワーにて受け付ける。								
アクティブラーニングの内容	演習。発表や課題提出を行い、次の週にそのフィードバックを行う。								
その他									

講義コード		授業形態	講義・演習	抽選の有無	あり	担当教員		開講期	
科目名	学修の基礎Ⅱ				各担当教員		第2期		
履修前提条件					備考				
授業の目的	この講義では、「学修の基礎Ⅰ」を通じて大学で学ぶための基礎的な技術を習得した受講生が、より応用的な技法を学ぶことを目指す。具体的には、2年次からのゼミナールで必要とされる調査、討論、共同での論文作成、成果のプレゼンテーションなどを行うための予備学習となる。グループでの討議を通じてテーマ設定を行い、章立てのあるレポートの段階的な作成を行い、盗用を避けるための参考文献・引用の付け方、効果的なプレゼンテーションなどを身につけていく。								
到達目標	この講義は演習形式を採用し、①自分の問題意識にもとづいてテーマを設定する能力、②関連分野の既存研究に関する書籍や論文、その他データの収集を行う能力、③これらの情報を整理・分析したうえで論文等にまとめる能力、④その成果を効果的にプレゼンテーションする能力を得ること、を到達目標とする。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	①問題意識を養うため新聞等を通じて社会情勢について幅広く関心を持つこと ②多様な分野の書籍を読むこと ③PCによる文書作成、データ処理について訓練すること 以上について、60時間以上の授業外学修を行うこと。								
授業計画	<p>【第1回】 論文作成1：グループで、テーマ探しのための事前調査を行う</p> <p>【第2回】 論文作成2：テーマ設定を行い、論文の仮アウトライン（章立て）を作成する</p> <p>【第3回】 論文作成3：各自の分担を決めて、各章のテーマの資料調査と整理を行う</p> <p>【第4回】 論文作成4：資料調査と整理、報告</p> <p>【第5回】 論文作成5：グループ討論による最終アウトラインの決定と論文執筆の方法（論文執筆の宿題）</p> <p>【第6回】 論文作成6：事前に執筆した論文の取りまとめと個別論文の検討</p> <p>【第7回】 論文作成7：個別論文の検討</p> <p>【第8回】 論文作成8：参考文献の表示と引用の仕方</p> <p>【第9回】 論文のプレゼンテーション1：グループ発表の実践</p> <p>【第10回】 論文のプレゼンテーション2：各グループ対抗討論会</p> <p>【第11回】 ゼミナールでの学修準備1（合同授業）</p> <p>【第12回】 ゼミナールでの学修準備2（合同授業）</p> <p>【第13回】 ゼミナールでの学修準備3（合同授業）</p> <p>【第14回】 キャリア形成に向けての学修1（合同授業）</p> <p>【第15回】 キャリア形成に向けての学修2（合同授業）</p> <p>・各回の30分程度を「ニュース検定」に関する学習に充て、実際の検定試験（11月実施予定）を合同で受験する。</p> <p>・2年次から始まる「ゼミナール」に向けた学修準備（第11～13回）、キャリア形成に向けての学修（第14・15回）は合同形式で実施する。</p> <p>・詳細は授業内で担当教員より告知されるので注意すること。</p>								
成績評価の方法	論文作成・報告（プレゼンテーション）40% 討論など平常の授業への参加態度40% ニュース検定への取り組み20%								
フィードバックの内容	レポートやプレゼンテーションについて、授業内でフィードバックする。								
教科書	『START 学修の基礎2024』（立正大学）2024年、『2024年度版ニュース検定公式テキスト「時事力」発展編（1・2・準2級対応）』日本ニュース時事能力検定協会（毎日新聞出版）2024年、『2024年度版ニュース検定公式問題集「時事力」（1・2・準2級対応）』日本ニュース時事能力検定協会（毎日新聞出版）2024年								
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ	指定図書・参考書については担当教員より指示がある。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部学科にて定めるオフィスアワーにて受け付ける。								
アクティブラーニングの内容	演習。レポートやプレゼンテーションについて、次の週にフィードバックする。								
その他									

講義コード	11C0112601	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員	宮岡 暁	開講期	第1期
科目名	環境経済学Ⅰ				宮岡 暁			第1期	
履修前条件					備考				
授業の目的	環境経済学は、経済学の視点から環境問題の発生メカニズムを明らかにし、環境問題を解決するための有効な政策手段を提示することを目的とする学問です。第1期の「環境経済学Ⅰ」では、市場経済において環境問題が発生するメカニズム（外部性）と、それを解決するための代表的な政策手段（環境税、排出量取引、環境ラベルなど）の基礎理論について学修します。								
到達目標	①市場経済において環境問題が発生するメカニズム（外部性）について説明できる ②環境政策の導入によって環境問題が解決されるメカニズムについて説明できる								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	この科目では、60時間以上の授業外学修を行って下さい。予習は必要としませんが、復習をしっかりと行うことが大切です。毎回の授業では、その回の内容を復習するための課題（要提出）を出題するので、しっかりと取り組むようにしてください。								
授業計画	【第1回】 ガイダンス 【第2回】 環境問題と環境政策の歴史の変遷 【第3回】 ミクロ経済学の復習：需要曲線と供給曲線 【第4回】 外部性と市場の失敗 【第5回】 外部性の内部化 【第6回】 企業の限界削減費用 【第7回】 直接交渉とコースの定理 【第8回】 直接規制				【第9回】 環境税 【第10回】 環境補助金 【第11回】 排出量取引 【第12回】 環境税と排出量取引の実際 【第13回】 情報的手法 【第14回】 環境政策と研究開発 【第15回】 まとめ				
成績評価の方法	課題（約30%）＋期末試験（約70%）で評価します。								
フィードバックの内容	課題の解答例をメ切後に掲示するとともに、講評を翌週授業内に行います。								
教科書									
指定図書									
参考書	『環境経済学をつかむ 第4版』 栗山浩一／馬奈木俊介（有斐閣）2020年、『環境経済学入門講義 [増補版]』 浜本光紹（創成社）2021年、『コア・テキスト 環境経済学』 一方井誠治（新世社）2018年、『環境経済学の第一歩』 大沼あゆみ／柘植隆宏（有斐閣）2021年、『環境経済学入門』 ニック・ハンレー／ジェイソン・ショグレン／ベン・ホワイト（昭和堂）2021年								
教員からのお知らせ	この授業では特定の教科書は使用しません。 配布資料や連絡事項については、Microsoft Teams のアプリを利用して掲示する予定です。 詳細については初回の授業で説明します。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、下記の方法で受け付けます： ○学部学科にて定めるオフィスアワー ○メール（宛先は授業内で指示します） ○Microsoft Teams のチャット機能								
アクティブラーニングの内容	教員からのフィードバックによる振り返り								
その他	①主に「ミクロ経済学基礎」での学修内容をベースとした授業になります。したがって、「ミクロ経済学基礎」の単位を修得済みであることが望ましいです。ただし、授業内でも必要に応じて復習を行います。 ②環境経済学の主要な研究テーマの一つに「環境評価」がありますが、この授業では時間の制約により扱いません。このテーマについて詳細に学びたい人は「環境経済評価法」の授業を履修することをオススメします。								

講義コード	11C0112701	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員	宮岡 暁	開講期	第2期
科目名	環境経済学2				宮岡 暁		第2期		
履修前提条件					備考				
授業の目的	環境経済学は、経済学の視点から環境問題の発生メカニズムを明らかにし、環境問題を解決するための有効な政策手段を提示することを目的とする学問です。第2期の「環境経済学2」では、自然資源（枯渇性資源と再生可能資源）を取り巻く問題や、グローバル化と環境問題の関係、廃棄物問題・地球環境問題といった具体的な環境問題について学修します。								
到達目標	①自然資源の過剰利用が発生するメカニズムやそれを防ぐための様々な政策の有効性について、図やグラフによる分析ができる ②グローバル化（国際貿易）が環境に与える影響について、図やグラフによる分析ができる ③具体的な環境問題に関して、その内容や実施されている政策の特徴について説明できる								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	この科目では、60時間以上の授業外学修を行ってください。予習は必要としませんが、復習をしっかりと行うことが大切です。毎回の授業では、その回の内容を復習するための課題（要提出）を出題するので、しっかりと取り組むようにしてください。								
授業計画	【第1回】 枯渇性資源（1） 【第2回】 枯渇性資源（2） 【第3回】 エネルギー資源（1） 【第4回】 エネルギー資源（2） 【第5回】 再生可能資源（1） 【第6回】 再生可能資源（2） 【第7回】 再生可能資源（3） 【第8回】 国際貿易と環境（1） 【第9回】 国際貿易と環境（2） 【第10回】 地球環境問題（1） 【第11回】 地球環境問題（2） 【第12回】 地球環境問題（3） 【第13回】 廃棄物問題（1） 【第14回】 廃棄物問題（2） 【第15回】 まとめ								
成績評価の方法	課題（約30%）＋期末試験（約70%）で評価します。								
フィードバックの内容	課題の解答例をメ切後に掲示するとともに、講評を翌週授業内に行います。								
教科書									
指定図書									
参考書	『環境経済学をつかむ 第4版』 栗山浩一／馬奈木俊介（有斐閣）2020年、『環境経済学入門講義 [増補版]』 浜本光紹（創成社）2021年、『コア・テキスト 環境経済学』 一方井誠治（新世社）2018年、『環境経済学の第一歩』 大沼あゆみ／柘植隆宏（有斐閣）2021年、『環境経済学入門』 ニック・ハンレー／ジェイソン・ショグレン／ベン・ホワイト（昭和堂）2021年								
教員からのお知らせ	この授業では特定の教科書は使用しません。 配布資料や連絡事項については、Microsoft Teams のアプリを利用して掲示する予定です。 詳細については初回の授業で説明します。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、下記の方法で受け付けます： ○学部学科にて定めるオフィスアワー ○メール（宛先は授業内で指示します） ○Microsoft Teams のチャット機能								
アクティブラーニングの内容	教員からのフィードバックによる振り返り								
その他	①主に「ミクロ経済学基礎」での学修内容をベースとした授業になります。したがって、「ミクロ経済学基礎」の単位を修得済みであることが望ましいです。ただし、授業内でも必要に応じて復習を行います。 ②第1期の「環境経済学1」とセットで履修することを強く推奨します。 ③「環境評価」について詳細に学びたい人は「環境経済評価法」の授業を履修することをオススメします。								

講義コード	14C0226201	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員		開講期	
科目名	教養特講1〈進化生物学とは何か〉／進化生物学とは何か				谷野 宏樹		第1期		
履修前条件					備考				
授業の目的	生物学における進化生物学という分野の位置付けの理解と、進化生物学的な基礎知識を得ることを目的とする。実際の研究事例とともに解説を聞くことで、現代の進化生物学における基礎的な理論の概観と活用事例を把握する。教養として進化生物学の知識を得ることで、ニュースなどで紹介された生物学の話題について、進化生物学的な視点をもって自身の意見を話すことができることを目指す。								
到達目標	本講義を受講することで、以下の3点を達成することを目標とする。 1. 進化生物学の歴史的な背景を説明できる 2. 進化がどのような状況で、何に対して起きるか説明できる 3. 生物学に関する話題について、進化生物学的な観点からの意見を述べるができる								
授業外学修内容・授業外学修時間数	この講義では、60時間以上の授業外学修を行うこと。 授業外学修では、講義に際して配布するスライド資料や文書等の教材を活用するとともに、講義中に出题された課題に取り組みこと。講義で関心をもった項目については、講義中で紹介する書籍や参考文献を読み理解を深めることを推奨する。								
授業計画	【第1回】はじめに 進化生物学はなぜ重要か？ 【第2回】進化生物学はいかにして誤解されてきたか？ 【第3回】進化理論の歴史の変遷 ① 【第4回】進化理論の歴史の変遷 ② 【第5回】系統樹が解き明かす進化 ① 【第6回】系統樹が解き明かす進化 ② 【第7回】生命の歴史を概観する ① 【第8回】生命の歴史を概観する ② 【第9回】進化を駆動する要因は何か？ ① 【第10回】進化を駆動する要因は何か？ ② 【第11回】進化のスケールを理解する：淘汰圧の階層性 【第12回】都市がもたらす進化 【第13回】実験室で引き起こす進化 【第14回】「進化」とは「最適」か？ 【第15回】まとめ 進化生物学はいかにして活用されてきたか？								
成績評価の方法	毎回の授業中で出題する200字程度の課題（50%）、期末試験としてのレポート（50%）で評価する。レポートについては、自身が興味をもった生物学に関するニュース等の話題を選択し、関係する進化理論を提示しながら解説できることを評価基準とする。 また、取り組み姿勢への評価として、講義内容に関連した有意義な質問1件につき、授業中での課題評価について10%を補填する形で評価する。								
フィードバックの内容	課題に対する講評を翌週の授業内で行う。 また、受講者の理解を促進するものと考えられる質問については、有意義な質問として講義中で回答を紹介する。								
教科書									
指定図書	『系統樹や生態から見た進化』カール・ジンマー、ダグラス・J・エムレン（講談社）2017、『進化のからくり：現代のダーウィンたちの物語』千葉聡（講談社）2020、『Evolution』Douglas J. Futuyama, Mark Kirkpatrick (Oxford University Press) 2017								
参考書	『利己的な遺伝子』リチャード・ドーキンス（紀伊國屋書店）2006								
教員からのお知らせ									
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。 また、LMSやメールを用いての質問も歓迎します。メールアドレスについては、授業内で明示します。								
アクティブラーニングの内容	意見共有、教員からのフィードバックによる振り返り、能動的な授業外学修など								
その他									

講義コード	14C0226301	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員	谷野 宏樹	開講期	第2期																
科目名	教養特講2〈進化生物学の世界〉／進化生物学の世界				谷野 宏樹		第2期																		
履修前提条件	備考																								
授業の目的	進化生物学にはどのような研究方法があるか理解し、主要な課題について把握することを目的とする。各生物における事例やシミュレーションについての紹介を通じて、進化生物学の論理的な裏付けについて理解することができる。最新の研究状況まで含めて紹介することを通じ、進化生物学の世界の概要を掴むことを目指す。																								
到達目標	本講義を受講することで、以下の3点を達成することを目標とする。 1. 進化生物学における遺伝子情報の貢献について説明できる 2. 進化的対立について説明ができる 3. 生物の進化が起こる要因について説明ができる																								
授業外学修内容・授業外学修時間数	この講義では、60時間以上の授業外学修を行うこと。 授業外学修では、講義に際して配布するスライド資料や文書等の教材を活用するとともに、講義中に出题された課題に取り組むこと。講義で関心をもった項目については、講義中で紹介する書籍や参考文献を読み理解を深めることを推奨する。																								
授業計画	<table border="0"> <tr> <td>【第1回】はじめに 進化生物学の研究手法</td> <td>【第9回】性の進化 ②</td> </tr> <tr> <td>【第2回】どのようにして遺伝子を「読む」のか？</td> <td>【第10回】進化的軍拡競争</td> </tr> <tr> <td>【第3回】遺伝子情報をいかにして活用するのか ①</td> <td>【第11回】利他行動の進化 ①</td> </tr> <tr> <td>【第4回】遺伝子情報をいかにして活用するのか ②</td> <td>【第12回】利他行動の進化 ②</td> </tr> <tr> <td>【第5回】地理的隔離が引き起こす進化</td> <td>【第13回】子への投資と親子間の進化的対立</td> </tr> <tr> <td>【第6回】気候変動がもたらす進化</td> <td>【第14回】複雑な形質の進化</td> </tr> <tr> <td>【第7回】生物間相互作用がもたらす進化</td> <td>【第15回】まとめ 現代進化生物学の課題と新たな試み</td> </tr> <tr> <td>【第8回】性の進化 ①</td> <td></td> </tr> </table>									【第1回】はじめに 進化生物学の研究手法	【第9回】性の進化 ②	【第2回】どのようにして遺伝子を「読む」のか？	【第10回】進化的軍拡競争	【第3回】遺伝子情報をいかにして活用するのか ①	【第11回】利他行動の進化 ①	【第4回】遺伝子情報をいかにして活用するのか ②	【第12回】利他行動の進化 ②	【第5回】地理的隔離が引き起こす進化	【第13回】子への投資と親子間の進化的対立	【第6回】気候変動がもたらす進化	【第14回】複雑な形質の進化	【第7回】生物間相互作用がもたらす進化	【第15回】まとめ 現代進化生物学の課題と新たな試み	【第8回】性の進化 ①	
【第1回】はじめに 進化生物学の研究手法	【第9回】性の進化 ②																								
【第2回】どのようにして遺伝子を「読む」のか？	【第10回】進化的軍拡競争																								
【第3回】遺伝子情報をいかにして活用するのか ①	【第11回】利他行動の進化 ①																								
【第4回】遺伝子情報をいかにして活用するのか ②	【第12回】利他行動の進化 ②																								
【第5回】地理的隔離が引き起こす進化	【第13回】子への投資と親子間の進化的対立																								
【第6回】気候変動がもたらす進化	【第14回】複雑な形質の進化																								
【第7回】生物間相互作用がもたらす進化	【第15回】まとめ 現代進化生物学の課題と新たな試み																								
【第8回】性の進化 ①																									
成績評価の方法	毎回の授業中で出題する200字程度の課題（50%）、期末試験としてのレポート（50%）で評価する。レポートについては、自身が興味をもった進化の要因について取り上げ、事例とともに論述できることを評価基準とする。また、取り組み姿勢への評価として、講義内容に関連した有意義な質問1件につき、授業中での課題評価について10%を補填する形で評価する。																								
フィードバックの内容	課題に対する講評を翌週の授業内で行う。 また、受講者の理解を促進するものと考えられる質問については、有意義な質問として講義中で回答を紹介する。																								
教科書																									
指定図書	『Evolution』Douglas J. Futuyma, Mark Kirkpatrick (Oxford University Press) 2017、『適応と自然選択：近代進化論批評』George Christopher Williams (共立出版) 2022																								
参考書	『なぜオスとメスは違うのか－性淘汰の科学』マーリーン・ズック、リー・W・シモンズ（大修館書店）2023、『生物多様性の謎に迫る』寺井洋平（化学同人）2018、『進化理論の構造 I』スティーヴン ジェイ グールド（工作舎）2021、『進化理論の構造 II』スティーヴン ジェイ グールド（工作舎）2021、『したがるオスと嫌がるメスの生物学』宮竹貴久（集英社）2018																								
教員からのお知らせ																									
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。 また、LMSやメールを用いての質問も歓迎します。メールアドレスについては、授業内で明示します。																								
アクティブラーニングの内容	意見共有、教員からのフィードバックによる振り返り、能動的な授業外学修など																								
その他																									

講義コード	11C3116001	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員	畠山 久志	開講期	第1期															
科目名	銀行論 1				畠山 久志		第1期																	
履修前提条件	備考																							
授業の目的	銀行の登場、その機能などについて歴史的視野から取り上げる。国民生活の中で、信用機能や決済手段を仲介するのが銀行であるが、時の為政者や社会思想によって、銀行の役割は変遷している。また意外と思われるが銀行は宗教との関係が強い。さらに国際貿易の為替ニーズが中央銀行制度を整備させた。日本の銀行制度はアメリカの銀行制度を移入したもののだが、独自の地域金融としても発展しておりそれらの特徴などを解説する。																							
到達目標	銀行の長い歴史における社会的意義を捉え、銀行に求められる役割の重要性を認識するとともに銀行を取り巻く環境変化と中央銀行の金融政策について理解できる。変革期における銀行の現代的意義と方向性を的確に把握することができる。																							
授業外学修内容・授業外学修時間数	授業1コマについて、2時間の予習と2時間の復習（計4時間）を行う必要がある。授業は15回なので、全体で60時間以上の授業外学修を行うことが求められる。授業外学修で取り組むべき課題や参考文献等については、適宜指示する。																							
授業計画	<table border="0"> <tr> <td>【第1回】概説：銀行とは（金融における銀行の役割・基本業務）</td> </tr> <tr> <td>【第2回】銀行の歴史1（金利の意義）</td> </tr> <tr> <td>【第3回】銀行の歴史2（貿易と銀行）</td> </tr> <tr> <td>【第4回】銀行の歴史3（中央銀行の登場）</td> </tr> <tr> <td>【第5回】マネーストック（資金循環）</td> </tr> <tr> <td>【第6回】マネーロンダリング（違法資金規制）</td> </tr> <tr> <td>【第7回】日本の銀行1（メガバンクと地域金融機関）</td> </tr> <tr> <td>【第8回】日本の銀行2（協同組織金融機関と消費者金融）</td> </tr> <tr> <td>【第9回】日本の銀行3（信託銀行）</td> </tr> <tr> <td>【第10回】デジタルプラットフォーム（デジタル市場）</td> </tr> <tr> <td>【第11回】情報銀行</td> </tr> <tr> <td>【第12回】バーゼル規制Ⅲ</td> </tr> <tr> <td>【第13回】銀行法の解説1（金融基幹法・分業主義）</td> </tr> <tr> <td>【第14回】銀行法の解説2（業務）</td> </tr> <tr> <td>【第15回】銀行法の解説3（組織形態）</td> </tr> </table>									【第1回】概説：銀行とは（金融における銀行の役割・基本業務）	【第2回】銀行の歴史1（金利の意義）	【第3回】銀行の歴史2（貿易と銀行）	【第4回】銀行の歴史3（中央銀行の登場）	【第5回】マネーストック（資金循環）	【第6回】マネーロンダリング（違法資金規制）	【第7回】日本の銀行1（メガバンクと地域金融機関）	【第8回】日本の銀行2（協同組織金融機関と消費者金融）	【第9回】日本の銀行3（信託銀行）	【第10回】デジタルプラットフォーム（デジタル市場）	【第11回】情報銀行	【第12回】バーゼル規制Ⅲ	【第13回】銀行法の解説1（金融基幹法・分業主義）	【第14回】銀行法の解説2（業務）	【第15回】銀行法の解説3（組織形態）
【第1回】概説：銀行とは（金融における銀行の役割・基本業務）																								
【第2回】銀行の歴史1（金利の意義）																								
【第3回】銀行の歴史2（貿易と銀行）																								
【第4回】銀行の歴史3（中央銀行の登場）																								
【第5回】マネーストック（資金循環）																								
【第6回】マネーロンダリング（違法資金規制）																								
【第7回】日本の銀行1（メガバンクと地域金融機関）																								
【第8回】日本の銀行2（協同組織金融機関と消費者金融）																								
【第9回】日本の銀行3（信託銀行）																								
【第10回】デジタルプラットフォーム（デジタル市場）																								
【第11回】情報銀行																								
【第12回】バーゼル規制Ⅲ																								
【第13回】銀行法の解説1（金融基幹法・分業主義）																								
【第14回】銀行法の解説2（業務）																								
【第15回】銀行法の解説3（組織形態）																								
成績評価の方法	基本的に期末試験（レポート等）の成績に基づいて評価する（80%）。加えて、授業への取り組み姿勢（質問、意見など）を考慮する（20%）。																							
フィードバックの内容	授業内容の確認、質問・意見等について適宜解説する。																							
教科書	『金融入門第3版』日本経済新聞社（日本経済新聞社出版）2020、『現代の金融』池尾和人（筑摩書房）2010																							
指定図書	『マネーの進化史』ニール・ファーガソン（早川書房）2009、『銀行の歴史』エドウィン・グリーン（原書房）1994、『地域金融機関の信託・相続』畠山久志（日本加除出版）2019																							
参考書																								
教員からのお知らせ	基本的にPDFのスライドを用いて、解説をしていきます。スライドはポータルサイトに掲示します。																							
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、各授業の終わりに教室で受け付けます。																							
アクティブラーニングの内容	能動的な授業外学修。金融について関心がある事項を予めまとめ、授業でどの様に解説されるかに注意し、確認してください。																							
その他																								

講義コード	11C3116101	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員	畠山 久志	開講期	第2期																
科目名	銀行論2				畠山 久志			第2期																	
履修前提条件					備考																				
授業の目的	わが国は、アメリカの金融制度を移入し続けている。そこで、まずアメリカの金融・銀行制度を説明する。次にわが国の金融制度に係る基本法である銀行法、金融商品取引法などの業法を解説する。証券化の中で、銀行と証券会社の金融商品を巡ったデマケーションがあり、直接金融と間接金融の差異を深耕する。これらの金融機関に対する公的規制と救済制度を検証し、暗号資産、中央銀行デジタル通貨など最近の動きを取上げる。																								
到達目標	現代の銀行業に係る法的規制が理解できる。また、グローバル化・IT化による金融環境の変化に対応する法的規制の見直し、及び証券化の中における金融商品のデマケーションと銀行と証券会社による開示規制、行為規制等の相違を把握できる。さらに金融監督の役割、救済策、新しい金融商品について説明できる。																								
授業外学修内容・授業外学修時間数	授業1コマについて、2時間の予習と2時間の復習(計4時間)を行う必要がある。授業は15回なので、全体で60時間以上の授業外学修を行うことが求められる。授業外学修で取り組むべき課題や参考文献等については、適宜指示する。																								
授業計画	<table border="0"> <tr> <td>【第1回】アメリカの銀行制度とわが国銀行の歴史</td> <td>【第9回】デリバティブ取引3</td> </tr> <tr> <td>【第2回】アメリカの銀行制度1(2元制 銀行法)</td> <td>【第10回】ディスクロージャーと監査制度</td> </tr> <tr> <td>【第3回】アメリカの銀行制度2(FRS,投資銀行)</td> <td>【第11回】中央銀行デジタル通貨(CBDC)</td> </tr> <tr> <td>【第4回】アメリカの銀行法等(グラス・ステイガル法 金融商品取引法)</td> <td>【第12回】暗号資産(BITCOIN他)</td> </tr> <tr> <td>【第5回】アメリカの金融イベント(エンロン事件、リーマンショック)</td> <td>【第13回】信託制度</td> </tr> <tr> <td>【第6回】マイクロファイナンス(少額融資システム)</td> <td>【第14回】多様な金融取引(FX取引、投資信託)</td> </tr> <tr> <td>【第7回】デリバティブ取引1(取引の歴史・古代ギリシア)</td> <td>【第15回】金融ADR</td> </tr> <tr> <td>【第8回】デリバティブ取引2(大阪米穀取引所)</td> <td></td> </tr> </table>									【第1回】アメリカの銀行制度とわが国銀行の歴史	【第9回】デリバティブ取引3	【第2回】アメリカの銀行制度1(2元制 銀行法)	【第10回】ディスクロージャーと監査制度	【第3回】アメリカの銀行制度2(FRS,投資銀行)	【第11回】中央銀行デジタル通貨(CBDC)	【第4回】アメリカの銀行法等(グラス・ステイガル法 金融商品取引法)	【第12回】暗号資産(BITCOIN他)	【第5回】アメリカの金融イベント(エンロン事件、リーマンショック)	【第13回】信託制度	【第6回】マイクロファイナンス(少額融資システム)	【第14回】多様な金融取引(FX取引、投資信託)	【第7回】デリバティブ取引1(取引の歴史・古代ギリシア)	【第15回】金融ADR	【第8回】デリバティブ取引2(大阪米穀取引所)	
【第1回】アメリカの銀行制度とわが国銀行の歴史	【第9回】デリバティブ取引3																								
【第2回】アメリカの銀行制度1(2元制 銀行法)	【第10回】ディスクロージャーと監査制度																								
【第3回】アメリカの銀行制度2(FRS,投資銀行)	【第11回】中央銀行デジタル通貨(CBDC)																								
【第4回】アメリカの銀行法等(グラス・ステイガル法 金融商品取引法)	【第12回】暗号資産(BITCOIN他)																								
【第5回】アメリカの金融イベント(エンロン事件、リーマンショック)	【第13回】信託制度																								
【第6回】マイクロファイナンス(少額融資システム)	【第14回】多様な金融取引(FX取引、投資信託)																								
【第7回】デリバティブ取引1(取引の歴史・古代ギリシア)	【第15回】金融ADR																								
【第8回】デリバティブ取引2(大阪米穀取引所)																									
成績評価の方法	基本的に期末試験(レポート)の成績に基づいて評価する(80%)。加えて、授業への取り組み姿勢(質問、意見など)を考慮する(20%)。																								
フィードバックの内容	授業内容の確認、意見、疑問について、適宜授業で解説します。																								
教科書	『アメリカ銀行法』川口恭弘(弘文堂)2020、『金融商品取引法入門第8版』黒沼悦郎(日経)2021																								
指定図書	『仮想通貨法の仕組みと実務』畠山久志(日本加除出版)2018、『銀行法精義』小山嘉昭(キンザイ)2018、『デジタル化社会における新しい財産的価値と信託』畠山久志(商事法務)2022、『金融商品取引法』畠山久志(地域金融研究所)2014																								
参考書																									
教員からのお知らせ	授業は、PDFスライドを使い、進めます。スライドは事前にポータルサイトに掲示します。																								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、各授業の終わりに教室で受け付けます。																								
アクティブラーニングの内容	金融に関する情報は沢山あります。関心のあった事項をまとめ、授業で確認してください。また、確認に係る意見等を表明させ共有する。																								
その他																									

講義コード	11C0117001	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員	佐藤 有史	開講期	第1期															
科目名	金融史1 / 金融史A				佐藤 有史			第1期																
履修前提条件					備考																			
授業の目的	大航海時代の開始の結果、16世紀に幕を開けた近代経済の始まりは、商業革命、価格革命といった大変動をヨーロッパに及ぼし、そうした過程で、通貨、信用、銀行業、公債といった金融財政手段の新たな創造と拡張を伴うこととなった。金融史1では、こうした過程を理論的に把握しようと努め、後の金融の理論や制度に多大な影響を及ぼしていくことになった経済学者たちに特に関連づけながら、講義する。																							
到達目標	この講義を通じて受講者が、近代経済における金融の仕組みの基礎を理解するのみならず、経済学における金融の位置づけとその重要性についての理解を深められるようになることを、授業の目標とする。																							
授業外学修内容・授業外学修時間数	授業の講義資料など(事前にWebClassにアップ予定)を読み、予習・復習をすること。経済学の基礎的な理論(標準的なマクロ理論や基礎的なマルクス経済学など)の参照などが必要となることがある。また、世界的事実について、各自が自ら調べる必要もあるかもしれない。授業外学修時間は60時間以上を目安とする。																							
授業計画	<table border="0"> <tr> <td>【第1回】授業オリエンテーション：ヨーロッパにおける通貨と「アメリカの発見」の衝撃</td> </tr> <tr> <td>【第2回】重商主義の時代</td> </tr> <tr> <td>【第3回】最初の近代経済：オランダにおける起債市場と株市場の発展</td> </tr> <tr> <td>【第4回】ジョン・ローの実験(1)：ヨーロッパにおける最初の紙券通貨</td> </tr> <tr> <td>【第5回】ジョン・ローの実験(2)：ミシシッピ・バブルと南海バブル</td> </tr> <tr> <td>【第6回】イギリスにおける銀行業とイングランド銀行の設立</td> </tr> <tr> <td>【第7回】デイヴィッド・ヒュームの貨幣数量説</td> </tr> <tr> <td>【第8回】18世紀イギリスにおける銀行業の発展</td> </tr> <tr> <td>【第9回】経済学の父アダム・スミスの通貨・銀行論(1)</td> </tr> <tr> <td>【第10回】経済学の父アダム・スミスの通貨・銀行論(2)</td> </tr> <tr> <td>【第11回】地金論争</td> </tr> <tr> <td>【第12回】デイヴィッド・リカードウの通貨・銀行論</td> </tr> <tr> <td>【第13回】リカードウの国立銀行設立案</td> </tr> <tr> <td>【第14回】1825年恐慌と通貨論争</td> </tr> <tr> <td>【第15回】1844年イングランド銀行法の成立</td> </tr> </table>									【第1回】授業オリエンテーション：ヨーロッパにおける通貨と「アメリカの発見」の衝撃	【第2回】重商主義の時代	【第3回】最初の近代経済：オランダにおける起債市場と株市場の発展	【第4回】ジョン・ローの実験(1)：ヨーロッパにおける最初の紙券通貨	【第5回】ジョン・ローの実験(2)：ミシシッピ・バブルと南海バブル	【第6回】イギリスにおける銀行業とイングランド銀行の設立	【第7回】デイヴィッド・ヒュームの貨幣数量説	【第8回】18世紀イギリスにおける銀行業の発展	【第9回】経済学の父アダム・スミスの通貨・銀行論(1)	【第10回】経済学の父アダム・スミスの通貨・銀行論(2)	【第11回】地金論争	【第12回】デイヴィッド・リカードウの通貨・銀行論	【第13回】リカードウの国立銀行設立案	【第14回】1825年恐慌と通貨論争	【第15回】1844年イングランド銀行法の成立
【第1回】授業オリエンテーション：ヨーロッパにおける通貨と「アメリカの発見」の衝撃																								
【第2回】重商主義の時代																								
【第3回】最初の近代経済：オランダにおける起債市場と株市場の発展																								
【第4回】ジョン・ローの実験(1)：ヨーロッパにおける最初の紙券通貨																								
【第5回】ジョン・ローの実験(2)：ミシシッピ・バブルと南海バブル																								
【第6回】イギリスにおける銀行業とイングランド銀行の設立																								
【第7回】デイヴィッド・ヒュームの貨幣数量説																								
【第8回】18世紀イギリスにおける銀行業の発展																								
【第9回】経済学の父アダム・スミスの通貨・銀行論(1)																								
【第10回】経済学の父アダム・スミスの通貨・銀行論(2)																								
【第11回】地金論争																								
【第12回】デイヴィッド・リカードウの通貨・銀行論																								
【第13回】リカードウの国立銀行設立案																								
【第14回】1825年恐慌と通貨論争																								
【第15回】1844年イングランド銀行法の成立																								
成績評価の方法	期末テスト80%、授業中に実施する小テスト20%																							
フィードバックの内容	授業内小テスト等に対する講評を翌週授業内にて行う。																							
教科書																								
指定図書																								
参考書																								
教員からのお知らせ	教科書は使用しません。授業用教材資料はWebClassを通じてWeb上にアップしておきますので、それをダウンロードして教科書として使用するようしてください。参考図書は授業中に指示します。																							
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室にて対応します。																							
アクティブラーニングの内容	教員からのフィードバックによる振り返り																							
その他	私語は他の学生の学習する権利を侵害するものです。厳に慎んでください。																							

講義コード	11C0117101	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員		開講期	
科目名	金融史2 / 金融史B				佐藤 有史		第2期		
履修前条件					備考				
授業の目的	1学期の金融史1の授業を前提として、2学期は、1870年代の国際金本位制の確立以降の金融の理論と制度の発展を取り扱う。イングランド銀行を基軸に転換してきた通貨、信用、銀行、公債の拡張は、20世紀に入り第1次世界大戦が終わるや、アメリカの連邦準備制度を中心に展開される。そうした過程における金融の理論と制度の対立史をひも解き、今日に至る経緯を講義する。								
到達目標	この講義を通じて受講者が、近代経済における金融の仕組みの基礎を理解するのみならず、経済学における金融の位置づけとその重要性とについての理解を深められるようになることを、授業の目標とする。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	授業の講義資料など（事前にWebClassにアップ予定）を読み、予習・復習をすること。経済学の基礎的な理論（標準的なマクロ理論や基礎的なマルクス経済学など）の参照などが必要となることがある。また、世界史的事実について、各自が自ら調べる必要もあるかもしれない。授業外学修時間は60時間以上を目安とする。								
授業計画	【第1回】 19世紀半ばのイギリスの金融システム 【第2回】 「バジョットの原理」と中央銀行論：各国へのその波及 【第3回】 ケインズ革命の前夜：クヌート・ヴィクセルと自然利子率 【第4回】 アメリカの金融理論（1）：アメリカの二元的金融システムの問題 【第5回】 アメリカの金融理論（2）：金本位制と複本位主義運動 【第6回】 連邦準備制度（FRB）の創設とアメリカ大恐慌（1） 【第7回】 連邦準備制度（FRB）の創設とアメリカ大恐慌（2） 【第8回】 アーヴィング・フィッシャーの金融理論 【第9回】 ケインズ『雇用、利子および貨幣の一般理論』（1936年） 【第10回】 『一般理論』と流動性選好理論 【第11回】 フィリップス曲線をめぐる論争 【第12回】 ミルトン・フリードマンとマネタリズム 【第13回】 中央銀行論の現在（1） 【第14回】 中央銀行論の現在（2） 【第15回】 中央銀行の未来について								
成績評価の方法	期末テスト80%、授業中に実施する小テスト20%								
フィードバックの内容	授業内小テスト等に対する講評を翌週授業内にて行う。								
教科書									
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ	教科書は使用しません。授業用教材資料はWebClassを通じてWeb上にアップしておきますので、それをダウンロードして教科書として使用するようになしてください。参考図書は授業中に指示します。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。								
アクティブラーニングの内容	教員からのフィードバックによる振り返り								
その他	私語は他の学生の学習する権利を侵害するものです。厳に慎んでください。								

講義コード	11C0111401	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員	林 康史	開講期	第1期
科目名	金融論 1				林 康史		第1期		
履修前提条件					備考				
授業の目的	<p>金融市場の現場で「何が起きているか」を念頭に置きつつ、基礎からデリバティブまでを講義する。マーケットを体感するために外国為替の模擬取引等、受講者参加の方法も取り込む（コロナ禍の状況次第）。金融は経済の基礎をなしており、経済の理解には不可欠。金融の知識が不足していれば、一流のビジネスパーソンになれないばかりか、個人生活にも支障をきたす。国際金融、証券論、中国金融、FP等の関連科目の基本を理解する。</p>								
到達目標	<p>金融システム・市場、金融機関、金融商品（デリバティブ含む）の基本的知識は理解し、説明でき、活用できる（例えば、利回り計算は自在にできる）。また、マーケット感覚もある程度身につけており、行動経済学の知見もあり、リスクを検討できる。パーソナルファイナンスにも役立つ金融ケイパビリティの基礎を身につける。</p>								
授業外学修内容・授業外学修時間数	<p>授業外学修時間には、指示した資料の視聴、読解、課題の考察等を行う（理解が困難なところは、繰り返し学習のこと）。15回2単位の本科目の授業外学修時間は60時間である。反転授業の形式を取り入れることに留意されたい。</p>								
授業計画	<p>基本「反転授業」の形式で行う（反転授業については、各自、調べておくように）。各授業回に合わせて、オンデマンド資料等での学習が求められる（対面授業は、Q&A から始まることもある）。</p> <p>金融の基礎知識 ～ 金融とは、貨幣とは、市場とは 【第1回】 ガイダンス 金融とは、企業研究について、PF の考え方、等々【授業についての説明を行う。必ず出席のこと】 【第2回】 貨幣 【第3回】 決済システム、信用創造 【第4回】 金融市場</p> <p>金融機関 【第5回】 金融機関の区分と種類 ～ 直接金融と間接金融 【第6回】 金融仲介機関① ～ 銀行、預金取扱機関 【第7回】 金融仲介機関② ～ 保険、その他 【第8回】 その他金融機関 ～ 証券、その他</p> <p>中央銀行 【第9回】 日本銀行の目的と役割 【第10回】 金融政策とその方策</p> <p>金利 【第11回】 金利とは 【第12回】 金利の期間構造 【第13回】 金利と債券 【第14回】 金利とマクロ経済</p> <p>総括 【第15回】 第1期の総括、授業内評価</p> <p>※ ドル円レート予測（日経円ダグビー）、企業研究（金融教育の一環であるキャリア教育も兼ねる。アプリを活用。第2期も継続して行う予定）、行動ファイナンスの入門、等々、適宜、現場経験の豊富なゲストスピーカーによる講義も行いたい。外国為替のシミュレーションゲームは第2期の予定であるが、可能であれば、第1期でも実施したい（金融論1と金融論2は同じ年度での履修が望ましい）。 なお、これらの講義・学習は、オンデマンドの資料による場合がある。</p>								
成績評価の方法	<p>期末試験（40%）・確認テスト（40%）・レポート（10%）・授業への取り組み姿勢（10%）で、総合的に評価する。ドル円レート予測、企業研究等は、希望者のみの任意であるが、成績評価には加算の予定である。</p>								
フィードバックの内容	<p>授業時に質問を受け、応答する。また、適宜、「Q&A」等を掲示する。</p>								
教科書	<p>『ライブラリ経済学15講 金融論』（近刊予定）林康史（新世社）</p>								
指定図書	<p>『貨幣と通貨の法文化』林康史編（国際書院）2016年、『通貨政策の経済学』クルーグマン著、林康史・河野龍太郎 訳（東洋経済新報社）1998年、『法と経済学』矢野誠 編（東京大学出版会）2007年、『欲望と幻想のドル』クレイグ・カーミン著、林康史 監訳（日本経済新聞出版社）2010年、『トレーダーの発想術——マーケットで勝ち残るための70の箴言』ロイ・W・ロングストリート著、林康史 訳（日経 BP 社）2014年、『マネーの進化史（ハヤカワ・ノンフィクション文庫）』ニール・ファーガソン（早川書房）2015年</p>								
参考書	<p>『マンガーの投資術 パークシャー・ハザウェイ副会長 チャーリー・マンガーの珠玉の言葉』デビッド・クラーク著、監訳（日経 BP 社）2017年、『改訂版 金持ち父さんの投資ガイド 入門編』キヨサキ他著（筑摩書房）2014年、『「儲かる人」への59の質問 マネーの心理』（文庫版、知的生きかた文庫）』マネー&ライフ研究会著、林康史（編集）（三笠書房）2006年、『13歳からの投資のすすめ』ティモシー・オールセン著、浜田陽二・宮川修子・林康史 訳（東洋経済新報社）2006年、『改定版 基礎から学ぶ デイトレード——マーケットを理解するための思考術』林康史（日経 BP 社）2013年、『戦略的リスク管理入門』ジェームズ・ラム 著、林康史・茶野 努 監訳（勁草書房）2016年</p>								
教員からのお知らせ	<p>“金融”を学ぶ必要性を自覚しておくこと。 出席状況は評価対象外であるが、2/3以上の出席が求められる（欠席は減点対象となる場合がある）。 オンデマンドの資料も、各自、ノートを作成すること。</p>								
オフィスアワー	<p>本授業に関する質問・相談は、授業時、また、メール等で受付ける。オフィスアワー時の訪問は事前に連絡がない場合は対応困難なことがある。</p>								
アクティブラーニングの内容	<p>基本、反転授業である（第1回に説明する。第2回以降は、事前にオンライン教材の視聴を行う等、対面の授業の前に、学習すべきことがあることに留意されたい）。</p>								
その他	<p>本講義は、銀行、証券、保険での実務経験がある専任教員が金融について教える。</p>								

講義コード	11C0111501	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員	林 康史	開講期	第2期
科目名	金融論2								
履修前条件					備考				
授業の目的	金融市場の現場で「何が起っているか」を念頭に置きつつ、基礎からデリバティブまでを講義する。マーケットを体感するために外国為替の模擬取引等、受講者参加の方法も取り込む（コロナ禍の状況次第）。金融は経済の基礎をなしており、経済の理解には不可欠。金融の知識が不足していれば、一流のビジネスパーソンになれないばかりか、個人生活にも支障をきたす。国際金融、証券論、中国金融、FP等の関連科目の基本を理解する。								
到達目標	金融システム・市場、金融機関、金融商品（デリバティブ含む）の基本的知識は理解し、説明でき、活用できる（例えば、利回り計算は自在にできる）。また、マーケット感覚もある程度身につけており、行動経済学の知見もあり、リスクを検討できる。パーソナルファイナンスにも役立つ金融ケイパビリティの基礎を身につける。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	授業外学修時間には、指示した資料の視聴、読解、課題の考察等を行う（理解が困難なところは、繰り返し学習のこと）。15回2単位の本科目の授業外学修時間は60時間である。反転授業の形式を取り入れることに留意されたい。								
授業計画	基本「反転授業」の形式で行う（反転授業については、各自、調べておくように）。各授業回に合わせて、オンデマンド資料等での学習が求められる（対面授業は、Q&A から始まることもある）。								
	<p>第1期の授業の進捗を鑑み、順番の入れ替え等を行う可能性があるため、注意されたい。第1期の授業の内容は、よく復習しておいていただきたい。</p> <p>第1期の復習 【第1回】ガイダンス、金融論1の復習【授業についての説明を行う。必ず出席のこと】</p> <p>金融市場 【第2回】金融市場の分類 【第3回】外国為替の模擬取引（シミュレーションゲーム）</p> <p>金融デリバティブと証券化 【第4回】証拠金取引、レバレッジ 【第5回】金利スワップ・通貨スワップ 【第6回】オプション、証券化 【第7回】デリバティブの歴史（大阪堂島の米市場）</p> <p>マクロ経済と金融 【第8回】金融政策と中間目標、金融政策の考え方</p> <p>第二次世界大戦後の金融政策の歴史的展開 【第9回】安定成長期まで、日本版金融ビッグバン、量的緩和政策／異次元緩和</p> <p>金融規制 【第10回】金融制度と金融規制、規制の区分と種類、自己資本比率規制 【第11回】事後的規制、消費者・投資者保護</p> <p>金融リテラシー 【第12回】マネーと投資の心理学（行動ファイナンス入門） 【第13回】運用スタイル、ポートフォリオ構築の視点 【第14回】パーソナルファイナンスのために</p> <p>総括 【第15回】総括、授業内評価</p> <p>※ 企業研究（金融教育の一環であるキャリア教育も兼ねる。アプリを活用）、等々、適宜、現場経験の豊富なゲストスピーカーによる講義も行いたい。 金融論1と金融論2は同じ年度での履修が望ましい。 なお、これらの講義・学習は、オンデマンドの資料による場合がある。</p>								
成績評価の方法	期末試験（40％）・確認テスト（40％）・レポート（10％）・授業への取り組み姿勢（10％）で、総合的に評価する。企業研究等は、希望者のみの任意であるが、成績評価には加算の予定である。								
フィードバックの内容	授業時に質問を受け、応答する。また、適宜、「Q&A」等を掲示する。								
教科書	『やり直しの金融論（仮題）』（近刊予定）林康史（中央経済社）								
指定図書	『貨幣と通貨の法文化』林康史編（国際書院）2016年、『通貨政策の経済学』クルーグマン著、林康史・河野龍太郎 訳（東洋経済新報社）1998年、『法と経済学』矢野誠 編（東京大学出版会）2007年、『欲望と幻想のドル』クレイグ・カーミン著、林康史 監訳（日本経済新聞出版社）2010年、『トレーダーの発想術——マーケットで勝ち残るための70の箴言』ロイ・W・ロングストリート著、林康史 訳（日経 BP 社）2014年、『マネーの進化史（ハヤカワ・ノンフィクション文庫）』ニール・ファーガソン（早川書房）2015年								
参考書	『マンガーの投資術 パークシャー・ハザウェイ副会長 チャーリー・マンガーの珠玉の言葉』デビッド・クラーク著、監訳（日経 BP 社）2017年、『改訂版 金持ち父さんの投資ガイド 入門編』キヨサキ他著（筑摩書房）2014年、『「儲かる人」への59の質問 マネーの心理』（文庫版、知的生きかた文庫）』マネー & ライフ研究会著、林康史（編集）（三笠書房）2006年、『13歳からの投資のすすめ』テイモシー オールセン著、浜田陽二・宮川修子・林康史 訳（東洋経済新報社）2006年、『改定版 基礎から学ぶ デイトレード——マーケットを理解するための思考術』林康史（日経 BP 社）2013年、『戦略的リスク管理入門』ジェームズ・ラム 著、林康史・茶野 努 監訳（勁草書房）2016年								
教員からのお知らせ	“金融”を学ぶ必要性を自覚しておくこと。 出席状況は評価対象外であるが、2/3以上の出席が求められる（欠席は減点対象となる場合がある）。 オンデマンドの資料も、各自、ノートを作成すること。 金融論1の授業内容を理解したうえで受講することが望ましい。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業時、また、メール等で受付ける。オフィスアワー時の訪問は事前に連絡がない場合は対応困難なことがある。								
アクティブラーニングの内容	基本、反転授業である（第1回に説明する。第2回以降は、事前にオンライン教材の視聴を行う等、対面の授業の前に、学習すべきことがあることに留意されたい）。								
その他	本講義は、銀行、証券、保険での実務経験がある専任教員が金融について教える。								

講義コード	11C3115201	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員	林 康史	開講期	第1期
科目名	金融論基礎				林 康史			第1期	
履修前条件					備考				
授業の目的	金融を学ぶには、実際の市場を理解することも大事である。また、暗号資産（仮想通貨）や電子マネー等の新しい貨幣についての議論も盛んである。しかし、金融論では学ぶべき事項が多く、貨幣や市場について熟考する時間もほとんどない。さまざまな角度から貨幣・市場を考えるための授業を目指し、アマゾン等、現地調査の資料を提供し、見学等も盛り込みたい。また、学外の相場予測のイベント等にも参加する。								
到達目標	貨幣にもさまざまな性格や機能があり、暗号資産の問題点、等々を理解し、説明できることを目指す。また、さまざまな市場の構造を理解し、相場の材料として経済事象を認識し、相場を見る目を養うことを目指す。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	授業外学修時間数は、60時間以上。授業外学修は資料の予習以外は、主として復習に充当されたい。復習以外に、参考文献を読み、それらの要約や感想文を提出してもらおう予定（詳細は講義中に指示する）。								
授業計画	<p>【第1回】 ガイダンス ～ マネーとは何か、市場とは何か 【第2回】 無貨幣の世界（アマゾンのインディオの無言の交易）、貨幣の誕生（富本銭、和同開珎）ほか 【第3回】 金融市場 概観 【第4回】 外国為替市場の仕組み、予測 【第5回】 シミュレーションゲーム（外国為替の模擬取引）① 【第6回】 シミュレーションゲーム② 【第7回】 貨幣の廃止（江戸期の奄美、ゲバラの貨幣廃止論、ポルポト政権による貨幣の禁止、等） 【第8回】 特別目的貨幣（ヤップ島の石貨、パラオのウドウド、法貨以外の私的貨幣） 【第9回】 各国の地域通貨（エルサルバドル、エクアドル、ブラジル、日本ほか）、藩札 【第10回】 シミュレーションゲーム③ 【第11回】 日本銀行貨幣博物館見学（予定） 【第12回】 貨幣の役割 【第13回】 東京商品取引所見学（予定） 【第14回】 東京証券取引所見学（予定） 【第15回】 和銅遺跡（埼玉県）見学（予定）</p> <p>※ 講義の順番は、見学先等々と打ち合わせながら行うため、講義の順番等、変更の可能性がある（見学が座学になることもある）。 ※ 新聞社等の主催する相場予測のイベント＜日経円ダービー＞等にも参加する予定。そのための準備や予備的な学習は、毎回の講義のなかで、また、授業外で受講生が主体的に行う。</p>								
成績評価の方法	レポートの内容（25%）、授業への取り組み姿勢（25%）、確認テスト（25%）、報告（25%）等を総合的に評価（予定）。								
フィードバックの内容	質問等は随時受け付ける。								
教科書									
指定図書	『マネーの進化史（ハヤカワ・ノンフィクション文庫）』ニール・ファーガソン（ハヤカワ文庫）2015年、『貨幣と通貨の法文化』林康史編（国際書院）2016年、『欲望と幻想の市場～伝説の投機王リバモア』エドウィン・ルフェーブル著、林 康史（訳）（東洋経済新報社）1999年、『欲望と幻想のドル』クレイグ カーミン（日本経済新聞出版）2010年								
参考書									
教員からのお知らせ	可能な限り、フィールドを紹介し、歩きたい。 “金融”を学ぶ必要性を自覚しておくこと。 出席状況は評価対象外であるが、2/3以上の出席が求められる（共同作業も多く、欠席・遅刻は厳しい対応となることを了承のこと）。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部学科にて定めるオフィスアワーでも受付ける。								
アクティブラーニングの内容	一部、反転授業も行う（第1回に説明する。事前に、オンライン教材の視聴を行う等、対面の授業の前に、学習すべきことがあることに留意されたい）								
その他									

講義コード	11C0106301	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員		開講期	
科目名	グローバルイシューズ1／特殊講義〈グローバルイシューズA〉				マイケル クボ	第1期			
履修前条件					備考				
授業の目的	This lecture is about the global challenges all countries must face. We will study global issues related to Education, Economics, Environment, etc. More specifically, we will learn about some amazing people who are trying to make our world a better place. Moreover, students of this lecture will be challenged to find ways to make our world a better place, too.								
到達目標	Students of this lecture class will learn about Global Issues in simple English. This lecture is taught mostly in English. (There is some Japanese support.) Students who attend this class regularly will improve their English Listening (TOEIC), and they will learn more about the world. Global Issues students will be encouraged to contribute to the entire class by asking questions and/or making comments. This is a fun, friendly and eye-opening class.								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	Students must spend more than 60 hours outside of class in preparation for this course.								
授業計画	<p>【第1回】 Introduction of lecturer & lecture - Thinking & talking about Global Issues 1 /A</p> <p>【第2回】 Education Issues/ Sir. Ken Robinson (UK) Part I</p> <p>【第3回】 Education Issues/ Sir. Ken Robinson (UK) Part II</p> <p>【第4回】 Education Issues/ Sir. Ken Robinson (UK) Part III</p> <p>【第5回】 Education Issues Summary - Quiz</p> <p>【第6回】 Economic Issues/Prof. Muhammad Yunus (Bangladesh) Part I</p> <p>【第7回】 Economic Issues/Prof. Muhammad Yunus (Bangladesh) Part II</p> <p>【第8回】 Economic Issues/Prof. Muhammad Yunus (Bangladesh) Part III</p> <p>【第9回】 Economic Issues Summary - Quiz</p> <p>【第10回】 Environment Issues/ Mr. Al Gore (USA), Dr. David Suzuki (Canada) Part I</p> <p>【第11回】 Environment Issues/ Mr. Al Gore (USA), Dr. David Suzuki (Canada) Part II</p> <p>【第12回】 Environment Issues/ Mr. Al Gore (USA), Dr. David Suzuki (Canada) Part III</p> <p>【第13回】 Environment Issues Summary - Quiz</p> <p>【第14回】 Overview of Education, Economic & Environment Issues</p> <p>【第15回】 Test or Student Presentation, or Report</p> <p>*Content may change depending on general English level of the class.</p>								
成績評価の方法	tests and/or presentations: 30%, participation: 30%, attitude: 30%, homework: 10%								
フィードバックの内容									
教科書									
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ									
オフィスアワー	The teacher is always available via LINE. Special meeting between student and teacher can be made easily. Traditional office hours are Wednesdays after 16:00, and Thursdays 10:40 to 12:30. Please contact the teacher directly via LINE or email (michaelkubo@ris.ac.jp)								
アクティブラーニングの内容	Students will regularly be asked to share their opinions on topics and make presentations.								
その他									

講義コード	11C0106401	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員		開講期	
科目名	グローバルイシューズ2／特殊講義(グローバルイシューズB)				マイケル	クボ		第2期	
履修前条件					備考				
授業の目的	This lecture is about the global challenges all countries must face. We will study global issues related to Fair Trade, the Global Water Crisis, Food & Health, and Energy. We will watch some amazing video documentaries that help illustrate these Global Issues. Students of this lecture will be challenged to find ways to make our world a better place, too.								
到達目標	Students of this lecture class will learn about Global Issues in simple English. This lecture is taught mostly in English. (There is some Japanese support.) Students who attend this class regularly will improve their English Listening (TOEIC), and they will learn more about the world. Global Issues students will be encouraged to contribute to the entire class by asking questions and/or making comments. This is a fun, friendly and eye-opening class.								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	Students must spend more than 60 hours outside of class in preparation for this course.								
授業計画	<p>【第1回】 Introduction of lecturer & lecture - Thinking & talking about Global Issues 2 /B</p> <p>【第2回】 Issue 1 : Fair Trade - Documentary film - Part I</p> <p>【第3回】 Issue 1 : Fair Trade - Documentary film - Part 2</p> <p>【第4回】 Issue 1 : Fair Trade - Documentary film - Overview/Discussion</p> <p>【第5回】 Issue 1 : Fair Trade - Quiz</p> <p>【第6回】 Issue 2 : Global Water Crisis - Documentary film - Part I</p> <p>【第7回】 Issue 2 : Global Water Crisis - Documentary film - Part 2</p> <p>【第8回】 Issue 2 : Global Water Crisis - Documentary film - Overview/Discussion</p> <p>【第9回】 Issue 2 : Global Water Crisis - Quiz</p> <p>【第10回】 Issue 3 : Food & Health - Documentary film - Part I</p> <p>【第11回】 Issue 3 : Food & Health - Documentary film - Part 2</p> <p>【第12回】 Issue 3 : Food & Health - Quiz</p> <p>【第13回】 Overview of Fair Trade, Global Water Crisis & Food & Health Issues</p> <p>【第14回】 Special Lecture (to be announced)</p> <p>【第15回】 Test or Student Presentation, or Report</p> <p>* The lesson plan may change depending on the general English level of the class.</p>								
成績評価の方法	tests or presentations: 30%, participation: 30%, attitude: 30%, homework: 10%								
フィードバックの内容									
教科書									
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ									
オフィスアワー	The teacher is always available via LINE. Special meeting between student and teacher can be made easily. Traditional office hours are Wednesdays after 16:00, and Thursdays 10:40 to 12:30. Please contact the teacher directly via LINE or email (michaelkubo@ris.ac.jp)								
アクティブラーニングの内容	Students will regularly be asked to share their opinions on topics and make presentations.								
その他									

講義コード	11C0123401	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員	佐藤 一義	開講期	第1期
科目名	経営学								
履修前提条件					備考				
授業の目的	現代社会における経済主体としての企業（経営組織）において、労働（仕事）と労働者（人間）の管理（マネジメント）の役割が注目されたのは、およそ1世紀ほど前であった。今日にいたるまで、マネジメントにおける実に多様な研究成果が得られてきた。本講義ではこうした研究の変遷を追いながら、今後、企業社会で活動をする人にとって基本的な知識を提供することを本講義の目的とする。								
到達目標	企業活動に関する基礎的知識が理解できることと、経営に関する基礎理論や基礎概念について理解できること。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	授業の理解を深めるために、毎回予習2時間・復習2時間、年間計60時間以上の授業外学修が必要である。								
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> 【第1回】 ガイダンス 【第2回】 企業活動の本質 【第3回】 人的資源と労働力 【第4回】 マネジメントの基本 【第5回】 モチベーション1：概念と基礎理論 【第6回】 モチベーション2：企業的人間的側面 【第7回】 モチベーション3：達成動機と経済 【第8回】 リーダーシップ1：経営における位置づけ 【第9回】 リーダーシップ2：行動・類型論 【第10回】 リーダーシップ3：状況論 【第11回】 意思決定論の基礎概念 【第12回】 意思決定論と経営 【第13回】 経営戦略の概念 【第14回】 経営戦略の実際 【第15回】 経営戦略の分析 								
成績評価の方法	期末試験（85％）の結果を評価します。ただし、授業態度も成績評価（15％）に考慮します。								
フィードバックの内容									
教科書	『現代社会の経営学』 舩富順久（学文社）1999								
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ									
オフィスアワー	授業終了後、質問等を受け付けます。								
アクティブラーニングの内容	能動的な授業外学修								
その他									

講義コード	11C0121201	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員	中村 宗之	開講期	第1期
科目名	景気循環論 1								
履修前提条件					備考				
授業の目的	景気循環に関する理論や政策、各国の景気循環の歴史を説明する。								
到達目標	景気循環に関する理論や政策、各国の景気循環の歴史が説明できる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	授業内容の予習や復習を行う。新聞などにより景気の現状や経済問題を把握する。これらにより、60時間以上の授業外学修を行う。								
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> 【第1回】 ガイダンス 【第2回】 景気循環に関する学説（1） 【第3回】 景気循環に関する学説（2） 【第4回】 資本蓄積 【第5回】 好況期 【第6回】 好況末期 【第7回】 恐慌（1） 【第8回】 恐慌（2） 【第9回】 不況期 【第10回】 景気循環の周期性 【第11回】 19世紀イギリスの景気循環（1） 【第12回】 19世紀イギリスの景気循環（2） 【第13回】 1930年代の世界大恐慌（1） 【第14回】 1930年代の世界大恐慌（2） 【第15回】 質問受付 								
成績評価の方法	授業内課題レポート（50％）、期末試験（50％）により評価する。								
フィードバックの内容	毎回の課題に対するフィードバックを、翌週以降の授業内で行う。								
教科書									
指定図書									
参考書	『第3版 現代経済の解説』 SGCIME 編（御茶の水書房）2017年、『グローバル資本主義と景気循環』 SGCIME 編（御茶の水書房）2008年、『経済原論：基礎と演習』 小幡道昭（東京大学出版会）2009年、『基礎からわかる経済変動論』 関根順一（中央経済社）2011年								
教員からのお知らせ	講義資料は Teams 等にアップロードします。								
オフィスアワー	本授業に関する質問や相談は、学部学科で定めるオフィスアワーにて受け付けます。Teams 等でも受け付けます。								
アクティブラーニングの内容	教員からのフィードバックによる振り返り、能動的な授業外学修								
その他									

講義コード	11C0121301	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員		開講期	
科目名	景気循環論2				中村 宗之		第2期		
履修前提条件					備考				
授業の目的	景気循環に関する理論や政策、各国の景気循環の歴史を説明する。								
到達目標	景気循環に関する理論や政策、各国の景気循環の歴史が説明できる。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	授業内容の予習や復習を行う。新聞などにより景気の現状や経済問題を把握する。これらにより、60時間以上の授業外学修を行う。								
授業計画	【第1回】1990年代以降のアメリカの景気循環（1） 【第2回】1990年代以降のアメリカの景気循環（2） 【第3回】1990年代以降のアメリカの景気循環（3） 【第4回】1990年代以降のアメリカの景気循環（4） 【第5回】EU諸国の景気循環（1） 【第6回】EU諸国の景気循環（2） 【第7回】EU諸国の景気循環（3） 【第8回】日本の景気循環（1） 【第9回】日本の景気循環（2） 【第10回】日本の景気循環（3） 【第11回】日本の景気循環（4） 【第12回】景気の現状 【第13回】経済成長の検討（1） 【第14回】経済成長の検討（2） 【第15回】質問受付								
成績評価の方法	授業内課題レポート（50%）、期末試験（50%）により評価する。								
フィードバックの内容	毎回の課題に対するフィードバックを、翌週以降の授業内で行う。								
教科書									
指定図書									
参考書	『第3版 現代経済の解説』SGCIME編（御茶の水書房）2017年、『グローバル資本主義と景気循環』SGCIME編（御茶の水書房）2008年、『経済原論：基礎と演習』小幡道昭（東京大学出版会）2009年、『基礎からわかる経済変動論』関根順一（中央経済社）2011年								
教員からのお知らせ	講義資料は Teams 等にアップロードします。マルクス経済学Ⅰを履修済みであることが望ましい。								
オフィスアワー	本授業に関する質問や相談は、学部学科で定めるオフィスアワーにて受け付けます。Teams 等でも受け付けます。								
アクティブラーニングの内容	教員からのフィードバックによる振り返り、能動的な授業外学修								
その他									

講義コード	11C0111001	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員		開講期	
科目名	経済学史Ⅰ				小沢 佳史		第1期		
履修前条件					備考				
授業の目的	現在の経済学は、大まかに言って、近代経済学（ミクロ経済学およびマクロ経済学）とマルクス経済学に分けられる。この授業の目的は、経済学がこのような現在の姿をとるに至った過程——経済学の歴史——を理解すること、そしてそれを通じて現在の経済学に関する理解をさらに深めることである。そのためにこの授業では、古代から19世紀前半までの経済学の歴史を講義する。								
到達目標	1. 現在の経済学（ミクロ経済学やマクロ経済学など）が誕生するまでのプロセスを、古典に基づいて説明できる。 2. 現在の経済学についてこれまでに学修してきた概念や理論をめぐり、それらの関係や背景を説明できる。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	この科目では、60時間以上の授業外学修を行うこと。授業外学修では、各回の授業の前に、配付資料やいずれかの指定図書 の該当箇所を目を通し、各回の授業の後に、ノートや配付資料を何回もじっくりと読み込むこと。また授業で課された小問 にきちんと取り組むこと。								
授業計画	【第1回】この授業で何を学ぶか？ 【第2回】古代における経済学の姿——アリストテレス（学派） 【第3回】中世における経済学の姿——T. アクィナス 【第4回】政治算術——W. ペティ 【第5回】重商主義①——T. マン 【第6回】重商主義②——J. ステュアート 【第7回】重農主義——F. ケネー 【第8回】古典派経済学①——A. スミスの経済理論 【第9回】古典派経済学②——A. スミスの政策提言 【第10回】古典派経済学③——D. リカードウの経済理論 【第11回】古典派経済学④——D. リカードウの政策提言 【第12回】古典派経済学⑤——J. S. ミル 【第13回】19世紀前半における古典派経済学への異議①——T. R. マルサス 【第14回】19世紀前半における古典派経済学への異議②——F. リスト 【第15回】まとめ								
成績評価の方法	授業で課した小問（40%）と、期末試験（60%）によって評価する。到達目標に記載された内容について、基本的な事項を 正確に把握して古典を熟読した上で自分の言葉で説明できることを、小問と期末試験の評価基準とする。								
フィードバックの内容	小問に対する講評を、翌週の授業内冒頭にて行う。								
教科書									
指定図書	『若い読者のための経済学史』 ナイアル・キシテイニー 著；月沢李歌子 訳（すばる舎）2018、『入門経済思想史 世俗の思想家たち』 ロバート・L. ハイルブローナー 著；八木甫 [ほか] 訳（筑摩書房）2001、『経済学からなにを学ぶか——その500年の歩み』 伊藤誠 著（平凡社）2015、『学ぶほどおもしろい 経済学史』 木村雄一、瀬尾崇、益永淳 著（晃洋書房）2022、『経済学史』 小峯敦 著（ミネルヴァ書房）2021、『経済学の歴史——市場経済を読み解く』 中村達也、八木紀一郎、新村聡、井上義朗 著（有斐閣）2001、『経済学史』 馬渡尚憲 著（有斐閣）1997、『経済学史への招待』 柳沢哲哉 著（社会評論社）2018、『経済思想』 猪木武徳 著（岩波書店）2017、『経済学史入門——経済学方法論からのアプローチ』 久保真、中澤信彦 編（昭和堂）2023								
参考書	『経済学のことば』 根井雅弘 著（講談社）2004、『写真で見る ヴィクトリア朝ロンドンの都市と生活』 アレックス・ワーナー、トニー・ウィリアムズ 著；松尾恭子 訳（原書房）2013、『有斐閣経済辞典 第5版』 金森久雄、荒憲治郎、森口親司 編（有斐閣）2013								
教員からのお知らせ									
オフィスアワー	この授業に関する質問・相談は、学部学科で定めるオフィスアワーにて受け付ける。また授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内でも対応する。								
アクティブラーニングの内容	教員からのフィードバックによる振り返り。								
その他									

講義コード	11C0111101	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員		開講期	
科目名	経済学史2				小沢 佳史		第2期		
履修前条件					備考				
授業の目的	現在の経済学は、大まかに言って、近代経済学（ミクロ経済学およびマクロ経済学）とマルクス経済学に分けられる。この授業の目的は、経済学がこのような現在の姿をとるに至った過程——経済学の歴史——を理解すること、そしてそれを通じて現在の経済学に関する理解をさらに深めることである。そのためにこの授業では、主に19世紀後半から現代までの経済学の歴史を講義する。								
到達目標	1. 現在の経済学（ミクロ経済学やマクロ経済学など）が誕生するまでのプロセスを、古典に基づいて説明できる。 2. 現在の経済学についてこれまでに学修してきた概念や理論をめぐり、それらの関係や背景を説明できる。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	この科目では、60時間以上の授業外学修を行うこと。授業外学修では、各回の授業の前に、配付資料やいずれかの指定図書 の該当箇所を目を通し、各回の授業の後に、ノートや配付資料を何回もじっくりと読み込むこと。また授業で課された小問 にきちんと取り組むこと。								
授業計画	【第1回】 この授業で何を学ぶか？ 【第2回】 古代から19世紀前半までの経済学の歴史 【第3回】 マルクス経済学①——K. マルクスの唯物史観（史的唯物論） 【第4回】 マルクス経済学②——K. マルクスの剰余価値論 【第5回】 マルクス経済学③——K. マルクスの資本蓄積論 【第6回】 古典派経済学から近代経済学へ——3つの革命 【第7回】 ミクロ（新古典派）経済学①——W. S. ジェヴォンズ 【第8回】 ミクロ（新古典派）経済学②——C. メンガー 【第9回】 ミクロ（新古典派）経済学③——L. ワルラス 【第10回】 ミクロ（新古典派）経済学④——A. マーシャル 【第11回】 マクロ経済学①——J. M. ケインズの経済理論 【第12回】 マクロ経済学②——J. M. ケインズの政策提言 【第13回】 マクロ経済学③——P. A. サミュエルソンの新古典派総合 【第14回】 マクロ経済学のミクロ的基礎付け（新しい古典派経済学）——M. フリードマンと R. ルーカス 【第15回】 まとめ								
成績評価の方法	授業で課した小問（40%）と、期末試験（60%）によって評価する。到達目標に記載された内容について、基本的な事項を正確に把握して古典を熟読した上で自分の言葉で説明できることを、小問と期末試験の評価基準とする。								
フィードバックの内容	小問に対する講評を、翌週の授業内冒頭にて行う。								
教科書									
指定図書	『経済学史入門——経済学方法論からのアプローチ』久保真，中澤信彦 編（昭和堂）2023、『学ぶほどおもしろい 経済学史』木村雄一，瀬尾崇，益永淳 著（晃洋書房）2022、『経済学史』小峯敦 著（ミネルヴァ書房）2021、『経済学史への招待』柳沢哲哉 著（社会評論社）2018、『経済思想』猪木武徳 著（岩波書店）2017、『経済学からなにを学ぶか——その500年の歩み』伊藤誠 著（平凡社）2015、『経済学の歴史——市場経済を読み解く』中村達也，八木紀一郎，新村聡，井上義朗 著（有斐閣）2001、『経済学史』馬渡尚憲 著（有斐閣）1997、『若い読者のための経済学史』ナイアル・キシテイニー 著；月沢李歌子 訳（すばる舎）2018、『入門経済思想史 世俗の思想家たち』ロバート・L. ハイルブローナー 著；八木甫 [ほか] 訳（筑摩書房）2001								
参考書	『経済学のことば』根井雅弘 著（講談社）2004、『写真で見る ヴィクトリア朝ロンドンの都市と生活』アレックス・ワーナー，トニー・ウィリアムズ 著；松尾恭子 訳（原書房）2013、『有斐閣経済辞典 第5版』金森久雄，荒憲治郎，森口親司 編（有斐閣）2013								
教員からのお知らせ									
オフィスアワー	この授業に関する質問・相談は、学部学科で定めるオフィスアワーにて受け付ける。また授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内でも対応する。								
アクティブラーニングの内容	教員からのフィードバックによる振り返り。								
その他									

講義コード	11C0110301	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員		開講期	
科目名	経済史1A／経済史A				平 伊佐雄		第2期		
履修前提条件					備考				
授業の目的	本講義は、人びとの経済活動の歴史を人や社会の内面にも目線をおくり、解説することを目的とする。								
到達目標	過去にあった出来事が、現在の社会の仕組みとどのように関連しているのか（連続があるのか、また、変化し断絶しているのかなど）を考察し、その現代的意義を説明できるようになる。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	各回の講義を受講するにあたり、各自、授業外学修として4時間（計60時間）以上、予習と講義後の復習をネット配信しているテキスト・資料などを利用して行うこと。								
授業計画	【第1回】 経済史研究の視角と方法 【第2回】 経済史研究の歴史 【第3回】 交換と贈与 【第4回】 境界、山、市場－異人論再考－ 【第5回】 アジュール・縁・無縁 【第6回】 人の暮らしと河川－境界論再考－ 【第7回】 砂糖の伝搬 【第8回】 塩と人間 【第9回】 個と自由 【第10回】 市民社会の特徴とは 【第11回】 銀で結ばれた世界 【第12回】 金融取引の知恵 【第13回】 身分制社会における人々と社会変化 【第14回】 読み書きそろばんの意味 【第15回】 バブルの経験								
成績評価の方法	講義（期間）中の小テスト（レポート形式の筆記試験100%）をもって評価する。								
フィードバックの内容	講義中に学生に課した小テスト、学生から出された質問などについて解題し、フィードバックを行う。								
教科書									
指定図書	『贈与論』モース（岩波書店）2014、『境界の発生』赤坂憲雄（講談社）2002、『異人論序説』赤坂憲雄（筑摩書房）1992、『異人論』小松和彦（筑摩書房）1995、『異人その他』大林太良（岩波書店）1994、『沈黙交易』グリアスン（ハーベスト社）1997、『西太平洋の遠洋航海者』マリノフスキ（講談社）2010、『森と川』池上俊一（刀水書房）2010、『武士の家計簿』磯田道史（新潮社）2003、『猪山直之日記』石崎建治（時鐘舎）2010								
参考書	『現代社会を考えるための経済史』高橋美由紀編著（創成社）2023								
教員からのお知らせ	講義の資料はネット上のフォルダーに格納しておきます。反転学習のための準備に利用してください（期間限定）。講義内容も考察して、現代の人口問題にまで視点を広げていく。また、技術の問題についても取り上げる。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部学科にて定めるオフィスアワーやe-mailにて受け付けます。								
アクティブラーニングの内容	資料を前もって学生に提示する反転授業や講義中の学生課題へのフィードバック、講義内容に関する学生の質問に対する回答、意見共有も行っている。								
その他									

講義コード	11C0110302	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員		開講期	
科目名	経済史1B／経済史B				高橋 美由紀		第2期		
履修前提条件					備考				
授業の目的	最近の経済史の動向を特に人口・環境・技術という視点を中心にひもといていく。現代の社会状況を考察する上での歴史の重要さは必要な知識として再認識される傾向にある。人口や家族などの変数は経済の成長や衰退に大きく関わっている。人口は経済発展にどのような影響を与えたのか。出生率や死亡率という人口学的変数も考察して、現代の人口問題にまで視点を広げていく。また、技術の問題についても取り上げる。								
到達目標	世界各地域の人口や家族の様子と経済の動きとを結びつけて説明が出来ること。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	授業で指定した何冊かの文献を読むこと。また、Microsoft Teamsのファイルに授業資料を提示するので、予習をしておくこと。授業前に2時間、後に2時間、15週間で計60時間以上の授業外学修を必要とする。								
授業計画	【第1回】 グローバルヒストリーとは 【第2回】 人口と経済 【第3回】 世界の人口推移・家族 【第4回】 人口の変化から見る発展と衰退 【第5回】 環境の変化と経済の変化1 気温と飢饉 【第6回】 環境の変化と経済の変化2 植生と飢饉 【第7回】 環境の変化と経済の変化3 災害・疫病 【第8回】 預言獣と公害・環境問題 【第9回】 日本の人口推移と経済 【第10回】 地域の人口史 【第11回】 人口政策の歴史 【第12回】 Industrial Revolution vs Industrious Revolution 【第13回】 技術の歴史 —— 身近なところから考えよう 【第14回】 ガラスの歴史 —— ガラスはどのように世界を変えたのか 【第15回】 歴史は実験できるのか								
成績評価の方法	毎回の授業後におこなうMicrosoft Formsのクイズ（60%）および学期末試験（40%）による。ただし、学期末試験が行えない場合は、Microsoft Formsのクイズを100%とする。								
フィードバックの内容	クイズの解答については翌週にコメントをおこなう。								
教科書	使用しない								
指定図書	『グローバル経済の誕生』K. ポメラント（筑摩書房）2013、『大分岐』K. ポメラント（名古屋大学出版会）2015、『人口の世界史』マッシュモリヴィーバッチ（藤原書店）2014、『歴史人口学の世界』速水融（岩波書店）2012、『世界経済史概観』アンガス・マディソン（岩波書店）2015、『世界の多様性 家族構造と近代性』エマニュエル・トッド（藤原書店）2008、『グローバル・ヒストリー入門』水島 司（山川出版社）2010、『歴史は実験できるのか』ジャレド・ダイヤモンド 他（慶應義塾大学出版界）2018								
参考書									
教員からのお知らせ	講義内容は、履修者の希望等により変更する場合があります。Microsoft TeamsでTeamを作るので、Teamコード（wpxbi05）を用いて、授業開始までにメンバー登録をすること。								
オフィスアワー	月曜2限。希望する場合は、必ず事前に連絡をすること。また、Microsoft Teams内のチャット等でも随時受けつける。								
アクティブラーニングの内容	授業を受ける前に、Teamsのファイルに提示しておく授業PDFを読んでおき、その上で自分の分からないことを明確にして授業に臨むこと（反転授業）。								
その他	教科書は使用しないが、授業内で提示する参考文献も含めて学習して欲しい。								

講義コード	11C0110303	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員		開講期	
科目名	経済史2				高橋 美由紀		第2期		
履修前提条件					備考				
授業の目的	本講義の目的は、人間がいかに動物を家畜化し、経済的利用をおこなってきたのかを理解することにある。主に対象とするのは牛馬である。牛馬は前近代社会における重要な生産要素であり、また労働との代替が「勤勉革命」として捕らえられる。牛馬の歴史および農業について、日本ばかりではなく、世界にも目を向けて人間の歴史とともに考えていく。また、歴史とともに変化する牛馬と日本社会との関係に関し馬の軍事利用にも言及する。								
到達目標	日本の経済社会が牛馬を中心とする家畜との関わりの中でどのような足跡をたどってきたのかを、世界の他の社会にも目を向けて理解し、その良い点と悪い点を把握し、自分なりの見解が述べられること。また、経済史において重要ないくつかの用語や、牛馬の時代とともに変遷する経済史的意義に関してきちんと説明ができること。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	受講前に配布資料をダウンロードし、熟読し、分からない箇所は個人で調べておくこと（講義前2時間、講義語2時間、計60時間以上）。								
授業計画	<p>【第1回】 経済史への様々なアプローチ</p> <p>【第2回】 歴史人口学 (Historical Demography)</p> <p>【第3回】 農業革命 (Agricultural Revolution) および農業</p> <p>【第4回】 産業革命 (Industrial Revolution) と勤勉革命 (Industrious Revolution)</p> <p>【第5回】 生産要素としての家畜：牛馬の役割</p> <p>【第6回】 軍事と馬の役割 ヨーロッパ、中国、日本など</p> <p>【第7回】 遊牧民族と牛馬</p> <p>【第8回】 農村と牛馬</p> <p>【第9回】 都市と牛馬</p> <p>【第10回】 輸送と牛馬</p> <p>【第11回】 人口と牛馬</p> <p>【第12回】 馬匹改良と経済</p> <p>【第13回】 明治期の産業と牛馬</p> <p>【第14回】 大正・昭和期の産業と牛馬 - 共進会</p> <p>【第15回】 産業の変化と機械：家畜からロボットへ</p> <p>歴史的資料や英語文献も用いる。</p>								
成績評価の方法	毎回授業後に課す Microsoft Forms による小試験による (60%) および学期末試験 (40%)。ただし、学期末試験が行えない場合には、Microsoft Forms による小試験を100%とする。								
フィードバックの内容	小試験に関しては次週にコメントをおこなう。								
教科書	使用しない								
指定図書	『最初の近代経済－オランダ経済の成功・失敗と持続力 1500～1815』J・ド・フリース (著), A・ファン・デア・ワウデ (著), 大西 吉之 (翻訳), 杉浦 未樹 (翻訳) (名古屋大学出版会) 2009、『馬』の文化と「船」の文化 新装版: 古代日本の中国文化』福永 光司 (人文書院) 2018、『江戸の飛脚－人と馬による情報通信史』巻島 隆 (教育評論社) 2015、『経済社会の歴史』中西聡他 (名古屋大学出版会) 2017、『歴史人口学の世界』速水 融 (岩波書店) 2012、『馬・車輪・言語 (上)』デイヴィッド・W. アンソニー (著), 東郷 えりか (翻訳) (筑摩書房) 2018、『馬・車輪・言語 (下)』デイヴィッド・W. アンソニー (著), 東郷 えりか (翻訳) (筑摩書房) 2018、『The Horse in the City: Living Machines in the Nineteenth Century』Clay McShane (Johns Hopkins Univ Pr) 2011、『馬の世界史』本村 凌二 (中央公論新社) 2013、『馬と人の江戸時代』兼平 賢治 (吉川弘文館) 2015								
参考書	『馬・船・常民』網野 善彦 (著), 森 浩一 (著) (講談社) 1999								
教員からのお知らせ	講義内容は、履修者の希望等により変更する場合がある。Microsoft Teams で Team を作るので、Team コード (wexypmg) を用いて、授業開始までにメンバー登録をすること。								
オフィスアワー	月曜日2限。希望する場合には事前に必ず連絡すること。 また、Microsoft のチャット等で随時受け付ける。								
アクティブラーニングの内容	授業前に資料を読んで確認し、講義内ではそれに沿って自己の疑問点を考えるという反転授業を取り入れている。								
その他	講義参加者の希望等によって、講義内容は若干変更することもある。								

講義コード	11C0110304	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員	平 伊佐雄	開講期	第2期
科目名	経済史3				平 伊佐雄			第2期	
履修前条件					備考				
授業の目的	かつて、中世は暗黒の時代と呼ばれた。しかし、中世から近世にかけてのヨーロッパは、中国やペルシアやアラブの文明を吸収、古代ギリシアやローマの文明も引き継ぎながら発展した。現在の私たちの経済活動の仕組みは、その多くをヨーロッパ中世の時代に負っていると言っても過言ではない。本講義は、ヨーロッパの中世の時代に焦点を絞り、当時に生きた人々の経済活動を知りその現代的意義を考察することを目的とする。								
到達目標	ヨーロッパ中世の経済活動と現在の経済活動との関係性、連続性や断絶性、注目すべき出来事を説明できるようになる。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	各回の講義を受講するにあたり、各自、授業外学修として各回、4時間（全体で計60時間）以上、予習と講義後の復習をネット配信している教材、参考文献などを利用して行うこと。								
授業計画	【第1回】ヨーロッパ中世の時代とは？－ヨーロッパ中世経済史研究の視角－ 【第2回】ローマ帝国の経済状況 【第3回】中世ヨーロッパ初期における経済活動－農業－ 【第4回】中世ヨーロッパにおける商業活動と非農業集落の誕生 【第5回】中世ヨーロッパの東方と西方－植民都市－ 【第6回】市場の開催地としての都市 【第7回】ハンザ商人の世界－経済圏の拡大－ 【第8回】チュートン騎士修道会の東方進出				【第9回】チュートン騎士修道会のバルト海貿易 【第10回】中世都市の手工業者－ビール産業の特異性－ 【第11回】中世都市の手工業－製造業の拠点－ 【第12回】商業と金融業、利子・ウスラについて 【第13回】イタリア商人の商業活動 【第14回】イタリアの商社と金融業 【第15回】イタリア商人による保険業				
成績評価の方法	講義（期間）中に行う理解度確認課題（100%）をもって評価する。								
フィードバックの内容	講義中に学生に課した課題、学生から出された質問などについて解題し、フィードバックを行う。								
教科書									
指定図書	『図説中世ヨーロッパの暮らし』河原温、堀越宏一（河出書房新社）2015、『図説中世ヨーロッパの商人』菊池雄太（河出書房新社）2022、『中世の商業革命』ロバート・ロベス（法政大学出版社）2007、『ドイツ植民と東欧世界の形成』シャルル・イグネ（彩流社）1997、『ドイツ中世後期の世界』阿部謹也（未来社）1974、『イタリア都市社会史入門』斎藤他（昭和堂）2008、『中世後期イタリアの商業と都市』斎藤寛海（知泉書館）2002								
参考書	『現代社会を考えるための経済史』高橋美由紀編著（創成社）2023								
教員からのお知らせ	履修生は、ネット経由でダウンロード可能（期間限定）にしてある教材（参考文献を含む）を利用し、予習した上で講義に望むこと。また、講義内容と成績評価方法は、学生の受講態度や理解度に応じて変更があり得ます。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部学科にて定めるオフィスアワーや e-mail にて受け付けます。								
アクティブラーニングの内容	資料を前もって学生に提示して行わせる反転授業や講義中に課す小問へのフィードバック、学生からの講義内容への質問に対する回答、意見共有も行っている。								
その他									

講義コード	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員	開講期
科目名	経済史基礎			各担当教員		第1期
履修前提条件	備考					
授業の目的	現在は情報にあふれている。しかし、それらの情報は事実を反映しているのか、また、そもそも事実とは何なのか。情報に対する判断力を培っておかなければ、判断も不確かなものになる。歴史研究では証拠たる史料の正確性を判断しなければならない。本講義は、将来の動きを予測するためにも、現在との何らかの繋がりを有する過去を分析し、経済の動きの仕組みを歴史から学ぶことを目的とする。					
到達目標	世界のさまざまな地域の経済や社会が、どのような経緯をたどって今日の姿になったのかを理解し、歴史的視点から考察が出来るようになる。					
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	各回の講義を受講するにあたり、各自、予習として教科書の該当箇所をあらかじめ読んだり（2時間）、復習として教科書に記載の「考えてみよう」について考察する（2時間）など、授業外学修を毎回4時間（全回で60時間）以上行うこと。					
授業計画	<p>【第1回】経済史では何を学ぶか 経済史を学ぶ意味、経済史研究の現状を考える</p> <p>【第2回】人口と経済 人口の理論、世界人口の変遷、歴史人口学を学ぶ</p> <p>【第3回】農業と人びとの暮らし 農民の暮らしと農業技術、農業の発展と経済発展の関係を探る</p> <p>【第4回】農村社会と都市社会 農村社会と都市社会の違い、ヨーロッパ都市の歴史を考える</p> <p>【第5回】宗教と経済 宗教と経済活動、資本主義との関係を考える</p> <p>【第6回】中国の経済と技術 中国の歴史、経済と思想、発明や技術を学ぶ</p> <p>【第7回】市場の広がりと言語 貨幣の歴史、貨幣と市場の関係を考える</p> <p>【第8回】大航海時代 ヨーロッパとアジア、南北アメリカ大陸との繋がりを考える</p> <p>【第9回】イギリス産業革命 イギリスにおける産業の変化、新エネルギーの展開について考える</p> <p>【第10回】日本近世社会の発展から近代社会へ 日本近世の産業、開港による社会と経済の変化について学ぶ</p> <p>【第11回】アメリカの発展 植民地時代以降のアメリカ合衆国の工業化、経済成長について学ぶ</p> <p>【第12回】戦争と技術発展 技術の発展と兵器の開発、資源や食料問題を考える</p> <p>【第13回】疾病と開発 疫病が国家や都市、社会に与えた影響について学ぶ</p> <p>【第14回】資本主義と社会主義 資本主義社会と社会主義社会の特徴について考える</p> <p>【第15回】情報の発達と産業の変化——現代に生きる私たちの暮らし 情報化と新産業の登場、これからの経済社会を考える</p>					
成績評価の方法	授業で課した小問（40%）と定期試験（60%）によって評価する。定期試験が行えない場合には、小問をもって評価する（100%）。					
フィードバックの内容	講義中の小問の講評を行う。					
教科書	『現代社会を考えるための経済史』高橋美由紀編著（創成社）2023					
指定図書						
参考書						
教員からのお知らせ	テキストを利用します。指定図書・参考書、講義期間中に課す小問の回答方法については、第一回の授業の際に説明いたします。なお、回答方法は、クラスによって異なる場合があります。					
オフィスアワー	この授業は複数クラスで行われています。オフィスアワー、あるいは質問対応可能時間の詳細については、各担当教員にお問い合わせください。					
アクティブラーニングの内容	資料を前もって学生に提示して行わせる反転授業や講義中に課した問へのフィードバック、学生からの講義内容への質問に対する回答、意見共有も行っている。					
その他						

講義コード	11C0116202	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員		開講期	
科目名	経済指標の読み方				杉本 良平		第2期		
履修前条件					備考				
授業の目的	本授業の目的は、経済指標を適切に読み、日本の景気の現状や今後どうなっていくかを把握してもらうことである。各経済指標の重要度の理解や読み方の基本、指標同士の相互関連、予測など経済の動きを正確に捉えるための方法を紹介する。必要に応じて、データ分析の仕方についても言及する。								
到達目標	この授業を受けることにより、皆さんがデータをもとに景気の現状を説明できることを目標とする。また、今後、景気がどのようになっていくのかを読めるようになることが挙げられる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	授業外学修時間は、60時間以上必要である。授業内で配布する資料に目を通しておくこと。								
授業計画	【第1回】 ガイダンス、景気循環について 【第2回】 経済データを読み解く上での基礎知識（1） 【第3回】 経済データを読み解く上での基礎知識（2） 【第4回】 経済データを読み解く上での基礎知識（3） 【第5回】 経済全体の動向（1） 【第6回】 経済全体の動向（2） 【第7回】 企業部門（1） 【第8回】 企業部門（2）				【第9回】 企業部門（3） 【第10回】 企業部門（4） 【第11回】 家計と物価（1） 【第12回】 家計と物価（2） 【第13回】 家計と物価（3） 【第14回】 その他の経済指標（1） 【第14回】 その他の経済指標（2） 【第15回】 経済予測の方法				
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢50%、期末試験50%で評価する。								
フィードバックの内容	リアクションペーパーに対するフィードバックについては、翌週の講義内や Teams で行う。								
教科書									
指定図書									
参考書	『予測の達人が教える経済指標の読み方』新家義貴（日本経済新聞出版社）2017年、『やってみよう景気判断－指標でよみとく日本経済』高安雄一（学文社）2016年								
教員からのお知らせ	配布資料や連絡事項については、以下の方法を利用して掲示するので、それぞれを定期的に確認すること。 ①大学ポータルサイト「オンライン授業」 ②メール（学籍番号 @rissho-univ.jp） ③ Microsoft Teams（アプリ） なお、③については、パソコンあるいはスマートフォンを持っている人はアプリを事前にダウンロードしておくこと。アプリの利用方法の詳細については、①または②を通じて連絡する。								
オフィスアワー	金曜日 3 限目、研究室（2-312）で受け付ける。事前にメール等で連絡することが望ましい。								
アクティブラーニングの内容	教員からのフィードバックによる振り返り								
その他	授業への積極的な参加及び継続的な出席が求められる。								

講義コード	11C0115801	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員		開講期	
科目名	経済数学Ⅰ				小林 幹		第1期		
履修前条件					備考				
授業の目的	本講義では、大学数学の基礎である線形代数の知識と計算力を身に付けることを主な目的とする。さらに、それらの知識を経済学の問題に応用出来ることも目的とする。								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 数学的思考を身に付ける。 ・ 線形代数の知識を身に付ける。 ・ 計算問題が解ける。 ・ 基本的な応用問題が解ける。 								
授業外学修内容・授業外学修時間数	本講義では1年次必修科目「数学基礎」の内容を前提知識として扱う。「数学基礎」の単位がB以下だった者は本講義履修までに必ず「数学基礎」の内容を復習し理解してから本講義を履修すること。上記に記した授業外の学修は、60時間以上行うこと。								
授業計画	【第1回】 ガイダンス（線形代数とはどのような学問か） 【第2回】 行列の定義 【第3回】 行列の演算（行列の和、差、スカラー積、積、行列演算の性質） 【第4回】 行列演算の演習 【第5回】 行列を用いた連立一次方程式の解法 【第6回】 連立一次方程式の解法1（掃き出し法——解が一意に定まる場合——） 【第7回】 連立一次方程式の解法2（掃き出し法——解が一意に定まらない場合——） 【第8回】 掃き出し法を用いた連立一次方程式の演習 【第9回】 連立一次方程式の解法3（逆行列を用いた解法） 【第10回】 連立一次方程式の解法4（行列式を用いた解法——クラメルの公式——） 【第11回】 逆行列とクラメルの公式を用いた連立一次方程式の演習 【第12回】 経済学と線形代数（市場均衡） 【第13回】 経済学と線形代数（産業連関分析） 【第14回】 期末テスト 【第15回】 期末テストの解説								
成績評価の方法	期末試験（80%）とレポート課題（20%）により評価する。								
フィードバックの内容									
教科書	『経済数学15講』小林幹、吉田博之（新世社）2020								
指定図書									
参考書	『明解演習 線形代数』小寺平治（共立出版）1982、『経済学と経済学に必要な数学がイッキにわかる』石川秀樹（学習研究社）2009								
教員からのお知らせ									
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部学科にて定めるオフィスアワーにて受け付けます。								
アクティブラーニングの内容	教員からのフィードバックによる振り返り。								
その他									

講義コード	11C0115901	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員	小林 幹	開講期	第2期
科目名	経済数学2								
履修前条件					備考				
授業の目的	本講義では、大学数学の基礎である微分と偏微分の知識と計算力を身に付けることを主な目的とする。さらに、それらの知識を経済学の問題に応用出来ることも目的とする。								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 数学的思考を身に付ける。 ・ 微分、偏微分の知識を身に付ける。 ・ 計算問題が解ける。 ・ 基本的な応用問題が解ける。 								
授業外学修内容・授業外学修時間数	本講義では1年次必修科目「数学基礎」の内容を前提知識として扱う。「数学基礎」の単位がB以下だった者は本講義履修までに必ず「数学基礎」の内容を復習し理解してから本講義を履修すること。上記に記した授業外の学修は、60時間以上行うこと。								
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> 【第1回】 ガイダンス（1年次数学基礎の復習） 【第2回】 微分1（極限、微分の定義） 【第3回】 微分2（微分係数、導関数） 【第4回】 微分3（対数関数、指数関数に関する微分） 【第5回】 微分の演習 【第6回】 微分4（微分を用いた極値問題とグラフのかき方） 【第7回】 極値問題、グラフのかき方の演習 【第8回】 微分5（経済学への応用「弾力性」） 【第9回】 偏微分1（多変数関数） 【第10回】 偏微分2（偏微分の定義） 【第11回】 偏微分3（偏微分の定義の計算） 【第12回】 偏微分4（ラグランジュの未定乗数法） 【第13回】 偏微分の演習 【第14回】 期末テスト 【第15回】 期末テストの解説 								
成績評価の方法	期末試験（80%）とレポート課題（20%）により評価する。								
フィードバックの内容									
教科書	『経済数学15講』小林幹、吉田博之（新世社）2020								
指定図書									
参考書	『明解演習 微分積分』小寺平治（共立出版）1984								
教員からのお知らせ									
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談方法についてはガイダンスで指示します。								
アクティブラーニングの内容	教員からのフィードバックによる振り返り。								
その他									

講義コード	11C0111801	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員	王 ゼイ	開講期	第1期
科目名	経済政策論1								
履修前条件					備考				
授業の目的	経済政策とは、経済学の理論に基づき、様々な経済問題を是正・改善するための政策である。この講義は、経済政策を理解する上で必要なミクロ経済学を復習し、それを使って様々なミクロ経済政策を理解することを目的とする。具体的に、「補助金・税金」、「規制」、「外部性」、「不完全競争」といったミクロ経済政策のトピックを取り上げて紹介する。								
到達目標	受講生はこの講義を履修することを通じて、標準的な経済学理論を使って、ミクロ経済政策の仕組みを理解し、説明できることを到達目標とする。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	この科目では、授業時間外に、60時間以上の学修を行うことを必須とする。配布された講義資料とミクロ経済学やマクロ経済学の教科書を参照しながら理解を深めて、各回の授業内容をしっかり予習・復習することは望ましい。なお、課題を出すことがあるので、必ず自分で考えて自力で解くようにしてください。								
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> 【第1回】 経済政策の経済学基礎：市場と競争 【第2回】 経済政策の経済学基礎：消費と生産 【第3回】 経済政策の経済学基礎：需要と供給 【第4回】 経済政策の経済学基礎：民間と政府 【第5回】 完全競争市場と経済厚生：経済余剰、競争均衡とパレート最適 【第6回】 完全競争市場と経済厚生：価格規制、課税・補助金と経済厚生 【第7回】 市場の失敗と資源配分の効率化：不完全競争 【第8回】 市場の失敗と資源配分の効率化：外部性 【第9回】 市場の失敗と資源配分の効率化：公共財 【第10回】 市場の失敗と資源配分の効率化：情報の不完全性 【第11回】 生産要素市場と所得分配：労働需要と労働供給 【第12回】 生産要素市場と所得分配：労働市場の均衡 【第13回】 生産要素市場と所得分配：所得分配と公正性 【第14回】 生産要素市場と所得分配：所得再分配政策 【第15回】 まとめ 								
成績評価の方法	課題（40%）と期末試験（60%）で評価する。								
フィードバックの内容	この科目では、授業連絡用の Microsoft チームが立ち上げられ、履修者全員にチームに参加していただくことになっている。チームの参加方法は初回の授業時に説明する。事前に Microsoft Outlook と Teams のアプリを所持の端末にインストールしておいて、使用できるような状態にしてください。授業時間外では、授業に関するお知らせ、資料配布、フィードバック等はすべて Microsoft Teams を通じて行われる。課題の提出は WebClass を利用する。								
教科書									
指定図書	『経済政策』横山将義（成文堂）2012年、『ゼミナール経済政策入門』岩田規久男、飯田泰之（日本経済新聞社）2006年								
参考書	『マンキュー経済学Iミクロ編（第4版）』マンキュー（東洋経済新報社）2019年、『マンキュー経済学IIマクロ編（第4版）』マンキュー（東洋経済新報社）2019年、『マンキュー入門経済学（第3版）』マンキュー（東洋経済新報社）2019年								
教員からのお知らせ	この科目は第2期の「経済政策論2」と合わせて履修することが望ましい。この科目では特定の教科書は使用せず、講義資料を配布し、その内容に沿ってパワーポイントと板書により、解説を行う。また、この科目の履修にあたって、ミクロ・マクロ経済学と経済数学関係の科目が履修済みであることは望ましい。質問・議論は大歓迎である。ぜひ経済政策の講義を通じて、経済学の魅力を感じてください。								
オフィスアワー	大学から付与された学籍番号付きの Microsoft 365のメールアドレスで予め教員と連絡してアポを取ってください。								
アクティブラーニングの内容	授業中、教員よりの意見共有や学生から意見発表を行ってもらい、問題の演習も行う。								
その他									

講義コード	11C0111901	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員		開講期	
科目名	経済政策論2				王ゼイ		第2期		
履修前提条件					備考				
授業の目的	経済政策とは、経済学の理論に基づき、様々な経済問題を是正・改善するための政策である。この講義は、経済政策を理解する上で必要なマクロ経済学を復習し、それを使って様々な経済政策を理解することを目的とする。具体的に、「金融・財政政策」、「裁量とコミットメント」といったマクロ経済政策のトピックを取り上げて紹介する。								
到達目標	受講生はこの講義を履修することを通じて、標準的な経済学理論を使って、マクロ経済政策の仕組みを理解し、説明できることを到達目標とする。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	この科目では、授業時間外に、60時間以上の学修を行うことを必須とする。配布された講義資料とマイクロ経済学やマクロ経済学の教科書を参照しながら理解を深めて、各回の授業内容をしっかり予習・復習することは望ましい。なお、課題を出すことがあるので、必ず自分で考えて自力で解くようにしてください。								
授業計画	【第1回】経済政策の経済学基礎：国民経済計算とマクロ経済の統計① 【第2回】経済政策の経済学基礎：国民経済計算とマクロ経済の統計② 【第3回】経済政策の経済学基礎：国民経済計算とマクロ経済の統計③ 【第4回】IS-LM分析① 【第5回】IS-LM分析② 【第6回】IS-LM分析③ 【第7回】AS-AD分析① 【第8回】AS-AD分析②				【第9回】AS-AD分析③ 【第10回】AS-AD分析④ 【第11回】経済政策の「裁量」と「コミットメント」① 【第12回】経済政策の「裁量」と「コミットメント」② 【第13回】経済政策の「裁量」と「コミットメント」③ 【第14回】経済政策の「裁量」と「コミットメント」④ 【第15回】まとめ				
成績評価の方法	課題（40％）と期末試験（60％）で評価する。								
フィードバックの内容	この科目では、授業連絡用の Microsoft チームが立ち上げられ、履修者全員にチームに参加していただくことになっている。チームの参加方法は初回の授業時に説明する。事前に Microsoft Outlook と Teams のアプリを所持の端末にインストールしておいて、使用できるような状態にしてください。授業時間外では、授業に関するお知らせ、資料配布、フィードバック等はすべて Microsoft Teams を通じて行われる。課題の提出は WebClass を利用する。								
教科書									
指定図書	『経済政策』横山将義（成文堂）2012年、『ゼミナール経済政策入門』岩田規久男、飯田泰之（日本経済新聞社）2006年								
参考書	『マンキュー経済学I ミクロ編（第4版）』マンキュー（東洋経済新報社）2019年、『マンキュー経済学II マクロ編（第4版）』マンキュー（東洋経済新報社）2019年、『マンキュー入門経済学（第3版）』マンキュー（東洋経済新報社）2019年								
教員からのお知らせ	この科目は第1期の「経済政策論1」と合わせて履修することが望ましい。この科目では特定の教科書は使用せず、講義資料を配布し、その内容に沿ってパワーポイントと板書により、解説を行う。また、この科目の履修にあたって、マイクロ・マクロ経済学と経済数学関係の科目が履修済みであることは望ましい。質問・議論は大歓迎である。ぜひ経済政策の講義を通じて、経済学の魅力を感じてください。								
オフィスアワー	大学から付与された学籍番号付きの Microsoft 365のメールアドレスで予め教員と連絡してアポを取ってください。								
アクティブラーニングの内容	授業中、教員よりの意見共有や学生から意見発表を行ってもらい、問題の演習も行う。								
その他									

講義コード	11C0116301	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員	王 在詰	開講期	第1期
科目名	経済統計学Ⅰ				王 在詰			第1期	
履修前条件					備考				
授業の目的	<p>いろいろな経済社会の問題を考えようとするとき、現状をしっかり把握し、しかも正確な判断をくだすことができる根拠となるのは経済関連の統計データである。数量的なデータ分析は正しい結論を導くのに大きな助けになる。統計データは政府が定期的に発表する各種経済統計資料、あるいは日々の新聞や経済雑誌などから収集することができる。収集したデータを正確に統計解析すれば、経済の現状や問題点を客観的に理解することもできる。データ収集にあたっては経済統計学の知識が必要不可欠である。またデータ解析の過程においては統計分析の知識も重要な役割を果たしている。さらに言うと、経済統計学は現実の経済を分析するために必要な統計データについての基礎知識と分析手法、そして作成方法を研究する学問でもある。官庁や関係機関が公表した「経済統計」を使いこなすためには、まず、人口、労働力、雇用、農業、鉱工業、物価、金融などさまざまな分野においてどんな統計データが存在するか、それぞれの統計データはどのように作成され、どんな性質をもっているかなどについて学習する必要がある。</p> <p>以上のような認識のもと、この授業では重要な経済指標の読み方と使い方を履修者に勉強してもらうことを授業目標としている。履修者は1学期の勉強を通じて、自分でも重要な経済指標を収集し、分析することができる。また、日本経済の変動に対する識別能力も高まる。</p>								
到達目標	「経済統計学Ⅰ」の授業を通じて重要な経済指標についての読み方と使い方を把握することを到達目標としている。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	<p>授業外学修内容：『日本経済新聞』（朝刊）、主要参考文献などを勉強する。</p> <p>授業外学修時間：1コマ（90分授業）につき約60分の予習や復習の時間が必要である。</p>								
授業計画	<p>【第1回】ガイダンス：授業についての説明 【第2回】「経済統計学Ⅰ」へのイントロダクション 【第3回】重要な経済統計指標について1 【第4回】重要な経済統計指標について2 【第5回】アメリカの重要な経済統計指標1 【第6回】アメリカの重要な経済統計指標2 【第7回】諸外国の重要な経済指標1 【第8回】諸外国の重要な経済指標2 【第9回】第1回テスト 【第10回】景気動向の読み方1 【第11回】景気動向の読み方2 【第12回】日本経済の将来変動について1 【第13回】日本経済の将来変動について2 【第14回】全体のまとめ 【第15回】第2回テスト</p>								
成績評価の方法	課題レポート、テスト（2回）により総合評価を行う。								
フィードバックの内容									
教科書 指定図書	『世界インフレ時代の経済指標』エミン・ユルマズ（株式会社かんき出版）2023								
参考書	『経済指標の見方・使い方』日本銀行経済統計研究会（東洋経済新報社）2001、『経済分析を読む技術：統計データから日本経済の実態がわかる』妹尾芳彦・桑原進（ダイヤモンド社）2003								
教員からのお知らせ									
オフィスアワー	<p>時間：毎週木曜日6限（18：00-19：30） 場所：2号棟511研究室 事前連絡：wzz@ris.ac.jp</p>								
アクティブラーニングの内容 その他	教員からのフィードバックによる振り返り								

講義コード	11C0116401	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員	王 在詰	開講期	第2期
科目名	経済統計学2				王 在詰			第2期	
履修前条件					備考				
授業の目的	<p>いろいろな経済社会の問題を考えようとするとき、現状をしっかり把握し、しかも正確な判断をくだすことができる根拠となるのは経済関連の統計データである。数量的なデータ分析は正しい結論を導くのに大きな助けになる。統計データは政府が定期的に発表する各種経済統計資料、あるいは日々の新聞や経済雑誌などから収集することができる。収集したデータを正確に統計解析すれば、経済の現状や問題点を客観的に理解することもできる。データ収集にあたっては経済統計学の知識が必要不可欠である。またデータ解析の過程においては統計分析の知識も重要な役割を果たしている。さらに言うと、経済統計学は現実の経済を分析するために必要な統計データについての基礎知識と分析手法、そして作成方法を研究する学問でもある。官庁や関係機関が公表した「経済統計」を使いこなすためには、まず、人口、労働力、雇用、農業、鉱工業、物価、金融などさまざまな分野においてどんな統計データが存在するか、それぞれの統計データはどのように作成され、どんな性質をもっているかなどについて学習する必要がある。</p> <p>以上のような認識のもと、この授業では統計データの表章形式、統計調査の基本、家計調査、地域統計、国民経済統計などを履修者に勉強してもらおう。履修者は半年間の勉強を通じて、自分でも重要な経済統計データを収集し、分析することができる。経済社会の変動についての理解が高まる。</p>								
到達目標	「経済統計学2」の授業を通じて統計データの表章形式、統計調査の基本、国民経済統計（SNA）など重要な経済統計資料の読み方と使い方を把握することが到達目標である。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	<p>授業外学修内容：『日本経済新聞』（朝刊）、主要参考文献などを勉強する。</p> <p>授業外学修時間：1コマ（90分授業）につき約60分の予習や復習の時間が必要である。</p>								
授業計画	<p>【第1回】ガイダンス（授業についての説明）、経済統計の役割、経済学と経済統計</p> <p>【第2回】全数調査・標本調査1</p> <p>【第3回】全数調査・標本調査2</p> <p>【第4回】全数調査・標本調査3</p> <p>【第5回】時系列データ1</p> <p>【第6回】時系列データ2</p> <p>【第7回】価格指数・数量指数</p> <p>【第8回】人口と労働力</p> <p>【第9回】賃金と労働市場</p> <p>【第10回】家計調査</p> <p>【第11回】景気変動</p> <p>【第12回】国際収支</p> <p>【第13回】国民経済計算（SNA）1</p> <p>【第14回】国民経済計算（SNA）2</p> <p>【第15回】授業内テスト</p>								
成績評価の方法	課題レポートとテストで総合評価を行う。								
フィードバックの内容									
教科書 指定図書	『経済統計入門（第2版）』中村隆英・新家健精・美添泰人・豊田敬（東京大学出版会）1993								
参考書	『経済統計』清水雅彦・菅幹雄（培風館）2013、『経済分析を読む技術：統計データから日本経済の実態がわかる』妹尾芳彦・桑原進（ダイヤモンド社）2003、『よくわかる統計学Ⅱ：経済統計編（第2版）』御園謙吉・良永康平 編（ミネルヴァ書房）2011								
教員からのお知らせ	「経済統計学1」履修済が望ましい。								
オフィスアワー	<p>時間：毎週木曜日6限（18：00-19：30）</p> <p>場所：2号棟511研究室</p> <p>事前連絡：wzz@ris.ac.jp</p>								
アクティブラーニングの内容 その他	教員からのフィードバックによる振り返り								

講義コード	11C1110401	授業形態	講義・実習	抽選の有無	あり	担当教員		開講期	
科目名	経済フィールドワーク1(小林隆A)				小林 隆史		第1期		
履修前提条件					備考				
授業の目的	調査対象を様々な視点から観察し、独自の分析を行い、とりまとめて他者に正確に伝える力を鍛錬すること。調査対象は、原則として実際の経済・産業のフィールドとし、歴史・地勢・産業などのデータ収集とあわせて座学では得られない、現場における調査経験を通じて実践的に学ぶこと。また、基本的にグループ単位で調査・分析を行い、メンバー同士のコミュニケーション能力や協調性も体得すること。								
到達目標	対象とする経済・産業活動など、実際の現場に関する多角的な分析の視点を養い、データの収集や整理、関連情報のとりまとめができる。また、実態把握・問題解決などの目的をもって、調査を実践することができる。グループでの話し合いやとりまとめ分担などの共同作業に協調できる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	講義およびグループワークによる作業や議論が中心となるため、データ収集や資料のとりまとめなど、各自の分担作業については授業時間外に行うことが必要である。それらの作業に関して計60時間以上の授業外学修を実施することを推奨する。また、所定の授業時間以外に、単位取得上必須となる学外での現地調査を実施する。								
授業計画	【第1回】イントロダクション・フィールドワークとは 【第2回】個人発表(1) 【第3回】個人発表(2) 【第4回】調査と分析・分析手法の選択 【第5回】グループワーク(1) 【第6回】データ収集と集計 【第7回】グループワーク(2) 【第8回】ヒアリングとアンケート 【第9回】グループワーク(3) 【第10回】フィールドワークの準備 【第11回】グループワーク(4) 【第12回】プレゼンテーションの方法 【第13回】グループワーク(5) 【第14回】レポート作成の方法 【第15回】最終発表								
成績評価の方法	基本的に①レポート(20%)②学外フィールドワークへの取り組み姿勢(40%)③課題提出(10%)④グループワークへの貢献(20%)⑤授業態度(10%)の総合評価による。現地調査の実施が困難となった場合においては②以外の要素によって評価する。								
フィードバックの内容	授業内プレゼンテーションへの講評、グループワークや課題、レポートに対するアドバイスやレポート冊子の制作等を行う。								
教科書									
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ	グループでの作業が多いため、協調性やコミュニケーション能力を必要とする。 現地調査への参加は、単位取得に必須である。 やむを得ない事情以外の欠席・遅刻は認めない。								
オフィスアワー	質問・相談は学部学科にて定めるオフィスアワーにて、対面及びTeamsのビデオ通話等にて受付ける。また、Teamsの所定の箇所に質問・相談の投稿があれば、オフィスアワーにて返信を行う。								
アクティブラーニングの内容	調査対象地にて「フィールドワークを実施」する。課題解決型学習のテーマを設定し、「グループ・ワーク」での「グループ・ディスカッション」を経て、現地調査結果の「プレゼンテーション」を行う。								
その他	1) ガイダンス：本講義は履修登録の前に「経済フィールドワーク・ガイダンス」への参加が必要である。ガイダンスの詳細は学部ガイダンス資料、及びポータルサイトの通知を確認すること。 2) 募集人数：本講義の募集人数は20名前後とする(募集人数については変更の可能性あり)。 3) 調査対象地・時期：履修者は、原則として学外フィールドワーク(宮城県女川町：2泊3日、2024年5月3日～5日)を予定)への参加が必須である。 4) 費用：学外フィールドワーク費用(交通費・宿泊費・施設見学費など)のうち、履修者の負担分として20,000円程度を徴収する(金額は若干の増減可能性あり・原則として返金しない)。 5) 授業時間の振替：学外フィールドワークに充てた時間を授業時間より振り替えることがある。 6) 資料：参考資料等は適宜指示する。 7) 実践教育：宮城県女川町における震災復興施設・商店街の取り組み等におけるフィールドワークを通じて、課題解決に向けた実践的な教育を行う。								

講義コード	11C1110402	授業形態	講義・実習	抽選の有無	あり	担当教員	櫻井 一宏	開講期	第1期
科目名	経済フィールドワーク1(櫻井)				櫻井 一宏			第1期	
履修前提条件					備考				
授業の目的	調査対象を様々な視点から観察し、独自の分析を行い、とりまとめて他者に正確に伝える力を鍛錬すること。調査対象は、原則として実際の経済・産業のフィールドとし、歴史・地勢・産業などのデータ収集とあわせて座学では得られない、現場における調査経験を通じて実践的に学ぶこと。また、基本的にグループ単位で調査・分析を行い、メンバー同士のコミュニケーション能力や協調性も体得すること。								
到達目標	対象とする経済・産業活動など、実際の現場に関する多角的な分析の視点を養い、データの収集や整理、関連情報のとりまとめができる。また、実態把握・問題解決などの目的をもって、調査を実践することができる。グループでの話し合いやとりまとめ分担などの共同作業に協調できる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	講義およびグループワークによる作業や議論が中心となるため、データ収集や資料のとりまとめなど、各自の分担作業については授業時間外に行うことが必要である。それらの作業に関して計60時間以上の授業外学修を実施することを推奨する。また、所定の授業時間以外に単位取得上必須となる学外フィールドワークを実施する。								
授業計画	【第1回】 イントロダクション 【第2回】 フィールドワークとは 【第3回】 地域の調査と分析 【第4回】 データ収集と集計 【第5回】 ショート・プレゼンテーションの準備 【第6回】 ショート・プレゼンテーション 【第7回】 対象地域の分析 【第8回】 グループワーク① 【第9回】 グループワーク② 【第10回】 調査テーマの設定 【第11回】 グループワーク③ 【第12回】 グループワーク④ 【第13回】 フィールドワークの準備 【第14回】 グループワーク⑤ 【第15回】 グループワーク⑥								
成績評価の方法	基本的に①レポート(20%)②学外フィールドワークへの取り組み姿勢(40%)③課題提出(10%)④グループワークへの貢献(20%)⑤授業態度(10%)の総合評価による。学外フィールドワークの実施が困難となった場合においては②以外の要素によって評価する。								
フィードバックの内容	授業内プレゼンテーションへの講評、グループワークや課題、レポートに対するアドバイスやレポート冊子の制作等を行う。								
教科書									
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ	グループでの作業が多いため、協調性やコミュニケーション能力を必要とする。 学外フィールドワークへの参加は、単位取得に必須である。 やむを得ない事情以外の欠席・遅刻は認めない。								
オフィスアワー	質問・相談は学部学科にて定めるオフィスアワーにて、対面及びTeamsのビデオ通話等にて受け付ける。また、Teamsの所定の箇所に質問・相談の投稿があれば、オフィスアワーにて返信を行う。								
アクティブラーニングの内容	調査対象地にて「フィールドワークを実施」する。課題解決型学習のテーマを設定し、「グループ・ワーク」での「グループ・ディスカッション」を経て、学外フィールドワークの結果の「プレゼンテーション」を行う。								
その他	1) ガイダンス：本講義は履修登録の前に「経済フィールドワーク・ガイダンス」への参加が必要である。ガイダンスの詳細は学部ガイダンス資料、及びポータルサイトの通知を確認すること。 2) 募集人数：本講義の募集人数は15名前後とする(募集人数については変更の可能性あり)。 3) 調査対象地・時期：履修者は、原則として学外フィールドワーク(滋賀県長浜市：2泊3日、2024年8月下旬～9月中旬を予定)への参加が必須である。 4) 費用：学外フィールドワーク費用(交通費・宿泊費・施設見学費など)のうち、履修者の負担分として22,000円程度を徴収する(金額は若干の増減可能性あり・原則として返金しない)。 5) 授業時間の振替：学外フィールドワークに充てた時間を授業時間より振り替えることがある。 6) 資料：参考資料等は適宜指示する。 7) 実践教育：滋賀県長浜市における地域産業・まちづくり等のフィールドワークを通じて、課題解決に向けた実践的な教育を行う。 8) セット授業：本講義は評価も含め「経済フィールドワーク1(櫻井)」「経済フィールドワーク2(櫻井)」併せてのセット受講が必須となっており、どちらか一方の受講での単位取得はできない。同一年度において必ず両方を履修登録すること。								

講義コード	11C1110411	授業形態	講義・実習	抽選の有無	あり	担当教員		開講期	
科目名	経済フィールドワーク1(吉田)				吉田 友美		第1期		
履修前提条件					備考				
授業の目的	2011年3月11日に発生した「東北地方太平洋沖地震」から10年以上経つが、いまだ本震災の課題が残っているという。なぜ10年以上経過した現在でも完全に復興が困難なのは何故だろうか。本講義では、「仙台駅～仙台空港」間とフィールドワークの対象地とし、震災後に未だ解決されない課題とは何かについて明らかにすることを目的とする。								
到達目標	対象とする経済・産業活動など、実際の現場に関する多角的な分析の視点を養い、データの収集や整理、関連情報のとりまとめができる。また、実態把握・問題解決などの目的をもって、調査を実践することができる。グループでの話し合いやとりまとめ分担などの共同作業に協調できる。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	講義およびグループワークによる作業や議論が中心となるため、データ収集や資料のとりまとめなど、各自の分担作業については授業時間外に行うことが必要である。それらの作業に関して計60時間以上の授業外学修を実施することを推奨する。また、所定の授業時間以外に、単位取得上必須となる学外での現地調査を実施する。								
授業計画	【第1回】 イントロダクション・フィールドワークとは 【第2回】 個人発表(1) 【第3回】 個人発表(2) 【第4回】 調査と分析・分析手法の選択 【第5回】 グループワーク(1) 【第6回】 データ収集と集計 【第7回】 グループワーク(2) 【第8回】 ヒアリングとアンケート 【第9回】 グループワーク(3) 【第10回】 フィールドワークの準備 【第11回】 グループワーク(4) 【第12回】 プレゼンテーションの方法 【第13回】 グループワーク(5) 【第14回】 レポート作成の方法 【第15回】 最終発表								
成績評価の方法	基本的に①レポート(20%)②学外フィールドワークへの取り組み姿勢(40%)③課題提出(10%)④グループワークへの貢献(20%)⑤授業態度(10%)の総合評価による。現地調査の実施が困難となった場合においては②以外の要素によって評価する。								
フィードバックの内容	授業内プレゼンテーションへの講評、グループワークや課題、レポートに対するアドバイスやレポート冊子の制作等を行う。								
教科書	授業中に指示								
指定図書	授業中に指示								
参考書	授業中に指示								
教員からのお知らせ	グループでの作業が多いため、協調性やコミュニケーション能力を必要とする。 現地調査への参加は、単位取得に必須である。 やむを得ない事情以外の欠席・遅刻は認めない。								
オフィスアワー	質問・相談は学部学科にて定めるオフィスアワーにて、対面及びTeamsのビデオ通話等にて受付ける。また、Teamsの所定の箇所に質問・相談の投稿があれば、オフィスアワーにて返信を行う。								
アクティブラーニングの内容	調査対象地にて「フィールドワークを実施」する。課題解決型学習のテーマを設定し、「グループ・ワーク」での「グループ・ディスカッション」を経て、現地調査結果の「プレゼンテーション」を行う。								
その他	1. 本講義は履修登録の前に「経済フィールドワーク・ガイダンス」への参加が必要である。ガイダンス方法は年度によって異なるので、詳細は学部ガイダンス資料、及びポータルサイトの通知を確認すること。 2. 本講義の募集人数は20名前後とする(募集人数については変更の可能性あり)。 3. 履修者は、原則として学外フィールドワーク(宮城県仙台市:5月から7月の土日より1泊2日を予定)への参加が必須である。 4. 学外フィールドワーク費用(交通費・宿泊費・施設見学費など)のうち、履修者の負担分として18,000円程度を徴収する(金額は若干の増減可能性あり・原則として返金しない)。 5. 学外フィールドワークに充てた時間を授業時間より振り替えることがある。 6. 実践教育:仙台市における観光産業・まちづくり等のフィールドワークを通じて、課題解決に向けた実践的な教育を行う。 7. 参考資料等は適宜指示する。								

講義コード	11C1110412	授業形態	講義・実習	抽選の有無	あり	担当教員		開講期	
科目名	経済フィールドワーク1(小林幹)				小林 幹		第1期		
履修前条件					備考				
授業の目的	調査対象を様々な視点から観察し、独自の分析を行い、とりまとめて他者に正確に伝える力を鍛錬すること。調査対象は、原則として実際の経済・産業のフィールドとし、歴史・地勢・産業などのデータ収集とあわせて座学では得られない、現場における調査経験を通じて実践的に学ぶこと。また、基本的にグループ単位で調査・分析を行い、メンバー同士のコミュニケーション能力や協調性も体得すること。								
到達目標	対象とする経済・産業活動など、実際の現場に関する多角的な分析の視点を養い、データの収集や整理、関連情報のとりまとめができる。また、実態把握・問題解決などの目的をもって、調査を実践することができる。グループでの話し合いやとりまとめ分担などの共同作業に協調できる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	地域の実情や産業経済を把握し理解するための情報は多種多様であり、授業時間内外のグループワークや各自による資料収集と分析作業が必要となるため、60時間以上の授業外学修を行うことを推奨する。また、単位取得上必要となる学外における現地調査を実施するため、その日数や内容を事前に十分理解すること。								
授業計画	<p>授業テーマ：「温泉観光地と地域振興1」</p> <p>【第1回】ガイダンス（講義計画、講義資料、フィールドワークの概要、評価方法等）</p> <p>【第2回】自己紹介、グループ分け、地方の現状等</p> <p>【第3回】群馬県と山岳高原地域</p> <p>【第4回】観光と地域振興</p> <p>【第5回】みなかみ町と草津町の概況</p> <p>【第6回】域情報の種類と把握方法、課題提供</p> <p>【第7回】グループワーク① 課題発表</p> <p>【第8回】データの整理分析方法、課題提供</p> <p>【第9回】グループワーク②</p> <p>【第10回】プレゼンテーション（地域条件の分析結果1）</p> <p>【第11回】プレゼンテーション（地域条件の分析結果2）</p> <p>【第12回】プレゼンテーション（地域条件の分析結果3）</p> <p>【第13回】グループワーク③（現地調査方法の検討と課題の想定）</p> <p>【第14回】プレゼンテーション（調査内容の発表）</p> <p>【第15回】フィールドワーク計画と調整</p>								
成績評価の方法	基本的に①レポート（20%）②学外フィールドワークへの取り組み姿勢（40%）③課題提出（10%）④グループワークへの貢献（20%）⑤授業態度（10%）の総合評価による。現地調査の実施が困難となった場合においては②以外の要素によって評価する。								
フィードバックの内容	プレゼンテーションに対する講評を随時実施する。グループワークや課題に対する、アドバイスをを行う。								
教科書									
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ	現地調査への参加は、単位取得に必須である。やむを得ない事情以外の欠席・遅刻は認めない。グループでの作業の実施において、協調性やコミュニケーション能力を必要とする。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談方法についてはガイダンスで指示します。								
アクティブラーニングの内容	課題解決型学習、グループワーク、フィールドワーク								
その他	<p>1) ガイダンス：本講義は履修登録の前に「経済フィールドワーク・ガイダンス」への参加が必要である。ガイダンスの詳細は学部ガイダンス資料、及びポータルサイトの通知を確認すること。</p> <p>2) 募集人数：本講義の募集人数は20名前後とする（募集人数については変更の可能性あり）。</p> <p>3) 調査対象地・時期：履修者は、原則として学外フィールドワーク（群馬県草津町・みなかみ町：2泊3日、2024年8月上旬から中旬を予定）への参加が必須である。</p> <p>4) 費用：学外フィールドワーク費用（交通費・宿泊費・施設見学費など）のうち、履修者の負担分として20,000円程度を徴収する（金額は若干の増減可能性あり・原則として返金しない）。</p> <p>5) 授業時間の振替：学外フィールドワークに充てた時間を授業時間より振り替えることがある。</p> <p>6) 資料：参考資料等は適宜指示する。</p> <p>7) 実践教育：草津温泉、みなかみ温泉における観光産業・まちづくり等のフィールドワークを通じて、課題解決に向けた実践的な教育を行う。</p> <p>8) セット授業：本講義は評価も含め「経済フィールドワーク1（小林幹）」「経済フィールドワーク2（小林幹）」併せてのセット受講が必須となっており、どちらか一方の受講での単位取得はできない。同一年度において必ず両方を履修登録すること。</p>								

講義コード	11C1110513	授業形態	講義・実習	抽選の有無	あり	担当教員		開講期	
科目名	経済フィールドワーク1(柏崎)				櫻井 一宏		第1期		
履修前条件					備考				
授業の目的	調査対象を様々な視点から観察し、独自の分析を行い、とりまとめて他者に正確に伝える力を鍛錬すること。調査対象は、原則として実際の経済・産業のフィールドとし、歴史・地勢・産業などのデータ収集とあわせて座学では得られない、現場における調査経験を通じて実践的に学ぶこと。また、基本的にグループ単位で調査・分析を行い、メンバー同士のコミュニケーション能力や協調性も体得すること。								
到達目標	対象とする経済・産業活動など、実際の現場に関する多角的な分析の視点を養い、データの収集や整理、関連情報のとりまとめができる。また、実態把握・問題解決などの目的をもって、調査を実践することができる。グループでの話し合いやとりまとめ分担などの共同作業に協調できる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	講義およびグループワークによる作業や議論が中心となるため、データ収集や資料のとりまとめなど、各自の分担作業については授業時間外に行うことが必要である。それらの作業に関して計60時間以上の授業外学修を実施することを推奨する。また、所定の授業時間以外に、単位取得上必須となる学外での現地調査を実施する。								
授業計画	【第1回】 イントロダクション・フィールドワークとは 【第2回】 個人発表(1) 【第3回】 個人発表(2) 【第4回】 調査と分析・分析手法の選択 【第5回】 グループワーク(1) 【第6回】 データ収集と集計 【第7回】 グループワーク(2) 【第8回】 ヒアリングとアンケート 【第9回】 グループワーク(3) 【第10回】 フィールドワークの準備 【第11回】 グループワーク(4) 【第12回】 プレゼンテーションの方法 【第13回】 グループワーク(5) 【第14回】 レポート作成の方法 【第15回】 フィールドワークの準備								
成績評価の方法	基本的に①レポート(20%)②学外フィールドワークへの取り組み姿勢(40%)③課題提出(10%)④グループワークへの貢献(20%)⑤授業態度(10%)の総合評価による。現地調査の実施が困難となった場合においては②以外の要素によって評価する。								
フィードバックの内容	授業内プレゼンテーションへの講評、グループワークや課題、レポートに対するアドバイスやレポート冊子の制作等を行う。								
教科書									
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ	グループでの作業が多いため、協調性やコミュニケーション能力を必要とする。 現地調査への参加は、単位取得に必須である。 やむを得ない事情以外の欠席・遅刻は認めない。								
オフィスアワー	質問・相談は学部学科にて定めるオフィスアワーにて、対面及びTeamsのビデオ通話等にて受付ける。また、Teamsの所定の箇所に質問・相談の投稿があれば、オフィスアワーにて返信を行う。								
アクティブラーニングの内容	調査対象地にて「フィールドワークを実施」する。課題解決型学習のテーマを設定し、「グループ・ワーク」での「グループ・ディスカッション」を経て、現地調査結果の「プレゼンテーション」を行う。								
その他	1) ガイダンス：本講義は履修登録の前に「経済フィールドワーク・ガイダンス」への参加が必要である。ガイダンスの詳細は学部ガイダンス資料、及びポータルサイトの通知を確認すること。 2) 募集人数：本講義の募集人数は20名前後とする(募集人数については変更の可能性あり)。 3) 調査対象地・時期：履修者は、原則として学外フィールドワーク(新潟県柏崎市：2泊3日、2024年8月21日(水)～23日(金)を予定)への参加が必須である。 4) 費用：学外フィールドワーク費用(交通費・宿泊費・施設見学費など)のうち、履修者の負担分として20,000円程度を徴収する(金額は若干の増減可能性あり・原則として返金しない)。 5) 授業時間：通常の曜日時限の授業の代わりとして、学内での事前調査への参加が必須である。5月～7月の土曜日で各月から1日ずつ、現地調査直前日にて、3時限分ごとの事前調査実習を学内のパソコン教室で実施する。日程は5月18日(土)、6月15日(土)、7月13日(土)、8月20日(火)を予定している。なお、学外フィールドワークに充てた時間を授業時間より振り替えることがある。 6) 資料：参考資料等は適宜指示する。 7) 実践教育：新潟県柏崎市高柳町における観光施設・伝統産業・中山間地域での街づくり等のフィールドワークを通じて、課題解決に向けた実践的な教育を行う。 8) セット授業：本講義は評価も含め「経済フィールドワーク1(柏崎)」「経済フィールドワーク2(柏崎)」併せてのセット受講が必須となっており、どちらか一方のみの受講で単位取得はできない。同一年度において必ず両方を履修登録すること。また、両方の単位取得において所定の報告書提出が必須である。 9) 集中授業の形態をとるため確実に連絡がとれることが単位取得において重要となる。Outlook及びTeamsをスマートフォンにインストールし、連絡・アナウンスに対して直ぐに反応できるように準備しておくこと。								

講義コード	11C1110515	授業形態	講義・実習	抽選の有無	あり	担当教員		開講期	
科目名	経済フィールドワーク1(品川)				吉田 友美		第1期		
履修前提条件					備考				
授業の目的	調査対象を様々な視点から観察し、独自の分析を行い、とりまとめて他者に正確に伝える力を鍛錬すること。調査対象は、原則として実際の経済・産業のフィールドとし、歴史・地勢・産業などのデータ収集とあわせて座学では得られない、現場における調査経験を通じて実践的に学ぶこと。また、基本的にグループ単位で調査・分析を行い、メンバー同士のコミュニケーション能力や協調性も体得すること。								
到達目標	対象とする経済・産業活動など、実際の現場に関する多角的な分析の視点を養い、データの収集や整理、関連情報のとりまとめができる。また、実態把握・問題解決などの目的をもって、調査を実践することができる。グループでの話し合いやとりまとめ分担などの共同作業に協調できる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	講義およびグループワークによる作業や議論が中心となるため、データ収集や資料のとりまとめなど、各自の分担作業については授業時間外に行うことが必要である。それらの作業に関して計60時間以上の授業外学修を実施することを推奨する。また、所定の授業時間以外に、単位取得上必須となる学外での現地調査を実施する。								
授業計画	【第1回】 イントロダクション・フィールドワークとは 【第2回】 個人発表(1) 【第3回】 個人発表(2) 【第4回】 調査と分析・分析手法の選択 【第5回】 グループワーク(1) 【第6回】 データ収集と集計 【第7回】 グループワーク(2) 【第8回】 ヒアリングとアンケート 【第9回】 グループワーク(3) 【第10回】 フィールドワークの準備 【第11回】 グループワーク(4) 【第12回】 プレゼンテーションの方法 【第13回】 グループワーク(5) 【第14回】 レポート作成の方法 【第15回】 最終発表								
成績評価の方法	基本的に①レポート(20%)②学外フィールドワークへの取り組み姿勢(40%)③課題提出(10%)④グループワークへの貢献(20%)⑤授業態度(10%)の総合評価による。現地調査の実施が困難となった場合においては②以外の要素によって評価する。								
フィードバックの内容	授業内プレゼンテーションへの講評、グループワークや課題、レポートに対するアドバイスやレポート冊子の制作等を行う。								
教科書									
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ	グループでの作業が多いため、協調性やコミュニケーション能力を必要とする。 現地調査への参加は、単位取得に必須である。 やむを得ない事情以外の欠席・遅刻は認めない。								
オフィスアワー	質問・相談は学部学科にて定めるオフィスアワーにて、対面及びTeamsのビデオ通話等にて受付ける。また、Teamsの所定の箇所に質問・相談の投稿があれば、オフィスアワーにて返信を行う。								
アクティブラーニングの内容	調査対象地にて「フィールドワークを実施」する。課題解決型学習のテーマを設定し、「グループ・ワーク」での「グループ・ディスカッション」を経て、現地調査結果の「プレゼンテーション」を行う。								
その他	1) ガイダンス：本講義は履修登録の前に「経済フィールドワーク・ガイダンス」への参加が必要である。ガイダンスの詳細は学部ガイダンス資料、及びポータルサイトの通知を確認すること。 2) 募集人数：本講義の募集人数は20名前後とする(募集人数については変更の可能性あり)。 3) 調査対象地・時期：履修者は、原則として学外フィールドワーク(東京都品川区・戸越銀座商店街周辺：土日いずれかで日帰り調査計2回(2024年4月下旬と6月上旬)を予定)への参加が必須である。 4) 費用：学外フィールドワーク費用(交通費・宿泊費・施設見学費など)のうち、履修者の負担分として2,000円程度を徴収する(金額は若干の増減可能性あり・原則として返金しない)。 5) 授業時間：学外フィールドワークに充てた時間を授業時間より振り替えることがある。 6) 資料：参考資料等は適宜指示する。 7) 実践教育：戸越銀座商店街周辺における街づくり等のフィールドワークを通じて、課題解決に向けた実践的な教育を行う。								

講義コード	11C1110501	授業形態	講義・実習	抽選の有無	あり	担当教員		開講期	
科目名	経済フィールドワーク2(櫻井)				櫻井 一宏		第2期		
履修前条件					備考				
授業の目的	調査対象を様々な視点から観察し、独自の分析を行い、とりまとめて他者に正確に伝える力を鍛錬すること。調査対象は、原則として実際の経済・産業のフィールドとし、歴史・地勢・産業などのデータ収集とあわせて座学では得られない、現場における調査経験を通じて実践的に学ぶこと。また、基本的にグループ単位で調査・分析を行い、メンバー同士のコミュニケーション能力や協調性も体得すること。								
到達目標	対象とする経済・産業活動など、実際の現場に関する多角的な分析の視点を養い、データの収集や整理、関連情報のとりまとめができる。また、実態把握・問題解決などの目的をもって、調査を実践することができる。グループでの話し合いやとりまとめ分担などの共同作業に協調できる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	講義およびグループワークによる作業や議論が中心となるため、データ収集や資料のとりまとめなど、各自の分担作業については授業時間外に行うことが必要である。それらの作業に関して計60時間以上の授業外学修を実施することを推奨する。また、所定の授業時間以外に単位取得上必須となる学外フィールドワークを実施する。								
授業計画	【第1回】イントロダクション 【第2回】調査内容のとりまとめ 【第3回】グループワーク① 【第4回】分析と考察 【第5回】グループワーク② 【第6回】グループワーク③ 【第7回】プレゼンテーションの準備 【第8回】グループワーク④ 【第9回】グループワーク⑤ 【第10回】プレゼンテーションと質疑応答① 【第11回】プレゼンテーションと質疑応答② 【第12回】レポート作成① 【第13回】レポート作成② 【第14回】レポート作成③ 【第15回】まとめ								
成績評価の方法	基本的に①レポート(20%)②学外フィールドワークへの取り組み姿勢(40%)③課題提出(10%)④グループワークへの貢献(20%)⑤授業態度(10%)の総合評価による。学外フィールドワークの実施が困難となった場合においては②以外の要素によって評価する。								
フィードバックの内容	授業内プレゼンテーションへの講評、グループワークや課題、レポートに対するアドバイスやレポート冊子の制作等を行う。								
教科書									
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ	グループでの作業が多いため、協調性やコミュニケーション能力を必要とする。 学外フィールドワークへの参加は、単位取得に必須である。 やむを得ない事情以外の欠席・遅刻は認めない。								
オフィスアワー	質問・相談は学部学科にて定めるオフィスアワーにて、対面及びTeamsのビデオ通話等にて受け付ける。また、Teamsの所定の箇所に質問・相談の投稿があれば、オフィスアワーにて返信を行う。								
アクティブラーニングの内容	調査対象地にて「フィールドワークを実施」する。課題解決型学習のテーマを設定し、「グループ・ワーク」での「グループ・ディスカッション」を経て、学外フィールドワークの結果の「プレゼンテーション」を行う。								
その他	1) ガイダンス：本講義は履修登録の前に「経済フィールドワーク・ガイダンス」への参加が必要である。ガイダンスの詳細は学部ガイダンス資料、及びポータルサイトの通知を確認すること。 2) 募集人数：本講義の募集人数は15名前後とする(募集人数については変更の可能性あり)。 3) 調査対象地・時期：履修者は、原則として学外フィールドワーク(滋賀県長浜市：2泊3日、2024年8月下旬～9月中旬を予定)への参加が必須である。 4) 費用：学外フィールドワーク費用(交通費・宿泊費・施設見学費など)のうち、履修者の負担分として22,000円程度を徴収する(金額は若干の増減可能性あり・原則として返金しない)。 5) 授業時間の振替：学外フィールドワークに充てた時間を授業時間より振り替えることがある。 6) 資料：参考資料等は適宜指示する。 7) 実践教育：滋賀県長浜市における地域産業・まちづくり等のフィールドワークを通じて、課題解決に向けた実践的な教育を行う。 8) セット授業：本講義は評価も含め「経済フィールドワーク1(櫻井)」「経済フィールドワーク2(櫻井)」併せてのセット受講が必須となっており、どちらか一方の受講での単位取得はできない。同一年度において必ず両方を履修登録すること。								

講義コード	11C1110502	授業形態	講義・実習	抽選の有無	あり	担当教員		開講期	
科目名	経済フィールドワーク2(小林隆A)				小林 隆史		第2期		
履修前提条件					備考				
授業の目的	調査対象を様々な視点から観察し、独自の分析を行い、とりまとめて他者に正確に伝える力を鍛錬すること。調査対象は、原則として実際の経済・産業のフィールドとし、歴史・地勢・産業などのデータ収集とあわせて座学では得られない、現場における調査経験を通じて実践的に学ぶこと。また、基本的にグループ単位で調査・分析を行い、メンバー同士のコミュニケーション能力や協調性も体得すること。								
到達目標	対象とする経済・産業活動など、実際の現場に関する多角的な分析の視点を養い、データの収集や整理、関連情報のとりまとめができる。また、実態把握・問題解決などの目的をもって、調査を実践することができる。グループでの話し合いやとりまとめ分担などの共同作業に協調できる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	講義およびグループワークによる作業や議論が中心となるため、データ収集や資料のとりまとめなど、各自の分担作業については授業時間外に行うことが必要となり、計60時間以上の授業外学修を実施することを推奨する。また、所定の授業時間以外に、単位取得上必須となる学外での現地調査を実施する。								
授業計画	【第1回】 イントロダクション・フィールドワークとは 【第2回】 個人発表（1） 【第3回】 個人発表（2） 【第4回】 調査と分析・分析手法の選択 【第5回】 グループワーク（1） 【第6回】 データ収集と集計 【第7回】 グループワーク（2） 【第8回】 ヒアリングとアンケート 【第9回】 グループワーク（3） 【第10回】 フィールドワークの準備 【第11回】 グループワーク（4） 【第12回】 プレゼンテーションの方法 【第13回】 グループワーク（5） 【第14回】 レポート作成の方法 【第15回】 最終発表								
成績評価の方法	基本的に①レポート（20%）②学外フィールドワークへの取り組み姿勢（40%）③課題提出（10%）④グループワークへの貢献（20%）⑤授業態度（10%）の総合評価による。現地調査の実施が困難となった場合においては②以外の要素によって評価する。								
フィードバックの内容	授業内プレゼンテーションへの講評、グループワークや課題、レポートに対するアドバイスやレポート冊子の制作等を行う。								
教科書									
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ	グループでの作業が多いため、協調性やコミュニケーション能力を必要とする。 現地調査への参加は、単位取得に必須である。 やむを得ない事情以外の欠席・遅刻は認めない。								
オフィスアワー	質問・相談は学部学科にて定めるオフィスアワーにて、対面及びTeamsのビデオ通話等にて受付ける。また、Teamsの所定の箇所に質問・相談の投稿があれば、オフィスアワーにて返信を行う。								
アクティブラーニングの内容	調査対象地にて「フィールドワークを実施」する。課題解決型学習のテーマを設定し、「グループ・ワーク」での「グループ・ディスカッション」を経て、現地調査結果の「プレゼンテーション」を行う。								
その他	1) ガイダンス：本講義は履修登録の前に「経済フィールドワーク・ガイダンス」への参加が必要である。ガイダンスの詳細は学部ガイダンス資料、及びポータルサイトの通知を確認すること。 2) 募集人数：本講義の募集人数は20名前後とする（募集人数については変更の可能性あり）。 3) 調査対象地・時期：履修者は、原則として学外フィールドワーク（茨城県石岡市：1泊2日、2024年10月26日（土）～27日（日）を予定）への参加が必須である。 4) 費用：学外フィールドワーク費用（交通費・宿泊費・施設見学費など）のうち、履修者の負担分として8,000円程度を徴収する（金額は若干の増減可能性あり・原則として返金しない）。 5) 授業時間の振替：学外フィールドワークに充てた時間を授業時間より振り替えることがある。 6) 資料：参考資料等は適宜指示する。 7) 実践教育：茨城県石岡市における歴史的街並み・観光施設での取り組み等におけるフィールドワークを通じて、課題解決に向けた実践的な教育を行う。								

講義コード	11C1110505	授業形態	講義・実習	抽選の有無	あり	担当教員		開講期	
科目名	経済フィールドワーク1(小林隆B)				小林 隆史		第1期		
履修前条件					備考				
授業の目的	調査対象を様々な視点から観察し、独自の分析を行い、とりまとめて他者に正確に伝える力を鍛錬すること。調査対象は、原則として実際の経済・産業のフィールドとし、歴史・地勢・産業などのデータ収集とあわせて座学では得られない、現場における調査経験を通じて実践的に学ぶこと。また、基本的にグループ単位で調査・分析を行い、メンバー同士のコミュニケーション能力や協調性も体得すること。								
到達目標	対象とする経済・産業活動など、実際の現場に関する多角的な分析の視点を養い、データの収集や整理、関連情報のとりまとめができる。また、実態把握・問題解決などの目的をもって、調査を実践することができる。グループでの話し合いやとりまとめ分担などの共同作業に協調できる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	講義およびグループワークによる作業や議論が中心となるため、データ収集や資料のとりまとめなど、各自の分担作業については授業時間外に行うことが必要である。それらの作業に関して計60時間以上の授業外学修を実施することを推奨する。また、所定の授業時間以外に、単位取得上必須となる学外での現地調査を実施する。								
授業計画	【第1回】 イントロダクション・フィールドワークとは 【第2回】 個人発表(1) 【第3回】 個人発表(2) 【第4回】 調査と分析・分析手法の選択 【第5回】 グループワーク(1) 【第6回】 データ収集と集計 【第7回】 グループワーク(2) 【第8回】 ヒアリングとアンケート 【第9回】 グループワーク(3) 【第10回】 フィールドワークの準備 【第11回】 グループワーク(4) 【第12回】 プレゼンテーションの方法 【第13回】 グループワーク(5) 【第14回】 レポート作成の方法 【第15回】 最終発表								
成績評価の方法	基本的に①レポート(20%)②学外フィールドワークへの取り組み姿勢(40%)③課題提出(10%)④グループワークへの貢献(20%)⑤授業態度(10%)の総合評価による。現地調査の実施が困難となった場合においては②以外の要素によって評価する。								
フィードバックの内容	授業内プレゼンテーションへの講評、グループワークや課題、レポートに対するアドバイスやレポート冊子の制作等を行う。								
教科書									
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ	グループでの作業が多いため、協調性やコミュニケーション能力を必要とする。 現地調査への参加は、単位取得に必須である。 やむを得ない事情以外の欠席・遅刻は認めない。								
オフィスアワー	質問・相談は学部学科にて定めるオフィスアワーにて、対面及びTeamsのビデオ通話等にて受付ける。また、Teamsの所定の箇所に質問・相談の投稿があれば、オフィスアワーにて返信を行う。								
アクティブラーニングの内容	調査対象地にて「フィールドワークを実施」する。課題解決型学習のテーマを設定し、「グループ・ワーク」での「グループ・ディスカッション」を経て、現地調査結果の「プレゼンテーション」を行う。								
その他	1) ガイダンス：本講義は履修登録の前に「経済フィールドワーク・ガイダンス」への参加が必要である。ガイダンスの詳細は学部ガイダンス資料、及びポータルサイトの通知を確認すること。 2) 募集人数：本講義の募集人数は20名前後とする(募集人数については変更の可能性あり)。 3) 調査対象地・時期：履修者は、原則として学外フィールドワーク(静岡県熱海市：1泊2日、2024年6月1日～2日を予定)への参加が必須である。 4) 費用：学外フィールドワーク費用(交通費・宿泊費・施設見学費など)のうち、履修者の負担分として9,000円程度を徴収する(金額は若干の増減可能性あり・原則として返金しない)。 5) 授業時間の振替：学外フィールドワークに充てた時間を授業時間より振り替えることがある。 6) 資料：参考資料等は適宜指示する。 7) 実践教育：静岡県熱海市における観光施設・歴史的建造物等におけるフィールドワークを通じて、課題解決に向けた実践的な教育を行う。 8) 「経済フィールドワーク2(小林隆)」を2021年度または2022年度に履修済みの学生は、調査対象地と担当教員が重複するため履修できない。履修登録をしても「抽選」にて落選するため、注意すること。								

講義コード	11C1110511	授業形態	講義・実習	抽選の有無	あり	担当教員	吉田 友美	開講期	第2期
科目名	経済フィールドワーク2(吉田)				吉田 友美		第2期		
履修前提条件					備考				
授業の目的	地方の人口は減少傾向であり、地方の観光地に国内外の観光客を呼び込むことが、地方創生の鍵となる。地方の観光地はそれぞれ多様な価値を持っている。しかし、それらの観光地の価値を金銭に換算するといくらになるかについては、未だ定かになっていないことが多い。そこで、本講義では、アンケート調査を用いて、地方の観光地が持つ価値の金銭的評価を環境評価手法を用いて測定することを目的とする。								
到達目標	(1) アンケート調査票を作成できるようになる。 (2) データの分析・解析ができるようになる。 (3) 分析結果を他人に分かりやすく伝えることができる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	講義およびグループワークによる作業や議論が中心となるため、データ収集や分析、資料のとりまとめなど、各自の分担作業については授業時間外に行うことが必要となり、計60時間以上の授業外学修を実施することを推奨する。また、所定の授業時間以外に、単位取得上必須となる学外でのフィールド調査を実施する。								
授業計画	【第1回】ガイダンス 【第2回】現地調査のための予習 【第3回】アンケート調査票作成 【第4回】経済評価のための学習 【第5回】データと統計についての学習 【第6回】経済評価のための学習 【第7回】フィールドワークの準備 【第8回】グループワーク 【第9回】データの入力と集計 【第10回】データ分析とその方法 【第11回】レポート作成・プレゼンの準備(1) 【第12回】レポート作成・プレゼンの準備(2) 【第13回】レポート作成・プレゼンの準備(3) 【第14回】レポート作成・プレゼンの準備(4) 【第15回】プレゼンテーション								
成績評価の方法	基本的に、①レポート(20%)、②学外フィールドワークへの取り組み姿勢(40%)、③課題提出(10%)、④グループワークへの貢献(20%)、⑤授業態度(10%)の総合評価によるが、今年度は現地調査の実施が困難となった場合においては、②以外の要素によって評価する。								
フィードバックの内容	授業内プレゼンテーションへの講評、グループワークや課題、レポートに対するアドバイスやレポート冊子の制作等を行う。								
教科書	講義中、適時指示								
指定図書	講義中、適時指示								
参考書	講義中、適時指示								
教員からのお知らせ	やむを得ない事情以外の欠席・遅刻は認めない。								
オフィスアワー	毎週、木曜日5限 ただし、必ず事前にメールでアポイントメントをとること。 メールアドレスは授業中に指示する。								
アクティブラーニングの内容	調査対象地にて「フィールドワークを実施」する。課題解決型学習のテーマを設定し、「グループ・ワーク」での「グループ・ディスカッション」を経て、現地調査結果の「プレゼンテーション」を行う。								
その他	1. 本講義は履修登録の前に「経済フィールドワーク・ガイダンス」への参加が必要である。ガイダンス方法は年度によって異なるので、詳細は学部ガイダンス資料、及びポータルサイトの通知を確認すること。 2. 本講義の募集人数は20名前後とする(募集人数については変更の可能性あり)。 3. 履修者は、原則として学外フィールドワーク(奈良県奈良市)11月の菊花祭の日において2泊3日を予定)への参加が必須である。したがって、本講義を履修する場合は、菊花祭に参加できなくなるので注意すると。 4. 学外フィールドワーク費用(交通費・宿泊費・施設見学費など)のうち、履修者の負担分として25,000円程度を徴収する(金額は若干の増減可能性あり・原則として返金しない)。ただし、調査対象地の変更に応じて金額は変更される。 5. 学外フィールドワークに充てた時間を授業時間より振り替えることがある。 6. 参考資料等は適宜指示する。 7. 奈良市における歴史遺産・観光施設等におけるフィールドワークを通じて、課題解決に向けた実践的な教育を行う。								

講義コード	11C1110512	授業形態	講義・実習	抽選の有無	あり	担当教員		開講期	
科目名	経済フィールドワーク2(小林幹)				小林 幹		第2期		
履修前条件					備考				
授業の目的	調査対象を様々な視点から観察し、独自の分析を行い、とりまとめて他者に正確に伝える力を鍛錬すること。調査対象は、原則として実際の経済・産業のフィールドとし、歴史・地勢・産業などのデータ収集とあわせて座学では得られない、現場における調査経験を通じて実践的に学ぶこと。また、基本的にグループ単位で調査・分析を行い、メンバー同士のコミュニケーション能力や協調性も体得すること。								
到達目標	対象とする経済・産業活動など、実際の現場に関する多角的な分析の視点を養い、データの収集や整理、関連情報のとりまとめができる。また、実態把握・問題解決などの目的をもって、調査を実践することができる。グループでの話し合いやとりまとめ分担などの共同作業に協調できる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	地域の実情や産業経済を把握し理解するための情報は多種多様であり、授業時間内外のグループワークや各自による資料収集と分析作業が必要となるため、60時間以上の授業外学修を行うことを推奨する。また、単位取得上必要となる学外における現地調査を実施するため、その日数や内容を事前に十分理解すること。								
授業計画	授業テーマ：「温泉観光地と地域振興2」 【第1回】 イントロダクション 調査の振り返り 【第2回】 調査及びヒアリング結果の報告1 【第3回】 調査及びヒアリング結果の報告2 【第4回】 グループワーク① 【第5回】 グループワーク② 【第6回】 プレゼンテーション（地域課題の再整理と補足調査結果の発表） 【第7回】 グループワーク③ 【第8回】 グループワーク④ 【第9回】 プレゼンテーション（地域課題への対応方策） 【第10回】 グループワーク⑤ 【第11回】 プレゼンテーション（展開方向の整理と施策の体系） 【第12回】 グループワーク⑥（パワーポイントの作成1） 【第13回】 グループワーク⑦（パワーポイントの作成2） 【第14回】 プレゼンテーション（最終報告案の発表） 【第15回】 最終調整、提言								
成績評価の方法	基本的に①レポート（20%）②学外フィールドワークへの取り組み姿勢（40%）③課題提出（10%）④グループワークへの貢献（20%）⑤授業態度（10%）の総合評価による。現地調査の実施が困難となった場合においては②以外の要素によって評価する。								
フィードバックの内容	プレゼンテーションに対する講評を随時実施する。グループワークや課題に対する、アドバイスをを行う。								
教科書									
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ	現地調査への参加は、単位取得に必須である。やむを得ない事情以外の欠席・遅刻は認めない。グループでの作業の実施において、協調性やコミュニケーション能力を必要とする。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談方法についてはガイダンスで指示します。								
アクティブラーニングの内容	課題解決型学習、グループワーク、フィールドワーク								
その他	1) ガイダンス：本講義は履修登録の前に「経済フィールドワーク・ガイダンス」への参加が必要である。ガイダンスの詳細は学部ガイダンス資料、及びポータルサイトの通知を確認すること。 2) 募集人数：本講義の募集人数は20名前後とする（募集人数については変更の可能性あり）。 3) 調査対象地・時期：履修者は、原則として学外フィールドワーク（群馬県草津町・みなかみ町：2泊3日、2024年8月上旬から中旬を予定）への参加が必須である。 4) 費用：学外フィールドワーク費用（交通費・宿泊費・施設見学費など）のうち、履修者の負担分として20,000円程度を徴収する（金額は若干の増減可能性あり・原則として返金しない）。 5) 授業時間の振替：学外フィールドワークに充てた時間を授業時間より振り替えることがある。 6) 資料：参考資料等は適宜指示する。 7) 実践教育：草津温泉、みなかみ温泉における観光産業・まちづくり等のフィールドワークを通じて、課題解決に向けた実践的な教育を行う。 8) セット授業：本講義は評価も含め「経済フィールドワーク1（小林幹）」「経済フィールドワーク2（小林幹）」併せてのセット受講が必須となっており、どちらか一方の受講での単位取得はできない。同一年度において必ず両方を履修登録すること。								

講義コード	11C1110514	授業形態	講義・実習	抽選の有無	あり	担当教員		開講期	
科目名	経済フィールドワーク2(柏崎)				櫻井 一宏		第2期		
履修前提条件					備考				
授業の目的	調査対象を様々な視点から観察し、独自の分析を行い、とりまとめて他者に正確に伝える力を鍛錬すること。調査対象は、原則として実際の経済・産業のフィールドとし、歴史・地勢・産業などのデータ収集とあわせて座学では得られない、現場における調査経験を通じて実践的に学ぶこと。また、基本的にグループ単位で調査・分析を行い、メンバー同士のコミュニケーション能力や協調性も体得すること。								
到達目標	対象とする経済・産業活動など、実際の現場に関する多角的な分析の視点を養い、データの収集や整理、関連情報のとりまとめができる。また、実態把握・問題解決などの目的をもって、調査を実践することができる。グループでの話し合いやとりまとめ分担などの共同作業に協調できる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	講義およびグループワークによる作業や議論が中心となるため、データ収集や資料のとりまとめなど、各自の分担作業については授業時間外に行うことが必要となり、計60時間以上の授業外学修を実施することを推奨する。また、所定の授業時間以外に、単位取得上必須となる学外での現地調査を実施する。								
授業計画	【第1回】 イントロダクション・フィールドワークとは 【第2回】 個人発表(1) 【第3回】 個人発表(2) 【第4回】 調査と分析・分析手法の選択 【第5回】 グループワーク(1) 【第6回】 データ収集と集計 【第7回】 グループワーク(2) 【第8回】 ヒアリングとアンケート 【第9回】 グループワーク(3) 【第10回】 フィールドワークの準備 【第11回】 グループワーク(4) 【第12回】 プレゼンテーションの方法 【第13回】 グループワーク(5) 【第14回】 レポート作成の方法 【第15回】 最終発表								
成績評価の方法	基本的に①レポート(20%)②学外フィールドワークへの取り組み姿勢(40%)③課題提出(10%)④グループワークへの貢献(20%)⑤授業態度(10%)の総合評価による。現地調査の実施が困難となった場合においては②以外の要素によって評価する。								
フィードバックの内容	授業内プレゼンテーションへの講評、グループワークや課題、レポートに対するアドバイスやレポート冊子の制作等を行う。								
教科書									
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ	グループでの作業が多いため、協調性やコミュニケーション能力を必要とする。 現地調査への参加は、単位取得に必須である。 やむを得ない事情以外の欠席・遅刻は認めない。								
オフィスアワー	質問・相談は学部学科にて定めるオフィスアワーにて、対面及びTeamsのビデオ通話等にて受付ける。また、Teamsの所定の箇所に質問・相談の投稿があれば、オフィスアワーにて返信を行う。								
アクティブラーニングの内容	調査対象地にて「フィールドワークを実施」する。課題解決型学習のテーマを設定し、「グループ・ワーク」での「グループ・ディスカッション」を経て、現地調査結果の「プレゼンテーション」を行う。								
その他	1) ガイダンス：本講義は履修登録の前に「経済フィールドワーク・ガイダンス」への参加が必要である。ガイダンスの詳細は学部ガイダンス資料、及びポータルサイトの通知を確認すること。 2) 募集人数：本講義の募集人数は20名前後とする(募集人数については変更の可能性あり)。 3) 調査対象地・時期：履修者は、原則として学外フィールドワーク(新潟県柏崎市：2泊3日、2024年8月21日(水)～23日(金)を予定)への参加が必須である。 4) 費用：学外フィールドワーク費用(交通費・宿泊費・施設見学費など)のうち、履修者の負担分として20,000円程度を徴収する(金額は若干の増減可能性あり・原則として返金しない)。 5) 授業時間の振替：学外フィールドワークに充てた時間を授業時間より振り替えることがある。 6) 資料：参考資料等は適宜指示する。 7) 実践教育：新潟県柏崎市高柳町における観光施設・伝統産業・中山間地域での街づくり等のフィールドワークを通じて、課題解決に向けた実践的な教育を行う。 8) セット授業：本講義は評価も含め「経済フィールドワーク1(柏崎)」「経済フィールドワーク2(柏崎)」併せてのセット受講が必須となっており、どちらか一方のみの受講で単位取得はできない。同一年度において必ず両方を履修登録すること。また、両方の単位取得において所定の報告書提出が必須である。								

講義コード	11C1110516	授業形態	講義・実習	抽選の有無	あり	担当教員		開講期	
科目名	経済フィールドワーク2(品川)				吉田 友美		第2期		
履修前条件					備考				
授業の目的	調査対象を様々な視点から観察し、独自の分析を行い、とりまとめて他者に正確に伝える力を鍛錬すること。調査対象は、原則として実際の経済・産業のフィールドとし、歴史・地勢・産業などのデータ収集とあわせて座学では得られない、現場における調査経験を通じて実践的に学ぶこと。また、基本的にグループ単位で調査・分析を行い、メンバー同士のコミュニケーション能力や協調性も体得すること。								
到達目標	対象とする経済・産業活動など、実際の現場に関する多角的な分析の視点を養い、データの収集や整理、関連情報のとりまとめができる。また、実態把握・問題解決などの目的をもって、調査を実践することができる。グループでの話し合いやとりまとめ分担などの共同作業に協調できる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	講義およびグループワークによる作業や議論が中心となるため、データ収集や資料のとりまとめなど、各自の分担作業については授業時間外に行うことが必要となり、計60時間以上の授業外学修を実施することを推奨する。また、所定の授業時間以外に、単位取得上必須となる学外での現地調査を実施する。								
授業計画	【第1回】 イントロダクション・フィールドワークとは 【第2回】 個人発表（1） 【第3回】 個人発表（2） 【第4回】 調査と分析・分析手法の選択 【第5回】 グループワーク（1） 【第6回】 データ収集と集計 【第7回】 グループワーク（2） 【第8回】 ヒアリングとアンケート 【第9回】 グループワーク（3） 【第10回】 フィールドワークの準備 【第11回】 グループワーク（4） 【第12回】 プレゼンテーションの方法 【第13回】 グループワーク（5） 【第14回】 レポート作成の方法 【第15回】 最終発表								
成績評価の方法	基本的に①レポート（20%）②学外フィールドワークへの取り組み姿勢（40%）③課題提出（10%）④グループワークへの貢献（20%）⑤授業態度（10%）の総合評価による。現地調査の実施が困難となった場合においては②以外の要素によって評価する。								
フィードバックの内容	授業内プレゼンテーションへの講評、グループワークや課題、レポートに対するアドバイスやレポート冊子の制作等を行う。								
教科書									
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ	グループでの作業が多いため、協調性やコミュニケーション能力を必要とする。 現地調査への参加は、単位取得に必須である。 やむを得ない事情以外の欠席・遅刻は認めない。								
オフィスアワー	質問・相談は学部学科にて定めるオフィスアワーにて、対面及びTeamsのビデオ通話等にて受付ける。また、Teamsの所定の箇所に質問・相談の投稿があれば、オフィスアワーにて返信を行う。								
アクティブラーニングの内容	調査対象地にて「フィールドワークを実施」する。課題解決型学習のテーマを設定し、「グループ・ワーク」での「グループ・ディスカッション」を経て、現地調査結果の「プレゼンテーション」を行う。								
その他	1) ガイダンス：本講義は履修登録の前に「経済フィールドワーク・ガイダンス」への参加が必要である。ガイダンスの詳細は学部ガイダンス資料、及びポータルサイトの通知を確認すること。 2) 募集人数：本講義の募集人数は20名前後とする（募集人数については変更の可能性あり）。 3) 調査対象地・時期：履修者は、原則として学外フィールドワーク（東京都品川区・大崎駅周辺：土日いずれかで日帰り調査計2回（2024年10月下旬と12月上旬）を予定）への参加が必須である。 4) 費用：学外フィールドワーク費用（交通費・宿泊費・施設見学費など）のうち、履修者の負担分として2,000円程度を徴収する（金額は若干の増減可能性あり・原則として返金しない）。 5) 授業時間：学外フィールドワークに充てた時間を授業時間より振り替えることがある。 6) 資料：参考資料等は適宜指示する。 7) 実践教育：品川区の大崎地域における街づくり等のフィールドワークを通じて、課題解決に向けた実践的な教育を行う。								

講義コード	11C1110517	授業形態	講義・実習	抽選の有無	あり	担当教員		開講期	
科目名	経済フィールドワーク1(武蔵野)				外木 好美		第1期		
履修前条件					備考				
授業の目的	調査対象を様々な視点から観察し、独自の分析を行い、とりまとめて他者に正確に伝える力を鍛錬すること。調査対象は、原則として実際の経済・産業のフィールドとし、歴史・地勢・産業などのデータ収集とあわせて座学では得られない、現場における調査経験を通じて実践的に学ぶこと。また、基本的にグループ単位で調査・分析を行い、メンバー同士のコミュニケーション能力や協調性も体得すること。								
到達目標	対象とする経済・産業活動など、実際の現場に関する多角的な分析の視点を養い、データの収集や整理、関連情報のとりまとめができる。また、実態把握・問題解決などの目的をもって、調査を実践することができる。グループでの話し合いやとりまとめ分担などの共同作業に協調できる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	講義およびグループワークによる作業や議論が中心となるため、データ収集や資料のとりまとめなど、各自の分担作業については授業時間外に行うことが必要である。それらの作業に関して計60時間以上の授業外学修を実施することを推奨する。また、所定の授業時間以外に、単位取得上必須となる学外での現地調査を実施する。								
授業計画	【第1回】イントロダクション・フィールドワークとは 【第2回】個人発表(1) 【第3回】個人発表(2) 【第4回】調査と分析・分析手法の選択 【第5回】グループワーク(1) 【第6回】データ収集と集計 【第7回】グループワーク(2) 【第8回】ヒアリングとアンケート 【第9回】グループワーク(3) 【第10回】フィールドワークの準備 【第11回】グループワーク(4) 【第12回】プレゼンテーションの方法 【第13回】グループワーク(5) 【第14回】レポート作成の方法 【第15回】最終発表								
成績評価の方法	基本的に①レポート(20%)②学外フィールドワークへの取り組み姿勢(40%)③課題提出(10%)④グループワークへの貢献(20%)⑤授業態度(10%)の総合評価による。現地調査の実施が困難となった場合においては②以外の要素によって評価する。								
フィードバックの内容	授業内プレゼンテーションへの講評、グループワークや課題、レポートに対するアドバイスやレポート冊子の制作等を行う。								
教科書									
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ	グループでの作業が多いため、協調性やコミュニケーション能力を必要とする。 現地調査への参加は、単位取得に必須である。 やむを得ない事情以外の欠席・遅刻は認めない。								
オフィスアワー	質問・相談は学部学科にて定めるオフィスアワーにて、対面及びTeamsのビデオ通話等にて受付ける。また、Teamsの所定の箇所に質問・相談の投稿があれば、オフィスアワーにて返信を行う。								
アクティブラーニングの内容	調査対象地にて「フィールドワークを実施」する。課題解決型学習のテーマを設定し、「グループ・ワーク」での「グループ・ディスカッション」を経て、現地調査結果の「プレゼンテーション」を行う。								
その他	1) ガイダンス：本講義は履修登録の前に「経済フィールドワーク・ガイダンス」への参加が必要である。ガイダンスの詳細は学部ガイダンス資料、及びポータルサイトの通知を確認すること。 2) 募集人数：本講義の募集人数は20名前後とする(募集人数については変更の可能性あり)。 3) 調査対象地・時期：履修者は、原則として学外フィールドワーク(東京都武蔵野市・吉祥寺駅付近：2024年8月5日(月)～9日(金)のなかで日帰り調査1回を予定)への参加が必須である。 4) 費用：学外フィールドワーク費用(交通費・宿泊費・施設見学費など)のうち、履修者の負担分として2,000円程度を徴収する(金額は若干の増減可能性あり・原則として返金しない)。 5) 授業時間：通常の曜日時限の授業の代わりとして、日帰り調査の前後約3日を用いて学内での事前調査・事後分析への参加が必須である。なお、学外フィールドワークに充てた時間を授業時間より振り替えることがある。 6) 資料：参考資料等は適宜指示する。 7) 実践教育：吉祥寺駅周辺における観光施設・街づくり等のフィールドワークを通じて、課題解決に向けた実践的な教育を行う。 8) 集中授業の形態をとるため確実に連絡がとれることが単位取得において重要となる。メール・Teamsをスマートフォンにインストールし、連絡・アナウンスに対して直ぐに反応できるように準備しておくこと。								

講義コード	11C1110518	授業形態	講義・実習	抽選の有無	あり	担当教員	小林 隆史	開講期	第1期
科目名	経済フィールドワーク1(小布施)					小林 隆史	第1期		
履修前提条件						備考			
授業の目的	調査対象を様々な視点から観察し、独自の分析を行い、とりまとめて他者に正確に伝える力を鍛錬すること。調査対象は、原則として実際の経済・産業のフィールドとし、歴史・地勢・産業などのデータ収集とあわせて座学では得られない、現場における調査経験を通じて実践的に学ぶこと。また、基本的にグループ単位で調査・分析を行い、メンバー同士のコミュニケーション能力や協調性も体得すること。								
到達目標	対象とする経済・産業活動など、実際の現場に関する多角的な分析の視点を養い、データの収集や整理、関連情報のとりまとめができる。また、実態把握・問題解決などの目的をもって、調査を実践することができる。グループでの話し合いやとりまとめ分担などの共同作業に協調できる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	講義およびグループワークによる作業や議論が中心となるため、データ収集や資料のとりまとめなど、各自の分担作業については授業時間外に行うことが必要である。それらの作業に関して計60時間以上の授業外学修を実施することを推奨する。また、所定の授業時間以外に、単位取得上必須となる学外での現地調査を実施する。								
授業計画	【第1回】イントロダクション・フィールドワークとは 【第2回】個人発表(1) 【第3回】個人発表(2) 【第4回】調査と分析・分析手法の選択 【第5回】グループワーク(1) 【第6回】データ収集と集計 【第7回】グループワーク(2) 【第8回】ヒアリングとアンケート				【第9回】グループワーク(3) 【第10回】フィールドワークの準備 【第11回】グループワーク(4) 【第12回】プレゼンテーションの方法 【第13回】グループワーク(5) 【第14回】レポート作成の方法 【第15回】フィールドワークの準備				
成績評価の方法	基本的に①レポート(20%)②学外フィールドワークへの取り組み姿勢(40%)③課題提出(10%)④グループワークへの貢献(20%)⑤授業態度(10%)の総合評価による。現地調査の実施が困難となった場合においては②以外の要素によって評価する。								
フィードバックの内容	授業内プレゼンテーションへの講評、グループワークや課題、レポートに対するアドバイスやレポート冊子の制作等を行う。								
教科書									
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ	グループでの作業が多いため、協調性やコミュニケーション能力を必要とする。 現地調査への参加は、単位取得に必須である。 やむを得ない事情以外の欠席・遅刻は認めない。								
オフィスアワー	質問・相談は学部学科にて定めるオフィスアワーにて、対面及びTeamsのビデオ通話等にて受付ける。また、Teamsの所定の箇所に質問・相談の投稿があれば、オフィスアワーにて返信を行う。								
アクティブラーニングの内容	調査対象地にて「フィールドワークを実施」する。課題解決型学習のテーマを設定し、「グループ・ワーク」での「グループ・ディスカッション」を経て、現地調査結果の「プレゼンテーション」を行う。								
その他	<p>1) ガイダンス:本講義は履修登録の前に「経済フィールドワーク・ガイダンス」への参加が必要である。ガイダンスの詳細は学部ガイダンス資料、及びポータルサイトの通知を確認すること。</p> <p>2) 募集人数:本講義の募集人数は20名前後とする(募集人数については変更の可能性あり)。</p> <p>3) 調査対象地・時期:履修者は、原則として学外フィールドワーク(長野県小布施町:2泊3日,2024年9月4日(水)~6日(金))への参加が必須である。</p> <p>4) 費用:学外フィールドワーク費用(交通費・宿泊費・施設見学費など)のうち、履修者の負担分として16,000円程度を徴収する(金額は若干の増減可能性あり・原則として返金しない)。</p> <p>5) 授業時間:通常の日時限の授業の代わりとして、学内での事前調査への参加が必須である。5月~7月の土曜日で各月から1日ずつ、現地調査直前日にて、3時限分ごとの事前調査実習を学内のパソコン教室で実施する。日程は5月18日(土)、6月15日(土)、7月13日(土)、9月3日(火)を予定している。なお、学外フィールドワークに充てた時間を授業時間より振り替えることがある。</p> <p>6) 資料:参考資料等は適宜指示する。</p> <p>7) 実践教育:長野県小布施町における伝統産業・地域産業・街づくり等のフィールドワークを通じて、課題解決に向けた実践的な教育を行う。</p> <p>8) セット授業:本講義は評価も含め「経済フィールドワーク1(小布施)」「経済フィールドワーク2(小布施)」併せてのセット受講が必須となっており、どちらか一方のみの受講で単位取得はできない。同一年度において必ず両方を履修登録すること。また、両方の単位取得において所定の報告書提出が必須である。</p> <p>9) 集中授業の形態をとるため確実に連絡がとれることが単位取得において重要となる。Outlook及びTeamsをスマートフォンにインストールし、連絡・アナウンスに対して直ぐに反応できるように準備しておくこと。</p>								

講義コード	11C1110519	授業形態	講義・実習	抽選の有無	あり	担当教員		開講期	
科目名	経済フィールドワーク2(小布施)				小林 隆史		第2期		
履修前提条件					備考				
授業の目的	調査対象を様々な視点から観察し、独自の分析を行い、とりまとめて他者に正確に伝える力を鍛錬すること。調査対象は、原則として実際の経済・産業のフィールドとし、歴史・地勢・産業などのデータ収集とあわせて座学では得られない、現場における調査経験を通じて実践的に学ぶこと。また、基本的にグループ単位で調査・分析を行い、メンバー同士のコミュニケーション能力や協調性も体得すること。								
到達目標	対象とする経済・産業活動など、実際の現場に関する多角的な分析の視点を養い、データの収集や整理、関連情報のとりまとめができる。また、実態把握・問題解決などの目的をもって、調査を実践することができる。グループでの話し合いやとりまとめ分担などの共同作業に協調できる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	講義およびグループワークによる作業や議論が中心となるため、データ収集や資料のとりまとめなど、各自の分担作業については授業時間外に行うことが必要となり、計60時間以上の授業外学修を実施することを推奨する。また、所定の授業時間以外に、単位取得上必須となる学外での現地調査を実施する。								
授業計画	【第1回】 イントロダクション・フィールドワークとは 【第2回】 個人発表(1) 【第3回】 個人発表(2) 【第4回】 調査と分析・分析手法の選択 【第5回】 グループワーク(1) 【第6回】 データ収集と集計 【第7回】 グループワーク(2) 【第8回】 ヒアリングとアンケート 【第9回】 グループワーク(3) 【第10回】 フィールドワークの準備 【第11回】 グループワーク(4) 【第12回】 プレゼンテーションの方法 【第13回】 グループワーク(5) 【第14回】 レポート作成の方法 【第15回】 最終発表								
成績評価の方法	基本的に①レポート(20%)②学外フィールドワークへの取り組み姿勢(40%)③課題提出(10%)④グループワークへの貢献(20%)⑤授業態度(10%)の総合評価による。現地調査の実施が困難となった場合においては②以外の要素によって評価する。								
フィードバックの内容	授業内プレゼンテーションへの講評、グループワークや課題、レポートに対するアドバイスやレポート冊子の制作等を行う。								
教科書									
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ	グループでの作業が多いため、協調性やコミュニケーション能力を必要とする。 現地調査への参加は、単位取得に必須である。 やむを得ない事情以外の欠席・遅刻は認めない。								
オフィスアワー	質問・相談は学部学科にて定めるオフィスアワーにて、対面及びTeamsのビデオ通話等にて受付ける。また、Teamsの所定の箇所に質問・相談の投稿があれば、オフィスアワーにて返信を行う。								
アクティブラーニングの内容	調査対象地にて「フィールドワークを実施」する。課題解決型学習のテーマを設定し、「グループ・ワーク」での「グループ・ディスカッション」を経て、現地調査結果の「プレゼンテーション」を行う。								
その他	1) ガイダンス:本講義は履修登録の前に「経済フィールドワーク・ガイダンス」への参加が必要である。ガイダンスの詳細は学部ガイダンス資料、及びポータルサイトの通知を確認すること。 2) 募集人数:本講義の募集人数は20名前後とする(募集人数については変更の可能性あり)。 3) 調査対象地・時期:履修者は、原則として学外フィールドワーク(長野県小布施町:2泊3日,2024年9月4日(水)~6日(金)を予定)への参加が必須である。 4) 費用:学外フィールドワーク費用(交通費・宿泊費・施設見学費など)のうち、履修者の負担分として16,000円程度を徴収する(金額は若干の増減可能性あり・原則として返金しない)。 5) 授業時間の振替:学外フィールドワークに充てた時間を授業時間より振り替えることがある。 6) 資料:参考資料等は適宜指示する。 7) 実践教育:長野県小布施町における伝統産業・地域産業・街づくり等のフィールドワークを通じて、課題解決に向けた実践的な教育を行う。 8) セット授業:本講義は評価も含め「経済フィールドワーク1(小布施)」「経済フィールドワーク2(小布施)」併せてのセット受講が必須となっており、どちらか一方のみの受講で単位取得はできない。同一年度において必ず両方を履修登録すること。また、両方の単位取得において所定の報告書提出が必須である。								

講義コード	11C0124001	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員	市川 芳治	開講期	第1期
科目名	経済法				市川 芳治			第1期	
履修前提条件					備考				
授業の目的	<p>本講義では、日本の独占禁止法を核とする、経済法（競争法）について学びます。法律という、つい目の前の条文にとらわれがちですが、むしろ基本的な枠組み・考え方をしっかり身につけることを優先します。</p> <p>最近では、アマゾン、グーグルなど、身近なネット上の企業との関係も議論になっています。また、新型コロナウイルスをめぐっても、競争法には様々出番がありました。このような最新事例も盛り込んでいきます。</p>								
到達目標	<p>・今やビジネスでは無視できなくなった世界的に共通する経済法（競争法）の枠組みについて理解し、日常起る事象に適用できる（これにより、社会人としての活躍の幅を広げる）。</p> <p>・経済法と経済学の関係について説明できる。</p>								
授業外学修内容・授業外学修時間数	<p>・講義前に、教科書の通読を中心とした予習を行ってもらいます。</p> <p>・講義では、事件の読み解き方の筋道を中心に伝授しますので、講義後、様々なケースへの応用について、検討を行ってもらいます（復習のガイダンスともなっています）。</p> <p>上記に示した授業外の学修は、60時間以上行うこと。</p> <p>【第1回】ガイダンス（講義の進め方など）</p>								
授業計画	<p>冒頭の授業の目的に記したような方針で進めることで、近年改正の多い独占禁止法の本質を見誤ることもなく、また、ビジネスパーソンとして必須の知識となりつつある、米国・EU・中国ほか海外の競争法を理解する素地を養うことにもつながります。</p> <p>カルテル・入札談合等、意外と身近に、経済法の案件は転がっています（「独禁法」で検索をしてみてください）。具体事例で頭を使ってもらいながら、教科書をいわば副読本のようにして、講義を進めます。やりとりをしながら一緒に考えていきたいと思っていますので、頭を柔らかくして参加してもらえればと思います。</p> <p><経済法の基本的な枠組み・考え方の理解></p> <p>【第2回】 弊害要件総論（1）（市場とは何か）</p> <p>【第3回】 弊害要件総論（2）（反競争性とは何か）</p> <p>【第4回】 弊害要件総論（3）（正当化理由とは何か）</p> <p>【第5回】 行為類型ごとの行為要件と弊害要件（1）（競争停止とは何か）</p> <p>【第6回】 行為類型ごとの行為要件と弊害要件（2）（他者排除とは何か）</p> <p>【第7回】 行為類型ごとの行為要件と弊害要件（3）</p> <p>【第8回】 違反要件の諸問題</p> <p>【第9回】 不正手段</p> <p><日本の独占禁止法に沿った理解></p> <p>【第10回】 日本法の違反類型をめぐる総説</p> <p>【第11回】 不当な取引制限（いわゆるカルテル・入札談合事件等）</p> <p>【第12回】 私的独占</p> <p>【第13回】 不公正な取引方法</p> <p>【第14回】 企業結合規制</p> <p>【第15回】 事例演習</p>								
成績評価の方法	<p>授業中の小テスト（50%）、期末レポート（50%）にて評価します。基本的にこの2つで評価しますが、発言等での講義への貢献について、追加点として扱います。レポートは出来不出来というよりは、考え方が身に付いているかで評価します。</p>								
フィードバックの内容	<p>講義冒頭ないし講義中に小テストを実施し、その場及び次回講義冒頭にてフィードバックを行います。</p>								
教科書	<p>『独禁法講義〔第十版〕』白石忠志（有斐閣）2023</p>								
指定図書	<p>『独禁法講義〔第十版〕』白石忠志（有斐閣）2023</p>								
参考書	<p>『独禁法事例集』白石忠志（有斐閣）2017</p>								
教員からのお知らせ	<p>教科書、指定図書を基本に、適宜教材は配付致します。参考書は、より深く学びたい人向けに掲げてあります。</p>								
オフィスアワー	<p>事前の予約をしてくれば、適宜対応します。</p> <p>メールによる問い合わせ等でも結構です。</p> <p>e-mail: 4thestate@mail.goo.ne.jp</p>								
アクティブラーニングの内容	<p>小テスト等を活用して、教員からのフィードバックのよる振り返りを行い、学習効果を深めます。中間レポート的な形で、能動的な授業外学修も予定しています。</p>								
その他									

講義コード	11C0121001	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員		開講期	
科目名	計量経済学1				宮川 幸三		第1期		
履修前提条件					備考				
授業の目的	この授業では、経済の実証分析を行うために必要な知識の習得を目的として、計量経済学の基礎的な内容について講義する。計量経済学の様々な分析手法について、理論的な観点から理解を深めるとともに、Excelを用いたパソコン演習を行うことによって、より実践的な分析能力を養うことを目標とする。								
到達目標	この授業を受けることにより、経済データを用いて単回帰分析をはじめとする基礎的な分析を行うことができる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	この科目では、60時間以上の授業外学修を行うこと。授業外学修では、テキストの該当箇所を読み予習を行うこと。授業中に行ったパソコン演習の復習を欠かさず行なうこと。								
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> 【第1回】 イントロダクション 【第2回】 計量経済学とは 【第3回】 経済データの扱い方 (1) 【第4回】 経済データの扱い方 (2) 【第5回】 経済データの扱い方 (3) 【第6回】 経済データの扱い方 (4) 【第7回】 記述統計の基礎 (1) 【第8回】 記述統計の基礎 (2) 【第9回】 記述統計の基礎 (3) 【第10回】 記述統計の基礎 (4) 【第11回】 単回帰モデル (1) 【第12回】 単回帰モデル (2) 【第13回】 単回帰モデル (3) 【第14回】 単回帰モデル (4) 【第15回】 総括 								
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢 (30%)、授業中に行う課題 (30%)、期末レポート (40%) によって評価する。到達目標に記載の内容について、自らの力で適切な分析をできることを期末レポートの評価基準とする。								
フィードバックの内容	課題の解説を授業時に行う。								
教科書	『44の例題で学ぶ計量経済学』唐渡広志 (オーム社) 2013年								
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ	大学1年次に学んだ数学、統計学、経済学および Excel の操作に関する基礎的な知識を前提として授業を行う。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、講義案内で示したオフィスアワーにおいて受付ける。								
アクティブラーニングの内容	意見共有、教員からのフィードバックによる振り返り、演習								
その他									

講義コード	11C0121101	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員		開講期	
科目名	計量経済学2				宮川 幸三		第2期		
履修前提条件					備考				
授業の目的	この授業では、経済の実証分析を行うために必要な知識の習得を目的として、計量経済学の基礎的な内容について講義する。計量経済学の様々な分析手法について、理論的な観点から理解を深めるとともに、Excelを用いたパソコン演習を行うことによって、より実践的な分析能力を養うことを目標とする。								
到達目標	この授業を受けることにより、経済データを用いて重回帰分析を行うことができる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	この科目では、60時間以上の授業外学修を行うこと。授業外学修では、テキストの該当箇所を読み予習を行うこと。授業中に行ったパソコン演習の復習を欠かさず行なうこと。								
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> 【第1回】 イントロダクション 【第2回】 単回帰モデルの復習 【第3回】 重回帰モデル (1) 【第4回】 重回帰モデル (2) 【第5回】 重回帰モデル (3) 【第6回】 重回帰モデル (4) 【第7回】 回帰モデルの仮説検定 (1) 【第8回】 回帰モデルの仮説検定 (2) 【第9回】 回帰モデルの仮説検定 (3) 【第10回】 回帰モデルの仮説検定 (4) 【第11回】 ダミー変数モデル (1) 【第12回】 ダミー変数モデル (2) 【第13回】 ダミー変数モデル (3) 【第14回】 最小2乗推定量の性質 【第15回】 総括 								
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢 (30%)、授業中に行う課題 (30%)、期末レポート (40%) によって評価する。到達目標に記載の内容について、自らの力で適切な分析をできることを期末レポートの評価基準とする。								
フィードバックの内容	課題の解説を授業時に行う。								
教科書	『44の例題で学ぶ計量経済学』唐渡広志 (オーム社) 2013年								
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ	大学1年次に学んだ数学、統計学、経済学および Excel の操作に関する基礎的な知識と、計量経済学1の内容を前提として授業を行う。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、講義案内で示したオフィスアワーにおいて受付ける。								
アクティブラーニングの内容	意見共有、教員からのフィードバックによる振り返り、演習								
その他									

講義コード	11C0119001	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員		開講期	
科目名	ゲーム理論				渡部 真弘		第1期		
履修前提条件					備考				
授業の目的	進級要件科目群において十分な学修成果が確認された場合に限り、古典的な完全競争市場の議論では扱われなかった個々の経済主体の行動を分析する視点を養い、様々な経済・社会問題に対する洞察力を培うために、最適反応やナッシュ均衡といった非協力ゲーム理論の基礎的概念の習得を目的とする。 進級要件科目群において十分な学修成果が確認されなかった場合、進級要件科目に該当する数学基礎で扱われるべき内容の習得を目的とする。								
到達目標	進級要件科目群において十分な学修成果が確認された場合、非協力ゲーム理論的な分析手法を用いて、簡素なモデル分析が可能となる。 進級要件科目群において十分な学修成果が確認されなかった場合、経済学部で常識的に用いられる書籍にある数式を用いた議論を理解することが可能となる。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	本科目では、授業開始時に実施する小テスト及び期末試験に向けた復習に取り組むために、週に少なくとも4時間（計60時間以上）の授業外学修が必要である。								
授業計画	<p>【第1回】進級要件科目である数学基礎・統計学基礎・ミクロ経済学基礎にかかわる学修成果の再評価 進級要件科目群において十分な学修成果が確認された場合、</p> <p>【第2回】標準型表現 【第3回】囚人のジレンマ 【第4回】最適反応（1） 【第5回】最適反応（2） 【第6回】ナッシュ均衡（1） 【第7回】ナッシュ均衡（2） 【第8回】経済学への応用（1） 【第9回】経済学への応用（2） 【第10回】経済学への応用（3） 【第11回】経済学への応用（4） 【第12回】経済学への応用（5） 【第13回】経済学への応用（6） 【第14回】経済学への応用（7） 【第15回】まとめ</p> <p>進級要件科目群において十分な学修成果が確認されなかった場合、</p> <p>【第2回】導入的内容：集合と数、絶対値と距離、代数学の法則：展開、因数分解 【第3回】代数学の法則：通分、累乗、総和（平均や分散に関する議論を含む） 【第4回】1変数関数の表記方法、定義域と値域、関数のグラフ 【第5回】線形関数、行列式を用いた連立方程式の解法 【第6回】2次関数・多項式 【第7回】授業第2回～第6回までの内容に関する小テスト 【第8回】べき関数、指数関数 【第9回】対数関数 【第10回】1変数関数の最適化問題への導入、接線と（第1次）導関数 【第11回】べき乗の微分公式、和・差・積・商の微分公式、合成関数の微分公式 【第12回】指数関数と対数関数の微分 【第13回】停留点、増減表（1） 【第14回】停留点、増減表（2） 【第15回】まとめ</p>								
成績評価の方法	評価割合は、授業第1回に実施する進級要件科目である数学基礎・統計学基礎・ミクロ経済学基礎で扱われた内容に関する学修成果の再評価に向けた試験10%、小テスト（授業第2回～授業第14回の13回分）40%、期末試験50%とする。								
フィードバックの内容	<p>(1) 進級要件科目である数学基礎・統計学基礎・ミクロ経済学基礎にかかわる学修成果の再評価に向けた試験について、採点結果に対する講評を行う。</p> <p>(2) 小テストの答案を採点した後、理解が不十分であると判断される内容を授業時間内で補足する。</p> <p>(3) 成績評価確定後、授業実施報告書を作成・配布する。</p>								
教科書 指定図書									
参考書	『An Introduction to Game Theory』Martin J. Osborne (Oxford University Press) 2009、『Game Theory (2nd Edition)』Michael Maschler, Eilon Solan, Shmuel Zamir (Cambridge University Press) 2020、『経済学のためのゲーム理論入門』Robert Gibbons (創文社) 1995、『Essential Mathematics for Economic Analysis (4th Edition)』Knut Sydsaeter, Peter Hammond, Arne Strom (Pearson) 2012、『Mathematical Analysis: A Straightforward Approach (2nd Edition)』K.G. Binmore (Cambridge University Press) 1982								
教員からのお知らせ	小テストや期末試験は記述式であり、単語を選択するマークシートのような簡易なものではない。試験問題を事前に配布しない。単位数に見合った学修時間を確保するつもりがなければ履修すべきではない。								
オフィスアワー	木曜日3時限、2号館516研究室 連絡や資料配布は、Microsoft Teams を通じて行う。Microsoft Teams のチームに参加するためのチームコードを授業第1回のガイダンス時に共有する。								
アクティブラーニングの内容	教員からのフィードバックによる振り返り：小テストの全ての問題において、細分化された採点項目に対する評価を返却することで、復習が十分ではない内容を学生に認識させる。								
その他	進級要件科目群において十分な学修成果が確認されなかった場合、2024年度より他の教員の担当科目の補講は1科目に限定する。その場合、経済学部に所属する1年次生向けの内容として、経済学を学ぶ上で不可欠となる数学を扱う。								

講義コード	11C0116701	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員	深澤 竜人	開講期	第1期
科目名	現代資本主義論 I								
履修前提条件					備考				
授業の目的	1年時に学習したマルクス経済学基礎を基に、資本主義という経済体制に関して、どのようにして成立したのか、どのように運動し発展してきたのか、そこでどのような問題性を併せ持っていたのか、これらをまず確認していく。その後、社会主義という資本主義とは別な体制が発生し、それとの対抗関係で資本主義はどのように展開してきたか、こうした諸相に関して日本を中心とし、諸外国との関係で理解していくことを目的とする。								
到達目標	上記のように、我々の生きている資本主義という経済体制に関して、成立と展開・発展、問題、これらの理解、社会主義との対抗関係での展開、その後の日本・アメリカとの推移、そして現在はどのようにになっているか、こうした諸相に関して日本を中心として、さらに諸外国との関係で理解していくことを目標とする。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	講義は板書で行っています。その復習を自身で興味ある様々な文献（特には下記の「参考書」）によって補っていくとよいです。 この授業は60時間以上の授業外学修を必要とします。								
授業計画	<p>【第1回】 ガイダンス 試験・出席・レポート等々に関して 本講義の全体内容</p> <p>【第2回】 資本主義の成立 I 封建制度の解体と資本主義の胎動</p> <p>【第3回】 資本主義の成立 II 産業革命・市民革命という事象</p> <p>【第4回】 資本主義の成立 III 資本主義経済の運動と成長・発展 対外展開</p> <p>【第5回】 資本主義の展開 I 日本における資本主義への移行 欧米との対比・比較 半封建的資本主義経済という歪曲構造</p> <p>【第6回】 資本主義の展開 II 植民地の拡大と帝国主義政策 列強の対立と帝国主義戦争</p> <p>【第7回】 資本主義の展開 III 戦争の一時的中断と世界大恐慌による第二次世界大戦</p> <p>【第8回】 資本主義の展開 IV 社会主義の成立と戦後の東西冷戦構造</p> <p>【第9回】 資本主義の展開 V 戦後アメリカを中心とした対社会主義政策 IMF・GATT 体制</p> <p>【第10回】 現代の資本主義 I (1950～60年代) 日本の高度経済成長</p> <p>【第11回】 現代の資本主義 II (1960～70年代) 日米経済逆転の諸相</p> <p>【第12回】 現代の資本主義 III (1970～80年代) この時期の資本主義の苦悩 スタグフレーション レーガノミクス 対日要求</p> <p>【第13回】 現代の資本主義 IV (1980～90年代) 日本のバブル経済</p> <p>【第14回】 現代の資本主義 V (1990～2000年代) バブルの崩壊とその後の長期不況</p> <p>【第15回】 現代の資本主義 VI 現代資本主義の近年の状況を説く</p> <p>* 講義内容は必要に応じて変更する場合があります。</p>								
成績評価の方法	コロナの状況や実際の受講人数を見てから決めていたのですが、現時点では授業への取り組み姿勢（50%）、レポート・試験（50%）としておきます。								
フィードバックの内容	毎回アクションペーパーを書いてもらって、間違った理解や質問には次回返信していく形態をとっています。								
教科書									
指定図書	『現代社会経済学』北村洋基（桜井書店）2013、『マルクス経済学簡易入門』深澤竜人（丸善雄松堂）2020								
参考書	『現代日本経済論』井村喜代子（有斐閣）2000年、『世界経済読本』宮崎勇ほか（東洋経済新報社）2002年、『ゼミナール国際経済入門』伊藤元重（日本経済新聞社）1996年、『世界経済論』大内力（東京大学出版会）1991年、『世界経済史入門』長岡新吉ほか（ミネルヴァ書房）1992年、『大戦後資本主義の変質と展開』井村喜代子（有斐閣）2016年								
教員からのお知らせ	通常は講義が一方通行にならないように、マイクを皆さんにお預けしまして、対話形式で行なっております。この点を了解しておいてください。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。								
アクティブラーニングの内容									
その他									

講義コード	11C0116801	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員	深澤 竜人	開講期	第2期
科目名	現代資本主義論2								
履修前条件					備考				
授業の目的	本講義では現代資本主義論Ⅰや1年時のマルクス経済学基礎を受けて、日本経済におけるその実態や諸相を把握していくことを目的とする。つまりは現代資本主義論Ⅰのさらに具体的な状況やその詳細を、我々の住む日本経済において改めて確認していくことを目的としている。Ⅰでは現代資本主義について歴史的展開や概論的なことを把握したが、Ⅱにおいてはその詳細と具体的側面の追究が本講義の目的となる。								
到達目標	上記でも述べたように、本講義では我々の住む現代資本主義のそれも日本経済における実態的追求を把握することが到達目標となる。それをマクロ的に、家計、企業、政策、その他各側面について言及していく。これらに関しての全般的理解への到達が本講義の最終目標となる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	講義は板書で行っていくため、その復習を自身で興味ある様々な文献（特には下記の「参考書」）で補っていくとよいです。この授業は60時間以上の授業外学修を必要とします。								
授業計画	<p>【第1回】ガイダンス 試験・出席・レポート等々に関して 本講義の全体内容</p> <p>【第2回】現代資本主義と日本の家計Ⅰ 消費性向 貯蓄率 エンゲル係数 シュワローベ係数</p> <p>【第3回】現代資本主義と日本の家計Ⅱ 金融機関と預入の金利・利息他</p> <p>【第4回】現代資本主義と日本の家計Ⅲ 金融機関と借入のリスク他</p> <p>【第5回】現代資本主義と日本の家計Ⅳ 日本と各国と比較する 貯蓄率・分配率・労働時間</p> <p>【第6回】現代資本主義と日本の企業Ⅰ 株式会社とは何か 株主総会の実相</p> <p>【第7回】現代資本主義と日本の企業Ⅱ 株式による企業の支配・買収</p> <p>【第8回】現代資本主義と日本の企業Ⅲ 株式投資論 株価変動の論理</p> <p>【第9回】現代資本主義と日本の企業Ⅳ 大企業の支配体制 政治との関わり</p> <p>【第10回】マルクス経済学から見た現代日本資本主義 国家独占資本主義（政官財の癒着）</p> <p>【第11回】現代資本主義と景気変動 理論と統計と日本経済での現況</p> <p>【第12回】現代日本資本主義と経済政策Ⅰ 格差社会 貧困化・低所得化</p> <p>【第13回】現代日本資本主義と経済政策Ⅱ 特に食料自給率と農業・食料政策に関して</p> <p>【第14回】現代資本主義の新しい問題 格差社会や環境問題による新自由主義の転換</p> <p>【第15回】現代日本資本主義と経済政策Ⅲ 日本資本主義の来年度予算</p> <p>* 講義内容は必要に応じて変更する場合があります。</p>								
成績評価の方法	コロナの状況や実際の受講人数を見てから決めていたのですが、現時点では授業への取り組み姿勢（50%）、レポート・試験（50%）としておきます。								
フィードバックの内容	毎回リアクションペーパーを書いてもらい、間違った理解や質問には次回返信していく形態をとっていました。								
教科書									
指定図書	『現代社会経済学』北村洋基（北村洋基）2013、『マルクス経済学簡易入門』深澤竜人（丸善雄松堂）2020								
参考書	『現代社会経済学』北村洋基（北村洋基）2013、『マルクス経済学簡易入門』深澤竜人（丸善雄松堂）2020								
教員からのお知らせ	通常は講義が一方通行にならないように、マイクを皆さんにお預けしまして、対話形式で行なっております。この点を了解しておいてください。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。								
アクティブラーニングの内容									
その他									

講義コード	11C0116901	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員	北原 克宣	開講期	第1期
科目名	現代資本主義論3								
履修前提条件					備考				
授業の目的	「現代資本主義論3」では、現代社会（現代資本主義）の仕組みについてマルクス経済学の視角から学ぶことを目的とする。当科目では、現代資本主義世界の構造について理論と現状の両面から学ぶことで現代資本主義が分析できるようになる。また、本科目は、1年次で学ぶ「マルクス経済学基礎」の応用科目としても位置づけられる。								
到達目標	①現代資本主義において生じている問題や課題を見出すことができ、これをマルクス経済学の概念を用いて専門的に説明したり論じたりすることができるようにする。 ②これからの社会のあり方に関心を持ち自分なりの考え方を説明できるようにする。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	授業前1週間の社会の動きについて新聞を読み、授業前には必ず授業で習う箇所のテキストや関連図書を読むなど、60時間以上の授業外学修を行うこと。								
授業計画	【第1回】現代資本主義の諸問題について 【第2回】社会的総資本の再生産と流通（1） 【第3回】社会的総資本の再生産と流通（2） 【第4回】資本主義分析の方法－レーニン「いわゆる市場問題について」を中心に－ 【第5回】資本主義分析の方法－山田盛太郎「日本資本主義分析」を中心に－ 【第6回】利潤率の傾向的低下法則（1） 【第7回】利潤率の傾向的低下法則（2） 【第8回】利子生み資本と利子（1） 【第9回】利子生み資本と利子（2） 【第10回】利子生み資本と利子（3） 【第11回】現代資本主義の分析－レーニン『帝国主義論』を中心に－ 【第12回】現代資本主義の分析－戦後日本資本主義の構造と展開－ 【第13回】現代資本主義の分析－21世紀資本主義世界の構造（1）－ 【第14回】現代資本主義の分析－21世紀資本主義世界の構造（2）－ 【第15回】まとめ－資本主義はどこへ向かうか－								
成績評価の方法	期末試験（100%）								
フィードバックの内容	リアクションペーパーに対するフィードバックを翌週の授業にて行う。								
教科書	『改訂新版 現代社会経済学』北村洋基（桜井書店）2013年								
指定図書	『経済と社会』長島誠一（桜井書店）2004年								
参考書									
教員からのお知らせ	◇授業で用いるスライド資料は、Teamsのフォルダに保存します。受講者は各自授業前にプリントして、持参してください。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部学科にて定めるオフィスアワーにて受け付けます。また、Teamsのチャットでも対応します。								
アクティブラーニングの内容	能動的な授業外学修								
その他									

講義コード	11C0123501	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員	鄭 裕静	開講期	第2期
科目名	憲法								
履修前提条件					備考				
授業の目的	日本社会で機能している「憲法」とは何か、「憲法」がどんな働きをしているか、さらに、「憲法」の基本的考え方や最も大切にしている考え方について身につけることを目的とする。								
到達目標	憲法の全体的な働きとその理解を深めることにより、日本国憲法が大切にしている考え方を身につける。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	この講義は、60時間以上の授業外学修を行うこと。各回の授業で扱うテーマについて、事前に配布した資料を読み、テーマの背景などを理解した上で、授業を受けること。授業中に指示した問題などを考察し、レスポンスやレポートを授業中に提出すること。								
授業計画	【第1回】オリエンテーション 【第2回】法と人間の人権：世界人権宣言と人権1 【第3回】法と人間の人権：世界人権宣言と人権2 【第4回】憲法とは何か。 【第5回】天皇制 【第6回】基本的人権 【第7回】包括的基本権 【第8回】平等 【第9回】精神的自由権 【第10回】学問の自由・経済的自由権 【第11回】経済的自由権（2）・人身の自由 【第12回】社会権 【第13回】参政権・統治機構（1） 【第14回】統治機構（2）内閣・裁判所 【第15回】地方自治・最終まとめ								
成績評価の方法	1. 授業中の小テスト（リアクションペーパー）60% 2. 最終レポート30% 3. 授業への取り組み姿勢10%								
フィードバックの内容	小テスト（レスポンス）及びリアクションペーパーに対するフィードバックは翌週授業内にて行う。授業内容に応じて教材のレジュメ及び参考資料を配布します。必要な場合、講義内で説明します。 ★詳しい内容は、第1回オリエンテーションで説明します。								
教科書									
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ	教科書指定はありませんが、講義進行に合わせて参考書や資料を紹介します。講義に関する詳しい内容は、第1回オリエンテーションで説明します。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。								
アクティブラーニングの内容	「意見共有」「教員からのフィードバックによる振り返り」「能動的な授業外学修」「グループ・ディスカッション」「ディベート」「グループ・ワーク」								
その他									

講義コード	11C0120801	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員		開講期	
科目名	公共経済学1				山口 和男		第1期		
履修前条件					備考				
授業の目的	どの時代でもどの地域でも政府は多くの経済活動を行っている。政府が経済活動を行わないとどうなるのだろうか？政府が経済活動を行うとどうなるのだろうか？この授業では政府の経済活動の意義について理解を深めることを目的とする。								
到達目標	政府の経済活動の意義について説明できる。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	各回ごとに教科書、講義ノート、演習を使って復習すること。 授業外に計60時間以上の学修を行うこと。								
授業計画	【第1回】 公共経済学とは 【第2回】 第1章 市場と政府 (1) 【第3回】 第1章 市場と政府 (2) 【第4回】 第2章 国民と投票 (1) 【第5回】 第2章 国民と投票 (2) 【第6回】 補論A 戦略型ゲーム (1) 【第7回】 補論A 戦略型ゲーム (2) 【第8回】 第3章 政党と政策 (1) 【第9回】 第3章 政党と政策 (2) 【第10回】 補論B 余剰 (1) 【第11回】 補論B 余剰 (2) 【第12回】 第4章 規制 (1) 【第13回】 第4章 規制 (2) 【第14回】 第5章 外部性 (1) 【第15回】 第5章 外部性 (2)								
成績評価の方法	定期試験 (100%) による。								
フィードバックの内容	演習問題のうち誤答が多かったものについては授業内で解説を行う。								
教科書	『基礎コース 公共経済学 第2版』井堀利宏 (新世社) 2015								
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ	『ミクロ経済学基礎』、『マクロ経済学基礎』、『ミクロ経済学』、『マクロ経済学』の単位を修得済みであることが望ましい。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部学科にて定めるオフィスアワーにて受け付けます。								
アクティブラーニングの内容	教員からのフィードバックによる振り返り								
その他									

講義コード	11C0120901	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員		開講期	
科目名	公共経済学2				山口 和男		第2期		
履修前条件					備考				
授業の目的	どの時代でもどの地域でも政府は多くの経済活動を行っている。政府が経済活動を行わないとどうなるのだろうか？政府が経済活動を行うとどうなるのだろうか？この授業では政府の経済活動の意義について理解を深めることを目的とする。								
到達目標	政府の経済活動の意義について説明できる。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	各回ごとに教科書、講義ノート、演習を使って復習すること。 授業外に計60時間以上の学修を行うこと。								
授業計画	【第1回】 第6章 公共財 (1) 【第2回】 第6章 公共財 (2) 【第3回】 第6章 公共財 (3) 【第4回】 第7章 公共支出の評価 (1) 【第5回】 第7章 公共支出の評価 (2) 【第6回】 第7章 公共支出の評価 (3) 【第7回】 第8章 課税 (1) 【第8回】 第8章 課税 (2) 【第9回】 第8章 課税 (3) 【第10回】 補論C ケインズ経済学 (1) 【第11回】 補論C ケインズ経済学 (2) 【第12回】 補論C ケインズ経済学 (3) 【第13回】 補論D 完全情報展開型ゲーム (1) 【第14回】 補論D 完全情報展開型ゲーム (2) 【第15回】 補論D 完全情報展開型ゲーム (3)								
成績評価の方法	定期試験 (100%) による。								
フィードバックの内容	演習問題のうち誤答が多かったものについては授業内で解説を行う。								
教科書	『基礎コース 公共経済学 第2版』井堀利宏 (新世社) 2015								
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ	『ミクロ経済学基礎』、『マクロ経済学基礎』、『ミクロ経済学』、『マクロ経済学』、『公共経済学1』の単位を修得済みであることが望ましい。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部学科にて定めるオフィスアワーにて受け付けます。								
アクティブラーニングの内容	教員からのフィードバックによる振り返り								
その他									

講義コード	11C0184001	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員		開講期	
科目名	行動経済学／行動経済学Ⅰ				和田 良子		第1期集中		
履修前提条件					備考				
授業の目的	経済学の現実的な応用として広く知られることになった行動経済学とはいかなる学問で、何を対象としているのか、何を説明できるのかを学びます。規範経済学では、個人が合理的であるという仮定を置いて、均衡に基づいた主体の戦略や市場の姿を叙述していました。しかし現実にはそれらの仮定が満たされないという認識に基づいて、規範経済学を修正します。体験的な学びを多く含みます。								
到達目標	行動経済学を通じて、規範経済学より深い理解とその限界を理解することが到達目標です。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	授業後に内容を確認するための小テスト・現実の社会における事例を調べる課題提出があります。課題提出のための時間は延べ60時間以上となります。								
授業計画	<p>【第1回】イントロダクション・行動経済学とはどのような学問か（教科書 第1講） 規範経済学、実験経済学との違いを理解します。</p> <p>【第2回】体験的にフレーミング、システム1とシステム2といった行動経済学におけるいくつかの概念を学びます。</p> <p>【第3回】オークションによる資源配分（教科書 第2講） 最適な戦略を理論的に学びます。入札者と落札者の戦略について、体験的に学びます。</p> <p>【第4回】「収益同値原理」また、「勝者の呪い」というオークションにおけるビヘイビラルなパラドックスについて学びます</p> <p>【第5回】オークションにおける戦略と株式市場</p> <p>【第6回】時間選好率のアノマリー（第9講）質問を通じて体験的に学びます。</p> <p>【第7回】心理学者や行動経済学者が明らかにした双曲線割引について学びます。</p> <p>【第8回】バックワードインダクションとあとまわしの理論（第9講）</p> <p>【第9回】セルフコントロールと消費理論</p> <p>【第10回】アディクションの理論</p> <p>【第11回】環境経済学と実験経済学（第10講）</p> <p>【第12回】京都議定書とパリ協定</p> <p>【第13回】排出量取引について体験的に学びます</p> <p>【第14回】環境経済学におけるナッジの事例について学びます</p> <p>【第15回】行動経済学の広がり限界（経済実験に振替の可能性あり）</p>								
成績評価の方法	1日ごとにまとめて出題される小テスト・授業内の教育用実験における理解内容により評価されます（100%）。								
フィードバックの内容	小テストについての解説や、授業内での質疑応答の時間を組み込みます								
教科書	『実験経済学・行動経済学15講（ライブラリ経済学15講 APPLIED 編）』和田良子（新世社）								
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ	集中講義ですので、1日中4コマ休んでしまうと単位が取得できなくなります。また、実質的に続き講義となるコマがあるので、十分気を付けてください。また、経済実験に参加いただけます。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談はポータルサイトを通じて対応します。								
アクティブラーニングの内容	授業内では体験的な教育用実験や仮想実験ののち、グループ内での議論があります。それを授業内で発表してもらい、学びを共有します。								
その他									

講義コード	11C0185001	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員		開講期	
科目名	行動ファイナンス／行動経済学2				和田 良子		第2期集中		
履修前提条件					備考				
授業の目的	ファイナンスを理解するうえで、規範的な理論のみならず、投資家のビヘイビュラルな行動を考慮に入れないでは現実の市場を理解することはできません。現実の観察から理論の矛盾を指摘し、それを内包する理論が現れるという形での学術的な研究がなされてきました。現代ファイナンス理論への道筋を学びます								
到達目標	現代ファイナンス理論を総合的・体系的に理解することができる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	集中講義で、ブロックごとに理解度を確かめる試験を行います。試験を解くにあたり、オンラインでの解説動画を提供する予定です。授業外の学修時間はのべ60時間以上を予定します。								
授業計画	【第1回】ファイナンス理論・確実性下の意思決定理論（教科書 第3講） 【第2回】合理的選好に基づいた顕示選好の弱公理とそこからの逸脱 【第3回】リスク下の意思決定理論（教科書 第4講） 【第4回】リスク下の意思決定理論と行動経済学 【第5回】ナイト流不確実性下の意思決定理論と実験経済学（教科書 第5講） 【第6回】ポートフォリオ選択の理論（第6講） 【第7回】ポートフォリオ選択の理論2（第6講） 【第8回】ナイーブなポートフォリオ選択（第6講） 【第9回】ナイーブなポートフォリオ選択（第6講） 【第10回】株式市場におけるファンダメンタルズバリュウ（第7講） 【第11回】株式市場におけるバブルの形成と実験経済学（第7講） 【第12回】株式市場における情報のアップデート（第8講） 【第13回】効率的市場仮説（第8講） 【第14回】株式市場における情報のアップデートとカスケード理論（第8講） 【第15回】まとめ（経済実験に振替となります）								
成績評価の方法	オンラインでの試験結果が100%です。								
フィードバックの内容	試験の解説によるフィードバックとなります。								
教科書	『実験経済学・行動経済学15講（ライブラリ経済学15講 APPLIED 編）』和田良子（新世社）								
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ	最初から理論的な内容がやや多くなります。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談はポータルサイトを通じて対応します。								
アクティブラーニングの内容	講義内容の一部は体験的な教育用実験を含みます。								
その他									

講義コード	11C3115801	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員		開講期	
科目名	コーポレート・ファイナンス3				外木 好美		第1期		
履修前提条件					備考				
授業の目的	企業がなぜ存在するのか、どのように行動するのか、どう組織化されるのかといった企業の問題を、経済学的に分析します。企業分析の道具としての経済理論を理解し、その上で、企業戦略や企業組織について、現実データも織り交ぜて学習します。そして、企業が持つ無形資産や企業の資金調達の方法が、どう企業に影響をもたらすのかを考えます。この授業「コーポレート・ファイナンス3」と第2期の「コーポレート・ファイナンス4」は、セットで履修するようにしてください。								
到達目標	①新古典派の利潤最大化に基づく企業理論と、②新古典派の限界と新しい企業理論、そして③産業組織論に基づく企業の戦略について学びます。①を基礎として、②では、資金調達の方法がどう企業価値に影響をもたらすのかを学びます。③では、近年無形資産として着目される広告・ブランドの戦略について、学びます。それぞれ、数式を使った理論モデルが登場します。⑦各理論モデルの構造と意味を理解し、④各理論から導かれた結果と現実事象との対応ができることを目標とします。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	授業では、理論モデルを多く扱います。授業では、理論モデルの構造やその直感的意味を解説します。課題を通じて、授業のポイントを整理し、現実経済の具体的な事例をインターネットや新聞等で調べましょう。企業の在り方は様々です。企業を調べる際の視点・視野を広げてください。授業外学修は60時間以上、行うこと。								
授業計画	【第1回】ガイダンス&序論 【第2回】生産・費用・利潤（1） 【第3回】生産・費用・利潤（2） 【第4回】財務・投資・成長（1） 【第5回】財務・投資・成長（2） 【第6回】財務・投資・成長（3） 【第7回】新しい企業理論（1） 【第8回】新しい企業理論（2）								
成績評価の方法	課題への取り組み姿勢（60%）と期末テストで成績（40%）を判断します。								
フィードバックの内容	各回に復習問題があり、課題として提出してもらいます。主な内容は、各章のポイントの整理、具体的な事例を挙げるといったものです。具体的な事例を能動的に調べることで理解が深まりますので、調べ方等も併せて質問してください。								
教科書	『企業経済学（プログレッシブ経済学シリーズ）』小田切 宏之（東洋経済新報社）2010								
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ	皆さんからの「あの企業はどうか?」「あの商品ってどうなんですか?」という質問は、先生にとっても非常に楽しいです。授業の際や Teams を通じて、声をかけてください。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部学科にて定めるオフィスアワーにて受け付けます。								
アクティブラーニングの内容	教員からのフィードバックによる振り返り、能動的な授業外学修								
その他									

講義コード	11C3115901	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員		開講期																	
科目名	コーポレート・ファイナンス4				外木 好美		第2期																		
履修前条件					備考																				
授業の目的	<p>企業がなぜ存在するのか、どのように行動するのか、どう組織化されるのかといった企業の問題を、経済学的に分析します。企業分析の道具としての経済理論を理解し、その上で、イノベーション戦略、企業組織や労働システムについて、現実データも織り交ぜて学習します。そして、企業が持つ無形資産や企業の資金調達の方法が、どう企業に影響をもたらすのかを考えます。</p> <p>第1期の「コーポレート・ファイナンス3」とこの授業「コーポレート・ファイナンス4」は、セットで履修するようにしてください。</p>																								
到達目標	<p>日本企業の特徴を、理論的に分析し、以下について理解することを目標とする：①R&Dといった無形資産が企業の成長・企業価値にどう影響を与えるのか、②企業集団・系列といった日本の企業組織がなぜ存在するのか、③合併・買収・提携がなぜ行われるのか、④雇用と技能形成にどのような関係があるのか。</p>																								
授業外学修内容・授業外学修時間数	<p>授業では、理論モデルを多く扱います。授業では、理論モデルの構造やその直感的意味を解説します。課題を通じて、授業のポイントを整理し、現実経済の具体的な事例をインターネットや新聞等で調べましょう。企業の在り方は様々です。企業を調べる際の視点・視野を広げてください。</p> <p>授業外学修は60時間以上、行うこと。</p>																								
授業計画	<table border="0"> <tr> <td>【第1回】イノベーション戦略(1)</td> <td>【第9回】多角化・多国籍化(2)</td> </tr> <tr> <td>【第2回】イノベーション戦略(2)</td> <td>【第10回】会社の形態</td> </tr> <tr> <td>【第3回】イノベーション戦略(3)</td> <td>【第11回】合併・買収・提携</td> </tr> <tr> <td>【第4回】企業はなぜ存在するのか(1)</td> <td>【第12回】労働システムとインセンティブ(1)</td> </tr> <tr> <td>【第5回】企業はなぜ存在するのか(2)</td> <td>【第13回】労働システムとインセンティブ(2)</td> </tr> <tr> <td>【第6回】垂直統合(1)</td> <td>【第14回】労働システムとインセンティブ(3)</td> </tr> <tr> <td>【第7回】垂直統合(2)</td> <td>【第15回】まとめ&質問受付</td> </tr> <tr> <td>【第8回】多角化・多国籍化(1)</td> <td></td> </tr> </table>									【第1回】イノベーション戦略(1)	【第9回】多角化・多国籍化(2)	【第2回】イノベーション戦略(2)	【第10回】会社の形態	【第3回】イノベーション戦略(3)	【第11回】合併・買収・提携	【第4回】企業はなぜ存在するのか(1)	【第12回】労働システムとインセンティブ(1)	【第5回】企業はなぜ存在するのか(2)	【第13回】労働システムとインセンティブ(2)	【第6回】垂直統合(1)	【第14回】労働システムとインセンティブ(3)	【第7回】垂直統合(2)	【第15回】まとめ&質問受付	【第8回】多角化・多国籍化(1)	
【第1回】イノベーション戦略(1)	【第9回】多角化・多国籍化(2)																								
【第2回】イノベーション戦略(2)	【第10回】会社の形態																								
【第3回】イノベーション戦略(3)	【第11回】合併・買収・提携																								
【第4回】企業はなぜ存在するのか(1)	【第12回】労働システムとインセンティブ(1)																								
【第5回】企業はなぜ存在するのか(2)	【第13回】労働システムとインセンティブ(2)																								
【第6回】垂直統合(1)	【第14回】労働システムとインセンティブ(3)																								
【第7回】垂直統合(2)	【第15回】まとめ&質問受付																								
【第8回】多角化・多国籍化(1)																									
成績評価の方法	<p>課題への取り組み姿勢(60%)と期末テストで成績(40%)を判断します。</p>																								
フィードバックの内容	<p>各章に復習問題があり、課題として提出してもらいます。主な内容は、各章のポイントの整理、具体的な事例を挙げるといったものです。わからないことがあったら、先生に質問をしながら解いてください。具体的な事例を能動的に調べることで理解が深まりますので、調べ方等も併せて質問してください。</p>																								
教科書	『企業経済学(プログレッシブ経済学シリーズ)』小田切 宏之(東洋経済新報社)2010																								
指定図書																									
参考書																									
教員からのお知らせ	<p>授業後に、積極的に声をかけてください。皆さんからの「あの企業はどうか?」「あの商品ってどうなんですか?」という質問は、先生にとっても非常に楽しいです。授業の際や Teams を通じて、声をかけてください。</p>																								
オフィスアワー	<p>本授業に関する質問・相談は、学部学科にて定めるオフィスアワーにて受付けます。</p>																								
アクティブラーニングの内容	<p>教員からのフィードバックによる振り返り、能動的な授業外学修</p>																								
その他																									

講義コード	11C0112401	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員		開講期	
科目名	国際金融論1				外木 好美		第1期		
履修前条件					備考				
授業の目的	国際金融論1では、①財市場、②貨幣市場、③為替市場の各々の市場を理論的に分析します。ここで利用する経済理論は、ミクロ経済学とマクロ経済学、金融論で学んだ内容が基礎となります（主にマクロ経済学）。マクロ経済学や金融論で学んだ金融の仕組みや制度、経済政策等について、為替レートや国際収支を通じた影響も踏まえて、理論的なアプローチで理解することを目的とします。 国際金融論2とセットで受講してください。								
到達目標	①国際的な資金の融通の意味、②物価や金利、為替レートが各市場でどう決まるのか、③金利や生産物の裁定取引を通じた金利や物価と為替レートとの間の関係について、理解することを目標とする。①～③で学ぶ数式について、その意味を理解し、グラフで分析ができるようになります。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	授業の進度にあわせて教科書を読み、各回の復習問題に取り組んで、自身の理解度を確認してください。授業中に基礎となる科目（マクロや金融等）の内容にも触れますが、あくまでも簡単な復習レベルですので、必要に応じて自身でも復習してください。 授業外学修は60時間以上行うこと。								
授業計画	【第1回】ガイダンス、基本的視点の設定：経済学の基本的な考え方 【第2回】基本的視点の設定：金融取引の意味と効果、国境を超えた経済取引を考える 【第3回】国民経済計算と国際収支会計：国民経済計算、GDPの構成要素 【第4回】国民経済計算と国際収支会計：国際収支統計 【第5回】貨幣とマクロ経済：貨幣とその役割、資産としての貨幣とその特徴、貨幣需要、貨幣供給 【第6回】貨幣とマクロ経済：貨幣市場の均衡、貨幣と物価 【第7回】為替レートと外国為替市場 【第8回】前半のまとめ&質問受付 【第9回】金利と為替レート（資産市場における裁定）：金利裁定とカバー付利子平価、カバーなし金利平価と均衡為替レート 【第10回】金利と為替レート（資産市場における裁定）：貨幣市場と外国為替市場（利子率と名目為替レート） 【第11回】金利と為替レート（資産市場における裁定）：リスク・プレミアム 【第12回】金利と為替レート（資産市場における裁定）時間の経過と均衡の変遷 【第13回】物価と為替レート（生産物市場における裁定）（1） 【第14回】物価と為替レート（生産物市場における裁定）（2）&第1期後半のまとめ 【第15回】総まとめ&質問受付								
成績評価の方法	中間レポート（40%）、期末テスト（60%）で評価を行う。								
フィードバックの内容	各回の復習問題で、習熟度を確認してもらいます。授業の冒頭で、前回授業の復習問題の解説を行いますので、理解不足点等があったら、授業の際やTeamsで質問をしてください。ミクロ、マクロ、金融と基礎となる科目が多く、どこでつまづいているのかは学生によってバラツキます。勉強したつもりではなく、先生に質問しながら能動的に学習をしてください。								
教科書	『コア・テキスト国際金融論第2版』藤井 英次（新世社）2013								
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ	授業では、直感的な理解ができるよう努めます。算数、数学、図、数式等でわからないことがあったら、簡単なことでも、声をかけてください。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部学科にて定めるオフィスアワーにて受け付けます。								
アクティブラーニングの内容 その他	教員からのフィードバックによる振り返り、能動的な授業外学修								

講義コード	11C0112501	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員	開講期
科目名	国際金融論2					外木 好美	第2期
履修前提条件				備考			
授業の目的	国際金融論2では、①財市場、②貨幣市場、③為替市場を同時に分析し、一国経済の政策の在り方について学びます。マクロ経済学や金融論で学んだ金融の仕組みや制度、経済政策等について、為替レートや国際収支を通じた影響も踏まえ、理論的なアプローチから理解することが目的です。国際金融論1とセットで受講して下さい。						
到達目標	①マンデル・フレミング・モデルに基づいて、開放経済の下での経済政策について理解すること、②現代の国際金融を取り巻く問題を知ることを目標とします。国際金融論1で学習した3つの市場の分析を基礎とし、これらを組み合わせた分析を行います。						
授業外学修内容・授業外学修時間数	授業の進度にあわせて教科書を読み、各回の復習問題に取り組んで、自身の理解度を確認してください。授業中に基礎となる科目（マクロや金融等）の内容にも触れますが、あくまでも簡単な復習レベルですので、必要に応じて自身でも復習してください。授業外学修は60時間以上行うこと。						
授業計画	【第1回】 為替レートと実体経済：総需要と総供給、総需要とその決定要因（内需、外需） 【第2回】 為替レートと実体経済：生産物市場の短期均衡、経常収支の考察 【第3回】 為替レートと開放マクロ経済政策：生産物市場と資産市場の同時均衡（閉鎖経済）（1） 【第4回】 為替レートと開放マクロ経済政策：生産物市場と資産市場の同時均衡（閉鎖経済）（2） 【第5回】 為替レートと開放マクロ経済政策：開放経済への拡張（マンデル・フレミングモデル） 【第6回】 為替レートと開放マクロ経済政策：変動相場制における金融・財政政策の効果&国際資本移動の規制と政策効果 【第7回】 為替レートと開放マクロ経済政策：予想の変化と政策効果、短期から長期への均衡の変遷 【第8回】 第2期前半のまとめ&質問受付 【第9回】 為替政策（為替介入と為替相場制度）：為替相場制度の選択、為替介入 【第10回】 為替政策（為替介入と為替相場制度）：固定相場制度 【第11回】 為替政策（為替介入と為替相場制度）：固定相場制度下の金融・財政政策、通貨同盟と最適通貨圏 【第12回】 国際金融を取り巻く難問（1） 【第13回】 国際金融を取り巻く難問（2） 【第14回】 第2期後半のまとめ&質問受付 【第15回】 第2期総まとめ&質問受付						
成績評価の方法	中間レポート（40%）、期末テスト（60%）で評価を行う。						
フィードバックの内容	各回の復習問題で、習熟度を確保してもらいます。授業の冒頭で、前回授業の復習問題の解説を行いますので、理解不足点等があったら、授業の際や Teams で質問をしてください。ミクロ、マクロ、金融と基礎となる科目が多く、どこでつまづいているのかは学生によってバラツキます。勉強したつもりではなく、先生に質問しながら能動的に学習をしてください。						
教科書	『コア・テキスト国際金融論第2版』藤井 英次（新世社）2013						
指定図書							
参考書							
教員からのお知らせ	授業では、直感的な理解ができるよう努めます。算数、数学、図、数式等でわからないことがあったら、簡単なことでも、声をかけてください。						
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部学科にて定めるオフィスアワーにて受け付けます。						
アクティブラーニングの内容	教員からのフィードバックによる振り返り、能動的な授業外学修						
その他							

講義コード	11C0112201	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員	山本 勝造	開講期	第1期																
科目名	国際経済学1				山本 勝造			第1期																	
履修前提条件					備考																				
授業の目的	<p>本講義は、国際貿易に関する基礎理論の習得および国際経済を取り巻く貿易上の諸問題の理解を目的とする。具体的な学修テーマを以下に列挙する。</p> <p>(1) 各国は貿易によってどのような利益を得られるのか。 (2) 貿易によって所得格差は拡大するのか。 (3) 各国はなぜ保護貿易政策を行うのか。 (4) 世界的な貿易自由化はいかにして進められてきたのか。 (5) 企業はどのような目的で海外に生産拠点を移すのか。</p>																								
到達目標	<p>1. 基礎的な専門用語の意味を説明できるようになる。 2. 貿易パターン、貿易政策、国際資本移動の経済効果について説明できるようになる。 3. 保護貿易、貿易交渉、企業の国際化など、国際経済現象の要因と課題を指摘できるようになる。 4. 経済に関するニュースや記事に関心を払い、論理的に考察できるようになる。</p>																								
授業外学修内容・授業外学修時間数	<p>本科目では、60時間以上の授業外学修を行うこと。各回の授業終了後にLMSにて小テストを実施するので、授業内容を復習した上で、期限内に小テストの受験を完了すること。</p>																								
授業計画	<table border="0"> <tr> <td>【第1回】 講義ガイダンス</td> <td>【第9回】 なぜ貿易を制限するのか？ (2)</td> </tr> <tr> <td>【第2回】 なぜ貿易を行うのか？ (1)</td> <td>【第10回】 なぜ貿易を制限するのか？ (3)</td> </tr> <tr> <td>【第3回】 なぜ貿易を行うのか？ (2)</td> <td>【第11回】 貿易自由化をどう進めるのか？ (1)</td> </tr> <tr> <td>【第4回】 なぜ貿易を行うのか？ (3)</td> <td>【第12回】 貿易自由化をどう進めるのか？ (2)</td> </tr> <tr> <td>【第5回】 貿易は格差を解消するのか？ (1)</td> <td>【第13回】 なぜ企業は海外に進出するのか？ (1)</td> </tr> <tr> <td>【第6回】 貿易は格差を解消するのか？ (2)</td> <td>【第14回】 なぜ企業は海外に進出するのか？ (2)</td> </tr> <tr> <td>【第7回】 貿易は格差を解消するのか？ (3)</td> <td>【第15回】 総復習</td> </tr> <tr> <td>【第8回】 なぜ貿易を制限するのか？ (1)</td> <td></td> </tr> </table>									【第1回】 講義ガイダンス	【第9回】 なぜ貿易を制限するのか？ (2)	【第2回】 なぜ貿易を行うのか？ (1)	【第10回】 なぜ貿易を制限するのか？ (3)	【第3回】 なぜ貿易を行うのか？ (2)	【第11回】 貿易自由化をどう進めるのか？ (1)	【第4回】 なぜ貿易を行うのか？ (3)	【第12回】 貿易自由化をどう進めるのか？ (2)	【第5回】 貿易は格差を解消するのか？ (1)	【第13回】 なぜ企業は海外に進出するのか？ (1)	【第6回】 貿易は格差を解消するのか？ (2)	【第14回】 なぜ企業は海外に進出するのか？ (2)	【第7回】 貿易は格差を解消するのか？ (3)	【第15回】 総復習	【第8回】 なぜ貿易を制限するのか？ (1)	
【第1回】 講義ガイダンス	【第9回】 なぜ貿易を制限するのか？ (2)																								
【第2回】 なぜ貿易を行うのか？ (1)	【第10回】 なぜ貿易を制限するのか？ (3)																								
【第3回】 なぜ貿易を行うのか？ (2)	【第11回】 貿易自由化をどう進めるのか？ (1)																								
【第4回】 なぜ貿易を行うのか？ (3)	【第12回】 貿易自由化をどう進めるのか？ (2)																								
【第5回】 貿易は格差を解消するのか？ (1)	【第13回】 なぜ企業は海外に進出するのか？ (1)																								
【第6回】 貿易は格差を解消するのか？ (2)	【第14回】 なぜ企業は海外に進出するのか？ (2)																								
【第7回】 貿易は格差を解消するのか？ (3)	【第15回】 総復習																								
【第8回】 なぜ貿易を制限するのか？ (1)																									
成績評価の方法	「各回の小テスト50% (小テストの合計点を50点満点に換算)、期末試験50%」で評価する。																								
フィードバックの内容	小テストの結果と解答はLMSにて開示するので、復習および点数の確認に利用すること。																								
教科書	指定なし																								
指定図書	指定なし																								
参考書	『国際経済学をつかむ (第2版)』石川 城太 他 (有斐閣) 2013、『国際経済学へのいざない (第2版)』友原 章典 (日本評論社) 2014、『クルーグマン国際経済学 理論と政策 (原著第10版) 上 貿易編』P.R.クルーグマン 他 (丸善出版) 2017																								
教員からのお知らせ	各回の授業資料は、LMSにて授業開始前にアップロードします。																								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。また、LMSのメッセージ機能でも受け付けます。																								
アクティブラーニングの内容	能動的な授業外学修 (小テストに対する教員からのフィードバック)																								
その他	第1回の授業時に科目履修上の重要事項 (授業の進め方や小テストの実施方法など) について説明するので、必ず出席すること。																								

講義コード	11C0112301	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員	山本 勝造	開講期	第2期																
科目名	国際経済学2				山本 勝造			第2期																	
履修前提条件					備考																				
授業の目的	<p>本講義は、国際マクロ経済学に関する基礎理論の修得および国際経済を取り巻く金融上の諸問題の理解を目的とする。具体的な学修テーマを以下に列挙する。</p> <p>(1) 国際収支表から何が読み取れるのか。 (2) 国内需要・ISバランス・為替レートが、国際収支にどのような影響を与えるのか。 (3) 利子率と物価が、為替レートにどのような影響を与えるのか。 (4) 為替相場制度によって金融政策の効果がどのように変わるのか。</p>																								
到達目標	<p>1. 基礎的な専門用語の意味を説明できるようになる。 2. 国際収支や為替レートの変動について、国際マクロ経済学の考え方をを用いて説明できるようになる。 3. 通貨危機や通貨統合など、国際経済現象の要因と課題を指摘できるようになる。 4. 経済に関するニュースや記事に関心を払い、論理的に考察できるようになる。</p>																								
授業外学修内容・授業外学修時間数	<p>本科目では、60時間以上の授業外学修を行うこと。各回の授業終了後にLMSにて小テストを実施するので、授業内容を復習した上で、期限内に小テストの受験を完了すること。</p>																								
授業計画	<table border="0"> <tr> <td>【第1回】 講義ガイダンス</td> <td>【第9回】 為替レートの決定理論 (3)</td> </tr> <tr> <td>【第2回】 国際収支表の見方 (1)</td> <td>【第10回】 為替レートの決定理論 (4)</td> </tr> <tr> <td>【第3回】 国際収支表の見方 (2)</td> <td>【第11回】 為替相場制度とマクロ経済政策 (1)</td> </tr> <tr> <td>【第4回】 国際収支の決定理論 (1)</td> <td>【第12回】 為替相場制度とマクロ経済政策 (2)</td> </tr> <tr> <td>【第5回】 国際収支の決定理論 (2)</td> <td>【第13回】 為替相場制度とマクロ経済政策 (3)</td> </tr> <tr> <td>【第6回】 国際収支の決定理論 (3)</td> <td>【第14回】 為替相場制度とマクロ経済政策 (4)</td> </tr> <tr> <td>【第7回】 為替レートの決定理論 (1)</td> <td>【第15回】 総復習</td> </tr> <tr> <td>【第8回】 為替レートの決定理論 (2)</td> <td></td> </tr> </table>									【第1回】 講義ガイダンス	【第9回】 為替レートの決定理論 (3)	【第2回】 国際収支表の見方 (1)	【第10回】 為替レートの決定理論 (4)	【第3回】 国際収支表の見方 (2)	【第11回】 為替相場制度とマクロ経済政策 (1)	【第4回】 国際収支の決定理論 (1)	【第12回】 為替相場制度とマクロ経済政策 (2)	【第5回】 国際収支の決定理論 (2)	【第13回】 為替相場制度とマクロ経済政策 (3)	【第6回】 国際収支の決定理論 (3)	【第14回】 為替相場制度とマクロ経済政策 (4)	【第7回】 為替レートの決定理論 (1)	【第15回】 総復習	【第8回】 為替レートの決定理論 (2)	
【第1回】 講義ガイダンス	【第9回】 為替レートの決定理論 (3)																								
【第2回】 国際収支表の見方 (1)	【第10回】 為替レートの決定理論 (4)																								
【第3回】 国際収支表の見方 (2)	【第11回】 為替相場制度とマクロ経済政策 (1)																								
【第4回】 国際収支の決定理論 (1)	【第12回】 為替相場制度とマクロ経済政策 (2)																								
【第5回】 国際収支の決定理論 (2)	【第13回】 為替相場制度とマクロ経済政策 (3)																								
【第6回】 国際収支の決定理論 (3)	【第14回】 為替相場制度とマクロ経済政策 (4)																								
【第7回】 為替レートの決定理論 (1)	【第15回】 総復習																								
【第8回】 為替レートの決定理論 (2)																									
成績評価の方法	「各回の小テスト50% (小テストの合計点を50点満点に換算)、期末試験50%」で評価する。																								
フィードバックの内容	小テストの結果と解答はLMSにて開示するので、復習および点数の確認に利用すること。																								
教科書	指定なし																								
指定図書	指定なし																								
参考書	『国際金融入門 (新版)』岩田 規久男 (岩波書店) 2009、『コア・テキスト国際金融論 (第2版)』藤井 英次 (サイエンス社) 2013、『クルーグマン国際経済学 理論と政策 (原著第10版) 下: 金融編』P.R.クルーグマン 他 (丸善出版) 2017																								
教員からのお知らせ	各回の授業資料は、LMSにて授業開始前にアップロードします。																								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。また、LMSのメッセージ機能でも受け付けます。																								
アクティブラーニングの内容	能動的な授業外学修 (小テストに対する教員からのフィードバック)																								
その他	第1回の授業時に科目履修上の重要事項 (授業の進め方や小テストの実施方法など) について説明するので、必ず出席すること。																								

講義コード	11C0111201	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員	金田 美加	開講期	第1期
科目名	財政学Ⅰ				金田 美加		第1期		
履修前提条件					備考				
授業の目的	<p>財政とは、政府がその存立を維持し活動するために行う経済行為である。 本講義は、財政学の基本的な知識を習得し、わが国の政府活動を論理的な視点で考えることができるようになることを目的とする。また、教職および公務員試験（地方上級、国家Ⅱ種）等の受験に役立つ知識と応用力をつけるため、公務員試験等の過去問をとりあげながら、財政学の基礎理論を学んでいく。</p>								
到達目標	<p>主たる目標：財政の基本的な内容について、理解できること 従たる目標：より深い研究を志すものは、そのきっかけが掴めるようになること</p>								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	<p>各回に取り組んだ問題は必ず自分で解いて復習する、項目については語句説明文を作成する等の復習を行うこと。これら復習に要する時間を授業外学修時間とする。 履修者は、予習・復習として60時間以上（予習・復習として各回あたり4時間程度）を目安とした財政関連の授業外学修を行うことが望ましい。</p>								
授業計画	<p>【第1回】 ガイダンス（講義の内容と進め方）、政府の役割について 【第2回】 財政の3機能と国民経済との関係 【第3回】 予算制度（予算の原則、編成過程など） 【第4回】 租税制度①（租税の分類） 【第5回】 租税制度②（租税の基本原則） 【第6回】 社会保障制度①（社会保障の種類と機能） 【第7回】 社会保障制度②（給付と負担、および現状について） 【第8回】 公債発行と公共投資（公債発行、および現状、公共投資について） 【第9回】 財政投融资制度 【第10回】 国と地方の財政関係①（地方の財政状況、政府の分類と予算構造） 【第11回】 国と地方の財政関係②（補助金制度、地方交付税の配分と機能） 【第12回】 財政政策の経済効果①（国民経済計算、三面等価の原則など） 【第13回】 財政政策の経済効果②（有効需要と乗数メカニズム：45度線分析の基礎） 【第14回】 財政政策の経済効果③（財政政策の経済効果） 【第15回】 第1期の総括としての授業内定期試験</p>								
成績評価の方法	<p>原則として大学の定める定期試験期間中に実施される定期試験100%で評価する。 詳細はガイダンス資料に記載（要確認）</p>								
フィードバックの内容	<p>講義で扱った問題については、授業終了後および WebClass メッセージ機能、Teams 等を利用し質問などを受け付ける。 詳細は初回ガイダンス資料に記載（要確認）</p>								
教科書 指定図書	<p>特に指定しない。必要に応じ、教員が用意した資料等の配布を共有ストレージと WebClass にて行う。</p>								
参考書	<p>『コンパクト財政学 第2版』上村敏之（新世社）2013、『スタンダード財政学 第2版』竹内信仁（中央経済社）2007、『基礎コース 財政学 第4版』林宜嗣（新世社）2020</p>								
教員からのお知らせ	<p>初回ガイダンス資料から事前に WebClass にアップロードする。 成績評価の詳細、および、資料の配布方法等については、ガイダンス資料に記載しているので、初回ガイダンスに出席できない場合は必ず資料をダウンロードして内容を確認すること。</p>								
オフィスアワー	<p>本授業に関する質問・相談は、授業終了後の教室内および WebClass のメッセージ機能、Teams 等を利用して行う。 なお、質問等は随時受付とする。受付た質問等は次回の講義日までに回答を行うものとする。</p>								
アクティブラーニングの内容									
その他	<ul style="list-style-type: none"> ●履修にあたっては、ミクロ経済学と財政学に関する基礎的な知識があると望ましい（または、基礎的な知識を得ようとする意欲があると望ましい）。 ●講義内容については、履修者の理解度に応じて、講義の順番や内容を変更する場合がある。 ●本授業は、対面授業を原則とする。 ●教科書は特に指定しない。必要に応じ、教員が用意した資料等の配布を WebClass にて行う。受講時には WebClass からダウンロードした資料を持参（タブレット可）して参加することが望ましい。 ●WebClass 上の機能を活用し、期間中に練習ドリルを2回ほど公開することで、自主的な追加学習を求める。 ●公務員試験の受験を考慮する場合は、財政学2とあわせて受講することが望ましい。 								

講義コード	11C0111301	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員	金田 美加	開講期	第2期
科目名	財政学2				金田 美加		第2期		
履修前提条件					備考				
授業の目的	<p>財政とは、政府がその存立を維持し活動するために行う経済行為である。本講義は、財政学の基本的な知識を習得し、わが国の政府活動を論理的な視点で考えることができるようになることを目的とする。また、教職および公務員試験（地方上級、国家Ⅱ種）等の受験に役立つ知識と応用力をつけるため、公務員試験の過去問等を取りあげながら、財政学の基礎理論を学んでいく。</p>								
到達目標	<p>主たる目標：財政学に関する基礎力を身につけ、財政制度や機能・役割を理論面より理解できること 従たる目標：より深い研究を志すものは、そのきっかけが掴めるようになること</p>								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	<p>各回に取り組んだ問題は必ず自分で解いて復習する、項目については語句説明文を作成する等の復習を行うこと。これら復習に要する時間を授業外学修時間とする。 履修者は、予習・復習として60時間以上（予習・復習として各回あたり4時間程度）を目安とした財政関連の授業外学修を行うことが望ましい。</p>								
授業計画	<p>【第1回】 後期ガイダンス（後期講義の内容と進め方） 【第2回】 市場経済と資源配分（市場均衡と余剰分析） 【第3回】 市場経済と政府介入①（数量規制、価格規制、二重価格など） 【第4回】 市場経済と政府介入②（従量税タイプの間接税、政府介入のまとめ） 【第5回】 外部性の理論①（外部性の定義、負の外部性） 【第6回】 外部性の理論②（正の外部性） 【第7回】 外部性の理論③（外部性の解決方法） 【第8回】 公共財の理論①（公共財の供給メカニズム） 【第9回】 公共財の理論②（公共財とゲーム論） 【第10回】 公共財の理論③（パレート効率性とサミュエルソン条件） 【第11回】 租税の転嫁と帰着①（弾力性について） 【第12回】 租税の転嫁と帰着②（租税の転嫁プロセスとラムゼイ・ルール） 【第13回】 所得分配の理論①（予算制約線とその変化） 【第14回】 所得分配の理論②（補助金の理論など） 【第15回】 第2期の総括としての授業内定期試験</p>								
成績評価の方法	<p>原則として大学の定める定期試験期間中に実施される定期試験100%で評価する。 詳細はガイダンス資料に記載（要確認）</p>								
フィードバックの内容	<p>講義で扱った問題については、授業終了後および WebClass メッセージ機能、Teams 等を利用し質問などを受け付ける。 詳細は初回ガイダンス資料に記載（要確認）</p>								
教科書 指定図書	<p>特に指定しない。必要に応じ、教員が用意した資料等の配布を共有ストレージと WebClass にて行う。</p>								
参考書	<p>『コンパクト財政学 第2版』上村敏之（新世社）2013、『スタンダード財政学 第2版』竹内信仁（中央経済社）2007、『基礎コース 財政学 第4版』林宜嗣（新世社）2020</p>								
教員からのお知らせ	<p>初回ガイダンス資料から事前に WebClass にアップロードする。 成績評価の詳細、および、資料の配布方法等については、ガイダンス資料に記載しているので、初回ガイダンスに出席できない場合は必ず資料をダウンロードして内容を確認すること。</p>								
オフィスアワー	<p>本授業に関する質問・相談は、授業終了後の教室内および WebClass のメッセージ機能、Teams 等を利用して行う。 なお、質問等は随時受付とする。受付した質問等は次回までの講義日までに回答を行うものとする。</p>								
アクティブラーニングの内容									
その他	<ul style="list-style-type: none"> ●履修にあたっては、ミクロ経済学と財政学に関する基礎的な知識があると望ましい（または、基礎的な知識を得ようとする意欲があると望ましい）。 ●講義内容については、履修者の理解度に応じて、講義の順番や内容を変更する場合がある。 ●本授業は、対面授業を原則とする。 ●教科書は特に指定しない。必要に応じ、教員が用意した資料等の配布を WebClass にて行う。受講時には WebClass からダウンロードした資料を持参（タブレット可）して参加することが望ましい。 ●WebClass 上の機能を活用し、期間中に練習ドリルを2回ほど公開することで、自主的な追加学習を求める。 ●公務員試験の受験を考える場合は、財政学1とあわせて受講することが望ましい。 								

講義コード	11C3115301	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員		開講期	
科目名	財務諸表論				安部 秀俊		第2期		
履修前条件					備考				
授業の目的	<p>企業の通信簿としての財務諸表（※）について下記の到達目標3点をつかむことを目的とします。 ※貸借対照表や損益計算書、キャッシュ・フロー計算書等が該当します。 前半では財務諸表の作り手の立場からその考え方を中心に学習し、後半では財務諸表を利用する側の立場から分析の方法を学習します。</p>								
到達目標	<p>①財務諸表の種類や基本的な作成方法を知る。 ②財務諸表作成上の裏付けとなる考え方の基本を押さえる。 ③財務諸表を利用する立場から、その見方や分析方法の基本を押さえる。 企業の財務諸表を見て、その企業の良し悪しが判断できるようになれば、将来色々な場面で役立てることが出来ます。</p>								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	<p>・講義プリントの熟読とキーワードの暗記が必要です。 ・財務分析では企業の状況を把握するために、様々な指標となる率を計算できるように、算式を押さえる必要があります。 復習に時間をかけてください。 この科目では、60時間以上の授業外学修を行うこと。</p>								
授業計画	<p>【第1回】 ガイダンス / 財務諸表の種類とディスクロージャー制度の紹介 【第2回】 企業会計原則に基づく伝統的な利益計算構造の体系① 【第3回】 企業会計原則に基づく伝統的な利益計算構造の体系② 【第4回】 グローバルな視点を取り入れた近年の利益計算構造の体系① 【第5回】 グローバルな視点を取り入れた近年の利益計算構造の体系② 【第6回】 グローバルな視点を取り入れた近年の利益計算構造の体系③ 【第7回】 グローバルな視点を取り入れた近年の利益計算構造の体系④ 【第8回】 決算書の見方（概要） 【第9回】 企業が儲ける力（収益性）を把握するための方法 【第10回】 企業の財務体質を見て安全性を把握する方法 【第11回】 企業の成長性分析 【第12回】 キャッシュ・フロー分析の必要性、資金と利益の関係性、資金の増減原則 【第13回】 企業の支払能力を見るための資金移動表 【第14回】 キャッシュ・フロー計算書（前半：作成方法） 【第15回】 キャッシュ・フロー計算書（後半：分析方法）及びまとめ</p>								
成績評価の方法	全15回の Web ミニテストの解答状況（80%）、授業への取り組み姿勢（20%）により評価致します。								
フィードバックの内容	ミニテストの模範解答を実施後にフィードバックします。								
教科書									
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ	<p>今後の生活や仕事に役立つ内容を学習します。会計独特の難しい表現や財務分析上の算式も登場しますが、ポイントを押さえていただければと思います。積極的な姿勢で講義にご参加ください。 配付又は投稿するプリントにて講義を行いますので教科書を購入する必要はございません。</p>								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。								
アクティブラーニングの内容 その他	教員からのフィードバックによる振り返りとして、小テストに対するフィードバックを行い振り返りを行います。								

講義コード	11C0119101	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員		開講期	
科目名	産業組織論				渡部 真弘			第2期	
履修前提条件					備考				
授業の目的	進級要件科目群において十分な学修成果が確認された場合に限り、不完全競争市場における経済主体の行動を分析する際に必要となる基本的概念を習得することを目的とする。 進級要件科目群において十分な学修成果が確認されなかった場合、進級要件科目に該当する数学基礎で扱われるべき内容の習得を目的とする。								
到達目標	進級要件科目群において十分な学修成果が確認された場合、不完全競争市場に関する題材に対して、文字式を用いた理論的分析が可能となる。 進級要件科目群において十分な学修成果が確認されなかった場合、経済学部で常識的に用いられる書籍にある数式を用いた議論を理解することが可能となる。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	本科目では、授業開始時に実施する小テスト及び期末試験に向けた復習に取り組むために、週に少なくとも4時間（計60時間以上）の授業外学修が必要である。								
授業計画	<p>【第1回】進級要件科目である数学基礎・統計学基礎・ミクロ経済学基礎にかかわる学修成果の再評価 進級要件科目群において十分な学修成果が確認された場合、</p> <p>【第2回】経済主体と市場形態の分類、需要曲線、需要量と価格の変化率</p> <p>【第3回】需要の自己価格弾力性・交差価格弾力性（1）</p> <p>【第4回】需要の自己価格弾力性・交差価格弾力性（2）</p> <p>【第5回】需要の自己価格弾力性・交差価格弾力性（3）</p> <p>【第6回】第3次価格差別、ラーナー指数（1）</p> <p>【第7回】第3次価格差別、ラーナー指数（2）</p> <p>【第8回】需要の価格弾力性と需要曲線の傾きの関係（1）</p> <p>【第9回】需要の価格弾力性と需要曲線の傾きの関係（2）</p> <p>【第10回】需要の価格弾力性と収入の関係、所有と経営の分離（1）</p> <p>【第11回】需要の価格弾力性と収入の関係、所有と経営の分離（2）</p> <p>【第12回】需要の価格弾力性と収入の関係、所有と経営の分離（3）</p> <p>【第13回】独占企業の利潤最大化条件（1）</p> <p>【第14回】独占企業の利潤最大化条件（2）</p> <p>【第15回】まとめ</p> <p>進級要件科目群において十分な学修成果が確認されなかった場合、</p> <p>【第2回】導入的内容：集合と数、絶対値と距離、代数学の法則：展開、因数分解</p> <p>【第3回】代数学の法則：通分、累乗、総和（平均や分散に関する議論を含む）</p> <p>【第4回】1変数関数の表記方法、定義域と値域、関数のグラフ</p> <p>【第5回】線形関数、行列式を用いた連立方程式の解法</p> <p>【第6回】2次関数・多項式</p> <p>【第7回】授業第2回～第6回までの内容に関する小テスト</p> <p>【第8回】べき関数、指数関数</p> <p>【第9回】対数関数</p> <p>【第10回】1変数関数の最適化問題への導入、接線と（第1次）導関数</p> <p>【第11回】べき乗の微分公式、和・差・積・商の微分公式、合成関数の微分公式</p> <p>【第12回】指数関数と対数関数の微分</p> <p>【第13回】停留点、増減表（1）</p> <p>【第14回】停留点、増減表（2）</p> <p>【第15回】まとめ</p>								
成績評価の方法	評価割合は、授業第1回に実施する進級要件科目である数学基礎・統計学基礎・ミクロ経済学基礎で扱われた内容に関する学修成果の再評価に向けた試験10%、小テスト（授業第2回～授業第14回の13回分）40%、期末試験50%とする。								
フィードバックの内容	<p>(1) 進級要件科目である数学基礎・統計学基礎・ミクロ経済学基礎にかかわる学修成果の再評価に向けた試験について、採点結果に対する講評を行う。</p> <p>(2) 小テストの答案を採点した後、理解が不十分であると判断される内容を授業時間内で補足する。</p> <p>(3) 成績評価確定後、授業実施報告書を作成・配布する。</p>								
教科書 指定図書									
参考書	『レヴィット ミクロ経済学 基礎編』 Austan Goolsbee, Steven Levitt, Chad Syverson (東洋経済新報社) 2017、『レヴィット ミクロ経済学 発展編』 Austan Goolsbee, Steven Levitt, Chad Syverson (東洋経済新報社) 2018、『Essential Mathematics for Economic Analysis (4th Edition)』 Knut Sydsaeter, Peter Hammond, Arne Strom (Pearson) 2012、『Mathematical Analysis: A Straightforward Approach (2nd Edition)』 K.G. Binmore (Cambridge University Press) 1982								
教員からのお知らせ	小テストや期末試験は記述式であり、単語を選択するマークシートのような簡易なものではない。試験問題を事前に配布しない。単位数に見合った学修時間を確保するつもりがなければ履修すべきではない。								
オフィスアワー	木曜日3時限、2号館516研究室 連絡や資料配布は、Microsoft Teams を通じて行う。Microsoft Teams のチームに参加するためのチームコードを授業第1回のガイダンス時に共有する。								
アクティブラーニングの内容	教員からのフィードバックによる振り返り：小テストの全ての問題において、細分化された各採点項目に対する評価を返却することで、復習が十分でない内容を学生に認識させる。								
その他	進級要件科目群において十分な学修成果が確認されなかった場合、2024年度より他の教員の担当科目の補講は1科目に限定する。その場合、経済学部所属する1年次生向けの内容として、経済学を学ぶ上で不可欠となる数学を扱う。								

講義コード	11C0117401	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員		開講期	
科目名	資源エネルギー論1／資源エネルギー問題A				佐々木 宏一		第1期		
履修前条件					備考				
授業の目的	2011年3月11日の東日本大震災直後は、エネルギー問題が注目されていたが、13年が経過した現在は、興味が薄れつつあると共に必ずしも理解が進んでいない状況にある。本震災を忘れることなく、エネルギー問題の本質を考えることで、エネルギー問題について考えを深めてゆく。また、国際的にもエネルギーの安全保障が喫緊の課題となっている。そこで本講義では、エネルギーの本質、さらに実際の課題について、自ら考える。								
到達目標	学生が、日本および世界のエネルギーの現状について理解し、その上で、エネルギーに関する自らの認識・考えをしっかりと主張できること。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	エネルギーを取り巻く環境は日々変化しており、また将来のエネルギー政策が議論となっているため、様々な情報源（指定図書、参考書、専門書、新聞、雑誌、TV等）に注意し、1日30分以上は情報に接し自らの考えを整理しておくこと。以上を踏まえ計60時間以上の授業外学修時間を行うこと。 なお、毎回課題を設定するので、期限内に提出すること。								
授業計画	【第1回】 エネルギーとは何か？ 【第2回】 日本のエネルギーの現状は？（全体） 【第3回】 世界のエネルギーの現状は？ 【第4回】 コロナでどう変わる？ 【第5回】 停電対策は？ 【第6回】 再生可能エネルギーをどう考えるか？ 【第7回】 原子力をどう考えるか？ 【第8回】 放射性廃棄物の行方は？ 【第9回】 温暖化対策の行方は？ 【第10回】 日本のエネルギーの現状は？（部門別） 【第11回】 エネルギーミックスは？ 【第12回】 2050年に向けてエネルギーは？ 【第13回】 エネルギー白書2021 【第14回】 省エネルギー法の現状は？ 【第15回】 前期まとめ								
成績評価の方法	授業等での議論を重視し、期末試験を行い、エネルギー問題に関して自らの考えをしっかりと主張するための基礎が身についているかどうかの観点から採点を行い、その結果に基づいて評価を行う（100%）。 なお、授業中の発言を成績に考慮する。								
フィードバックの内容	授業での課題により実施する質問やアンケートに対して、結果に関する講評、結果の分析、考えるポイント等を示すことで、さらに考察力を深める。								
教科書									
指定図書	『エネルギー・経済データの読み方入門』（財）日本エネルギー経済研究所 計量分析ユニット編（（財）省エネルギーセンター）2017年1月、『総力取材！エネルギーを選ぶ時代は来るのか』NHKスペシャル「日本新生」取材班（NHK出版）2011年12月								
参考書	『エネルギー・経済統計要覧』（財）日本エネルギー経済研究所 計量分析ユニット編（（財）省エネルギーセンター）各年版、『World Energy Outlook』O.E.C.D. International Energy Agency (O.E.C.D.) 各年版、『エネルギー問題』松井 賢一（エヌティティ出版）2010年2月、『エネルギー白書』経済産業省編（新高速印刷株式会社）各年版、『Energy balances of OECD countries』O.E.C.D. International Energy Agency (O.E.C.D.) 各年版、『Energy balances of non-OECD countries』O.E.C.D. International Energy Agency (O.E.C.D.) 各年版								
教員からのお知らせ	講義資料は、パワーポイント（共有ストレージにて公開）とする。また、一方的な授業ではなく、皆さんからの授業等での意見により活発な議論を歓迎する。 授業計画は、最新の話題も取り上げるため、若干の変更の可能性がある。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後にて対応する。 また、メールにて質問・相談を受け付ける。宛先は授業内で指示する。								
アクティブラーニングの内容	意見共有、課題に対するフィードバックによる振り返りを実施する。								
その他	皆さんの若い発想により、教員としても刺激を受けることを期待する。								

講義コード	11C0117402	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員		開講期	
科目名	資源エネルギー論2／資源エネルギー問題B				佐々木 宏一		第2期		
履修前条件					備考				
授業の目的	2011年3月11日の東日本大震災直後は、エネルギー問題が注目されていたが、13年が経過した現在は、興味が薄れつつあると共に必ずしも理解が進んでいない状況にある。本震災を忘れることなく、エネルギー問題の本質を考えることで、エネルギー問題について考えを深めてゆく。また、国際的にもエネルギーの安全保障が喫緊の課題となっている。そこで本講義では、エネルギーの本質、さらに実際の課題について、自ら考える。								
到達目標	学生が、日本および世界のエネルギーの現状について理解し、その上で、エネルギーに関する自らの認識・考えをしっかりと主張できること。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	エネルギーを取り巻く環境は日々変化しており、また将来のエネルギー政策が議論となっているため、様々な情報源（指定図書、参考書、専門書、新聞、雑誌、TV等）に注意し、1日30分以上は情報に接し自らの考えを整理しておくこと。以上を踏まえ計60時間以上の授業外学修時間を行うこと。 なお、毎回課題を設定するので、期限内に提出すること。								
授業計画	【第1回】 エネルギーの意義は？ 【第2回】 エネルギーと技術開発の関係は？ 【第3回】 原子力をどうするか？ 【第4回】 再生可能エネルギー政策の現状は？ 【第5回】 化石燃料は不要か？ 【第6回】 中期的なエネルギー政策の行方は？？ 【第7回】 エネルギーとSDGs 【第8回】 今後のエネルギー需給の展望は 【第9回】 世界のエネルギーはどこへ向かうのか？ 【第10回】 エネルギーと人口・経済・ライフスタイルの関係は？ 【第11回】 エネルギーに関する国際協力の現状は？ 【第12回】 地球温暖化政策の行方は？ 【第13回】 2050年カーボンニュートラルとグリーン成長 【第14回】 省エネルギーの行方は？ 【第15回】 後期まとめ								
成績評価の方法	授業等での議論を重視し、期末試験を行い、エネルギー問題に関して自らの考えをしっかりと主張するための基礎が身についているかどうかの観点から採点を行い、その結果に基づいて評価を行う（100%）。 なお、授業中の発言を成績に考慮する。								
フィードバックの内容	授業での課題により実施する質問やアンケートに対して、結果に関する講評、結果の分析、考えるポイント等を示すことで、さらに考察力を深める。								
教科書									
指定図書	『エネルギー・経済データの読み方入門』（財）日本エネルギー経済研究所 計量分析ユニット編（（財）省エネルギーセンター）2017年1月、『総力取材！エネルギーを選ぶ時代は来るのか』NHKスペシャル「日本新生」取材班（NHK出版）2011年12月								
参考書	『エネルギー・経済統計要覧』（財）日本エネルギー経済研究所 計量分析ユニット編（（財）省エネルギーセンター）各年版、『World Energy Outlook』O.E.C.D. International Energy Agency (O.E.C.D.) 各年版、『エネルギー問題』松井 賢一（エヌティティ出版）2010年2月、『エネルギー白書』経済産業省編（新高速印刷株式会社）各年版、『Energy balances of OECD countries』O.E.C.D. International Energy Agency (O.E.C.D.) 各年版、『Energy balances of non-OECD countries』O.E.C.D. International Energy Agency (O.E.C.D.) 各年版								
教員からのお知らせ	講義資料は、パワーポイント（共有ストレージにて公開）とする。また、一方的な授業ではなく、皆さんからの授業等での意見により活発な議論を歓迎する。 授業計画は、最新の話題も取り上げるため、若干の変更の可能性がある。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後にて対応する。 また、メールにて質問・相談を受け付ける。宛先は授業内で指示する。								
アクティブラーニングの内容	意見共有、課題に対するフィードバックによる振り返りを実施する。								
その他	皆さんの若い発想により、教員としても刺激を受けることを期待する。								

講義コード	11C0122601	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員	宮川 幸三	開講期	第1期
科目名	実証経済分析 1							第1期	
履修前条件					備考				
授業の目的	近年、統計データに基づく分析から得られたエビデンスを活用して政策を立案する、いわゆる EBPM (Evidence Based Policy Making) の重要性が広く認知されている。しかし政策の効果を検証するためには、正しい手法によって分析を行うことが不可欠である。本講義では、このような問題意識に基づいて実証経済分析の様々な手法を学ぶ。またパソコン演習を行い、実践的な分析能力を養う。								
到達目標	データ発生メカニズムを理解し、適切な手法によって経済データを用いた実証分析を行うことができる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	この科目では、60時間以上の授業外学修を行うこと。授業外学修では、配布資料の該当箇所を読み予習・復習を行うこと。授業中に行ったパソコン演習の復習を欠かさず行なうこと。								
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> 【第1回】 イントロダクション 【第2回】 因果関係と相関関係 【第3回】 相関係数 【第4回】 ランダム化比較試験 【第5回】 仮説検定 (1) 【第6回】 仮説検定 (2) 【第7回】 自然実験・疑似実験 (1) 【第8回】 自然実験・疑似実験 (2) 【第9回】 回帰分析 (1) 【第10回】 回帰分析 (2) 【第11回】 回帰分析 (3) 【第12回】 DID - 差分の差分法 (1) 【第13回】 DID - 差分の差分法 (2) 【第14回】 その他の分析手法 【第15回】 経済政策と実証経済分析 								
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢 (30%)、授業中に行う課題 (30%)、期末レポート (40%) によって評価する。到達目標に記載の内容について、自らの力で適切な分析をできることを期末レポートの評価基準とする。								
フィードバックの内容	課題の解説を授業時に行う。								
教科書									
指定図書									
参考書	『効果検証入門～正しい比較のための因果推論 / 計量経済学の基礎』安井翔太 (技術評論社) 2020年、『原因と結果の経済学 - データから真実を見抜く思考法』中室牧子、津川友介 (ダイヤモンド社) 2017年、『44の例題で学ぶ計量経済学』唐渡広志 (オーム社) 2013年								
教員からのお知らせ	統計学や計量経済学および Excel の操作に関する基礎的な知識を前提として授業を行う。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、講義案内で示したオフィスアワーにおいて受付ける。								
アクティブラーニングの内容	意見共有、教員からのフィードバックによる振り返り、演習								
その他									

講義コード	11C0122701	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員	宮川 幸三	開講期	第2期
科目名	実証経済分析 2							第2期	
履修前条件					備考				
授業の目的	一般均衡理論の実証分析への適用事例の1つとして、産業連関分析がある。産業連関分析のもとになる産業連関表は、国民経済の体系を記述する経済統計としても重要な意味を持っている。本講義では、産業連関表を通して一国経済の産業構造を観察・分析する手法を学ぶ。								
到達目標	産業連関表の枠組みを理解し、GDP の概念や三面等価について説明できる。産業連関分析の手法を理解したうえで、実際に産業連関表を用いて適切な分析を行うことができる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	この科目では、60時間以上の授業外学修を行うこと。授業外学修では、配布資料の該当箇所を読み予習・復習を行うこと。授業中に行ったパソコン演習の復習を欠かさず行なうこと。								
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> 【第1回】 イントロダクション 【第2回】 産業連関表と GDP (1) 【第3回】 産業連関表と GDP (2) 【第4回】 日本の産業連関表 (1) 【第5回】 日本の産業連関表 (2) 【第6回】 3部門モデル (1) 【第7回】 3部門モデル (2) 【第8回】 行列計算の基礎 【第9回】 均衡産出高モデルの基礎 (1) 【第10回】 均衡産出高モデルの基礎 (2) 【第11回】 均衡産出高モデルの基礎 (3) 【第12回】 産業連関分析の応用 (1) 【第13回】 産業連関分析の応用 (2) 【第14回】 産業連関分析の応用 (3) 【第15回】 分析事例の紹介 								
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢 (30%)、授業中に行う課題 (30%)、期末レポート (40%) によって評価する。到達目標に記載の内容について、自らの力で適切な分析をできることを期末レポートの評価基準とする。								
フィードバックの内容	課題の解説を授業時に行う。								
教科書									
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ	数学基礎やマクロ経済学および Excel の操作に関する基礎的な知識を前提として授業を行う。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、講義案内で示したオフィスアワーにおいて受付ける。								
アクティブラーニングの内容	意見共有、教員からのフィードバックによる振り返り、演習								
その他									

講義コード	11C3115401	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員		開講期	
科目名	実践簿記1				安部 秀俊		第1期		
履修前提条件					備考				
授業の目的	簿記は、企業活動や経営を理解するため、経理・会計担当者のみならず、業種・職種を問わず企業人すべてに必要とされる知識です。ビジネスの最前線で活躍されている方の多くは、簿記の知識を実務に活かしています。日商簿記検定の資格取得に向けた学習を通じて、より高いレベルでの習得を目的とします。								
到達目標	簿記の基本用語を説明することができる。企業の日常業務における実践的な取引の記録を行うことができる。小規模企業の決算書を作成することができる。日商簿記3級に合格することができる。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	この科目では、60時間以上の授業外学修を行うこと。 授業外学修では、次回の授業内で実施する小テストで正答を出せるように復習をするようにしてください。								
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> 【第1回】 簿記の目的 【第2回】 簿記一巡 【第3回】 試算表の作成 【第4回】 商品売買 【第5回】 現金預金 【第6回】 手形等 【第7回】 債権債務 【第8回】 税金、資本等 【第9回】 決算① 【第10回】 決算② 【第11回】 決算③ 【第12回】 帳簿・伝票 【第13回】 財務諸表、収益費用 【第14回】 棚卸資産 【第15回】 総まとめ 								
成績評価の方法	授業中の小テスト14回（40％）、期末試験（60％）で評価する。								
フィードバックの内容	授業中の小テストの模範解答をテスト終了後に配付する。								
教科書	『検定簿記講義／3級商業簿記』渡部 裕巨 編著 片山 覚 編著 北村 敬子 編著（中央経済社）最新版を用意してください								
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ	この授業とともに第2期の科目である「実践簿記2」を履修してください。「実践簿記2」はこの授業を履修したことを前提に講義を進めます。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。								
アクティブラーニングの内容	教員からのフィードバックによる振り返り、演習を実施し意見共有する								
その他	就職部が主催するキャリア開発簿記検定3級講座、2級講座の同時受講をお勧めします。								

講義コード	11C3115501	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員		開講期	
科目名	実践簿記2				安部 秀俊		第2期		
履修前提条件					備考				
授業の目的	簿記は、企業活動や経営を理解するため、経理・会計担当者のみならず、業種・職種を問わず企業人すべてに必要とされる知識です。第1期の科目である「実践簿記1」の学習内容を修得していることを前提に、「実践簿記1」では取り上げない知識を上積みし、日商簿記2級商業簿記合格レベルの知識の修得を目的とします。								
到達目標	中規模企業の決算書を作成することができる。財務諸表の数字から経営内容を把握できる。日商簿記2級の商業簿記で合格点を獲得することができる。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	この科目では、60時間以上の授業外学修を行うこと。 授業外学修では、次回の授業内で実施する小テストで正答を出せるように復習をするようにしてください。								
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> 【第1回】 実践簿記1の振り返り 【第2回】 現金預金、債権債務 【第3回】 有価証券 【第4回】 固定資産 【第5回】 リース、ソフトウェア 【第6回】 為替換算 【第7回】 引当金、法人税等 【第8回】 純資産、企業結合 【第9回】 株主資本等変動計算書 【第10回】 連結会計① 【第11回】 連結会計② 【第12回】 連結会計③ 【第13回】 本支店会計 【第14回】 総まとめ① 【第15回】 総まとめ② 								
成績評価の方法	授業中の小テスト14回（40％）、期末試験（60％）で評価する。								
フィードバックの内容	授業中の小テストの模範解答をテスト終了後に配付する。								
教科書	『検定簿記講義／2級商業簿記』渡部 裕巨 編著 片山 覚 編著 北村 敬子 編著（中央経済社）最新版を用意してください								
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ	この授業とともに第1期の科目である「実践簿記1」を履修してください。この授業は「実践簿記1」を履修したことを前提に講義を進めます。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。								
アクティブラーニングの内容	教員からのフィードバックによる振り返り、演習を実施して意見共有を行う								
その他	就職部が主催するキャリア開発簿記検定3級講座、2級講座の同時受講をお勧めします。								

講義コード	11C0104501	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員		開講期	
科目名	社会学の世界				加藤 宏		第1期		
履修前条件					備考				
授業の目的	社会学は近代社会と共に生まれた学問であり、近・現代社会の多様な社会問題と社会現象を分析してきた。前半では、社会学がどのような学問であるのか、その視点や考え方を現代的な社会現象の分析を通して紹介する。また後半では「消費社会」、「環境問題」、「グローバル化」といった概念から現代社会の変化をとらえる議論を紹介し、現代社会の抱える諸問題を考察していく。								
到達目標	社会学の考え方を理解できる。「自我」、「ジェンダー」、「家族」、「消費社会」、「環境問題」、「グローバル化」といった項目を社会学の視点から説明できる。現代の諸問題を理解し現代人として社会への参加に寄与できる。単なる暗記ではなく、社会的想像力を獲得し社会的な世界のための地図を各自が作り、それを持ち現代の街路を歩けるようになることが目標となる。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	この科目では60時間以上の授業外学修を行なうこと。各回の授業で扱う項目について、授業レジュメを参考に、各回ごとに復習し、各自の理解力を点検すること。また講義であげる参考文献や指定図書を積極的に読むこと。								
授業計画	【第1回】講義ガイダンス 社会学的想像力について 【第2回】社会学とはどういう学問か - 「いじめ」現象の社会学的理解 【第3回】「自我」の社会性について 【第4回】日常生活のなかのアイデンティティ管理 【第5回】親密性の変容1 友達関係の変容と現在 【第6回】親密性の変容2 近代家族の誕生とその変容 【第7回】ジェンダー1 ジェンダーとは何か 【第8回】ジェンダー2 日本での職業における女性差別 【第9回】日本の若者の「職業世界」1 学校から職業への移行 【第10回】日本の若者の「職業世界」2 雇用流動化政策とフリーター問題、働く世界の変容 【第11回】現代社会1 資本主義はどのように登場しどのように危機を迎えたか 【第12回】現代社会2 「豊かな」社会 = 高度情報消費社会の登場 【第13回】現代社会3 「豊かな」社会と限界問題 - 公害、環境問題 【第14回】現代社会4 グローバル化とその変容 【第15回】南北問題および全体のまとめ 再び社会学的想像力について								
成績評価の方法	期末試験（80%）、毎回のリアクションレポート等授業への取り組み姿勢（20%）で評価する。到達目標に記載の内容を理解し自身の言葉で説明できることを定期試験の評価基準とする。								
フィードバックの内容	各回のリアクションレポート（各回のまとめと感想400字～800字）に対するフィードバックを翌週授業内冒頭に行う。								
教科書									
指定図書	『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』マックス・ヴェーバー（岩波書店）1989、『自殺論』エミール・デュルケム（中央公論社）1985、『社会学入門 - 人間と社会の未来』見田宗介（岩波書店）2006、『ソシオロジカル・イマジネーション』鈴木／澤井編（八千代出版）1997、『社会学』長谷川公一、浜日出夫、藤村正之、町村敬志（有斐閣）2007、『失われざる十年の記憶1990年代の社会学』鈴木／西田編（青弓社）2012								
参考書									
教員からのお知らせ	教科書は使用しない。資料・レジュメ等を適宜配布する。また参考書は講義時に随時紹介する。映像を適宜使用する。リアクションペーパーを毎回実施する。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。								
アクティブラーニングの内容 その他	リアクションレポートに対する教員からのフィードバックによる振り返り。								

講義コード	11C0121401	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員		開講期	
科目名	社会保障論1				青木 由香		第1期		
履修前提条件					備考				
授業の目的	社会保障は、私たちが生涯を通じて直面する生活上のさまざまな困難に対して、生活の安定をはかり、最低水準の生活を保障する公的な制度である。 この授業では社会保障制度の全体像について紹介するとともに、各制度の概要とその課題、制度の動向について講義する。								
到達目標	①社会保障制度の理念や機能、体系について理解し、社会保障の意義について説明できる。 ②各制度の概要を理解し、その役割を説明できる。 ③各制度が抱える具体的な課題を説明できる。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	この科目では、60時間以上の授業外学修を行うこと。 授業外学修では、講義ノートや配布資料を使用して、予習・復習をすること。								
授業計画	【第1回】ガイダンス（授業のテーマ、到達目標、授業方法の説明）・社会保障とは何か 【第2回】社会保障の理念と機能 【第3回】社会保障の歴史（1）欧米における社会保障の歴史【第4回】社会保障の歴史（2）日本における社会保障の歴史【第5回】社会保障の体系と構造 【第6回】社会保障の費用と財源 【第7回】社会保障と経済 【第8回】医療保険制度（1）医療保険制度の全体像と動向 【第9回】医療保険制度（2）健康保険制度と国民健康保険制度の概要【第10回】医療保険制度（3）後期高齢者医療制度の概要と医療費の動向 【第11回】介護保険制度（1）介護保険制度創設の背景と介護保障の歴史 【第12回】介護保険制度（2）介護保険制度の概要 【第13回】介護保険制度（3）介護保険制度の課題と展望 【第14回】最新の社会保障制度の動向 【第15回】授業の振り返りとまとめ								
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢（20%）、中間課題（30%）、期末課題（50%）で評価する。								
フィードバックの内容	リアクションペーパー等に対するフィードバックを翌週授業内にて行う。								
教科書									
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ	教科書は使用しない。参考文献等は授業内に紹介する。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、最初の授業で指示する。								
アクティブラーニングの内容	意見共有、教員からのフィードバックによる振り返り								
その他	社会保障は、私たちの生活の諸側面と深く関わる制度です。 日々のニュースや身近な話題と関連付けながら理解を深めてください。								

講義コード	11C0121501	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員		開講期	
科目名	社会保障論2				青木 由香		第2期		
履修前提条件					備考				
授業の目的	社会保障は、私たちが生涯を通じて直面する生活上のさまざまな困難に対して、生活の安定をはかり、最低水準の生活を保障する公的な制度である。 この授業では社会保障制度の全体像について紹介するとともに、各制度の概要とその課題、制度の動向について講義する。								
到達目標	①社会保障制度の理念や機能、体系について理解し、社会保障の意義について説明できる。 ②各制度の概要を理解し、その役割を説明できる。 ③各制度が抱える具体的な課題を説明できる。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	この科目では、60時間以上の授業外学修を行うこと。 授業外学修では、講義ノートや配布資料を使用して、予習・復習をすること。								
授業計画	【第1回】ガイダンス（授業のテーマ、到達目標、授業方法の説明）・社会保障制度の類型 【第2回】所得保障制度のしくみ 【第3回】公的年金制度（1）国民皆年金と公的年金制度の全体像 【第4回】公的年金制度（2）国民年金の概要 【第5回】公的年金制度（3）厚生年金の概要 【第6回】労働保険制度（1）雇用保険制度 【第7回】労働保険制度（2）労働者災害補償保険制度 【第8回】公的扶助制度（1）生活保護制度のしくみ 【第9回】公的扶助制度（2）低所得者対策 【第10回】公的扶助制度（3）近年の動向 【第11回】社会福祉制度（1）子ども・子育て支援制度 【第12回】社会福祉制度（2）障害者福祉 【第13回】社会福祉制度（3）社会手当 【第14回】諸外国の社会保障制度 【第15回】授業の振り返りとまとめ								
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢（20%）、中間課題（30%）、期末課題（50%）で評価する。								
フィードバックの内容	リアクションペーパー等に対するフィードバックを翌週授業内にて行う。								
教科書									
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ	教科書は使用しない。参考文献等は授業内に紹介する。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、最初の授業で指示する。								
アクティブラーニングの内容	意見共有、教員からのフィードバックによる振り返り								
その他	社会保障は、私たちの生活の諸側面と深く関わる制度です。 日々のニュースや身近な話題と関連付けながら理解を深めてください。								

講義コード	11C0123701	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員		開講期	
科目名	商法				王 偉杰		第2期		
履修前提条件					備考				
授業の目的	この授業では、企業活動を規律する法律の基礎を学び、会社法をはじめ、商行為法等の専門分野の法律に対する理解を促すことを目的とする。商法の核心的内容である会社法に授業の重心を置きながらも、他の関連法律、及び商法と他の法分野との関係等の内容をも取扱い、受講者が商法という法分野の全体像をつかめるよう講義を行う。								
到達目標	商法に関する基礎知識を把握できること、並びに現代経済社会における商的活動に関する様々な問題を法的思考により分析、理解できること。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	この科目では60時間以上の授業外学修をすること。 授業前、予習をすること。次の授業で取り扱う法律の条文を一読し、その法律の内容と趣旨をおおまかに把握すること。 授業後、復習すること。企業関連の出来事や会社情報等を材料に、関連法律の内容をよく整理したうえで吟味すること。								
授業計画	【第1回】 ガイダンス 【第2回】 商法総論 【第3回】 商人・商行為 【第4回】 商人の営利活動 【第5回】 商号（商人の名称） 【第6回】 商業登記制度 【第7回】 商業使用人・代理商 【第8回】 共同企業論				【第9回】 会社の種類 【第10回】 会社の設立手続 【第11回】 会社設立関連の法的問題 【第12回】 株式会社（株式と株主） 【第13回】 株式会社（株券・株主名簿・株式振替） 【第14回】 株式会社（機関構造） 【第15回】 株式会社（計算）				
成績評価の方法	授業の進捗状況に応じて、適宜、内容を調整することがある。 期末試験（50%）＋Web小テスト得点（40%。毎回授業後、Webclass上の小テストを実施する予定である）＋平常点（10%。授業への取り組み姿勢等）で評価する。								
フィードバックの内容	小テスト問題の解説は、提出締切後に公開する。								
教科書									
指定図書									
参考書	『会社法 第2版』宮島司（弘文堂）2023年、『スタンダード商法Ⅰ－商法総則・商行為法 第2版』北村雅史ほか（法律文化社）2022年、『会社法の考え方 第12版』山本為三郎（八千代出版）2022年、『入門講義会社法 第3版』鈴木千佳子（慶應義塾大学出版会）2023年、『会社法 第4版』田中亘（東京大学出版会）2023年、『会社法判例百選 第4版』神作裕之ほか編（有斐閣）2021年								
教員からのお知らせ	授業の際に六法を用意すること（ポケット六法やデイリー六法などの紙のものが望ましいが、最低限、授業中に取扱う条文内容をWeb上確認できるよう準備すること（e-gov法令検索等を利用）。								
オフィスアワー	この授業に関する質問・相談の受付については、ポータルサイトのオンライン授業システムの掲示板を利用する。また、授業開始後、ポータルサイトでメールアドレスを公開し、メールでも質問等を受け付ける。								
アクティブラーニングの内容	教員からのフィードバックによる振り返り（授業後、web classにて毎回確認小テストを実施する予定。提出締切後にポータルサイトに問題解説を掲載し、受講者は各自確認し、必要に応じて復習してください）								
その他	授業用レジュメを事前にポータルサイトに掲載し、各自準備して授業に臨んでください。また、テキストは使用せず、参考書は、各自の判断で、必要に応じて購入を検討してください。								

講義コード		授業形態	講義・演習	抽選の有無	あり	担当教員		開講期	
科目名	情報基礎Ⅰ				各担当教員		第1期		
履修前提条件					備考				
授業の目的	現代のように高度に情報化されたネットワーク社会では、知的活動を遂行するためには、コンピュータやインターネットの活用能力がこれまで以上に要求されている。本授業は、コンピュータ初心者を対象とした情報リテラシー育成のための授業である。情報リテラシーとは、コンピュータやインターネットを日常的に活用できる能力のことである。また毎週、課題提出と予習復習を行うことで大学での学習生活の基本的習慣が身につくようにする。								
到達目標	コンピュータやネットワークの持つ多面的可能性と限界とを正しく理解できる。情報倫理に関する知識を身につけ、情報処理の技術を正しく使える。さらに、これからの高度情報時代に生ずる様々な問題点を発見する眼を養い、その問題を解決するための情報処理技術を習得するための基礎を作ることができる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	この科目では60時間以上の授業外学修を行うこと。 各回の授業で扱う項目について、授業後に復習し再度演習をして理解を深めること。 e-LearningというPCを使った教材を課すこともある。								
授業計画	【第1回】 ガイダンス 【第2回】 情報倫理（1）概要・インターネットやSNSにおける注意 【第3回】 情報倫理（2）セキュリティ対策について・著作権と個人情報 【第4回】 日本語文書処理の基礎（1） 【第5回】 日本語文書処理の基礎（2） 【第6回】 日本語文書処理の基礎（3） 【第7回】 日本語文書処理の基礎（4） 【第8回】 日本語文書処理の基礎（5） 【第9回】 表計算ソフトの基本（1）基本操作 【第10回】 表計算ソフトの基本（2）グラフ作成 【第11回】 表計算ソフトの基本（3）基本操作の復習 【第12回】 表計算ソフトの応用（1）関数の基本・合計と平均 【第13回】 表計算ソフトの応用（2）関数の基本・復習と四捨五入 【第14回】 表計算ソフトの応用（3）関数の基本・復習と順位 【第15回】 表計算ソフトの応用（4）復習								
成績評価の方法	毎週の課題（100%）から到達目標への到達度を評価する。								
フィードバックの内容	重要な課題について授業中に解答例を見せて解説する。								
教科書	『情報文化スキル（第4版）－Windows 10 & Office 2019 対応－』城所弘泰・井上彰宏・今井賢（オーム社）2020								
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ	学籍番号によってクラス分けされているので自分がどのクラス（曜日・時限）に配属されているか確認してから履修登録をすること。必修科目（卒業要件に必要な科目）なので単位を落とすことのないように留意すること。								
オフィスアワー	この授業は複数クラスなので、オフィスアワーあるいは質問対応可能時間の詳細については各担当教員に問い合わせること。								
アクティブラーニングの内容	課題解決型学習								
その他									

講義コード		授業形態	講義・演習	抽選の有無	あり	担当教員		開講期	
科目名	情報基礎2				各担当教員		第2期		
履修前提条件					備考				
授業の目的	現代のように高度に情報化されたネットワーク社会では、知的活動を遂行するためには、コンピュータやインターネットの活用能力がこれまでに以上に要求されている。本授業は、コンピュータ初心者を対象とした情報リテラシー育成のための授業である。情報リテラシーとは、コンピュータやインターネットを日常的に活用できる能力のことである。また毎週、課題提出と予習復習を行うことで大学での学習生活の基本的習慣が身につくようにする。								
到達目標	コンピュータやネットワークの持つ多面的可能性と限界とを正しく理解できる。情報倫理に関する知識を身につけ、情報処理の技術を正しく使える。さらに、これからの高度情報時代に生ずる様々な問題点を発見する眼を養い、その問題を解決するための情報処理技術を習得するための基礎を作ることができる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	この科目では60時間以上の授業外学修を行うこと。 各回の授業で扱う項目について、授業後に復習し再度演習をして理解を深めること。 e-Learning という PC を使った教材を課すこともある。								
授業計画	【第1回】 表計算ソフトの応用 (5) IF 関数の基本 【第2回】 表計算ソフトの応用 (6) IF 関数の入れ子 【第3回】 表計算ソフトの応用 (7) IF 関数と AND 関数・OR 関数 【第4回】 表計算ソフトの応用 (8) VLOOKUP 関数 (完全一致) 【第5回】 表計算ソフトの応用 (9) VLOOKUP 関数 (近似一致) 【第6回】 表計算ソフトの応用 (10) 文字列データと関数 【第7回】 表計算ソフトの応用 (11) 日付と時刻の扱い 【第8回】 表計算ソフトの応用 (12) 日付と時刻の関数 【第9回】 表計算ソフトの応用 (13) データベース機能 【第10回】 表計算ソフトの応用 (14) グループ分けと集計の関数 【第11回】 表計算ソフトの応用 (15) 復習 【第12回】 プレゼンテーションの基礎 (1) 【第13回】 プレゼンテーションの基礎 (2) 【第14回】 プレゼンテーションの基礎 (3) 【第15回】 プレゼンテーションの基礎 (4)								
成績評価の方法	毎週の課題 (100%) から到達目標への到達度を評価する。								
フィードバックの内容	重要な課題について授業中に解答例を見せて解説する。								
教科書	『情報文化スキル (第4版) - Windows 10 & Office 2019 対応 -』城所弘泰・井上彰宏・今井賢 (オーム社) 2020								
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ	学籍番号によってクラス分けされているので自分がどのクラス (曜日・時限) に配属されているか確認してから履修登録をすること。必修科目 (卒業要件に必要な科目) なので単位を落とすことのないように留意すること。								
オフィスアワー	この授業は複数クラスなので、オフィスアワーあるいは質問対応可能時間の詳細については各担当教員に問い合わせること。								
アクティブラーニングの内容	課題解決型学習								
その他									

講義コード	11C0121801	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員	大槻 一彦	開講期	第1期
科目名	情報経済学 1				大槻 一彦		第1期		
履修前提条件					備考				
授業の目的	本講義では、データサイエンスの中でも主に個人のスキルについて講義します。								
到達目標	本講義では、データサイエンスとは何かをスキルと実務の両方から理解できるようになることを到達目標とします。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	この科目では、60時間以上の授業外学修を行うこと。 授業外学修では、日常的にデータサイエンスに係る事象の観察と収集に励むこと。								
授業計画	【第1回】 導入：データサイエンスとは 【第2回】 データ分析の民主化 【第3回】 企業におけるデータ分析組織 【第4回】 企業で求められるデータサイエンス力とは 【第5回】 リサーチ 【第6回】 統計学 【第7回】 中間試験 【第8回】 中間試験返却とフィードバック 【第9回】 機械学習 / 統計学との違い 【第10回】 AI / 機械学習 (教師あり / 教師なし / 強化学習) 【第11回】 機械学習 (ニューラルネットワーク / ディープラーニング) 【第12回】 AI の普及 【第13回】 データサイエンティストに求められるエンジニアリング力 / ビジネス力 【第14回】 期末試験 【第15回】 総評								
成績評価の方法	中間試験 50% 期末試験 50%								
フィードバックの内容	リアクションペーパーに対するフィードバックを翌週授業内にて行います。								
教科書									
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ	この授業は第1期・第2期の通期での履修を想定した授業となります。								
オフィスアワー	授業に関する質問・相談は、メールにて対応いたします。メールアドレスについては授業内で指示致します。								
アクティブラーニングの内容	中間試験などに対する教員からのフィードバックによる振り返りをします。								
その他	インターネット企業でデータアナリストの実務経験があり、データサイエンティストを多く抱える企業で技術顧問の実務経験がある教員が、その経験を活かして、データサイエンスとは何かについて講義する。								

講義コード	11C0121901	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員		開講期	
科目名	情報経済学2				大槻 一彦		第2期		
履修前提条件					備考				
授業の目的	本講義では、データサイエンスの中でも主に実務について講義します。								
到達目標	本講義では、データサイエンスとは何かをスキルと実務の両方から理解できるようになることを到達目標とします。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	この科目では、60時間以上の授業外学修を行うこと。 授業外学修では、日常的にデータサイエンスに係る事象の観察と収集に励むこと。								
授業計画	【第1回】 導入：データサイエンティストの実務 【第2回】 データ分析の用途（分析／開発） 【第3回】 データ活用の基本 【第4回】 データで何ができるか 【第5回】 情報通信サービスにおけるデータ活用の基本 【第6回】 その他業界におけるデータ活用／オンラインゲームにおける例 【第7回】 中間試験 【第8回】 中間試験フィードバック 【第9回】 データドリブンと KPI 設定 【第10回】 オンラインサービス運営と KPI ツリー 【第11回】 データドリブな経営（KPI マネジメント /North Star Metric/Mission Vision Value 経営） 【第12回】 データサイエンスにおける Web サービス開発 【第13回】 データガバナンス、データマネジメントの潮流（基盤整備隆盛から成熟期に） 【第14回】 期末試験 【第15回】 総評								
成績評価の方法	中間試験 50% 期末試験 50%								
フィードバックの内容	毎回授業内で質疑応答を行います。								
教科書									
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ	この授業は第1期・第2期の通期での履修を想定した授業となります。								
オフィスアワー	授業に関する質問・相談は、メールにて対応いたします。メールアドレスについては授業内で指示致します。								
アクティブラーニングの内容	中間試験などに対する教員からのフィードバックによる振り返りをします。								
その他	インターネット企業でデータアナリストの実務経験があり、データサイエンティストを多く抱える企業で技術顧問の実務経験がある教員が、その経験を活かして、データサイエンスとは何かについて講義する。								

講義コード	11C0118301	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員		開講期	
科目名	人的資源管理論 1				戎野 淑子		第1期		
履修前提条件					備考				
授業の目的	昨今、企業を取り巻く経済・社会環境が著しく変容し、労働者の就業ニーズも多様化したため、従来までの人事制度には現状との不適合な面も生じ、様々な問題が発生することとなった。そのため、ここ10年余りの間に、多くの企業で人事制度の改革が多岐にわたり行われてきた。そして、日本的経営といわれてきた「終身雇用」や「年功序列」等の特徴にもつ、日本の雇用関係も大きく動揺している。そこで、本講義では、雇用関係ならびに人事制度の実態とその変容を明らかにし、今日生じている諸問題について検討することとする。								
到達目標	人的資源管理論に関する基礎的知識を修得することができる。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	講義ノートを用いて、復習をすること。(計60時間以上)								
授業計画	【第1回】 はじめに：講義の概要 【第2回】 採用Ⅰ（新卒採用、中途採用） 【第3回】 採用Ⅱ（近年の動向：インターンシップと採用） 【第4回】 採用Ⅲ（諸外国と日本企業） 【第5回】 採用Ⅳ（昨今の特徴と諸問題） 【第6回】 賃金制度Ⅰ（賃金体系と日本の特徴） 【第7回】 賃金制度Ⅱ（年功賃金、成果主義賃金） 【第8回】 賃金制度Ⅲ（裁量労働、ホワイトカラーエグゼンプション） 【第9回】 新卒採用と賃金 【第10回】 教育Ⅰ（OJT、off-JTの特徴） 【第11回】 教育Ⅱ（エンプロイヤービリティ、自己啓発） 【第12回】 教育Ⅲ（諸問題） 【第13回】 評価制度Ⅰ（職能資格制度） 【第14回】 評価制度Ⅱ（目標管理制度） 【第15回】 まとめ								
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢50%と試験50%。毎回の授業で課題を解答して提出し、授業への取り組み姿勢を評価。最後2回の授業は、まとめの試験（課題）を行い、試験の評価。								
フィードバックの内容	課題の解答（リアクションペーパー）に対するフィードバックを次の授業で行う								
教科書	『人的資源管理の力』白木三秀編著（文真堂）2024年								
指定図書	『新しい人事労務管理』佐藤博樹、藤村博之、八代充史（有斐閣アルマ）2019年								
参考書									
教員からのお知らせ									
オフィスアワー	水曜日お昼休み								
アクティブラーニングの内容	毎回、課題を行い提出し、その解答（リアクションペーパー）に対するフィードバックを次の授業で行う								
その他									

講義コード	11C0118401	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員		開講期	
科目名	人的資源管理論2				戎野 淑子		第2期		
履修前条件					備考				
授業の目的	<p>昨今、企業を取り巻く経済・社会環境が著しく変容し、労働者の就業ニーズも多様化したため、従来までの人事制度には現状との不適な面も生じ、様々な問題が発生することとなった。そのため、ここ10年余りの間に、多くの企業で人事制度の改革が多岐にわたり行われてきた。そして、日本の経営といわれてきた「終身雇用」や「年功序列」等の特徴をもつ、日本の雇用関係も大きく動揺している。</p> <p>そこで、本講義では、雇用関係ならびに人事制度の実態とその変容を明らかにし、今日生じている諸問題について検討することとする。</p>								
到達目標	人的資源管理論に関する基礎的知識を修得することができる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	講義ノートを用いて、復習をすること。(計60時間以上)								
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> 【第1回】教育Ⅰ (OJT、off-JTの特徴) 【第2回】教育Ⅱ (エンプロイヤビリティ、自己啓発) 【第3回】評価制度Ⅰ (職能資格制度) 【第4回】評価制度Ⅱ (目標管理制度) 【第5回】労働時間Ⅰ (日本の労働時間の特徴) 【第6回】労働時間Ⅱ (近年の動向) 【第7回】定年制度 【第8回】退職と年金 【第9回】解雇 【第10回】労働組合Ⅰ (歴史的変遷) 【第11回】労働組合Ⅱ (役割と現在の特徴) 【第12回】雇用形態の多様化Ⅰ (非正規従業員の変遷と現状) 【第13回】雇用形態の多様化Ⅱ (パートタイマー、派遣、請負労働等) 【第14回】働き方改革と現在の労働問題 【第15回】まとめ 								
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢50%と試験50%。毎回の授業で課題を解答して提出し、授業への取り組み姿勢を評価。最後2回の授業は、まとめの試験(課題)を行い、試験の評価。								
フィードバックの内容	課題の解答(リアクションペーパー)に対するフィードバックを次の授業で行う								
教科書	『人的資源管理の力』白木三秀編著(文真堂)2024年								
指定図書	『新しい人事労務管理』佐藤博樹、藤村(有斐閣アルマ)2019年								
参考書									
教員からのお知らせ									
オフィスアワー	水曜日お昼休み								
アクティブラーニングの内容	毎回、課題を行い提出し、その解答(リアクションペーパー)に対するフィードバックを次の授業で行う								
その他									

講義コード	11C0104602	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員	小野寺 哲夫	開講期	第2期
科目名	心理学の世界				小野寺 哲夫		第2期		
履修前提条件					備考				
授業の目的	心理学のスタンダードについて学ぶこと。心理学の概要を正しく理解し、心理学の魅力に気づくこと。さらに人間の発達段階における特徴、心理学による人間理解の仕方や心理学的な〈ものの見方〉について理解すること。								
到達目標	学生が、心理学の基礎知識を身につけ、その知識を基に、人間の心理現象を正しく理解し、分析できるようになること。また、将来の就職活動で役立つレベルの自己理解、および自己分析ができるようになること。心理学の知識を日常生活の中で活用できるようになること。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	能動的な授業外学修として、授業で扱ったトピックについての復習として、授業で扱ったキーワードや理論等について、図書館やインターネット等で調べて、自己理解を確実にし、知識を定着させること。上記に示した授業外の学修は、60時間以上を目安に行うこと。								
授業計画	<p>【第1回】授業のオリエンテーション・心理学の概説ほか</p> <p>【第2回】心理学の歴史（3つのパラダイム）ほか</p> <p>【第3回】「知覚の心理学①」精神物理学、反転図形ほか</p> <p>【第4回】「知覚の心理学②」ゲシュタルトの法則、錯視の不思議ほか</p> <p>【第5回】「学習の心理学①」古典的条件づけほか</p> <p>【第6回】「学習の心理学②」オペラント条件づけほか</p> <p>【第7回】「学習の心理学③」社会的学習理論ほか</p> <p>【第8回】「記憶の心理学①」短期記憶と長期記憶ほか</p> <p>【第9回】「記憶の心理学②」忘却理論と目撃証言研究ほか</p> <p>【第10回】「フロイトの精神分析学」無意識の心理学ほか</p> <p>【第11回】「臨床心理学①」交流分析（エゴグラムほか）について</p> <p>【第12回】「臨床心理学②」交流分析（ストロークほか）について</p> <p>【第13回】「臨床心理学③」認知行動療法（CBT）について</p> <p>【第14回】「臨床心理学④」森田療法・内観法</p> <p>【第15回】「文化心理学」ビエール・ブルデューのハビトゥス論</p>								
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢（10%）と中間レポート（20%）、期末試験（70%）で評価する。定期試験の評価基準は、「授業で学んだ心理学キーワードを自身の言葉で説明できること、および具体例を挙げて論じることができること」とする。								
フィードバックの内容	この授業に関して、学生から出された質問や意見等に対しては、ポータルサイトの『掲示板』にてアップしてもらう。そして教員は、1週間以内に、それらの意見や質問に対するフィードバックを行うものとする。								
教科書	『心理学の世界 ver.2.0』小野寺哲夫（JFA パブリッシング）2019								
指定図書	『アイゼンク教授の心理学ハンドブック』マイケル W. アイゼンク（ナカニシヤ出版）2008、『ヒルガードの心理学』スーザン・ノーレン・ホークセマ（金剛出版）2012、『ザ・ソーシャル・アニマルー人と世界を読み解く社会心理学への招待』エリオット アロンソン（サイエンス社）2014、『オプティミストはなぜ成功するか』マーティン・セリグマン（パンローリング）2014、『はじめて学ぶ行動療法』三田村仰（金剛出版）2017、『ファスト&スロー（上）（下）あなたの意思はどのように決まるか?』ダニエル・カーネマン（早川書房）2014、『ブルデュー『ディスタンクシオン』講義』石井洋二郎（藤原書店）2020								
参考書	『人生を逆転する最強の法則』竹田陽一（中経出版）1994、『よくわかる森田療法』中村 敬（主婦の友社）2018、『変化の原理』ポール・ワツラウィック（法政大学出版会）2018、『長寿と性格』ハワード・S・フリードマンほか（清流出版）2012、『運のいい人の法則』リチャード・ワイズマン（角川文庫）2004、『ACE サバイバー 子ども期の逆境に苦しむ人々』三谷はるよ（ちくま新書）2023、『シャープフロイデ 人の不幸を喜ぶ私たちの闇』リチャード・スミス（勁草書房）2018、『ポジティブ・シフト』キャサリン・A・サンダーソン（ディスカヴァー）2023、『地に足を付けて生きる』スヴェン・プリンクマン（Evolving）2022、『エッセンシャル思考』グレッグ・マキューン（かんき出版）2014								
教員からのお知らせ	本授業のテキストである『心理学の世界 ver.2.0』は大学内の紀伊国屋書店でのみ購入できます。加えて、第1回目の授業、あるいは第12回～13回目の授業の時に、心理学に関連した簡単なアンケート調査に協力していただく場合があります。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。								
アクティブラーニングの内容	対面授業の中で、あるテーマやキーワードについて、学生同士が意見交換、および意見共有する機会を作る。また、授業の予習・復習、および学生が興味関心を持った心理学キーワードについて図書館やインターネット等を活用した能動的な授業外学修を行ってもらう。								
その他	本授業の講師は、臨床心理士および公認心理師として、主に学校現場を中心にスクールカウンセラー等、20年の臨床経験がある。講義の中で、それらの臨床経験から得られた事例について触れる。								

講義コード		授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員		開講期	
科目名	数学基礎				各担当教員		第1期		
履修前提条件					備考				
授業の目的	本講義では、数学の基礎的な知識と計算力を身に付け、それらを具体的な問題に応用出来ることを目的とする。とくに、2年次以降の専門科目を理解するために必要な数学、さらにはSPIや公務員試験などで必要な数学を中心に学んでいく。								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学生が数学的思考を身に付ける。 ・ 学生が高校レベル程度の数学の知識を身につける。 ・ 学生が計算問題が解ける。 								
授業外学修内容・授業外学修時間数	授業で行われる内容について指定教科書の該当箇所をあらかじめ読んでおくこと。さらに毎回の授業後の復習は十分に行うこと。上記の授業外学修は、60時間以上を目安に行うこと。								
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> 【第1回】 ガイダンス（講義のスタイルと必要な予備知識について、割合を含める） 【第2回】 指数（指数の計算、指数関数） 【第3回】 対数（対数の計算、対数関数） 【第4回】 数列（等差数列、等比数列） 【第5回】 一次関数とそのグラフ1（一次関数の性質、一次関数のグラフ） 【第6回】 一次関数とそのグラフ2（一次関数の交点、一次不等式、予算制約式） 【第7回】 二次関数とそのグラフ1（二次関数の性質、二次関数のグラフ） 【第8回】 二次関数とそのグラフ2と2次方程式（二次関数の最大値最小値問題、2次方程式の解法） 【第9回】 微分1（極限の計算、微分の定義） 【第10回】 微分2（多項式に関する微分計算） 【第11回】 微分3（関数の積、関数の商、合成関数に関する微分計算） 【第12回】 微分の応用（微分の幾何的意味、微分を用いた関数のグラフの図示、多項式関数の極値問題） 【第13回】 場合の数（樹形図、和の法則、積の法則） 【第14回】 確率（加法定理、乗法定理） 【第15回】 総復習 								
成績評価の方法	期末試験（100%）により評価する。								
フィードバックの内容	毎回課される課題の解説を授業内で行う。								
教科書	『経済学のための数学の基礎15講』小林幹（新世社）2018								
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ									
オフィスアワー	この授業は複数クラスなので、オフィスアワーあるいは質問対応可能時間の詳細については各担当教員に問い合わせること。								
アクティブラーニングの内容	教員からのフィードバックによる振り返り。								
その他									

講義コード	14C0126101	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員	桐木 紳	開講期	第1期
科目名	数学の世界				桐木 紳		第1期		
履修前提条件					備考				
授業の目的	時間と共に変化する現象を分析する数学の分野は力学系（dynamical systems）と呼ばれます。ちなみに物理学の力学（mechanics）も含まれていますが、それだけでなく生物の個体数、人口の変化、金融市場の変化、物流の変化など多くの分野に応用可能です。本講義は高校の数学Iまでの知識を前提に、差分方程式系の基礎を学び、バタフライ効果やカオス現象といった最先端の意味を理解することを目的とします。								
到達目標	この授業では受講生が以下のことができるようになることを目標とします。 (1) 数学に対する苦手意識をなくし、むしろ数学に親しみを感じられるようになる。 (2) 自ら手を動かし計算できるようになる。 (3) 差分方程式と力学系を知る。 (4) 数理モデルと現実の関係を観察し考察できる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	授業外学修では講義後の復習に力点をください。講義ノートを読み直すだけでなく、自ら手を動かし「計算」して理解を深めることが大切です。さらに関連事項をインターネットで調べたりして毎回4時間以上の学修が必要です。60時間以上の授業外学修が必要です。								
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> 【第1回】 この講義の概要（預貯金の数理モデル） 【第2回】 力学系とは 【第3回】 吸引的不動点 【第4回】 反発的不動点 【第5回】 2次関数の定める力学系 【第6回】 周期点と周期軌道 【第7回】 テント写像の3周期軌道 【第8回】 バタフライ効果とは 【第9回】 微分とは 【第10回】 生物の個体数のダイナミクス（絶滅現象について） 【第11回】 安定状態 【第12回】 周期状態 【第13回】 分岐とは 【第14回】 分岐現象の視覚化 【第15回】 カオス現象 								
成績評価の方法	到達目標に記載の内容について論述できることを定期試験の評価基準とする。具体的にはレポート5回（40%）と期末試験（60%）で総合的な評価を行う予定である。								
フィードバックの内容	授業内容でわからないことは、メールで問い合わせるか、授業の前後で個人的に質問にできればお応えします。レポート課題については必要に応じて授業中に説明する予定です。								
教科書									
指定図書									
参考書	『カオスとフラクタル』山口昌哉（筑摩書房）2010/12/10								
教員からのお知らせ									
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、講義終了後に直接するか、桐木までメール（kiriki@tokai-ujp）をください。								
アクティブラーニングの内容	講義中に出题した課題に対し、後日学生へのフィードバックとして担当教員がその課題と関連事項に関して解説を行い、学生の振り返りを促す予定です。								
その他									

講義コード	11C0102901	授業形態	講義・演習	抽選の有無	あり	担当教員	金澤 直也	開講期	第1期
科目名	スペイン語1A					金澤 直也	第1期		
履修前提条件						備考			
授業の目的	スペイン語の初級文法の基礎となる直説法現在を終えることを目的とします。アルファベット・発音・アクセントからはじめ、英語にないスペイン語の文法的特徴に注意しながら、語彙をふやし、動詞の複雑な変化をおぼえます。スペイン語学習を通じて、これまで学んできた日本語や英語の文法的特徴をとらえなおします。								
到達目標	スペイン語の初級文法を習得し、ひとりで辞書をもちいてスペイン語学習にとりくむことができるようになる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	教科書や講義ノートをもちいて、1回の授業につき、単語や文法の予習と復習に1時間以上、計15時間以上の授業外学修をおこなうこと。教科書についているCDを繰り返し聞く習慣を身につけましょう。とくにテキストで理解できた点と理解できなかった点を明確にしたうえで授業を受けること。								
授業計画	【第1回】第1課（アルファベット、発音、アクセント）		【第9回】第5課（直説法現在不規則活用①、基数101-1.000）		【第10回】第6課（直説法現在不規則活用②、基数1.001-1.000.000）		【第11回】第6課（直説法現在不規則活用②、直接目的格代名詞）		【第12回】第7課（直説法現在不規則活用③、間接目的格代名詞）
	【第2回】第2課（名詞の性と数）		【第10回】第6課（直説法現在不規則活用②、基数1.001-1.000.000）		【第11回】第6課（直説法現在不規則活用②、直接目的格代名詞）		【第12回】第7課（直説法現在不規則活用③、間接目的格代名詞）		【第13回】第7課（直説法現在不規則活用③、直接・間接目的格代名詞）
	【第3回】第2課（定冠詞、不定冠詞）		【第11回】第6課（直説法現在不規則活用②、直接目的格代名詞）		【第12回】第7課（直説法現在不規則活用③、間接目的格代名詞）		【第13回】第7課（直説法現在不規則活用③、直接・間接目的格代名詞）		【第14回】第8課（動詞 querer の表現）
	【第4回】第3課（主格人称代名詞、動詞 ser の疑問文と否定文）		【第12回】第7課（直説法現在不規則活用③、間接目的格代名詞）		【第13回】第7課（直説法現在不規則活用③、直接・間接目的格代名詞）		【第14回】第8課（動詞 querer の表現）		【第15回】第1期まとめ
	【第5回】第3課（動詞 ser と estar のちがいがい）		【第13回】第7課（直説法現在不規則活用③、直接・間接目的格代名詞）		【第14回】第8課（動詞 querer の表現）		【第15回】第1期まとめ		
	【第6回】第4課（直説法現在規則活用 ar、基数1-10）		【第14回】第8課（動詞 querer の表現）		【第15回】第1期まとめ				
	【第7回】第4課（直説法現在規則活用 ir、基数11-30）								
	【第8回】第5課（直説法現在不規則活用①、基数31-100）								
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢（20%）、中間テスト（40%）、期末テスト（40%）								
フィードバックの内容	提出された課題を添削し、授業期間内に返却する。								
教科書	『基礎から学ぼう！スペイン語』西川喬（朝日出版社）2014								
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ	辞書は不可欠です。授業に毎回持参すること。 【推奨辞書】 (1) 〈ミニ辞典〉『ポケットプログレッシブ西和・和西辞典』（小学館）、または『デイリーコンサイス西和・和西辞典』（三省堂） (2) 〈学習辞典〉『クラウン西和辞典』+『クラウン和西辞典』（三省堂）、または『プエルタ新スペイン語辞典』（研究社〔簡易和西辞書機能付〕） (3) 〈本格辞典〉『西和中辞典』（小学館〔和西辞書機能なし。別途和西辞典を購入する必要があります〕）								
オフィスアワー	授業についての質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で対応します。								
アクティブラーニングの内容	アウトプットを通じた学習を重視しています。学生同士で発音の練習や課題の採点をする場合があります、授業への積極的な参加が求められます。								
その他	授業計画は学生の理解度に応じて変更することがあります。								

講義コード	11C0102902	授業形態	講義・演習	抽選の有無	あり	担当教員	遠藤 杏	開講期	第1期
科目名	スペイン語1B					遠藤 杏	第1期		
履修前提条件						備考			
授業の目的	スペイン語をアルファベットから学び、初級文法を習得する。スペイン語を使って自己紹介や日常生活の言い方について学ぶことで、スペイン語を身近に感じてもらう								
到達目標	1. スペイン語の初級文法を習得する。「スペイン語1B」では、アルファベットから直説法現在形規則動詞までを学ぶ。 2. スペイン語を使って自分のことや大学のこと、日常生活、家族、友人について相手に伝えるための表現を学ぶ								
授業外学修内容・授業外学修時間数	1回の授業につき、1時間以上の予習と復習、計15時間以上の授業外学修を行うこと。（教科書や配布された資料を読み予習を行う、練習問題に取り組むなど）								
授業計画	【第1回】Unidad 1 スペイン語発音練習、基本的なあいさつ		【第9回】Unidad 5 指示形容詞、動詞 ESTAR、動詞 HAY、SER + 形容詞、ESTAR + 形容詞、TENER + 名詞の表現		【第10回】Unidad 5 文法事項まとめ		【第11回】Unidad 6 動詞 IR, VER, HACER, PONER, SALIR, IR a + 不定詞、TENER que + 不定詞、時刻の表現、日付の表現、疑問詞（2）		【第12回】Unidad 6 文法事項まとめ
	【第2回】Unidad 2 名詞の性、名詞の数、定冠詞、不定冠詞、主格人称代名詞、動詞 SER		【第10回】Unidad 5 文法事項まとめ		【第11回】Unidad 6 動詞 IR, VER, HACER, PONER, SALIR, IR a + 不定詞、TENER que + 不定詞、時刻の表現、日付の表現、疑問詞（2）		【第12回】Unidad 6 文法事項まとめ		【第13回】Unidad 7 語幹母音変化動詞、天候表現、直接目的格人称代名詞
	【第3回】Unidad 2 文法事項まとめ		【第11回】Unidad 6 動詞 IR, VER, HACER, PONER, SALIR, IR a + 不定詞、TENER que + 不定詞、時刻の表現、日付の表現、疑問詞（2）		【第12回】Unidad 6 文法事項まとめ		【第13回】Unidad 7 語幹母音変化動詞、天候表現、直接目的格人称代名詞		【第14回】Unidad 7 文法事項まとめ
	【第4回】Unidad 3 形容詞、所有形容詞前置形、疑問文と否定文、動詞 TENER、数 1 ~100		【第12回】Unidad 6 文法事項まとめ		【第13回】Unidad 7 語幹母音変化動詞、天候表現、直接目的格人称代名詞		【第14回】Unidad 7 文法事項まとめ		【第15回】Unidad 5 - 7 確認テスト
	【第5回】Unidad 3 文法事項まとめ		【第13回】Unidad 7 語幹母音変化動詞、天候表現、直接目的格人称代名詞		【第14回】Unidad 7 文法事項まとめ		【第15回】Unidad 5 - 7 確認テスト		
	【第6回】Unidad 4 直説法現在、主な前置詞、疑問詞（1）		【第14回】Unidad 7 文法事項まとめ		【第15回】Unidad 5 - 7 確認テスト				
	【第7回】Unidad 4 文法事項まとめ		【第15回】Unidad 5 - 7 確認テスト						
	【第8回】Unidad 1 - 4 確認テスト								
	【第9回】Unidad 5 指示形容詞、動詞 ESTAR、動詞 HAY、SER + 形容詞、ESTAR + 形容詞、TENER + 名詞の表現								
	【第10回】Unidad 5 文法事項まとめ								
	【第11回】Unidad 6 動詞 IR, VER, HACER, PONER, SALIR, IR a + 不定詞、TENER que + 不定詞、時刻の表現、日付の表現、疑問詞（2）								
	【第12回】Unidad 6 文法事項まとめ								
	【第13回】Unidad 7 語幹母音変化動詞、天候表現、直接目的格人称代名詞								
	【第14回】Unidad 7 文法事項まとめ								
	【第15回】Unidad 5 - 7 確認テスト								
成績評価の方法	授業開始時の文法確認テスト（30%）、確認テスト（50%）、授業への取り組み姿勢（20%）								
フィードバックの内容	課題、コメントのフィードバックを次回授業内にて行う。小テストなどの解答を試験終了後に配布する。								
教科書	『イメージ・スペイン語』エウヘニオ・デル・プラド / 齋藤華子 / 仲道慎治（朝日出版社）2019年								
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ	欠席をすると授業についていくのが難しくなるため、なるべく欠席をしないようにすること								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は授業終了後、次の授業に支障が出ない範囲で教室内で対応する。またメールでも受け付ける。宛先は授業内で指示する。								
アクティブラーニングの内容	教員からのフィードバックによる振り返り								
その他									

講義コード	11C0103001	授業形態	講義・演習	抽選の有無	あり	担当教員	金澤 直也	開講期	第2期
科目名	スペイン語2A				金澤 直也			第2期	
履修前提条件					備考				
授業の目的	スペイン語の初級文法の時制をひと通り終えることを目的とします。「スペイン語1A」の続きです。「スペイン語2A」では再帰動詞から接続法現在まであつきます。テキストの会話や長文を中心に授業を進めます。日常生活でよく使われるスペイン語の文法や表現をつうじて、簡単な文の読解力や聞き取る能力を高めていきます。								
到達目標	授業計画の項目にある文法や表現を習得し、使いわけることができるようになる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	教科書や講義ノートをもちいて、1回の授業につき、単語や文法の予習と復習に1時間以上、計15時間以上の授業外学修をおこなうこと。とくにテキストで理解できた点と理解できなかった点を明確にしたうえで授業を受けること。事後学習では、授業の理解度を確認するために、課題となる練習問題を着実にこなしてゆくことが求められます。								
授業計画	【第1回】 復習 【第2回】 第9課 (再帰動詞) 【第3回】 第9課 (seの受け身) 【第4回】 第10課 (過去分詞) 【第5回】 第10課 (直説法現在完了) 【第6回】 第11課 (直説法点過去規則活用) 【第7回】 第11課 (無人称表現) 【第8回】 第12課 (直説法点過去不規則活用)				【第9回】 第12課 (直説法点過去完全不規則動詞) 【第10回】 第13課 (直説法線過去) 【第11回】 第13課 (現在分詞) 【第12回】 第14課 (直説法未来) 【第13回】 第14課 (直説法過去未来) 【第14回】 第15課 (接続法現在規則活用) 【第15回】 第2期まとめ				
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢 (20%)、中間テスト (40%)、期末テスト (40%)								
フィードバックの内容	提出された課題を添削し、授業期間内に返却する。								
教科書	『基礎から学ぼう! スペイン語』 西川喬 (朝日出版社) 2014								
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ	辞書は不可欠です。授業に毎回持参すること。 【推奨辞書】 (1) 〈ミニ辞典〉『ポケットプログレッシブ西和・和西辞典』(小学館)、または『デイリーコンサイス西和・和西辞典』(三省堂) (2) 〈学習辞典〉『クラウン西和辞典』+『クラウン和西辞典』(三省堂)、または『プエルタ新スペイン語辞典』(研究社 [簡易和西辞書機能付]) (3) 〈本格辞典〉『西和中辞典』(小学館 [和西辞書機能なし。別途和西辞典を購入する必要があります])								
オフィスアワー	授業についての質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室で対応します。								
アクティブラーニングの内容	アウトプットを通じた学習を重視しています。学生同士で発音の練習や課題の採点をする場合があります、授業への積極的な参加が求められます。								
その他	授業計画は学生の理解度に応じて変更することがあります。								

講義コード	11C0103002	授業形態	講義・演習	抽選の有無	あり	担当教員	遠藤 杏	開講期	第2期
科目名	スペイン語2B				遠藤 杏			第2期	
履修前提条件					備考				
授業の目的	スペイン語の初級文法を習得する。日常生活や過去のこと、実際にスペイン語圏に行ったときに買い物や注文ができることを目的とする。								
到達目標	1. スペイン語の初級文法を習得する。「スペイン語2B」では、現在時制から過去時制までを学ぶ。 2. スペイン語を使って日常生活や過去のこと、実際にスペイン語圏に行ったときのことを想定して買い物や注文の方法の基本を学ぶ								
授業外学修内容・授業外学修時間数	1回の授業につき、1時間以上の予習と復習、計15時間以上の授業外学修を行うこと。(教科書や配布された資料を読み予習を行う、練習問題に取り組むなど)								
授業計画	【第1回】 Unidad 1 - 7 前期の復習 【第2回】 Unidad 8 動詞 OIR, VENIR, SABER, CONOCER 【第3回】 Unidad 8 文法事項まとめ 【第4回】 Unidad 9 再帰動詞、義務の表現 【第5回】 Unidad 9 文法事項まとめ 【第6回】 Unidad 10 前置詞格人称代名詞、動詞 GUSTAR, GUSTAR 型動詞、所有形容詞後置形 【第7回】 Unidad 10 文法事項まとめ 【第8回】 Unidad 8 -10 確認テスト 【第9回】 Unidad 11 比較級、最上級、不定語・否定語、感嘆文 【第10回】 Unidad 11 文法事項まとめ 【第11回】 Unidad 12 直説法点過去規則動詞、直説法点過去不規則動詞、数100-2,000 【第12回】 Unidad 12 文法事項まとめ 【第13回】 Unidad 13 直説法線過去規則動詞規則動詞、直説法線過去不規則動詞、直接話法、間接話法、数10,000~、序数 【第14回】 Unidad 13 文法事項まとめ 【第15回】 Unidad 11-13 確認テスト								
成績評価の方法	授業開始時の文法確認テスト (30%)、確認テスト (50%)、授業への取り組み姿勢 (20%)								
フィードバックの内容	課題、コメントのフィードバックを次回の授業内にて行う。小テストなどの解答を試験終了後に配布する。								
教科書	『イメージ・スペイン語』 エウヘニオ・デル・プラド / 齋藤華子 / 仲道慎治 (朝日出版社) 2019年								
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ	欠席をすると授業についていくのが難しくなるため、なるべく欠席をしないようにすること								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は授業終了後、次の授業に支障が出ない範囲で教室内で対応する。またメールでも受け付ける。宛先は授業内で指示する。								
アクティブラーニングの内容	教員からのフィードバックによる振り返り								
その他									

講義コード	11C0103101	授業形態	講義・演習	抽選の有無	あり	担当教員	金澤 直也	開講期	第1期
科目名	スペイン語3A								
履修前提条件						備考			
授業の目的	スペイン語の初級文法を実践的に身につけることを目的とします。「スペイン語3A」は「スペイン語1A」でおぼえた文法や表現を、発話やCDのヒアリングをつうじて、実際の状況に照らしあわせて学びます。スペイン語文法の基礎を固めながら、スペイン語圏への関心を高めるために教科書以外の教材を用います。								
到達目標	学んだスペイン語の初級文法や語彙を口頭または記述で表現できるようになる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	教科書や講義ノートをもちいて、1回の授業につき、単語や文法の予習と復習に1時間以上、計15時間以上の授業外学修をおこなうこと。教科書についているCDを繰り返し聞いて予習と復習をする習慣をつけましょう。とくにテキストで理解できた点と理解できなかった点を明確にしたうえで授業を受けること。								
授業計画	【第1回】第1課 (あいさつの表現) 【第2回】第2課 (国籍を表す語) 【第3回】第2課 (形容詞の性数一致) 【第4回】第3課 (動詞 estar の疑問文と否定文) 【第5回】第3課 (指示形容詞、指示代名詞) 【第6回】第4課 (直説法現在規則活用 er) 【第7回】第4課 (所有形容詞の前置形) 【第8回】第5課 (前置詞①)				【第9回】第5課 (前置詞②) 【第10回】第6課 (曜日の表現) 【第11回】第6課 (日付の表現) 【第12回】第7課 (時刻の表現) 【第13回】第7課 (天気表現) 【第14回】第8課 (動詞 poder の表現) 【第15回】第1期まとめ				
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢 (20%)、中間テスト (40%)、期末テスト (40%)								
フィードバックの内容	提出された課題を添削し、授業期間内に返却する。								
教科書	『基礎から学ぼう! スペイン語』西川喬 (朝日出版社) 2014								
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ	辞書は不可欠です。授業に毎回持参すること。 【推奨辞書】 (1) 〈ミニ辞典〉『ポケットプログレッシブ西和・和西辞典』(小学館)、または『デイリーコンサイス西和・和西辞典』(三省堂) (2) 〈学習辞典〉『クラウン西和辞典』+『クラウン和西辞典』(三省堂)、または『プエルタ新スペイン語辞典』(研究社 [簡易和西辞書機能付]) (3) 〈本格辞典〉『西和中辞典』(小学館 [和西辞書機能なし。別途和西辞典を購入する必要があります])								
オフィスアワー	授業についての質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で対応します。								
アクティブラーニングの内容	アウトプットを通じた学習を重視しています。学生同士で発音の練習や課題の採点をする場合があります、授業への積極的な参加が求められます。								
その他	授業計画は学生の理解度に応じて変更することがあります。								

講義コード	11C0103102	授業形態	講義・演習	抽選の有無	あり	担当教員	遠藤 杏	開講期	第1期
科目名	スペイン語3B								
履修前提条件						備考			
授業の目的	スペイン語1Bで学んだ文法を使って、自己紹介や日常生活を表現し、クラスで会話練習やプレゼンテーションを行う。								
到達目標	スペイン語を使って自己紹介や場所の説明、日常生活、家族、友人について紹介し、相手に伝えることができる								
授業外学修内容・授業外学修時間数	1回の授業につき、1時間以上の予習と復習、計15時間以上の授業外学修を行うこと。(教科書や配布された資料を読み予習を行う、練習問題に取り組むなど)								
授業計画	【第1回】Unidad 1 スペイン語発音練習、基本的なあいさつ 【第2回】Unidad 2 名前、国籍、職業などの自己紹介練習 【第3回】Unidad 2 プレゼンテーション (自己紹介をする) 【第4回】Unidad 3 他人を紹介する、自分や人の性格を述べるための表現練習 【第5回】Unidad 3 プレゼンテーション (好きな人物を紹介をする) 【第6回】Unidad 4 自分や人の日常生活を紹介するための会話練習 【第7回】Unidad 4 プレゼンテーション (自分と人の日常生活を紹介する) 【第8回】Unidad 1 - 4 会話確認テスト 【第9回】Unidad 5 町の紹介を行う、体調を伝えるための表現練習 【第10回】Unidad 5 プレゼンテーション (好きな街を紹介する、自分の体調を説明する) 【第11回】Unidad 6 曜日や頻度を用いて日常を紹介する、時刻を述べるための表現練習 【第12回】Unidad 6 プレゼンテーション (各曜日に行うことを紹介する) 【第13回】Unidad 7 休暇でしたいこと、天候を表現するための表現練習 【第14回】Unidad 7 プレゼンテーション (夏休みの計画を紹介する) 【第15回】Unidad 5 - 7 会話確認テスト								
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢 (20%)、文法確認テスト (30%)、確認テスト (50%)								
フィードバックの内容	課題、コメントのフィードバックを次回の授業内にて行う。小テストなどの解答を試験終了後に配布する。								
教科書	『イメージ・スペイン語』エウヘニオ・デル・プラド / 齋藤華子 / 仲道慎治 (朝日出版社) 2019年								
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ	欠席をすると授業についていくのが難しくなるため、なるべく欠席をしないようにすること								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は授業終了後、次の授業に支障が出ない範囲で教室内で対応する。またメールでも受け付ける。宛先は授業内で指示する。								
アクティブラーニングの内容	教員からのフィードバックによる振り返り								
その他									

講義コード	11C0103201	授業形態	講義・演習	抽選の有無	あり	担当教員	金澤 直也	開講期	第2期
科目名	スペイン語4A								
履修前提条件					備考				
授業の目的	「スペイン語2 A」で学んだ様々な時制や表現を、スペイン語作文や会話を中心としたアウトプットをとおして習得すると同時に、スペイン語の長文に慣れることを目的とします。そのため、課題が多くなります。								
到達目標	学んだ文法、語彙、表現をもちいて日常生活で使う簡単なスペイン語の会話ができるようになる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	教科書や講義ノートをもちいて、1回の授業につき、単語や文法の予習と復習に1時間以上、計15時間以上の授業外学修をおこなうこと。教科書についているCDを繰り返し聞き、発音の練習をする習慣を身につけましょう。とくにテキストで理解できた点と理解できなかった点を明確にしたうえで授業を受けること。								
授業計画	【第1回】 復習 【第2回】 第9課 (基数の表現) 【第3回】 第9課 (序数の表現) 【第4回】 第10課 (所有形容詞の後置形) 【第5回】 第10課 (所有代名詞) 【第6回】 第11課 (形容詞の比較級) 【第7回】 第11課 (副詞の比較級) 【第8回】 第12課 (形容詞の絶対最上級)		【第9回】 第12課 (現在完了と点過去のちがいがい) 【第10回】 第13課 (点過去と線過去のちがいがい) 【第11回】 第13課 (現在進行形) 【第12回】 第14課 (未来形と未来を表す現在形のちがいがい) 【第13回】 第14課 (関係代名詞 que) 【第14回】 第15課 (接続法現在の用法①命令) 【第15回】 第2期まとめ						
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢 (20%)、中間テスト (40%)、期末テスト (40%)								
フィードバックの内容	提出された課題を添削し、授業期間内に返却する。								
教科書	『基礎から学ぼう! スペイン語』 西川喬 (朝日出版社) 2014								
指定図書									
参考書	辞書は不可欠です。授業に毎回持参すること。 【推奨辞書】 (1) 〈ミニ辞典〉『ポケットプログレッシブ西和・和西辞典』(小学館)、または『デイリーコンサイス西和・和西辞典』(三省堂) (2) 〈学習辞典〉『クラウン西和辞典』+『クラウン和西辞典』(三省堂)、または『プエルタ新スペイン語辞典』(研究社 [簡易和西辞書機能付]) (3) 〈本格辞典〉『西和中辞典』(小学館 [和西辞書機能なし。別途和西辞典を購入する必要があります])								
教員からのお知らせ									
オフィスアワー	授業についての質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室で対応します。								
アクティブラーニングの内容	アウトプットを通じた学習を重視しています。学生同士で発音の練習や課題の採点をする場合があります、授業への積極的な参加が求められます。								
その他	授業計画は学生の理解度に応じて変更することがあります。								

講義コード	11C0103202	授業形態	講義・演習	抽選の有無	あり	担当教員	遠藤 杏	開講期	第2期
科目名	スペイン語4B								
履修前提条件					備考				
授業の目的	スペイン語2 Bで学んだ文法を使って、好み、買い物、注文、今の気分・状態、1日の生活、過去にあったことを表現し、クラスでプレゼンテーションを行う。								
到達目標	スペイン語を使って好み、1日の生活、過去にあったことを表現し、相手に伝えることができる								
授業外学修内容・授業外学修時間数	1回の授業につき、1時間以上の予習と復習、計15時間以上の授業外学修を行うこと。(教科書や配布された資料を読み予習を行う、練習問題に取り組むなど)								
授業計画	【第1回】 Unidad 1 - 7 復習 【第2回】 Unidad 8 買い物をするために使う表現練習 【第3回】 Unidad 8 オリジナル会話劇発表 (洋服屋で買い物をする) 【第4回】 Unidad 9 再帰動詞を使って一日のルーティンを紹介するための表現練習 【第5回】 Unidad 9 プレゼンテーション (一日のルーティンを紹介する) 【第6回】 Unidad 10 好きなこと、興味があることを伝えるための表現練習 【第7回】 Unidad 10 プレゼンテーション (好きなこと、興味があることを紹介する) 【第8回】 Unidad 8 -10 会話確認テスト 【第9回】 Unidad 11 レストランで注文をするために使い表現練習 【第10回】 Unidad 11 オリジナル会話劇発表 (レストランで注文をする) 【第11回】 Unidad 12 過去の表現をつかって休日にしたことを紹介するための表現練習 【第12回】 Unidad 12 プレゼンテーション (過去の出来事について紹介する) 【第13回】 Unidad 13 子どものころのことを紹介するための表現練習 【第14回】 Unidad 13 プレゼンテーション (小中学校の思い出を紹介する) 【第15回】 Unidad 11-13 会話確認テスト								
成績評価の方法	授業開始時の語彙テスト (20%)、課題 (20%)、プレゼンテーション (40%)、授業への取り組み姿勢 (20%)								
フィードバックの内容	課題、コメントのフィードバックを次回の授業内にて行う。小テストなどの解答を試験終了後に配布する。								
教科書	『イメージ・スペイン語』 エウヘニオ・デル・プラド / 齋藤華子 / 仲道慎治 (朝日出版社) 2019年								
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ	欠席をすると授業についていくのが難しくなるため、なるべく欠席をしないようにすること								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は授業終了後、次の授業に支障が出ない範囲で教室内で対応する。またメールでも受け付ける。宛先は授業内で指示する。								
アクティブラーニングの内容	教員からのフィードバックによる振り返り								
その他									

講義コード	11C0123301	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員		開講期																																	
科目名	政治学				福井 英次郎		第1期																																		
履修前提条件					備考																																				
授業の目的	人間は自然の中で単独で生存しているのではなく、集団で社会を形成して生活をしています。社会を形成する場合には、いつも政治というものが存在することになります。この講義では、このような政治というものについて、学術的に議論していただくことを目的としています。なお受講生も現在の社会に生きている当事者です。そのため受講生自身の問題として、一緒に考えて頂ければと思います。																																								
到達目標	この講義の目標は、まず受講生が政治学の基礎的な考え方を理解し、それを説明できるようになることです。それを踏まえて、現在の諸問題について関心を持ち、その問題について政治学的に議論できるようになることです。																																								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	授業前には、テキストの指示された箇所を読み、わからない用語を調べてください。授業後には、配布資料とテキストを再読し理解を深めてください。また新聞やテレビなどを通じて積極的に最新の情報を獲得してください。これらのために授業外に計60時間以上の学修を行ってください。																																								
授業計画	<table border="0"> <tr> <td>【第1回】</td> <td>イントロダクション</td> <td>【第9回】</td> <td>民主主義②</td> </tr> <tr> <td>【第2回】</td> <td>利益団体①</td> <td>【第10回】</td> <td>第二次世界大戦後の世界と日本</td> </tr> <tr> <td>【第3回】</td> <td>利益団体②</td> <td>【第11回】</td> <td>現在の世界と日本</td> </tr> <tr> <td>【第4回】</td> <td>市場と政府①</td> <td>【第12回】</td> <td>安全保障</td> </tr> <tr> <td>【第5回】</td> <td>市場と政府②</td> <td>【第13回】</td> <td>貿易</td> </tr> <tr> <td>【第6回】</td> <td>メディア①</td> <td>【第14回】</td> <td>環境</td> </tr> <tr> <td>【第7回】</td> <td>メディア②</td> <td>【第15回】</td> <td>総括</td> </tr> <tr> <td>【第8回】</td> <td>民主主義①</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>									【第1回】	イントロダクション	【第9回】	民主主義②	【第2回】	利益団体①	【第10回】	第二次世界大戦後の世界と日本	【第3回】	利益団体②	【第11回】	現在の世界と日本	【第4回】	市場と政府①	【第12回】	安全保障	【第5回】	市場と政府②	【第13回】	貿易	【第6回】	メディア①	【第14回】	環境	【第7回】	メディア②	【第15回】	総括	【第8回】	民主主義①		
【第1回】	イントロダクション	【第9回】	民主主義②																																						
【第2回】	利益団体①	【第10回】	第二次世界大戦後の世界と日本																																						
【第3回】	利益団体②	【第11回】	現在の世界と日本																																						
【第4回】	市場と政府①	【第12回】	安全保障																																						
【第5回】	市場と政府②	【第13回】	貿易																																						
【第6回】	メディア①	【第14回】	環境																																						
【第7回】	メディア②	【第15回】	総括																																						
【第8回】	民主主義①																																								
成績評価の方法	授業への貢献（30％）と期末試験（70％）で判断します。																																								
フィードバックの内容	授業に対するコメントや質問は毎回のリアクションペーパーで受け付け、翌週の授業の最初にフィードバックします。																																								
教科書	『基礎ゼミ政治学』福井英次郎編（世界思想社）2019																																								
指定図書																																									
参考書	『入門政治学365日』中田晋自他編（ナカニシヤ出版）2018、『政治学の第一歩（新版）』砂原庸介他（有斐閣）2020、『政治学（補訂版）』久米郁男他（有斐閣）2011																																								
教員からのお知らせ	現在のトピックを積極的に取り上げ、政治学的に分析する予定です。受講生が現代の諸問題を考える機会になればと考えています。なお授業予定は受講生の関心や現実世界の動きにより若干変更することがあります。																																								
オフィスアワー	授業の前後の時間に、教室か講師控室で受け付けます。																																								
アクティブラーニングの内容	教員のフィードバックによる振り返り																																								
その他	最初の授業で、授業の進め方・成績評価・授業参加における注意点などを詳細に説明する予定です。履修を考えている方は必ず出席してください。																																								

講義コード	11C0106101	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員	深谷 緑	開講期	第1期
科目名	生命科学の世界／生命科学1／生命科学A								
履修前提条件					備考				
授業の目的	生物・生命科学の基本はここまでの学校教育で繰り返し教わり、誰しもいくらかは知っているはずである。しかしその知識は日常生活で役立っているだろうか。たとえばウイルスとその変異株、ワクチン、新薬などの情報を理解する力、“ガセネタ”を見破る力になっただろうか。生命活動の基本である細胞、生物としてのヒトの成り立ちをすこしでも「生きた知識」とすることを目指し、本講義で学んでいこう。さて、われわれ「細胞」生物にとってウイルスは長年の（おそらく40億年来の）敵であると同時に、進化をもたらす存在でもある。なかなか収束しない新型コロナ、流行が危惧される新感染症、進歩する遺伝子医学ほか、講義と関連する時事のトピックなどを随時取り上げ、生命科学関連の資料との正しい付き合い方を考えていく予定である。								
到達目標	予習時にはポータルに掲示した予習用資料、教科書（該当部分は進行に従って指示）に目を通す。復習時はノート・ポータルに掲示する授業スライドPDF ※や参考資料などをもとに、授業内容をまとめる。授業で理解できなかった事項は調べる。残った疑問点についてはまとめておき、質問する。（※授業時にプロジェクターに映写し説明にもちいた資料、動画などは原則として授業後にポータルに掲示する）。興味に応じ随時紹介する関連書籍などを読み理解を深めることも勧める。授業外学修時間としては60時間以上（各回予習60分復習180分～）を想定している。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	予習時にはポータルに掲示した予習用資料、教科書（該当部分は進行に従って指示）に目を通す。復習時はノート・ポータルに掲示する授業スライドPDF ※や参考資料などをもとに、授業内容をまとめる。授業で理解できなかった事項は調べる。残った疑問点についてはまとめておき、質問する。（※授業時にプロジェクターに映写し説明にもちいた資料、動画などは原則として授業後にポータルに掲示する）。興味に応じ随時紹介する関連書籍などを読み理解を深めることも勧める。授業外学修時間としては45時間以上（各回予習60分復習180分～）を想定している。								
授業計画	【第1回】オリエンテーション・授業概要 【第2回】生命の誕生・細胞の進化 【第3回】細胞①－基本構造と”内なる生命体” 【第4回】細胞と遺伝子 ①－ゲノム・DNA 【第5回】細胞と遺伝子 ②－”遺伝子”の働きとRNA 新大陸 【第6回】細胞②－二次元の液体と歩くタンパク 【第7回】オートファジー 【第8回】生物としての人体				【第9回】遺伝・生殖・進化 【第10回】再生医療・ゲノム編集 【第11回】免疫①－病原体との攻防 【第12回】免疫②－免疫による病 【第13回】老化とがん－発生・進行・”進化” 【第14回】がんの医学－がん治療と似非医学 【第15回】総括				
成績評価の方法	平常点と期末テストの合計で評価します。 平常点（50％）：授業参加と復習問題（quiz）への取り組み（webclass に設定予定） 期末試験（50％）：試験期間内に実施予定。 配分変更・評価方法変更の場合はポータルと授業でお知らせします。								
フィードバックの内容	WebClass を利用して復習問題（quiz）を出題し、その後、受講者の解答傾向を踏まえた復習や解説を行います。また理解度に合わせて授業進行や内容を調節します。質問や提案などを授業中・授業後に受け、共有すべき内容であれば授業中に説明、またはポータルのオンライン授業に掲示します。								
教科書 指定図書									
参考書	『ヒトを理解するための生物学（改訂版）』八杉貞雄（裳華房）2021、『ワークブックで学ぶ生物学の基礎 第3版』Tracey Greenwood 他（オーム社）2015、『カラー図解 アメリカ版 新・大学生物学の教科書 第1巻 細胞生物学』D. サグヴァ他著（講談社）2021、『進化には生体膜が必要だった 膜がもたらした生物進化の奇跡』佐藤 健（裳華房）2018、『「がん」はなぜできるのか そのメカニズムからゲノム医療まで』国立がん研究センター研究所（編）（講談社）2018								
教員からのお知らせ	高校での生物履修歴・基礎知識の有無にかかわらず受講可能です。 用語暗記ではなく本質の理解、システムの理解を目指して下さい。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。またポータル経由、メールなどによる質問対応も行います（対面以外での質問媒体は授業開始後にお知らせ・掲示します）。								
アクティブラーニングの内容	ポータルのオンライン授業機能を用い、予・復習用の資料・文献などを紹介します。また各回授業で用いた視聴覚資料（スライド・動画など）を授業後に共有します。webclass に設置するこれらのオンライン資料を利用し授業内容の理解を深め、さらに発展させることができます。								
その他	上の参考書欄で紹介した5冊について補足します。 1冊で授業内容を全て網羅し、かつ理解しやすい（さらに手頃な）参考書は見当たりませんでした。それでもこのシラバスで紹介している参考書1冊目か2冊目あるいはスタンダードな生物学教科書が1冊あれば予復習しやすいかもしれません。3冊目『カラー図解……』はここでは第1巻のみ紹介しましたが第2巻・第3巻もあります。本当に良い”大学生物学の教科書”なのですが、この授業では扱わないレベルの話が多いかも。4冊目・5冊目は範囲は狭いものの理解を深めるためには役立つ良書。4は特に個人的にはお勧めです。 参考資料・参考書については初回に説明しますので入手はそのあとでも良いかもしれません。								

講義コード	11C0106201	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員		開講期	
科目名	生命科学2／生命科学B				深谷 緑		第2期		
履修前条件					備考				
授業の目的	「進化」は日常会話でもよく出てくる言葉ですが、あなたはそれを正しく理解しているでしょうか。進化については誤解が流布しており、その曲解・誤解の中には、社会への悪影響が懸念されるものさえ存在します。この講義では生物の環境適応・進化のメカニズムを、特にヒトの特性やその進化過程に重点を置いて学んでいきます。								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・現代進化理論を正しく理解する ・ヒトを含む生物の様々な性質について進化における意義を考える事ができる ・代表的な非進化論・有害俗説がなぜ間違いか説明できる 								
授業外学修内容・授業外学修時間数	予・復習用に配布した資料を精読・視聴する。授業で理解できなかった項目について参考資料などにあたって調べ、解決できない場合は質問をまとめておく。興味に応じ関連書籍などを読み、理解を深めることも勧める。授業外学修時間として60時間以上を想定している。								
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> 【第1回】講義概要 【第2回】人類の進化（1） 【第3回】人類の進化（2）（+系統と分類の基本） 【第4回】自然選択による進化 【第5回】遺伝的浮動・種分化 【第6回】ニッチが形と機能を定める・四肢動物の進化 【第7回】進化と不都合な人体（1）直立のしわ寄せ 【第8回】進化と不都合な人体（2）脳の巨大化の代償 【第7回】進化と不都合な人体（3）環境・ライフスタイル変化の結果 【第8回】生物の適応戦略 【第9回】性選択・性的対立 【第10回】「種族保存」の誤り 【第11回】進化的に安定な戦略 【第12回】混合 ESS とゲーム理論（ESS） 【第13回】生物多様性と人間社会 【第14回】生物としてのヒトの未来 【第15回】総括 								
成績評価の方法	平常点と期末試験の合計で評価します。 平常点：授業参加と復習問題（quiz）への取り組み（webclass に設定予定） 期末試験：試験期間内に実施予定（出題可能性の高い重要項目は事前に掲示予定）。 配点は平常点60%期末試験得点40%の予定です。配点・評価方法変更の場合はポータルと授業でお知らせします。								
フィードバックの内容	WebClass を利用して復習問題（quiz）を出題し、その後、受講者の解答傾向を踏まえた復習や解説を行います。また理解度に合わせて授業進行や内容を調節します。質問や提案などを授業中・授業後に受け、共有すべき内容であれば授業中に説明、またはポータルのオンライン授業に掲示します。								
教科書 指定図書									
参考書	『進化と人間行動 第2版』長谷川寿一・長谷川真理子・大槻久（東京大学出版会）2021、『進化とはなんだろうか』長谷川真理子（岩波書店）1999、『カラー図解 進化の教科書 第1巻 進化の歴史』カール・ジンマー、ダグラス・J・エムレン（講談社）2016、『カラー図解 進化の教科書 第2巻 進化の理論』カール・ジンマー、ダグラス・J・エムレン（講談社）2017、『カラー図解 進化の教科書 第3巻 系統樹や生態から見た進化』カール・ジンマー、ダグラス・J・エムレン（講談社）2017								
教員からのお知らせ	<ul style="list-style-type: none"> ・高校での生物履修歴・基礎知識の有無にかかわらず受講可能です。 ・生物界全体を見渡しつつも、動物（ヒト含む）の行動と進化に焦点を当てる内容です。用語暗記ではなく本質の理解、メカニズムの理解を目指して下さい。 ・シラバス内容のほか生命科学に関わる時事の話題を授業で取りあげる予定です。 								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。またポータル経由、メールなどによる質問対応も行います（対面以外での質問媒体は授業開始後にお知らせ・掲示します）。								
アクティブラーニングの内容	ポータルのオンライン授業機能を用い、予・復習用の資料・文献などを紹介します。また各回授業で用いた視聴覚資料（スライド・動画など）を授業後に共有します。webclass に設置するこれらのオンライン資料を利用し授業内容の理解を深め、さらに発展させることができます。								
その他	参考資料・参考書については初回に説明しますので購入はそのあとでも良いかもしれません。ただし進化についての基本的な事項を予習したい場合は上に紹介した参考書の2番目（『進化とは何だろうか』）がわかりやすいと思います。生物学の基本知識があった方がよい授業内容の場合は、その内容に関わる高校生物的事項の速習サイトを参照できるようにします。								

講義コード	11C0125702	授業形態	演習	抽選の有無	あり	担当教員		開講期																															
科目名	ゼミナールⅠ(戎野)				戎野 淑子		通年																																
履修前提条件					備考																																		
授業の目的	<p>労働は、人間にとって基本的かつ重要な営みである。昨今は、新型コロナウイルス感染症の拡大や働き方改革などによって働き方にも様々な変化が生じている。テレワークが急速に進み、また働き方も一層多様になった。そこには、不安定雇用やワーキングプア、過労などの社会問題もある。</p> <p>そこで、人々の生活に身近で深く関わっている極めて重要な課題の中から、ゼミ生と相談し、興味関心あるテーマを選び、文献研究、ならびに討論を実施する。ここでは、レポート作成やプレゼンテーションの能力を身につけ、自分の意見を正確に伝え、積極的に議論を行うことができるようになってほしい。</p>																																						
到達目標	<p>学生が労働経済学、人的資源管理論に関する基礎知識を理解したうえで、自分なりの問題設定を行い、意見を持つことができる</p>																																						
授業外学修内容・授業外学修時間数	<p>課題を行うこと。この科目では、120時間以上の授業外学修を行うこと。</p>																																						
授業計画	<table border="0"> <tr> <td>【第1回】 ガイダンス：ゼミの進め方を説明し、今後の予定を相談のうえ決める</td> <td>【第16回】 後期の予定を決める</td> </tr> <tr> <td>【第2回】 テーマをきめる</td> <td>【第17回】 グループディスカッション</td> </tr> <tr> <td>【第3回】 グループディスカッション</td> <td>【第18回】 グループディスカッション</td> </tr> <tr> <td>【第4回】 グループディスカッション</td> <td>【第19回】 グループワーク</td> </tr> <tr> <td>【第5回】 グループワーク</td> <td>【第20回】 グループワーク</td> </tr> <tr> <td>【第6回】 グループワーク</td> <td>【第21回】 グループワーク</td> </tr> <tr> <td>【第7回】 グループワーク</td> <td>【第22回】 プレゼンテーション</td> </tr> <tr> <td>【第8回】 グループワーク</td> <td>【第23回】 プレゼンテーション</td> </tr> <tr> <td>【第9回】 グループワーク</td> <td>【第24回】 プレゼンテーション</td> </tr> <tr> <td>【第10回】 中間発表</td> <td>【第25回】 プレゼンテーション（ゼミ大会、合同ゼミなど）</td> </tr> <tr> <td>【第11回】 レポート作成</td> <td>【第26回】 グループワーク</td> </tr> <tr> <td>【第12回】 レポート作成</td> <td>【第27回】 グループワーク</td> </tr> <tr> <td>【第13回】 レポート作成</td> <td>【第28回】 プレゼンテーション（ゼミ大会、合同ゼミなど）</td> </tr> <tr> <td>【第14回】 レポート作成</td> <td>【第29回】 レポート作成</td> </tr> <tr> <td>【第15回】 発表</td> <td>【第30回】 レポート作成</td> </tr> </table>									【第1回】 ガイダンス：ゼミの進め方を説明し、今後の予定を相談のうえ決める	【第16回】 後期の予定を決める	【第2回】 テーマをきめる	【第17回】 グループディスカッション	【第3回】 グループディスカッション	【第18回】 グループディスカッション	【第4回】 グループディスカッション	【第19回】 グループワーク	【第5回】 グループワーク	【第20回】 グループワーク	【第6回】 グループワーク	【第21回】 グループワーク	【第7回】 グループワーク	【第22回】 プレゼンテーション	【第8回】 グループワーク	【第23回】 プレゼンテーション	【第9回】 グループワーク	【第24回】 プレゼンテーション	【第10回】 中間発表	【第25回】 プレゼンテーション（ゼミ大会、合同ゼミなど）	【第11回】 レポート作成	【第26回】 グループワーク	【第12回】 レポート作成	【第27回】 グループワーク	【第13回】 レポート作成	【第28回】 プレゼンテーション（ゼミ大会、合同ゼミなど）	【第14回】 レポート作成	【第29回】 レポート作成	【第15回】 発表	【第30回】 レポート作成
【第1回】 ガイダンス：ゼミの進め方を説明し、今後の予定を相談のうえ決める	【第16回】 後期の予定を決める																																						
【第2回】 テーマをきめる	【第17回】 グループディスカッション																																						
【第3回】 グループディスカッション	【第18回】 グループディスカッション																																						
【第4回】 グループディスカッション	【第19回】 グループワーク																																						
【第5回】 グループワーク	【第20回】 グループワーク																																						
【第6回】 グループワーク	【第21回】 グループワーク																																						
【第7回】 グループワーク	【第22回】 プレゼンテーション																																						
【第8回】 グループワーク	【第23回】 プレゼンテーション																																						
【第9回】 グループワーク	【第24回】 プレゼンテーション																																						
【第10回】 中間発表	【第25回】 プレゼンテーション（ゼミ大会、合同ゼミなど）																																						
【第11回】 レポート作成	【第26回】 グループワーク																																						
【第12回】 レポート作成	【第27回】 グループワーク																																						
【第13回】 レポート作成	【第28回】 プレゼンテーション（ゼミ大会、合同ゼミなど）																																						
【第14回】 レポート作成	【第29回】 レポート作成																																						
【第15回】 発表	【第30回】 レポート作成																																						
成績評価の方法	<p>学期末のレポート（40%）、プレゼンテーション（40%）と、授業での発表、討論（20%）により評価する。</p>																																						
フィードバックの内容	<p>フィードバックは次回授業には行う</p>																																						
教科書																																							
指定図書																																							
参考書																																							
教員からのお知らせ																																							
オフィスアワー	<p>水曜日お昼休み</p>																																						
アクティブラーニングの内容	<p>毎回、課題を行い、そのフィードバックを次回実施する。</p>																																						
その他																																							

講義コード	11C0125703	授業形態	演習	抽選の有無	あり	担当教員		開講期	
科目名	ゼミナールⅠ(苑)					苑 志佳		通年	
履修前提条件				備考					
授業の目的	今年度の苑ゼミでは、「中国経済の「高所得国」化とその行方」を中心に、中国が目指す2035年に「中程度の先進国」は実現できるか否かについてゼミ生の皆さんと一緒に考えてみたい。2022年の中国国民経済・社会発展統計によると、中国の1人あたり名目国民総所得は世界銀行が定める高所得国の基準に僅差で達しなかったが、これよりの数年以内に中国の高所得国入りは確実になるであろう。ただし、それを実現するには、多くの課題が存在している。これらの課題の背景・原因・解決の見通しなどの点は本ゼミの研究テーマになる。具体的には、「中国経済の持続的成長の条件は何か」、「中国経済の高所得入り後の世界経済はどのように変化していくか」、「世界経済における中国の今後の役割はどのように変わるか」という諸テーマについて、苑ゼミは考察していく。								
到達目標	本ゼミを通じ学生は、中国に関する総合知識を身につけることができる。様々な専門書を輪読することによって中国の政治・社会・歴史をより深く理解することができる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	1. この科目では、120時間以上の授業外学修を行うこと。 2. 毎週の授業終了後に参考文献や予習資料などを指定するので、これを予習する。 3. 授業時に配布される教材や資料を復習し、次回の授業時に問題提起を考える。 4. 授業の予定テーマに関連する資料を自ら収集し、これを持って授業討論に臨む。								
授業計画	【第1回】前期イントロダクション 【第2回】中国が重要な理由 【第3回】中国の人口と地理、歴史 【第4回】中国経済の政治とのかかわり 【第5回】農業と土地と農村部の経済 【第6回】産業と輸出とテクノロジー 【第7回】都市化とインフラ 【第8回】企業システム 【第9回】財政システム 【第10回】金融システム 【第11回】エネルギーと環境 【第12回】人口構成と労働市場 【第13回】興隆する消費者経済 【第14回】格差と腐敗 【第15回】成長モデルを変える 【第16回】後期イントロダクション 【第17回】「安定成長」への円滑な移行は可能か？ 【第18回】社会主義市場経済とは何か？ 【第19回】「メイド・イン・チャイナ」は名声を博せるか？ 【第20回】国有企業改革はどこまで進んだか？ 【第21回】農村はいかに変化したか？ 【第22回】少子高齢化は何をもたらすか？ 【第23回】金融改革はどこまで進んだか？ 【第24回】外需依存型成長からの転換は可能か？ 【第25回】外資は何をもたらしたか？ 【第26回】米中間の対立は乗り越えられるか？ 【第27回】日中関係はいかにあるべきか？ 【第28回】持続的経済成長は可能か？ 【第29回】成長の果実は誰の手に？ 【第30回】前期総括								
成績評価の方法	1. 学習態度50% 2. プレゼン30% 3. ディスカッション参加20%								
フィードバックの内容	毎週のプレゼン課題、テーマに対する講評を翌週授業内の冒頭にて行う。								
教科書	『チャイナ・エコノミー』アーサー・R・クローバー（白桃書房）2023年								
指定図書	『中国経済入門（第4版）』南亮進・牧野文夫（日本評論社）2016年								
参考書	『現代中国経済』丸川知雄（有斐閣アルマ）2021年								
教員からのお知らせ	ゼミでの活発な議論と価値のあるコメントが期待されているので、ゼミ生諸君は、遠慮なく目立ちください。また、数回のコンパーも企画中で、授業以外の場でも気軽に議論しましょう。								
オフィスアワー	- 月曜日3限 - 品川キャンパス2号館508室 - 事前に<0918@ris.ac.jp>に連絡すること								
アクティブラーニングの内容	意見共有、能動的な授業外学修								
その他									

講義コード	11C0125704	授業形態	演習	抽選の有無	あり	担当教員		開講期	
科目名	ゼミナールⅠ(王在詰)				王 在詰		通年		
履修前条件					備考				
授業の目的	本授業は学部2年生を対象としている。本年度において、3年次のゼミナール論文の作成を念頭に置きながら、前期でミクロ経済学、後期でマクロ経済学を勉強する。また、パソコンを使って経済統計の読み方や分析方法も勉強する。この一年間で、ゼミ論文作成のために必要な問題発見・問題解決の能力を養ってもらおう。具体的な学修の目標や方法などについては受講生と相談したうえで決めたい。								
到達目標	①マクロ経済学、ミクロ経済学、統計学の基本をより一層理解することができる。 ②経済統計データの基本を理解することができる。 ③パソコンによる数量分析の基本を習得することができる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	①『日本経済新聞』の社説や「経済教室」などの論文を読むこと。 ②授業内容の復習。 ③応用ソフトの操作方法を独学すること。 ④プレゼンテーションの技法を勉強すること。 サブゼミやゼミ合宿なども行われるため、必要な授業外学修時間が120時間以上である。								
授業計画	<p>【第1回】 ガイダンスと統計基礎のレビュー①：標本と母集団 【第2回】 統計基礎のレビュー②：標本データの処理 【第3回】 統計基礎のレビュー③：確率論基礎Ⅰ 【第4回】 統計基礎のレビュー④：確率論基礎Ⅱ 【第5回】 統計基礎のレビュー⑤：離散型変数の確率分布 【第6回】 統計基礎のレビュー⑥：連続型変数の確率分布 【第7回】 統計基礎のレビュー⑦：確率的推定 【第8回】 統計基礎のレビュー⑧：仮説検定 【第9回】 経済学基礎のレビュー①：ミクロ経済学とマクロ経済学 【第10回】 経済学基礎のレビュー②：消費者理論Ⅰ 【第11回】 経済学基礎のレビュー③：消費者理論Ⅱ 【第12回】 経済学基礎のレビュー④：生産者理論Ⅰ 【第13回】 経済学基礎のレビュー⑤：生産者理論Ⅱ 【第14回】 経済学基礎のレビュー⑥：生産物市場 【第15回】 経済学基礎のレビュー⑦：資本市場</p> <p>【第16回】 経済学基礎のレビュー⑧：労働市場 【第17回】 一次統計と2次統計 【第18回】 産業連関表 【第19回】 工業統計 【第20回】 商業統計とサービス統計 【第21回】 産業連関表の作成方法 【第22回】 産業連関分析Ⅰ 【第23回】 産業連関分析Ⅱ 【第24回】 Excelによる演習 【第25回】 単回帰分析Ⅰ 【第26回】 単回帰分析Ⅱ 【第27回】 重回帰分析 【第28回】 Excelによる演習 【第29回】 系列相関 【第30回】 不均一分散</p>								
成績評価の方法	授業への取り組み：30%、授業内発表：70%。								
フィードバックの内容	授業内の発表については教員がコメントする。								
教科書									
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ	①ミクロ経済学基礎、マクロ経済学基礎の履修済みが望ましい。 ②統計学基礎の履修済みが望ましい。 ③2年次と3年次で「マクロ経済学」、「ミクロ経済学」、「経済統計学」、「計量経済学」の履修が望ましい。 ④教科書と参考書は授業開始後、受講生と相談したうえで決めたい。 ④教科書や参考文献は、授業開始時、履修生と相談して決めたい。								
オフィスアワー	時間：木曜日6限目(18:00-19:30) 場所：2号棟511研究室 事前連絡：wzz@ris.ac.jp								
アクティブラーニングの内容その他	ゼミナール、意見共有、能動的な授業外学修など								

講義コード	11C0125705	授業形態	演習	抽選の有無	あり	担当教員		開講期	
科目名	ゼミナールⅠ(王ゼイ)				王ゼイ		通年		
履修前提条件					備考				
授業の目的	マクロ経済学を中心に、経済学の理論知識及び実証スキルを学んでいきます。このゼミでは、マクロ経済学の学習と同時に、ドキュメンテーション・プレゼンテーション能力を高めて、数学・プログラミング・統計・データ分析の知識とスキルを身につけることを目指します。								
到達目標	学生はこの講義の履修を通じて、以下の目的を達成できる。 ①マクロ経済学をより深く理解できる。 ②簡単なマクロ経済モデルを作成して、シミュレーションを行うことができる。 ③上記の目的を達成するために、必要な数学、統計学及びプログラミング能力を身につけることができる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	指定された教科書の予習と復習及び課題と発表の準備を行ってください。週に少なくとも4時間(計120時間以上)の自主的な学修が必要である。								
授業計画	【第1回】ガイダンス 【第2回】輪読及び発表1 【第3回】輪読及び発表2 【第4回】輪読及び発表3 【第5回】輪読及び発表4 【第6回】輪読及び発表5 【第7回】輪読及び発表6 【第8回】輪読及び発表7 【第9回】輪読及び発表8 【第10回】輪読及び発表9 【第11回】輪読及び発表10 【第12回】輪読及び発表11 【第13回】輪読及び発表12 【第14回】輪読及び発表13 【第15回】輪読及び発表14 【第16回】輪読及び発表15 【第17回】輪読及び発表16 【第18回】輪読及び発表17 【第19回】輪読及び発表18 【第20回】輪読及び発表19 【第21回】輪読及び発表20 【第22回】輪読及び発表21 【第23回】輪読及び発表22 【第24回】輪読及び発表23 【第25回】輪読及び発表24 【第26回】輪読及び発表25 【第27回】輪読及び発表26 【第28回】輪読及び発表27 【第29回】輪読及び発表28 【第30回】まとめ								
成績評価の方法	発表(50%)と課題(50%)で評価する。								
フィードバックの内容	この科目では、授業用のチームが立ち上げられ、履修者全員に授業用チームに参加していただくことになっている。授業用チームの参加方法は初回の授業時に説明する。事前にMicrosoft OutlookとTeamsのアプリを所持の端末にインストールしておいて、使用できるような状態にしてください。授業時間外では、授業に関するお知らせ、資料配布、フィードバック等はすべてMicrosoft Teamsを通じて行われる。課題の提出はWebClassを利用する。								
教科書									
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ	ノートパソコンを持参してください。								
オフィスアワー	Teamsのチャット機能、Microsoft 365のメール(大学から付与されたメールアドレス)などで、予め教員と連絡を取ってください。								
アクティブラーニングの内容	ゼミナール大会での発表に向けて、教員の指導のもとで、問題解決学習・プレゼンテーションを学生に行ってもらおう。								
その他									

講義コード	11C0125706	授業形態	演習	抽選の有無	あり	担当教員		開講期	
科目名	ゼミナールⅠ(小沢奈)				小沢 奈美恵		通年		
履修前条件					備考				
授業の目的	このゼミナールは、主として映画などの映像文化からアメリカ文化や社会を学び、同時に英語力もつけることを目標とする。前半は英語の教科書やニュースを読みながら、映画の背景としてアメリカの歴史、政治、人種、宗教、移民問題など幅広い視点から学び発表や討論を行う。後半は来年のゼミ大会を視野に入れたテーマで、グループごとに一つの映画を選び、英語表現や文化的背景についてパワーポイントを用いて発表を行う。								
到達目標	1. 映画、ニュースを通じて、アメリカの歴史の概略、アメリカ現代社会の諸問題などを理解でき、批評的な考えを述べることができる。 2. 映画で使われている英語に関して、基礎的、日常的な表現が聞き取れ、理解できるようになる。 3. アメリカの問題について、簡単に英語で意見を述べられる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	この科目では、120時間以上の授業外学修を行う。 1. テーマに関連した本を数冊読むことが求められる。 2. 英語の教科書やニュースを読み発表したり、英語の問い、英語の要約やコメント、簡単な討論に備えて準備する。 2. 雑誌、ニュース、メディアを通じて資料を読み、要約したり、批評的に意見をまとめ発表する。								
授業計画	<p>【第1回】授業説明と自己紹介・役割分担 【第2回】①教科書を用いてアメリカ社会、歴史、文化についてペアで発表する。 ②映画シナリオを利用した英語の勉強。 ③映画を通じた社会・文化のグループ学習</p> <p>【第3回】第2回の①と②は毎回同様に行う。 グループ学習2 (課題の調査報告) 【第4回】グループ学習3 (課題の調査報告) 【第5回】グループ学習4 (課題の調査報告) 【第6回】グループ学習5 (発表内容の英文作成) 【第7回】グループ学習6 (発表内容の英文作成) 【第8回】グループ学習7 (発表内容の英文作成) 【第9回】グループ学習8 (発表内容の英文作成) 【第10回】グループ学習9 (パワーポイントの作成) 【第11回】グループ学習10 (パワーポイントの作成) 【第12回】グループ学習11 (英語発表の練習) 【第13回】グループ学習12 (英語発表の練習) 【第14回】グループ発表1 視聴者と教員からのフィードバック 【第15回】グループ発表2 視聴者と教員からのフィードバック 【第16回】いくつかのグループに別れて、ゼミ大会用に映画を選び、調査を開始する。 【第17回】①アメリカの最新英字ニュース学習 ②映画で利用されている英語研究。 ③グループ学習1 (課題の調査報告) 【第18回】第17回の①と②は毎回同様に行う。 グループ学習2 (課題の調査報告) 【第19回】グループ学習3 (課題の調査報告) 【第20回】グループ学習4 (課題の調査報告) 【第21回】グループ学習5 (発表内容の英文作成) 【第22回】グループ学習6 (発表内容の英文作成) 【第23回】グループ学習7 (発表内容の英文作成) 【第24回】グループ学習8 (パワーポイントの作成) 【第25回】グループ学習9 (英語発表の練習) 【第26回】グループ学習10 (英語発表の練習) 【第27回】グループ発表1 視聴者と教員からのフィードバック 【第28回】グループ発表2 視聴者と教員からのフィードバック 【第29回】レポート作成。 【第30回】レポート作成と春休みに読む資料の準備。</p>								
成績評価の方法	授業での発表・参加態度 (70%)、レポート (30%)								
フィードバックの内容	プレゼンテーションに対するピアレビュー、教員からの詳細なコメントを行う。レポートには、コメントを入れて返却する。								
教科書	『アメリカの過去・現在・未来を読む America in Motion』 Gary Dendo (成美堂) 2010年								
指定図書	『概説アメリカ文化史』 笹田文化史直人 / 堀真理子 / 外岡尚美編著 (ミネルヴァ書房) 2002年、『アメリカ黒人の歴史 - 奴隷貿易からオバマ大統領まで』 上杉 忍 (中公新書) 2013年、『そだったのか! アメリカ』 池上彰 (集英社) 2005年、『9.11とアメリカ』 越智道雄監修 小沢奈美恵・塩谷幸子編集 (鳳書房) 2008年、『映画で読み解く現代アメリカ: オバマの時代』 越智道雄監修 小沢奈美恵・塩谷幸子編集 (明石書店) 2015年								
参考書									
教員からのお知らせ	連絡は e-mail、Line、LMS などと頻繁に取り合います。また必要に応じてアポイントを取って、314研究室を訪ねてください。授業で取り扱う映画に、若干の変更が出ることがあります。								
オフィスアワー	金曜4時限のオフィスアワーに314研究室を訪ねてください。メールやLMSでも対応します。								
アクティブラーニングの内容その他	意見共有、能動的な授業外学修、問題解決学習、グループ・ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション等。								

講義コード	11C0125707	授業形態	演習	抽選の有無	あり	担当教員	小沢 佳史	開講期	通年
科目名	ゼミナールⅠ(小沢佳)								
履修前提条件					備考				
授業の目的	この授業では、「ゼミナールⅡ」での学修に向けて土台を固める。より詳しく言えば、この授業の目的は、経済学の歴史をめぐる基本的な知識を身に付けること、そしてそれを通じて、過去の出来事を踏まえ多様な視点から現在の出来事を捉えられるようになること、そのうえで、自分たちの関心事をわかりやすく表現できるようになることである。そのためにこの授業では、主として経済学の歴史に関する図書を輪読する。								
到達目標	1. 経済学の歴史——現在の経済学が誕生するまでのプロセス——を、自分たちの言葉で説明できる。 2. 目の前にあるものを、立体的・多面的に説明できる。 3. グループのメンバーと協力して、自分たちの関心事を他人へ明確に伝えることができる。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	この科目では、120時間以上の授業外学修を行うこと。授業外学修では、担当者からの指示やフィードバックを参照して、毎回の復習と次回の予習を入念に行うこと。また、大学の図書館などを最大限に活用して、新聞をできる限り毎日読むこと。								
授業計画	<p>【第1回】ガイダンス 【第2回】報告や議論のやり方の確認と、新聞の読み方 【第3回】教科書の解説 【第4回】報告と議論①——18世紀（第1グループ） 【第5回】報告と議論②——18世紀（第2グループ） 【第6回】報告と議論③——18世紀（第3グループ） 【第7回】18世紀のまとめ 【第8回】報告と議論④——19世紀（第1グループ） 【第9回】報告と議論⑤——19世紀（第2グループ） 【第10回】報告と議論⑥——19世紀（第3グループ） 【第11回】19世紀のまとめ 【第12回】報告と議論⑦——20世紀（第1グループ） 【第13回】報告と議論⑧——20世紀（第2グループ） 【第14回】報告と議論⑨——20世紀（第3グループ） 【第15回】これまでのまとめ 【第16回】これまでの復習と今後の流れ 【第17回】調査①——新聞 【第18回】調査②——指定図書の選定 【第19回】調査③——指定図書の概要 【第20回】調査④——指定図書の精読 【第21回】調査⑤——中間報告の準備 【第22回】中間報告と議論 【第23回】調査⑥——中間報告の総括 【第24回】調査⑦——教科書と指定図書① 【第25回】調査⑧——教科書と指定図書② 【第26回】調査⑨——教科書と指定図書③ 【第27回】調査⑩——教科書と指定図書④ 【第28回】調査⑪——最終報告の準備 【第29回】最終報告と議論 【第30回】全体のまとめ</p> <p>※この進度や内容は目安であり、履修者と相談しながら進度や内容を適宜調整する。</p>								
成績評価の方法	報告（50％）と、議論を含む授業への取り組み姿勢（50％）によって評価する。								
フィードバックの内容	報告や議論について、授業内でフィードバックする。								
教科書	『福祉の経済思想家たち 増補改訂版』小峯敦 編（ナカニシヤ出版）2010								
指定図書	『交響する経済学——経済学はどう使うべきか』中村達也 著（筑摩書房）2022、『経済思想』猪木武徳 著（岩波書店）2017、『経済思想入門』松原隆一郎 著（筑摩書房）2016、『写真で見る ヴィクトリア朝ロンドンの都市と生活』アレックス・ワーナー、トニー・ウィリアムズ 著；松尾恭子 訳（原書房）2013、『経済学の名著30』松原隆一郎 著（筑摩書房）2009、『経済学のことば』根井雅弘 著（講談社）2004、『西洋政治思想資料集』杉田敦、川崎修 編著（法政大学出版局）2014、『政治学の名著30』佐々木毅 著（筑摩書房）2007								
参考書	『ソクラテスの弁明』プラトン 著；納富信留 訳（光文社）2012								
教員からのお知らせ	無断で欠席したり遅刻したりすることは、基本的に認められない。								
オフィスアワー	この授業に関する質問・相談は、学部学科で定めるオフィスアワーにて受け付ける。また授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内でも対応する。								
アクティブラーニングの内容 その他	ゼミナール。								

講義コード	11C0125708	授業形態	演習	抽選の有無	あり	担当教員		開講期	
科目名	ゼミナール I (小野崎)				小野崎 保		通年		
履修前条件					備考				
授業の目的	このゼミでは人工社会シミュレーションについて学ぶ。人工社会とは、端的に言えば、人間やさまざまな組織などを構成要素とするコンピュータ上の仮想的な社会のことである。個々の構成要素はエージェントと呼ばれ、比較的単純な行動ルールに基づいて自ら状況判断をし、他のエージェントと関わりを持つ。人工社会シミュレーションが目指すものは、このように多数のエージェントが相互に作用し合った場合に生じる現象を分析することにより、さまざまな社会現象の背後にある本質的なメカニズムを理解することである。 年間を通して教科書を輪読しながらパソコンを用いた実習をおこない、人工社会シミュレーションの基礎的手法の習得を目指す。								
到達目標	(1) artisoc (教科書に付随する汎用マルチエージェントシミュレーター) を自在に操作できる。 (2) artisoc を用いて独自のモデルを作成することができる。 (3) 社会現象の背後にある本質的なメカニズムについて強い関心を持つようになる。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	各回の授業で扱われる教科書の該当箇所について、artisoc を操作しながら予習・復習をおこなうこと。特に、教科書の演習問題には必ず取り組むこと。普段からシミュレーションに適する「ネタ」を意識しつつ、さまざまな文献に目を通すこと。これらと適宜課される課題とを併せて、授業外に合計120時間以上の学習をおこなうこと。								
授業計画	<p>【第1回】 ガイダンス</p> <p>【第2回】 パソコンおよび artisoc の基本操作</p> <p>【第3回】 教科書第4・5章およびパソコンによる演習</p> <p>【第4回】 教科書第6章およびパソコンによる演習</p> <p>【第5回】 教科書第7章およびパソコンによる演習</p> <p>【第6回】 教科書第8章およびパソコンによる演習</p> <p>【第7回】 教科書第9章およびパソコンによる演習</p> <p>【第8回】 教科書第10章およびパソコンによる演習</p> <p>【第9回】 教科書第11章およびパソコンによる演習</p> <p>【第10回】 教科書第12章およびパソコンによる演習</p> <p>【第11回】 教科書第13章およびパソコンによる演習</p> <p>【第12回】 教科書第14章およびパソコンによる演習</p> <p>【第13回】 教科書第15章およびパソコンによる演習</p> <p>【第14回】 教科書第16章およびパソコンによる演習</p> <p>【第15回】 教科書第17章およびパソコンによる演習</p> <p>【第16回】 夏期課題の発表</p> <p>【第17回】 教科書第18章およびパソコンによる演習</p> <p>【第18回】 教科書第19章およびパソコンによる演習</p> <p>【第19回】 教科書第20章およびパソコンによる演習</p> <p>【第20回】 教科書第21章およびパソコンによる演習</p> <p>【第21回】 教科書第22章およびパソコンによる演習</p> <p>【第22回】 教科書第23・24章およびパソコンによる演習</p> <p>【第23回】 教科書第25・26章およびパソコンによる演習</p> <p>【第24回】 教科書第27・28章およびパソコンによる演習</p> <p>【第25回】 教科書第29・30章およびパソコンによる演習</p> <p>【第26回】 教科書第31・32章およびパソコンによる演習</p> <p>【第27回】 教科書第33・34章およびパソコンによる演習</p> <p>【第28回】 教科書第35・36章およびパソコンによる演習</p> <p>【第29回】 次年度研究テーマの検討</p> <p>【第30回】 次年度研究テーマの確定</p>								
成績評価の方法	ゼミナール活動への取り組み姿勢 (30%)、輪読担当時の報告 (40%)、課題 (30%) による。								
フィードバックの内容	教科書の輪読および課題発表における発表の内容や方法について、随時口頭によりコメントする。								
教科書									
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ	ゼミナール II と合同で行うことがあるので、その時間帯は別の科目を履修しないこと。								
オフィスアワー	メール (onozaki@ris.ac.jp) にて随時受け付ける。								
アクティブラーニングの内容	ゼミナール、演習、プレゼンテーション								
その他									

講義コード	11C0125709	授業形態	演習	抽選の有無	あり	担当教員	川口 真一	開講期	通年																														
科目名	ゼミナールⅠ(川口)				川口 真一			通年																															
履修前提条件					備考																																		
授業の目的	<p>少子高齢化社会が進む日本財政の姿は今後どうあるべきであろうか。本ゼミナールは、我々の日々の暮らしにかかわる税金、社会保障、公共サービス、地方財政など様々なテーマについて学ぶことを目的とする。これらの制度や役割を理解することは、例えば選挙でどの政党を選ぶべきかを判断するうえでも非常に重要なことである。</p> <p>ゼミでは、まず実際に財政がどのように機能し、我々の生活に影響しているのかを学んでいく。その後、テレビや新聞、雑誌、インターネットなどで取り上げられている財政問題を題材にして、ディスカッションを行っていく。</p>																																						
到達目標	財政問題に関するディスカッションを通して、プレゼン能力と論理的思考力を身につける。																																						
授業外学修内容・授業外学修時間数	この科目では、120時間以上の授業外学修を行うこと。マイクロ経済学の基礎と本講義で使用する教科書を十分に理解すること。																																						
授業計画	<table border="0"> <tr> <td>【第1回】 財政に関する知識および理論の修得①</td> <td>【第16回】 財政に関する文献の輪読⑥</td> </tr> <tr> <td>【第2回】 財政に関する知識および理論の修得②</td> <td>【第17回】 財政に関する文献の輪読⑦</td> </tr> <tr> <td>【第3回】 財政に関する知識および理論の修得③</td> <td>【第18回】 財政に関する文献の輪読⑧</td> </tr> <tr> <td>【第4回】 財政に関する知識および理論の修得④</td> <td>【第19回】 財政に関する文献の輪読⑨</td> </tr> <tr> <td>【第5回】 財政に関する知識および理論の修得⑤</td> <td>【第20回】 財政に関する文献の輪読⑩</td> </tr> <tr> <td>【第6回】 財政に関する知識および理論の修得⑥</td> <td>【第21回】 財政問題に関するディスカッション①</td> </tr> <tr> <td>【第7回】 財政に関する知識および理論の修得⑦</td> <td>【第22回】 財政問題に関するディスカッション②</td> </tr> <tr> <td>【第8回】 財政に関する知識および理論の修得⑧</td> <td>【第23回】 財政問題に関するディスカッション③</td> </tr> <tr> <td>【第9回】 財政に関する知識および理論の修得⑨</td> <td>【第24回】 財政問題に関するディスカッション④</td> </tr> <tr> <td>【第10回】 財政に関する知識および理論の修得⑩</td> <td>【第25回】 財政問題に関するディスカッション⑤</td> </tr> <tr> <td>【第11回】 財政に関する文献の輪読①</td> <td>【第26回】 財政問題に関するディスカッション⑥</td> </tr> <tr> <td>【第12回】 財政に関する文献の輪読②</td> <td>【第27回】 財政問題に関するディスカッション⑦</td> </tr> <tr> <td>【第13回】 財政に関する文献の輪読③</td> <td>【第28回】 財政問題に関するディスカッション⑧</td> </tr> <tr> <td>【第14回】 財政に関する文献の輪読④</td> <td>【第29回】 財政問題に関するディスカッション⑨</td> </tr> <tr> <td>【第15回】 財政に関する文献の輪読⑤</td> <td>【第30回】 財政問題に関するディスカッション⑩</td> </tr> </table>									【第1回】 財政に関する知識および理論の修得①	【第16回】 財政に関する文献の輪読⑥	【第2回】 財政に関する知識および理論の修得②	【第17回】 財政に関する文献の輪読⑦	【第3回】 財政に関する知識および理論の修得③	【第18回】 財政に関する文献の輪読⑧	【第4回】 財政に関する知識および理論の修得④	【第19回】 財政に関する文献の輪読⑨	【第5回】 財政に関する知識および理論の修得⑤	【第20回】 財政に関する文献の輪読⑩	【第6回】 財政に関する知識および理論の修得⑥	【第21回】 財政問題に関するディスカッション①	【第7回】 財政に関する知識および理論の修得⑦	【第22回】 財政問題に関するディスカッション②	【第8回】 財政に関する知識および理論の修得⑧	【第23回】 財政問題に関するディスカッション③	【第9回】 財政に関する知識および理論の修得⑨	【第24回】 財政問題に関するディスカッション④	【第10回】 財政に関する知識および理論の修得⑩	【第25回】 財政問題に関するディスカッション⑤	【第11回】 財政に関する文献の輪読①	【第26回】 財政問題に関するディスカッション⑥	【第12回】 財政に関する文献の輪読②	【第27回】 財政問題に関するディスカッション⑦	【第13回】 財政に関する文献の輪読③	【第28回】 財政問題に関するディスカッション⑧	【第14回】 財政に関する文献の輪読④	【第29回】 財政問題に関するディスカッション⑨	【第15回】 財政に関する文献の輪読⑤	【第30回】 財政問題に関するディスカッション⑩
【第1回】 財政に関する知識および理論の修得①	【第16回】 財政に関する文献の輪読⑥																																						
【第2回】 財政に関する知識および理論の修得②	【第17回】 財政に関する文献の輪読⑦																																						
【第3回】 財政に関する知識および理論の修得③	【第18回】 財政に関する文献の輪読⑧																																						
【第4回】 財政に関する知識および理論の修得④	【第19回】 財政に関する文献の輪読⑨																																						
【第5回】 財政に関する知識および理論の修得⑤	【第20回】 財政に関する文献の輪読⑩																																						
【第6回】 財政に関する知識および理論の修得⑥	【第21回】 財政問題に関するディスカッション①																																						
【第7回】 財政に関する知識および理論の修得⑦	【第22回】 財政問題に関するディスカッション②																																						
【第8回】 財政に関する知識および理論の修得⑧	【第23回】 財政問題に関するディスカッション③																																						
【第9回】 財政に関する知識および理論の修得⑨	【第24回】 財政問題に関するディスカッション④																																						
【第10回】 財政に関する知識および理論の修得⑩	【第25回】 財政問題に関するディスカッション⑤																																						
【第11回】 財政に関する文献の輪読①	【第26回】 財政問題に関するディスカッション⑥																																						
【第12回】 財政に関する文献の輪読②	【第27回】 財政問題に関するディスカッション⑦																																						
【第13回】 財政に関する文献の輪読③	【第28回】 財政問題に関するディスカッション⑧																																						
【第14回】 財政に関する文献の輪読④	【第29回】 財政問題に関するディスカッション⑨																																						
【第15回】 財政に関する文献の輪読⑤	【第30回】 財政問題に関するディスカッション⑩																																						
成績評価の方法	ゼミでの報告によって評価する(100%)。																																						
フィードバックの内容																																							
教科書	授業時に指示する																																						
指定図書	授業時に指示する																																						
参考書	授業時に指示する																																						
教員からのお知らせ																																							
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部学科にて定めるオフィスアワーにて受付ける。																																						
アクティブラーニングの内容	ゼミナール																																						
その他																																							

講義コード	11C0125710	授業形態	演習	抽選の有無	あり	担当教員	河原 伸哉	開講期	通年																														
科目名	ゼミナールⅠ(河原)				河原 伸哉			通年																															
履修前提条件					備考																																		
授業の目的	<p>マイクロ経済学とデータ分析について演習形式で学ぶ。初歩的・基礎的な内容から学び始め、中級レベルの内容も理解できることを目標とする。上記に加えて、日経新聞等の記事を用いて、現実の経済問題についての理解を深めながら、プレゼンテーションの技法についても学ぶ。</p>																																						
到達目標	マイクロ経済学とデータ分析の基本的な概念を理解し、それらを他の学生に対して説明できる。他の学生の発表に対して自らの意見を述べるができる。																																						
授業外学修内容・授業外学修時間数	毎回のゼミでは、指定された教科書であらかじめ決められた各自の分担箇所について発表し、それに関する質疑応答や問題演習を行う。このため各回の授業で取り扱う内容について、教科書や参考書等を用いた予習・復習など授業外に計120時間以上の学修を行うこと。																																						
授業計画	<p>マイクロ経済学とデータ分析の学習と並行して、日経新聞や経済雑誌等の記事を用いて幅広く経済問題に触れて、プレゼンテーションやディスカッションの方法についても学ぶ。</p> <table border="0"> <tr> <td>【第1回】 ミクロ経済学の学習 1</td> <td>【第16回】 ミクロ経済学の演習 1</td> </tr> <tr> <td>【第2回】 ミクロ経済学の学習 2</td> <td>【第17回】 ミクロ経済学の演習 2</td> </tr> <tr> <td>【第3回】 ミクロ経済学の学習 3</td> <td>【第18回】 ミクロ経済学の演習 3</td> </tr> <tr> <td>【第4回】 ミクロ経済学の学習 4</td> <td>【第19回】 ミクロ経済学の演習 4</td> </tr> <tr> <td>【第5回】 新聞・雑誌の報告・討論 1</td> <td>【第20回】 新聞・雑誌の報告・討論 4</td> </tr> <tr> <td>【第6回】 ミクロ経済学の学習 5</td> <td>【第21回】 ミクロ経済学の演習 5</td> </tr> <tr> <td>【第7回】 ミクロ経済学の学習 6</td> <td>【第22回】 ミクロ経済学の演習 6</td> </tr> <tr> <td>【第8回】 データ分析の学習 1</td> <td>【第23回】 データ分析の演習 1</td> </tr> <tr> <td>【第9回】 データ分析の学習 2</td> <td>【第24回】 データ分析の演習 2</td> </tr> <tr> <td>【第10回】 新聞・雑誌の報告・討論 2</td> <td>【第25回】 新聞・雑誌の報告・討論 5</td> </tr> <tr> <td>【第11回】 データ分析の学習 3</td> <td>【第26回】 データ分析の演習 3</td> </tr> <tr> <td>【第12回】 データ分析の学習 4</td> <td>【第27回】 データ分析の演習 4</td> </tr> <tr> <td>【第13回】 データ分析の学習 5</td> <td>【第28回】 データ分析の演習 5</td> </tr> <tr> <td>【第14回】 データ分析の学習 6</td> <td>【第29回】 データ分析の演習 6</td> </tr> <tr> <td>【第15回】 新聞・雑誌の報告・討論 3</td> <td>【第30回】 新聞・雑誌の報告・討論 6</td> </tr> </table>									【第1回】 ミクロ経済学の学習 1	【第16回】 ミクロ経済学の演習 1	【第2回】 ミクロ経済学の学習 2	【第17回】 ミクロ経済学の演習 2	【第3回】 ミクロ経済学の学習 3	【第18回】 ミクロ経済学の演習 3	【第4回】 ミクロ経済学の学習 4	【第19回】 ミクロ経済学の演習 4	【第5回】 新聞・雑誌の報告・討論 1	【第20回】 新聞・雑誌の報告・討論 4	【第6回】 ミクロ経済学の学習 5	【第21回】 ミクロ経済学の演習 5	【第7回】 ミクロ経済学の学習 6	【第22回】 ミクロ経済学の演習 6	【第8回】 データ分析の学習 1	【第23回】 データ分析の演習 1	【第9回】 データ分析の学習 2	【第24回】 データ分析の演習 2	【第10回】 新聞・雑誌の報告・討論 2	【第25回】 新聞・雑誌の報告・討論 5	【第11回】 データ分析の学習 3	【第26回】 データ分析の演習 3	【第12回】 データ分析の学習 4	【第27回】 データ分析の演習 4	【第13回】 データ分析の学習 5	【第28回】 データ分析の演習 5	【第14回】 データ分析の学習 6	【第29回】 データ分析の演習 6	【第15回】 新聞・雑誌の報告・討論 3	【第30回】 新聞・雑誌の報告・討論 6
【第1回】 ミクロ経済学の学習 1	【第16回】 ミクロ経済学の演習 1																																						
【第2回】 ミクロ経済学の学習 2	【第17回】 ミクロ経済学の演習 2																																						
【第3回】 ミクロ経済学の学習 3	【第18回】 ミクロ経済学の演習 3																																						
【第4回】 ミクロ経済学の学習 4	【第19回】 ミクロ経済学の演習 4																																						
【第5回】 新聞・雑誌の報告・討論 1	【第20回】 新聞・雑誌の報告・討論 4																																						
【第6回】 ミクロ経済学の学習 5	【第21回】 ミクロ経済学の演習 5																																						
【第7回】 ミクロ経済学の学習 6	【第22回】 ミクロ経済学の演習 6																																						
【第8回】 データ分析の学習 1	【第23回】 データ分析の演習 1																																						
【第9回】 データ分析の学習 2	【第24回】 データ分析の演習 2																																						
【第10回】 新聞・雑誌の報告・討論 2	【第25回】 新聞・雑誌の報告・討論 5																																						
【第11回】 データ分析の学習 3	【第26回】 データ分析の演習 3																																						
【第12回】 データ分析の学習 4	【第27回】 データ分析の演習 4																																						
【第13回】 データ分析の学習 5	【第28回】 データ分析の演習 5																																						
【第14回】 データ分析の学習 6	【第29回】 データ分析の演習 6																																						
【第15回】 新聞・雑誌の報告・討論 3	【第30回】 新聞・雑誌の報告・討論 6																																						
成績評価の方法	到達目標で挙げた各項目に基づき、平常点(授業への参加姿勢)に50%、課題(発表、レポート等)に50%を配分して評価する。																																						
フィードバックの内容	発表やレポートに対するコメントなどを授業時に行う。																																						
教科書																																							
指定図書																																							
参考書																																							
教員からのお知らせ	使用するテキストについては、初回授業時に協議の上、決定する。指定図書・参考書は初回授業時に提示する。																																						
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部学科にて定めるオフィスアワーにて受け付ける。																																						
アクティブラーニングの内容	ゼミナール																																						
その他																																							

講義コード	11C0125711	授業形態	演習	抽選の有無	あり	担当教員		開講期	
科目名	ゼミナールⅠ(北原)				北原 克宣		通年		
履修前条件					備考				
授業の目的	本ゼミナールでは、第一に、農業問題・食料問題・土地問題・環境問題などについて世界経済および日本経済との関連で理解する、第二に、研究の方法を学ぶ、第三に、ゼミナール活動を通じて、社会人として求められる様々な能力(コミュニケーション能力、企画力、協調性など)を身に付けることを目的とする。								
到達目標	①農作業など学外での活動を通じてコミュニケーション能力および問題発見能力を養う、②文献を読み論点を整理し説明できるようにする、③データを収集し整理・分析する能力を身につける、④以上を通じて様々な議論ができるようになることを目標とする。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	①毎日新聞を読むこと(毎日30分) ②ゼミ内で紹介する書籍を読むこと(毎日30分) ③課外活動や合宿等の時間外活動にも積極的に参加すること(80時間) 合計120時間以上の授業外学修を行うこと。								
授業計画	【第1回】ゼミナールの進め方について 【第2回】興味を持っていることに関する発表① 【第3回】興味を持っていることに関する発表② 【第4回】グループ決め・研究課題の決定 【第5回】課題研究 【第6回】課題研究・取りまとめ 【第7回】プレゼンテーション・討論① 【第8回】プレゼンテーション・討論② 【第9回】グループ決め・研究課題の決定 【第10回】課題研究 【第11回】課題研究・取りまとめ 【第12回】プレゼンテーション・討論① 【第13回】プレゼンテーション・討論② 【第14回】研究の進め方について 【第15回】グループ決め				【第16回】グループごとに研究課題の検討 【第17回】課題研究-資料収集・整理- 【第18回】課題研究-資料収集・整理- 【第19回】中間発表① 【第20回】中間発表② 【第21回】論文作成 【第22回】論文作成 【第23回】中間発表① 【第24回】中間発表② 【第25回】論文作成 【第26回】発表用資料作成 【第27回】発表用資料作成 【第28回】ゼミ内発表会 【第29回】ゼミ内発表会 【第30回】ゼミナールⅡに向けて				
成績評価の方法	①ゼミ活動(課外活動を含む)への取り組み姿勢(50%)、②発表の回数・内容(30%)、③発言の回数・内容(20%)								
フィードバックの内容	発表内容について、講義内にてコメントをする。								
教科書									
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ	テキストは、講義中に指示します。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、随時受け付けます。								
アクティブラーニングの内容	グループワーク、プレゼンテーション、ディスカッション								
その他									

講義コード	11C0125712	授業形態	演習	抽選の有無	あり	担当教員		開講期	
科目名	ゼミナール I (クボ)				マイケル クボ		通年		
履修前提条件					備考				
授業の目的	Students of this zemi will study and discuss current media topics in English. Students of this zemi will also plan and produce media projects for publication or broadcast on social media. Ambitious students may choose to present at the Economics Department Zemi Taikai.								
到達目標	This is the Digital Age. With our smartphones, everyone has the answers to almost all of their questions instantly. Students of this class will be given opportunity and know-how to contribute to the immense bank of information called the Internet. Zemi members will contribute media by producing and publishing it online. How exactly do they contribute? Zemi students of this zemi will create their own social media and share it with the world on YouTube. The challenge for students of this zemi is for them to be creative so that they can make meaningful and interesting media projects. Zemi students can also expect to make close friendships in this zemi.								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	Students must spend more than 120 hours outside of class in preparation for this course.								
授業計画	【第1回】 Getting to know each other, setting goals, and determining roles. Some current event reports. 【第2回】 Focus on domestic media topics (teacher selected), discussions, and readings. 【第3回】 Focus on domestic media topics (teacher selected), discussions, and readings. 【第4回】 Focus on domestic media topics (student selected), discussions, and readings. 【第5回】 Focus on domestic media topics (student selected), discussions, and readings. 【第6回】 Fieldwork (street interviews around Tokyo). 【第7回】 Fieldwork (street interviews around Tokyo). 【第8回】 Editing videos. 【第9回】 Editing videos. 【第10回】 Final uploading and presentation of video. 【第11回】 Focus on international media topics (teacher selected), discussions, and readings. 【第12回】 Focus on international media topics (student selected), discussions, and readings. 【第13回】 Focus on international media topics (student selected), discussions, and readings. 【第14回】 Focus on international media topics (student selected), discussions, and readings. 【第15回】 Mid-term reflections/reports 【第16回】 Getting reacquainted, setting new goals, and determining new roles. 【第17回】 Teacher model presentation on media related topic, discussion. 【第18回】 Student presentation on media related topic, discussion. 【第19回】 Student presentation on media related topic, discussion. 【第20回】 Student presentation on media related topic, discussion. 【第21回】 Student presentation on media related topic, discussion. 【第22回】 Fieldwork II (street interviews around Tokyo). 【第23回】 Fieldwork II (street interviews around Tokyo). 【第24回】 Editing videos 【第25回】 Editing videos 【第26回】 Final uploading and presentation of video. 【第27回】 Group Discussion (or help with Open Zemi). 【第28回】 Group Discussion (or help with Open Zemi). 【第29回】 Group Discussion (or help with Open Zemi). 【第30回】 Make preparations for セミナール II								
成績評価の方法	participation: 30%, attitude: 30%, effort: 30%, presentations: 10%								
フィードバックの内容									
教科書									
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ									
オフィスアワー	The teacher is always available via LINE. Special meeting between student and teacher can be made easily. Traditional office hours are Wednesdays after 16:00, and Thursdays 10:40 to 12:30. Please contact the teacher directly via LINE or email (michaelkubo@ris.ac.jp)								
アクティブラーニングの内容	Students will regularly be asked to share their opinions on topics and make presentations.								
その他									

講義コード	11C0125713	授業形態	演習	抽選の有無	あり	担当教員		開講期																															
科目名	ゼミナールⅠ(慶田)				慶田 昌之		通年																																
履修前条件					備考																																		
授業の目的	このゼミでは、経済学の基礎を身につけることを目標とします。具体的には岩田規久男著『ゼミナール ミクロ経済学入門』を輪読します。各ゼミ生は、担当箇所を受け持ち、報告することになりますが、その際には、自分で学んだことを他のゼミ生が理解できるよう、説明することが求められます。結果として、ゼミ生全員が本書を通読したのと同等の理解を得ることが、本年度の目標です。 このゼミは、止むを得ない事由以外は、欠席を認めません。また、与えられた分担を責任を持ってこなすことが求められます。																																						
到達目標	経済学の基礎的な知識を身につけて、他の応用分野への視野を広げることができる。																																						
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	サブゼミを行います。 (授業外学修時間120時間)																																						
授業計画	<table border="0"> <tr> <td>【第1回】『ゼミナール ミクロ経済学入門』第1章(1)</td> <td>【第16回】『ゼミナール ミクロ経済学入門』第6章(1)</td> </tr> <tr> <td>【第2回】『ゼミナール ミクロ経済学入門』第1章(2)</td> <td>【第17回】『ゼミナール ミクロ経済学入門』第6章(2)</td> </tr> <tr> <td>【第3回】『ゼミナール ミクロ経済学入門』第1章(3)</td> <td>【第18回】『ゼミナール ミクロ経済学入門』第6章(3)</td> </tr> <tr> <td>【第4回】『ゼミナール ミクロ経済学入門』第2章(1)</td> <td>【第19回】『ゼミナール ミクロ経済学入門』第7章(1)</td> </tr> <tr> <td>【第5回】『ゼミナール ミクロ経済学入門』第2章(2)</td> <td>【第20回】『ゼミナール ミクロ経済学入門』第7章(2)</td> </tr> <tr> <td>【第6回】『ゼミナール ミクロ経済学入門』第2章(3)</td> <td>【第21回】『ゼミナール ミクロ経済学入門』第7章(3)</td> </tr> <tr> <td>【第7回】『ゼミナール ミクロ経済学入門』第3章(1)</td> <td>【第22回】『ゼミナール ミクロ経済学入門』第8章(1)</td> </tr> <tr> <td>【第8回】『ゼミナール ミクロ経済学入門』第3章(2)</td> <td>【第23回】『ゼミナール ミクロ経済学入門』第8章(2)</td> </tr> <tr> <td>【第9回】『ゼミナール ミクロ経済学入門』第3章(3)</td> <td>【第24回】『ゼミナール ミクロ経済学入門』第8章(3)</td> </tr> <tr> <td>【第10回】『ゼミナール ミクロ経済学入門』第4章(1)</td> <td>【第25回】『ゼミナール ミクロ経済学入門』第9章(1)</td> </tr> <tr> <td>【第11回】『ゼミナール ミクロ経済学入門』第4章(2)</td> <td>【第26回】『ゼミナール ミクロ経済学入門』第9章(2)</td> </tr> <tr> <td>【第12回】『ゼミナール ミクロ経済学入門』第4章(3)</td> <td>【第27回】『ゼミナール ミクロ経済学入門』第9章(3)</td> </tr> <tr> <td>【第13回】『ゼミナール ミクロ経済学入門』第5章(1)</td> <td>【第28回】『ゼミナール ミクロ経済学入門』第10章(1)</td> </tr> <tr> <td>【第14回】『ゼミナール ミクロ経済学入門』第5章(2)</td> <td>【第29回】『ゼミナール ミクロ経済学入門』第10章(2)</td> </tr> <tr> <td>【第15回】『ゼミナール ミクロ経済学入門』第5章(3)</td> <td>【第30回】『ゼミナール ミクロ経済学入門』第10章(3)</td> </tr> </table>									【第1回】『ゼミナール ミクロ経済学入門』第1章(1)	【第16回】『ゼミナール ミクロ経済学入門』第6章(1)	【第2回】『ゼミナール ミクロ経済学入門』第1章(2)	【第17回】『ゼミナール ミクロ経済学入門』第6章(2)	【第3回】『ゼミナール ミクロ経済学入門』第1章(3)	【第18回】『ゼミナール ミクロ経済学入門』第6章(3)	【第4回】『ゼミナール ミクロ経済学入門』第2章(1)	【第19回】『ゼミナール ミクロ経済学入門』第7章(1)	【第5回】『ゼミナール ミクロ経済学入門』第2章(2)	【第20回】『ゼミナール ミクロ経済学入門』第7章(2)	【第6回】『ゼミナール ミクロ経済学入門』第2章(3)	【第21回】『ゼミナール ミクロ経済学入門』第7章(3)	【第7回】『ゼミナール ミクロ経済学入門』第3章(1)	【第22回】『ゼミナール ミクロ経済学入門』第8章(1)	【第8回】『ゼミナール ミクロ経済学入門』第3章(2)	【第23回】『ゼミナール ミクロ経済学入門』第8章(2)	【第9回】『ゼミナール ミクロ経済学入門』第3章(3)	【第24回】『ゼミナール ミクロ経済学入門』第8章(3)	【第10回】『ゼミナール ミクロ経済学入門』第4章(1)	【第25回】『ゼミナール ミクロ経済学入門』第9章(1)	【第11回】『ゼミナール ミクロ経済学入門』第4章(2)	【第26回】『ゼミナール ミクロ経済学入門』第9章(2)	【第12回】『ゼミナール ミクロ経済学入門』第4章(3)	【第27回】『ゼミナール ミクロ経済学入門』第9章(3)	【第13回】『ゼミナール ミクロ経済学入門』第5章(1)	【第28回】『ゼミナール ミクロ経済学入門』第10章(1)	【第14回】『ゼミナール ミクロ経済学入門』第5章(2)	【第29回】『ゼミナール ミクロ経済学入門』第10章(2)	【第15回】『ゼミナール ミクロ経済学入門』第5章(3)	【第30回】『ゼミナール ミクロ経済学入門』第10章(3)
【第1回】『ゼミナール ミクロ経済学入門』第1章(1)	【第16回】『ゼミナール ミクロ経済学入門』第6章(1)																																						
【第2回】『ゼミナール ミクロ経済学入門』第1章(2)	【第17回】『ゼミナール ミクロ経済学入門』第6章(2)																																						
【第3回】『ゼミナール ミクロ経済学入門』第1章(3)	【第18回】『ゼミナール ミクロ経済学入門』第6章(3)																																						
【第4回】『ゼミナール ミクロ経済学入門』第2章(1)	【第19回】『ゼミナール ミクロ経済学入門』第7章(1)																																						
【第5回】『ゼミナール ミクロ経済学入門』第2章(2)	【第20回】『ゼミナール ミクロ経済学入門』第7章(2)																																						
【第6回】『ゼミナール ミクロ経済学入門』第2章(3)	【第21回】『ゼミナール ミクロ経済学入門』第7章(3)																																						
【第7回】『ゼミナール ミクロ経済学入門』第3章(1)	【第22回】『ゼミナール ミクロ経済学入門』第8章(1)																																						
【第8回】『ゼミナール ミクロ経済学入門』第3章(2)	【第23回】『ゼミナール ミクロ経済学入門』第8章(2)																																						
【第9回】『ゼミナール ミクロ経済学入門』第3章(3)	【第24回】『ゼミナール ミクロ経済学入門』第8章(3)																																						
【第10回】『ゼミナール ミクロ経済学入門』第4章(1)	【第25回】『ゼミナール ミクロ経済学入門』第9章(1)																																						
【第11回】『ゼミナール ミクロ経済学入門』第4章(2)	【第26回】『ゼミナール ミクロ経済学入門』第9章(2)																																						
【第12回】『ゼミナール ミクロ経済学入門』第4章(3)	【第27回】『ゼミナール ミクロ経済学入門』第9章(3)																																						
【第13回】『ゼミナール ミクロ経済学入門』第5章(1)	【第28回】『ゼミナール ミクロ経済学入門』第10章(1)																																						
【第14回】『ゼミナール ミクロ経済学入門』第5章(2)	【第29回】『ゼミナール ミクロ経済学入門』第10章(2)																																						
【第15回】『ゼミナール ミクロ経済学入門』第5章(3)	【第30回】『ゼミナール ミクロ経済学入門』第10章(3)																																						
成績評価の方法	ゼミへの積極的な関与(50%)と報告の内容(50%)によって、総合的に判断して評価します。																																						
フィードバックの内容	ゼミでのプレゼンテーションについて、ゼミ内でフィードバックします。																																						
教科書	『ゼミナールミクロ経済学入門』岩田規久男(日本経済新聞社)1993																																						
指定図書																																							
参考書																																							
教員からのお知らせ																																							
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部学科にて定めるオフィスアワーにて受付ける。																																						
アクティブラーニングの内容	ゼミナール																																						
その他																																							

講義コード	11C0125714	授業形態	演習	抽選の有無	あり	担当教員	小林 隆史	開講期	通年
科目名	ゼミナール I (小林隆)				小林 隆史		通年		
履修前条件					備考				
授業の目的	社会経済における現象、諸問題の中から、学生の興味関心のあるテーマをピックアップし、調査、研究を行う。文献研究、現地調査、レポート作成、プレゼンテーションについて、主体的に取り組める能力を身につける。グループ内で役割分担を行い、各人がそれぞれの役割においてリーダーを経験する。								
到達目標	社会経済の現象、諸問題に対して、理由を付して自分なりの意見を持ち、発信することができる。ゼミナール外部の人に向けて、一定水準以上の発表を行うことができる。発表内容をレジュメ、梗概といった形式で作成できる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	与えられた課題に取り組むこと。また、講義前の事前準備や、必要に応じた現地調査等を実施すること。以上に関し、計120時間以上の授業外学修を実施すること。								
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> 【第1回】 個人発表 (研究テーマ発表) 【第2回】 個人発表 (研究テーマ発表) 【第3回】 グループワーク・文献参照の基礎 【第4回】 発表スライド作成・論文作成の基礎 【第5回】 グループ演習 【第6回】 グループ発表 【第7回】 グループ演習 【第8回】 グループ演習 【第9回】 グループ発表 【第10回】 グループ演習 【第11回】 グループ演習 【第13回】 グループ発表 【第14回】 グループ演習 【第15回】 前期総括 【第16回】 グループ発表 【第17回】 グループ演習 【第18回】 グループ演習 【第19回】 グループ発表 【第20回】 グループ演習 【第21回】 グループ演習 【第22回】 グループ発表 【第23回】 グループ演習 【第24回】 グループ演習 【第25回】 グループ発表 【第26回】 論文作成 【第27回】 論文作成 【第28回】 論文報告 【第29回】 個人発表 (活動報告) 【第30回】 後期総括 								
成績評価の方法	レポート (20%程度)、発表 (60%程度)、グループへの貢献度 (20%程度) を総合的に評価する。								
フィードバックの内容	発表時へのコメント、及び、レポート、レジュメについての添削を実施する。								
教科書									
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ	グループでの作業が多いため、協調性やコミュニケーション能力を必要とする。発表会への参加は、単位取得に必須である。やむを得ない事情以外の欠席・遅刻は認めない。欠席等の際には補講への参加を必須とする。								
オフィスアワー	質問・相談は学部学科にて定めるオフィスアワーにて、対面及び Teams のビデオ通話等にて受付ける。また、Teams の所定の箇所に質問・相談の投稿があれば、オフィスアワーにて返信を行う。								
アクティブラーニングの内容	「ゼミナール」の実施。「調査学習」「能動的な授業外学修」「グループ・ワーク」を経て、演習時には「グループディスカッション」「プレゼンテーション」「教員からのフィードバックによる振り返り」を実施する。								
その他	質問・相談はできるだけ授業内にて行うこと、あるいは Teams の質問相談チャンネルでの投稿を推奨する。ほか、事前予約があればオフィスアワー以外の時間帯でも質問・相談を受け付ける。事前予約の連絡は「学籍番号 @rissho-univ.jp」から koba@ris.ac.jp 宛へのメールで、件名に「【都市経済学】質問」と記載された場合にのみ対応する。								

講義コード	11C0125715	授業形態	演習	抽選の有無	あり	担当教員		開講期	
科目名	ゼミナールⅠ(小林幹)				小林 幹		通年		
履修前提条件					備考				
授業の目的	<p>現在、あらゆる分野においてコンピューターはなくてはならない存在である。コンピューターの性能は進化の一途をたどり、今後ますますその必要性は増すばかりであると思われる。あらゆるコンピューターソフトはコンピュータープログラムで動いているので、プログラミングはコンピュータースキルの中で最も基本的かつ重要なものであると言っても過言ではない。本ゼミナールでは、コンピュータープログラミングの基礎を実践方式で学び、それを経済現象の解析に必要な計算やデータ解析に役立てることを目的とする。ゼミナールⅠでは、プログラミングに関する教科書を輪読し、簡単なゲームをつくるなど実践形式でプログラミングスキルを習得する。</p>								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・プログラミングの基礎を理解する。 ・必要なプログラムを作り、それを正しく実行させることが出来る。 ・論理的思考を身に付ける。 ・教科書を読み得た知識を他人に分かり易く説明する能力を身に付ける。 								
授業外学修内容・授業外学修時間数	<p>講義に際して前提となる知識は仮定しないので予習は必要ないが、毎回の講義内容は完全に理解する事が望まれるため復習は十分に行うこと。上記に記した授業外の学修(ゼミの学外イベントも含めて)は120時間以上行うこと。</p>								
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> 【第1回】 ガイダンス 【第2回】 プレゼンテーション演習のための資料作成1 【第3回】 プレゼンテーション演習のための資料作成2 【第4回】 プレゼンテーション演習1 【第5回】 プレゼンテーション演習2 【第6回】 プレゼンテーション演習3 【第7回】 プログラミングの基礎1 【第8回】 プログラミングの基礎2 【第9回】 プログラミングの基礎3 【第10回】 プログラミングの基礎4 【第11回】 プログラミングの基礎5 【第12回】 プログラミングの基礎6 【第13回】 プログラミングの基礎7 【第14回】 プログラミングの基礎8 【第15回】 プログラミングの基礎9 【第16回】 プログラミング演習1 【第17回】 プログラミング演習2 【第18回】 プログラミング演習3 【第19回】 プログラミング演習4 【第20回】 プログラミング演習5 【第21回】 プログラミング演習6 【第22回】 プログラミング演習7 【第23回】 プログラミング演習8 【第24回】 プログラミング演習9 【第25回】 プログラミング演習10 【第26回】 プログラミング演習11 【第27回】 プログラミング演習12 【第28回】 プログラミング成果発表1 【第29回】 プログラミング成果発表2 【第30回】 ゼミナール大会の準備 								
成績評価の方法	授業内での課題(80%)、授業への取り組み姿勢(20%)								
フィードバックの内容									
教科書									
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ									
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談の方法についてはガイダンスの際に指示します。								
アクティブラーニングの内容	ゼミナール								
その他									

講義コード	11C0125716	授業形態	演習	抽選の有無	あり	担当教員		開講期	
科目名	ゼミナールⅠ(櫻井)				櫻井 一宏		通年		
履修前提条件					備考				
授業の目的	本ゼミナールでは、環境について学び、環境問題のメカニズムを理解する。システム的な視点から環境や社会経済をモデル化し、環境的・経済的影響についての分析方法を学ぶ。持続可能な社会とはどのようなものか、また、その構築のための要件等について検討する。その他関連するトピックについて、メンバーによる自主的な調査・発表などを通じて議論する。必要に応じて外部での勉強会や見学会、フィールド調査を実施する。								
到達目標	環境問題のメカニズムを理解する。環境や経済に係わる諸問題を把握した上で各自の視点から分析し、とりまとめることができる。フィールド調査等の実施にあたり、外部機関との調整や事前準備をはじめ効率的な調査計画を立案し、実践することができる。グループワークに際し協調性やコミュニケーション能力を向上させる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	テーマに応じた文献および参考資料等を取りまとめることやプレゼンテーションのための準備、また、必要に応じてフィールド調査等を実施するなど、当該内容に関する自主的な学習や研究のための作業が必要となる。以上を踏まえ、ゼミナールの事前準備等のために計120時間以上の授業外学修を実施すること。								
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> 【第1回】 ガイダンス 【第2回】 環境問題に関する基本的な学習 【第3回】 環境政策に関連する基本的な学習 【第4回】 環境・経済システム分析(1) 【第5回】 環境・経済システム分析(2) 【第6回】 ディスカッション(1) 【第7回】 ディスカッション(2) 【第8回】 テーマ選定 【第9回】 資料収集および文献読解(1) 【第10回】 資料収集および文献読解(2) 【第11回】 資料収集および文献読解(3) 【第12回】 調査・研究項目の検討(1) 【第13回】 調査・研究項目の検討(2) 【第14回】 中間報告・質疑応答(1) 【第15回】 中間報告・質疑応答(2) 【第16回】 ディスカッション(3) 【第17回】 ディスカッション(4) 【第18回】 調査・研究方法の検討と学習(1) 【第19回】 調査・研究方法の検討と学習(2) 【第20回】 調査・研究方法の検討と学習(3) 【第21回】 分析および考察(1) 【第22回】 分析および考察(2) 【第23回】 分析および考察(3) 【第24回】 プレゼンテーション準備(1) 【第25回】 プレゼンテーション準備(2) 【第26回】 発表会・質疑応答(1) 【第27回】 発表会・質疑応答(2) 【第28回】 レポート作成(1) 【第29回】 レポート作成(2) 【第30回】 まとめ 								
成績評価の方法	ゼミナールでの調査作業(20%)やレポート作成(30%)をはじめとして、プレゼンテーションおよび討論での発言(15%)、さらには授業外学修での調査(15%)などを主な評価項目とする。その他、学内外のゼミナール活動における自主性および協調性など、全般的な諸活動への貢献や態度(20%)についても対象とし、これらを総合的に評価する。								
フィードバックの内容	授業内プレゼンテーションへの講評、グループワークや課題に対するアドバイス等を行う。								
教科書									
指定図書									
参考書	『アカデミック・スキルズ(第3版)-大学生のための知的技法入門-』佐藤望・湯川武・横山千晶・近藤明彦(慶應義塾大学出版会)2020								
教員からのお知らせ	適宜資料を配布またはゼミナール時に参考資料等を指示する。 また、メンバーが自主的に書籍や資料を持参する。								
オフィスアワー	本講義に関する質問・相談は、原則として学部学科にて定めるオフィスアワーにて受け付ける。								
アクティブラーニングの内容その他	ディスカッション・ディベート、グループワーク、プレゼンテーション、実習・フィールドワーク等を実施する。								

講義コード	11C0125717	授業形態	演習	抽選の有無	あり	担当教員		開講期																															
科目名	ゼミナールⅠ(真田)				真田 治子		通年																																
履修前条件					備考																																		
授業の目的	社会・企業とことば・コミュニケーションの問題を広く扱う。広告に使われることば、ファッション雑誌の記事、スナック菓子の名前、若者の流行語など、身近な素材からことばの問題を考える。日本語について書かれた学術論文に触れる。レトリックの基本的な手法について学ぶ。学術論文の基本的な書式について学ぶ。																																						
到達目標	社会とことばの問題を広く観察・分析することにより、日本語の変化から読み取れる日本文化とコミュニケーションの問題や社会の動向を理解できる。日本語について書かれた基礎的な学術論文を読むことができる。レトリックの基本的な手法について説明できる。学術論文の基本的な書式について説明できる。																																						
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	この科目では120時間以上の授業外学修を行うこと。毎回の授業の前には、各回の授業で扱う項目について、論文を読んで要約とパワーポイントを使った発表の準備、参考資料の調査をしておくこと。毎回の授業の後には、その授業で扱った論文の要約をまとめておくこと。																																						
授業計画	<table border="0"> <tr> <td>【第1回】 ガイダンス</td> <td>【第16回】 ガイダンス</td> </tr> <tr> <td>【第2回】 欧文フォントと商品ロゴ(1)</td> <td>【第17回】 発表(1) 広告表現の変遷</td> </tr> <tr> <td>【第3回】 欧文フォントと商品ロゴ(2)</td> <td>【第18回】 発表(2) 目を引きつける広告表現</td> </tr> <tr> <td>【第4回】 欧文フォントと商品ロゴ・発表(1) 字体と商品</td> <td>【第19回】 発表(3) テレビCMのことば</td> </tr> <tr> <td>【第5回】 欧文フォントと商品ロゴ・発表(2) 字体と商品</td> <td>【第20回】 発表(4) キャッチコピーと短型詩</td> </tr> <tr> <td>【第6回】 欧文フォントと商品ロゴ・発表(3) 字体と商品</td> <td>【第21回】 発表(5) 広告の誘惑と言語表現・非言語表現</td> </tr> <tr> <td>【第7回】 首都圏の言語景観</td> <td>【第22回】 発表(6) 消費者行動と広告</td> </tr> <tr> <td>【第8回】 関西の言語景観</td> <td>【第23回】 発表(7) 広告の説得効果と誤誘導効果</td> </tr> <tr> <td>【第9回】 言語景観・発表(1) 観光地の言語景観(山形)</td> <td>【第24回】 発表(8) 広告のコピーが語ってきたもの</td> </tr> <tr> <td>【第10回】 言語景観・発表(2) 観光地の言語景観(北海道)</td> <td>【第25回】 発表(9) ラジオCMと日本語</td> </tr> <tr> <td>【第11回】 言語景観・発表(3) 観光地の言語景観(九州)</td> <td>【第26回】 発表(10) 記事と説得</td> </tr> <tr> <td>【第12回】 広告の言語表現の概要(1)</td> <td>【第27回】 発表(11) 記事のレトリック</td> </tr> <tr> <td>【第13回】 広告の言語表現の概要(2)</td> <td>【第28回】 論文の書き方・テーマの選び方</td> </tr> <tr> <td>【第14回】 命名論とはにか</td> <td>【第29回】 ゼミ論文作成のためのテーマ検討発表(1)</td> </tr> <tr> <td>【第15回】 まとめ</td> <td>【第30回】 ゼミ論文作成のためのテーマ検討発表(2)</td> </tr> </table>									【第1回】 ガイダンス	【第16回】 ガイダンス	【第2回】 欧文フォントと商品ロゴ(1)	【第17回】 発表(1) 広告表現の変遷	【第3回】 欧文フォントと商品ロゴ(2)	【第18回】 発表(2) 目を引きつける広告表現	【第4回】 欧文フォントと商品ロゴ・発表(1) 字体と商品	【第19回】 発表(3) テレビCMのことば	【第5回】 欧文フォントと商品ロゴ・発表(2) 字体と商品	【第20回】 発表(4) キャッチコピーと短型詩	【第6回】 欧文フォントと商品ロゴ・発表(3) 字体と商品	【第21回】 発表(5) 広告の誘惑と言語表現・非言語表現	【第7回】 首都圏の言語景観	【第22回】 発表(6) 消費者行動と広告	【第8回】 関西の言語景観	【第23回】 発表(7) 広告の説得効果と誤誘導効果	【第9回】 言語景観・発表(1) 観光地の言語景観(山形)	【第24回】 発表(8) 広告のコピーが語ってきたもの	【第10回】 言語景観・発表(2) 観光地の言語景観(北海道)	【第25回】 発表(9) ラジオCMと日本語	【第11回】 言語景観・発表(3) 観光地の言語景観(九州)	【第26回】 発表(10) 記事と説得	【第12回】 広告の言語表現の概要(1)	【第27回】 発表(11) 記事のレトリック	【第13回】 広告の言語表現の概要(2)	【第28回】 論文の書き方・テーマの選び方	【第14回】 命名論とはにか	【第29回】 ゼミ論文作成のためのテーマ検討発表(1)	【第15回】 まとめ	【第30回】 ゼミ論文作成のためのテーマ検討発表(2)
【第1回】 ガイダンス	【第16回】 ガイダンス																																						
【第2回】 欧文フォントと商品ロゴ(1)	【第17回】 発表(1) 広告表現の変遷																																						
【第3回】 欧文フォントと商品ロゴ(2)	【第18回】 発表(2) 目を引きつける広告表現																																						
【第4回】 欧文フォントと商品ロゴ・発表(1) 字体と商品	【第19回】 発表(3) テレビCMのことば																																						
【第5回】 欧文フォントと商品ロゴ・発表(2) 字体と商品	【第20回】 発表(4) キャッチコピーと短型詩																																						
【第6回】 欧文フォントと商品ロゴ・発表(3) 字体と商品	【第21回】 発表(5) 広告の誘惑と言語表現・非言語表現																																						
【第7回】 首都圏の言語景観	【第22回】 発表(6) 消費者行動と広告																																						
【第8回】 関西の言語景観	【第23回】 発表(7) 広告の説得効果と誤誘導効果																																						
【第9回】 言語景観・発表(1) 観光地の言語景観(山形)	【第24回】 発表(8) 広告のコピーが語ってきたもの																																						
【第10回】 言語景観・発表(2) 観光地の言語景観(北海道)	【第25回】 発表(9) ラジオCMと日本語																																						
【第11回】 言語景観・発表(3) 観光地の言語景観(九州)	【第26回】 発表(10) 記事と説得																																						
【第12回】 広告の言語表現の概要(1)	【第27回】 発表(11) 記事のレトリック																																						
【第13回】 広告の言語表現の概要(2)	【第28回】 論文の書き方・テーマの選び方																																						
【第14回】 命名論とはにか	【第29回】 ゼミ論文作成のためのテーマ検討発表(1)																																						
【第15回】 まとめ	【第30回】 ゼミ論文作成のためのテーマ検討発表(2)																																						
成績評価の方法	先行研究の要約を中心とした授業中の発表とその準備(80%)、授業中の質疑への参加(20%)																																						
フィードバックの内容	課題に対する講評を授業の中で行う。																																						
教科書																																							
指定図書																																							
参考書	『フォントのふしぎブランドのロゴはなぜ高そうに見えるのか?』小林章(美術出版社)2011年、『雑誌『日本語学』28巻6号「多言語社会・ニッポン」』(明治書院)2009年、『雑誌『日本語学』20巻2号「広告の日本語」』(明治書院)2001年、『日本語探究法7巻レトリック探究法』柳澤浩哉・中村敦雄・香西秀信(朝倉書店)2004年																																						
教員からのお知らせ	上記以外の参考書は授業中に適宜指示する。																																						
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部学科にて定めるオフィスアワーにて受付けます。																																						
アクティビティの内容	意見共有。プレゼンテーション。能動的授業外学修。調査学習。グループワーク。																																						
その他																																							

講義コード	11C0125719	授業形態	演習	抽選の有無	あり	担当教員		開講期	
科目名	ゼミナールⅠ(平)				平 伊佐雄		通年		
履修前提条件					備考				
授業の目的	ゼミナールⅠは、経済史研究の特徴や方法論について学ぶことを目的とする。								
到達目標	経済史の研究方法を理解し、史料の性格を判断し、研究文献の視角を判別できるようになる。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	テキストをまとめ、解説するための事前作業、与えられた課題についての調査とその報告書の作成のため、ゼミ1回当たり4時間以上の授業外学修を要する。(計120時間以上)								
授業計画	【第1回】 経済史の歴史と歴史学の歴史を考察 【第2回】 チポツラの歴史研究と『経済史への招待』という書物について検討 【第3回】 チポツラ『経済史への招待』の内容を考察する。初回 経済史と呼ばれる学問1 【第4回】 経済史と呼ばれる学問2 【第5回】 経済史と呼ばれる学問3 【第6回】 経済史と呼ばれる学問4 【第7回】 経済史と呼ばれる学問5 【第8回】 問題設定1 【第9回】 問題設定2 【第10回】 問題設定3 【第11回】 史料1 【第12回】 史料2 【第13回】 史料3 【第14回】 史料4 【第15回】 史料批判1 【第16回】 史料批判2 【第17回】 史料批判3 【第18回】 史料批判4 【第19回】 史料批判5 【第20回】 歴史の再現1 【第21回】 歴史の再現2 【第22回】 歴史の再現3 【第23回】 歴史の再現4 【第24回】 研究文献の輪読と史料解読1 【第25回】 研究文献の輪読と史料解読2 【第26回】 研究文献の輪読と史料解読3 【第27回】 研究文献の輪読と史料解読4 【第28回】 研究文献の輪読と史料解読5 【第29回】 研究文献の輪読と史料解読6 【第30回】 研究文献の輪読と史料解読7								
成績評価の方法	ゼミナールで行う文献の解読(50%)、各自のリサーチレポート(50%)をもって評価する。								
フィードバックの内容	指導の中で適宜フィードバックする。								
教科書	『経済史への招待』カルロ・マリア・チポツラ(国文社)2001								
指定図書	『全航海の記録』コロンブス(岩波書店)2011、『アンソロジー-新世界の挑戦3』オビエード(岩波書店)1994、『航海の記録』コロンブス、アメリカ、ガマ、バルボアマゼラン(岩波書店)1965、『メキシコ征服記1-3』ベルナルド・カステイリョ(岩波書店)1986、『ペルーおよびクスコ地方征服に関する真実の報告』ヘレス(岩波書店)1980、『ヨーロッパと大西洋』プーチエ(岩波書店)1984、『西アフリカ航海の記録』アズララ(岩波書店)1981								
参考書									
教員からのお知らせ	授業計画の内容は、テキスト入手の有無、学生の理解度などに応じて、変更もあり得る。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部学科にて定めるオフィスアワー・あるいはEメールにて受け付けます。								
アクティブラーニングの内容	ゼミナールでは、学生が各々研究文献のまとめや調査したことの報告を行う必要があるため、事前に「能動的に授業外学修」を行う。								
その他									

講義コード	11C0125720	授業形態	演習	抽選の有無	あり	担当教員	高橋 美由紀	開講期	通年
科目名	ゼミナールⅠ(高橋)				高橋 美由紀			通年	
履修前提条件					備考				
授業の目的	人口と経済の関係について歴史的視点から学び、現代の人口問題についても考えていきます。歴史的な働き方の変遷を通して、現代望ましいワークライフバランスを考えてみましょう。また、地域の経済の歴史と人々の暮らしの変容についても考察します。								
到達目標	自分の考えをまとめて、説得的なプレゼンテーションが出来ることおよび、レポートが書けること。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	<p>輪読に当たっては、事前に指定の箇所を読み、分からない用語などを調べておくこと。また、自分の課題については、報告直前以外でも常にニュースその他を見て学修しておくこと（授業前2時間、授業後2時間、計120時間）。</p> <p>【第1回】ゼミで何を学ぶか。人口と経済についての講義。 【第2回】個人研究課題の報告。 【第3回】課題図書1の輪読。 【第4回】課題図書2の輪読。 【第5回】課題図書3の輪読。 【第6回】課題図書4の輪読。 【第7回】課外実習（博物館など訪問：可能な場合のみ）。難しい場合は仮想的にオンラインでおこなう。 【第8回】課外実習について成果レポートの報告と討論。 【第9回】個人研究の報告1。 【第10回】個人研究の報告2。 【第11回】コンピュータ実習1。 【第12回】コンピュータ実習2。 【第13回】個人研究の報告3。 【第14回】個人研究の報告4。 【第15回】個人研究の報告5。 【第16回】個人研究の報告6。 【第17回】個人研究の報告7。 【第18回】課題図書5の輪読。 【第19回】課題図書6の輪読。 【第20回】課題図書7の輪読。 【第21回】コンピュータ実習3。 【第22回】コンピュータ実習4。 【第23回】プレゼン1 【第24回】プレゼン2 【第25回】プレゼン3 【第26回】課題図書8の輪読。 【第27回】課題図書9の輪読。 【第28回】ゼミ最終プレゼン3。 【第29回】ゼミ最終プレゼン4。 【第30回】ゼミ最終プレゼン5。</p>								
成績評価の方法	レポート（必須 50%）・報告・プレゼンテーション（40%）、ゼミ参加態度（10%）。								
フィードバックの内容	プレゼンテーションは、発表の際にコメントをおこなう。また、提出されたレポート等はコメントを付し、返却する。								
教科書	『歴史人口学で見た日本』速水 融（文春新書）2022、『東大塾 これからの日本の人口と社会』白波瀬 佐和子編（東京大学出版会）2019、『人口学への招待』河野 稔（中央公論社）2007、『人口論』トマス ロバート マルサス（光文社古典新訳文庫）2011、『人口で語る世界史』ポール モーランド（著）、渡会 圭子（翻訳）（文藝春秋社）2019、『愛と希望の「人口学講義」』鬼頭 宏（ウエッジ）2015、『人口の世界史』マッシモ リヴィーバッチ（著）、速水 融（翻訳）、斎藤 修（翻訳）（東洋経済新報社）2014								
指定図書	『人類史のなかの人口と家族』木下 太志、浜野 潔（晃洋書房）2003、『歴史人口学からみた結婚・離婚・再婚』黒須 里美他（麗澤大学出版会）2012、『歴史人口学のフロンティア』速水 融、友部 謙一、鬼頭 宏（東洋経済新報社）2001、『人口と日本経済 - 長寿、イノベーション、経済成長』吉川 洋（中央公論新社）2016、『関係人口をつくる一定住でも交流でもないローカルイノベーション』田中輝美（木楽舎）2017、『老いてゆくアジア』大泉 啓一郎（中央公論社）2007、『人口減少×デザイン』笥 祐介（英治出版）2015、『人口問題と移民——日本の人口・階層構造はどう変わるのか』是川 夕（著、編集）、駒井 洋（監修）（明石書店）2019、『2050年 世界人口大減少』ダリル・ブリッカー（著）、ジョン・イビットソン（著）、倉田 幸信（翻訳）、河合 雅司（解説）（文藝春秋社）2020、『人口論入門 歴史から未来へ』杉田 菜穂（法律文化社）2017								
参考書	『[図説] 人口で見る日本史』鬼頭宏（PHP 研究所）2007、『歴史人口学の世界』速水融（岩波書店）2012								
教員からのお知らせ	講義順序は、教室状況によって変更する場合があります。参考書は必要に応じて追加し、その都度提示します。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、ゼミ授業内にて受け付けます。積極的に質問してください。また、学部学科にて定めるオフィスアワー（月曜日3限）にても受け付けます。ただし、オフィスアワーに訪れる場合は、前もってメールなどでご連絡ください。								
アクティブラーニングの内容	ゼミの性質上、各自の事前学修と報告がかなりの割合を占める。								
その他	ゼミ参加者の希望によって輪読書は若干変更する場合があります。								

講義コード	11C0125722	授業形態	演習	抽選の有無	あり	担当教員	外木 好美	開講期	通年																														
科目名	ゼミナール I (外木)				外木 好美			通年																															
履修前提条件					備考																																		
授業の目的	ミクロ経済学とマクロ経済学の基本的な考え方を使得、具体的な経済事象について報告・討論することで、経済学的な考え方を身につけることを目的とします。また、具体的な日本企業に関する記事をまとめて発表したり、学外の方との交流等の課外活動も行います。以上を通じて、日本経済を見る際の視野を広げます。																																						
到達目標	①基本的な経済学の考え方を直観的に理解すること、②経済学の考え方と具体的な事例を対応させて、発表・討論ができること、③記事や論文、資料を読んで、その事象についてまとめられること、④現場で起こっていることに対して、経済学的に解決策を提示できること。																																						
授業外学修内容・授業外学修時間数	報告・討論の準備をしっかりと行ってください。常に、新聞や経済雑誌等に目を通して世の中の動きを観察し、報告・討論に備えてください。 授業外で120時間以上の学習を行うこと。																																						
授業計画	<table border="0"> <tr> <td>【第1回】 ガイダンス&経済学を学ぶ意義</td> <td>【第16回】 経済学の考え方&ゼミナール論文の作成 (1)</td> </tr> <tr> <td>【第2回】 自己紹介&他己紹介 (1)</td> <td>【第17回】 経済学の考え方&ゼミナール論文の作成 (2)</td> </tr> <tr> <td>【第3回】 自己紹介&他己紹介 (2)</td> <td>【第18回】 経済学の考え方&ゼミナール論文の作成 (3)</td> </tr> <tr> <td>【第4回】 経済学の考え方&ゼミナール大会の下準備 (1)</td> <td>【第19回】 経済学の考え方&ゼミナール論文の作成 (4)</td> </tr> <tr> <td>【第5回】 経済学の考え方&ゼミナール大会の下準備 (2)</td> <td>【第20回】 経済学の考え方&ゼミナール論文の作成 (5)</td> </tr> <tr> <td>【第6回】 経済学の考え方&ゼミナール大会の下準備 (3)</td> <td>【第21回】 経済学の考え方&ゼミナール論文の作成 (6)</td> </tr> <tr> <td>【第7回】 経済学の考え方&ゼミナール大会の下準備 (4)</td> <td>【第22回】 経済学の考え方&ゼミナール論文の作成 (7)</td> </tr> <tr> <td>【第8回】 経済学の考え方&ゼミナール大会の下準備 (5)</td> <td>【第23回】 経済学の考え方&ゼミナール論文の作成 (8)</td> </tr> <tr> <td>【第9回】 経済学の考え方&ゼミナール大会の下準備 (6)</td> <td>【第24回】 経済学の考え方&ゼミナール論文の作成 (9)</td> </tr> <tr> <td>【第10回】 経済学の考え方&ゼミナール大会の下準備 (7)</td> <td>【第25回】 経済学の考え方&ゼミナール論文の作成 (10)</td> </tr> <tr> <td>【第11回】 経済学の考え方&ゼミナール大会の下準備 (8)</td> <td>【第26回】 経済学の考え方&ゼミナール論文の作成 (11)</td> </tr> <tr> <td>【第12回】 経済学の考え方&ゼミナール大会の下準備 (9)</td> <td>【第27回】 経済学の考え方&ゼミナール論文の作成 (12)</td> </tr> <tr> <td>【第13回】 経済学の考え方&ゼミナール大会の下準備 (10)</td> <td>【第28回】 経済学の考え方&ゼミナール論文の作成 (13)</td> </tr> <tr> <td>【第14回】 経済学の考え方&ゼミナール大会の下準備 (11)</td> <td>【第29回】 経済学の考え方&ゼミナール論文の作成 (14)</td> </tr> <tr> <td>【第15回】 経済学の考え方&ゼミナール大会の下準備 (12)</td> <td>【第30回】 経済学の考え方&ゼミナール論文の作成 (15)</td> </tr> </table>									【第1回】 ガイダンス&経済学を学ぶ意義	【第16回】 経済学の考え方&ゼミナール論文の作成 (1)	【第2回】 自己紹介&他己紹介 (1)	【第17回】 経済学の考え方&ゼミナール論文の作成 (2)	【第3回】 自己紹介&他己紹介 (2)	【第18回】 経済学の考え方&ゼミナール論文の作成 (3)	【第4回】 経済学の考え方&ゼミナール大会の下準備 (1)	【第19回】 経済学の考え方&ゼミナール論文の作成 (4)	【第5回】 経済学の考え方&ゼミナール大会の下準備 (2)	【第20回】 経済学の考え方&ゼミナール論文の作成 (5)	【第6回】 経済学の考え方&ゼミナール大会の下準備 (3)	【第21回】 経済学の考え方&ゼミナール論文の作成 (6)	【第7回】 経済学の考え方&ゼミナール大会の下準備 (4)	【第22回】 経済学の考え方&ゼミナール論文の作成 (7)	【第8回】 経済学の考え方&ゼミナール大会の下準備 (5)	【第23回】 経済学の考え方&ゼミナール論文の作成 (8)	【第9回】 経済学の考え方&ゼミナール大会の下準備 (6)	【第24回】 経済学の考え方&ゼミナール論文の作成 (9)	【第10回】 経済学の考え方&ゼミナール大会の下準備 (7)	【第25回】 経済学の考え方&ゼミナール論文の作成 (10)	【第11回】 経済学の考え方&ゼミナール大会の下準備 (8)	【第26回】 経済学の考え方&ゼミナール論文の作成 (11)	【第12回】 経済学の考え方&ゼミナール大会の下準備 (9)	【第27回】 経済学の考え方&ゼミナール論文の作成 (12)	【第13回】 経済学の考え方&ゼミナール大会の下準備 (10)	【第28回】 経済学の考え方&ゼミナール論文の作成 (13)	【第14回】 経済学の考え方&ゼミナール大会の下準備 (11)	【第29回】 経済学の考え方&ゼミナール論文の作成 (14)	【第15回】 経済学の考え方&ゼミナール大会の下準備 (12)	【第30回】 経済学の考え方&ゼミナール論文の作成 (15)
【第1回】 ガイダンス&経済学を学ぶ意義	【第16回】 経済学の考え方&ゼミナール論文の作成 (1)																																						
【第2回】 自己紹介&他己紹介 (1)	【第17回】 経済学の考え方&ゼミナール論文の作成 (2)																																						
【第3回】 自己紹介&他己紹介 (2)	【第18回】 経済学の考え方&ゼミナール論文の作成 (3)																																						
【第4回】 経済学の考え方&ゼミナール大会の下準備 (1)	【第19回】 経済学の考え方&ゼミナール論文の作成 (4)																																						
【第5回】 経済学の考え方&ゼミナール大会の下準備 (2)	【第20回】 経済学の考え方&ゼミナール論文の作成 (5)																																						
【第6回】 経済学の考え方&ゼミナール大会の下準備 (3)	【第21回】 経済学の考え方&ゼミナール論文の作成 (6)																																						
【第7回】 経済学の考え方&ゼミナール大会の下準備 (4)	【第22回】 経済学の考え方&ゼミナール論文の作成 (7)																																						
【第8回】 経済学の考え方&ゼミナール大会の下準備 (5)	【第23回】 経済学の考え方&ゼミナール論文の作成 (8)																																						
【第9回】 経済学の考え方&ゼミナール大会の下準備 (6)	【第24回】 経済学の考え方&ゼミナール論文の作成 (9)																																						
【第10回】 経済学の考え方&ゼミナール大会の下準備 (7)	【第25回】 経済学の考え方&ゼミナール論文の作成 (10)																																						
【第11回】 経済学の考え方&ゼミナール大会の下準備 (8)	【第26回】 経済学の考え方&ゼミナール論文の作成 (11)																																						
【第12回】 経済学の考え方&ゼミナール大会の下準備 (9)	【第27回】 経済学の考え方&ゼミナール論文の作成 (12)																																						
【第13回】 経済学の考え方&ゼミナール大会の下準備 (10)	【第28回】 経済学の考え方&ゼミナール論文の作成 (13)																																						
【第14回】 経済学の考え方&ゼミナール大会の下準備 (11)	【第29回】 経済学の考え方&ゼミナール論文の作成 (14)																																						
【第15回】 経済学の考え方&ゼミナール大会の下準備 (12)	【第30回】 経済学の考え方&ゼミナール論文の作成 (15)																																						
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢 (20%)、ゼミナール大会の報告準備 (40%)、ゼミナール論文の執筆 (40%) で評価する。																																						
フィードバックの内容	報告資料や討論内容について、適宜、コメントや指示を入れます。																																						
教科書																																							
指定図書																																							
参考書																																							
教員からのお知らせ	LINE、メール、リスト、Teams で情報共有します。																																						
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部学科にて定めるオフィスアワーにて受け付けます。																																						
アクティブラーニングの内容	意見共有、ゼミナール、グループ・ワーク、プレゼンテーション																																						
その他																																							

講義コード	11C0125723	授業形態	演習	抽選の有無	あり	担当教員	中村 宗之	開講期	通年																														
科目名	ゼミナール I (中村)				中村 宗之			通年																															
履修前提条件					備考																																		
授業の目的	日本の経済や社会の諸問題について説明する。マルクス経済学や景気循環論に関連する問題について説明する。各自興味のあるテーマについて調査、報告し、検討する。ここ数年の課題文献のテーマは、ブラック企業、ワーキングプア、ベーシックインカム、日本の水田稲作などである。																																						
到達目標	日本の経済や社会の諸問題について調査し、考察することができる。その内容を人に十分に伝えて、議論することができる。																																						
授業外学修内容・授業外学修時間数	授業内容に関して予習や復習を行う。報告準備等を十分に行う。授業外で計120時間以上の学修を行うこと。																																						
授業計画	<table border="0"> <tr> <td>【第1回】 ガイダンス</td> <td>【第16回】 個人またはグループの研究報告 (9)</td> </tr> <tr> <td>【第2回】 課題文献の検討 (1)</td> <td>【第17回】 個人またはグループの研究報告 (10)</td> </tr> <tr> <td>【第3回】 課題文献の検討 (2)</td> <td>【第18回】 個人またはグループの研究報告 (11)</td> </tr> <tr> <td>【第4回】 課題文献の検討 (3)</td> <td>【第19回】 個人またはグループの研究報告 (12)</td> </tr> <tr> <td>【第5回】 課題文献の検討 (4)</td> <td>【第20回】 個人またはグループの研究報告 (13)</td> </tr> <tr> <td>【第6回】 課題文献の検討 (5)</td> <td>【第21回】 個人またはグループの研究報告 (14)</td> </tr> <tr> <td>【第7回】 個人またはグループの研究報告 (1)</td> <td>【第22回】 個人またはグループの研究報告 (15)</td> </tr> <tr> <td>【第8回】 個人またはグループの研究報告 (2)</td> <td>【第23回】 個人またはグループの研究報告 (16)</td> </tr> <tr> <td>【第9回】 個人またはグループの研究報告 (3)</td> <td>【第24回】 個人またはグループの研究報告 (17)</td> </tr> <tr> <td>【第10回】 個人またはグループの研究報告 (4)</td> <td>【第25回】 課題文献の検討 (6)</td> </tr> <tr> <td>【第11回】 個人またはグループの研究報告 (5)</td> <td>【第26回】 課題文献の検討 (7)</td> </tr> <tr> <td>【第12回】 個人またはグループの研究報告 (6)</td> <td>【第27回】 課題文献の検討 (8)</td> </tr> <tr> <td>【第13回】 個人またはグループの研究報告 (7)</td> <td>【第28回】 課題文献の検討 (9)</td> </tr> <tr> <td>【第14回】 個人またはグループの研究報告 (8)</td> <td>【第29回】 課題文献の検討 (10)</td> </tr> <tr> <td>【第15回】 前期のまとめ</td> <td>【第30回】 後期のまとめ</td> </tr> </table>									【第1回】 ガイダンス	【第16回】 個人またはグループの研究報告 (9)	【第2回】 課題文献の検討 (1)	【第17回】 個人またはグループの研究報告 (10)	【第3回】 課題文献の検討 (2)	【第18回】 個人またはグループの研究報告 (11)	【第4回】 課題文献の検討 (3)	【第19回】 個人またはグループの研究報告 (12)	【第5回】 課題文献の検討 (4)	【第20回】 個人またはグループの研究報告 (13)	【第6回】 課題文献の検討 (5)	【第21回】 個人またはグループの研究報告 (14)	【第7回】 個人またはグループの研究報告 (1)	【第22回】 個人またはグループの研究報告 (15)	【第8回】 個人またはグループの研究報告 (2)	【第23回】 個人またはグループの研究報告 (16)	【第9回】 個人またはグループの研究報告 (3)	【第24回】 個人またはグループの研究報告 (17)	【第10回】 個人またはグループの研究報告 (4)	【第25回】 課題文献の検討 (6)	【第11回】 個人またはグループの研究報告 (5)	【第26回】 課題文献の検討 (7)	【第12回】 個人またはグループの研究報告 (6)	【第27回】 課題文献の検討 (8)	【第13回】 個人またはグループの研究報告 (7)	【第28回】 課題文献の検討 (9)	【第14回】 個人またはグループの研究報告 (8)	【第29回】 課題文献の検討 (10)	【第15回】 前期のまとめ	【第30回】 後期のまとめ
【第1回】 ガイダンス	【第16回】 個人またはグループの研究報告 (9)																																						
【第2回】 課題文献の検討 (1)	【第17回】 個人またはグループの研究報告 (10)																																						
【第3回】 課題文献の検討 (2)	【第18回】 個人またはグループの研究報告 (11)																																						
【第4回】 課題文献の検討 (3)	【第19回】 個人またはグループの研究報告 (12)																																						
【第5回】 課題文献の検討 (4)	【第20回】 個人またはグループの研究報告 (13)																																						
【第6回】 課題文献の検討 (5)	【第21回】 個人またはグループの研究報告 (14)																																						
【第7回】 個人またはグループの研究報告 (1)	【第22回】 個人またはグループの研究報告 (15)																																						
【第8回】 個人またはグループの研究報告 (2)	【第23回】 個人またはグループの研究報告 (16)																																						
【第9回】 個人またはグループの研究報告 (3)	【第24回】 個人またはグループの研究報告 (17)																																						
【第10回】 個人またはグループの研究報告 (4)	【第25回】 課題文献の検討 (6)																																						
【第11回】 個人またはグループの研究報告 (5)	【第26回】 課題文献の検討 (7)																																						
【第12回】 個人またはグループの研究報告 (6)	【第27回】 課題文献の検討 (8)																																						
【第13回】 個人またはグループの研究報告 (7)	【第28回】 課題文献の検討 (9)																																						
【第14回】 個人またはグループの研究報告 (8)	【第29回】 課題文献の検討 (10)																																						
【第15回】 前期のまとめ	【第30回】 後期のまとめ																																						
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢 (50%)、報告内容 (50%) により評価する。																																						
フィードバックの内容	報告内容はその都度検討される。必要に応じて個別指導を実施する。																																						
教科書																																							
指定図書																																							
参考書																																							
教員からのお知らせ																																							
オフィスアワー	本授業に関する質問や相談は、学部学科で定めるオフィスアワーにて受け付けます。Teams 等でも受け付けます。																																						
アクティブラーニングの内容	意見共有、教員からのフィードバックによる振り返り、能動的な授業外学修、ゼミナール、プレゼンテーション																																						
その他																																							

講義コード	11C0125725	授業形態	演習	抽選の有無	あり	担当教員		開講期			
科目名	ゼミナールⅠ(林)				林 康史		通年				
履修前提条件					備考						
授業の目的	金融・証券・資産運用について学習する。テキスト(後報)を輪読し、加えて、その内容に関して討論する。学問的に、論理的思考ができるよう、積極的な議論を行うとともに、実際の市場に即したテーマで、ソクラテス・メソッドを行う。										
到達目標	マーケットにおける論理的思考・発想ができ、また、センスやマナーが身につくこと。										
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	必要に応じて、サブゼミをゼミ生が自主的に運営することがある(120時間。サブゼミは、DVD等でゼミの予習に充てる。ゼミは、サブゼミの内容は学習済みという前提で行われるので、留意のこと)。										
授業計画	<table border="0" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width:50%; vertical-align: top;"> 【第1回】 ガイダンス 【第2回】 論文の読み方・書き方① 【第3回】 論文の読み方・書き方② 【第4回】 論文の読み方・書き方③ 【第5回】 論文の読み方・書き方④ 【第6回】 証券投資の基礎① 【第7回】 証券投資の基礎② 【第8回】 証券投資の基礎③ 【第9回】 証券投資の基礎④ 【第10回】 株式投資① 【第11回】 株式投資② 【第12回】 株式投資③ 【第13回】 株式投資④ 【第14回】 株式投資⑤ 【第15回】 株式投資⑥ </td> <td style="width:50%; vertical-align: top;"> 【第16回】 株式投資⑦ 【第17回】 株式投資⑧ 【第18回】 株式投資⑨ 【第19回】 株式投資⑩ 【第20回】 株式投資⑪ 【第21回】 株式投資⑫ 【第22回】 株式投資⑬ 【第23回】 株式投資⑭ 【第24回】 株式投資⑮ 【第25回】 株式投資⑯ 【第26回】 株式投資⑰ 【第27回】 株式投資⑱ 【第28回】 株式投資⑲ 【第29回】 株式投資⑳ 【第30回】 総括 </td> </tr> </table>									【第1回】 ガイダンス 【第2回】 論文の読み方・書き方① 【第3回】 論文の読み方・書き方② 【第4回】 論文の読み方・書き方③ 【第5回】 論文の読み方・書き方④ 【第6回】 証券投資の基礎① 【第7回】 証券投資の基礎② 【第8回】 証券投資の基礎③ 【第9回】 証券投資の基礎④ 【第10回】 株式投資① 【第11回】 株式投資② 【第12回】 株式投資③ 【第13回】 株式投資④ 【第14回】 株式投資⑤ 【第15回】 株式投資⑥	【第16回】 株式投資⑦ 【第17回】 株式投資⑧ 【第18回】 株式投資⑨ 【第19回】 株式投資⑩ 【第20回】 株式投資⑪ 【第21回】 株式投資⑫ 【第22回】 株式投資⑬ 【第23回】 株式投資⑭ 【第24回】 株式投資⑮ 【第25回】 株式投資⑯ 【第26回】 株式投資⑰ 【第27回】 株式投資⑱ 【第28回】 株式投資⑲ 【第29回】 株式投資⑳ 【第30回】 総括
【第1回】 ガイダンス 【第2回】 論文の読み方・書き方① 【第3回】 論文の読み方・書き方② 【第4回】 論文の読み方・書き方③ 【第5回】 論文の読み方・書き方④ 【第6回】 証券投資の基礎① 【第7回】 証券投資の基礎② 【第8回】 証券投資の基礎③ 【第9回】 証券投資の基礎④ 【第10回】 株式投資① 【第11回】 株式投資② 【第12回】 株式投資③ 【第13回】 株式投資④ 【第14回】 株式投資⑤ 【第15回】 株式投資⑥	【第16回】 株式投資⑦ 【第17回】 株式投資⑧ 【第18回】 株式投資⑨ 【第19回】 株式投資⑩ 【第20回】 株式投資⑪ 【第21回】 株式投資⑫ 【第22回】 株式投資⑬ 【第23回】 株式投資⑭ 【第24回】 株式投資⑮ 【第25回】 株式投資⑯ 【第26回】 株式投資⑰ 【第27回】 株式投資⑱ 【第28回】 株式投資⑲ 【第29回】 株式投資⑳ 【第30回】 総括										
成績評価の方法	ゼミへの積極的な関与(40%)、報告(30%)・レポートの内容(30%)等により、総合評価する。										
フィードバックの内容	ゼミに関する質問・相談は、随時、受付ける。										
教科書	適宜、指示する。										
指定図書	適宜、指示する。										
参考書	適宜、指示する。										
教員からのお知らせ	ゼミ合宿(実施の有無も含め、時期等は未定)等、ゼミ生と教員の全員で運営する。また、与えられた分担は責任をもって果たすこと。										
オフィスアワー	ゼミに関する質問・相談は、メールまたは電話で受付ける。										
アクティブラーニングの内容	事前に、オンライン教材の視聴を行う等、対面の授業の前に、学習すべきことがあることに留意されたい。										
その他	金融論等、受講・聴講するのが望ましい授業は、別途、指示する。 ゼミⅠとゼミⅡの受講生は、相互に、聴講するものとする。										

講義コード	11C0125727	授業形態	演習	抽選の有無	あり	担当教員		開講期	
科目名	ゼミナールⅠ(ホームマン)					ホームマン 由佳		通年	
履修前提条件					備考				
授業の目的	現代のグローバル社会に求められる英語力をめざして、特定のテーマについてさまざまな視点から考える力を養い、英語で自分の考えを発信する能力を高めることを目標にする。前半はプレゼンテーションの準備から実施までのプロセスを習得し、後半はプレゼンテーションスキルを磨くことを目的とする。								
到達目標	日常的なテーマの中から自分が主張したいトピックを取り上げて深く考え、関連資料の情報収集をし、英語の原稿のアウトラインを作成し、それに基づいて英文原稿をおこし、説得力のあるプレゼンテーションを完成することができる。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	教室で行う授業は、ひとりひとりが授業外活動でおこなった成果を共有しあう能動的学習の場である。ゼミ生全員で決めた年間計画に沿って各自が担当分の作業を行う。 授業外学修は120時間以上を要する。毎回、ゼミの内容の予習、復習を行うこと。								
授業計画	<p>【第1回】 授業概要</p> <p>【第2回】 英語でプレゼンテーションするために</p> <p>【第3回】 テーマ選定 (ブレインストーミング、情報収集)</p> <p>【第4回】 アウトライン作成</p> <p>【第5回】 スピーチ原稿作成</p> <p>【第6回】 スピーチ原稿校正</p> <p>【第7回】 個人プレゼンテーション</p> <p>【第8回】 テーマ選定 (ブレインストーミング、情報収集)</p> <p>【第9回】 テーマに関するディスカッション</p> <p>【第10回】 アウトライン作成</p> <p>【第11回】 スピーチ原稿作成</p> <p>【第12回】 スピーチ原稿校正</p> <p>【第13回】 リハーサル</p> <p>【第14回】 グループプレゼンテーション大会</p> <p>【第15回】 まとめ、振り返り</p> <p>【第16回】 フォーマルなプレゼンテーションとは</p> <p>【第17回】 テーマごとの資料収集、ディスカッション (1)</p> <p>【第18回】 テーマごとの資料収集、ディスカッション (2)</p> <p>【第19回】 テーマごとの資料収集、ディスカッション (3)</p> <p>【第20回】 アウトライン作成 (1)</p> <p>【第21回】 アウトライン作成 (2)</p> <p>【第22回】 スピーチ原稿作成 (1)</p> <p>【第23回】 スピーチ原稿作成 (2)</p> <p>【第24回】 個人プレゼンテーション</p> <p>【第25回】 資料収集、ディスカッション、スピーチ原稿作成 (1)</p> <p>【第26回】 資料収集、ディスカッション、スピーチ原稿作成 (2)</p> <p>【第27回】 資料収集、ディスカッション、スピーチ原稿作成 (3)</p> <p>【第28回】 リハーサル</p> <p>【第29回】 ゼミⅠプレゼンテーション大会</p> <p>【第30回】 ゼミⅡ合同ゼミ：プレゼンテーション大会</p> <p>【第31回】 まとめ、振り返り</p>								
成績評価の方法	ゼミ活動の姿勢 (10%)、プレゼン準備のディスカッション (10%)、スピーチ原稿などの提出物 (30%)、プレゼンのパフォーマンス (50%)								
フィードバックの内容	課題に対する講評を授業内で行う。								
教科書									
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ	半期に1, 2回、プレゼンテーション実施日などにゼミⅠとゼミⅡ合同で行う (水曜5限)								
オフィスアワー	金2限								
アクティビティの内容	ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション								
その他									

講義コード	11C0125728	授業形態	演習	抽選の有無	あり	担当教員		開講期	
科目名	ゼミナールⅠ(宮岡)				宮岡 暁		通年		
履修前条件					備考				
授業の目的	以下の2つに取り組みます。1つは、興味のある環境関連のテーマについての調査および発表です。環境問題に関する知識を習得するとともに、プレゼン能力を養うことが目標です。 もう1つは、Excelなどのソフトウェアを使ったデータ分析の学修です。実際にソフトウェアを操作しながら演習形式で学びます。ゼミナールⅡで取り組むグループ研究を見据えて、正しい手法でデータを整理・分析できるようになることが目標です。								
到達目標	①環境経済学や環境問題に関する基礎的な事項について正しく説明できる ②PowerPointによる資料作成や発表ができる ③ペアあるいはグループで協力しながら、調査や発表準備を行うことができる ④Excelや専用のソフトウェアを使って正しい手法でデータを分析し、分析結果を正しく読み取ることができる								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	発表の準備を行う際は、書籍やインターネットなどを利用して情報収集を行い、丁寧な資料作成を行うことが求められます。データ分析の学修では、実際に自分の手でデータの整理や分析を行い、その結果を提出してもらいます。こうした発表の準備や課題への取り組みなどで、計120時間以上の授業外学修が必要となります。								
授業計画	【第1回】 ガイダンス／自己紹介／Eメールの使い方 【第2回】 資料作成について 【第3回】 データ分析（実証分析とは） 【第4回】 データ分析（データの整理①） 【第5回】 データ分析（データの整理②） 【第6回】 環境問題についての発表 【第7回】 データ分析（単回帰分析①） 【第8回】 データ分析（単回帰分析②） 【第9回】 データ分析（対数の利用） 【第10回】 環境問題についての発表 【第11回】 データ分析（有意性検定） 【第12回】 データ分析（gretlの使い方） 【第13回】 データ分析（重回帰分析①） 【第14回】 環境問題についての発表 【第15回】 データ分析（重回帰分析②） 【第16回】 データ分析（二次関数の利用） 【第17回】 データ分析（ダミー変数①） 【第18回】 データ分析（ダミー変数②） 【第19回】 環境問題についての発表 【第20回】 データ分析（線形確率モデル） 【第21回】 データ分析（欠落変数バイアス） 【第22回】 環境問題についての発表 【第23回】 データ分析（パネルデータ分析①） 【第24回】 データ分析（パネルデータ分析②） 【第25回】 データ分析（ランダム化比較試験） 【第26回】 データ分析（マッチング法①） 【第27回】 環境問題についての発表 【第28回】 データ分析（マッチング法②） 【第29回】 データ分析（差の差分分析①） 【第30回】 データ分析（差の差分分析②）								
成績評価の方法	※学生の理解度や発表準備の状況に応じて、変更する場合があります。 ゼミナールへの取り組み姿勢（40%）、プレゼンテーション（30%）、課題提出（30%）に基づいて評価を行います。								
フィードバックの内容	プレゼンテーションや課題に対する講評を授業の中で行います。								
教科書									
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ	授業内で使用する教科書や参考書については、授業中に指示します。 普段の教室での授業に加えて、環境問題に関連する施設の見学会も実施する予定です。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、下記にて受け付けます： ○学部学科にて定めるオフィスアワー ○Microsoft Teamsのチャット機能 ○メール								
アクティブラーニングの内容	ゼミナール								
その他									

講義コード	11C0125729	授業形態	演習	抽選の有無	あり	担当教員	宮川 幸三	開講期	通年
科目名	ゼミナール I (宮川)				宮川 幸三			通年	
履修前提条件					備考				
授業の目的	本ゼミナールの目標は、経済データを用いて正しい手法で実証分析を行う技能を身につけることである。経済の実証分析とは、経済データを使って経済理論を検証することであり、そのためには分析手法だけでなく経済理論についての理解も不可欠である。ゼミナール I では、統計データを用いた分析の手法を学ぶとともに、経済に関連するテーマについてディベート等を行うことによって経済理論に対する理解を深める。								
到達目標	経済データを用いて適切な方法で分析を行うことができる。 効果的なプレゼンテーションを行うことができる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	この科目では、120時間以上の授業外学修を行うこと。 授業外学修では、与えられた課題と次回内容の準備を行うこと。								
授業計画	【第1回】 ガイダンス (1) 【第2回】 デイベート (1) 【第3回】 単回帰分析 (講義) (1) 【第4回】 デイベート (2) 【第5回】 単回帰分析 (講義) (2) 【第6回】 デイベート (3) 【第7回】 単回帰分析 (グループワーク) (1) 【第8回】 デイベート (4) 【第9回】 単回帰分析 (グループワーク) (2) 【第10回】 デイベート (5) 【第11回】 単回帰分析 (グループワーク) (3) 【第12回】 デイベート (6) 【第13回】 単回帰分析 (プレゼンテーション) (1) 【第14回】 単回帰分析 (プレゼンテーション) (2) 【第15回】 第1期のまとめ				【第16回】 ガイダンス (2) 【第17回】 重回帰分析基礎 (講義) (1) 【第18回】 重回帰分析基礎 (グループワーク) (1) 【第19回】 デイベート (7) 【第20回】 重回帰分析基礎 (プレゼンテーション) (1) 【第21回】 重回帰分析基礎 (プレゼンテーション) (2) 【第22回】 デイベート (8) 【第23回】 重回帰分析応用 (講義) (1) 【第24回】 重回帰分析応用 (講義) (2) 【第25回】 デイベート (9) 【第26回】 重回帰分析応用 (グループワーク) (1) 【第27回】 重回帰分析応用 (グループワーク) (2) 【第28回】 重回帰分析応用 (プレゼンテーション) (1) 【第29回】 重回帰分析応用 (プレゼンテーション) (2) 【第30回】 全体まとめ				
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢 (50%)、授業中に行うプレゼンテーションやディベートの内容 (50%) によって評価する。								
フィードバックの内容	課題に対する講評を授業時に行う。								
教科書									
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ									
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、講義案内で示したオフィスアワーにおいて受付ける。								
アクティブラーニングの内容	意見共有、ディベート、グループ・ワーク、プレゼンテーション、演習								
その他									

講義コード	11C0125730	授業形態	演習	抽選の有無	あり	担当教員	村田 啓子	開講期	通年
科目名	ゼミナール I (村田)				村田 啓子			通年	
履修前提条件					備考				
授業の目的	本演習では、日本経済を理解する上で重要度の高い各種統計データについて学修した上で、日本経済の現況及び課題について学びます。現実の日本経済の動向を理解するとともに、実施された政策や問題点についても学修することを通じ、一人一人の学生が、実体経済について自らの問題意識を持ちつつ主体的に考え、卒業後の将来においても役立つ能力を養うことを目指します。								
到達目標	日本経済を理解するために必要なデータ・統計及びその見方に関する専門知識を習得するとともに、日本経済について自ら考える力を修得する。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	演習で与えられた課題について予習を行い、疑問点があったら友人と議論しましょう。自分が発表の時にはレジュメを作成し余裕をもちつつ発表の準備をしましょう。演習後は、演習で学び、議論した内容を理解できているか復習・確認しましょう (授業外で計120時間以上)。								
授業計画	【第1回】 概論 (イントロダクション) 【第2回】 日本経済・データ分析の学修1・討論 【第3回】 日本経済・データ分析の学修2・討論 【第4回】 日本経済・データ分析の学修3・討論 【第5回】 日本経済・データ分析の学修4・討論 【第6回】 日本経済・データ分析の学修5・討論 【第7回】 日本経済・データ分析の学修6・討論 【第8回】 日本経済・データ分析の学修7・討論 【第9回】 日本経済・データ分析の学修8・討論 【第10回】 日本経済・データ分析の学修9・討論 【第11回】 日本経済・データ分析の学修10・討論 【第12回】 日本経済・データ分析の学修11・討論 【第13回】 日本経済・データ分析の学修12・討論 【第14回】 日本経済・データ分析の学修13・討論 【第15回】 今後のゼミナール活動に関する検討・討論				【第16回】 概論 (イントロダクション) 2 【第17回】 日本経済・データ分析の学修14・討論 【第18回】 日本経済・データ分析の学修15・討論 【第19回】 日本経済・データ分析の学修16・討論 【第20回】 日本経済・データ分析の学修17・討論 【第21回】 日本経済・データ分析の学修18・討論 【第22回】 日本経済・データ分析の学修19・討論 【第23回】 日本経済・データ分析の学修20・討論 【第24回】 日本経済・データ分析の学修21・討論 【第25回】 日本経済・データ分析の学修22・討論 【第26回】 日本経済・データ分析の学修23・討論 【第27回】 日本経済・データ分析の学修24・討論 【第28回】 日本経済・データ分析の学修25・討論 【第29回】 日本経済・データ分析の学修26・討論 【第30回】 今後のゼミナール活動に関する検討・討論				
成績評価の方法	ゼミナール活動への取り組み姿勢 (20%)、報告時の内容とプレゼンテーション (40%)、グループ研究での貢献度 (40%)。								
フィードバックの内容	報告、プレゼンテーション、討論の内容についてコメントを行います。								
教科書									
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ	テキストは、演習内で相談の上決定します。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部学科にて定めるオフィスアワーにて受け付けます (事前にメールで連絡すること)。								
アクティブラーニングの内容	報告、プレゼンテーション、討論の内容についてフィードバックを行います。								
その他									

講義コード	11C0125732	授業形態	演習	抽選の有無	あり	担当教員		開講期	
科目名	ゼミナールⅠ(山口)					山口 和男		通年	
履修前条件				備考					
授業の目的	経済学の基礎にあたるマイクロ経済学を修めることを目的とする。								
到達目標	完全競争について説明できる。市場の失敗について説明できる。マイクロ経済学を使って経済現象を説明できる。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	毎回報告準備を行うこと。 授業外に計120時間以上の学修を行うこと。								
授業計画	<p>【第1回】 ガイダンス</p> <p>【第2回】 ミクロ経済学の教科書を輪読</p> <p>【第3回】 ミクロ経済学の教科書を輪読</p> <p>【第4回】 ミクロ経済学の教科書を輪読</p> <p>【第5回】 ミクロ経済学の教科書を輪読</p> <p>【第6回】 ミクロ経済学の教科書を輪読</p> <p>【第7回】 ミクロ経済学の教科書を輪読</p> <p>【第8回】 ミクロ経済学の教科書を輪読</p> <p>【第9回】 ミクロ経済学の教科書を輪読</p> <p>【第10回】 ミクロ経済学の教科書を輪読</p> <p>【第11回】 ミクロ経済学の教科書を輪読</p> <p>【第12回】 ミクロ経済学の教科書を輪読</p> <p>【第13回】 ミクロ経済学の教科書を輪読</p> <p>【第14回】 ミクロ経済学の教科書を輪読</p> <p>【第15回】 ミクロ経済学の教科書を輪読</p> <p>【第16回】 ミクロ経済学の教科書を輪読</p> <p>【第17回】 ミクロ経済学の教科書を輪読</p> <p>【第18回】 ミクロ経済学の教科書を輪読</p> <p>【第19回】 ミクロ経済学の教科書を輪読</p> <p>【第20回】 ミクロ経済学の教科書を輪読</p> <p>【第21回】 ミクロ経済学の教科書を輪読</p> <p>【第22回】 ミクロ経済学の教科書を輪読</p> <p>【第23回】 ミクロ経済学の教科書を輪読</p> <p>【第24回】 ミクロ経済学の教科書を輪読</p> <p>【第25回】 ミクロ経済学の教科書を輪読</p> <p>【第26回】 ミクロ経済学の教科書を輪読</p> <p>【第27回】 ミクロ経済学の教科書を輪読</p> <p>【第28回】 ミクロ経済学の教科書を輪読</p> <p>【第29回】 ミクロ経済学の教科書を輪読</p> <p>【第30回】 ミクロ経済学の教科書を輪読</p>								
成績評価の方法	報告（100％）による。								
フィードバックの内容									
教科書	『ミクロ経済学 第3版』伊藤元重（日本評論社）2018、『ミクロ経済学をつかむ』神戸伸輔 濱田弘潤 寶多康弘（有斐閣）2006								
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ									
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部学科にて定めるオフィスアワーにて受け付けます。								
アクティブラーニングの内容	ゼミナール								
その他									

講義コード	11C0125733	授業形態	演習	抽選の有無	あり	担当教員		開講期	
科目名	ゼミナール I (吉田)				吉田 友美		通年		
履修前条件					備考				
授業の目的	ゼミナール I では次の3つを実施します。 1. 環境経済学のテキストの輪読 2. フィールドワークの参加 3. フィールドワークで得られたデータの統計処理 以上によりゼミ生には、わかりやすい資料作りによって他人を説得する力や、論理的思考力、およびコミュニケーション力を身につけてほしいと思います。								
到達目標	1. 説得的な資料作成ができる 2. 論理手に物事を考えられるようになる 3. コミュニケーション能力を身につける								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	講義およびグループワークによる作業や議論が中心となるため、データ収集や資料のとりまとめなど、各自の分担作業については授業時間外に行う必要がある。それらの作業に関して計120時間以上の授業外学修を実施することを推奨する。また、所定の授業時間以外に、単位取得上必須となる学外での現地調査を実施する。								
授業計画	【第1期】 【第1回】 導入 【第2回】 輪読 (学生による発表および教員のコメント) 【第3回】 輪読 (学生による発表および教員のコメント) 【第4回】 輪読 (学生による発表および教員のコメント) 【第5回】 輪読 (学生による発表および教員のコメント) 【第6回】 輪読 (学生による発表および教員のコメント) 【第7回】 輪読 (学生による発表および教員のコメント) 【第8回】 輪読 (学生による発表および教員のコメント) 【第9回】 輪読 (学生による発表および教員のコメント) 【第10回】 輪読 (学生による発表および教員のコメント) 【第11回】 輪読 (学生による発表および教員のコメント) 【第12回】 輪読 (学生による発表および教員のコメント) 【第13回】 輪読 (学生による発表および教員のコメント) 【第14回】 輪読 (学生による発表および教員のコメント) 【第15回】 総括 【第2期】 【第1回】 導入 【第2回】 データ入力 【第3回】 データ入力 【第4回】 データ入力 【第5回】 統計処理 【第6回】 統計処理 【第7回】 統計処理 【第8回】 統計処理 【第9回】 プレゼンテーションのための資料・レポート作成 【第10回】 プレゼンテーションのための資料・レポート作成 【第11回】 プレゼンテーションのための資料・レポート作成 【第12回】 プレゼンテーションのための資料・レポート作成 【第13回】 プレゼンテーションのための資料・レポート作成 【第14回】 プレゼンテーション 【第15回】 総括								
成績評価の方法	課題 100%								
フィードバックの内容	課題やプレゼンテーションの出来について、授業中に講評する。								
教科書	授業中に指示								
指定図書	『入門 自然資源経済学』バリー・C・フィールド (日本評論社) 2016年								
参考書									
教員からのお知らせ									
オフィスアワー	木曜5限 ただし、必ず事前にメールでアポイントメントをとること。 メールアドレスは授業中に指示します								
アクティブラーニングの内容 その他	本講義はゼミ形式で実施します。								

講義コード	11C0125734	授業形態	演習	抽選の有無	あり	担当教員		開講期	
科目名	ゼミナールⅠ(渡部)				渡部 真弘		通年		
履修前提条件					備考				
授業の目的	経済問題や社会問題の本質を明確に捉えるために必要なマイクロ経済学的視点と分析能力を培うことを目的とする。各自の問題意識に基づく成果を集約したレポートを提出することを目的とする。								
到達目標	(1) 企業の経営戦略を考える問題や組織・制度の在り方を考える問題といった題材を、マイクロ経済的な視点で論理的に考察することが可能となる。 (2) 分かりやすい資料作成や発表の技術が身につく。 (3) 他者の発表に対して積極的に質問することができるように聴く姿勢が身につく。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	課題に関連する文献の内容把握や発表の準備に加えて、期末試験の代替として課されるレポート作成に向けて、週に少なくとも4時間(計120時間以上)の授業時間外の学修が必要である。								
授業計画	<p>【第1回】第1期の活動に関するオリエンテーション、個々の学生の興味・関心の把握</p> <p>【第2回】文献輪読、学生による発表(1-1)</p> <p>【第3回】文献輪読、学生による発表(1-2)</p> <p>【第4回】文献輪読、学生による発表(1-3)</p> <p>【第5回】文献輪読、学生による発表(1-4)</p> <p>【第6回】文献輪読、学生による発表(1-5)</p> <p>【第7回】文献輪読、学生による発表(1-6)</p> <p>【第8回】文献輪読、学生による発表(1-7)</p> <p>【第9回】文献輪読、学生による発表(1-8)</p> <p>【第10回】文献輪読、学生による発表(1-9)</p> <p>【第11回】文献輪読、学生による発表(1-10)</p> <p>【第12回】文献輪読、学生による発表(1-11)</p> <p>【第13回】文献輪読、学生による発表(1-12)</p> <p>【第14回】文献輪読、学生による発表(1-13)</p> <p>【第15回】第1期の振り返り</p> <p>【第16回】第2期の活動に関するオリエンテーション</p> <p>【第17回】文献輪読、学生による発表(2-1)</p> <p>【第18回】文献輪読、学生による発表(2-2)</p> <p>【第19回】文献輪読、学生による発表(2-3)</p> <p>【第20回】文献輪読、学生による発表(2-4)</p> <p>【第21回】文献輪読、学生による発表(2-5)</p> <p>【第22回】文献輪読、学生による発表(2-6)</p> <p>【第23回】文献輪読、学生による発表(2-7)</p> <p>【第24回】文献輪読、学生による発表(2-8)</p> <p>【第25回】文献輪読、学生による発表(2-9)</p> <p>【第26回】文献輪読、学生による発表(2-10)</p> <p>【第27回】文献輪読、学生による発表(2-11)</p> <p>【第28回】文献輪読、学生による発表(2-12)</p> <p>【第29回】文献輪読、学生による発表(2-13)</p> <p>【第30回】第2期の振り返り</p>								
成績評価の方法	評価割合は、各授業回の事前準備への取り組み姿勢40%、他者の発表に対する評価(レフェリーレポート)10%、第1期における中間報告20%、第2期における最終報告(レポート)30%とする。 グループワークでは自分の担当箇所以外には関与しない傾向があるため、2024年度は、基本的には個人での提出物や発表の内容を成績評価の対象とする。								
フィードバックの内容	提出物や発表に対して講評を行う。								
教科書									
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ	レポート作成や発表資料作成に欠かせない Microsoft Word・Excel・PowerPoint や Latex といった各種ソフトウェアの操作については適宜指導する。授業に係る連絡や資料配布は、Microsoft Teams を通じて行う。								
オフィスアワー	オフィスアワー：木曜日3時限、2号館516研究室 本科目に関する質問は Microsoft Teams のチャット機能で随時受け付ける。								
アクティブラーニングの内容	(1) 教員からのフィードバックによる振り返り：提出物や発表に対して講評を行う。 (2) 能動的な授業外学修：図書館のデータベースの活用								
その他	(1) MOSのような検定資格取得に向けた授業をするように脅迫されたことがあるが、Ph.D.を取得していなくても教えられるものはゼミナールで扱わない。シラバスに沿って学生を指導する。 (2) ゼミナール大会・ゼミナール協議会にかかわる事項は教授会審議事項ではないため、シラバスにおいて事前に義務化する内容を確認することが困難である。学生の自己責任の範囲でかかわること。								

講義コード	11C0125736	授業形態	演習	抽選の有無	あり	担当教員		開講期	
科目名	ゼミナールⅡ(王ゼイ)				王ゼイ		通年		
履修前提条件					備考				
授業の目的	マクロ経済学を中心に、経済学の理論知識及び実証スキルを学んでいきます。このゼミでは、マクロ経済学の学習と同時に、ドキュメンテーション・プレゼンテーション能力を高めて、数学・プログラミング・統計・データ分析の知識とスキルを身につけることを目指します。								
到達目標	<p>学生はこの講義の履修を通じて、以下の目的を達成できる。</p> <p>①マクロ経済学をより深く理解できる。</p> <p>②簡単なマクロ経済モデルを作成して、シミュレーションを行うことができる。</p> <p>③上記の目的を達成するために、必要な数学、統計学及びプログラミング能力を身につけることができる。</p>								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	指定された教科書の予習と復習及び課題と発表の準備を行ってください。週に少なくとも4時間(計120時間以上)の自主的な学修が必要である。								
授業計画	<p>【第1回】ガイダンス</p> <p>【第2回】輪読及び発表1</p> <p>【第3回】輪読及び発表2</p> <p>【第4回】輪読及び発表3</p> <p>【第5回】輪読及び発表4</p> <p>【第6回】輪読及び発表5</p> <p>【第7回】輪読及び発表6</p> <p>【第8回】輪読及び発表7</p> <p>【第9回】輪読及び発表8</p> <p>【第10回】輪読及び発表9</p> <p>【第11回】輪読及び発表10</p> <p>【第12回】輪読及び発表11</p> <p>【第13回】輪読及び発表12</p> <p>【第14回】輪読及び発表13</p> <p>【第15回】輪読及び発表14</p> <p>【第16回】輪読及び発表15</p> <p>【第17回】輪読及び発表16</p> <p>【第18回】輪読及び発表17</p> <p>【第19回】輪読及び発表18</p> <p>【第20回】輪読及び発表19</p> <p>【第21回】輪読及び発表20</p> <p>【第22回】輪読及び発表21</p> <p>【第23回】輪読及び発表22</p> <p>【第24回】輪読及び発表23</p> <p>【第25回】輪読及び発表24</p> <p>【第26回】輪読及び発表25</p> <p>【第27回】輪読及び発表26</p> <p>【第28回】輪読及び発表27</p> <p>【第29回】輪読及び発表28</p> <p>【第30回】まとめ</p>								
成績評価の方法	発表(50%)及び課題(50%)により、評価を行う。								
フィードバックの内容	この科目では、授業用のチームが立ち上げられ、履修者全員に授業用チームに参加していただくことになっている。授業用チームの参加方法は初回の授業時に説明する。事前にMicrosoft OutlookとTeamsのアプリを所持の端末にインストールしておいて、使用できるような状態にしてください。授業時間外では、授業に関するお知らせ、資料配布、フィードバック等はすべてMicrosoft Teamsを通じて行われる。課題の提出はWebClassを利用する。								
教科書									
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ	ノートパソコンを持参してください。								
オフィスアワー	Teamsのチャット機能、Microsoft 365のメール(大学から付与されたメールアドレス)などで、予め教員と連絡を取ってください。								
アクティブラーニングの内容 その他	ゼミナール大会での発表へ向けて、教員の指導のもとで、問題解決学習・プレゼンテーションを学生に行ってもらおう。								

講義コード	11C0125737	授業形態	演習	抽選の有無	あり	担当教員		開講期																																																													
科目名	ゼミナールⅡ(戎野)				戎野 淑子		通年																																																														
履修前提条件					備考																																																																
授業の目的	「労働」に関する基礎知識を基盤に、興味関心あるテーマを選ぶ。そのテーマについて、文献研究、ならびに討論を実施する。そこでは、プレゼンテーションの能力を身につけ、自分の意見を正確に伝え、積極的に議論を行うことができるようになってほしい。																																																																				
到達目標	労働経済学の基礎知識を基盤に、様々なテーマについて自分の意見をまとめ、議論を行うことができる。																																																																				
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	課題を行う 上記に示した授業外の学修は、120時間以上を目安に行うこと。																																																																				
授業計画	<table border="0"> <tr> <td>【第1回】</td> <td>ガイダンス：ゼミの進め方を説明し、今後の予定を相談のうえ決める</td> <td>【第16回】</td> <td>後期の予定を決める</td> </tr> <tr> <td>【第2回】</td> <td>テーマを定める</td> <td>【第17回】</td> <td>グループディスカッション3</td> </tr> <tr> <td>【第3回】</td> <td>グループディスカッション1</td> <td>【第18回】</td> <td>グループディスカッション4</td> </tr> <tr> <td>【第4回】</td> <td>グループディスカッション2</td> <td>【第19回】</td> <td>グループワーク6</td> </tr> <tr> <td>【第5回】</td> <td>グループワーク1</td> <td>【第20回】</td> <td>グループワーク7</td> </tr> <tr> <td>【第6回】</td> <td>グループワーク2</td> <td>【第21回】</td> <td>グループワーク8</td> </tr> <tr> <td>【第7回】</td> <td>グループワーク3</td> <td>【第22回】</td> <td>プレゼンテーション1</td> </tr> <tr> <td>【第8回】</td> <td>グループワーク4</td> <td>【第23回】</td> <td>プレゼンテーション2</td> </tr> <tr> <td>【第9回】</td> <td>グループワーク5</td> <td>【第24回】</td> <td>プレゼンテーション3</td> </tr> <tr> <td>【第10回】</td> <td>中間発表</td> <td>【第25回】</td> <td>プレゼンテーション（ゼミ大会、合同ゼミなど）4</td> </tr> <tr> <td>【第11回】</td> <td>レポート作成1</td> <td>【第26回】</td> <td>グループワーク9</td> </tr> <tr> <td>【第12回】</td> <td>レポート作成2</td> <td>【第27回】</td> <td>グループワーク10</td> </tr> <tr> <td>【第13回】</td> <td>レポート作成3</td> <td>【第28回】</td> <td>プレゼンテーション（ゼミ大会、合同ゼミなど）5</td> </tr> <tr> <td>【第14回】</td> <td>レポート作成4</td> <td>【第29回】</td> <td>レポート作成5</td> </tr> <tr> <td>【第15回】</td> <td>発表</td> <td>【第30回】</td> <td>レポート作成6</td> </tr> </table>									【第1回】	ガイダンス：ゼミの進め方を説明し、今後の予定を相談のうえ決める	【第16回】	後期の予定を決める	【第2回】	テーマを定める	【第17回】	グループディスカッション3	【第3回】	グループディスカッション1	【第18回】	グループディスカッション4	【第4回】	グループディスカッション2	【第19回】	グループワーク6	【第5回】	グループワーク1	【第20回】	グループワーク7	【第6回】	グループワーク2	【第21回】	グループワーク8	【第7回】	グループワーク3	【第22回】	プレゼンテーション1	【第8回】	グループワーク4	【第23回】	プレゼンテーション2	【第9回】	グループワーク5	【第24回】	プレゼンテーション3	【第10回】	中間発表	【第25回】	プレゼンテーション（ゼミ大会、合同ゼミなど）4	【第11回】	レポート作成1	【第26回】	グループワーク9	【第12回】	レポート作成2	【第27回】	グループワーク10	【第13回】	レポート作成3	【第28回】	プレゼンテーション（ゼミ大会、合同ゼミなど）5	【第14回】	レポート作成4	【第29回】	レポート作成5	【第15回】	発表	【第30回】	レポート作成6
【第1回】	ガイダンス：ゼミの進め方を説明し、今後の予定を相談のうえ決める	【第16回】	後期の予定を決める																																																																		
【第2回】	テーマを定める	【第17回】	グループディスカッション3																																																																		
【第3回】	グループディスカッション1	【第18回】	グループディスカッション4																																																																		
【第4回】	グループディスカッション2	【第19回】	グループワーク6																																																																		
【第5回】	グループワーク1	【第20回】	グループワーク7																																																																		
【第6回】	グループワーク2	【第21回】	グループワーク8																																																																		
【第7回】	グループワーク3	【第22回】	プレゼンテーション1																																																																		
【第8回】	グループワーク4	【第23回】	プレゼンテーション2																																																																		
【第9回】	グループワーク5	【第24回】	プレゼンテーション3																																																																		
【第10回】	中間発表	【第25回】	プレゼンテーション（ゼミ大会、合同ゼミなど）4																																																																		
【第11回】	レポート作成1	【第26回】	グループワーク9																																																																		
【第12回】	レポート作成2	【第27回】	グループワーク10																																																																		
【第13回】	レポート作成3	【第28回】	プレゼンテーション（ゼミ大会、合同ゼミなど）5																																																																		
【第14回】	レポート作成4	【第29回】	レポート作成5																																																																		
【第15回】	発表	【第30回】	レポート作成6																																																																		
成績評価の方法	学期末のレポート（40%）、プレゼンテーション（40%）と、授業での発表、討論（20%）により評価する。																																																																				
フィードバックの内容	フィードバックは次回の授業までに行う																																																																				
教科書																																																																					
指定図書																																																																					
参考書																																																																					
教員からのお知らせ																																																																					
オフィスアワー	水曜日お昼休み																																																																				
アクティブラーニングの内容	毎回、課題を行い、そのフィードバックを次回実施する。																																																																				
その他																																																																					

講義コード	11C0125738	授業形態	演習	抽選の有無	あり	担当教員	苑 志佳	開講期	通年
科目名	ゼミナールⅡ(苑)						苑 志佳	通年	
履修前条件					備考				
授業の目的	苑ゼミⅡは、中国経済を中心に研究する。具体的には、数冊の著書を教材とし、中国経済の現状と行方、現在の中国経済の諸問題点に焦点を合わせて勉強する。ゼミ諸君には、ゼミⅠの時に身に着けたテクニックを活用し、活発な討論を行ってもらう。また、レベルの高いプレゼンテーションと問題提起が期待される。ゼミ運営は、従来通りにゼミ生を中心として行われるが、教員は側面からサポートする。								
到達目標	本ゼミを通じ学生は、中国経済全般に関する知識をマスターすることができる。推薦図書を読んだことによって中国経済発展のメカニズムおよび世界経済との関係などをより深く理解することができる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	<ol style="list-style-type: none"> この科目では、120時間以上の授業外学修を行うこと。 毎週の授業終了後に参考文献や予習資料などを指定するので、これを予習する。 授業時に配布される教材や資料を復習し、次回の授業時に問題提起を考える。 授業の予定テーマに関連する資料を自ら収集し、これを持って授業討論に臨む。 								
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> 【第1回】 前期イントロダクション 【第2回】 今日の中国経済の課題 【第3回】 地域経済——開発政策の展開と実態 【第4回】 人口減少時代の到来とその影響 【第5回】 都市化の推進と抑制 【第6回】 農業・農村問題の現状と課題 【第7回】 これからの中国経済はどうなるか——経済成長の予測 【第8回】 西洋の価値観の挑戦を受ける中国 【第9回】 イノベーションと知的財産権 【第10回】 デジタル・イノベーション——プラットフォーム経済の進展と展望 【第11回】 デジタル人民元の現状と展望 【第12回】 新たな経済発展の起爆剤として期待される新インフラ 【第13回】 自動車産業の発展と新エネルギー車戦略 【第14回】 半導体産業の動向——米中対立下における国産化の試み 【第15回】 中国経済の軌跡・展望 【第16回】 後期イントロダクション 【第17回】 中国企業「走出去」の課題 【第18回】 中国の多国籍企業——その型と特徴 【第19回】 ASEANに進出する中国多国籍企業——時系列から見た中国の直接投資の変化とその意味 【第20回】 ASEAN家電市場に進出する中国企業 【第21回】 ASEAN自動車市場に進出する中国企業 【第22回】 日本に進出する中国企業 【第23回】 ラテンアメリカに進出する中国多国籍企業の特徴 【第24回】 アメリカに進出する中国企業 【第25回】 ヨーロッパに進出する中国企業 【第26回】 オーストラリアに進出する中国企業の動機 【第27回】 オーストラリアに進出する中国企業のパフォーマンス 【第28回】 アフリカに進出する中国企業 【第29回】 世界に進出する中国型多国籍企業とそのインパクト 【第30回】 総括 								
成績評価の方法	<ol style="list-style-type: none"> 学習態度50% プレゼン30% 討論参加20% 								
フィードバックの内容	毎週のプレゼン課題、テーマに対する講評を翌週授業内冒頭にて行う。								
教科書	『高所得時代の中国経済を読み解く』丸川知雄他（東京大学出版会）2022年								
指定図書	『3.世界進出する中国型多国籍企業』苑志佳（創成社）2023年								
参考書	『中国の経済改革と発展の展望』蔡昉（現代史料出版）2020年								
教員からのお知らせ	教員からのお知らせ 上記の教科書は、必ず使用するものなので、事前に入手し予習して下さい。また、自分が興味を持つ章があれば、メール等で事前に教員へ連絡すれば、事前に手配する用意がある。								
オフィスアワー	<ul style="list-style-type: none"> －月曜日3限 －品川キャンパス2号館508室 －事前に<0918@ris.ac.jp>に連絡すること 								
アクティブラーニングの内容その他	意見共有、能動的な授業外学修など								

講義コード	11C0125739	授業形態	演習	抽選の有無	あり	担当教員		開講期	
科目名	ゼミナールⅡ(王在喆)				王 在喆		通年		
履修前条件					備考				
授業の目的	本授業はグローバルの視点により問題発見・問題解決のための手法を受講生に習得してもらうことを目標としている。このため、日中両国産業構造の比較研究をこのゼミⅡの研究課題とすることを予定している。具体的には、戦後日本経済の成長パターンと対比しながら、「改革・開放」以降の中国経済の成長パターンを経済成長と経済発展の視点によって数量的に析出することである。まず、産業連関分析の理論および産業連関表の読み方を勉強する。次に Excel などを使って、産業連関分析を習得する。その上で、日中両国の産業連関関係を計量分析する。その成果をゼミナール論文にとりまとめる。上述以外の研究課題について受講生と相談して決めることも可能である。								
到達目標	①産業連関理論と産業連関表の読み方を勉強することができる。 ②産業連関モデルの計算方法を習得することができる。 ③日中両国経済の変化を構造的に数量分析することができる。 ④グループで研究成果をゼミナール論文にとりまとめることができる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	授業外学修： ①参考文献を読むこと。 ② Excel 関数の操作方法を学習すること。 サブゼミやゼミ合宿などの時間も含めて120時間以上の授業外学修時間が必要になる。								
授業計画	【第1回】 ガイダンス 【第2回】 国民経済計算 (SNA) 1 【第3回】 国民経済計算 (SNA) 2 【第4回】 国民経済計算における産業連関表の位置づけについて 【第5回】 産業連関表の読み方 【第6回】 地域産業連関表 1 【第7回】 地域産業連関表 2 【第8回】 国際産業連関表 【第9回】 中国の産業連関表 【第10回】 産業連関モデル 1 【第11回】 産業連関モデル 2 【第12回】 産業連関モデル 3 【第13回】 産業連関モデル 4 【第14回】 産業連関モデルの計算 1 【第15回】 産業連関モデルの計算 2 【第16回】 産業連関モデルの計算 3 【第17回】 ゼミ論指導 1 【第18回】 ゼミ論指導 2 【第19回】 ゼミ論指導 3 【第20回】 ゼミ論指導 4 【第21回】 ゼミ論指導 5 【第22回】 ゼミ論指導 6 【第23回】 ゼミ論指導 7 【第24回】 ゼミ論指導 8 【第25回】 ゼミナール大会発表準備 1 【第26回】 ゼミナール大会発表準備 2 【第27回】 産業連関論と企業理論 【第28回】 産業連関論とケインズ経済学 【第29回】 産業連関論と外国貿易 【第30回】 予備日								
成績評価の方法	授業への取り組み：20%、授業内発表：50%、論文やレポートの作成など：30%。								
フィードバックの内容	学習の内容や研究の進捗について授業内外で適宜にコメントする。								
教科書									
指定図書									
参考書	『産業連関分析入門』新飯田宏（東洋経済新報社）1978、『中国の経済成長：地域連関と政府の役割』王在喆（慶應義塾大学出版会）2001、『産業連関分析入門：ExcelとVBAでらくらくIO分析』藤川清史（日本評論社）2005、『産業連関分析入門』宮沢健一編（日本経済新聞社）2002、『産業連関論入門：新しい現実分析の理論的背景』森嶋通夫（創文社）1956、『日中連関構造の経済分析』王在喆・宮川幸三・山田光男（勁草書房）2016、『21世紀の資本』トマ・ピケティ〔著〕；山形浩生，守岡桜，森本正史訳（みすず書房）2014.12								
教員からのお知らせ	①教科書は受講生と相談したうで決めたい。 ②「計量経済学」、「経済統計」、「実証経済分析」の同時履修が望ましい。								
オフィスアワー	時間：木曜日6限目（18：00-19：30） 場所：2号棟511研究室（事前連絡：wzz@ris.ac.jp）								
アクティブラーニングの内容その他	ゼミナール、意見共有、能動的な授業外学修など								

講義コード	11C0125741	授業形態	演習	抽選の有無	あり	担当教員		開講期	
科目名	ゼミナールⅡ(小沢奈)				小沢 奈美恵		通年		
履修前提条件					備考				
授業の目的	学内ゼミ大会に向けて、論文の作成と発表の準備を行う。テーマは、ゼミメンバーが選り、現代アメリカの現状を反映したトピックを扱う予定である。英語、日本語の文献やアメリカ映画やニュースなどの映像を用いる。この研究を通じて、アメリカ社会の抱える諸問題を深く掘り下げて理解し、英語で説明できるようにする。								
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. アメリカの現代社会の問題を、映像や文献を読むことを通じて、深く理解し批評できる。 2. アメリカのニュースを視聴したり、アメリカ関連の記事を日本語や英語で読むことでアメリカ理解を深める。 3. グループで討論しながら、論文を完成する。 4. 完成した論文を、分かりやすく人に伝えるプレゼン力をつける。 								
授業外学修内容・授業外学修時間数	<p>この科目では120時間以上の授業外学修を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. テーマに関連した本、雑誌、ニュース、メディア（日本語／英語）を通じてテーマに関連した資料を読み、批評的に考える。 2. 各自分担部分のゼミ論を書いて、夏休み前後で発表の準備を行う。 4. 発表用パワーポイントや発表原稿を作成する。 								
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> 【第1回】 テーマ別に二つのグループに分かれ、文献調査を行う。 【第2回】 文献調査（英語・日本語）と発表1 【第3回】 文献調査（英語・日本語）と発表2 【第4回】 文献調査（英語・日本語）と発表3 【第5回】 文献調査（英語・日本語）と発表4 【第6回】 論文執筆1 【第7回】 論文執筆2 【第8回】 論文執筆3 【第9回】 論文執筆4 【第10回】 論文完成と校正 【第11回】 英語発表原稿とPPT作成1 【第12回】 英語発表原稿とPPT作成2 【第13回】 英語発表原稿とPPT作成3 【第14回】 英語発表原稿とPPT作成4 【第15回】 中間発表 【第16回】 論文とプレゼン用PPTの改良1 【第17回】 論文とプレゼン用PPTの改良2 【第18回】 論文とプレゼン用PPTの改良3 【第19回】 発表練習1 【第20回】 発表練習2 【第21回】 発表練習3 【第22回】 発表練習4 【第23回】 発表練習5 【第24回】 ゼミ大会の反省と論文修正 【第25回】 論文修正 【第26回】 卒論テーマ準備 / アメリカ関連映画・ニュース1 【第27回】 卒論テーマ準備 / アメリカ関連映画・ニュース2 【第28回】 卒論テーマ準備 / アメリカ関連映画・ニュース3 【第29回】 卒論テーマ準備 / アメリカ関連映画・ニュース4 【第30回】 発表とレポート 								
成績評価の方法	発表・参加態度（30％）ゼミ論（50％）課題提出（20％）								
フィードバックの内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. グループ発表にコメントを行い、改善を求めたり、今後調査すべき問題を指摘したり、文献を紹介します。 2. ゼミ論を一人ずつ添削して返却し、修正箇所は、良くなるまで何度も確認します。 3. クラスメイトや教師の感想をフィードバックします。 								
教科書									
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ	連絡はe-mailやラインなどで頻繁に取り合います。教科書や参考書は、ゼミ論のテーマが決まってから図書館のOPACやWebcatなどで検索し調査して、入手します。								
オフィスアワー	金曜4時限のオフィスアワーに314研究室で対応します。予め、メール（ozawa@ris.ac.jp）かLMSでアポイントを取ってください。メールかLMSなどでの相談にも応じます。								
アクティブラーニングの内容	意見共有、能動的な授業外学修、調査学習、グループワーク、グループ・ディスカッション、教員からのフィードバックによる振り返り								
その他									

講義コード	11C0125742	授業形態	演習	抽選の有無	あり	担当教員	小沢 佳史	開講期	通年
科目名	ゼミナールⅡ(小沢佳)								
履修前提条件					備考				
授業の目的	この授業では、「ゼミナールⅠ」での学修を深化させてゆく。より詳しく言えば、この授業の目的は、経済学の歴史をめぐる発展的な知識を身に付けること、そしてそれを通じて、過去の出来事を踏まえ多様な視点から現在の出来事を捉えられるようになること、そのうえで、自分たちの関心事を探究してその成果をわかりやすく表現できるようになることである。そのためにこの授業では、主として経済学の歴史に関する古典を輪読する。								
到達目標	1. 経済学の歴史——現在の経済学が誕生するまでのプロセス——を、自分たちの言葉で詳しく説明できる。 2. 目の前にあるものを、立体的・多面的に説明できる。 3. グループのメンバーと協力して、自分たちの関心事を探究し、その成果を他人へ正確に伝えることができる。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	この科目では、120時間以上の授業外学修を行うこと。授業外学修では、担当者からの指示やフィードバックを参照して、毎回の復習と次回の予習を入念に行うこと。また、大学の図書館などを最大限に活用して、新聞をできる限り毎日読むこと。								
授業計画	<p>【第1回】ガイダンス 【第2回】「ゼミナールⅠ」での学修の振り返り 【第3回】古典の選定 【第4回】調査①——指定図書の該当箇所の確認 【第5回】調査②——古典の概要 【第6回】調査③——報告の準備 【第7回】報告と議論①——第1グループ 【第8回】報告と議論②——第2グループ 【第9回】調査④——古典の精読① 【第10回】調査⑤——古典の精読② 【第11回】調査⑥——古典の精読③ 【第12回】調査⑦——古典の精読④ 【第13回】報告と議論③——第1グループ 【第14回】報告と議論④——第2グループ 【第15回】これまでのまとめ 【第16回】これまでの復習と今後の流れ 【第17回】調査⑧——古典の精読⑤ 【第18回】調査⑨——古典の精読⑥ 【第19回】調査⑩——古典の精読⑦ 【第20回】調査⑪——古典の精読⑧ 【第21回】報告と議論⑤——第1グループ 【第22回】報告と議論⑥——第2グループ 【第23回】調査⑫——古典の精読⑨ 【第24回】調査⑬——古典の精読⑩ 【第25回】調査⑭——古典の精読⑪ 【第26回】調査⑮——古典の精読⑫ 【第27回】報告と議論⑦——第1グループ 【第28回】報告と議論⑧——第2グループ 【第29回】最終報告と議論 【第30回】全体のまとめ</p> <p>※この進度や内容は目安であり、履修者と相談しながら進度や内容を適宜調整する。</p>								
成績評価の方法	報告（50％）と、議論を含む授業への取り組み姿勢（50％）によって評価する。								
フィードバックの内容	報告や議論について、授業内でフィードバックする。								
教科書									
指定図書	『福祉の経済思想家たち 増補改訂版』小峯敦 編（ナカニシヤ出版）2010、『交響する経済学——経済学はどう使うべきか』中村達也 著（筑摩書房）2022、『経済思想』猪木武徳 著（岩波書店）2017、『経済思想入門』松原隆一郎 著（筑摩書房）2016、『写真で見る ヴィクトリア朝ロンドンの都市と生活』アレックス・ワーナー、トニー・ウィリアムズ 著；松尾恭子 訳（原書房）2013、『経済学の名著30』松原隆一郎 著（筑摩書房）2009、『経済学のことば』根井雅弘 著（講談社）2004、『西洋政治思想資料集』杉田敦、川崎修 編著（法政大学出版局）2014、『政治学の名著30』佐々木毅 著（筑摩書房）2007								
参考書	『ソクラテスの弁明』プラトン 著；納富信留 訳（光文社）2012								
教員からのお知らせ	無断で欠席したり遅刻したりすることは、基本的に認められない。								
オフィスアワー	この授業に関する質問・相談は、学部学科で定めるオフィスアワーにて受け付ける。また授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内でも対応する。								
アクティブラーニングの内容 その他	ゼミナール。								

講義コード	11C0125743	授業形態	演習	抽選の有無	あり	担当教員		開講期	
科目名	ゼミナールⅡ(小野崎)				小野崎 保		通年		
履修前提条件					備考				
授業の目的	このゼミでは、ゼミナールⅠで修得した人工社会シミュレーションの手法を用いて、グループワークにより自分たちのオリジナルなシミュレーション・モデルを作成・分析を行う。こうした作業を通じてシミュレーション的な思考を養い、いろいろな社会現象の背後にある本質的なメカニズムを理解する。 第1期には、グループ毎に文献調査やアンケート調査などを通じて研究テーマの骨格を構築する。また、同時にシミュレーション・モデルの開発に着手する。第2期にはシミュレーション・モデルを完成させモデルを用いた分析を行い、最終的には論文としてまとめゼミナール大会で発表を行う。								
到達目標	(1) 人工社会シミュレーションの意義や方法について深く理解できる。 (2) 自分の問題意識に沿ってテーマ設定をし、人工社会シミュレーションを用いてそのテーマについて研究することができる。 (3) 社会現象の背後にある本質的なメカニズムについて自ら仮説を立てて考えることができるようになる。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	第1期・第2期を通して、ゼミナール大会に向けたグループ研究を授業時間以外にも定期的実施すると通じて、授業外に合計120時間以上の学習をおこなうこと。								
授業計画	<p>【第1回】 ガイダンス</p> <p>【第2回】 研究テーマの骨格を構築 (その1)</p> <p>【第3回】 研究テーマの骨格を構築 (その2)</p> <p>【第4回】 研究テーマの骨格を構築 (その3)</p> <p>【第5回】 文献調査およびアンケート調査 (その1)</p> <p>【第6回】 文献調査およびアンケート調査 (その2)</p> <p>【第7回】 文献調査およびアンケート調査 (その3)</p> <p>【第8回】 文献調査およびアンケート調査 (その4)</p> <p>【第9回】 モデルの設計 (その1)</p> <p>【第10回】 モデルの設計 (その2)</p> <p>【第11回】 モデルの構築 (その1)</p> <p>【第12回】 モデルの構築 (その2)</p> <p>【第13回】 モデルの構築 (その3)</p> <p>【第14回】 モデルの構築 (その4)</p> <p>【第15回】 モデルの構築 (その5)</p> <p>【第16回】 モデルの完成 (その1)</p> <p>【第17回】 モデルの完成 (その2)</p> <p>【第18回】 シミュレーションおよび論文執筆 (その1)</p> <p>【第19回】 シミュレーションおよび論文執筆 (その2)</p> <p>【第20回】 シミュレーションおよび論文執筆 (その3)</p> <p>【第21回】 シミュレーションおよび論文執筆 (その4)</p> <p>【第22回】 プレゼンテーション練習 (その1)</p> <p>【第23回】 プレゼンテーション練習 (その2)</p> <p>【第24回】 プレゼンテーション練習 (その3)</p> <p>【第25回】 モデルの修正および追加文献調査</p> <p>【第26回】 追加シミュレーションおよび追加実地調査 (その1)</p> <p>【第27回】 追加シミュレーションおよび追加実地調査 (その2)</p> <p>【第28回】 論文修正 (その1)</p> <p>【第29回】 論文修正 (その2)</p> <p>【第30回】 総括</p>								
成績評価の方法	ゼミナール活動への取り組み姿勢 (30%)、グループ研究での貢献度 (70%) による。								
フィードバックの内容	グループ研究の方法、内容、発表などについて、随時口頭によりコメントする。								
教科書									
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ	グループ研究に用いる文献は研究テーマに応じて適宜紹介する。								
オフィスアワー	メール (onozaki@ris.ac.jp) にて随時受け付ける。								
アクティブラーニングの内容	ゼミナール、演習、問題解決学習、調査学習、グループ・ディスカッション、グループ・ワーク、プレゼンテーション								
その他									

講義コード	11C0125744	授業形態	演習	抽選の有無	あり	担当教員	川口 真一	開講期	通年																														
科目名	ゼミナールⅡ(川口)				川口 真一			通年																															
履修前提条件					備考																																		
授業の目的	本ゼミナールは、わが国の税制の仕組みや役割、機能を学ぶことを目的とする。税は国民の日々の暮らしに直接影響をもたらすため、我々がそれをよく理解し今後の税制のあり方を考えていく必要がある。このゼミでは、少子高齢化、格差社会が問題となる中で、税制はどうあるべきかをメディアや論文などで取り上げられている題材をもとにディスカッションを行う。さらに、ゼミ生各自が研究テーマを設定し、それについて研究報告を行う。																																						
到達目標	税制問題に関するディスカッションを通して、プレゼン能力と論理的思考力を身につける。																																						
授業外学修内容・授業外学修時間数	この科目では、120時間以上の授業外学修を行うこと。ミクロ経済学の基礎と講義で使用する教科書を十分に理解すること。																																						
授業計画	<table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%;">【第1回】 租税に関する知識および理論の修得①</td> <td style="width: 50%;">【第16回】 租税に関する文献の輪読⑥</td> </tr> <tr> <td>【第2回】 租税に関する知識および理論の修得②</td> <td>【第17回】 租税に関する文献の輪読⑦</td> </tr> <tr> <td>【第3回】 租税に関する知識および理論の修得③</td> <td>【第18回】 租税に関する文献の輪読⑧</td> </tr> <tr> <td>【第4回】 租税に関する知識および理論の修得④</td> <td>【第19回】 租税に関する文献の輪読⑨</td> </tr> <tr> <td>【第5回】 租税に関する知識および理論の修得⑤</td> <td>【第20回】 租税に関する文献の輪読⑩</td> </tr> <tr> <td>【第6回】 租税に関する知識および理論の修得⑥</td> <td>【第21回】 ゼミ生による研究報告①</td> </tr> <tr> <td>【第7回】 租税に関する知識および理論の修得⑦</td> <td>【第22回】 ゼミ生による研究報告②</td> </tr> <tr> <td>【第8回】 租税に関する知識および理論の修得⑧</td> <td>【第23回】 ゼミ生による研究報告③</td> </tr> <tr> <td>【第9回】 租税に関する知識および理論の修得⑨</td> <td>【第24回】 ゼミ生による研究報告④</td> </tr> <tr> <td>【第10回】 租税に関する知識および理論の修得⑩</td> <td>【第25回】 ゼミ生による研究報告⑤</td> </tr> <tr> <td>【第11回】 租税に関する文献の輪読①</td> <td>【第26回】 ゼミ生による研究報告⑥</td> </tr> <tr> <td>【第12回】 租税に関する文献の輪読②</td> <td>【第27回】 ゼミ生による研究報告⑦</td> </tr> <tr> <td>【第13回】 租税に関する文献の輪読③</td> <td>【第28回】 ゼミ生による研究報告⑧</td> </tr> <tr> <td>【第14回】 租税に関する文献の輪読④</td> <td>【第29回】 ゼミ生による研究報告⑨</td> </tr> <tr> <td>【第15回】 租税に関する文献の輪読⑤</td> <td>【第30回】 ゼミ生による研究報告⑩</td> </tr> </table>									【第1回】 租税に関する知識および理論の修得①	【第16回】 租税に関する文献の輪読⑥	【第2回】 租税に関する知識および理論の修得②	【第17回】 租税に関する文献の輪読⑦	【第3回】 租税に関する知識および理論の修得③	【第18回】 租税に関する文献の輪読⑧	【第4回】 租税に関する知識および理論の修得④	【第19回】 租税に関する文献の輪読⑨	【第5回】 租税に関する知識および理論の修得⑤	【第20回】 租税に関する文献の輪読⑩	【第6回】 租税に関する知識および理論の修得⑥	【第21回】 ゼミ生による研究報告①	【第7回】 租税に関する知識および理論の修得⑦	【第22回】 ゼミ生による研究報告②	【第8回】 租税に関する知識および理論の修得⑧	【第23回】 ゼミ生による研究報告③	【第9回】 租税に関する知識および理論の修得⑨	【第24回】 ゼミ生による研究報告④	【第10回】 租税に関する知識および理論の修得⑩	【第25回】 ゼミ生による研究報告⑤	【第11回】 租税に関する文献の輪読①	【第26回】 ゼミ生による研究報告⑥	【第12回】 租税に関する文献の輪読②	【第27回】 ゼミ生による研究報告⑦	【第13回】 租税に関する文献の輪読③	【第28回】 ゼミ生による研究報告⑧	【第14回】 租税に関する文献の輪読④	【第29回】 ゼミ生による研究報告⑨	【第15回】 租税に関する文献の輪読⑤	【第30回】 ゼミ生による研究報告⑩
【第1回】 租税に関する知識および理論の修得①	【第16回】 租税に関する文献の輪読⑥																																						
【第2回】 租税に関する知識および理論の修得②	【第17回】 租税に関する文献の輪読⑦																																						
【第3回】 租税に関する知識および理論の修得③	【第18回】 租税に関する文献の輪読⑧																																						
【第4回】 租税に関する知識および理論の修得④	【第19回】 租税に関する文献の輪読⑨																																						
【第5回】 租税に関する知識および理論の修得⑤	【第20回】 租税に関する文献の輪読⑩																																						
【第6回】 租税に関する知識および理論の修得⑥	【第21回】 ゼミ生による研究報告①																																						
【第7回】 租税に関する知識および理論の修得⑦	【第22回】 ゼミ生による研究報告②																																						
【第8回】 租税に関する知識および理論の修得⑧	【第23回】 ゼミ生による研究報告③																																						
【第9回】 租税に関する知識および理論の修得⑨	【第24回】 ゼミ生による研究報告④																																						
【第10回】 租税に関する知識および理論の修得⑩	【第25回】 ゼミ生による研究報告⑤																																						
【第11回】 租税に関する文献の輪読①	【第26回】 ゼミ生による研究報告⑥																																						
【第12回】 租税に関する文献の輪読②	【第27回】 ゼミ生による研究報告⑦																																						
【第13回】 租税に関する文献の輪読③	【第28回】 ゼミ生による研究報告⑧																																						
【第14回】 租税に関する文献の輪読④	【第29回】 ゼミ生による研究報告⑨																																						
【第15回】 租税に関する文献の輪読⑤	【第30回】 ゼミ生による研究報告⑩																																						
成績評価の方法	ゼミでの報告によって評価する(100%)。																																						
フィードバックの内容																																							
教科書	授業時に指示する																																						
指定図書	授業時に指示する																																						
参考書	授業時に指示する																																						
教員からのお知らせ	ミクロ経済学と財政学を履修していることが望ましい。																																						
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部学科にて定めるオフィスアワーにて受付ける。																																						
アクティブラーニングの内容	ゼミナール																																						
その他																																							

講義コード	11C0125745	授業形態	演習	抽選の有無	あり	担当教員	河原 伸哉	開講期	通年																																
科目名	ゼミナールⅡ(河原)				河原 伸哉			通年																																	
履修前提条件					備考																																				
授業の目的	国際経済とデータ分析について演習形式で学ぶ。基礎的な内容から学び始め、中級レベルの内容も理解できることを目標とする。上記に加えて、新聞や経済雑誌等の記事を用いて、現実の経済問題についての理解を深めながら、プレゼンテーションの技法についても学ぶ。																																								
到達目標	国際経済とデータ分析の基本的な概念を理解し、それらを他の学生に対して説明できる。他の学生の発表に対して自らの意見を述べることができる。																																								
授業外学修内容・授業外学修時間数	毎回のゼミでは、指定された教科書であらかじめ決められた各自の分担箇所について発表し、それに関する質疑応答や問題演習を行う。このため各回の授業で取り扱う内容について、教科書や参考書等を用いた予習・復習など授業外に計120時間以上の学修を行うこと。																																								
授業計画	<table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td colspan="2">教科書等の報告・討論に加えて、個別・グループ単位で特定のテーマについて調査・報告を行い、ゼミナール大会の参加に向けての準備を行う。</td> </tr> <tr> <td style="width: 50%;">【第1回】 データ分析の学習 1</td> <td style="width: 50%;">【第16回】 データ分析の演習 1</td> </tr> <tr> <td>【第2回】 データ分析の学習 2</td> <td>【第17回】 データ分析の演習 2</td> </tr> <tr> <td>【第3回】 データ分析の学習 3</td> <td>【第18回】 データ分析の演習 3</td> </tr> <tr> <td>【第4回】 データ分析の学習 4</td> <td>【第19回】 データ分析の演習 4</td> </tr> <tr> <td>【第5回】 研究報告と討論 1</td> <td>【第20回】 研究報告と討論 4</td> </tr> <tr> <td>【第6回】 データ分析の学習 5</td> <td>【第21回】 データ分析の演習 5</td> </tr> <tr> <td>【第7回】 データ分析の学習 6</td> <td>【第22回】 データ分析の演習 6</td> </tr> <tr> <td>【第8回】 国際経済の学習 1</td> <td>【第23回】 国際経済の演習 1</td> </tr> <tr> <td>【第9回】 国際経済の学習 2</td> <td>【第24回】 国際経済の演習 2</td> </tr> <tr> <td>【第10回】 研究報告と討論 2</td> <td>【第25回】 研究報告と討論 5</td> </tr> <tr> <td>【第11回】 国際経済の学習 3</td> <td>【第26回】 国際経済の演習 3</td> </tr> <tr> <td>【第12回】 国際経済の学習 4</td> <td>【第27回】 国際経済の演習 4</td> </tr> <tr> <td>【第13回】 国際経済の学習 5</td> <td>【第28回】 国際経済の演習 5</td> </tr> <tr> <td>【第14回】 国際経済の学習 6</td> <td>【第29回】 国際経済の演習 6</td> </tr> <tr> <td>【第15回】 研究報告と討論 3</td> <td>【第30回】 研究報告と討論 6</td> </tr> </table>									教科書等の報告・討論に加えて、個別・グループ単位で特定のテーマについて調査・報告を行い、ゼミナール大会の参加に向けての準備を行う。		【第1回】 データ分析の学習 1	【第16回】 データ分析の演習 1	【第2回】 データ分析の学習 2	【第17回】 データ分析の演習 2	【第3回】 データ分析の学習 3	【第18回】 データ分析の演習 3	【第4回】 データ分析の学習 4	【第19回】 データ分析の演習 4	【第5回】 研究報告と討論 1	【第20回】 研究報告と討論 4	【第6回】 データ分析の学習 5	【第21回】 データ分析の演習 5	【第7回】 データ分析の学習 6	【第22回】 データ分析の演習 6	【第8回】 国際経済の学習 1	【第23回】 国際経済の演習 1	【第9回】 国際経済の学習 2	【第24回】 国際経済の演習 2	【第10回】 研究報告と討論 2	【第25回】 研究報告と討論 5	【第11回】 国際経済の学習 3	【第26回】 国際経済の演習 3	【第12回】 国際経済の学習 4	【第27回】 国際経済の演習 4	【第13回】 国際経済の学習 5	【第28回】 国際経済の演習 5	【第14回】 国際経済の学習 6	【第29回】 国際経済の演習 6	【第15回】 研究報告と討論 3	【第30回】 研究報告と討論 6
教科書等の報告・討論に加えて、個別・グループ単位で特定のテーマについて調査・報告を行い、ゼミナール大会の参加に向けての準備を行う。																																									
【第1回】 データ分析の学習 1	【第16回】 データ分析の演習 1																																								
【第2回】 データ分析の学習 2	【第17回】 データ分析の演習 2																																								
【第3回】 データ分析の学習 3	【第18回】 データ分析の演習 3																																								
【第4回】 データ分析の学習 4	【第19回】 データ分析の演習 4																																								
【第5回】 研究報告と討論 1	【第20回】 研究報告と討論 4																																								
【第6回】 データ分析の学習 5	【第21回】 データ分析の演習 5																																								
【第7回】 データ分析の学習 6	【第22回】 データ分析の演習 6																																								
【第8回】 国際経済の学習 1	【第23回】 国際経済の演習 1																																								
【第9回】 国際経済の学習 2	【第24回】 国際経済の演習 2																																								
【第10回】 研究報告と討論 2	【第25回】 研究報告と討論 5																																								
【第11回】 国際経済の学習 3	【第26回】 国際経済の演習 3																																								
【第12回】 国際経済の学習 4	【第27回】 国際経済の演習 4																																								
【第13回】 国際経済の学習 5	【第28回】 国際経済の演習 5																																								
【第14回】 国際経済の学習 6	【第29回】 国際経済の演習 6																																								
【第15回】 研究報告と討論 3	【第30回】 研究報告と討論 6																																								
成績評価の方法	到達目標で挙げた各項目に基づき、平常点(授業への参加姿勢)に50%、課題(発表、レポート等)に50%を配分して評価する。																																								
フィードバックの内容	発表やレポートに対するコメントなどを授業時に行う。																																								
教科書																																									
指定図書																																									
参考書																																									
教員からのお知らせ	使用するテキストについては、初回授業時に協議の上、決定する。指定図書・参考書は初回授業時に提示する。																																								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部学科にて定めるオフィスアワーにて受け付ける。																																								
アクティブラーニングの内容	ゼミナール																																								
その他																																									

講義コード	11C0125746	授業形態	演習	抽選の有無	あり	担当教員		開講期			
科目名	ゼミナールⅡ(北原)				北原 克宣		通年				
履修前条件					備考						
授業の目的	本ゼミナールでは、第一に、農業問題・食料問題・土地問題・環境問題などについて世界経済および日本経済との関連で理解する、第二に、研究の方法を学ぶ、第三に、ゼミナール活動を通じて、社会人として求められる様々な能力(コミュニケーション能力、企画力、協調性など)を身に付けることを目的とする。										
到達目標	ゼミナールⅡでは、①農作業など学外での活動を通じて実践的能力を身につける、②文献を読み論点を整理する能力を養う、③データを収集し整理・分析する能力を養う、以上を通じて④論文をまとめることができ、⑤説得力のあるプレゼンテーションができるようになることを目標とする。										
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	①新聞を読むこと(毎日30分) ②幅広い分野の書籍を読むこと(毎日30分) ③課外活動や合宿等の時間外活動にも積極的に参加すること(80時間) 合計120時間以上の授業外学修を行うこと。										
授業計画	<table border="0" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width:50%; vertical-align: top;"> 【第1回】ゼミナールの進め方について 【第2回】研究課題に関する発表1(グループごと) 【第3回】研究課題に関する発表2(グループごと) 【第4回】課題研究1 【第5回】課題研究2 【第6回】中間発表1 【第7回】中間発表2 【第8回】課題研究3 【第9回】課題研究4 【第10回】中間発表3 【第11回】中間発表4 【第12回】課題研究5 【第13回】課題研究6 【第14回】中間発表5 【第15回】中間発表6 </td> <td style="width:50%; vertical-align: top;"> 【第16回】論文取りまとめ1 【第17回】論文取りまとめ2 【第18回】中間発表7 【第19回】中間発表8 【第20回】論文取りまとめ3 【第21回】論文取りまとめ4 【第22回】発表用資料作成1 【第23回】発表用資料作成2 【第24回】発表練習1 【第25回】発表練習2 【第26回】発表練習3 【第27回】ゼミナール協議会大会参加 【第28回】論文修正1 【第29回】論文修正2 【第30回】研究成果発表会 </td> </tr> </table>									【第1回】ゼミナールの進め方について 【第2回】研究課題に関する発表1(グループごと) 【第3回】研究課題に関する発表2(グループごと) 【第4回】課題研究1 【第5回】課題研究2 【第6回】中間発表1 【第7回】中間発表2 【第8回】課題研究3 【第9回】課題研究4 【第10回】中間発表3 【第11回】中間発表4 【第12回】課題研究5 【第13回】課題研究6 【第14回】中間発表5 【第15回】中間発表6	【第16回】論文取りまとめ1 【第17回】論文取りまとめ2 【第18回】中間発表7 【第19回】中間発表8 【第20回】論文取りまとめ3 【第21回】論文取りまとめ4 【第22回】発表用資料作成1 【第23回】発表用資料作成2 【第24回】発表練習1 【第25回】発表練習2 【第26回】発表練習3 【第27回】ゼミナール協議会大会参加 【第28回】論文修正1 【第29回】論文修正2 【第30回】研究成果発表会
【第1回】ゼミナールの進め方について 【第2回】研究課題に関する発表1(グループごと) 【第3回】研究課題に関する発表2(グループごと) 【第4回】課題研究1 【第5回】課題研究2 【第6回】中間発表1 【第7回】中間発表2 【第8回】課題研究3 【第9回】課題研究4 【第10回】中間発表3 【第11回】中間発表4 【第12回】課題研究5 【第13回】課題研究6 【第14回】中間発表5 【第15回】中間発表6	【第16回】論文取りまとめ1 【第17回】論文取りまとめ2 【第18回】中間発表7 【第19回】中間発表8 【第20回】論文取りまとめ3 【第21回】論文取りまとめ4 【第22回】発表用資料作成1 【第23回】発表用資料作成2 【第24回】発表練習1 【第25回】発表練習2 【第26回】発表練習3 【第27回】ゼミナール協議会大会参加 【第28回】論文修正1 【第29回】論文修正2 【第30回】研究成果発表会										
成績評価の方法	①ゼミ活動(課外活動を含む)への取り組み姿勢(50%)、②グループ研究への取り組み姿勢(50%)										
フィードバックの内容	発表内容について、授業内にてコメントをする。										
教科書											
指定図書											
参考書											
教員からのお知らせ											
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は随時受け付けます。ゼミナールの際にお知らせするアドレス宛に、連絡を下さい。										
アクティブラーニングの内容	グループワーク、プレゼンテーション、ディスカッション										
その他											

講義コード	11C0125747	授業形態	演習	抽選の有無	あり	担当教員		開講期	
科目名	ゼミナールⅡ(クボ)					マイケル クボ		通年	
履修前提条件					備考				
授業の目的	Students of this zemi will research a specific media topic. Students of this zemi will also plan and produce all-English, dynamic presentations and reports for the department's Zemi Taikai.								
到達目標	Students will show their passion and creativity when making presentations at the Zemi Taikai. Students of this zemi aim to make their presentations as memorable and meaningful as possible. They will make their own presentations memorable and meaningful for themselves and the audience. Students of this zemi will continue to grow closer as a team. Students play a big part in the direction and unique character of this zemi.								
授業外学修内容・授業外学修時間数	Students must spend more than 120 hours outside of class in preparation for this course.								
授業計画	<p>【第1回】 Setting goals, and determining roles. Explore potential "Zemi Taikai" topics.</p> <p>【第2回】 Form presentation groups and define research topics.</p> <p>【第3回】 Finalize research topics, make research schedule and groups present plan to class.</p> <p>【第4回】 Group's research topic.</p> <p>【第5回】 Group's research topic.</p> <p>【第6回】 Group's research topic.</p> <p>【第7回】 All members report/present what they have researched in past 3 - 4 weeks.</p> <p>【第8回】 Continuing group research.</p> <p>【第9回】 Continuing group research.</p> <p>【第10回】 Continuing group research.</p> <p>【第11回】 Continuing group research.</p> <p>【第12回】 All members report/present what they have researched in past 3 - 4 weeks.</p> <p>【第13回】 Presentation development.</p> <p>【第14回】 Presentation development.</p> <p>【第15回】 Mid-term reflections.</p> <p>【第16回】 Redefining goals and roles, further presentation and PowerPoint creation.</p> <p>【第17回】 Further research and PowerPoint creation, script writing.</p> <p>【第18回】 Further research and PowerPoint creation, script writing.</p> <p>【第19回】 Practice presentation.</p> <p>【第20回】 Practice presentation.</p> <p>【第21回】 All members report/present what they worked on in past 4 - 5 weeks.</p> <p>【第22回】 Final presentation preparations.</p> <p>【第23回】 Final presentation preparations.</p> <p>【第24回】 Final presentation preparations.</p> <p>【第25回】 Reflections of presentations</p> <p>【第26回】 Reflections of presentations</p> <p>【第27回】 Group Discussions (or help with Open Zemi).</p> <p>【第28回】 Group Discussions (or help with Open Zemi).</p> <p>【第29回】 Group Discussions (or help with Open Zemi).</p> <p>【第30回】 Setting new goals. Make preparations for independent research and report writing.</p>								
成績評価の方法	participation: 30%, attitude: 30%, effort: 30%, presentations: 10%								
フィードバックの内容									
教科書									
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ									
オフィスアワー	The teacher is always available via LINE. Special meeting between student and teacher can be made easily. Traditional office hours are Wednesdays after 16:00, and Thursdays 10:40 to 12:30. Please contact the teacher directly via LINE or email (michaelkubo@ris.ac.jp)								
アクティブラーニングの内容	Students will regularly be asked to share their opinions on topics and make presentations.								
その他									

講義コード	11C0125748	授業形態	演習	抽選の有無	あり	担当教員	慶田 昌之	開講期	通年																														
科目名	ゼミナールⅡ(慶田)																																						
履修前条件					備考																																		
授業の目的	ゼミナールⅢは、在学中における学習成果をもとに、各自が研究テーマを設定し、担当教員の指導助言を受けながら自主的な研究をすすめる、最終的な報告をすることを目的とする。本演習を通じて、これまでにゼミナールⅠ・Ⅱにおいて得た知識、技術、考え方を生かして、問題発見・課題設定・問題解決能力を養成し、社会人として求められる知識や能力を習得することが期待される。																																						
到達目標	<p>本科目を通じて、以下の能力が得られることを到達目標とする。</p> <p>①問題の所在を見出し解決すべき課題を設定する。 ②文献資料・データの収集・分析を通じて問題を解決する。 ③得られた結論を論理的に整理し報告することができる。</p>																																						
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	①研究テーマに関連する分野の文献を読むこと ②新聞等を通じて社会情勢をチェックすること (計120時間以上)																																						
授業計画	<table border="0"> <tr> <td>【第1回】 指導教員指導：問題意識の具体化 明確化</td> <td>【第16回】 中間報告3</td> </tr> <tr> <td>【第2回】 指導教員指導：調査分析方法の確認</td> <td>【第17回】 学生による分析8</td> </tr> <tr> <td>【第3回】 指導教員指導：仮テーマの決定</td> <td>【第18回】 学生による分析9</td> </tr> <tr> <td>【第4回】 指導教員指導：テーマ(論題)の最終決定</td> <td>【第19回】 中間報告4</td> </tr> <tr> <td>【第5回】 指導教員指導：報告スケジュールの決定</td> <td>【第20回】 学生による分析10</td> </tr> <tr> <td>【第6回】 学生による分析1</td> <td>【第21回】 学生による分析11</td> </tr> <tr> <td>【第7回】 学生による分析2</td> <td>【第22回】 中間報告5</td> </tr> <tr> <td>【第8回】 学生による分析3</td> <td>【第23回】 学生による分析12</td> </tr> <tr> <td>【第9回】 中間報告1</td> <td>【第24回】 学生による分析13</td> </tr> <tr> <td>【第10回】 学生による分析4</td> <td>【第25回】 中間報告6</td> </tr> <tr> <td>【第11回】 学生による分析5</td> <td>【第26回】 学生による分析14</td> </tr> <tr> <td>【第12回】 中間報告2</td> <td>【第27回】 学生による分析15</td> </tr> <tr> <td>【第13回】 学生による分析6</td> <td>【第28回】 最終報告の確認と最終修正指示</td> </tr> <tr> <td>【第14回】 学生による分析7</td> <td>【第29回】 最終報告の準備</td> </tr> <tr> <td>【第15回】 夏季休業中の執筆計画の報告と指導</td> <td>【第30回】 最終報告</td> </tr> </table>									【第1回】 指導教員指導：問題意識の具体化 明確化	【第16回】 中間報告3	【第2回】 指導教員指導：調査分析方法の確認	【第17回】 学生による分析8	【第3回】 指導教員指導：仮テーマの決定	【第18回】 学生による分析9	【第4回】 指導教員指導：テーマ(論題)の最終決定	【第19回】 中間報告4	【第5回】 指導教員指導：報告スケジュールの決定	【第20回】 学生による分析10	【第6回】 学生による分析1	【第21回】 学生による分析11	【第7回】 学生による分析2	【第22回】 中間報告5	【第8回】 学生による分析3	【第23回】 学生による分析12	【第9回】 中間報告1	【第24回】 学生による分析13	【第10回】 学生による分析4	【第25回】 中間報告6	【第11回】 学生による分析5	【第26回】 学生による分析14	【第12回】 中間報告2	【第27回】 学生による分析15	【第13回】 学生による分析6	【第28回】 最終報告の確認と最終修正指示	【第14回】 学生による分析7	【第29回】 最終報告の準備	【第15回】 夏季休業中の執筆計画の報告と指導	【第30回】 最終報告
【第1回】 指導教員指導：問題意識の具体化 明確化	【第16回】 中間報告3																																						
【第2回】 指導教員指導：調査分析方法の確認	【第17回】 学生による分析8																																						
【第3回】 指導教員指導：仮テーマの決定	【第18回】 学生による分析9																																						
【第4回】 指導教員指導：テーマ(論題)の最終決定	【第19回】 中間報告4																																						
【第5回】 指導教員指導：報告スケジュールの決定	【第20回】 学生による分析10																																						
【第6回】 学生による分析1	【第21回】 学生による分析11																																						
【第7回】 学生による分析2	【第22回】 中間報告5																																						
【第8回】 学生による分析3	【第23回】 学生による分析12																																						
【第9回】 中間報告1	【第24回】 学生による分析13																																						
【第10回】 学生による分析4	【第25回】 中間報告6																																						
【第11回】 学生による分析5	【第26回】 学生による分析14																																						
【第12回】 中間報告2	【第27回】 学生による分析15																																						
【第13回】 学生による分析6	【第28回】 最終報告の確認と最終修正指示																																						
【第14回】 学生による分析7	【第29回】 最終報告の準備																																						
【第15回】 夏季休業中の執筆計画の報告と指導	【第30回】 最終報告																																						
成績評価の方法	最終報告の質と量および当該学生の履修態度によって総合評価(100%)する。																																						
フィードバックの内容	指導の中で適宜フィードバックする。																																						
教科書																																							
指定図書																																							
参考書																																							
教員からのお知らせ																																							
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部学科にて定めるオフィスアワーにて受付けます。																																						
アクティブラーニングの内容	ゼミナール																																						
その他																																							

講義コード	11C0125749	授業形態	演習	抽選の有無	あり	担当教員		開講期	
科目名	ゼミナールⅡ(小林隆)				小林 隆史		通年		
履修前条件					備考				
授業の目的	社会経済における現象、諸問題の中から、学生の興味関心のあるテーマをピックアップし、特に都市空間解析に関する基礎知識を基に調査、研究を行う。 文献研究、現地調査、レポート作成、プレゼンテーションについて、主体的に取り組める能力を身につける。 グループワークの際には、グループ内で役割分担を行い、各人がそれぞれの役割においてリーダーを経験する。								
到達目標	社会経済の現象、諸問題に対して、理由を付して自分なりの意見を持ち、発信することができる。 ゼミナール外部、学外者に向けて、一定水準以上の発表を行える。 発表内容をレジюме、梗概といった形式で作成できる。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	与えられた課題に取り組むこと。また、講義前の事前準備や、必要に応じた現地調査等を実施すること。以上に関し、計120時間以上の授業外学修を実施すること。								
授業計画	【第1回】個人発表(研究テーマ発表) 1 【第2回】個人発表(研究テーマ発表) 2 【第3回】グループ演習 1 【第4回】グループ発表 1 【第5回】グループ演習 2 【第6回】グループ演習 3 【第7回】グループ発表 2 【第8回】グループ演習 4 【第9回】グループ演習 5 【第10回】グループ発表 3 【第11回】グループ演習 6 【第13回】グループ演習 7 【第14回】グループ発表 4 【第15回】前期総括 【第16回】グループ発表 5 【第17回】グループ演習 8 【第18回】グループ発表 6 【第19回】グループ演習 9 【第20回】論文作成 1 【第21回】グループ演習10 【第22回】論文作成 2 【第23回】グループ演習11 【第24回】グループ演習12 【第25回】グループ発表 7 【第26回】論文作成 3 【第27回】論文作成 4 【第28回】論文報告 【第29回】個人発表(活動報告) 【第30回】後期総括								
成績評価の方法	レポート(20%程度)、発表(60%程度)、グループへの貢献度(20%程度)を総合的に評価する。								
フィードバックの内容	発表時へのコメント、及び、レポート、レジюмеについての添削を実施する。								
教科書									
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ	グループ活動では、協調性やコミュニケーション能力を必要とする。 発表会への参加は、単位取得に必須である。 やむを得ない事情以外の欠席・遅刻は認めない。欠席等の際には補講への参加を必須とする。								
オフィスアワー	質問・相談は学部学科にて定めるオフィスアワーにて、対面及びTeamsのビデオ通話等にて受付ける。また、Teamsの所定の箇所に質問・相談の投稿があれば、オフィスアワーにて返信を行う。								
アクティブラーニングの内容	「ゼミナール」の実施。「調査学習」「能動的な授業外学修」「グループ・ワーク」を経て、演習時には「グループディスカッション」「プレゼンテーション」「教員からのフィードバックによる振り返り」を実施する。								
その他	質問・相談はできるだけ授業内にて行うこと、あるいはTeamsの質問相談チャンネルでの投稿を推奨する。ほか、事前予約があればオフィスアワー以外の時間帯でも質問・相談を受け付ける。事前予約の連絡は「学籍番号@rissho-univ.jp」からkoba@ris.ac.jp宛へのメールで、件名に「【都市経済学】質問」と記載された場合にのみ対応する。 4年時に卒業論文に取り組む学生は、グループに所属せず個人研究に取り組むこともできる。4月の第2週までに申し出ること。								

講義コード	11C0125750	授業形態	演習	抽選の有無	あり	担当教員		開講期	
科目名	ゼミナールⅡ(小林幹)				小林 幹		通年		
履修前提条件					備考				
授業の目的	ゼミナールⅠで学んだことを生かし、個々の定めた学修課題を行う。 自身の学んだ内容を分かりやすく伝える能力を養う。								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・自分で立てた学修課題を達成する。 ・論理的思考を身に付ける。 ・自分で得た知識を他人に分かり易く説明する能力を身に付ける。 								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	上記に記した授業外の学修（ゼミの学外イベントも含めて）は120時間以上行うこと。								
授業計画	【第1回】 ガイダンス 【第2回】 ゼミナール大会に向けての研究1 【第3回】 ゼミナール大会に向けての研究2 【第4回】 ゼミナール大会に向けての研究3 【第5回】 ゼミナール大会に向けての研究4 【第6回】 ゼミナール大会に向けての研究5 【第7回】 ゼミナール大会に向けての研究6 【第8回】 ゼミナール大会に向けての研究7 【第9回】 ゼミナール大会に向けての研究8 【第10回】 ゼミナール大会に向けての研究9 【第11回】 ゼミナール大会に向けての研究10 【第12回】 ゼミナール大会に向けての研究11 【第13回】 ゼミナール大会に向けての研究12 【第14回】 ゼミナール大会に向けての研究13 【第15回】 ゼミナール大会に向けての研究14				【第16回】 ゼミナール大会に向けての研究15 【第17回】 ゼミナール大会に向けての研究16 【第18回】 ゼミナール大会に向けての研究17 【第19回】 ゼミナール大会発表練習1 【第20回】 ゼミナール大会発表練習2 【第21回】 ゼミナール大会発表練習3 【第22回】 ゼミナール大会発表練習4 【第23回】 ゼミナール大会発表練習5 【第24回】 ゼミナール論文執筆1 【第25回】 ゼミナール論文執筆2 【第26回】 ゼミナール論文執筆3 【第27回】 ゼミナール論文執筆4 【第28回】 ゼミナール論文執筆5 【第29回】 ゼミナール論文執筆6 【第30回】 ゼミナール論文執筆7				
成績評価の方法	授業内での課題（80%）、授業への取り組み姿勢（20%）								
フィードバックの内容									
教科書									
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ									
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談についてはガイダンスの際に指示します。								
アクティブラーニングの内容	ゼミナール								
その他									

講義コード	11C0125751	授業形態	演習	抽選の有無	あり	担当教員		開講期	
科目名	ゼミナールⅡ(櫻井)				櫻井 一宏		通年		
履修前提条件					備考				
授業の目的	本ゼミナールでは、環境や環境問題のメカニズムについての理解や分析方法の知識をもとに、興味のあるテーマを設定して学術的課題・社会的問題などの視点から調査・研究を行う。グループワークを基本とし、自主性・協調性をもって作業を進め適宜報告会を行い、メンバー間で討論する。必要に応じて研究テーマに関する外部勉強会や見学会、フィールド調査を実施する。最終的にはゼミ大会での発表を行い、論文にとりまとめる。								
到達目標	研究計画を作成し、計画に基づく調査研究の経過報告レポートや発表のためのとりまとめができる。プレゼンテーションや質疑応答に加え、他グループのテーマに対しても議論できる。フィールド調査等にあたり、外部機関との調整や調査計画が立案できる。グループワークに際し、協調性やコミュニケーション能力を向上させる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	テーマに応じた文献および参考資料等を取りまとめることやプレゼンテーションのための準備、また、必要に応じてフィールド調査等を実施するなど、当該内容に関する自主的な学習や研究のための作業が必要となる。以上、ゼミナールの事前準備等のために計120時間以上の授業外学修を実施すること。								
授業計画	【第1回】 ガイダンス 【第2回】 環境問題に関する基本的な学習 【第3回】 環境政策に関連する基本的な学習 【第4回】 環境・経済システム分析(1) 【第5回】 環境・経済システム分析(2) 【第6回】 ディスカッション(1) 【第7回】 ディスカッション(2) 【第8回】 テーマ選定 【第9回】 資料収集および文献読解(1) 【第10回】 資料収集および文献読解(2) 【第11回】 資料収集および文献読解(3) 【第12回】 調査・研究項目の検討(1) 【第13回】 調査・研究項目の検討(2) 【第14回】 中間報告・質疑応答(1) 【第15回】 中間報告・質疑応答(2) 【第16回】 ディスカッション(3) 【第17回】 ディスカッション(4) 【第18回】 調査・研究方法の検討と学習(1) 【第19回】 調査・研究方法の検討と学習(2) 【第20回】 調査・研究方法の検討と学習(3) 【第21回】 分析および考察(1) 【第22回】 分析および考察(2) 【第23回】 分析および考察(3) 【第24回】 プレゼンテーション準備(1) 【第25回】 プレゼンテーション準備(2) 【第26回】 発表会・質疑応答(1) 【第27回】 発表会・質疑応答(2) 【第28回】 レポート作成(1) 【第29回】 レポート作成(2) 【第30回】 まとめ								
成績評価の方法	ゼミナールでの調査作業(20%)やレポート作成(30%)をはじめとして、プレゼンテーションおよび討論での発言(15%)、さらには授業外学修での調査(15%)などを主な評価項目とする。その他、学内外のゼミナール活動における自主性および協調性など、全般的な諸活動への貢献や態度(20%)についても対象とし、これらを総合的に評価する。								
フィードバックの内容	授業内プレゼンテーションへの講評、グループワークや課題に対するアドバイス等を行う。								
教科書									
指定図書									
参考書	『アカデミック・スキルズ(第3版)-大学生のための知的技法入門-』佐藤望・湯川武・横山千晶・近藤明彦(慶應義塾大学出版会)2020								
教員からのお知らせ	適宜資料を配布またはゼミナール時に参考資料等を指示する。 また、メンバーが自主的に書籍や資料を持参する。								
オフィスアワー	本講義に関する質問・相談は、原則として学部学科にて定めるオフィスアワーにて受け付ける。								
アクティブラーニングの内容	ディスカッション・ディベート、グループワーク、プレゼンテーション、実習・フィールドワーク等を実施する。								
その他									

講義コード	11C0125752	授業形態	演習	抽選の有無	あり	担当教員		開講期	
科目名	ゼミナールⅡ(真田)				真田 治子		通年		
履修前条件					備考				
授業の目的	社会・企業とことば・コミュニケーションの問題を広く扱う。広告に使われることば、ファッション雑誌の記事、スナック菓子の名前、若者の流行語など、身近な素材からことばの問題を考える。問題分析の手法や結果の報告の仕方を学ぶ。学術論文の基本的な書式について学び、グループで論文と発表資料を作成し、その論文内容の発表と質疑への対応を行う。								
到達目標	社会とことばの問題を広く観察・分析することにより、日本語の変化から読み取れる日本文化とコミュニケーションの問題や社会の動向を理解できるようにする。様々な言語データを分析し、その結果を共同で報告できるようにする。学術論文の基本的な書式に基づいた報告が共同で書けるようになる。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	この科目では120時間以上の授業外学修を行うこと。毎回の授業の前には、各回の授業で扱う項目について、論文執筆と発表の準備、参考資料の調査をしてくること。毎回の授業の後には、論文の書式、文体、分析方法、文献調査方法等について指摘された箇所を修正しておくこと。								
授業計画	【第1回】 ガイダンス 【第2回】 テーマ・表題・目的・仮説についての発表 (A 班) 【第3回】 テーマ・表題・目的・仮説についての発表 (B 班) 【第4回】 調査報告の報告と執筆 (A 班) 【第5回】 調査報告の報告と執筆 (B 班) 【第6回】 結果分析の報告と執筆 (A 班) 【第7回】 結果分析の報告と執筆 (B 班) 【第8回】 考察の報告と執筆 (A 班) 【第9回】 考察の報告と執筆 (B 班) 【第10回】 文献調査の報告と執筆 (A 班) 【第11回】 文献調査の報告と執筆 (B 班) 【第12回】 論文の構成・目的・動機・仮説の報告と執筆 (A 班) 【第13回】 論文の構成・目的・動機・仮説の報告と執筆 (B 班) 【第14回】 補足調査の報告 (A 班・B 班) 【第15回】 第1期のまとめ 【第16回】 ガイダンス 【第17回】 論文作成の要約の執筆 (A 班・B 班) 【第18回】 発表の構成についての報告 (A 班) 【第19回】 発表の構成についての報告 (B 班) 【第20回】 発表資料作成状況の経過報告 (A 班) 【第21回】 発表資料作成状況の経過報告 (B 班) 【第22回】 発表リハーサル (A 班) 【第23回】 発表リハーサル (B 班) 【第24回】 発表資料修正の経過報告 (A 班) 【第25回】 発表資料修正の経過報告 (B 班) 【第26回】 発表リハーサルと修正 (A 班) 【第27回】 発表リハーサルと修正 (B 班) 【第28回】 論文の加筆修正作業 (A 班) 【第29回】 論文の加筆修正作業 (B 班) 【第30回】 第2期のまとめ								
成績評価の方法	論文執筆・発表資料作成・論文発表準備 (80%)、授業中の質疑への参加 (20%)								
フィードバックの内容	課題に対する講評を授業の中で行う。								
教科書									
指定図書									
参考書	『フォントのふしぎブランドのロゴはなぜ高そうに見えるのか?』小林章 (美術出版社) 2011年、『雑誌『日本語学』28巻6号「多言語社会・ニッポン」』(明治書院) 2009年、『雑誌『日本語学』20巻2号「広告の日本語」』(明治書院) 2001年、『日本語探究法7巻レトリック探究法』柳澤浩哉・中村敦雄・香西秀信 (朝倉書店) 2004年								
教員からのお知らせ	上記以外の参考書は授業中に適宜指示する。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部学科にて定めるオフィスアワーにて受付けます。								
アクティブラーニングの内容	意見共有。プレゼンテーション。能動的授業外学修。調査学習。グループワーク。								
その他									

講義コード	11C0125753	授業形態	演習	抽選の有無	あり	担当教員		開講期	
科目名	ゼミナールⅡ(芹田)					芹田 浩司		通年	
履修前提条件				備考					
授業の目的	本ゼミでは、現代の経済グローバル化が、個々の発展途上国の経済社会にどのような影響を及ぼしてきたのか、また、経済グローバル化時代における発展途上国の政府の役割や開発のあり方はどのようなものであるのか、といった問題について、ラテンアメリカやアジア、アフリカ地域など、地域間（国家間）の比較という視点も持ちつつ、文献の講読やゼミ生同士の討論等を通じて、深く理解することを目的とします。								
到達目標	発展途上国の貧困や開発問題、発展途上国と先進国の関係（先進国による途上国援助問題等）を学ぶことを通じて、世界経済に関して知見を深められるとともに、自分自身の見方・考え方を身に付けることができる。また、プレゼンテーションの能力も身に付けることができる。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	レポートや報告用レジュメの作成等を忘れずに行うこと（そしてそのために必要な文献調査等をしっかりと行うこと）。また必要に応じてグループ学習を行うこと。なお、授業外学修時間については120時間以上とする。								
授業計画	【第1回】 イントロダクション 【第2回】 課題図書の輪読及び内容報告（1） 【第3回】 課題図書 of 輪読及び内容報告（2） 【第4回】 課題図書 of 輪読及び内容報告（3） 【第5回】 課題図書 of 輪読及び内容報告（4） 【第6回】 課題図書 of 輪読及び内容報告（5） 【第7回】 課題図書 of 輪読及び内容報告（6） 【第8回】 課題図書 of 輪読及び内容報告（7） 【第9回】 課題図書 of 輪読及び内容報告（8） 【第10回】 課題図書 of 輪読及び内容報告（9） 【第11回】 課題図書 of 輪読及び内容報告（10） 【第12回】 課題図書 of 輪読及び内容報告（11） 【第13回】 課題図書 of 輪読及び内容報告（12） 【第14回】 研究テーマの決定・グループ編成 【第15回】 全体のまとめ・総括 【第16回】 グループ報告と討論（1） 【第17回】 グループ報告と討論（2） 【第18回】 グループ報告と討論（3） 【第19回】 グループ報告と討論（4） 【第20回】 グループ報告と討論（5） 【第21回】 グループ報告と討論（6） 【第22回】 グループ報告と討論（7） 【第23回】 グループ報告と討論（8） 【第24回】 グループ報告と討論（9） 【第25回】 グループ報告と討論（10） 【第26回】 グループによる最終プレゼンテーション（1） 【第27回】 グループによる最終プレゼンテーション（2） 【第28回】 グループによる最終プレゼンテーション（3） 【第29回】 グループによる最終プレゼンテーション（4） 【第30回】 全体のまとめ・総括								
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢（40%）、報告（60%）によって総合的に判断します。								
フィードバックの内容	フィードバックすべき事項・内容については原則、授業時間内にフィードバックを行う。								
教科書									
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ	ゼミで使用する文献等についてはゼミ中に指示します。また、上記計画については変更の可能性もあります。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部学科にて定めるオフィスアワーにて受付けます。また、WebClass のメッセージ機能でも受付けます（利用方法はポータルサイト、ライブラリ内のマニュアルを参照）。								
アクティブラーニングの内容	－ゼミナール －調査学習 －グループ・ワーク								
その他									

講義コード	11C0125754	授業形態	演習	抽選の有無	あり	担当教員		開講期			
科目名	ゼミナールⅡ(平)				平 伊佐雄		通年				
履修前提条件					備考						
授業の目的	ゼミナール2では、日本とヨーロッパとの人や物のつながりの歴史を考察し、現在の経済生活の有様を理解することを目的とする。										
到達目標	史料の分析と歴史叙述、歴史研究の成果、受講生自らの調査から、現在の私たちの生活基盤を説明できるようになる。										
授業外学修内容・授業外学修時間数	各回のゼミのための調査・報告書の作成に関わる作業として、1回当たり4時間以上の授業外学修を要する。(計120時間)										
授業計画	<table border="0" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width:50%; vertical-align: top;"> <ul style="list-style-type: none"> 【第1回】 近世スペインの歴史の考察 【第2回】 ドン・ロドリゴの『日本見聞録』の分析 【第3回】 関係する先行研究の文献の考察 ① 【第4回】 関係する先行研究の文献の考察 ② 【第5回】 ドン・ロドリゴの『日本見聞録』の考察(報告) 【第6回】 『ビスカイノ金銀島探検報告』の分析 【第7回】 『ビスカイノ金銀島探検報告』の考察(報告) 【第8回】 近世スペインとアジアとの関係史の考察(報告) 【第9回】 ぶどう酒の発祥とその歴史 【第10回】 フランスにおけるぶどう酒の生産の歴史 【第11回】 ぶどう酒生産の日本への導入(報告) 【第12回】 日本の道と流通についての考察(報告) 【第13回】 利根運河の開削の歴史 【第14回】 利根運河と経済 【第15回】 自転車の歴史-ヨーロッパ編-(報告) </td> <td style="width:50%; vertical-align: top;"> <ul style="list-style-type: none"> 【第16回】 自転車の歴史-日本編-(報告) 【第17回】 日本の交通史についての考察-道路- 【第18回】 貨幣の歴史の考察 【第19回】 日本の貨幣史の考察 【第20回】 日本の近代幣制の分析(報告) 【第21回】 日本に導入された海外の物や技術の考察 【第22回】 明治・大正期・昭和初期の農業についての研究報告(報告) 【第23回】 電気と水道などのインフラ設備の歴史-西洋編- 【第24回】 電気と水道などのインフラ設備の歴史-日本編- 【第25回】 産業技術の歴史の研究報告-時計-(報告) 【第26回】 産業技術の歴史の研究報告-ガラス- 【第27回】 イギリス産業革命期の技術・発見についての考察 【第28回】 家庭生活の変化についての考察 【第29回】 日本の産業遺産の研究報告1(報告) 【第30回】 日本の産業遺産の研究報告2(報告) </td> </tr> </table>									<ul style="list-style-type: none"> 【第1回】 近世スペインの歴史の考察 【第2回】 ドン・ロドリゴの『日本見聞録』の分析 【第3回】 関係する先行研究の文献の考察 ① 【第4回】 関係する先行研究の文献の考察 ② 【第5回】 ドン・ロドリゴの『日本見聞録』の考察(報告) 【第6回】 『ビスカイノ金銀島探検報告』の分析 【第7回】 『ビスカイノ金銀島探検報告』の考察(報告) 【第8回】 近世スペインとアジアとの関係史の考察(報告) 【第9回】 ぶどう酒の発祥とその歴史 【第10回】 フランスにおけるぶどう酒の生産の歴史 【第11回】 ぶどう酒生産の日本への導入(報告) 【第12回】 日本の道と流通についての考察(報告) 【第13回】 利根運河の開削の歴史 【第14回】 利根運河と経済 【第15回】 自転車の歴史-ヨーロッパ編-(報告) 	<ul style="list-style-type: none"> 【第16回】 自転車の歴史-日本編-(報告) 【第17回】 日本の交通史についての考察-道路- 【第18回】 貨幣の歴史の考察 【第19回】 日本の貨幣史の考察 【第20回】 日本の近代幣制の分析(報告) 【第21回】 日本に導入された海外の物や技術の考察 【第22回】 明治・大正期・昭和初期の農業についての研究報告(報告) 【第23回】 電気と水道などのインフラ設備の歴史-西洋編- 【第24回】 電気と水道などのインフラ設備の歴史-日本編- 【第25回】 産業技術の歴史の研究報告-時計-(報告) 【第26回】 産業技術の歴史の研究報告-ガラス- 【第27回】 イギリス産業革命期の技術・発見についての考察 【第28回】 家庭生活の変化についての考察 【第29回】 日本の産業遺産の研究報告1(報告) 【第30回】 日本の産業遺産の研究報告2(報告)
<ul style="list-style-type: none"> 【第1回】 近世スペインの歴史の考察 【第2回】 ドン・ロドリゴの『日本見聞録』の分析 【第3回】 関係する先行研究の文献の考察 ① 【第4回】 関係する先行研究の文献の考察 ② 【第5回】 ドン・ロドリゴの『日本見聞録』の考察(報告) 【第6回】 『ビスカイノ金銀島探検報告』の分析 【第7回】 『ビスカイノ金銀島探検報告』の考察(報告) 【第8回】 近世スペインとアジアとの関係史の考察(報告) 【第9回】 ぶどう酒の発祥とその歴史 【第10回】 フランスにおけるぶどう酒の生産の歴史 【第11回】 ぶどう酒生産の日本への導入(報告) 【第12回】 日本の道と流通についての考察(報告) 【第13回】 利根運河の開削の歴史 【第14回】 利根運河と経済 【第15回】 自転車の歴史-ヨーロッパ編-(報告) 	<ul style="list-style-type: none"> 【第16回】 自転車の歴史-日本編-(報告) 【第17回】 日本の交通史についての考察-道路- 【第18回】 貨幣の歴史の考察 【第19回】 日本の貨幣史の考察 【第20回】 日本の近代幣制の分析(報告) 【第21回】 日本に導入された海外の物や技術の考察 【第22回】 明治・大正期・昭和初期の農業についての研究報告(報告) 【第23回】 電気と水道などのインフラ設備の歴史-西洋編- 【第24回】 電気と水道などのインフラ設備の歴史-日本編- 【第25回】 産業技術の歴史の研究報告-時計-(報告) 【第26回】 産業技術の歴史の研究報告-ガラス- 【第27回】 イギリス産業革命期の技術・発見についての考察 【第28回】 家庭生活の変化についての考察 【第29回】 日本の産業遺産の研究報告1(報告) 【第30回】 日本の産業遺産の研究報告2(報告) 										
成績評価の方法	ゼミナールで行う報告(50%)、報告書(50%)をもって評価する。(合計100%)										
フィードバックの内容	指導の中で適宜フィードバックする。										
教科書	『ドンロドリゴ日本見聞録 ビスカイノ金銀島探検報告』村上直次郎(奥川書房)1941										
指定図書	『新技術の社会誌』鈴木淳(中央公論新社)1999、『ガレオン船が運んだ友好の夢』(たばこと塩の博物館)2010、『利根運河を考える』神保國弘(協書房出版)2001										
参考書	『ヌエバ・エズパニャ報告書・ユカタン事物記』ソリタ、ランダ(岩波書店)1982、『メキシコ征服記1-3』ベルナル・カステイリヨ(岩波書店)1986、『征服者と新世界』サアグン[ほか]著(岩波書店)1980										
教員からのお知らせ											
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部学科にて定めるオフィスアワーにて受付けます。										
アクティブラーニングの内容	ゼミナールでは、学生が各々研究文献のまとめや調査したことの報告を行う必要があるため、事前に「能動的に授業外学修」を行う。										
その他											

講義コード	11C0125755	授業形態	演習	抽選の有無	あり	担当教員	高橋 美由紀	開講期	通年
科目名	ゼミナールⅡ(高橋)					高橋 美由紀		通年	
履修前条件				備考					
授業の目的	人口と経済の関係について歴史的視点から学び、現代の人口問題についても考えていきます。歴史的な家族の様子や人々の働き方の変遷を通して、現代望ましいワークライフバランスを考えてみましょう。また、地域の経済の歴史と人々の暮らしの変容についても考察します。ゼミナール大会に向けてグループ討論・報告を中心にを行います。								
到達目標	グループでディスカッションを行い、選択したテーマに関し、説得的なプレゼンテーションができること。グループで課題を設定し、研究をおこない、それについて論文にまとめられること。グループ研究は、ゼミ大会で報告する。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	課題図書は、自分が報告するのではなくても読んでおくこと。 毎回、グループでの課題の進捗状況を報告してもらうので、調べておくこと。 (授業前2時間、授業後2時間、計120時間) ゼミ大会には必ず参加すること。								
授業計画	<p>【第1回】グループごとの課題の設定。 【第2回】人口と経済についての講義。 【第3回】課題図書の輪読1。 【第4回】課題図書の輪読2。 【第5回】課題図書の輪読3。 【第6回】課題図書の輪読4。 【第7回】グループ報告と討論1。 【第8回】グループ報告と討論2。 【第9回】グループ報告と討論3。 【第10回】課題図書の輪読5。 【第11回】課題図書の輪読6。 【第12回】課題図書の輪読7。 【第13回】コンピュータ実習1。 【第14回】コンピュータ実習2。 【第16回】グループ報告と討論4。 【第17回】グループ報告と討論5。 【第18回】課題図書の輪読8。 【第19回】課題図書の輪読9。 【第20回】課題図書の輪読10。 【第21回】コンピュータ実習3。 【第22回】コンピュータ実習4。 【第23回】グループ報告と討論6。 【第24回】課題図書の輪読11。 【第25回】課題図書の輪読12。 【第26回】グループ報告と討論7。 【第27回】グループ報告と討論8。 【第28回】ゼミ最終プレゼン1。 【第29回】ゼミ最終プレゼン2。 【第30回】ゼミ最終プレゼン3。</p> <p>その他、ゼミ大会にもグループで参加し、論文を執筆する。</p>								
成績評価の方法	レポート・プレゼンテーション(30%)、ゼミへの参加態度(10%)。ゼミ大会への参加(60%)。								
フィードバックの内容	プレゼンテーションは当日にコメントをおこなう。また、レポート等は翌週にコメントを付けて返却する。								
教科書	『歴史人口学で見た日本』速水 融(文系春秋)2022、『人口学への招待』河野 稠果(中央公論社)2007、『人口と日本経済』吉川 洋(中央公論社)2016、『老いてゆくアジア』大泉 啓一郎(中央公論社)2007、『東大塾 これからの日本の人口と社会』白波瀬佐和子(東京大学出版会)2019								
指定図書	『人口減少と日本経済』津谷 典子、樋口 美雄(日本経済新聞出版社)2009、『人類史のなかの人口と家族』木下 太志、浜野 潔(晃洋書房)2003、『成長の限界・人類の選択』ドネラ・H・メドウズ他(ダイヤモンド社)2007、『人口変動と家族の実証分析』津谷典子他編著(慶應義塾大学出版会)2020、『歴史人口学からみた結婚・離婚・再婚』黒須 里美他(麗澤大学出版会)2012、『人口で語る世界史』ポール モーランド(著)、渡会 圭子(翻訳)(文藝春秋社)2019、『人口の世界史』マッシモリヴィーパッチ(著)、速水 融(翻訳)、斎藤 修(翻訳)(東洋経済新報社)2014、『人口問題と移民——日本の人口・階層構造はどう変わるのか』是川 夕(著、編集)、駒井 洋(監修)(明石書店)2019、『人口と日本経済—長寿、イノベーション、経済成長』吉川 洋(中央公論新社)2016、『2050年 世界人口大減少』ダリル・ブリッカー(著)、ジョン・イビットソン(著)、倉田 幸信(翻訳)、河合 雅司(解説)(文藝春秋社)2020								
参考書	『ウェルカム・人口減少社会』藤正 巖・古川 俊之(文藝春秋)2000、『少子社会日本』山田 昌弘(岩波新書)2007、『関係人口をつくる一定住でも交流でもないローカルイノベーション』田中 輝美(木楽舎)2017、『[図説]人口で見る日本史』鬼頭 宏(PHP 研究所)2007、『歴史人口学事始め:記録と記憶の九〇年』速水 融(筑摩書房)2020、『歴史人口学のフロンティア』速水 融、友部 謙一、鬼頭 宏(東洋経済新報社)2001、『人口論入門』杉田 菜穂(法律文化社)2017、『歴史人口学の世界』速水融(岩波書店)2012								
教員からのお知らせ	講義順序は、変更する場合があります。輪読書は、ゼミ生の希望によって変更することもあります。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、ゼミ授業内にて受け付けます。積極的に質問してください。 また、学部学科にて定めるオフィスアワー(月曜日3限)にても受け付けます。ただし、オフィスアワーに訪れる場合は、前もってメールなどでご連絡ください。								
アクティブラーニングの内容その他	ゼミという性質上、学生の事前学修とその報告が中心となる。								

講義コード	11C0125757	授業形態	演習	抽選の有無	あり	担当教員		開講期	
科目名	ゼミナールⅡ(外木)				外木 好美		通年		
履修前提条件	備考								
授業の目的	統計学の基本的な考え方を学び、エクセルを使ったデータ分析を行います。ゼミⅠで、現実の事象に対して、経済学的にアプローチすることを学びました。ゼミⅡでは、自身でデータ分析ができるようになるための、ツールを学びます。卒業論文を書くための下準備をおこないます。								
到達目標	①統計学の基本的な考え方を直観的に理解すること、②エクセルで実際に分析できるようになること、③分析結果を解釈し、発表できるようになること。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	各章で、エクセルを使った課題を出します。次回までに、各グループで課題をやってきてください。授業外で120時間以上の学習を行うこと。								
授業計画	【第1回】ガイダンス 【第2回】統計学の考え方(1) 【第3回】統計学の考え方(2) 【第4回】統計学の考え方(3) 【第5回】統計学の考え方(4) 【第6回】統計学の考え方(5) 【第7回】統計学の考え方(6) 【第8回】統計学の考え方(7) 【第9回】統計学の考え方(8) 【第10回】統計学の考え方(9) 【第11回】統計学の考え方(10) 【第12回】統計学の考え方(11) 【第13回】統計学の考え方(12) 【第14回】統計学の考え方(13) 【第15回】統計学の考え方(14)				【第16回】統計学の考え方&卒業論文の下準備(1) 【第17回】統計学の考え方&卒業論文の下準備(2) 【第18回】統計学の考え方&卒業論文の下準備(3) 【第19回】統計学の考え方&卒業論文の下準備(4) 【第20回】統計学の考え方&卒業論文の下準備(5) 【第21回】統計学の考え方&卒業論文の下準備(6) 【第22回】統計学の考え方&卒業論文の下準備(7) 【第23回】統計学の考え方&卒業論文の下準備(8) 【第24回】統計学の考え方&卒業論文の下準備(9) 【第25回】統計学の考え方&卒業論文の下準備(10) 【第26回】統計学の考え方&卒業論文の下準備(11) 【第27回】統計学の考え方&卒業論文の下準備(12) 【第28回】統計学の考え方&卒業論文の下準備(13) 【第29回】統計学の考え方&卒業論文の下準備(14) 【第30回】統計学の考え方&卒業論文の下準備(15)				
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢(40%)、卒業論文の研究計画書(60%)で評価する。								
フィードバックの内容	報告資料や討論内容について、適宜、コメントや指示を入れます。								
教科書	『ビジネス統計学【上】』アミール・アクセル(著)、ソウンデルバンディアン・ジャヤベル(著)、鈴木一功(監訳)、&2その他(ダイヤモンド社)2007								
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ	エクセルの操作でわからないことがあったら、LINEやTeamsで個別に質問してください。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部学科にて定めるオフィスアワーにて受け付けます。								
アクティブラーニングの内容	ゼミナール、実習								
その他									

講義コード	11C0125758	授業形態	演習	抽選の有無	あり	担当教員		開講期	
科目名	ゼミナールⅡ(中村)				中村 宗之		通年		
履修前提条件	備考								
授業の目的	日本の経済や社会の諸問題について説明する。マルクス経済学や景気循環論に関連する問題について説明する。各自興味のあるテーマについて調査、報告し、検討する。ここ数年の課題文献のテーマは、ブラック企業、ワーキングプア、ベーシックインカム、日本の水田稲作などである。								
到達目標	日本の経済や社会の諸問題について調査し、考察することができる。その内容を人に十分に伝えて、議論することができる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	授業内容に関して予習や復習を行う。報告準備等を十分に行う。授業外で計120時間以上の学修を行うこと。								
授業計画	【第1回】ガイダンス 【第2回】課題文献の検討(1) 【第3回】課題文献の検討(2) 【第4回】課題文献の検討(3) 【第5回】課題文献の検討(4) 【第6回】課題文献の検討(5) 【第7回】個人またはグループの研究報告(1) 【第8回】個人またはグループの研究報告(2) 【第9回】個人またはグループの研究報告(3) 【第10回】個人またはグループの研究報告(4) 【第11回】個人またはグループの研究報告(5) 【第12回】個人またはグループの研究報告(6) 【第13回】個人またはグループの研究報告(7) 【第14回】個人またはグループの研究報告(8) 【第15回】前期のまとめ				【第16回】個人またはグループの研究報告(9) 【第17回】個人またはグループの研究報告(10) 【第18回】個人またはグループの研究報告(11) 【第19回】個人またはグループの研究報告(12) 【第20回】個人またはグループの研究報告(13) 【第21回】個人またはグループの研究報告(14) 【第22回】個人またはグループの研究報告(15) 【第23回】個人またはグループの研究報告(16) 【第24回】個人またはグループの研究報告(17) 【第25回】課題文献の検討(6) 【第26回】課題文献の検討(7) 【第27回】課題文献の検討(8) 【第28回】課題文献の検討(9) 【第29回】課題文献の検討(10) 【第30回】後期のまとめ				
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢(50%)、報告内容(50%)により評価する。								
フィードバックの内容	報告内容はその都度検討される。必要に応じて個別指導を実施する。								
教科書									
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ									
オフィスアワー	本授業に関する質問や相談は、学部学科で定めるオフィスアワーにて受け付けます。Teams等でも受け付けます。								
アクティブラーニングの内容	意見共有、教員からのフィードバックによる振り返り、能動的な授業外学修、ゼミナール、プレゼンテーション								
その他									

講義コード	11C0125760	授業形態	演習	抽選の有無	あり	担当教員	林 康史	開講期	通年																														
科目名	ゼミナールⅡ(林)				林 康史		通年																																
履修前提条件					備考																																		
授業の目的	金融・証券・資産運用について学習する。テキスト(後報)を輪読し、加えて、その内容に関して討論する。学問的に、論理的思考ができるよう、積極的な議論を行うとともに、実際の市場に即したテーマで、ソクラテス・メソッドを行う。																																						
到達目標	マーケットにおける論理的思考・発想ができ、また、センスやマナーが身につくこと。																																						
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	必要に応じて、サブゼミをゼミ生が自主的に運営することがある(120時間。サブゼミは、DVD等でゼミの予習に充てる。ゼミは、サブゼミの内容は学習済みという前提で行われるので、留意のこと)。																																						
授業計画	<table border="0"> <tr> <td>【第1回】 ガイダンス</td> <td>【第16回】 株式投資⑦</td> </tr> <tr> <td>【第2回】 論文の読み方・書き方①</td> <td>【第17回】 株式投資⑧</td> </tr> <tr> <td>【第3回】 論文の読み方・書き方②</td> <td>【第18回】 株式投資⑨</td> </tr> <tr> <td>【第4回】 論文の読み方・書き方③</td> <td>【第19回】 株式投資⑩</td> </tr> <tr> <td>【第5回】 論文の読み方・書き方④</td> <td>【第20回】 株式投資⑪</td> </tr> <tr> <td>【第6回】 証券投資の基礎①</td> <td>【第21回】 株式投資⑫</td> </tr> <tr> <td>【第7回】 証券投資の基礎②</td> <td>【第22回】 株式投資⑬</td> </tr> <tr> <td>【第8回】 証券投資の基礎③</td> <td>【第23回】 株式投資⑭</td> </tr> <tr> <td>【第9回】 証券投資の基礎④</td> <td>【第24回】 株式投資⑮</td> </tr> <tr> <td>【第10回】 株式投資①</td> <td>【第25回】 株式投資⑯</td> </tr> <tr> <td>【第11回】 株式投資②</td> <td>【第26回】 株式投資⑰</td> </tr> <tr> <td>【第12回】 株式投資③</td> <td>【第27回】 株式投資⑱</td> </tr> <tr> <td>【第13回】 株式投資④</td> <td>【第28回】 株式投資⑲</td> </tr> <tr> <td>【第14回】 株式投資⑤</td> <td>【第29回】 株式投資⑳</td> </tr> <tr> <td>【第15回】 株式投資⑥</td> <td>【第30回】 総括</td> </tr> </table>									【第1回】 ガイダンス	【第16回】 株式投資⑦	【第2回】 論文の読み方・書き方①	【第17回】 株式投資⑧	【第3回】 論文の読み方・書き方②	【第18回】 株式投資⑨	【第4回】 論文の読み方・書き方③	【第19回】 株式投資⑩	【第5回】 論文の読み方・書き方④	【第20回】 株式投資⑪	【第6回】 証券投資の基礎①	【第21回】 株式投資⑫	【第7回】 証券投資の基礎②	【第22回】 株式投資⑬	【第8回】 証券投資の基礎③	【第23回】 株式投資⑭	【第9回】 証券投資の基礎④	【第24回】 株式投資⑮	【第10回】 株式投資①	【第25回】 株式投資⑯	【第11回】 株式投資②	【第26回】 株式投資⑰	【第12回】 株式投資③	【第27回】 株式投資⑱	【第13回】 株式投資④	【第28回】 株式投資⑲	【第14回】 株式投資⑤	【第29回】 株式投資⑳	【第15回】 株式投資⑥	【第30回】 総括
【第1回】 ガイダンス	【第16回】 株式投資⑦																																						
【第2回】 論文の読み方・書き方①	【第17回】 株式投資⑧																																						
【第3回】 論文の読み方・書き方②	【第18回】 株式投資⑨																																						
【第4回】 論文の読み方・書き方③	【第19回】 株式投資⑩																																						
【第5回】 論文の読み方・書き方④	【第20回】 株式投資⑪																																						
【第6回】 証券投資の基礎①	【第21回】 株式投資⑫																																						
【第7回】 証券投資の基礎②	【第22回】 株式投資⑬																																						
【第8回】 証券投資の基礎③	【第23回】 株式投資⑭																																						
【第9回】 証券投資の基礎④	【第24回】 株式投資⑮																																						
【第10回】 株式投資①	【第25回】 株式投資⑯																																						
【第11回】 株式投資②	【第26回】 株式投資⑰																																						
【第12回】 株式投資③	【第27回】 株式投資⑱																																						
【第13回】 株式投資④	【第28回】 株式投資⑲																																						
【第14回】 株式投資⑤	【第29回】 株式投資⑳																																						
【第15回】 株式投資⑥	【第30回】 総括																																						
成績評価の方法	ゼミへの積極的な関与(40%)、報告(30%)・レポートの内容(30%)等により、総合評価する。																																						
フィードバックの内容	ゼミに関する質問・相談は、随時、受付ける。																																						
教科書	適宜、指示する。																																						
指定図書	適宜、指示する。																																						
参考書	適宜、指示する。																																						
教員からのお知らせ	ゼミ合宿(実施の有無も含め、時期等は未定)等、ゼミ生と教員の全員で運営する。また、与えられた分担は責任をもって果たすこと。																																						
オフィスアワー	ゼミに関する質問・相談は、メールまたは電話で受付ける。																																						
アクティブラーニングの内容	事前に、オンライン教材の視聴を行う等、対面の授業の前に、学習すべきことがあることに留意されたい。																																						
その他	金融論等、受講・聴講するのが望ましい授業は、別途、指示する。 ゼミⅠとゼミⅡの受講生は、相互に、聴講するものとする。																																						

講義コード	11C0125762	授業形態	演習	抽選の有無	あり	担当教員		開講期	
科目名	ゼミナールⅡ(宮岡)					宮岡 暁		通年	
履修前条件					備考				
授業の目的	ゼミナールⅠで習得した環境問題に関する知識や実証分析の技術を土台にして、グループに分かれてオリジナルな研究に取り組みます。グループ研究の過程では、①研究テーマの設定、②資料やデータの収集、③データの分析、④論文執筆、⑤発表資料の作成、といったさまざまな作業が必要となります。こうした一連の作業にグループで協力して取り組み、その成果を学内のゼミ大会や他大学との合同ゼミで発表することを目標とします。								
到達目標	①自分で研究テーマを設定し、必要な資料やデータを収集・整理することができる ②収集したデータを、正しい手法で分析することができる ③ Word で文章作成や論文執筆を行うことができる ④ PowerPoint で人に伝わる資料作成や発表ができる ⑤グループワークを通して、リーダーシップや協調性を身につける								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	グループ研究の過程では、「授業の目的」でも述べたようなさまざまな作業が必要となります。また、グループごとの研究の進捗状況を定期的に報告してもらいます。こうした研究への取り組みや報告・発表の準備などで、計120時間以上の授業外学修が必要となります。								
授業計画	【第1回】 興味・関心のある研究テーマの発表① 【第2回】 興味・関心のある研究テーマの発表② 【第3回】 グループごとの研究テーマの設定① 【第4回】 グループごとの研究テーマの設定② 【第5回】 グループごとの研究テーマの設定③ 【第6回】 グループごとの研究テーマの設定④ 【第7回】 資料・データの収集と整理① 【第8回】 資料・データの収集と整理② 【第9回】 資料・データの収集と整理③ 【第10回】 資料・データの収集と整理④ 【第11回】 データの分析と解釈① 【第12回】 データの分析と解釈② 【第13回】 データの分析と解釈③ 【第14回】 データの分析と解釈④ 【第15回】 データの分析と解釈⑤ 【第16回】 論文の執筆① 【第17回】 論文の執筆② 【第18回】 論文の執筆③ 【第19回】 論文の執筆④ 【第20回】 論文の執筆⑤ 【第21回】 発表資料の作成と発表練習① 【第22回】 発表資料の作成と発表練習② 【第23回】 発表資料の作成と発表練習③ 【第24回】 発表資料の作成と発表練習④ 【第25回】 発表資料の作成と発表練習⑤ 【第26回】 論文の仕上げ① 【第27回】 論文の仕上げ② 【第28回】 論文の仕上げ③ 【第29回】 論文の仕上げ④ 【第30回】 論文の仕上げ⑤								
成績評価の方法	ゼミナールへの取り組み姿勢（40%）、プレゼンテーション（30%）、論文の執筆（30%）に基づいて評価を行います。								
フィードバックの内容	研究の進め方やプレゼンテーションに対する講評を授業の中で行います。								
教科書									
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ	研究を進める上で必要な参考文献などは、適宜紹介します。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、下記にて随時受け付けます： ○学部学科にて定めるオフィスアワー ○ Microsoft Teams のチャット機能 ○メール								
アクティブラーニングの内容	ゼミナール								
その他									

講義コード	11C0125763	授業形態	演習	抽選の有無	あり	担当教員		開講期	
科目名	ゼミナールⅡ(宮川)					宮川 幸三		通年	
履修前提条件						備考			
授業の目的	本ゼミナールの目標は、経済データを用いて正しい手法で実証分析を行う技能を身につけることである。ゼミナールⅡでは、これまでに学んだ経済学の理論、経済統計に関する知識、計量経済分析の手法などを用いて、自らが設定したテーマに関して実証分析を行い、その成果を発表することにより、実践的な分析力を身につけると同時にプレゼンテーション能力の向上を目指す。								
到達目標	経済データを用いて適切な方法で分析を行うことができる。 効果的なプレゼンテーションを行うことができる。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	この科目では、120時間以上の授業外学修を行うこと。 授業外学修では、与えられた課題と次回内容の準備を行うこと。								
授業計画	【第1回】 ガイダンス (1) 【第2回】 研究テーマ決め 【第3回】 グループワーク (1) 【第4回】 ディベート (1) 【第5回】 研究成果の発表 (1) 【第6回】 グループワーク (2) 【第7回】 ディベート (2) 【第8回】 研究成果の発表 (2) 【第9回】 グループワーク (3) 【第10回】 ディベート (3) 【第11回】 研究成果の発表 (3) 【第12回】 グループワーク (4) 【第13回】 ディベート (4) 【第14回】 研究成果の発表 (4) 【第15回】 第1期のまとめ				【第16回】 ガイダンス (2) 【第17回】 研究成果の発表 (5) 【第18回】 グループワーク (5) 【第19回】 研究成果の発表 (6) 【第20回】 グループワーク (6) 【第21回】 研究成果の発表 (7) 【第22回】 研究成果の発表 (8) 【第23回】 研究成果の発表 (9) 【第24回】 グループワーク (7) 【第25回】 ディベート (5) 【第26回】 グループワーク (8) 【第27回】 ディベート (6) 【第28回】 グループワーク (9) 【第29回】 ディベート (7) 【第30回】 全体まとめ				
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢 (50%)、授業中に行うプレゼンテーションやディベートの内容 (50%) によって評価する。								
フィードバックの内容	課題に対する講評を授業時に行う。								
教科書									
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ									
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、講義案内で示したオフィスアワーにおいて受付ける。								
アクティブラーニングの内容	意見共有、ディベート、グループ・ワーク、プレゼンテーション、演習								
その他									

講義コード	11C0125764	授業形態	演習	抽選の有無	あり	担当教員		開講期	
科目名	ゼミナールⅡ(村田)					村田 啓子		通年	
履修前提条件						備考			
授業の目的	本演習では、日本経済を理解する上で重要度の高い各種統計データについて学修した上で、日本経済の現況及び課題について学びます。現実の日本経済の動向を理解するとともに、実施された政策や問題点についても学修することを通じ、一人一人の学生が、実体経済について自らの問題意識を持ちつつ主体的に考え、卒業後の将来においても役立つ能力を養うことを目指します。								
到達目標	日本経済を理解するために必要なデータ・統計及びその見方に関する専門知識を習得するとともに、日本経済について自ら考える力を修得する。自ら研究課題を設定し、皆と協力しつつ文献講読・調査分析を行い、研究成果を発表する力を身につける。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	演習で与えられた課題について予習を行い、疑問点があったら皆と議論しましょう。自分が発表の時にはレジュメを作成し余裕をもちつつ発表の準備をしましょう。演習後は、演習で学び、議論した内容を理解できているか復習・確認しましょう。自ら課題を設定し、皆と協力しつつ文献講読・調査分析を行い、研究成果を発表する準備をしましょう (授業外で計120時間以上)。								
授業計画	【第1回】 概論 (イントロダクション) 【第2回】 日本経済・データ分析の学修1・討論 【第3回】 日本経済・データ分析の学修2・討論 【第4回】 研究課題の設定・討論 (1) 【第5回】 日本経済・データ分析の学修3・討論 【第6回】 日本経済・データ分析の学修4・討論 【第7回】 研究課題の設定・討論 (2) 【第8回】 日本経済・データ分析の学修5・討論 【第9回】 日本経済・データ分析の学修6・討論 【第10回】 研究課題の設定・討論 (3) 【第11回】 日本経済・データ分析の学修7・討論 【第12回】 日本経済・データ分析の学修8・討論 【第13回】 研究課題の設定・中間報告・討論 (1) 【第14回】 日本経済・データ分析の学修9・討論 【第15回】 研究課題の設定・中間報告・討論 (2)				【第16回】 概論 (イントロダクション) 2 【第17回】 研究内容の報告・準備・討論 (1) 【第18回】 日本経済・データ分析の学修10・討論 【第19回】 日本経済・データ分析の学修11・討論 【第20回】 研究内容の報告・準備・討論 (2) 【第21回】 日本経済・データ分析の学修12・討論 【第22回】 研究内容の報告・討論 (1) 【第23回】 日本経済・データ分析の学修13・討論 【第24回】 研究内容の報告・討論 (2) 【第25回】 日本経済・データ分析の学修14・討論 【第26回】 日本経済・データ分析の学修15・討論 【第27回】 日本経済・データ分析の学修16・討論 【第28回】 日本経済・データ分析の学修17・討論 【第29回】 日本経済・データ分析の学修18・討論 【第30回】 今後のゼミナール活動に関する検討・討論				
成績評価の方法	ゼミナール活動への取り組み姿勢 (20%)、報告時の内容とプレゼンテーション (40%)、グループ研究での貢献度 (40%)。								
フィードバックの内容	報告、プレゼンテーション、討論の内容についてコメントを行います。								
教科書									
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ	テキストは、演習内で相談の上決定します。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部学科にて定めるオフィスアワーにて受け付けます (事前にメールで連絡すること)。								
アクティブラーニングの内容	報告、プレゼンテーション、討論の内容についてフィードバックを行います。								
その他									

講義コード	11C0125765	授業形態	演習	抽選の有無	あり	担当教員		開講期	
科目名	ゼミナールⅡ(森山)				森山 秀二		通年		
履修前条件					備考				
授業の目的	<p>ゼミナールⅡでは、ゼミナールⅠで身につけたはずの、ゼミ論文の作成法の基本を確認の上、各自の問題点や関心あるテーマを発表して、グループ別の課題を見出すことから出発します。ゼミナールの基本的な流れはゼミナールⅠと共通しています。ある問題について自らテーマを設定すること、その関心を持ったテーマに関する資料やデータを収集すること、収集した情報の読解や整理分析を通して自分の相応な結論を導き出すこと等が一連の流れですが、その第一ステップとしてゼミナール参加者に実際に各自の仮テーマを選んでもらい、それについて発表をしていただきます。そのため、各自自分の問題意識を持って、取り組んでいただく必要があります。</p> <p>取り分けゼミナールⅡでは、グループで論文を書く最後のまとめもなりますので、グループ論文の作成や、発表、グループ対抗のディベートなども重要な課題ですが、各自の積極的な意識や関わり方が最も重要だと思います。何に関心があるかと問われても答えにくかったり、考えづらかったりするかも知れません。ただ、各人が自分の将来に向かって、自分はどんなふうに生きたいのか、その時点時点における自己表現だと思って、是非自分探しと自己表現にチャレンジしてみることに、そうしたポジティブな姿勢が就職戦線を乗り切る上に、有益なのではないかと思います。</p>								
到達目標	自分が選んだ問題設定に、相応な答えを見だし、文章作成やプレゼンテーション力を駆使して縦横にそれらを活用できる力を身につけることができる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	自分の興味を持った研究テーマについてできれば毎日でも時間を割いて調べるぐらいの情熱がほしいですが、毎週2時間程度は授業外学修時間にあてるように努めてください。ゼミは共同作業がたくさんあり、ゼミの時間以外にもお互いにしっかり連絡を取り合って、議論を重ねたり、分担を確認したりする必要もあって、それも大切な勉強の一つです。ゼミナールは特に発表グループが決まってからは、グループごとに自分たちで時間を決めて様々な作業や執筆など共同作業をする必要もあります。(授業外で計120時間以上)								
授業計画	<p>日頃から様々な情報を通じて、現代社会に関心を持ち、興味に応じてそれらに速やかにアプローチすることを心がけましょう。</p> <p>【第1回】ゼミナールの基礎的ガイダンス 【第2回】最近の社会事象を考えよう① 【第3回】最近の社会事象を考えよう② 【第4回】論文作成の基本① 【第5回】論文作成の基本② 【第6回】課題資料の読解(教員提供)① 【第7回】課題資料の読解(教員提供)② 【第8回】課題資料の読解(教員提供)③ 【第9回】課題資料の読解(教員提供)④ 【第10回】各自の関心があるテーマ発表① 【第11回】各自の関心があるテーマ発表② 【第12回】問題点別グループ編成 【第13回】グループ別討論・問題設定① 【第14回】グループ別討論・問題設定② 【第15回】グループ内役割分担・合宿等準備</p> <p>【第16回】夏期休暇中の個人分担の成果まとめ 【第17回】グループ論文の執筆と整理(定期報告)① 【第18回】グループ論文の執筆と整理(定期報告)② 【第19回】グループ論文の執筆と整理(定期報告)③ 【第20回】グループ論文の執筆と整理(定期報告)④ 【第21回】グループ論文完成、ゼミ内仮発表① 【第22回】グループ論文完成、ゼミ内仮発表② 【第23回】プレゼンテーション作成とその方法 【第24回】プレゼンテーション作成の実習と整理① 【第25回】プレゼンテーション作成と実習整理② 【第26回】プレゼンテーション作成と実習整理③ 【第27回】ゼミ論最終発表会(学内ゼミ大会参加の場合は別課題)① 【第28回】ゼミ論最終発表会(学内ゼミ大会参加の場合は別課題)② 【第29回】各グループゼミ論文に関する討論・講評 【第30回】ゼミ成果最終提出日、反省会</p>								
成績評価の方法	グループ論文ないしは個人論文を審査して、その成績に応じて評価配点する(100%)。								
フィードバックの内容	ゼミナールは随時学生と教員が意見交換しながら授業を進める形式であるため、常に進行等においては、前回の反省点を確認しつつ進める必要があり、盛り上がりがない展開とならないよう注意したい。								
教科書									
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ									
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部学科にて定めるオフィスアワーにて受け付けます。森山のオフィスアワーは金曜日2時限の予定。ただ、各自の状況に応じて対応しますので、その場合は事前にお知らせください。								
アクティブラーニングの内容	この授業ではTeamsを使って、教員・学生双方から情報や発表資料をUPしつつ、またその資料を題材に議論を進め、校正・添削等を行いながら、授業を進めることとなります。								
その他									

講義コード	11C0125766	授業形態	演習	抽選の有無	あり	担当教員		開講期	
科目名	ゼミナールⅡ(山口)				山口 和男		通年		
履修前提条件					備考				
授業の目的	論文の執筆およびプレゼンテーションを行うことによって、論理的な思考能力やプレゼンテーション能力を養うことを目的とする。								
到達目標	自らテーマを見つけ、そのテーマについて論理的に考察し、その考察について分かりやすくプレゼンテーションができるようになる。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	授業外に論文の執筆およびプレゼンテーション資料の作成を行うこと。 授業外に計120時間以上の学修を行うこと。								
授業計画	<p>【第1回】 ガイダンス</p> <p>【第2回】 論文の執筆およびプレゼンテーション1</p> <p>【第3回】 論文の執筆およびプレゼンテーション2</p> <p>【第4回】 論文の執筆およびプレゼンテーション3</p> <p>【第5回】 論文の執筆およびプレゼンテーション4</p> <p>【第6回】 論文の執筆およびプレゼンテーション5</p> <p>【第7回】 論文の執筆およびプレゼンテーション6</p> <p>【第8回】 論文の執筆およびプレゼンテーション7</p> <p>【第9回】 論文の執筆およびプレゼンテーション8</p> <p>【第10回】 論文の執筆およびプレゼンテーション9</p> <p>【第11回】 論文の執筆およびプレゼンテーション10</p> <p>【第12回】 論文の執筆およびプレゼンテーション11</p> <p>【第13回】 論文の執筆およびプレゼンテーション12</p> <p>【第14回】 論文の執筆およびプレゼンテーション13</p> <p>【第15回】 論文の執筆およびプレゼンテーション14</p> <p>【第16回】 論文の執筆およびプレゼンテーション15</p> <p>【第17回】 論文の執筆およびプレゼンテーション16</p> <p>【第18回】 論文の執筆およびプレゼンテーション17</p> <p>【第19回】 論文の執筆およびプレゼンテーション18</p> <p>【第20回】 論文の執筆およびプレゼンテーション19</p> <p>【第21回】 論文の執筆およびプレゼンテーション20</p> <p>【第22回】 論文の執筆およびプレゼンテーション21</p> <p>【第23回】 論文の執筆およびプレゼンテーション22</p> <p>【第24回】 論文の執筆およびプレゼンテーション23</p> <p>【第25回】 論文の執筆およびプレゼンテーション24</p> <p>【第26回】 論文の執筆およびプレゼンテーション25</p> <p>【第27回】 論文の執筆およびプレゼンテーション26</p> <p>【第28回】 論文の執筆およびプレゼンテーション27</p> <p>【第29回】 論文の執筆およびプレゼンテーション28</p> <p>【第30回】 論文の執筆およびプレゼンテーション29</p>								
成績評価の方法	執筆された論文 (50%) およびプレゼンテーション (50%) による。								
フィードバックの内容									
教科書									
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ									
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部学科にて定めるオフィスアワーにて受け付けます。								
アクティブラーニングの内容	ゼミナール								
その他									

講義コード	11C0125767	授業形態	演習	抽選の有無	あり	担当教員		開講期	
科目名	ゼミナールⅡ(吉田)				吉田 友美		通年		
履修前提条件					備考				
授業の目的	各自の興味関心にしたがって、レポートを執筆し、その内容についてプレゼンを実施する。								
到達目標	(1) 論文を執筆できるようになる。 (2) 他人にわかりやすく研究内容を説明できるようになる。 (3) 他人の研究内容に対して、的確に質問やコメントができるようになる。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	講義およびグループワークによる作業や議論が中心となるため、データ収集や資料のとりまとめなど、各自の分担作業については授業時間外に行う必要がある。それらの作業に関して計120時間以上の授業外学修を実施することを推奨する。また、所定の授業時間以外に、単位取得上必須となる学外での現地調査を実施する。								
授業計画	<p>【第1回】 ガイダンス 【第2回】 グループ研究 【第3回】 グループ研究 【第4回】 グループ研究 【第5回】 グループ研究 【第6回】 グループ研究 【第7回】 レポート執筆 【第8回】 レポート執筆 【第9回】 レポート執筆 【第10回】 レポート執筆 【第11回】 プレゼン準備・ポート執筆 【第12回】 プレゼン準備・ポート執筆 【第13回】 プレゼン準備・ポート執筆 【第14回】 中間発表 【第15回】 中間発表</p> <p>【第16回】 ガイダンス 【第17回】 グループ研究 【第18回】 グループ研究 【第19回】 グループ研究 【第20回】 グループ研究 【第21回】 グループ研究 【第22回】 プレゼン準備・ポート執筆 【第23回】 プレゼン準備・ポート執筆 【第24回】 プレゼン準備・ポート執筆 【第25回】 プレゼン準備・ポート執筆 【第26回】 プレゼン準備・ポート執筆 【第27回】 プレゼン準備・ポート執筆 【第28回】 プレゼン準備・ポート執筆 【第29回】 最終プレゼン 【第30回】 最終プレゼン</p>								
成績評価の方法	レポート・プレゼン内容 (100%)								
フィードバックの内容	レポート・プレゼンについて講評する								
教科書	授業中に指示								
指定図書	授業中に指示								
参考書	授業中に指示								
教員からのお知らせ									
オフィスアワー	木曜5限、事前にメールにてアポイントメントを取ることが望ましい。								
アクティブラーニングの内容	能動的な授業外学修								
その他									

講義コード	11C0125768	授業形態	演習	抽選の有無	あり	担当教員		開講期	
科目名	ゼミナールⅡ(渡部)				渡部 真弘		通年		
履修前提条件					備考				
授業の目的	経済問題や社会問題の本質を明確に捉えるために必要なミクロ経済学的視点と分析能力を培うことを目的とする。各自の問題意識に基づく成果を集約したレポートを提出することを目的とする。								
到達目標	(1) 企業の経営戦略を考える問題や組織・制度の在り方を考える問題といった題材を、ミクロ経済的な視点で論理的に考察することが可能となる。 (2) 分かりやすい資料作成や発表の技術が身につく。 (3) 他者の発表に対して積極的に質問することができるように聴く姿勢が身につく。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	課題に関連する文献の内容把握や発表の準備に加えて、期末試験の代替として課されるレポート(論文)作成に向けて、週に少なくとも4時間(計120時間以上)の授業時間外の学修が必要である。								
授業計画	<p>【第1回】第1期の活動に関するオリエンテーション、個々の学生の興味・関心の把握</p> <p>【第2回】文献輪読、学生による発表(1-1)</p> <p>【第3回】文献輪読、学生による発表(1-2)</p> <p>【第4回】文献輪読、学生による発表(1-3)</p> <p>【第5回】文献輪読、学生による発表(1-4)</p> <p>【第6回】文献輪読、学生による発表(1-5)</p> <p>【第7回】文献輪読、学生による発表(1-6)</p> <p>【第8回】文献輪読、学生による発表(1-7)</p> <p>【第9回】文献輪読、学生による発表(1-8)</p> <p>【第10回】文献輪読、学生による発表(1-9)</p> <p>【第11回】文献輪読、学生による発表(1-10)</p> <p>【第12回】文献輪読、学生による発表(1-11)</p> <p>【第13回】文献輪読、学生による発表(1-12)</p> <p>【第14回】文献輪読、学生による発表(1-13)</p> <p>【第15回】第1期の振り返り</p> <p>【第16回】第2期の活動に関するオリエンテーション</p> <p>【第17回】文献輪読、学生による発表(2-1)</p> <p>【第18回】文献輪読、学生による発表(2-2)</p> <p>【第19回】文献輪読、学生による発表(2-3)</p> <p>【第20回】文献輪読、学生による発表(2-4)</p> <p>【第21回】文献輪読、学生による発表(2-5)</p> <p>【第22回】文献輪読、学生による発表(2-6)</p> <p>【第23回】文献輪読、学生による発表(2-7)</p> <p>【第24回】文献輪読、学生による発表(2-8)</p> <p>【第25回】文献輪読、学生による発表(2-9)</p> <p>【第26回】文献輪読、学生による発表(2-10)</p> <p>【第27回】文献輪読、学生による発表(2-11)</p> <p>【第28回】文献輪読、学生による発表(2-12)</p> <p>【第29回】文献輪読、学生による発表(2-13)</p> <p>【第30回】第2期の振り返り</p>								
成績評価の方法	評価割合は、各授業回の事前準備への取り組み姿勢40%、他者の発表に対する評価(レフェリーレポート)10%、第1期における中間報告20%、第2期における最終報告(レポートや論文)30%とする。 グループワークでは自分の担当箇所以外には関与しない傾向があるため、2024年度は、基本的には個人での提出物や発表の内容を成績評価の対象とする。								
フィードバックの内容	提出物や発表に対して講評を行う。								
教科書									
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ	レポート作成や発表資料作成に欠かせない Microsoft Word・Excel・PowerPoint や Latex といった各種ソフトウェアの操作については適宜指導する。授業に係る連絡や資料配布は、Microsoft Teams を通じて行う。								
オフィスアワー	オフィスアワー：木曜日3時限、2号館516研究室 本科目に関する質問は Microsoft Teams のチャット機能で随時受け付ける。								
アクティブラーニングの内容	(1) 教員からのフィードバックによる振り返り：提出物や発表に対して講評を行う。 (2) 能動的な授業外学修：図書館のデータベースの活用								
その他	(1) MOSのような検定資格取得に向けた授業をするように脅迫されたことがあるが、Ph.D.を取得していなくても教えられるものはゼミナールで扱わない。シラバスに沿って学生を指導する。 (2) ゼミナール大会・ゼミナール協議会にかかわる事項は教授会審議事項ではないため、シラバスにおいて事前に義務化する内容を確認することが困難である。学生の自己責任の範囲でかかわること。								

講義コード	授業形態	演習	抽選の有無	あり	担当教員	開講期
科目名	ゼミナールⅢ				各担当教員	集中
履修前提条件	備考					
授業の目的	ゼミナールⅢは、在学中における学習成果をもとに、各自が研究テーマを設定し、担当教員の指導助言を受けながら自主的な研究をすすめ、最終的な報告をすることを目的とする。本演習を通じて、これまでにゼミナールⅠ・Ⅱにおいて得た知識、技術、考え方を生かして、問題発見・課題設定・問題解決能力を養成し、社会人として求められる知識や能力を習得することが期待される。					
到達目標	<p>本科目を通じて、以下の能力が得られることを到達目標とする。</p> <p>①問題の所在を見出し解決すべき課題を設定する。 ②文献資料・データの収集・分析を通じて問題を解決する。 ③得られた結論を論理的に整理し報告することができる。</p>					
授業外学修内容・授業外学修時間数	<p>①研究テーマに関連する分野の文献を読むこと ②新聞等を通じて社会情勢をチェックすること (計120時間以上)</p>					
授業計画	<p>【第1回】 指導教員指導：問題意識の具体化 明確化 【第2回】 指導教員指導：調査分析方法の確認 【第3回】 指導教員指導：仮テーマの決定 【第4回】 指導教員指導：テーマ（論題）の最終決定 【第5回】 指導教員指導：報告スケジュールの決定 【第6回】 学生による分析1 【第7回】 学生による分析2 【第8回】 学生による分析3 【第9回】 中間報告1 【第10回】 学生による分析4 【第11回】 学生による分析5 【第12回】 中間報告2 【第13回】 学生による分析6 【第14回】 学生による分析7 【第15回】 夏季休業中の執筆計画の報告と指導 【第16回】 中間報告3 【第17回】 学生による分析8 【第18回】 学生による分析9 【第19回】 中間報告4 【第20回】 学生による分析10 【第21回】 学生による分析11 【第22回】 中間報告5 【第23回】 学生による分析12 【第24回】 学生による分析13 【第25回】 中間報告6 【第26回】 学生による分析14 【第27回】 学生による分析15 【第28回】 最終報告の確認と最終修正指示 【第29回】 最終報告の準備 【第30回】 最終報告</p>					
成績評価の方法	原則としては、最終報告等（60%）および当該学生の履修態度（40%）によって評価するが、各担当教員によって若干の変更の可能性がある。					
フィードバックの内容	指導の中で適宜フィードバックする。					
教科書						
指定図書						
参考書						
教員からのお知らせ	個別授業に関しては、担当教員の指示に従うこと。					
オフィスアワー	この授業は複数クラスなので、オフィスアワーあるいは質問対応可能時間の詳細については各担当教員に問い合わせること。					
アクティブラーニングの内容	ゼミナール					
その他						

講義コード		授業形態	演習	抽選の有無	あり	担当教員		開講期	
科目名	卒業論文				各担当教員		集中		
履修前提条件					備考				
授業の目的	経済学部が開設する卒業論文は、在学中における学習成果をもとに、各自が研究テーマを設定し、担当教員の指導助言を受けながら、論文を作成するものである。卒業研究の目的は、第一に問題発見・課題設定・問題解決能力を養成すること、第二に、社会人として求められる知識や能力を習得することである。								
到達目標	本科目を通じて、以下の能力が得られることを到達目標とする。 ①問題の所在を見出し解決すべき課題を設定する。 ②文献資料・データの収集・分析を通じて問題を解決する。 ③得られた結論を論理的に整理し報告することができる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	①研究テーマに関連する分野の文献を読むこと ②新聞等を通じて社会情勢をチェックすること (計120時間以上)								
授業計画	【第1回】 指導教員指導：問題意識の具体化 明確化 【第2回】 指導教員指導：調査分析方法の確認 【第3回】 指導教員指導：仮テーマの決定 【第4回】 指導教員指導：テーマ（論題）の最終決定 【第5回】 指導教員指導：報告スケジュールの決定 【第6回】 学生による分析 【第7回】 学生による分析 【第8回】 学生による分析 【第9回】 中間報告 【第10回】 学生による分析 【第11回】 学生による分析 【第12回】 中間報告 【第13回】 学生による分析 【第14回】 学生による分析 【第15回】 夏季休業中の執筆計画の報告と指導				【第16回】 中間報告 【第17回】 学生による分析 【第18回】 学生による分析 【第19回】 中間報告 【第20回】 学生による分析 【第21回】 学生による分析 【第22回】 中間報告 【第23回】 学生による分析 【第24回】 学生による分析 【第25回】 中間報告 【第26回】 学生による分析 【第27回】 学生による分析 【第28回】 最終報告の確認と最終修正指示 【第29回】 最終報告の準備 【第30回】 最終報告				
成績評価の方法	原則としては、卒業論文の質（90%）および当該学生の履修態度（10%）によって評価するが、各担当教員によって若干の変更の可能性がある。								
フィードバックの内容	指導の中で適宜フィードバックする。								
教科書									
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ									
オフィスアワー	この授業は複数クラスなので、オフィスアワーあるいは質問対応可能時間の詳細については各担当教員に問い合わせること。								
アクティブラーニングの内容	卒業論文								
その他									

講義コード	14C0126401	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員		開講期	
科目名	体育講義C				山中 浩敬		第1期		
履修前提条件					備考				
授業の目的	人生最大の買い物は大病である。これをできる限り予防するためには様々なアプローチが挙げられるが、本講義では学生が主に運動及び食事から少しでも健康に生きる方法を理解・実行できるようにする。								
到達目標	学生がテーマについて主体的に検討し、実生活の中で改善ができるよう理解を深める。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	各テーマにおける調査、実践を行う。60時間以上の授業外学修を行うこと。								
授業計画	【第1回】 ガイダンス（方針、進め方等） 【第2回】 子どもと運動 【第3回】 運動不足と心身への影響、運動と収入 【第4回】 トレーニングについて-美しいカラダを手に入れるために- 【第5回】 トレーニングについて：テーマ別グループワーク① 【第6回】 トレーニングについて：テーマ別グループワーク② 【第7回】 トレーニングについて：テーマ別グループワーク③ 【第8回】 トレーニングについて：プレゼン 【第9回】 トレーニングについて：プレゼン 【第10回】 トレーニングについて：プレゼン、食生活の重要性、ダイエットの誤りについて 【第11回】 食生活の重要性、ダイエットの誤りについて：テーマ別グループワーク① 【第12回】 食生活の重要性、ダイエットの誤りについて：テーマ別グループワーク② 【第13回】 食生活の重要性、ダイエットの誤りについて：プレゼン 【第14回】 食生活の重要性、ダイエットの誤りについて：プレゼン 【第15回】 食生活の重要性、ダイエットの誤りについて：プレゼン								
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢（40点）、各テーマにおけるプレゼンテーション（30点×2）								
フィードバックの内容	各テーマにおけるフィードバックはプレゼンテーション時または次回授業時に行う。また、グループワーク時に質問等があれば進行上可能な範囲内で対応する。								
教科書									
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ	参考書等は、知見が変化することもあり、web等も普及した中で論文検索もできることから特に指定いたしません。本講義では、できるだけ身近なテーマを学び、実生活に活用できるようにできればと考えております。								
オフィスアワー	月曜日、火曜日の授業前及び実施時間帯								
アクティブラーニングの内容	グループワーク、プレゼンテーション								
その他									

講義コード	14C0126501	授業形態	実技	抽選の有無	あり	担当教員		開講期	
科目名	体育実技C				山中 浩敬		第2期		
履修前提条件					備考				
授業の目的	バレーボールを通して学生が個々がお互いの強み、弱みを理解し、それぞれが力を発揮できるためのマネジメント力やコミュニケーション能力を身につける。								
到達目標	授業を通して、個々が力を発揮するためのマネジメント力やコミュニケーション能力を養う。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	能力の異なる個々のメンバーを生かすための検討、チーム練習等に15時間以上の授業外学修を行うこと。								
授業計画	【第1回】 ガイダンス（方針、進め方等） 【第2回】 チーム編成のためのトライアウト① 【第3回】 チーム編成のためのトライアウト② 【第4回】 ドラフト会議 【第5回】 チーム活動① 【第6回】 チーム活動② 【第7回】 登龍門①－ランニングパス－ 【第8回】 チーム活動③ 【第9回】 チーム活動④ 【第10回】 登龍門②－3段攻撃 【第11回】 絶対に負けられない戦い① 【第12回】 絶対に負けられない戦い② 【第13回】 絶対に負けられない戦い③ 【第14回】 絶対に負けられない戦い④ 【第15回】 絶対に負けられない戦い⑤								
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢（15点）、チーム成績（85点）：登龍門×2、試合×30								
フィードバックの内容	必要に応じて授業内にて対応								
教科書									
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ	スポーツが得意な方や苦手な方でも力を発揮する方法はあるはずです。それを受講生の皆さんが考えマネジメントできるようになりましょう。								
オフィスアワー	月曜日、火曜日の授業前及び実施時間帯								
アクティブラーニングの内容	グループワーク								
その他									

講義コード	11C0121601	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員		開講期	
科目名	地方財政論 1				金田 美加		第1期		
履修前条件					備考				
授業の目的	本講義は、地方財政の基本的な知識を習得し、わが国の地方政府の活動を論理的な視点で考えることができるようになることを目的とする。そのため、地方財政の基礎理論を学んでいく。 地方財政の現状と役割、公共財の理論を中心に取り上げる。講義では毎回資料の配布を WebClass で行う。								
到達目標	主たる目標：地方財政に関する基礎力を身につけ、地方財政制度や機能・役割を理解できること 従たる目標：より深い研究を志すものは、そのきっかけが掴めるようになること								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	各回に取り組んだ問題は必ず自分で解いて復習する、項目については語句説明文を作成する等の復習を行うこと。これら復習に要する時間を授業外学修時間とする。 履修者は、予習・復習として60時間以上（予習・復習として各回あたり4時間程度）を目安とした財政関連の授業外学修を行うことが望ましい。								
授業計画	【第1回】 第1期ガイダンス（講義の内容と進め方） 【第2回】 公共財・地方公共財 【第3回】 地方財政の機能と役割①（地方分権化定理とティボー理論の概説） 【第4回】 地方財政の機能と役割②（権限の委譲と権能差など） 【第5回】 地方税原則と税源配分 【第6回】 国と地方の財政関係①（地方財政計画、国と地方のプライマリーバランスなど） 【第7回】 国と地方の財政関係②（補助金制度など） 【第8回】 地方税収の現状①（租税収入の現状比較） 【第9回】 地方税収の現状②（地方債、財政健全化法など） 【第10回】 外部性の理論①（正の外部性と負の外部性） 【第11回】 外部性の理論②（外部性の解決方法） 【第12回】 公共財の理論①（公共財の最適配分） 【第13回】 公共財の理論②（公共財供給メカニズム：リンダールメカニズムなど） 【第14回】 公共財の理論③（公共財供給メカニズム：中位投票者定理など） 【第15回】 第1期の総括								
成績評価の方法	原則として大学の定める定期試験期間中に実施される定期試験100%で評価する。 詳細はガイダンス資料に記載（要確認）								
フィードバックの内容	講義で扱った問題については、授業終了後および WebClass メッセージ機能、Teams 等を利用して質問などを受け付ける。 詳細は初回ガイダンス資料に記載（要確認）								
教科書									
指定図書									
参考書	『地方財政論入門』佐藤主光（新世社）2009、『入門地方財政論 第3版』林宏昭、橋本恭之（中央経済社）2014								
教員からのお知らせ	初回ガイダンス資料から事前に WebClass にアップロードする。 成績評価の詳細、および、資料の配布方法等については、ガイダンス資料に記載しているので、初回ガイダンスに出席できない場合は必ず資料をダウンロードして内容を確認すること。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後の教室内および WebClass のメッセージ機能、Teams 等を利用して行う。 なお、質問等は随時受付とする。受付た質問等は次回までの講義日までには回答を行うものとする。								
アクティブラーニングの内容									
その他	●履修にあたっては、ミクロ経済学と財政学に関する基礎的な知識があると望ましい（または、基礎的な知識を得ようとする意欲があると望ましい）。 ●講義内容については、履修者の理解度に応じて、講義の順番や内容を変更する場合がある。 ●本授業は、対面授業を原則とする。 ●教科書は特に指定しない。必要に応じ、教員が用意した資料等の配布を WebClass にて行う。受講時には WebClass からダウンロードした資料を持参（タブレット可）して参加することが望ましい。 ●WebClass 上の機能を活用し、期間中に練習ドリルを2回ほど公開することで、自主的な追加学習を求める。								

講義コード	11C0121701	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員		開講期	
科目名	地方財政論2				金田 美加		第2期		
履修前条件					備考				
授業の目的	本講義は、地方財政の基本的な知識を習得し、わが国の地方政府の活動を論理的な視点で考えることができるようになることを目的とする。そのため、地方財政の基礎理論を学んでいく。租税による外部性と政府間補助金の理論を中心に取り上げる。講義では毎回資料の配布を WebClass で行う。								
到達目標	主たる目標：地方財政に関する基礎力を身につけ、地方財政制度や機能・役割を理解できること 従たる目標：より深い研究を志すものは、そのきっかけが掴めるようになること								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	各回に取り組んだ問題は必ず自分で解いて復習する、項目については語句説明文を作成する等の復習を行うこと。これら復習に要する時間を授業外学修時間とする。 履修者は、予習・復習として60時間以上（予習・復習として各回あたり4時間程度）を目安とした財政関連の授業外学修を行うことが望ましい。								
授業計画	【第1回】 第2期ガイダンス（講義の内容と進め方） 【第2回】 租税の各論①（所得課税と消費課税など） 【第3回】 租税の各論②（資本課税、地方税の経済分析など） 【第4回】 租税の各論③（供給の価格弾力性、固定資産税の経済分析、税の帰着など） 【第5回】 租税による外部性①（租税輸出論、重複課税と租税の外部性） 【第6回】 租税による外部性②（同時手番ゲームとナッシュ均衡） 【第7回】 租税による外部性③（租税競争論について） 【第8回】 租税による外部性④（スピルオーバー問題） 【第9回】 所得再分配機能と地方政府（所得再分配政策と福祉移住、地方債の食い逃げなど） 【第10回】 政府間財政移転の理論①（補助金の効果、税制調整と財源保障） 【第11回】 政府間財政移転の理論②（逐次手番ゲームとナッシュ均衡） 【第12回】 政府間財政移転の理論③（補助金とソフトな予算制約など） 【第13回】 政府間財政移転の理論④（財政錯覚、等価定理とフライバーパー効果など） 【第14回】 政府間財政格差（財政余剰と個人の厚生、格差の計測など） 【第15回】 第2期の総括								
成績評価の方法	原則として大学の定める定期試験期間中に実施される定期試験100%で評価する。 詳細はガイダンス資料に記載（要確認）								
フィードバックの内容	講義で扱った問題については、授業終了後および WebClass メッセージ機能、Teams 等を利用して質問などを受け付ける。 詳細は初回ガイダンス資料に記載（要確認）								
教科書									
指定図書									
参考書	『地方財政論入門』佐藤主光（新世社）2009、『入門地方財政論 第3版』林宏昭、橋本恭之（中央経済社）2014								
教員からのお知らせ	初回ガイダンス資料から事前に WebClass にアップロードする。 成績評価の詳細、および、資料の配布方法等については、ガイダンス資料に記載しているので、初回ガイダンスに出席できない場合は必ず資料をダウンロードして内容を確認すること。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後の教室内および WebClass のメッセージ機能、Teams 等を利用して行う。 なお、質問等は随時受付とする。受付た質問等は次回までの講義日までには回答を行うものとする。								
アクティブラーニングの内容									
その他	●履修にあたっては、ミクロ経済学と財政学に関する基礎的な知識があると望ましい（または、基礎的な知識を得ようとする意欲があると望ましい）。 ●講義内容については、履修者の理解度に応じて、講義の順番や内容を変更する場合がある。 ●本授業は、対面授業を原則とする。 ●教科書は特に指定しない。必要に応じ、教員が用意した資料等の配布を WebClass にて行う。受講時には WebClass からダウンロードした資料を持参（タブレット可）して参加することが望ましい。 ● WebClass 上の機能を活用し、期間中に練習ドリルを2回ほど公開することで、自主的な追加学習を求める。								

講義コード	11C0120701	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員		開講期	
科目名	中級マクロ経済学Ⅰ／中級マクロ経済学／特殊講義(中級マクロ経済学)				慶田 昌之		第1期		
履修前提条件	備考								
授業の目的	2年生のマクロ経済学を学んだ後に、経済成長と景気循環に関する通時的マクロ経済モデルの基本的な考え方を学び、経済学検定試験 (ERE ミクロ・マクロ) のマクロ分野の問題の演習をする。								
到達目標	通時的マクロ経済モデルを用いて経済成長と景気循環に関する分析が可能となるように、モデルに習熟する。経済学検定試験 (ERE ミクロ・マクロ) のマクロ分野の問題を解けるようになる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	この講義の授業外学修時間は60時間必要である。教科書を読み、理解できない点を明らかにして講義に臨むこと。								
授業計画	【第1回】 合理的期待形成仮説 (1) 【第2回】 合理的期待形成仮説 (2) 【第3回】 資産価格と資本蓄積 【第4回】 新古典派成長モデル (1) 【第5回】 新古典派成長モデル (2) 【第6回】 新古典派成長モデルの実証的含意 【第7回】 世代重複モデル (1) 【第8回】 世代重複モデル (2) 【第9回】 世代重複モデル (3) 【第8回】 消費の恒常所得仮説 【第9回】 調整費用とトービンの q (1) 【第10回】 調整費用とトービンの q (2) 【第11回】 消費パターンの平準化と資産価格 【第12回】 不確実性と資産価格 (1) 【第13回】 不確実性と資産価格 (2) 【第14回】 資産市場と情報の伝達 【第15回】 資産価格決定モデルの実証研究								
成績評価の方法	講義内の小テストの成績による (100%)。								
フィードバックの内容	授業内でフィードバックする。								
教科書	『新しいマクロ経済学：クラシカルとケインジアンとの邂逅』齊藤 誠 (有斐閣) 2006、『CBT ERE ミクロ・マクロ 経済学検定試験 対策問題集』経済法令研究会 (経済法令研究会) 2021								
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ	『マクロ経済学基礎』『マクロ経済学』の単位を修得済みであることが望ましい。この講義内容を理解するためには、数学、特に微分の知識を必要とする。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部学科にて定めるオフィスアワーにて受け付けます。								
アクティブラーニングの内容	意見共有								
その他	この講義は、『ERE マクロ演習』とセットで受講することを推奨する。この講義においても ERE の問題演習を行う。								

講義コード	11C0120601	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員		開講期	
科目名	中級ミクロ経済学Ⅰ／中級ミクロ経済学／特殊講義(中級ミクロ経済学)				宮岡 暁		第1期		
履修前提条件	備考								
授業の目的	この授業では、2年次科目「ミクロ経済学」の内容をベースとして、ミクロ経済学のやや発展的な内容について解説を行います。特に「ミクロ経済学」で学修した内容について、数学 (微分・偏微分) を用いてより厳密に分析を行う方法について学修します。公務員試験や経済学検定試験 (ERE) の問題が解けるようになることを目標に問題演習も行います。								
到達目標	①消費者の様々な意思決定 (財の消費量の選択・余暇と労働の選択) について、グラフや数式を使った分析ができる。 ②生産者の意思決定 (費用最小化・利潤最大化) について、グラフや数式を使った分析ができる。 ③純粋交換経済の市場均衡やその効率性について、図やグラフによる分析ができる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	この科目では、60時間以上の授業外学修を行ってください。予習は必要としませんが、復習をしっかりと行うことが大切です。毎回の授業では、その回の内容を復習するための課題 (要提出) を出題するので、しっかりと取り組むようにしてください。								
授業計画	【第1回】 ガイダンス／微分と偏微分 【第2回】 消費者行動① 財の消費量の選択 【第3回】 消費者行動② 財の消費量の選択 (続) 【第4回】 消費者行動③ 余暇と労働の選択 【第5回】 消費者行動④ 余暇と労働の選択 (続) 【第6回】 生産者行動① 生産関数と利潤最大化 【第7回】 生産者行動② 生産関数と費用最小化 【第8回】 生産者行動③ 様々な費用 【第9回】 生産者行動④ 利潤最大化 【第10回】 短期と長期の市場均衡 【第11回】 余剰分析 【第12回】 純粋交換経済① エッジワース・ボックス 【第13回】 純粋交換経済② 市場均衡 【第14回】 純粋交換経済③ パレート効率性 【第15回】 純粋交換経済④ 市場均衡の効率性								
成績評価の方法	課題 (約30%) + 期末試験 (約70%) で評価します。								
フィードバックの内容	課題の解答例を提出後後に掲示するとともに、講評を翌週授業内に行います。								
教科書									
指定図書									
参考書	『ミクロ経済学をつかむ』神戸伸輔 / 寶多康弘 / 濱田弘潤 (有斐閣) 2006年、『ミクロ経済学』奥野正寛 (東京大学出版会) 2008年、『ミクロ経済学』芦谷政浩 (有斐閣) 2009年、『ミクロ経済学の力』神取道宏 (日本評論社) 2014年								
教員からのお知らせ	この授業では特定の教科書は使用しません。配布資料や連絡事項については、Microsoft Teams のアプリを利用して掲示する予定です。詳細については初回の授業で説明します。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、下記の方法で受け付けます： ○学部学科にて定めるオフィスアワー ○メール (宛先は授業内で指示します) ○Microsoft Teams のチャット機能								
アクティブラーニングの内容	教員からのフィードバックによる振り返り								
その他	①授業内でも適宜復習を行います。原則として2年次科目「ミクロ経済学」を履修済みであることを前提とします。 ②この授業では微分および偏微分を使用します。授業内でも解説を行います。「経済数学」を履修済みあるいは並行して履修していると、理解がよりスムーズになります。 ③第2期開講科目「中級ミクロ経済学Ⅱ (ERE ミクロ演習)」とセットで履修することを推奨します。								

講義コード	11C0118501	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員	苑 志佳	開講期	第1期
科目名	中国経済論1 / 中国経済A				苑 志佳		第1期		
履修前提条件					備考				
授業の目的	<p>これまでの40数年間の改革・開放時期を経た中国はかつての最貧国から高所得国になり、世界第2位の経済規模にもなった。世界経済史からみても中国経済の達成は類のない成功例である。中国経済はこれまで、どのように高度成長を実現したか。その高度成長のメカニズムはどのようなものであるか。さらに、中国経済は今後どのように変化していくか。本講義は上記の諸点を問題意識とし、歴史・制度・世界政治・経済システムなど多様な視点から中国経済の発展メカニズムを検証する。本講義では、中国経済を研究する視点・分析方法を紹介し、中国経済発展の初期条件、計画経済体制の形成・変容、経済発展の方針・手段・問題点、改革開放路線の導入および市場経済体制の確立、現段階の経済構造・特徴、などについて順次講義する。</p>								
到達目標	<p>本講義は、中国経済に関心を持つ素人のために設計されたものである。本講義を履修することによって中国経済の発展過程を全般的に把握することができる。また、本講義の勉強を通じて、中国経済の発展メカニズムおよび経済の主要側面を理解することができる。</p>								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	<p>1. この科目では、60時間以上の授業外学修を行うこと。 2. 毎週の授業前に講義ファイルを復習資料として入手し、予習する。 3. 授業のテーマに関連する資料・参考書を自ら収集し、授業後関連章節を読む。</p>								
授業計画	<p>【第1回】 イントロダクション 【第2回】 中国はどのような国か 【第3回】 歴史的回顧（1） 【第4回】 歴史的回顧（2） 【第5回】 現在の政治と経済 【第6回】 政府の役割 【第7回】 金融制度 【第8回】 工業・技術 【第9回】 企業制度（1） 【第10回】 企業制度（2） 【第11回】 労働・雇用制度 【第12回】 財政制度 【第13回】 農業・農政 【第14回】 人口・社会保障 【第15回】 総括：総合学習効果</p>								
成績評価の方法	出席者の成績は、授業への取り組み姿勢（20%）と総合学習効果（80%）を合わせて決める。								
フィードバックの内容	講義された課題に対する講評を翌週授業の冒頭にて行う。								
教科書	『中国経済入門』南亮進・牧野文夫（日本評論社）2016年								
指定図書	『現代中国経済』丸川知雄（有斐閣アルマ）2021年								
参考書	『現代中国企業変革の担い手』苑 志佳（批評社）2009年								
教員からのお知らせ	<p>上記のテキストブック以外に下記の資料を丁寧に作成・保管することを強く薦める。 （1）授業ノート； （2）講義 PPT ファイル資料。 講義ファイルは立正 HP 画面からダウンロードすることができる。原則として、授業期間中にはプリントアウトを配布しない。</p>								
オフィスアワー	<p>－月曜日3限 －品川キャンパス2号館508室 －事前に<0918@ris.ac.jp>に連絡すること</p>								
アクティブラーニングの内容 その他	意見共有、能動的な授業外学修								

講義コード	11C0118601	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員	苑 志佳	開講期	第2期
科目名	中国経済論2 / 中国経済B				苑 志佳		第2期		
履修前条件					備考				
授業の目的	改革・開放期以降、目覚ましい経済発展を遂げた中国は、世界経済に占める比重が高まり、世界経済との結びつきも急速に強まった。一方、体制の違いによって米国と中国は対立するようになった。米中の分断は世界経済にも深刻な影響を与える。本講義は、中国経済の発展と世界経済との関連を問題意識とし、改革・開放というキーワードにおける「(対外)開放」を中心に講義する。講義では、中国が対外開放政策を採用した背景・過程・現状および問題点を総合的に考察する。具体的には、中国の対外経済パフォーマンス、経済の国際化過程における対外貿易、外国資本の対内直接投資、中国企業の対外直接投資、通貨人民元の改革と国際化、主要国・地域との経済関係（米中経済、日中経済）などを詳細に解説する。								
到達目標	本講義を通じて中国経済の対外的側面および世界経済との関連性を理解することができる。また、本講義を履修する学生は、中国経済と主要国経済との関係に関する知識を勉強することができる。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	1. この科目では、60時間以上の授業外学修を行うこと。 2. 毎週の授業後に講義ファイルを復習資料として入手し、復習する。 3. 授業のテーマに関連する資料・参考書を自ら収集し、授業後関連章節を読む。								
授業計画	【第1回】 イントロダクション 【第2回】 対外開放の展開 【第3回】 中国経済と国際分業 【第4回】 対外貿易 【第5回】 海外資本「引進來」 【第6回】 中国における外資系企業 【第7回】 中国資本「走出去」 【第8回】 世界に現れた中国企業 【第9回】 人民元の国際化 【第10回】 中国経済と海外華人 【第11回】 日中経済 【第12回】 米中経済 【第13回】 中台経済 【第14回】 中国と世界 【第15回】 総括：総合学習効果								
成績評価の方法	1. 成績判定方針：本授業の内容は強い前後連携関係があり、継続的な出席は不可欠であるため、出席者の成績は、出席状況と総合学習効果（テスト）を合わせて決める。 2. 総合学習効果の点数+出席状況で判定する。 3. 出席者の成績は、授業への取り組み姿勢（20%）と総合学習効果（80%）を合わせて決める。								
フィードバックの内容	講義された課題に対する講評を翌週授業の冒頭にて行う。								
教科書	『1.中国企業対外直接投資のフロンティア』苑 志佳（創成社）2014年								
指定図書	『2.世界進出する中国型多国籍企業』苑 志佳（創成社）2023年								
参考書	『チャイナ・ショックの経済学』大橋英夫（大橋英夫）2020年								
教員からのお知らせ	上記のテキストブック以外に下記の資料を丁寧に作成・保管することを強く薦める。 （1）授業ノート； （2）講義PPTファイル資料。 講義ファイルは立正 HP 画面からダウンロードすることができる。原則として、授業期間中にはプリントアウトを配布しない。								
オフィスアワー	- 月曜日3限 - 品川キャンパス2号館508室 - 事前に<0918@ris.ac.jp>に連絡すること								
アクティブラーニングの内容 その他	意見共有、能動的な授業外学修								

講義コード	授業形態	講義・演習	抽選の有無	あり	担当教員	開講期
科目名	中国語1			各担当教員		第1期
履修前提条件	備考					
授業の目的	この授業は、初めて中国語を学ぶ人を対象とする入門初級科目であり、発音と文法の基礎を中心に学びます。中国語入門の段階で最も重要な点は、中国語の発音とその表記法（ピンイン＝中国語のローマ字表記法）を習得することです。漢字を知っている日本人は、視覚的な漢字の意義やニュアンスに依存し、表面的な意味を理解して簡単に分かった気持ちになりがちですが、言葉は発音をしっかりと身に付けて初めて、コミュニケーションに役立てることができます。中国語の四つのリズム（四声）や日本語にはない発音を、しっかりと体で覚えること、および中国語の基礎的な文法（名詞、形容詞、動詞の各主述文）構造を学び、言葉の語順に習熟することを目的とします。					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・中国語の発音の基礎を習得し、ピンインや四声について説明し、正しく発音できる。 ・中国語の文法の基礎を習得し、簡単な文章を読むことができる。 ・中国語の基礎的な会話能力を習得し、中国の人と簡単な会話ができる。 ・中国語を通じ、中国についての基礎的な理解を深め、日中友好に寄与できる。 					
授業外学修内容・授業外学修時間数	発音は、授業の時だけの練習ではなかなか身につけません。授業が終わった後、毎回自分で音声聞き、声を出して反復練習し、学んだことを復習して下さい。発音の復習、テキストからの宿題を含め、この科目では15時間以上の授業外学修を行って下さい。					
授業計画	<p>【第1回】中国語ガイダンス（中国語とはどんな言葉か、テキスト・成績評価の確認） ウォーミングアップ 1.中国とはどんな国？ 2.中国語とは、どんな言葉？ 発音 1.声調（四声）2.声調の組み合わせ 3.単母音</p> <p>【第2回】前回の復習 発音 4.子音（無気音・有気音・そり舌音）5.複合母音（母音の組み合わせ）</p> <p>【第3回】前回の復習 発音 6.鼻母音 7.声調の変化、“儿”化、声調記号の付け方、注意すべきピンインのつづり ピンインの総まとめ</p> <p>【第4回】前回の復習 第1課 相遇 ポイント1 1.人称代名詞 2.判断動詞“是”3.疑問を表わす“吗”4.中国語の基本的な語順</p> <p>【第5回】第1課の復習 第1課 トレーニング1（練習問題）第2課 新しい単語確認</p> <p>【第6回】第2課の復習 第2課 交朋友 ポイント2 1.疑問詞疑問文 2.名前の尋ね方と答え方 3.動詞“有”4.語気助詞“了”</p> <p>【第7回】第2課の復習 第2課 トレーニング2 第3課 新しい単語確認</p> <p>【第8回】第3課の復習 第3課 聊天儿 ポイント3 1.名詞述語文 2.数量詞の位置 3.介詞“在～”4.場所を表わす代名詞</p> <p>【第9回】第3課の復習 第3課 トレーニング3 第4課 新しい単語確認</p> <p>【第10回】第4課の復習 第4課 想逛美食街 ポイント4 1.連動文 2.助動詞“想”3.語気助詞“吧”4.時刻の言い方</p> <p>【第11回】第4課の復習 第4課 トレーニング4 第5課 新しい単語確認</p> <p>【第12回】第5課の復習 第5課 汉语很有意思 ポイント5 1.助詞“的”2.形容詞述語文 3.動態助詞“过”4.動詞の重ね型</p> <p>【第13回】第5課の復習 第5課 トレーニング5 第6課 新しい単語確認</p> <p>【第14回】第6課の復習 第6課 中国見 ポイント6 1.二重目的語 2.禁止を表わす“别”と“不要”3.“的”構文 4.助動詞“能”</p> <p>【第15回】第6課の復習 第6課 トレーニング6 前期の総まとめ（もしくは学習確認テスト）</p>					
成績評価の方法	小テストの結果、授業における課題への取り組みなどの平常点（40%）、定期試験の結果（60%）を、原則、成績評価の対象とします。詳細について各担当教員の教員にご確認ください。					
フィードバックの内容	宿題の添削、小テストの解説によってフィードバックを行います。					
教科書	『活躍しよう！中国語 初級』徐送迎（朝日出版社）2023年					
指定図書						
参考書						
教員からのお知らせ	授業中は声を出して練習することを重視するので、積極的に発言するよう心がけて下さい。ただ授業に出席するだけでは評価しません。外国語の勉強は日々の積み重ねが大事です。授業の前後は必ず予習と復習をしましょう。授業では単語の聞き取りや会話の発音チェックなどの小テストがあります。					
オフィスアワー	この授業は複数クラスで行われています。オフィスアワーあるいは質問対応可能時間の詳細については、各担当教員にお問い合わせください。					
アクティブラーニングの内容	教員のフィードバックによる振り返り。各担当者によって異なりますが、学習する課題文型を学び、それを繰り返し練習しながら、パターン学習へ展開させ、応用的な学習へと導きます。常にフィードバックして共通理解を得つつ進めます。					
その他	このシラバスは専任の黄昱が代表して書いています。実際の授業の詳細については、各担当教員の指示に従ってください。					

講義コード		授業形態	講義・演習	抽選の有無	あり	担当教員	各担当教員	開講期	第2期
科目名	中国語2								
履修前提条件					備考				
授業の目的	この授業は入門初級科目であり、発音の基礎をふまえ、文法の基礎（名詞、形容詞、動詞の各主述文、完了や経験、動作の進行、比較など）を学びます。毎回、テキストの本文を正しく発音し、基礎的な文法をしっかりと覚えていきます。文法習得をメインとする授業ではありますが、最終的な目的は、自分自身のことを簡単な中国語で表現でき、中国人の友人と初歩的なコミュニケーションをとれるレベルに達することです。								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・中国語初級（中国語検定四級レベル）の基礎的な文法を運用し、簡単な文章を読み、書くことができる。 ・中国語の基礎的な学修を通じて、外国語の辞書や文法書を自ら活用し、語学学修に役立てることができる。 ・簡単な中国語で自分自身のことを表現でき、中国人と初歩的なコミュニケーションをとることができる。 ・中国語を通し、中国についての理解を深め、日中友好に寄与できる。 								
授業外学修内容・授業外学修時間数	発音は、毎日くりかえし練習しなければすぐに忘れてしまいます。授業が終わった後、毎回自分でCDを聞き、声を出して反復練習し、学んだことを復習して下さい。発音の復習、テキストからの宿題を含め、この科目では15時間以上の授業外学修を行って下さい。								
授業計画	<p>【第1回】前期の復習 後期授業の説明 第7課 新しい単語確認 【第2回】第7課の復習 第7課 紹介朋友 ポイント7 1. 動量補語 2. 指示代名詞 3. 挿入語“听说～” 4. 動態助詞“了” 【第3回】第7課の復習 第7課トレーニング7 第8課 新しい単語確認 【第4回】第8課の復習 第8課 談爱好 ポイント8 1. 動詞“喜欢” 2. 助動詞“会” 3. 反復疑問文 4. 助動詞“可以” 【第5回】第8課の復習 第8課トレーニング8 第9課 新しい単語確認 【第6回】第9課の復習 第9課 向行人问路 ポイント9 1. 道の尋ね方 2. 時量補語 3. 動態助詞“着” 4. 動詞“在” 【第7回】第9課の復習 第9課トレーニング9 【第8回】第7～9課の復習と中間確認テスト 第10課 新しい単語確認 【第9回】第10課の復習 第10課 在餐厅 ポイント10 1. 結果補語 2. 介詞“离～” 3. 選択疑問文“(是)A, 还是B” 4. 料理を注文する動詞“要”と“来” 【第10回】第10課の復習 第10課トレーニング10 第11課 新しい単語確認 【第11回】第11課の復習 第11課 去医院 ポイント11 1. 単純方向補語 2. 主述述語文 3. “是～的”構文 4. 介詞“给” 【第12回】第11課の復習 第11課トレーニング11 第12課 新しい単語確認 【第13回】第12課の復習 第12課 买土特产 ポイント12 1. 人民元と日本円 2. 副詞“在” 3. 比較文“A比B～” 4. 様態補語 【第14回】第12課の復習 第12課トレーニング12 【第15回】後期授業の総まとめ、あるいは期末確認テスト</p>								
成績評価の方法	小テストの結果、授業における課題への取り組みなどの平常点（40%）、定期試験の結果（60%）を、原則、成績評価の対象とします。詳細について各担当教員の教員にご確認ください。								
フィードバックの内容	宿題の添削、小テストの解説によってフィードバックを行います。								
教科書	『活躍しよう！中国語 初級』徐送迎（朝日出版社）2023年								
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ	授業中は声を出して練習することを重視するので、積極的に発言するよう心がけて下さい。ただ授業に出席するだけでは評価しません。外国語の勉強は日々の積み重ねが大事です。授業の前後は必ず予習と復習をしましょう。授業では単語の聞き取りや会話の発音チェックなどの小テストがあります。								
オフィスアワー	この授業は複数クラスで行われています。オフィスアワーあるいは質問対応可能時間の詳細については、各担当教員にお問い合わせください。								
アクティブラーニングの内容	教員からのフィードバックによる振り返り。各担当者によって異なりますが、学習する課題文型を学び、それを繰り返し練習しながら、パターン学習へ展開させ、応用的な学習へと導きます。常にフィードバックして共通理解を得つつ進めます。								
その他	このシラバスは専任の黄昱が代表して書いています。実際の授業の詳細については、各担当教員の指示に従ってください。								

講義コード		授業形態	講義・演習	抽選の有無	あり	担当教員	各担当教員	開講期	第1期
科目名	中国語3								
履修前提条件					備考				
授業の目的	この授業は、初めて中国語を学ぶ人を対象とする入門初級科目であり、発音と文法の基礎を中心に学びます。中国語入門の段階で最も重要な点は、中国語の発音とその表記法（ピンイン=中国語のローマ字表記法）を習得することです。漢字を知っている日本人は、視覚的な漢字の意義やニュアンスに依存し、表面的な意味を理解して簡単に分かった気持ちになりがちですが、言葉は発音をしっかりと身に付けて初めて、コミュニケーションに役立てることができます。中国語の四つのリズム（四声）や日本語にはない発音を、しっかりと体で覚えること、および中国語の基礎的な文法（名詞、形容詞、動詞の各主述文）構造を学び、言葉の語順に習熟することを目的とします。								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・中国語の発音の基礎を習得し、ピンインや四声について説明し、正しく発音できる。 ・中国語の文法の基礎を習得し、簡単な文章を読むことができる。 ・中国語の基礎的な会話能力を習得し、中国の人と簡単な会話ができる。 ・中国語を通じ、中国についての基礎的な理解を深め、日中友好に寄与できる。 								
授業外学修内容・授業外学修時間数	発音は、授業の時だけの練習ではなかなか身につけません。授業が終わった後、毎回自分で音声聞き、声を出して反復練習し、学んだことを復習して下さい。発音の復習、テキストからの宿題を含め、この科目では15時間以上の授業外学修を行って下さい。								
授業計画	<p>【第1回】中国語ガイダンス（中国語とはどんな言葉か、テキスト・成績評価の確認） ウォーミングアップ 1. 中国とはどんな国？ 2. 中国語とはどんな言葉？ 発音 1. 声調 2. 軽声 3. 単母音</p> <p>【第2回】前回の復習 発音 4. 子音 5. 複母音</p> <p>【第3回】前回の復習 発音 6. 鼻母音 7. 声調の組み合わせ 8. 声調変化 9. “儿”化 ピンインの総まとめ</p> <p>【第4回】前回の復習 第1課 自己紹介①－名前、出身 ポイント1 1. 人称代名詞 2. 名前の聞き方・名乗り方 3. 動詞“是” 4. 副詞“也・都”</p> <p>【第5回】第1課の復習 第1課応用練習 第2課新しい単語確認</p> <p>【第6回】第2課の復習 第2課 自己紹介②－所属・専攻 ポイント2 1. 動詞述語文 2. 指示代名詞“这・那・哪” 3. 場所代名詞“这儿・那儿・哪儿” 4. 疑問詞疑問文“谁・什么・哪儿・哪个” 5. 連体修飾語を作る“的”</p> <p>【第7回】第2課の復習 第2課応用練習 第3課新しい単語確認</p> <p>【第8回】第3課の復習 第3課 自己紹介③－家族について ポイント3 1. 所在を表す動詞“在” 2. 所有と存在を表す動詞“有” 3. 方位詞①“上・里” 4. 名詞述語文 5. 文末助詞“了”</p> <p>【第9回】第3課の復習 第3課応用練習 第4課新しい単語確認</p> <p>【第10回】第4課の復習 第4課 お誘い ポイント4 1. 前置詞“在” 2. 連動文 3. 反復疑問文 4. 年月日・曜日・時刻</p> <p>【第11回】第4課の復習 第4課応用練習 第5課新しい単語確認</p> <p>【第12回】第5課の復習 第5課 レストラン ポイント5 1. 選択疑問文 2. 願望を表す助動詞“想”、意志を表す助動詞“要” 3. 省略疑問文 4. 量詞</p> <p>【第13回】第5課の復習 第5課応用練習 第6課新しい単語確認</p> <p>【第14回】第6課の復習 第6課 買い物 ポイント6 1. 形容詞述語文 2. 比較 3. 助動詞“能”・“可以” 4. 100以上の数字</p> <p>【第15回】第6課の復習 第6課応用練習 前期の総まとめ（もしくは学習確認テスト）</p>								
成績評価の方法	小テストの結果、授業における課題への取り組みなどの平常点（40%）、定期試験の結果（60%）を、原則、成績評価の対象とします。詳細について各担当教員の教員にご確認ください。								
フィードバックの内容	宿題の添削、小テストの解説によってフィードバックを行います。								
教科書	『ライト版 中国語でコミュニケーション』沈国威 監修 / 氷野善寛 / 小嶋美由紀 / 海峽芳 / 紅粉芳恵 / 阿部慎太郎 共著（朝日出版社）2022年								
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ	授業中は声を出して練習することを重視するので、積極的に発言するよう心がけて下さい。ただ授業に出席するだけでは評価しません。外国語の勉強は日々の積み重ねが大事です。授業の前後は必ず予習と復習をしましょう。授業では単語の聞き取りや会話の発音チェックなどの小テストがあります。								
オフィスアワー	この授業は複数クラスで行われています。オフィスアワーあるいは質問対応可能時間の詳細については、各担当教員にお問い合わせください。								
アクティブラーニングの内容	教員からのフィードバックによる振り返り。各担当者によって異なりますが、学習する課題文型を学び、それを繰り返し練習しながら、パターン学習へ展開させ、応用的な学習へと導きます。常にフィードバックして共通理解を得つつ進めます。								
その他	このシラバスは専任の黄昱が代表して書いています。実際の授業の詳細については、各担当教員の指示に従ってください。								

講義コード		授業形態	講義・演習	抽選の有無	あり	担当教員	各担当教員	開講期	第2期
科目名	中国語4								
履修前提条件					備考				
授業の目的	中国語4は初めて中国語を学ぶ人を対象とする入門初級科目のひとつであり、中国語を受講する人は一年次に中国語1、2と並んで、この中国語3、4を受講する必要があります。中国語1、2は文法的基礎を中心として学ぶ科目であり、中国語3、4は日常的な会話表現を中心として学ぶ科目です。この中国語4は中国語3に続いて発音の基礎から、基礎文法も学びますが、日常的な会話表現の訓練を主な目的とする科目であり、中国語1、2と併せて中国語初級（中国語検定試験4級レベル）の修得を目標としています。								
到達目標	中国語入門の段階で最も重要な点は、中国語の発音とその表記法（ピンイン＝中国語のローマ字表記法）を習得することです。漢字を知っている日本人は、視覚的な漢字の意義やニュアンスに依存し、表面的な意味を理解して簡単に分かった気持ちになりがちですが、言葉は発音をしっかりと身に付けて初めて、コミュニケーションに役立てることができるのです。中国語の独特のアクセント（声調）や日本語にはない発音を、しっかりと体で覚えること、および中国語の基礎的な文法構造を学び、言葉の語順に習熟することを目標としています。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	新しい外国語を学ぶことは、新しい発音法やイントネーション、言葉の語順感覚に習熟する必要があり、それは口と耳を使った肉体的なトレーニングなのです。従って、授業の時だけの練習ではなかなか身につけません。授業外もテキストの録音を聞いたり、声に出して反復練習したり、学んだことを復習することを心がけましょう。（授業のほかに15時間を学修にあてること）								
授業計画	<p>【第1回】第1期の学習内容の復習と確認 第7課 道案内 ポイント7 1.時点と時量 2.前置詞“从・到・离” 3.結果補語 4.方位詞②</p> <p>【第2回】第7課の復習 第7課応用練習 第8課新しい単語確認</p> <p>【第3回】第8課の復習 第8課 趣味に関する雑談 ポイント8 1.助動詞“会” 2.動作の完了を表すアスペクト助詞“了” 3.様態補語 4.二重目的語をとる動詞</p> <p>【第4回】第8課の復習 第8課応用練習 第9課新しい単語確認</p> <p>【第5回】第9課の復習 第9課 旅行の計画 ポイント9 1.進行を表す“在～” 2.アスペクト助詞“过” 3.主述述語文 4.前置詞“对・给・跟”</p> <p>【第6回】第9課の復習 第9課応用練習 第10課新しい単語確認</p> <p>【第7回】第10課の復習 第10課 病院 ポイント10 1.“(是)～V的”構文 2.可能性を表す“会” 3.二つの「少し」「一点儿」と“有点儿”</p> <p>【第8回】第10課の復習 第10課応用練習 第11課新しい単語確認</p> <p>【第9回】第11課の復習 第11課 トラブル ポイント11 1.“把”構文 2.助動詞“得” 3.受身文</p> <p>【第10回】第11課の復習 第11課応用練習 第12課新しい単語確認</p> <p>【第11回】第12課の復習 第12課 ホテル ポイント12 1.方向補語 2.可能補語 3.使役文</p> <p>【第12回】第12課の復習 第12課応用練習 第13課新しい単語確認</p> <p>【第13回】第13課の復習 第13課 約束する ポイント13 1.複文 2.“有”を用いた連動文 3.禁止を表す副詞“别”</p> <p>【第14回】第13課の復習 第14課 掲示板を見る ポイント14 1.アスペクト助詞“着” 2.V 1着 V 2 3.存現文 4.近接未来“快～了”</p> <p>【第15回】中国語4の総まとめ、あるいは学習確認テスト</p>								
成績評価の方法	小テストの結果、授業における課題への取り組みなどの平常点（40%）、定期試験の結果（60%）を、原則、成績評価の対象とします。詳細について各担当教員の教員にご確認ください。								
フィードバックの内容	宿題の添削、小テストの解説によってフィードバックを行います。								
教科書	『ライト版 中国語でコミュニケーション』沈国威 監修 / 氷野善寛 / 小嶋美由紀 / 海峽芳 / 紅粉芳惠 / 阿部慎太郎 共著（朝日出版社）2022年								
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ	このシラバスは経済学部で中国語を統一的に実施するために、専任の黄昱が代表して書いています。実際の授業においては、各担当教員によりシラバスとは異なる指示があるかもしれませんが、その際は担当教員の指示に従ってください。								
オフィスアワー	この授業は複数のクラスで実施しています。オフィスアワーあるいは質問対応可能時間などの詳細については各担当教員にお問い合わせください。								
アクティブラーニングの内容その他	教員からのフィードバックによる振り返り。宿題や小テストに対する教員のフィードバックを行います。								

講義コード	11C0106501	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員		開講期	
科目名	中国語で学ぶ現代中国 1				上村 元顧		第1期		
履修前条件					備考				
授業の目的	この授業は、すでに1年間中国語を学習（1年次に中国語を履修）した学生を対象とする、初中級レベルの中国語の授業である。基礎的な文法や会話表現を習得していることを前提とする。初中級レベルの文法を学ぶと同時に、現代中国の様々なトピックを中国語で読解し、感想や意見を記述したり発言したりできるようにすることを目的とする。また、中国の日常生活や文化・政治・経済について理解を深めることも重要である。								
到達目標	初中級レベルの中国語文法を習得できる。 初中級レベルの中国語会話を習得できる。 中国語で書かれたニュースなどの概要を、辞書を使って説明できる。 中国語検定3級レベルの内容を理解できる。 現代中国社会への理解を深め、東アジアの国際人として社会に寄与できる。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	【第1・2回】：初級中国語の復習（教材配布）。 【第3～15回】： 予習課題の実施。 教科書の付属CDまたはダウンロード音声ファイルによるリスニング練習、および同じスピード・正確な発音での発音練習。 期末レポートの準備および作成。 以上、合計60時間以上の授業外学修時間が必須である。								
授業計画	【第1回】 授業ガイダンス：テキスト確認 【第2回】 初級中国語の復習〔発音・文法〕 【第3回】 第一課 小康生活（1） 【第4回】 第一課 小康生活（2） 【第5回】 第二課 粽子之乡（1） 【第6回】 第二課 粽子之乡（2） 【第7回】 第三課 网红（1） 【第8回】 第三課 网红（2） 【第9回】 第四課 九九六工作制（1） 【第10回】 第四課 九九六工作制（2） 【第11回】 第五課 沪漂（1） 【第12回】 第五課 沪漂（2） 【第13回】 第六課 护老工作（1） 【第14回】 第六課 护老工作（2） 【第15回】 期末レポート口頭発表会								
成績評価の方法	予習課題および授業への取り組み（60%） 期末レポート、口頭発表（40%）								
フィードバックの内容	予習課題に対するフィードバックは授業内で行う。								
教科書	『中国語で学ぶ中国のいま』劉力，上村元顧，金子真生（天々出版）2023								
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ	この授業は以下2点の条件を満たした学生だけが受講できる。 1. 母国語が中国語でないこと 2. 中国語1～4を履修登録したことがあること								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応する。 また、Microsoft TeamsやWebClass等でも対応する。								
アクティブラーニングの内容	能動的な授業外学修，調査学習								
その他									

講義コード	11C0106601	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員		開講期	
科目名	中国語で学ぶ現代中国2				上村 元顧		第2期		
履修前提条件					備考				
授業の目的	この授業は、すでに1年間中国語を学習（1年次に中国語を履修）した学生を対象とする、初中級レベルの中国語の授業である。基礎的な文法や会話表現を習得していることを前提とする。初中級レベルの文法を学ぶと同時に、現代中国の様々なトピックを中国語で読解し、感想や意見を記述したり発言したりできるようにすることを目的とする。また、中国の日常生活や文化・政治・経済について理解を深めることも重要である。								
到達目標	初中級レベルの中国語文法を習得できる。 初中級レベルの中国語会話を習得できる。 中国語で書かれたニュースなどの概要を、辞書を使って説明できる。 中国語検定3級レベルの内容を理解できる。 現代中国社会への理解を深め、東アジアの国際人として社会に寄与できる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	【第1回】：学修済みの文法の復習（教材配布）。 【第2～15回】：予習課題の実施。 教科書の付属CDまたはダウンロード音声ファイルによるリスニング、および同じスピード・正確な発音での発音練習。 期末レポートの準備および作成。 以上、合計60時間以上の授業外学修時間が必須である。								
授業計画	【第1回】 授業ガイダンス／学修済みの文法の復習 【第2回】 第七課 舞者杨丽萍（1） 【第3回】 第七課 舞者杨丽萍（2） 【第4回】 第八課 我们家的情况（1） 【第5回】 第八課 我们家的情况（2） 【第6回】 第九課 新职业教育法（1） 【第7回】 第九課 新职业教育法（2） 【第8回】 第十課 学者们的设想（1） 【第9回】 第十課 学者们的设想（2） 【第10回】 第十一課 治沙英雄（1） 【第11回】 第十一課 治沙英雄（2） 【第12回】 第十二課 电商主播（1） 【第13回】 第十二課 电商主播（2） 【第14回】 補充練習1～3 【第15回】 期末レポート口頭発表会								
成績評価の方法	予習課題および授業への取り組み（60%） 期末レポート、口頭発表（40%）								
フィードバックの内容	予習課題に対するフィードバックは授業内で行う。								
教科書	『中国語で学ぶ中国のいま』劉力，上村元顧，金子真生（天々出版）2023								
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ	この授業は以下2点の条件を満たした学生だけが受講できる。 1. 母国語が中国語でないこと 2. 中国語1～4を履修登録したことがあること								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応する。 また、Microsoft TeamsやWebclass等でも対応する。								
アクティブラーニングの内容	能動的な授業外学修，調査学習								
その他									

講義コード	11C3116301	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員		開講期	
科目名	中国の金融				林 康史		第1期		
履修前条件					備考				
授業の目的	中国の金融の特徴と課題を考える。現在、中国経済は規模において世界第2位であり、中国経済を抜きにして日本経済・世界経済を語ることはできない。また、市場経済化したとはいえ、中国の政治・経済・金融は特殊であり、中国経済は体制および政治に大きく依存しており、金融も国の体制および政治の影響を受ける。中国経済は、ダイナミックに動いており、中国の金融制度・システムを学ぶことの意義は大きい。								
到達目標	わが国への影響を無視し得ない中国経済に大いに関心をもつ。中国の政治・経済体制の特殊性を理解し、中国の金融制度・システムの概略を説明できることである。さらには、日米の金融制度・システムと比較することで、金融論の理解を深めることが期待できる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	授業外学修時間には、指示した資料の視聴、読解、課題の考察等を行う（理解が困難なところは、繰り返し学習のこと）。15回2単位の本科目の授業外学修時間は60時間以上である。								
授業計画	<p>「反転授業」の形式も取り入れて授業を行う（反転授業については、第1回に説明するが、各自、調べておくようにしてください）。各授業回の前に、オンデマンド資料等を学習しておくこと（対面授業は、Q&A から始まることもある）。</p> <p>【第1回】 ガイダンス～中国経済（歴史的展開と現状）、中国金融を学ぶ意義</p> <p>【第2回】 金融論の復習、日中比較のために</p> <p>【第3回】 中国の政治体制、改革開放と中国がかかえる問題</p> <p>【第4回】 中国の金融制度・為替制度の改革の接近法（漸進的アプローチ）</p> <p>【第5回】 金融制度の変遷① モノバンク制の時期</p> <p>【第6回】 金融制度の変遷② 金融システム再生期</p> <p>【第7回】 金融制度の変遷③ 金融制度拡充期</p> <p>【第8回】 中国人民銀行の特徴・法的位置づけ</p> <p>【第9回】 中国人民銀行の目的と機能、貨幣政策の概念、政策手段</p> <p>【第10回】 金融セクター、金融機関（銀行・証券・保険）</p> <p>【第11回】 短期金融市場</p> <p>【第12回】 長期金融（資本）市場、証券セクター、保険セクター</p> <p>【第13回】 人民元の外国為替制度の変遷</p> <p>【第14回】 人民元制度改革、管理変動相場制、人民元制度の今後の見通し</p> <p>【第15回】 総括、中国金融の課題、授業内評価</p> <p>※ 現場を熟知しているゲストスピーカーによる講義も検討したい。</p>								
成績評価の方法	期末試験（50％）・確認テスト（30％）・レポート（10％）・授業への取り組み姿勢（10％）で、総合的に評価する。								
フィードバックの内容	授業時に質問を受け、応答する。また、適宜、「Q&A」等を掲示する。								
教科書	適宜、指示する。								
指定図書	『ジム・ロジャーズ 中国の時代』ジム ロジャーズ著 林康史・望月衛（訳）（日本経済新聞出版社）2008年、『過剰流動性とアジア経済』大野早苗・黒坂佳央 編著（日本評論社）2013年、『21世紀資本主義世界のフロンティア：経済・環境・文化・言語による重層的分析』21五味久壽【ほか】編著（批評社）2017年								
参考書	『アジア通貨危機の経済学』近藤健彦・中島精也・林康史 編（東洋経済新報社）1998年、『通貨政策の経済学』クルーグマン著、林康史・河野龍太郎 訳（東洋経済新報社）1998年								
教員からのお知らせ									
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業時、また、メール等で受付ける。オフィスアワー時の訪問は事前に連絡がない場合は対応困難なことがある。								
アクティブラーニングの内容	反転授業の形式を取り入れる（第1回に説明する。第2回以降は、事前にオンライン教材の視聴を行う等、対面の授業の前に、学習すべきことがあることに留意されたい）。								
その他									

講義コード	11C0104301	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員	小川 文子	開講期	第1期
科目名	哲学とは何か								
履修前提条件					備考				
授業の目的	「哲学」というと、何か小難しい理論や詭弁のようなものを連想する人がいるかもしれませんが。しかし、「哲学」とはそもそも私たちにあって身近なものではなく、大雑把に言えば、「考える営み」に他なりません。本講義では、身近な問題を哲学的なアプローチで考えてみることを試みます。そのために必要な、西洋哲学の歴史にも触れていきます。								
到達目標	①身近な事柄に対して、自発的に問題を見つけることができる ②過去の哲学者の思想を説明することができる ③問題に対し、自分なりの意見を発信することができる								
授業外学修内容・授業外学修時間数	この科目では、60時間以上の授業外学修をすること。授業中に、書籍やHP、映画など、参考となるメディアを紹介するので、そうしたものを積極的に取り入れて各自学習を深めて下さい。								
授業計画	【第1回】 ガイダンス・授業の詳しい説明 【第2回】 哲学の誕生 【第3回】 ソクラテス以前の哲学者 【第4回】 何のために生きるのか：ソクラテス 【第5回】 三角形が三角形であるということ：プラトンとアリストテレス 【第6回】 そもそも「ある」ということはどういうことか：古代から量子力学の世界へ 【第7回】 世界の3割はキリスト教徒 【第8回】 哲学とキリスト教 【第9回】 「知る」ということについて：17世紀の哲学とカント 【第10回】 AIに心は宿るのか：哲学的ゾンビの問題 【第11回】 「言葉」の不思議：分析哲学の世界 【第12回】 トーテムポールが示す意味：構造主義 【第13回】 作者の「意図」なんてあるのか：ポスト構造主義 【第14回】 「私」の主体性とは：実存主義 【第15回】 まとめ：哲学と科学と宗教と								
成績評価の方法	平常点（リアクションペーパーと課題）：50% 学期末試験：50% 平常点として、履修が確定した第2回目より WebClass でリアクションペーパーを回収します。 到達目標の①と③については、リアクションペーパーで確認します。②については、課題と試験で評価します。								
フィードバックの内容	リアクションペーパーに対するフィードバックを次週の授業内で行います。								
教科書									
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ	教科書はありません。毎回の授業内容はプリントをデータで配信します。エコロジーの観点から紙媒体での配布はしません。参考文献も適宜紹介します。								
オフィスアワー	授業後、もしくは WebClass のメールでご相談ください。								
アクティブラーニングの内容	教員からのフィードバックによる振り返り。毎回のリアクションペーパーを次の授業時にフィードバックします。								
その他									

講義コード	11C0116102	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員	小松 宏行	開講期	第1期
科目名	統計学								
履修前提条件					備考				
授業の目的	統計学における推定・仮説検定の手法を説明する。一部のデータ（標本）から全体（母集団）を統計的に推測する技術は、社会生活の「問い」を解明する上で強力なものである。例えば、新開発の薬は本当に効果があるのか、広告を出したから売上が上昇したのか、アンケート調査は何人に尋ねれば十分かなど、その活用機会は学問領域を問わない。本授業では、様々な具体例を取り上げながら、将来を通じて「使える」統計学の習得を目指す。								
到達目標	統計学の手法を用いて実際のデータを分析できる。 そのために、 (1) 各推定方法・検定方法を正しく実行できる。 (2) どの場面での方法を使用すべきか理論的に説明できる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	60時間以上の授業外学修を執行すること。 予習：各回の授業で取り扱う内容について、事前に教科書を読んでくる。 復習：授業内容を再現する。小レポートを解く。								
授業計画	【第1回】 ガイダンス 【第2回】 多次元の確率分布（1）（共分散、相関係数、確率変数の独立性） 【第3回】 多次元の確率分布（2）（独立な確率変数の和の平均値と分散） 【第4回】 標本分布（1）（無作為標本、統計量、標本分布、観測値の和および平均の分布） 【第5回】 標本分布（2）（大数の法則、中心極限定理） 【第6回】 推定（1）（標準偏差が既知の場合の平均値の推定） 【第7回】 推定（2）（標準偏差が未知の場合の平均値の推定） 【第8回】 推定（3）（分散・標準偏差・比率の推定） 【第9回】 推定（4）（分散が既知の場合の平均値の差の推定） 【第10回】 推定（5）（分散が未知の場合の平均値の差・比率の差の推定） 【第11回】 仮説検定（1）（標準偏差が既知の場合の平均値の検定） 【第12回】 仮説検定（2）（標準偏差が未知の場合の平均値の検定） 【第13回】 仮説検定（3）（比率の検定） 【第14回】 仮説検定（4）（平均値の差・比率の差の検定） 【第15回】 仮説検定（5）（適合度検定、分割表の検定）								
成績評価の方法	各回的小レポート（30%）と期末試験（70%）による。								
フィードバックの内容	授業のはじめに前回的小レポートを解説する。 質問やコメントは随時募集し、授業内で返答する。								
教科書	『統計解析入門（第3版）』篠崎信雄・竹内秀一（サイエンス社）2020								
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ									
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部学科にて定めるオフィスアワーにて受け付ける。その際は事前にメールでアポイントメントを取ってほしい。簡単な質問は授業内や授業後でも随時受け付ける。								
アクティブラーニングの内容	教員からのフィードバックによる振り返り								
その他	「統計学基礎」に続く内容であるため、「統計学基礎」の単位を取得済みであることが望まれる。								

講義コード	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員	開講期
科目名	統計学基礎			各担当教員		第2期
履修前条件	備考					
授業の目的	統計学は、大量のデータの中に存在する法則性を扱う分析手法である。急速に情報化が進化した現代社会においては、多種多様かつ大量なデータを処理し、選別する能力が以前にも増して望まれている。本講義では、統計学の役割や主要な概念、基本的な分析手法について学習する予定である。また、履修者が簡単なデータ解析の手法を習得できるよう、幅広い応用例を紹介しながら、講義だけでなく問題演習なども行ってゆく。					
到達目標	平均値、中央値、分散、標準偏差、変動係数の計算ができる。 基礎的な確率の計算ができる。 確率分布の概念を理解できる。 母集団と標本の概念を理解できる。					
授業外学修内容・授業外学修時間数	この科目では、60時間以上の授業外学修を行うこと。 各回の授業で取り扱う内容について、事前に教科書を読んでくること。 授業時に提示する練習問題を必ず実際に解いてみる。					
授業計画	【第1回】ガイダンス、統計学の必要性、母集団と標本、 【第2回】統計学に必要な数学の基礎、度数分布表とヒストグラム 【第3回】平均値、中央値、最頻値、分散、標準偏差、変動係数 【第4回】記述統計の簡便法 【第5回】標準化、偏差値 【第6回】2次元データ、クロス集計、相関係数 【第7回】確率とは 【第8回】順列・組合せ		【第9回】基礎的な確率の計算 【第10回】確率変数と確率分布 【第11回】確率分布の平均値（期待値）と標準偏差 【第12回】二項分布 【第13回】正規分布 【第14回】標準正規分布の確率 【第15回】総復習			
成績評価の方法	期末試験（100％）により評価する。					
フィードバックの内容	毎回課される課題の解説を授業内で行う。					
教科書	『統計解析入門（第3版）』篠崎信雄・竹内秀一（サイエンス社）2020					
指定図書						
参考書						
教員からのお知らせ						
オフィスアワー	この授業は複数クラスなので、オフィスアワーあるいは質問対応可能時間の詳細については各担当教員に問い合わせること。					
アクティブラーニングの内容	教員からのフィードバックによる振り返り。					
その他	授業内容資料の配布を行う。 授業時にはルート（平方根）の計算機能が付いた電卓を用意すること。期末試験もしくは最終課題（オンライン試験）でも電卓が必要になる。 毎週クラス毎に設定されている WebClass 課題を利用可能期間内に実施すること。 Outlook を必ずスマートフォンにインストールし、rissho アカウントのメール受信通知をオンにしておくこと。重要な案内のリマインドを WebClass のメールを通して送信することがある。見逃した場合は自己責任となるので注意すること。					

講義コード	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員	開講期
科目名	統計学の世界			杉本 良平		第1期
履修前条件	備考					
授業の目的	本授業の目的は、大学入学後にデータ分析を初めて学ぶことを前提として、統計学とはどのようなものか、統計学を使うことで何ができるようになるのかについて、なるべく数学を使わずに多くの事例を通じて理解してもらうことである。本授業を通じて、数学が苦手な学生でも、統計学の面白さを実感してもらい、統計学、計量経済学などの科目の橋渡しになるようにしたい。必要に応じて、エクセルや統計ソフト「R」の操作方法を紹介する。					
到達目標	この授業を受けることにより、統計学の全体像を把握することを目標とする。具体的には、データの読み取り方や整理の仕方、統計的推定、仮説検定、回帰分析などについて、事例を挙げて説明ができるようになることを目指している。					
授業外学修内容・授業外学修時間数	授業外学修時間は、60時間以上必要である。授業内で配布する資料に目を通しておくこと。					
授業計画	【第1回】ガイダンス、統計学とは 【第2回】記述統計学と推測統計学、データの種類 【第3回】基礎統計量（1） 【第4回】基礎統計量（2） 【第5回】度数分布表とヒストグラム 【第6回】確率変数と確率分布 【第7回】二項分布 【第8回】正規分布（1）		【第9回】正規分布（2） 【第10回】仮説検定（1） 【第11回】仮説検定（2） 【第12回】相関関係 【第13回】回帰分析（1） 【第14回】回帰分析（2） 【第15回】まとめ			
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢50％、期末試験50％で評価する。					
フィードバックの内容	リアクションペーパーに対するフィードバックについては、翌週の講義内や Teams で行う。					
教科書						
指定図書						
参考書	『統計学×データ分析 基礎から体系的に学ぶデータサイエンティスト養成教室』浜松ウエジマ（SBクリエイティブ）2023、 『統計学が最強の学問である：データ社会を生き抜くための武器と教養』西内啓（ダイヤモンド社）2013					
教員からのお知らせ	教材・資料・連絡事項については、以下の方法を利用して提示するので、それぞれを定期的に確認すること。 ①大学ポータルサイト「オンライン授業」 ②メール（学籍番号 @rissho-univ.jp） ③ Microsoft Teams（アプリ） なお、③については、パソコンあるいはスマートフォンを持っている人はアプリを事前にダウンロードしておくこと。アプリの利用方法の詳細については、①または②を通じて連絡する。					
オフィスアワー	金曜日3限目、研究室（2-312）で受け付ける。事前にメール等で連絡することが望ましい。					
アクティブラーニングの内容	教員からのフィードバックによる振り返り					
その他	数学の予備知識は必要としないが、授業への積極的な参加及び継続的な出席が求められる。本授業は基本的に1年生向けであるが、2年生以上で『統計学基礎』が修得済みである場合でも、新たな事例や扱っていない仮説検定、回帰分析の基礎について講義する。					

講義コード	11C0125003	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員		開講期	
科目名	特殊講義1〈Microeconomics with Calculus 1〉※2018年～以降入学生用				渡部 真弘		第1期		
履修前提条件					備考				
授業の目的	The purpose of the course is to provide students with the necessary mathematical tools that are used in studying and understanding economics. From time to time, we will also discuss economic applications of these tools and techniques.								
到達目標	Upon completing of this course each student will be able to: (1) master the basic theory of differentiation (2) use methods from calculus to find the extrema of a function of one variable (3) solve and interpret stylized problems based on microeconomic models								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	本科目では、授業開始時に実施する小テスト及び期末試験に向けた復習に取り組むために、週に少なくとも4時間(計60時間以上)の授業外学修が必要である。								
授業計画	【第1回】 Preliminaries: real number system, intervals, absolute values, logic, set operations 【第2回】 Preliminaries: summation 【第3回】 Functions of one variable: basis definitions, graphs of functions 【第4回】 Functions of one variable: linear functions, solving equations, Cramer's rule 【第5回】 Functions of one variable: quadratic functions, polynomials 【第6回】 Functions of one variable: power functions, exponential functions 【第7回】 Functions of one variable: logarithmic functions 【第8回】 Differentiation: tangents, derivatives, geometric meaning of derivative, simple rules for differentiation 【第9回】 Differentiation: sums, products, and quotients rules, power rule 【第10回】 Differentiation: chain rule 【第11回】 Differentiation: derivatives of exponential and logarithmic functions 【第12回】 Single-variable optimization: stationary points, first-derivative test for local extrema 【第13回】 Single-variable optimization: extreme points, the extreme value theorem 【第14回】 Review 【第15回】 Course Summary								
成績評価の方法	評価割合は、小テスト(授業第2回～授業第14回の13回分)50%、期末試験50%とする。								
フィードバックの内容	小テストの答案を採点した後、理解が不十分であると判断される内容を授業時間内で補足する。								
教科書									
指定図書	『Microeconomic Analysis (3rd Edition)』 Hal R. Varian (W.W.Norton & Company) 1992、『A Short Course in Intermediate Microeconomics with Calculus』 Robert Serrano and Allan M. Feldman (Cambridge University Press) 2012、『Essential Mathematics for Economic Analysis (4th Edition)』 Knut Sydsaeter, Peter Hammond, Arne Strom (Pearson) 2012、『Mathematical Analysis: A Straightforward Approach (2nd Edition)』 K.G. Binmore (Cambridge University Press) 1982、『Mathematics for Economists』 Carl P. Simon, Lawrence Blume (WW Norton & Company) 2010								
参考書									
教員からのお知らせ	小テストや期末試験は記述式であり、単語を選択するマークシートのような簡易なものではない。試験問題を事前に配布しない。単位数に見合った学修時間を確保するつもりがなければ履修すべきではない。								
オフィスアワー	木曜日3時限、2号館516研究室 連絡や資料配布は、Microsoft Teamsを通じて行う。Microsoft Teamsのチームに参加するためのチームコードを授業第1回のガイダンス時に共有する。								
アクティブラーニングの内容	教員からのフィードバックによる振り返り：小テストの全ての問題において、細分化された各採点項目に対する評価を返却することで、復習が十分ではない内容を学生に認識させる。								
その他	配布資料は英語で作成されているが、授業中は日本語と英語を併用する。答案作成には英語を用いることが望ましい。								

講義コード	11C0125004	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員		開講期	
科目名	特殊講義2<Microeconomics with Calculus 2>※2018年~以降入学生用				渡部 真弘		第2期		
履修前提条件					備考				
授業の目的	The purpose of the course is to provide students with the necessary mathematical tools that are used in studying and understanding microeconomics. From time to time, we will also discuss economic applications of these tools and techniques.								
到達目標	Upon completing of this course each student will be able to: (1) master the basic theory of differentiation and integration (2) solve and interpret stylized problems based on microeconomic models (3) evaluate issues of microeconomic policy								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	本科目では、授業開始時に実施する小テスト及び期末試験に向けた復習に取り組むために、週に少なくとも4時間(計60時間以上)の授業外学修が必要である。								
授業計画	【第1回】 Preliminaries 【第2回】 Derivatives in use: Rolle's Theorem, the mean value theorem 【第3回】 Derivatives in use: increasing functions, decreasing functions 【第4回】 Single-variable optimization: higher-order derivatives, concavity, convexity, inflection points 【第5回】 Economic applications: risk aversion, certainty equivalent 【第6回】 Single-variable optimization: extreme points for concave and convex functions 【第7回】 Economic applications: monopoly, lerner index 【第8回】 Integration: antiderivatives, indefinite integrals 【第9回】 Integration: area and definite integrals 【第10回】 Economic applications: demand curve, demand function, inverse demand function, consumer surplus 【第11回】 Economic applications: production function, cost structure, conditional factor demand 【第12回】 Economic applications: profit maximization, supply curve, producer surplus 【第13回】 Economic applications: competitive equilibrium, total surplus, deadweight loss 【第14回】 Review 【第15回】 Course Summary								
成績評価の方法	評価割合は、小テスト(授業第2回~授業第14回の13回分)50%、期末試験50%とする。								
フィードバックの内容	小テストの答案を採点した後、理解が不十分であると判断される内容を授業時間内で補足する。								
教科書									
指定図書	『Microeconomic Analysis (3rd Edition)』 Hal R. Varian (W.W.Norton & Company) 1992、『A Short Course in Intermediate Microeconomics with Calculus』 Robert Serrano and Allan M. Feldman (Cambridge University Press) 2012、『Essential Mathematics for Economic Analysis (4th Edition)』 Knut Sydsaeter, Peter Hammond, Arne Strom (Pearson) 2012、『Mathematical Analysis: A Straightforward Approach (2nd Edition)』 K.G. Binmore (Cambridge University Press) 1982、『Mathematics for Economists』 Carl P. Simon, Lawrence Blume (WW Norton & Company) 2010								
参考書									
教員からのお知らせ	小テストや期末試験は記述式であり、単語を選択するマークシートのような簡易なものではない。試験問題を事前に配布しない。単位数に見合った学修時間を確保するつもりがなければ履修すべきではない。								
オフィスアワー	木曜日3時限、2号館516研究室 連絡や資料配布は、Microsoft Teamsを通じて行う。Microsoft Teamsのチームに参加するためのチームコードを授業第1回のガイダンス時に共有する。								
アクティブラーニングの内容	教員からのフィードバックによる振り返り：小テストの全ての問題において、細分化された各採点項目に対する評価を返却することで、復習が十分ではない内容を学生に認識させる。								
その他	配布資料は英語で作成されているが、授業中は日本語と英語を併用する。答案作成には英語を用いることが望ましい。								

講義コード	11C0125007	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員		開講期	
科目名	特殊講義5〈経済の持続可能性〉※2018年～以降入学生用				浅子 和美		第2期		
履修前提条件					備考				
授業の目的	将来にわたっての経済の持続可能性を、財政赤字、年金問題、バブルの発生・膨張・崩壊、環境問題を踏まえた持続的経済発展、等に焦点を当てながら講義する。								
到達目標	15回の講義を通じて、経済の持続可能性がいかに重要な問題かを順を追って理解できるようにする。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	講義の予習・復習にとどまらず、日頃から、新聞やテレビの経済ニュースをフォローし、それらがそれぞれの経済問題の持続可能性にどのような影響を及ぼすかを予測する訓練を積むこと。授業外学修時間数としては、週4時間、1学期を通じて計60時間以上を目途とすること。								
授業計画	【第1回】経済の持続可能性とは？ 【第2回】財政赤字の持続可能性1 【第3回】財政赤字の持続可能性2 【第4回】財政赤字の持続可能性3 【第5回】財政赤字の持続可能性4 【第6回】年金の持続可能性1 【第7回】年金の持続可能性2 【第8回】バブルの発生・膨張・崩壊 【第9回】合理的バブル 【第10回】バブルの推計と崩壊確率 【第11回】崩壊しないバブル 【第12回】持続可能な経済発展1 【第13回】持続可能な経済発展2 【第14回】持続可能な経済発展3 【第15回】持続可能な経済発展4								
成績評価の方法	学期中2回を限度の小テスト（15%）、期末試験（70%）、授業への取り組み姿勢（15%）による。								
フィードバックの内容	小テストの結果等に対しては、授業中に速やかにコメントする。								
教科書									
指定図書									
参考書	『経済学入門15講』浅子和美（新世社）2021年								
教員からのお知らせ	教科書は特に指定せず、参考とする資料を配布する。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。								
アクティブラーニングの内容									
その他									

講義コード	11C0125010	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員		開講期	
科目名	特殊講義8〈環境経済評価法1〉※2018年～以降入学生用				吉田 友美		第1期		
履修前提条件					備考				
授業の目的	大気や水などの環境は価値があるにもかかわらず、価格は付いていません。価格が付いていないため、過剰に使用されるなどして、環境問題が深刻化します。そこで、環境に価格を付け、過剰な破壊から守るための手法として「環境評価手法」が開発されています。本授業では、この環境評価手法について学びます。								
到達目標	(1) 環境評価手法の基礎となるミクロ経済学について理解できる。 (2) 顕示選好法の代表的手法である「トラベルコスト法」について理解できる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	この科目では、60時間以上の授業外学修を行って下さい。予習は必要としませんが、復習をしっかりと行うことが大切です。毎回の授業では、その回の内容を復習するための課題（要提出）を出題するので、しっかりと取り組むようにして下さい。								
授業計画	【第1回】ガイダンス 【第2回】環境と経済（1） 【第3回】環境と経済（2） 【第4回】ミクロ経済学の復習（1） 【第5回】ミクロ経済学の復習（2） 【第6回】ミクロ経済学の復習（3） 【第7回】ミクロ経済学の復習（4） 【第8回】ミクロ経済学の復習（5） 【第9回】エクソナルディーズ号事故の概要、環境の価値と環境評価 【第10回】環境評価の理論 【第11回】代替法 【第12回】ヘドニック法 【第13回】トラベルコスト法：シングルサイトモデル 【第14回】トラベルコスト法：マルチサイトモデル 【第15回】総括								
成績評価の方法	課題：20% 期末試験：80%								
フィードバックの内容	課題の解説を授業中に実施します。								
教科書	『初心者のための環境評価入門』栗山浩一・柘植隆宏・庄子康（勁草書房）2013年								
指定図書	『初心者のための環境評価入門』栗山浩一・柘植隆宏・庄子康（勁草書房）2013年								
参考書	『環境経済学をつかむ（第4版）』栗山浩一・馬奈木俊介（有斐閣）2020年、『環境評価の最新テクニック：表明選好法・顕示選好法・実験経済学』柘植隆宏・三谷羊平・栗山浩一（軽装書房）2011年								
教員からのお知らせ									
オフィスアワー	毎週、木曜日5限 ただし、必ず事前にメールでアポイントメントをとること。 メールアドレスは授業中に指示します。								
アクティブラーニングの内容	課題の解説を授業中に実施する。								
その他									

講義コード	11C0125012	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員		開講期	
科目名	特殊講義10<中国の金融>※2018年～以降入学生用				林 康史		第1期		
履修前条件					備考				
授業の目的	中国の金融の特徴と課題を考える。現在、中国経済は規模において世界第2位であり、中国経済を抜きにして日本経済・世界経済を語ることはできない。また、市場経済化したとはいえ、中国の政治・経済・金融は特殊であり、中国経済は体制および政治に大きく依存しており、金融も国の体制および政治の影響を受ける。中国経済は、ダイナミックに動いており、中国の金融制度・システムを学ぶことの意義は大きい。								
到達目標	わが国への影響を無視し得ない中国経済に大いに関心をもつ。中国の政治・経済体制の特殊性を理解し、中国の金融制度・システムの概略を説明できることである。さらには、日米の金融制度・システムと比較することで、金融論の理解を深めることが期待できる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	授業外学修時間には、指示した資料の視聴、読解、課題の考察等を行う（理解が困難なところは、繰り返し学習のこと）。15回2単位の本科目の授業外学修時間は60時間以上である。								
授業計画	<p>「反転授業」の形式も取り入れて授業を行う（反転授業については、第1回に説明するが、各自、調べておくようにしてください）。各授業回の前に、オンデマンド資料等を学習しておくこと（対面授業は、Q&A から始まることもある）。</p> <p>【第1回】 ガイダンス～中国経済（歴史的展開と現状）、中国金融を学ぶ意義</p> <p>【第2回】 金融論の復習、日中比較のために</p> <p>【第3回】 中国の政治体制、改革開放と中国がかかえる問題</p> <p>【第4回】 中国の金融制度・為替制度の改革の接近法（漸進的アプローチ）</p> <p>【第5回】 金融制度の変遷① モノバンク制の時期</p> <p>【第6回】 金融制度の変遷② 金融システム再生期</p> <p>【第7回】 金融制度の変遷③ 金融制度拡充期</p> <p>【第8回】 中国人民銀行の特徴・法的位置づけ</p> <p>【第9回】 中国人民銀行の目的と機能、貨幣政策の概念、政策手段</p> <p>【第10回】 金融セクター、金融機関（銀行・証券・保険）</p> <p>【第11回】 短期金融市場</p> <p>【第12回】 長期金融（資本）市場、証券セクター、保険セクター</p> <p>【第13回】 人民元の外国為替制度の変遷</p> <p>【第14回】 人民元制度改革、管理変動相場制、人民元制度の今後の見通し</p> <p>【第15回】 総括、中国金融の課題、授業内評価</p> <p>※ 現場を熟知しているゲストスピーカーによる講義も検討したい。</p>								
成績評価の方法	期末試験（50%）・確認テスト（30%）・レポート（10%）・授業への取り組み姿勢（10%）で、総合的に評価する。								
フィードバックの内容	授業時に質問を受け、応答する。また、適宜、「Q&A」等を掲示する。								
教科書	適宜、指示する。								
指定図書	『ジム・ロジャーズ 中国の時代』ジム ロジャーズ著 林康史・望月衛（訳）（日本経済新聞出版社）2008年、『過剰流動性とアジア経済』大野早苗・黒坂佳央 編著（日本評論社）2013年、『21世紀資本主義世界のフロンティア：経済・環境・文化・言語による重層的分析』21五味久壽【ほか】編著（批評社）2017年								
参考書	『アジア通貨危機の経済学』近藤健彦・中島精也・林康史 編（東洋経済新報社）1998年、『通貨政策の経済学』クルーグマン著、林康史・河野龍太郎 訳（東洋経済新報社）1998年								
教員からのお知らせ									
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業時、また、メール等で受付ける。オフィスアワー時の訪問は事前に連絡がない場合は対応困難なことがある。								
アクティブラーニングの内容	反転授業の形式を取り入れる（第1回に説明する。第2回以降は、事前にオンライン教材の視聴を行う等、対面の授業の前に、学習すべきことがあることに留意されたい）。								
その他									

講義コード	11C0125013	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員	吉田 友美	開講期	第2期																
科目名	特殊講義11(環境経済評価法2)※2018年~以降入学生用				吉田 友美		第2期																		
履修前提条件					備考																				
授業の目的	大気や水などの環境は価値があるにもかかわらず、価格は付いていません。価格が付いていないため、過剰に使用されるなどして、環境問題が深刻化します。そこで、環境に価格を付け、過剰な破壊から守るための手法として「環境評価手法」が開発されています。本授業では、この環境評価手法について学びます。																								
到達目標	(1) 仮想評価法 (CVM) について理解できるようになる。 (2) コンジョイント分析について理解できるようになる。 (3) 費用便益分析について理解できるようになる。																								
授業外学修内容・授業外学修時間数	この科目では、60時間以上の授業外学修を行って下さい。予習は必要としませんが、復習をしっかりと行うことが大切です。毎回の授業では、その回の内容を復習するための課題(要提出)を出題するので、しっかりと取り組むようにして下さい。																								
授業計画	<table border="0"> <tr> <td>【第1回】ガイダンス</td> <td>【第9回】仮想評価法の事例(3):災害対策の経済評価-福井豪雪の事例</td> </tr> <tr> <td>【第2回】トラベルコスト法の復習</td> <td>【第10回】コンジョイント分析</td> </tr> <tr> <td>【第3回】トラベルコスト法の事例:歴史的街並みの経済評価、福井県恐竜博物館の経済評価</td> <td>【第11回】コンジョイント分析の事例(1):珊瑚礁の経済評価</td> </tr> <tr> <td>【第4回】仮想評価法(CVM):手法の概要</td> <td>【第12回】コンジョイント分析の事例(2):星空環境保全の経済評価</td> </tr> <tr> <td>【第5回】仮想評価法(CVM):分析の手順</td> <td>【第13回】リスクの経済評価</td> </tr> <tr> <td>【第6回】仮想評価法(CVM):調査設計</td> <td>【第14回】費用便益分析</td> </tr> <tr> <td>【第7回】仮想評価法の事例(1):レジ袋有料化に対する支払意思額の推計</td> <td>【第15回】総括</td> </tr> <tr> <td>【第8回】仮想評価法の事例(2):花粉症対策の経済評価</td> <td></td> </tr> </table>									【第1回】ガイダンス	【第9回】仮想評価法の事例(3):災害対策の経済評価-福井豪雪の事例	【第2回】トラベルコスト法の復習	【第10回】コンジョイント分析	【第3回】トラベルコスト法の事例:歴史的街並みの経済評価、福井県恐竜博物館の経済評価	【第11回】コンジョイント分析の事例(1):珊瑚礁の経済評価	【第4回】仮想評価法(CVM):手法の概要	【第12回】コンジョイント分析の事例(2):星空環境保全の経済評価	【第5回】仮想評価法(CVM):分析の手順	【第13回】リスクの経済評価	【第6回】仮想評価法(CVM):調査設計	【第14回】費用便益分析	【第7回】仮想評価法の事例(1):レジ袋有料化に対する支払意思額の推計	【第15回】総括	【第8回】仮想評価法の事例(2):花粉症対策の経済評価	
【第1回】ガイダンス	【第9回】仮想評価法の事例(3):災害対策の経済評価-福井豪雪の事例																								
【第2回】トラベルコスト法の復習	【第10回】コンジョイント分析																								
【第3回】トラベルコスト法の事例:歴史的街並みの経済評価、福井県恐竜博物館の経済評価	【第11回】コンジョイント分析の事例(1):珊瑚礁の経済評価																								
【第4回】仮想評価法(CVM):手法の概要	【第12回】コンジョイント分析の事例(2):星空環境保全の経済評価																								
【第5回】仮想評価法(CVM):分析の手順	【第13回】リスクの経済評価																								
【第6回】仮想評価法(CVM):調査設計	【第14回】費用便益分析																								
【第7回】仮想評価法の事例(1):レジ袋有料化に対する支払意思額の推計	【第15回】総括																								
【第8回】仮想評価法の事例(2):花粉症対策の経済評価																									
成績評価の方法	課題:20% 期末試験:80%																								
フィードバックの内容	課題の解説を授業中に実施します。																								
教科書	『初心者のための環境評価入門』栗山浩一・柘植隆宏・庄子康(勁草書房)2013年																								
指定図書	『初心者のための環境評価入門』栗山浩一・柘植隆宏・庄子康(勁草書房)2013年																								
参考書	『環境経済学をつかむ(第4版)』栗山浩一・馬奈木俊介(有斐閣)2020年、『環境評価の最新テクニック:表明選好法・顕示選好法・実験経済学』柘植隆宏・三谷羊平・栗山浩一(軽装書房)2011年																								
教員からのお知らせ																									
オフィスアワー	毎週、木曜日5限 ただし、必ず事前にメールでアポイントメントをとること。 メールアドレスは授業中に指示します。																								
アクティブラーニングの内容	課題の解説を授業中に実施します。																								
その他																									

講義コード	11C0125020	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員	小野崎 保	開講期	第1期																
科目名	特殊講義18(経済のダイナミクス)※2018年~以降入学生用 ※全コース_3年生以上				小野崎 保		第1期																		
履修前提条件					備考																				
授業の目的	株価や為替レートが時々刻々と変動することはメディアなどで連日報じられます。マクロ経済は、こうした日々の経済活動の変化を通じて景気循環を繰り返します。景気循環だけでなく、経済が時間を通じてどのように変化するかを研究するのが「エコノミック・ダイナミクス(経済動学)」です。この授業では、景気循環のメカニズムについて、データによる分析と理論的分析を通じて学びます。																								
到達目標	・経済データや経済記事を通じて経済変動の様子を理解できるようになる。 ・経済変動の要因を理解できるようになる。																								
授業外学修内容・授業外学修時間数	授業で扱う項目について配付資料などを通じて理解を深めること。適宜提示する参考文献などを積極的に読むこと。新聞などの経済記事にできるだけ目を通す習慣を身につけること。これらと適宜課される課題とを併せて、授業外に合計60時間以上の学習をおこなうこと。																								
授業計画	<table border="0"> <tr> <td>【第1回】ガイダンス</td> <td>【第9回】ハロッド・モデル(1)</td> </tr> <tr> <td>【第2回】マクロ経済学の復習(1)</td> <td>【第10回】ハロッド・モデル(2)</td> </tr> <tr> <td>【第3回】マクロ経済学の復習(2)</td> <td>【第11回】数学の準備(3)</td> </tr> <tr> <td>【第4回】経済統計で見るマクロ経済変動(1)</td> <td>【第12回】メツワラー・モデル</td> </tr> <tr> <td>【第5回】経済統計で見るマクロ経済変動(2)</td> <td>【第13回】サミュエルソン=ヒックス・モデル(1)</td> </tr> <tr> <td>【第6回】マクロ経済学の復習(3)</td> <td>【第14回】サミュエルソン=ヒックス・モデル(2)</td> </tr> <tr> <td>【第7回】数学の準備(1)</td> <td>【第15回】まとめ</td> </tr> <tr> <td>【第8回】数学の準備(2)</td> <td></td> </tr> </table>									【第1回】ガイダンス	【第9回】ハロッド・モデル(1)	【第2回】マクロ経済学の復習(1)	【第10回】ハロッド・モデル(2)	【第3回】マクロ経済学の復習(2)	【第11回】数学の準備(3)	【第4回】経済統計で見るマクロ経済変動(1)	【第12回】メツワラー・モデル	【第5回】経済統計で見るマクロ経済変動(2)	【第13回】サミュエルソン=ヒックス・モデル(1)	【第6回】マクロ経済学の復習(3)	【第14回】サミュエルソン=ヒックス・モデル(2)	【第7回】数学の準備(1)	【第15回】まとめ	【第8回】数学の準備(2)	
【第1回】ガイダンス	【第9回】ハロッド・モデル(1)																								
【第2回】マクロ経済学の復習(1)	【第10回】ハロッド・モデル(2)																								
【第3回】マクロ経済学の復習(2)	【第11回】数学の準備(3)																								
【第4回】経済統計で見るマクロ経済変動(1)	【第12回】メツワラー・モデル																								
【第5回】経済統計で見るマクロ経済変動(2)	【第13回】サミュエルソン=ヒックス・モデル(1)																								
【第6回】マクロ経済学の復習(3)	【第14回】サミュエルソン=ヒックス・モデル(2)																								
【第7回】数学の準備(1)	【第15回】まとめ																								
【第8回】数学の準備(2)																									
成績評価の方法	課題(40%)、授業への取り組み姿勢(20%)、定期試験(40%)で評価します。																								
フィードバックの内容	授業に関する質問・感想・コメントをリアクションペーパーとして適宜提出してもらい、重要な質問やコメントに対しては口頭あるいは文書にて回答します。																								
教科書																									
指定図書																									
参考書																									
教員からのお知らせ	・「マクロ経済学」の単位を取得していることが望ましい。 ・第2期に開講される『複雑系経済学』と関連する内容があるので、両方を履修することが望ましい。 ・必要に応じて少し高度な数学を使いますが、基礎から説明します。																								
オフィスアワー	メール(onozaki@ris.ac.jp)にて随時受け付けます。																								
アクティブラーニングの内容	意見共有、教員からのフィードバックによる振り返りなど。																								
その他																									

講義コード	11C0125021	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員		開講期	
科目名	特殊講義19(複雑系経済学)※2018年～以降入学生用 ※全コース_3年以上				小野崎 保		第2期		
履修前条件					備考				
授業の目的	ヒトの脳にはおよそ1000億個のニューロン（神経細胞）があるといわれていますが、それらの組み合わせによってどのように知能が生じるのか、どのように記憶が蓄積されるのかなどについてまだほとんど何も分かっていません。また、マクロ経済は、ミクロレベルでの多数の異質な経済主体による日々の経済活動の積み重ねの結果として景気循環を繰り返しつつ成長していきませんが、こうした経済変動のメカニズムは未だ解明されていません。こうしたヒトの脳や経済などのような、複雑に入り組んだ構造と体系をもつシステム（系）のことを「複雑系」といいます。この授業では、最近数十年間に発展してきた複雑系に関する科学のものの見方を解説するとともに、経済を複雑系として捉えるとどのように見えるかについて考えます。								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 複雑系とは何かを理解できるようになる。 ・ 複雑系として経済を捉えることができるようになる。 ・ 現在進行中である複雑系の科学の面白さや重要性を理解できるようになる。 								
授業外学修内容・授業外学修時間数	授業で扱う項目について、講義資料や参考文献などを通じて復習し理解度を確認すること。これらと適宜課される課題とを併せて、授業外に合計60時間以上の学習をおこなうこと。								
授業計画	【第1回】 ガイダンス 【第2回】 複雑系とは何か 【第3回】 複雑性の現象：カオス（1） 【第4回】 複雑性の現象：カオス（2） 【第5回】 複雑性の現象：カオス（3） 【第6回】 複雑性の現象：フラクタル（1） 【第7回】 複雑性の現象：フラクタル（2） 【第8回】 複雑性の現象：フラクタル（3）			【第9回】 自己組織化臨界 【第10回】 複雑性の現象：複雑ネットワーク（1） 【第11回】 複雑性の現象：複雑ネットワーク（2） 【第12回】 複雑系経済学（1） 【第13回】 複雑系経済学（2） 【第14回】 複雑系経済学（3） 【第15回】 まとめ					
成績評価の方法	課題（40%）、授業への取り組み姿勢（20%）、定期試験（40%）で評価します。								
フィードバックの内容	授業に関する質問・感想・コメントをリアクションペーパーとして適宜提出してもらい、重要な質問やコメントに対しては口頭あるいは文書にて回答します。								
教科書	『複雑系入門－知のフロンティアへの冒険』井庭崇・福原義久（NTT 出版）1998年								
指定図書									
参考書	『ガイドツアー 複雑系の世界：サンタフェ研究所講義ノートから』メラニー・ミッチェル（紀伊國屋書店）2011年								
教員からのお知らせ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第1期に開講される『経済のダイナミクス』と関連する内容があるので、両方を履修することが望ましい。 ・ 必要に応じて少し高度な数学を使いますが、基礎から説明します。 								
オフィスアワー	メール（onozaki@ris.ac.jp）にて随時受け付けます。								
アクティブラーニングの内容	意見共有、教員からのフィードバックによる振り返りなど。								
その他									

講義コード	11C0125022	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員		開講期	
科目名	特殊講義20(経済学を俯瞰する)※2018年～以降入学生用				浅子 和美		第1期		
履修前条件					備考				
授業の目的	『入門経済学』とは異なる視点での『経済学の入門』を講義する。								
到達目標	15回の講義を通じて、経済学をマスターすることが何をどうすることによって到達できるかを順を追って合点できるようにする。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	講義の予習・復習にとどまらず、日頃から、新聞やテレビの経済ニュースをフォローし、それらが日本経済のミクロ・マクロの側面にどのような影響を及ぼすかを予測する訓練を積むこと。授業外学修時間数としては、週4時間、1学期を通じて計60時間以上を目途とすること。								
授業計画	【第1回】 経済学入門－スタートラインに立つ 【第2回】 まずは日本と世界の数字を押えておこう！ 【第3回】 経済学が歩んだ道のり 【第4回】 市場経済と計画経済は対峙する 【第5回】 現実を知り、あるべき世の中を探る 【第6回】 経済を分析する－理論と実証 【第7回】 ミクロとマクロ 【第8回】 ミクロ経済学を垣間見る 【第9回】 マクロ経済学を垣間見る 【第10回】 統計学・計量経済学は必修！ 【第11回】 政府の市場経済への介入が経済政策 【第12回】 経済の持続可能性を問う 【第13回】 これができると経済学に強くなる：その1 【第14回】 これができると経済学に強くなる：その2 【第15回】 経済学の射程－経済学でどこまで説明できるか								
成績評価の方法	学期中2回を限度の小テスト（15%）、期末試験（70%）、授業への取り組み姿勢（15%）による。								
フィードバックの内容	小テストの結果等に対しては、授業中に速やかにコメントする。								
教科書	『経済学入門15講』浅子和美（新世社）2021年								
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ	授業は指定した教科書に沿って行うために、教科書を常に身近に置いて参照できるようにしておくこと。教科書以外の追加的な資料を用いる場合には、その都度配布する。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。								
アクティブラーニングの内容									
その他									

講義コード	11C0225023	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員		開講期	
科目名	特別講座1(日経で学ぶビジネススキル・アクションラーニング1) ※2018~2023年度入学生用				外木 好美		第1期		
履修前提条件					備考				
授業の目的	グループに分かれてテーマを決め、企業のインタビューなどの関連取材を企画・実行し、その成果を新聞という形で発表することを通して、現実の経済問題を調査し、わかりやすく表現する技術を学ぶことを目的とする。今後の就職活動やビジネスライフで求められるスキルを身につける。								
到達目標	日経電子版に触れ、経済ニュースの収集・活用を習慣づけることができる。新聞、テレビ、インターネットなどの経済ニュースを日常的に読み解き、ビジネスに役立つナレッジとして活用できる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	授業に先立ち、新聞記事にアクセスして読んでおくこと。グループワークの事前準備を行うこと。(60時間以上)								
授業計画	【第1回】 ガイダンス(日経電子版の使い方、志望業種アンケート) 【第2回】 経済トレンドを読む(1) 【第3回】 経済トレンドを読む(2) 【第4回】 経済トレンドを読む(3) 【第5回】 経済トレンドを読む(4) 【第6回】 グループ演習・編集会議(1) 【第7回】 ビジネス文章力を鍛える(1) 【第8回】 グループ演習・編集会議(2)				【第9回】 グループ演習・編集会議(3) 【第10回】 グループ演習・編集会議(4) 【第11回】 ビジネス文章力を鍛える(2) 【第12回】 グループ演習・編集会議(5) 【第13回】 グループ演習・編集会議(6) 【第14回】 特集記事のテーマ発表(1) 【第15回】 特集記事のテーマ発表(2)				
成績評価の方法	授業での取り組み姿勢(40%)、提出物(60%)により評価する。出席が少ないなど授業意欲が認められない者には、単位を与えない。								
フィードバックの内容	各回で担当する講師から案内する。								
教科書	『日経業界地図 2023年版』日本経済新聞社編(日経 BP 日本経済新聞出版) 2022/ 8 /20								
指定図書	『Q&A 日本経済のニュースがわかる! 2024年版』日本経済新聞社編(日経 BP 日本経済新聞出版) 2023/ 9 /15、『図解でわかる時事重要テーマ100 2024-2025』日経 HR 編集部(日経 HR 編集部編著) 2023/10/ 5								
参考書	『日経キーワード2024-2025』日経 HR 編集部(日経 HR) 2023/12/ 7、『日経 TEST 公式テキスト&問題集 2024-25年版』日本経済新聞社編(日経 BP 日本経済新聞出版) 2024/ 3 /13								
教員からのお知らせ	授業の履修にあたって、大学メールに連絡することがある。大学メールを必ずチェックすること。また、グループワークを重視する講義形式のため、各グループの進捗状況によって、授業計画を若干変更する可能性がある。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談の方法は、最初の授業に指示します。								
アクティブラーニングの内容	グループに分かれて特集記事のテーマを決め、企業などにアポイントメントを取って取材する。グループでメンバーの担当を決め、編集会議を開いて取材方法・取材内容を吟味し、分担して特集記事を執筆・発表する。								
その他	日本経済新聞社から派遣された講師が、30年以上に及ぶ記者・デスクの経験を生かし、取材・記事執筆のポイントを指導する。国内外の経済問題の解説、ビジネスメールやエントリーシートなどの文章力向上の演習を行う。								

講義コード	11C0225024	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員		開講期	
科目名	特別講座2(現役ジャーナリストに学ぶ現代の日本) ※2018~2023年度入学生用				中村 宗之		第1期		
履修前条件					備考				
授業の目的	本授業は、実社会で活躍されている現役のジャーナリスト（講師陣は共同通信社のジャーナリスト）による、現代の政治、経済、国際、社会の各分野における重要なトピックについての講義を通じて、(既存の教科書ではなかなか得られない) 活きた「知」を習得し、政治・経済をはじめとする専門的知識を身に付けるとともに、幅広くかつ深い教養力を向上させることを目的とする。								
到達目標	新聞や雑誌等のニュース記事（現代の政治・経済・社会をはじめとする諸問題）について、深いレベルで理解し自ら分析できるようにするとともに、これらの問題について自らの意見や考えを論理的に述べられるようになること。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	本科目の必要な授業外学修時間は60時間以上である。 各回のトピックに関して、事前に新聞・雑誌等の記事や本等を読むことを通じて予習しておくとともに、各回で学習した重要な点等について十分に復習すること。また、講師により課題が出された場合はそれをきちんと行うこと。								
授業計画	<p>本授業は、5名の講師陣によるオムニバス形式により行われる。</p> <p>講師：井手壮平氏（共同通信社編集委員・経済部出身） 【第1回】 数学を使わない「統計」～ 因果関係と相関関係を理解する 【第2回】 「格差社会」の検証～ 多面的にデータを用いる 【第3回】 日本は財政破綻するのか～ 論争の背景と今後の注目点 【第4回】 食料自給率を考える～ 本当の食料安全保障とは</p> <p>講師：杉田雄心氏（共同通信社政治部長） 【第5回】 政治を楽しむ～ 社会に出る前に政官民のじゃんけんを知っておこう 【第6回】 1票を楽しむ～ 選挙に票を投じる前に政治眼力を身につけよう 【第7回】 岸田内閣を楽しむ～ 裏金はけしからんと語る前にストーリーを理解しておこう</p> <p>講師：水野雅央氏（共同通信社くらし報道部長） 【第8回】 人口減少に歯止めかかるか～ 若年層へ社会保障の「恩恵」 【第9回】 年金はいくらもらえる？～ ことし100年先の年金見通し発表</p> <p>講師：山脇絵里子氏（共同通信社編集局次長・前社会部長） 【第10回】 被害者を守る法と課題～ ストーカー・DV・インターネット中傷 【第11回】 多様化する性と家族のかたち～ 選択的夫婦別姓と同性婚 【第12回】 世界120位が映す日本の男女格差～ コロナ禍が招いた「女性不況」</p> <p>講師：有田司氏（共同通信社編集局次長・前外信部長） 【第13回】 戦争と平和～ 戦場取材の現場から 【第14回】 国際社会のいま～ アメリカ大統領選、ウクライナ、ガザ 【第15回】 民主主義とジャーナリズム～ なぜジャーナリストが必要なのか</p>								
成績評価の方法	授業での取り組み姿勢（40%）、提出物（60%）により評価する。								
フィードバックの内容	課題についての講評を授業内に行う。								
教科書									
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ	上記の各回の講義テーマについては、(社会情勢等の変化により) 変わる可能性もあります。また、講師は全員、現役ジャーナリストであり本業を有していますので、講義の順番が変更になる等の可能性もあります。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部学科にて定めるオフィスアワーにて受付けます。また、WebClassのメッセージ機能でも受付けます（利用方法はポータルサイト、ライブラリ内のマニュアルを参照）。								
アクティブラーニングの内容	意見共有、教員からのフィードバックによる振り返り								
その他	現役のジャーナリストが授業を教える。								

講義コード	11C0225025	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員		開講期																																	
科目名	特別講座3(日経で学ぶビジネススキル・アクションラーニング2) ※2018~2023年度入学生用				担当教員		外木 好美	開講期																																	
履修前提条件					備考																																				
授業の目的	グループに分かれてテーマを決め、企業のインタビューなどの関連取材を企画・実行し、その成果を新聞という形で発表することを通して、現実の経済問題を調査し、わかりやすく表現する技術を学ぶことを目的とする。今後の就職活動やビジネスライフで求められるスキルを身につける。																																								
到達目標	新聞、テレビ、インターネットなどの経済ニュースを日常的に読み解き、ビジネスに役立つナレッジとして活用できる。ビジネスで求められる常識・マナーを活用できる。																																								
授業外学修内容・授業外学修時間数	授業に先立ち、新聞記事にアクセスして読んでおくこと。グループワークの事前準備を行うこと。(60時間以上)																																								
授業計画	<table border="0"> <tr> <td>【第1回】</td> <td>ガイダンス (フィールドワークの進め方)</td> <td>【第9回】</td> <td>グループ演習・編集会議 (7)</td> </tr> <tr> <td>【第2回】</td> <td>グループ演習・編集会議 (1)</td> <td>【第10回】</td> <td>グループ演習・編集会議 (8)</td> </tr> <tr> <td>【第3回】</td> <td>グループ演習・編集会議 (2)</td> <td>【第11回】</td> <td>グループ演習・編集会議 (9)</td> </tr> <tr> <td>【第4回】</td> <td>グループ演習・編集会議 (3)</td> <td>【第12回】</td> <td>特集記事発表・フィードバック (1)</td> </tr> <tr> <td>【第5回】</td> <td>ビジネス文章力を鍛える (1)</td> <td>【第13回】</td> <td>特集記事発表・フィードバック (2)</td> </tr> <tr> <td>【第6回】</td> <td>グループ演習・編集会議 (4)</td> <td>【第14回】</td> <td>特集記事発表・フィードバック (3)</td> </tr> <tr> <td>【第7回】</td> <td>グループ演習・編集会議 (5)</td> <td>【第15回】</td> <td>ビジネス文章力を鍛える (2)</td> </tr> <tr> <td>【第8回】</td> <td>グループ演習・編集会議 (6)</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>									【第1回】	ガイダンス (フィールドワークの進め方)	【第9回】	グループ演習・編集会議 (7)	【第2回】	グループ演習・編集会議 (1)	【第10回】	グループ演習・編集会議 (8)	【第3回】	グループ演習・編集会議 (2)	【第11回】	グループ演習・編集会議 (9)	【第4回】	グループ演習・編集会議 (3)	【第12回】	特集記事発表・フィードバック (1)	【第5回】	ビジネス文章力を鍛える (1)	【第13回】	特集記事発表・フィードバック (2)	【第6回】	グループ演習・編集会議 (4)	【第14回】	特集記事発表・フィードバック (3)	【第7回】	グループ演習・編集会議 (5)	【第15回】	ビジネス文章力を鍛える (2)	【第8回】	グループ演習・編集会議 (6)		
【第1回】	ガイダンス (フィールドワークの進め方)	【第9回】	グループ演習・編集会議 (7)																																						
【第2回】	グループ演習・編集会議 (1)	【第10回】	グループ演習・編集会議 (8)																																						
【第3回】	グループ演習・編集会議 (2)	【第11回】	グループ演習・編集会議 (9)																																						
【第4回】	グループ演習・編集会議 (3)	【第12回】	特集記事発表・フィードバック (1)																																						
【第5回】	ビジネス文章力を鍛える (1)	【第13回】	特集記事発表・フィードバック (2)																																						
【第6回】	グループ演習・編集会議 (4)	【第14回】	特集記事発表・フィードバック (3)																																						
【第7回】	グループ演習・編集会議 (5)	【第15回】	ビジネス文章力を鍛える (2)																																						
【第8回】	グループ演習・編集会議 (6)																																								
成績評価の方法	授業での取り組み姿勢 (40%)、提出物 (60%) により評価する。出席が少ないなど授業意欲が認められない者には、単位を与えない。																																								
フィードバックの内容	各回で担当する講師から案内する。																																								
教科書	『日経業界地図 2024年版』日本経済新聞社編 (日経 BP 日本経済新聞出版) 2023/ 8 /19																																								
指定図書	『Q&A 日本経済のニュースがわかる! 2024年版』日本経済新聞社編 (日経 BP 日本経済新聞出版) 2023/ 9 /15、『図解でわかる時事重要テーマ100 2024-2025』日経 HR 編集部 (日経 HR 編集部編著) 2023/10/ 5																																								
参考書	『日経キーワード2024-2025』日経 HR 編集部 (日経 HR) 2023/12/ 7、『日経 TEST 公式テキスト & 問題集 2024-25年版』日本経済新聞社編 (日経 BP 日本経済新聞出版) 2024/ 3 /13																																								
教員からのお知らせ	授業の履修にあたって、大学メールに連絡することがある。大学メールを必ずチェックすること。また、グループワークを重視する講義形式のため、各グループの進捗状況によって、授業計画を若干変更する可能性がある。																																								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談の方法は、最初の授業に指示します。																																								
アクティブラーニングの内容	グループに分かれて特集記事のテーマを決め、企業などにアポイントメントを取って取材する。グループでメンバーの担当を決め、編集会議を開いて取材方法・取材内容を吟味し、分担して特集記事を執筆・発表する。																																								
その他	日本経済新聞社から派遣された講師が、30年以上に及ぶ記者・デスクの経験を生かし、取材・記事執筆のポイントを指導する。国内外の経済問題の解説、ビジネスメールやエントリーシートなどの文章力向上の演習を行う。																																								

講義コード	11C0225029	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員		開講期	
科目名	特別講座7<FP基礎講座> ※2018～2023年度入学生用				平 伊佐雄		第1期		
履修前提条件					備考				
授業の目的	実社会における『自己責任』の原則に基づき、個人のファイナンシャル・ウェルビーイング（経済的なより良い暮らし）のためには、金融トラブルの際はどこに支援を求めればよいかを知り、生き方や価値観を磨きながら資金管理や生活設計を考え、金融の知識や技術を身に付ける必要があります。本講義では、これら金融リテラシーの習得に加え、効果的で具体的な行動、すなわち金融ケイパビリティの促進を目指します。								
到達目標	①金融トラブルや多重債務の実態を知り、もしもの際は支援先を知ること。 ②職業選択について主体的に考えられるようになること。 ③自らの将来設計と資金管理を行い。課題解決策が考えられるようになること。 ④金融の知識や技術を身に付け、経済ニュース等の内容も把握できるほか、効果的で具体的な行動を起こすこと。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	①講義テーマに関するトピックにも触れるため、日頃から経済に影響がある社会問題等に関心を持ち、それらの報道に目を通しておくこと。 ②課題等を真摯に取り組み、期限厳守で必ず提出すること。 ③この講義におけるアンケートの回答や小テストの解答も指定期間内に提出すること。 ※ 時間は合計60時間以上。								
授業計画	【第1回】 ガイダンス～金融教育の必要性、株式模擬投資の説明 【第2回】 資産形成制度、セーフティネット 【第3回】 ライフプランニング（1）～ライフデザインとプランニング 【第4回】 ライフプランニング（2）～キャッシュフロー表の作成 【第5回】 金融・経済のしくみ①～実体経済と金融市場 【第6回】 経済・金融のしくみ②～経済活動と金融の役割 【第7回】 金融商品の基礎～金融商品の特性 【第8回】 リスクマネジメント～リスクとリターン 【第9回】 アセットクラスの基礎知識／株式（1）～株式の基礎、ESG 【第10回】 アセットクラスの基礎知識／株式（2）～企業・市場分析 【第11回】 アセットクラスの基礎知識／債券（1）～債券の基礎 【第12回】 アセットクラスの基礎知識／債券（2）～金利と債券価格、SDG's 【第13回】 アセットクラスの基礎知識／投資信託 【第14回】 アセットクラスの基礎知識／外貨建て金融商品 【第15回】 アセットクラスの基礎知識／デリバティブ								
成績評価の方法	集合しての筆記試験は行いません。課題・レポート等で総合的に評価する。 キャッシュフロー表（30%）、株式模擬投資報告レポート（30%）、アンケート、小テストのほか講義態度など（40%）								
フィードバックの内容	講義中に提示した小テストについては次回の講義、もしくはオンデマンドで解説する。 課題・レポート等については提出期限後の講義内でポイントを解説する。 質問等は講義中、もしくは講義直後、またはメールにて受付け、随時回答する。								
教科書									
指定図書									
参考書	『金融経済と資産運用の基礎』日興リサーチセンター（ブイツーソリューション）2019年8月								
教員からのお知らせ	講義形式で各テーマに沿ったニュース等も解説しながら進める。また講義で得た知識や模擬投資体験等を通じて、実体経済と市場の関係を理解し、資産形成手法の実践を促す。								
オフィスアワー	本講義に関する質問・相談は講義中、もしくは講義後に直接、あるいはメール等で受付ける。								
アクティブラーニングの内容	教員からのフィードバックによる振り返りを実施する。								
その他	本講義は日興リサーチセンターが提供する寄付講座である。金融機関のチーフストラテジストとして投資戦略立案等の実務経験のある教員が、金融や経済の知識、市場分析の手法などを踏まえ、資産形成の課題解決等を中心にファイナンシャル・ウェルビーイングの向上を目的とした実践的な講義を行う。実践踏まえて勉強できる貴重な講義の一つでもあり、真摯に講義に臨むことのできる学生の履修を期待する。								

講義コード	11C0225031	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員		開講期	
科目名	特別講座9(保険論) ※2018~2023年度入学生用 ※経済・国際コース_2年生以上				茶野 努		第1期		
履修前提条件					備考				
授業の目的	生命保険は人間生活における重要な役割を担っている。生死、病気といった避けられないリスクに対する備えとしてである。講義では生命保険の仕組み・制度について学ぶ。								
到達目標	人に生命保険についての基礎知識を説明できるようになる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	公開している講義資料を打ち出して、事前に学習の上講義に参加すること。 上記に示した授業外の学修は、60時間以上を目安に行うこと。								
授業計画	【第1回】 ガイダンス 【第2回】 リスクとは何か 【第3回】 リスクを計算する 【第4回】 保険の種類 【第5回】 保険契約の特徴 【第6回】 保険約款 【第7回】 保険の仕組み(1) 収支相等の原則、大数の法則 【第8回】 保険の仕組み(2) 現価計算 【第9回】 保険の仕組み(3) 自然保険料と平準保険料 【第10回】 責任準備金 【第11回】 契約者配当 【第12回】 生命保険会社の破綻 【第13回】 ディスクロージャー 【第14回】 保険会計の特徴 【第15回】 授業内の最終試験								
成績評価の方法	授業内の最終試験(100%)によります。								
フィードバックの内容	解説は最終回であわせて行います。								
教科書	『保険と金融から学ぶ リスクマネジメント(仮)』岡田太・茶野努・平澤敦(中央経済社)2024								
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ	http://chanoppy.wixsite.com/chano に講義資料がアップしてあります。 教科書を購入してください。								
オフィスアワー	授業に関する質問・相談は、授業後に対応します。								
アクティブラーニングの内容	意見共有、能動的な授業外学修								
その他									

講義コード	11C0225032	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員		開講期	
科目名	特別講座10(リスク・マネジメント) ※2018~2023年度入学生用 ※経済・国際コース_2年生以上				茶野 努		第2期		
履修前提条件					備考				
授業の目的	金融規制の根拠を明らかにしたうえで、銀行監督の枠組みである BIS 規制の変遷とその表裏をなす金融機関におけるリスク管理について概説する。								
到達目標	金融リスク管理についての基礎知識を修得する。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	公開している講義資料を打ち出して、事前に学習の上講義に参加すること。 上記に示した授業外の学修は、60時間以上を目安に行うこと。								
授業計画	【第1回】 ガイダンス 【第2回】 金融規制の根拠 【第3回】 金融規制の新しい流れ 【第4回】 バーゼルⅡ 【第5回】 リーマンショックとバーゼルⅢ 【第6回】 為替先物 【第7回】 先物 【第8回】 オプション 【第9回】 デルタヘッジ、スワップ 【第10回】 ALM(資産負債管理)(1) 【第11回】 ALM(資産負債管理)(2) 【第12回】 バリュエーション・リスク(VaR)(1) 【第13回】 バリュエーション・リスク(VaR)(2) 【第14回】 統合リスク管理(ERM) 【第15回】 授業内の最終試験								
成績評価の方法	授業内の最終試験(100%)により評価します。								
フィードバックの内容	授業内に解説等を行い、対応を図ります。								
教科書	『保険と金融から学ぶ リスクマネジメント(仮)』岡田太・茶野努・平澤敦(中央経済社)2024								
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ	http://chanoppy.wixsite.com/chano に講義資料がアップしてあります。 教科書を購入してください。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。								
アクティブラーニングの内容	意見共有、能動的な授業外学修								
その他									

講義コード	11C0225035	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員	畠山 久志	開講期	第1期
科目名	特別講座13(銀行論1) ※2018~2023年度入学生用 ※経済・国際コース_3年生以上				畠山 久志		第1期		
履修前条件					備考				
授業の目的	銀行の登場、その機能などについて歴史的視野から取り上げる。国民生活の中で、信用機能や決済手段を仲介するのが銀行であるが、時の為政者や社会思想によって、銀行の役割は変遷している。また意外と思われるが銀行は宗教との関係が強い。さらに国際貿易の為替ニーズが中央銀行制度を整備させた。日本の銀行制度はアメリカの銀行制度を移入したもののだが、独自の地域金融としても発展しておりそれらの特徴などを解説する。								
到達目標	銀行の長い歴史における社会的意義を捉え、銀行に求められる役割の重要性を認識するとともに銀行を取り巻く環境変化と中央銀行の金融政策について理解できる。変革期における銀行の現代的意義と方向性を的確に把握することができる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	授業1コマについて、2時間の予習と2時間の復習(計4時間)を行う必要がある。授業は15回なので、全体で60時間以上の授業外学修を行うことが求められる。授業外学修で取り組むべき課題や参考文献等については、適宜指示する。								
授業計画	【第1回】概説：銀行とは(金融における銀行の役割・基本業務) 【第2回】銀行の歴史1(金利の意義) 【第3回】銀行の歴史2(貿易と銀行) 【第4回】銀行の歴史3(中央銀行の登場) 【第5回】マネーストック(資金循環) 【第6回】マネーロンダリング(違法資金規制) 【第7回】日本の銀行1(メガバンクと地域金融機関) 【第8回】日本の銀行2(協同組織金融機関と消費者金融) 【第9回】日本の銀行3(信託銀行) 【第10回】デジタルプラットフォーム(デジタル市場) 【第11回】情報銀行 【第12回】バーゼル規制Ⅲ 【第13回】銀行法の解説1(金融基幹法・分業主義) 【第14回】銀行法の解説2(業務) 【第15回】銀行法の解説3(組織形態)								
成績評価の方法	基本的に期末試験(レポート等)の成績に基づいて評価する(80%)。加えて、授業への取り組み姿勢(質問、意見など)を考慮する(20%)。								
フィードバックの内容	授業内容の確認、質問・意見等について適宜解説する。								
教科書	『金融入門第3版』日本経済新聞社(日本経済新聞社出版)2020、『現代の金融』池尾和人(筑摩書房)2010								
指定図書	『マネーの進化史』ニール・ファーガソン(早川書房)2009、『銀行の歴史』エドウィン・グリーン(原書房)1994、『地域金融機関の信託・相続』畠山久志(日本加除出版)2019								
参考書									
教員からのお知らせ	基本的にPDFのスライドを用いて、解説をしていきます。スライドはポータルサイトに掲示します。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、各授業の終わりに教室で受け付けます。								
アクティブラーニングの内容	金融について関心がある事項を予めまとめ、授業でどの様に解説されるかに注意し、確認してください。								
その他									

講義コード	11C0225036	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員	畠山 久志	開講期	第2期
科目名	特別講座14(銀行論2) ※2018~2023年度入学生用 ※経済・国際コース_3年生以上				畠山 久志		第2期		
履修前条件					備考				
授業の目的	わが国は、アメリカの金融制度を移入し続けている。そこで、まずアメリカの金融・銀行制度を説明する。次にわが国の金融制度に係る基本法である銀行法、金融商品取引法などの業法を解説する。証券化の中で、銀行と証券会社の金融商品を巡ったデマケーションがあり、直接金融と間接金融の差異を深耕する。これらの金融機関に対する公的規制と救済制度を検証し、暗号資産、中央銀行デジタル通貨など最近の動きを取上げる。								
到達目標	現代の銀行業に係る法的規制が理解できる。また、グローバル化・IT化による金融環境の変化に対応する法的規制の見直し、及び証券化の中における金融商品のデマケーションと銀行と証券会社による開示規制、行為規制等の相違を把握できる。さらに金融監督の役割、救済策、新しい金融商品について説明できる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	授業1コマについて、2時間の予習と2時間の復習(計4時間)を行う必要がある。授業は15回なので、全体で60時間以上の授業外学修を行うことが求められる。授業外学修で取り組むべき課題や参考文献等については、適宜指示する。								
授業計画	【第1回】アメリカの銀行制度とわが国銀行の歴史 【第2回】アメリカの銀行制度1(2元制 銀行法) 【第3回】アメリカの銀行制度2(FRS,投資銀行) 【第4回】アメリカの銀行法等(グラス・ステイガル法 金融商品取引法) 【第5回】アメリカの金融イベント(エンロン事件、リーマンショック) 【第6回】マイクロファイナンス(少額融資システム) 【第7回】デリバティブ取引1(取引の歴史・古代ギリシア) 【第8回】デリバティブ取引2(大阪米穀取引所) 【第9回】デリバティブ取引3 【第10回】ディスクロージャーと監査制度 【第11回】中央銀行デジタル通貨(CBDC) 【第12回】暗号資産(BITCOIN他) 【第13回】信託制度 【第14回】多様な金融取引(FX取引、投資信託) 【第15回】金融ADR								
成績評価の方法	基本的に期末試験(レポート)の成績に基づいて評価する(80%)。加えて、授業への取り組み姿勢(質問、意見など)を考慮する(20%)。								
フィードバックの内容	授業内容の確認、意見、疑問について、適宜授業で解説します。								
教科書	『アメリカ銀行法』川口恭弘(弘文堂)2020、『金融商品取引法入門第8版』黒沼悦郎(日経)2021								
指定図書	『仮想通貨法の仕組みと実務』畠山久志(日本加除出版)2018、『銀行法精義』小山嘉昭(キンザイ)2018、『デジタル化社会における新しい財産的価値と信託』畠山久志(商事法務)2022、『金融商品取引法』畠山久志(地域金融研究所)2014								
参考書									
教員からのお知らせ	授業は、PDFスライドを使い、進めます。スライドは事前にポータルサイトに掲示します。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、各授業の終わりに教室で受け付けます。								
アクティブラーニングの内容	金融に関する情報は沢山あります。関心のあった事項をまとめ、授業で確認してください。また、確認に係る意見等を表明させ共有する。								
その他									

講義コード	11C0117501	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員		開講期	
科目名	都市・地域分析1／環境・経済システム分析A				櫻井 一宏		第1期		
履修前提条件					備考				
授業の目的	本講義では、都市に関して、さまざまな指標による定量的な分析を行う。都市の成立、現在に至るまでの発展について概観し、都市問題の歴史的な変遷や環境問題について整理する。また、近代都市が成長してきた経緯と、同時に発生した環境問題などを踏まえ、代表的な都市論について紹介する。さらに、現代の都市や都市・地域問題を理解し、定量的な視点で分析するために必要となるさまざまな指標や都市モデルの考え方を学ぶ。								
到達目標	近代都市が成立し、発展してきた背景とさまざまな都市問題について理解する。特に都市の成立要因、構造や機能、空間的な把握など、複雑な対象をさまざまな指標によって分解し、それらを定量的に把握した上でモデル化し、総合的に分析することができる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	授業時に作成したノートをもとにして、当該内容についての確認および理解を深めるための復習を必要とする。また、参考資料やインターネット等を用いて関連する内容についての自主学習を行うことを推奨する。以上の復習および自主学習のために計60時間以上の授業外学修を実施すること。適宜、授業内容に沿って関連する課題を与える場合がある。								
授業計画	【第1回】イントロダクション 【第2回】都市とは 【第3回】近代都市の発展 【第4回】都市化と都市機能 【第5回】都市モデル（1） 【第6回】都市モデル（2） 【第7回】都市論（1） 【第8回】都市論（2） 【第9回】都市問題と近代都市計画 【第10回】地域調査 【第11回】分析のための指標 【第12回】都市・地域の分析（1） 【第13回】都市・地域の分析（2） 【第14回】都市・地域の分析（3） 【第15回】まとめ								
成績評価の方法	原則として期末試験（100％）で評価する。課題提出・小テスト等を実施した場合は最大5％の配点とし、それ以外の配点は期末試験とする。ただし、授業および試験時の態度等に問題があった場合は成績評価対象外とすることがある。								
フィードバックの内容	課題や小テストに関する内容等について講評、解説を行う。								
教科書									
指定図書									
参考書	『初学者のための都市工学入門』高見沢実（鹿島出版会）2000、『都市計画の世界史』日端康雄（講談社）2008								
教員からのお知らせ	参考資料等は適宜指示する。本講義では数値データを取り扱う。また、数理的な思考や基礎的な計算を習得する。								
オフィスアワー	本講義に関する質問・相談は、学部学科にて定めるオフィスアワーにて受け付ける。								
アクティブラーニングの内容	授業中に簡単な確認テスト等を実施し、その結果のフィードバック・振り返りを行う。								
その他									

講義コード	11C0117601	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員		開講期	
科目名	都市・地域分析2／環境・経済システム分析B				櫻井 一宏		第2期		
履修前提条件					備考				
授業の目的	本講義では、空間を意識し、その空間において営まれる経済や社会の活動を定量的に把握する考え方を学ぶ。国や都道府県など、対象とする空間の単位はさまざまに設定することができるが、それらを地域として捉え、現代社会の生産・消費、それらに伴って発生する環境負荷などの構造を模したモデリングの手法を理解することを主要な目的とする。また、地域の諸活動によって発生し、水域へ流入する水質汚濁負荷の推計を行う。								
到達目標	空間を把握した上でデータを取扱い、地域の活動や環境への影響を定量化することができる。具体的なモデル分析手法を学び、地域経済と環境負荷について実際に計算することができる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	授業時に作成したノートをもとにして、当該内容についての確認および理解を深めるための復習を必要とする。また、参考資料やインターネット等を用いて関連する内容についての自主学習を行うことを推奨する。以上の復習および自主学習のために計60時間以上の授業外学修を実施すること。適宜、授業内容に沿って関連する課題を与える場合がある。								
授業計画	【第1回】イントロダクション 【第2回】空間データ 【第3回】経済学における地域 【第4回】産業立地 【第5回】都市・地域の経済活動 【第6回】システム的な思考 【第7回】経済指標と環境指標 【第8回】環境負荷の定量化 【第9回】水環境問題 【第10回】環境政策における定量化 【第11回】モデル分析（1） 【第12回】モデル分析（2） 【第13回】計算方法 【第14回】結果分析 【第15回】まとめ								
成績評価の方法	原則として期末試験（100％）で評価する。課題提出・小テスト等を実施した場合は最大5％の配点とし、それ以外の配点は期末試験とする。ただし、授業および試験時の態度等に問題があった場合は成績評価対象外とすることがある。								
フィードバックの内容	課題や小テストに関する内容等について講評、解説を行う。								
教科書									
指定図書									
参考書	『河川汚濁のモデル解析』国松孝男・村岡浩爾（技報堂出版）1989、『ノンポイント汚染源のモデル解析』和田安彦（技報堂出版）1990								
教員からのお知らせ	参考資料等は適宜指示する。数値データを取り扱う。数理的な思考や基礎的な計算を習得する。								
オフィスアワー	本講義に関する質問・相談は、学部学科にて定めるオフィスアワーにて受け付ける。								
アクティブラーニングの内容	授業中に簡単な確認テスト等を実施し、その結果のフィードバック・振り返りを行う。								
その他									

講義コード	11C0122401	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員	小林 隆史	開講期	第1期
科目名	都市経済学1／特殊講義<都市経済学A>				小林 隆史		第1期		
履修前条件					備考				
授業の目的	現代社会において、人口の集中している都市のシステム、及び都市で生じている諸問題について学ぶ。経済学的視点を通して、「空間（土地の広がり）」を持つ都市システムの基礎を講義する。								
到達目標	空間（土地の広がり）を念頭においた、立地論の基礎について学び、単純化された空間における地価モデルを理解できる。また、長距離通勤や混雑などの都市問題について、その原因を体系的に説明できる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	事前に指定された教科書の該当箇所を通読しておくこと。また授業時に作成したノートに基づいて、理解を深めるための復習を必要とする。また調査実習では写真撮影を行う。参考となる資料やインターネット等での自主学習を推奨する。以上の予習・復習および自主学習のために計60時間以上の授業外学修を実施すること。								
授業計画	【第1回】 イントロダクション 【第2回】 都市の形成 【第3回】 輸送費と交通費 【第4回】 地価と地代 【第5回】 地代モデル（1） 【第6回】 地代モデル（2） 【第7回】 地代モデル（3） 【第8回】 地価調査実習				【第9回】 企業の立地 【第10回】 外部不経済（1） 【第11回】 外部不経済（2） 【第12回】 地価調査分析演習 【第13回】 都市の拡大（1） 【第14回】 都市の拡大（2） 【第15回】 まとめ				
成績評価の方法	期末試験（自筆資料のみ持込可）を中心に評価する（60％程度）。調査実習課題を含む、講義中に提示する課題や授業への貢献度も勘案する（40％程度）。								
フィードバックの内容	提出された課題に対して、講義期間中に講評を行う。								
教科書	『都市経済学の基礎』佐々木公明・文世一（有斐閣アルマ）2000								
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ	「ミクロ経済学基礎」、「ミクロ経済学基礎演習」の単位を取得していることを前提とする。また、「ミクロ経済学」、「都市・地域分析」を受講済み、または受講中であることが望ましい。								
オフィスアワー	質問・相談は学部学科にて定めるオフィスアワーにて、対面及び Teams のビデオ通話等にて受付ける。また、Teams の所定の箇所に質問・相談の投稿があれば、オフィスアワーにて返信を行う。								
アクティブラーニングの内容	課題に関する「教員からのフィードバックによる振り返り」のほか、「調査学習」を実施する。具体的には、地価を体感するため、生活行動範囲内において地価調査地点での写真撮影、周辺観察などを行う。								
その他	質問・相談はできるだけ授業内にて行うこと、あるいは Teams の質問相談チャンネルでの投稿を推奨する。ほか、事前予約があればオフィスアワー以外の時間帯でも質問・相談を受け付ける。事前予約の連絡は「学籍番号 @rissho-univ.jp」から koba@ris.ac.jp 宛へのメールで、件名に「【都市経済学】質問」と記載された場合にのみ対応する。								

講義コード	11C0122501	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員	小林 隆史	開講期	第2期
科目名	都市経済学2／特殊講義<都市経済学B>				小林 隆史		第2期		
履修前条件					備考				
授業の目的	現代社会において、人口の集中している都市のシステム、及び都市で生じている諸問題について学ぶ。経済学的視点を通して、「空間（土地の広がり）」を持つ都市システムにおける課題解決の考え方について解説する。								
到達目標	都市の空間を念頭においた、都市問題について学び、その対応策としての制度、政策の効果と限界について論理的に説明できる。また、課題解決の思考に基づいて、未来の住まい方について考えることができる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	事前に指定された教科書の該当箇所を通読しておくこと。また授業時に作成したノートに基づいて、理解を深めるための復習を必要とする。また調査実習では写真撮影を行う。参考となる資料やインターネット等での自主学習を推奨する。以上の予習・復習および自主学習のために計60時間以上の授業外学修を実施すること。								
授業計画	【第1回】 イントロダクション 【第2回】 ゾーニング 【第3回】 地価調査実習 【第4回】 都市の規模（1） 【第5回】 都市の規模（2） 【第6回】 都市の規模（3） 【第7回】 都市の規模（4） 【第8回】 都市の規模（5）				【第9回】 交通システム（1） 【第10回】 交通システム（2） 【第11回】 交通システム（3） 【第12回】 地価調査分析演習 【第13回】 公共サービス（1） 【第14回】 公共サービス（2） 【第15回】 まとめ				
成績評価の方法	期末試験（自筆資料のみ持込可）を中心に評価する（60％程度）。調査実習課題を含む、講義中に提示する課題や授業への貢献度も勘案する（40％程度）。								
フィードバックの内容	提出された課題に対して、講義期間中に講評を行う。								
教科書	『都市経済学の基礎』佐々木公明・文世一（有斐閣アルマ）2000								
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ	「ミクロ経済学基礎」、「ミクロ経済学基礎演習」の単位を取得していることを前提とする。また、「ミクロ経済学」、「都市・地域分析」、「都市経済学1」を受講済み、または受講中であることが望ましい。								
オフィスアワー	質問・相談は学部学科にて定めるオフィスアワーにて、対面及び Teams のビデオ通話等にて受付ける。また、Teams の所定の箇所に質問・相談の投稿があれば、オフィスアワーにて返信を行う。								
アクティブラーニングの内容	課題に関する「教員からのフィードバックによる振り返り」のほか、「調査学習」を実施する。具体的には、地価を体感するため、生活行動範囲内において地価調査地点での写真撮影、周辺観察などを行う。								
その他	質問・相談はできるだけ授業内にて行うこと、あるいは Teams の質問相談チャンネルでの投稿を推奨する。ほか、事前予約があればオフィスアワー以外の時間帯でも質問・相談を受け付ける。事前予約の連絡は「学籍番号 @rissho-univ.jp」から koba@ris.ac.jp 宛へのメールで、件名に「【都市経済学】質問」と記載された場合にのみ対応する。								

講義コード	11C0271102	授業形態	講義・演習	抽選の有無	あり	担当教員	ピーター レーン	開講期	第1期
科目名	トラベル英会話1								
履修前提条件					備考				
授業の目的	The course aims to help students learn essential English when travelling in Japan and abroad and develop the skills needed to feel comfortable and confident in real-life travel scenarios.								
到達目標	By the end of the course students will be able to talk more confidently about themselves in English, book a hotel, take a bus, plan activities etc.								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	Students will spend 30-40 minutes completing practice activities for homework in preparation for the next class.								
授業計画	【第1回】 Introduction to course 【第2回】 Before you go: travel tips & advice 【第3回】 Public Transportation: The airport 【第4回】 Exploring Tokyo: Things to Do 【第5回】 Exploring Spain: Things to Do 【第6回】 Hotels & Accommodation: Tokyo 【第7回】 Hotels & Accommodation: Thailand 【第8回】 Giving Directions 【第9回】 Key Travel Skill: Explaining Things 1 【第10回】 Key Travel Skill: Explaining Things 2 【第11回】 Cultural Awareness: Germany 1 【第12回】 Cultural Awareness: Germany 2 【第13回】 Travel Problems & Solutions 【第14回】 Final Speaking Test 【第15回】 Review								
成績評価の方法	The final grade will be based on the following criteria: 1) Class participation 30% 2) Unit quizzes (small tests): 30% 3) Homework 25% 4) Speaking test: 15%								
フィードバックの内容	Student feedback will be given on quizzes and homework. Feedback will be provided on students' performance and effort during the semester.								
教科書	No textbook								
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ									
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。								
アクティブラーニングの内容	意見共有、能動的な授業外学修など								
その他	All class materials will be provided by the instructor.								

講義コード	11C0271202	授業形態	講義・演習	抽選の有無	あり	担当教員	ピーター レーン	開講期	第2期
科目名	トラベル英会話2								
履修前提条件					備考				
授業の目的	The course continues to help students learn essential English when travelling in Japan and abroad and develop the skills needed to feel comfortable and confident in real-life travel scenarios.								
到達目標	By the end of the course students will be able to talk more confidently about themselves and about Japan in English, bargain hunt, give advice etc.								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	Students will spend 30-40 minutes completing practice activities for homework in preparation for the next class.								
授業計画	【第1回】 Welcome back and review activities 【第2回】 Shopping & Bargaining 1 【第3回】 Shopping & Bargaining 2 【第4回】 Explore the World: India 【第5回】 One day trips: New Zealand 【第6回】 Dining Out in Tokyo 【第7回】 Dining Out Abroad 【第8回】 Home Stay: Learning from Others 【第9回】 Home Stay: Teaching Others 【第10回】 Travel Advice & Recommendations 【第11回】 Explore Southern Europe 【第12回】 Explore Northern Europe 【第13回】 Reflecting on your travels and goals 【第14回】 Final Speaking Test 【第15回】 Review								
成績評価の方法	The final grade will be based on the following criteria: 1) Class participation 30% 2) Unit quizzes (small tests): 30% 3) Homework 25% 3) Speaking test: 15%								
フィードバックの内容	Student feedback will be given on quizzes and homework. Feedback will be provided on students' performance and effort during the semester.								
教科書	No textbook								
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ									
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。								
アクティブラーニングの内容	意見共有、能動的な授業外学修など								
その他	All class materials will be provided by the instructor.								

講義コード	11C0272001	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員	高橋 美由紀	開講期	第1期
科目名	日本経済史				高橋 美由紀			第1期	
履修前提条件					備考				
授業の目的	「日本経済の今後はどうなるのか」という間に、現在のみを見ていたのでは、良い解答は得られない。景気の悪い時代は過去にもありつた。先人達は、これにどのように立ち向かっていったのか。本講義では、中世から1970年代の石油危機までの日本経済をとりあげる。その中で、経済に影響を与えた人物についても考えていく。								
到達目標	日本経済がどのような足跡をたどってきたのかを、世界との関わりの中で理解し、その良い点と悪い点を把握し、自分なりの見解が述べられること。また、経済史において重要ないくつかの用語や人物に関してきちんと説明ができること。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	講義前に Microsoft Teams のファイルから資料をダウンロードし、熟読し、分からない箇所は個人で調べておくこと（講義前2時間、講義語2時間、計60時間以上）。また、その他に、参考としてあげた書籍を読むこと（提出方法・時期については講義中に指示する）。								
授業計画	<p>【第1回】日本経済史を学ぶ意義——貨幣について</p> <p>【第2回】中世の経済と人口</p> <p>【第3回】近世の経済と人口</p> <p>【第4回】人物から見る日本経済1——山田方谷と藩政改革</p> <p>【第5回】人物から見る日本経済2——上杉鷹山と特産物</p> <p>【第6回】財閥——三井・住友・三菱</p> <p>【第7回】明治の政治と経済——日本の産業革命：殖産興業・輸入代替・博覧会・共進会</p> <p>【第8回】近代の人口と疾病：第一次世界大戦とスペイン・インフルエンザ</p> <p>【第9回】人物から見る日本経済3——田中正造と足尾銅山鉱毒事件</p> <p>【第10回】人物から見る日本経済4——高橋是清・井上準之助・石橋湛山</p> <p>【第11回】世界大恐慌・第二次世界大戦と日本経済</p> <p>【第12回】ブレトン＝ウッズ体制 敗戦国日本の歩み</p> <p>【第13回】戦後復興と環境</p> <p>【第14回】石炭から石油へ——エネルギーの変化と三井三池炭坑</p> <p>【第15回】高度経済成長の時代——交通網の整備、人口移動</p>								
映像資料も用いる。									
成績評価の方法	毎回授業後に課す小試験（Forms で実施）60%＋学期末試験（40%）。ただし、学期末試験が行えない場合は、小試験を100%とする。								
フィードバックの内容	小試験（Forms で実施）の解説は次週におこなう。また、質問等に関しても受講者全員に共有して説明する。								
教科書	使用しない								
指定図書	『日本経済の歴史』中西聡他（名古屋大学出版会）2013、『日本経済史 近世－現代』杉山伸也（岩波書店）2012、『日本経済史1600-2000』浜野潔他（慶應義塾大学出版会）2009、『経済社会の歴史』中西聡他（名古屋大学出版会）2017、『歴史人口学の世界』速水 融（岩波書店）2012								
参考書									
教員からのお知らせ	講義内容は、履修者の希望等により変更する場合があります。Microsoft Teams で Team を作るのので、Team コード（w 0 qjvy 5）を用いて、授業開始までにメンバー登録をすること。								
オフィスアワー	月曜2限。事前に必ず連絡すること。メールおよびチャットにても受け付ける。								
アクティブラーニングの内容	毎回授業前に資料を確認して自己の質問点をもって講義を受けるという反転授業を取り入れている。								
その他	講義参加者の希望等によって、講義内容は若干変更することもある。								

講義コード	11C0111601	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員	村田 啓子	開講期	第1期
科目名	日本経済論1				村田 啓子			第1期	
履修前提条件					備考				
授業の目的	本講義では、基礎的なマクロ経済学の概念や分析手法を用いて、現実の日本経済の動向を理解するとともに、実施された政策や問題点についても解説することにより、一人一人の学生が、実体経済について自らの問題意識を持ちつつ主体的に考えていく能力を養うことを目指します。経済をみる上で不可欠の経済指標（統計、データ）についても適宜解説していきます。								
到達目標	現代日本経済の現状や問題点及びそれらに関する基本データを理解し批判的に検討・分析するために有用な基礎力を身につける。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	事前にレジュメを読み、必要に応じ指定図書も活用し予習・復習を行うこと（予習1時間・復習3時間を目安に計60時間以上の授業外学修）。復習ではレジュメの章末に掲載されている練習問題を解き、講義内容の理解度を確認しましょう。日常生活において新聞等で内外の経済記事・ニュースを読み考える習慣を身につけましょう。								
授業計画	<p>（下記の内容は現時点で予定しているもので、これらのうち幾つかに重点を置いたり、新たな論点を取り上げることも考えています。）</p> <p>【第1回】概論（イントロダクション）</p> <p>【第2回】国民経済計算からみた日本経済（1）</p> <p>【第3回】国民経済計算からみた日本経済（2）</p> <p>【第4回】日本の経済成長とその要因（1）</p> <p>【第5回】日本の経済成長とその要因（2）</p> <p>【第6回】景気循環の特徴（1）</p> <p>【第7回】景気循環の特徴（2）</p> <p>【第8回】変化する労働市場（1）</p> <p>【第9回】変化する労働市場（2）</p> <p>【第10回】変化する労働市場（3）</p> <p>【第11回】家計の消費と貯蓄行動（1）</p> <p>【第12回】家計の消費と貯蓄行動（2）</p> <p>【第13回】設備投資と企業行動の変化（1）</p> <p>【第14回】設備投資と企業行動の変化（2）</p> <p>【第15回】まとめ</p>								
成績評価の方法	小テスト（1 - 2回、最大30%）及び期末試験（最小70%）による。第1回講義及び講義内で事前に説明する。								
フィードバックの内容	小テストの結果などは講義内で速やかに講評する。講義内で講義アンケート（回答任意）を実施し、必要に応じ講義内で回答する。								
教科書									
指定図書	『最新 日本経済入門（第6版）』小峰隆夫・村田啓子（日本評論社）2020年								
参考書	『マクロ経済学 入門（第5版）』福田慎一・照山博司（有斐閣アルマ）2016年、『ビジュアル 日本経済の基本（第5版）』小峰隆夫編（日経文庫）2016年								
教員からのお知らせ	ミクロ経済学及びマクロ経済学を既に修得していることが望ましい。日本経済の現状と課題、そして展望について興味のある学生の受講を推奨します。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部学科にて定めるオフィスアワーにて受け付けます（事前にメールで連絡すること）。また、Webclass のメッセージ機能でも受け付けます。								
アクティブラーニングの内容	小テスト実施後はフィードバックを行います。								
その他									

講義コード	11C0111701	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員	村田 啓子	開講期	第2期																
科目名	日本経済論2																								
履修前提条件					備考																				
授業の目的	本講義では、基礎的なマクロ経済学概念や分析手法を用いて、現実の日本経済の動向を理解するとともに、実施された政策や問題点についても解説することにより、一人一人の学生が、実体経済について自らの問題意識を持ちつつ主体的に考えていく能力を養うことを目指します。経済をみる上で不可欠の経済指標（統計、データ）についても適宜解説していきます。																								
到達目標	現代日本経済の現状や問題点及びそれらに関する基本データを理解し批判的に検討・分析するために有用な基礎力を身につける。																								
授業外学修内容・授業外学修時間数	事前に教科書及びレジュメを読み、予習・復習を行うこと（予習1時間・復習3時間を目安に計60時間以上の授業外学修）。復習ではレジュメの章末に掲載されている練習問題を解き、講義内容の理解度を確認しましょう。日常生活において新聞等で内外の経済記事・ニュースを読み考える習慣を身につけましょう。																								
授業計画	<p>（下記の内容は現時点で予定しているもので、これらのうち幾つかに重点を置いたり、新たな論点を取り上げることも考えています。）</p> <table border="0"> <tr> <td>【第1回】 概論（イントロダクション）</td> <td>【第9回】 財政政策運営の特徴と変化（1）</td> </tr> <tr> <td>【第2回】 物価の現状とインフレ・デフレの問題点（1）</td> <td>【第10回】 財政政策運営の特徴と変化（2）</td> </tr> <tr> <td>【第3回】 物価の現状とインフレ・デフレの問題点（2）</td> <td>【第11回】 少子高齢化と社会保障（1）</td> </tr> <tr> <td>【第4回】 物価の現状とインフレ・デフレの問題点（3）</td> <td>【第12回】 少子高齢化と社会保障（2）</td> </tr> <tr> <td>【第5回】 金融システム</td> <td>【第13回】 格差問題を考える（1）</td> </tr> <tr> <td>【第6回】 金融政策運営の特徴と変化（1）</td> <td>【第14回】 格差問題を考える（2）</td> </tr> <tr> <td>【第7回】 金融政策運営の特徴と変化（2）</td> <td>【第15回】 まとめ</td> </tr> <tr> <td>【第8回】 財政の仕組み</td> <td></td> </tr> </table>									【第1回】 概論（イントロダクション）	【第9回】 財政政策運営の特徴と変化（1）	【第2回】 物価の現状とインフレ・デフレの問題点（1）	【第10回】 財政政策運営の特徴と変化（2）	【第3回】 物価の現状とインフレ・デフレの問題点（2）	【第11回】 少子高齢化と社会保障（1）	【第4回】 物価の現状とインフレ・デフレの問題点（3）	【第12回】 少子高齢化と社会保障（2）	【第5回】 金融システム	【第13回】 格差問題を考える（1）	【第6回】 金融政策運営の特徴と変化（1）	【第14回】 格差問題を考える（2）	【第7回】 金融政策運営の特徴と変化（2）	【第15回】 まとめ	【第8回】 財政の仕組み	
【第1回】 概論（イントロダクション）	【第9回】 財政政策運営の特徴と変化（1）																								
【第2回】 物価の現状とインフレ・デフレの問題点（1）	【第10回】 財政政策運営の特徴と変化（2）																								
【第3回】 物価の現状とインフレ・デフレの問題点（2）	【第11回】 少子高齢化と社会保障（1）																								
【第4回】 物価の現状とインフレ・デフレの問題点（3）	【第12回】 少子高齢化と社会保障（2）																								
【第5回】 金融システム	【第13回】 格差問題を考える（1）																								
【第6回】 金融政策運営の特徴と変化（1）	【第14回】 格差問題を考える（2）																								
【第7回】 金融政策運営の特徴と変化（2）	【第15回】 まとめ																								
【第8回】 財政の仕組み																									
成績評価の方法	小テスト（1 - 2回、最大30%）及び期末試験（最小70%）による。第1回講義及び講義内で事前に説明する。																								
フィードバックの内容	小テストの結果などは講義内で速やかに講評する。講義内で講義アンケート（回答任意）を実施し、必要に応じ講義内で回答する。																								
教科書	『最新 日本経済入門（第6版）』小峰隆夫・村田啓子（日本評論社）2020年																								
指定図書																									
参考書	『マクロ経済学 入門（第5版）』福田慎一・照山博司（有斐閣アルマ）2016年、『ビジュアル 日本経済の基本（第5版）』小峰隆夫編（日経文庫）2016年																								
教員からのお知らせ	ミクロ経済学及びマクロ経済学を既に修得していることが望ましい。日本経済の現状と課題、そして展望について興味のある学生の受講を推奨します。																								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部学科にて定めるオフィスアワーにて受け付けます（事前にメールで連絡すること）。また、WebClassのメッセージ機能でも受け付けます。																								
アクティブラーニングの内容	小テスト実施後はフィードバックを行います。																								
その他																									

講義コード	11C0100901	授業形態	講義・演習	抽選の有無	あり	担当教員	渋沢 妃生子	開講期	第1期															
科目名	日本語1																							
履修前提条件					備考																			
授業の目的	大学生として主体的に学ぶために不可欠な日本語技能とスタディ・スキルを養成することがこの科目のねらいである。なかでもこの科目では、テキストに取り上げられたテーマを中心に文法と読解力の向上を目指す。テキストの内容整理を通して、ノートの取り方について学習し、また、大学生にふさわしい中・上級文法、表現文型なども併せて学習する。																							
到達目標	日本語の文法、文型、論理的な文章の構造に関する知識を持ち、それを文章作成に活用するスキルを身につけることができる。授業で得た知識・講義から得た情報を整理して、活用するスタディ・スキルを身につけることができる。																							
授業外学修内容・授業外学修時間数	この科目では15時間以上の授業外学修を行うこと。各回の授業で扱う項目について、毎回予習・復習を行うこと。授業中に指示された課題を期限内に提出すること。																							
授業計画	<table border="0"> <tr> <td>【第1回】 ガイダンス、プレズメントテスト及びフィードバック I（1）文章構造</td> </tr> <tr> <td>【第2回】 I（1）文章構造（2）段落内の構造 II書き言葉の文体</td> </tr> <tr> <td>【第3回】 提出課題の振り返りと質疑応答、再チャレンジ（1）</td> </tr> <tr> <td>【第4回】 I 中心文・支持文 II 連用中止形</td> </tr> <tr> <td>【第5回】 提出課題の振り返りと質疑応答、再チャレンジ（2）</td> </tr> <tr> <td>【第6回】 I（1）アウトライン（2）分類① II 主語・述語</td> </tr> <tr> <td>【第7回】 I（1）論理の構造（2）分類② II 名詞句（3）</td> </tr> <tr> <td>【第8回】 提出課題の振り返りと質疑応答、再チャレンジ（3）</td> </tr> <tr> <td>【第9回】 I 定義 II 「こと」</td> </tr> <tr> <td>【第10回】 提出課題の振り返りと質疑応答、再チャレンジ（4）</td> </tr> <tr> <td>【第11回】 I 経過① II 助詞相当語①</td> </tr> <tr> <td>【第12回】 I 経過② II 助詞相当語②</td> </tr> <tr> <td>【第13回】 提出課題の振り返りと質疑応答、再チャレンジ（5）</td> </tr> <tr> <td>【第14回】 前期まとめ確認テスト</td> </tr> <tr> <td>【第15回】 前期まとめ確認テストの振り返りと質疑応答</td> </tr> </table>									【第1回】 ガイダンス、プレズメントテスト及びフィードバック I（1）文章構造	【第2回】 I（1）文章構造（2）段落内の構造 II書き言葉の文体	【第3回】 提出課題の振り返りと質疑応答、再チャレンジ（1）	【第4回】 I 中心文・支持文 II 連用中止形	【第5回】 提出課題の振り返りと質疑応答、再チャレンジ（2）	【第6回】 I（1）アウトライン（2）分類① II 主語・述語	【第7回】 I（1）論理の構造（2）分類② II 名詞句（3）	【第8回】 提出課題の振り返りと質疑応答、再チャレンジ（3）	【第9回】 I 定義 II 「こと」	【第10回】 提出課題の振り返りと質疑応答、再チャレンジ（4）	【第11回】 I 経過① II 助詞相当語①	【第12回】 I 経過② II 助詞相当語②	【第13回】 提出課題の振り返りと質疑応答、再チャレンジ（5）	【第14回】 前期まとめ確認テスト	【第15回】 前期まとめ確認テストの振り返りと質疑応答
【第1回】 ガイダンス、プレズメントテスト及びフィードバック I（1）文章構造																								
【第2回】 I（1）文章構造（2）段落内の構造 II書き言葉の文体																								
【第3回】 提出課題の振り返りと質疑応答、再チャレンジ（1）																								
【第4回】 I 中心文・支持文 II 連用中止形																								
【第5回】 提出課題の振り返りと質疑応答、再チャレンジ（2）																								
【第6回】 I（1）アウトライン（2）分類① II 主語・述語																								
【第7回】 I（1）論理の構造（2）分類② II 名詞句（3）																								
【第8回】 提出課題の振り返りと質疑応答、再チャレンジ（3）																								
【第9回】 I 定義 II 「こと」																								
【第10回】 提出課題の振り返りと質疑応答、再チャレンジ（4）																								
【第11回】 I 経過① II 助詞相当語①																								
【第12回】 I 経過② II 助詞相当語②																								
【第13回】 提出課題の振り返りと質疑応答、再チャレンジ（5）																								
【第14回】 前期まとめ確認テスト																								
【第15回】 前期まとめ確認テストの振り返りと質疑応答																								
成績評価の方法	前期まとめ確認テスト30%、課題（1）30%、課題（2）30%、授業への取り組み姿勢10%で評価する。																							
フィードバックの内容	課題に対する講評を、翌週または各課終盤の授業内にて行う。提出された課題を添削し、授業時間内に返却して不足箇所の強化を図る。																							
教科書	『改訂版 大学・大学院 留学生の日本語①読解編』アカデミック・ジャパニーズ研究会（株式会社アルク）2021年、その他、適宜プリントを配布する																							
指定図書																								
参考書	適宜紹介する																							
教員からのお知らせ																								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業開始前、または授業終了後の時間帯を利用し、次の授業に支障のない範囲で教室にて対応する。																							
アクティブラーニングの内容	意見共有、教員からのフィードバックによる振り返りなど																							
その他																								

講義コード	11C0101001	授業形態	講義・演習	抽選の有無	あり	担当教員		開講期	
科目名	日本語2				担当教員		洪沢 妃生子	開講期	
履修前条件					備考				
授業の目的	大学生として主体的に学ぶために不可欠な日本語技能とスタディ・スキルを養成することがこの科目のねらいである。なかでもこの科目では、テキストに取り上げられたテーマを中心に文法と読解力の向上を目指す。テキストの内容整理を通して、ノートを取り方について学習し、また、大学生にふさわしい中・上級文法、表現文型なども併せて学習する。								
到達目標	日本語の文法、文型、論理的な文章の構造に関する知識を持ち、それを文章作成に活用するスキルを身につけることができる。授業で得た知識・講義から得た情報を整理して、活用するスタディ・スキルを身につけることができる。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	この科目では15時間以上の授業外学修を行うこと。各回の授業で扱う項目について、毎回予習・復習を行うこと。授業中に指示された課題を期限内に提出すること。								
授業計画	【第1回】 イントロダクション（前期の復習） 【第2回】 I 比較・対照① II 指示詞① 【第3回】 I 比較・対照② II 指示詞② 【第4回】 提出課題の振り返りと質疑応答、再チャレンジ（1） 【第5回】 I 原因・結果① II 従属節① 【第6回】 I 原因・結果② II 従属節② 【第7回】 提出課題の振り返りと質疑応答、再チャレンジ（2） 【第8回】 I 位置① II 従属節③ 【第9回】 I 位置② II 従属節④ 【第10回】 提出課題の振り返りと質疑応答、再チャレンジ（3） 【第11回】 I 列挙・順序① II 接続表現① 【第12回】 I 列挙・順序② II 接続表現② 【第13回】 提出課題の振り返りと質疑応答、再チャレンジ（4） 【第14回】 後期まとめ確認テスト 【第15回】 後期まとめ確認テストの振り返り、質疑応答								
成績評価の方法	後期まとめ確認テスト30%、課題（1）30%、課題（2）30%、授業への取り組み姿勢10%で評価する。								
フィードバックの内容	課題に対する講評を、翌週または各課終盤の授業内にて行う。提出された課題を添削し、授業時間内に返却して不足箇所の強化を図る。								
教科書	『改訂版 大学・大学院 留学生の日本語①読解編』アカデミック・ジャパニーズ研究会（株式会社アルク）2021年、その他、適宜プリントを配布する								
指定図書									
参考書	適宜紹介する								
教員からのお知らせ									
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業開始前、または授業終了後の時間帯を利用し、次の授業に支障のない範囲で教室にて対応する。								
アクティブラーニングの内容	意見共有、教員からのフィードバックによる振り返りなど								
その他									

講義コード	11C0101101	授業形態	講義・演習	抽選の有無	あり	担当教員		開講期	
科目名	日本語3				洪沢 妃生子		第1期		
履修前条件					備考				
授業の目的	大学生として知っておくべき「I日本語による時事情報」と、大学での学習や社会で求められるアカデミック・スキル（「IIレポートの書き方」）を養成することを目的としている。なかでも情報を収集する技能、収集した情報を整理し活用する技能、そして、それを人に伝える技能を高めることを目指す。これらの学習を通じて、周囲とのコミュニケーションに積極的に取り組めるようにすることも、この科目のねらいの一つである。								
到達目標	最新の時事情報を通じて、今現在社会で起きている出来事や日本の社会について理解を深め、自分の意見を説明しようとすることができる。また、言語運用力を高めて必要な情報を収集、整理して、説明、まとめを行い、活用するスキルを身につけることができる。日本語による幅広い話題の獲得により、周囲と積極的に交流を取ろうとすることができる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	この科目では、15時間以上の授業外学修を行うこと。各回の授業で扱う項目について、毎回予習・復習を行うこと。授業中に指示された課題を期限内に提出すること。								
授業計画	<p>【第1回】 ガイダンス（授業の目的と概要） I 時事情報の収集と理解（1） II レポートの書き方：構成 ・レポートの基本構成に関する理解と練習</p> <p>【第2回】 I 1.前回の時事情報に対する意見発表（1）2.時事情報の収集と理解（2） II レポートの書き方：問題提起（1） ・レポートの基本構成の確認 ・問題提起に関する理解と練習</p> <p>【第3回】 I 1.前回の時事情報に対する意見発表（2）2.時事情報の収集と理解（3） II レポートの書き方：問題提起（2） ・方向づけに関する理解と練習</p> <p>【第4回】 I 1.前回の時事情報に対する意見発表（3）2.時事情報の収集と理解（4） II レポートの書き方：問題提起（3） ・問題提起と方向づけを使った課題</p> <p>【第5回】 I 1.前回の時事情報に対する意見発表（4）2.時事情報の収集と理解（5） II レポートの書き方：問題提起（4） ・課題に対する振り返りと質疑応答</p> <p>【第6回】 I 1.前回の時事情報に対する意見発表（5）2.時事情報の収集と理解（6） II レポートの書き方：データ提示1（1） ・論拠提示 ・事実文と意見文 ・データ提示</p> <p>【第7回】 I 1.前回の時事情報に対する意見発表（6）2.時事情報の収集と理解（7） II レポートの書き方：データ提示1（2） ・事柄データに関する理解と練習 ・事柄データを使った課題</p> <p>【第8回】 I 1.前回の時事情報に対する意見発表（7）2.時事情報の収集と理解（8） II レポートの書き方：データ提示1（3） ・課題に対する振り返りと質疑応答</p> <p>【第9回】 I 1.前回の時事情報に対する意見発表（8）2.時事情報の収集と理解（9） II レポートの書き方：データ提示2（1） ・数量データに関する理解と練習 ・数量データの読み方</p> <p>【第10回】 I 1.前回の時事情報に対する意見発表（9）2.時事情報の収集と理解（10） II レポートの書き方：データ提示2（2） ・3種の数量データを使った課題</p> <p>【第11回】 I 1.前回の時事情報に対する意見発表（10）2.時事情報の収集と理解（11）3.プレゼンテーション準備（1） II レポートの書き方：データ提示2（3） ・課題に対する振り返りと質疑応答</p> <p>【第12回】 I 1.前回の時事情報に対する意見発表（11）2.時事情報の収集と理解（12）3.プレゼンテーション準備（2） II レポートの書き方：データ提示3（1） ・文章データ ・「引用」に関する理解と練習</p> <p>【第13回】 I 1.前回の時事情報に対する意見発表（12）2.時事情報の収集と理解（13）3.プレゼンテーション準備（3） II レポートの書き方：データ提示3（2） ・「要約」に関する理解と練習 ・文章データを使った課題</p> <p>【第14回】 I 1.前回の時事情報に対する意見発表（13）2.前期まとめテストの説明 3.プレゼンテーション準備（4） II レポートの書き方：データ提示3（3） ・課題の振り返りと質疑応答 ・レポートの構成の再確認 ・前期まとめテストの説明</p> <p>【第15回】 I 時事情報に関する前期まとめテスト（プレゼンテーション発表） II レポートの書き方に関する前期まとめテスト</p>								
成績評価の方法	前期まとめ課題30%、課題（1）30%、課題（2）20%、課題（3）10%、授業への取り組み姿勢10%で評価する。								
フィードバックの内容	提出された課題を添削し、翌週授業時間内に返却して、振り返り・質疑応答を行うことで理解を深める。								
教科書	教材は適宜プリントを配布する								
指定図書									
参考書	適宜紹介する								
教員からのお知らせ									
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業開始前、または授業終了後の時間帯を利用し、次の授業に支障のない範囲で教室にて対応する。								
アクティブラーニングの内容	能動的な授業外学修、ピア・ラーニングによる発見学習、プレゼンテーションなど								
その他									

講義コード	11C0101201	授業形態	講義・演習	抽選の有無	あり	担当教員		開講期	
科目名	日本語4				洪沢 妃生子		第2期		
履修前条件					備考				
授業の目的	大学生として知っておくべき「I日本語による時事情報」と、大学での学習や社会で求められるアカデミック・スキル（「IIレポートの書き方」）を養成することを目的としている。なかでも情報を収集する技能、収集した情報を整理し活用する技能、そして、それを人に伝える技能を高めることを目指す。これらの学習を通じて、周囲とのコミュニケーションに積極的に取り組めるようにすることも、この科目のねらいの一つである。								
到達目標	最新の時事情報を通じて、今現在社会で起きている出来事や日本の社会について理解を深め、自分の意見を説明しようとすることができる。また、言語運用力を高めて必要な情報を収集、整理して、説明、まとめを行い、活用するスキルを身につけることができる。日本語による幅広い話題の獲得により、周囲と積極的に交流を取ろうとすることができる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	この科目では、15時間以上の授業外学修を行うこと。各回の授業で扱う項目について、毎回予習・復習を行うこと。授業中に指示した課題を期限内に提出すること。								
授業計画	<p>【第1回】 ガイダンス（授業の目的と概要） I 時事情報の収集と理解（1） II 前期まとめ課題に対する振り返りと質疑応答</p> <p>【第2回】 I 1.前回の時事情報に対する意見発表（1）2.時事情報の収集と理解（2） II レポートの書き方：図表の提示1（1） ・図表の種類と特徴 ・図表の説明に関する理解と練習</p> <p>【第3回】 I 1.前回の時事情報に対する意見発表（2）2.時事情報の収集と理解（3） II レポートの書き方：図表の提示1（2） ・数に関する表現</p> <p>【第4回】 I 1.前回の時事情報に対する意見発表（3）2.時事情報の収集と理解（4） II レポートの書き方：図表の提示1（3） ・数量と割合の変化に関する表現</p> <p>【第5回】 I 1.前回の時事情報に対する意見発表（4）2.時事情報の収集と理解（5） II レポートの書き方：図表の提示1（4） ・図表提示に関する課題</p> <p>【第6回】 I 1.前回の時事情報に対する意見発表（5）2.時事情報の収集と理解（6） II レポートの書き方：図表の提示1（5） ・課題に対する振り返りと質疑応答</p> <p>【第7回】 I 1.前回の時事情報に対する意見発表（6）2.時事情報の収集と理解（7） II レポートの書き方：図表の提示2（1） ・適切な図表の選択 ・図表を用いた説明</p> <p>【第8回】 I 1.前回の時事情報に対する意見発表（7）2.時事情報の収集と理解（8） II レポートの書き方：図表の提示2（2） ・図表に示されたデータの解釈</p> <p>【第9回】 I 1.前回の時事情報に対する意見発表（8）2.時事情報の収集と理解（9） II レポートの書き方：図表の提示2（3） ・図表とデータ解釈の課題</p> <p>【第10回】 I 1.前回の時事情報に対する意見発表（9）2.時事情報の収集と理解（10） II レポートの書き方：図表の提示2（4） ・課題に対する振り返りと質疑応答</p> <p>【第11回】 I 1.前回の時事情報に対する意見発表（10）2.時事情報の収集と理解（11）3.プレゼンテーション準備（1） II レポートの書き方：意見提示（1） ・意見提示の構成と理解 ・データ解釈に関する理解と練習</p> <p>【第12回】 I 1.前回の時事情報に対する意見発表（11）2.時事情報の収集と理解（12）3.プレゼンテーション準備（2） II レポートの書き方：意見提示（2） ・練習に対する振り返りと質疑応答 ・考察に関する理解と練習</p> <p>【第13回】 I 1.前回の時事情報に対する意見発表（12）2.時事情報の収集と理解（13）3.プレゼンテーション準備（3） II レポートの書き方：意見提示（3） ・考察に関する理解と練習 ・結論提示に関する理解と練習、課題</p> <p>【第14回】 I 1.前回の時事情報に対する意見発表（13）2.後期まとめテストの説明 3.プレゼンテーション準備（4） II レポートの書き方：意見提示（4） ・課題に対する振り返りと質疑応答 ・レポートの構成の再確認 ・後期まとめテストの説明</p> <p>【第15回】 I 時事情報に関する後期まとめテスト（プレゼンテーション発表） II レポートの書き方に関する後期まとめテスト</p>								
成績評価の方法	後期まとめ課題30%、課題（1）30%、課題（2）20%、課題（3）10%、授業への取り組み姿勢10%で評価する。								
フィードバックの内容	提出された課題を添削し、翌週授業時間内に返却して、振り返り・質疑応答を行うことで理解を深める。								
教科書	教材は適宜資料を配布する								
指定図書									
参考書	適宜紹介する								
教員からのお知らせ									
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業開始前、または授業終了後の時間帯を利用し、次の授業に支障のない範囲で教室にて対応する。								
アクティブラーニングの内容	能動的な授業外学修、ピア・ラーニングによる発見学習、プレゼンテーションなど								
その他									

講義コード	授業形態	講義・演習	抽選の有無	あり	担当教員	開講期
科目名	日本語表現法1				各担当教員	第1期
履修前条件	備考					
授業の目的	将来の企業人として日本語の「話す・聞く・読む・書く」に関する表現力を身につけることを目的とする。授業計画に示すテーマで毎回講義を行い、授業中には随時、作文実習を行う。教科書付属のトレーニングシートを使うので、教科書を必ず持参すること。留学生の場合は日本語能力試験N1レベル程度を目安とする。					
到達目標	企業におけるコミュニケーションの基礎的方法や社内外向けの文書のひな型を理解し、必要に応じて用いることができる。就職活動やインターンシップの活動に、授業で学んだ知識を役立てることができる。					
授業外学修内容・授業外学修時間数	この科目では15時間以上の授業外学修を行うこと。 毎回の授業の前には、各回の授業で扱う項目について教科書を読んでおくこと。 毎回の授業の後には、復習し再度作文演習をして理解を深めること。					
授業計画	【第1回】ガイダンス 【第2回】社会人のコミュニケーション（1）・挨拶をする・名刺交換 【第3回】社会人のコミュニケーション（2）・依頼する・質問する 【第4回】社会人のコミュニケーション（3）・敬語を使う 【第5回】社会人のコミュニケーション（4）・電話の応対をする 【第6回】社会人のコミュニケーション（5）・スケジュールをひく 【第7回】社会人のコミュニケーション（6）・図表を解説する 【第8回】社会人のコミュニケーション（7）・クレームをつける 【第9回】社会人のコミュニケーション（8）・意見を述べる 【第10回】社会人のコミュニケーション（9）・説得する 【第11回】言語能力の基礎（1）・2語の関係 【第12回】言語能力の基礎（2）・語句の意味・多義語 【第13回】言語能力の基礎（3）・同意語・反意語 【第14回】論理的思考の基礎（1）・命題・フローチャート 【第15回】論理的思考の基礎（2）・資料解釈・推論					
成績評価の方法	毎週提出する授業課題（80%）、授業への取り組み姿勢（20%）。					
フィードバックの内容	重要な課題について授業中に解答例を見せて解説する。					
教科書	『大学生のための社会人入門トレーニングコミュニケーション編』真田治子・野原佳代子・長谷川守寿（編著）（三省堂）2011、 『大学生のための就活トレーニングSPI・エントリーシート編』北川清（編著）（三省堂）2011					
指定図書						
参考書						
教員からのお知らせ	学年と学籍番号によるクラス指定有。詳細は時間割およびガイダンス資料を確認すること。					
オフィスアワー	この授業は複数クラスなので、オフィスアワーあるいは質問対応可能時間の詳細については各担当教員に問い合わせること。					
アクティブラーニングの内容	課題解決型学習					
その他						

講義コード	授業形態	講義・演習	抽選の有無	あり	担当教員	開講期
科目名	日本語表現法2				各担当教員	第2期
履修前条件	備考					
授業の目的	将来の企業人として日本語の「話す・聞く・読む・書く」に関する表現力を身につけることを目的とする。授業計画に示すテーマで毎回講義を行い、授業中には随時、作文実習を行う。教科書付属のトレーニングシートを使うので、教科書を必ず持参すること。留学生の場合は日本語能力試験N1レベル程度を目安とする。					
到達目標	企業におけるコミュニケーションの基礎的方法や社内外向けの文書のひな型を理解し、必要に応じて用いることができる。就職活動やインターンシップの活動に、授業で学んだ知識を役立てることができる。					
授業外学修内容・授業外学修時間数	この科目では15時間以上の授業外学修を行うこと。 毎回の授業の前には、各回の授業で扱う項目について教科書を読んでおくこと。 毎回の授業の後には、復習し再度作文演習をして理解を深めること。					
授業計画	【第1回】ガイダンス 【第2回】ビジネス文書を学ぶービジネス文書の書式を知る 【第3回】報告書を作るー過不足なく伝える 【第4回】連絡・確認書を書くー簡潔に、的確に伝える 【第5回】議事録を作るーポイントをまとめる 【第6回】企画書を作るー説得力のある文章を書く 【第7回】稟議書を書くー理由を説明する 【第8回】始末書を書くー状況説明と反省 【第9回】ビジネス文書を書くー案内状を書く 【第10回】回答書を書くー承諾する場合・断る場合 【第11回】依頼状を書くー配慮しつつお願いする 【第12回】詫言状を書くー不備の謝罪・責任範囲の明確化 【第13回】督促状・抗議状を書くー婉曲的な申し入れ 【第14回】ビジネスメールの書式 【第15回】敬語の使い方					
成績評価の方法	毎週提出する授業課題（80%）、授業への取り組み姿勢（20%）。					
フィードバックの内容	重要な課題について授業中に解答例を見せて解説する。					
教科書	『大学生のための社会人入門トレーニングコミュニケーション編』真田治子・野原佳代子・長谷川守寿（編著）（三省堂）2011					
指定図書						
参考書						
教員からのお知らせ	学年と学籍番号によるクラス指定有。詳細は時間割およびガイダンス資料を確認すること。					
オフィスアワー	この授業は複数クラスなので、オフィスアワーあるいは質問対応可能時間の詳細については各担当教員に問い合わせること。					
アクティブラーニングの内容	課題解決型学習					
その他						

講義コード	授業形態	講義・演習	抽選の有無	あり	担当教員	開講期
科目名	日本語表現法基礎1				各担当教員	第1期
履修前条件					備考	
授業の目的	大学生として必要な、日本語の「話す・聞く・読む・書く」に関する表現力を身につけることを目的とする。授業計画に示すテーマで毎回講義を行い、授業中には随時、作文実習を行う。教科書付属のトレーニングシートを使うので、教科書を必ず持参すること。留学生の場合は日本語能力試験N1レベル程度を目安とする。					
到達目標	大学生生活と勉学における、基本的な言語的知識を幅広く理解し、必要に応じて用いることができる。大学でのレポート・論文作成や就職活動、インターンシップの活動に、授業で学んだ知識を役立てることができる。					
授業外学修内容・授業外学修時間数	この科目では15時間以上の授業外学修を行うこと。毎回の授業の前には、各回の授業で扱う項目について教科書を読んでおくこと。毎回の授業の後には、復習し再度作文演習をして理解を深めること。					
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> 【第1回】ガイダンス 【第2回】自己紹介 【第3回】大学でのノートのとり方 【第4回】敬語の基礎 【第5回】確実な連絡メモ 【第6回】メールの書き方 【第7回】手紙の書き方 【第8回】説明のコツ 【第9回】大学生の調べ方（1）図書館での調べ方 【第10回】大学生の調べ方（2）文献入手の仕方 【第11回】資料の読みとり 【第12回】レポートの書き方（1）具体的な手順 【第13回】レポートの書き方（2）書式 【第14回】履歴書の作成 【第15回】面接の受け方 					
成績評価の方法	毎週提出する授業課題（80%）、授業への取り組み姿勢（20%）。					
フィードバックの内容	重要な課題について授業中に解答例を見せて解説する。					
教科書	『大学生のための日本語表現トレーニングスキルアップ編』橋本修・安部朋世・福嶋健伸（編著）（三省堂）2008					
指定図書						
参考書						
教員からのお知らせ	学籍番号によるクラス指定有。詳細は時間割およびガイダンス資料を確認すること。					
オフィスアワー	この授業は複数クラスなので、オフィスアワーあるいは質問対応可能時間の詳細については各担当教員に問い合わせること。					
アクティブラーニングの内容	課題解決型学習					
その他						

講義コード	授業形態	講義・演習	抽選の有無	あり	担当教員	開講期
科目名	日本語表現法基礎2				各担当教員	第2期
履修前条件					備考	
授業の目的	大学生として必要な、日本語の「話す・聞く・読む・書く」に関する表現力を身につけることを目的とする。授業計画に示すテーマで毎回講義を行い、授業中には随時、作文実習を行う。教科書付属の問題を使うので、教科書を必ず持参すること。留学生の場合は日本語能力試験N1レベル程度を目安とする。					
到達目標	大学生生活と勉学における、コミュニケーションに関する基本的な表現を幅広く理解し、必要に応じて用いることができる。大学でのレポート・論文作成や就職活動、インターンシップの活動に、授業で学んだ知識を役立てることができる。					
授業外学修内容・授業外学修時間数	この科目では15時間以上の授業外学修を行うこと。毎回の授業の後には、復習し再度作文演習をして理解を深めること。					
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> 【第1回】ガイダンス・目上の人にアポイントメントを取る 【第2回】窓口で事務手続きをする 【第3回】個人・組織にメールを送る 【第4回】敬語を使ってメールを書く 【第5回】公的機関等に電話をかける 【第6回】イベントで社会人と会話する 【第7回】頼みごとの目的をしっかりと伝える 【第8回】アポや申し込みのためのコンタクト 【第9回】業者とメールで相談する 【第10回】業者に条件を伝えて発注する 【第11回】教育実習先へのコンタクト 【第12回】OB・OG 訪問のためのコミュニケーション 【第13回】手紙で協力を依頼する 【第14回】外部機関に向けて提案をする 【第15回】インターンシップに挑戦する 					
成績評価の方法	毎週提出する授業課題（80%）、授業への取り組み姿勢（20%）。					
フィードバックの内容	重要な課題について授業中に解答例を見せて解説する。					
教科書	『大学生のための 実用日本語表現ドリル』真田治子・野原佳代子（編著）（三省堂）2019年					
指定図書						
参考書						
教員からのお知らせ	学籍番号によるクラス指定有。詳細は時間割およびガイダンス資料を確認すること。					
オフィスアワー	この授業は複数クラスなので、オフィスアワーあるいは質問対応可能時間の詳細については各担当教員に問い合わせること。					
アクティブラーニングの内容	課題解決型学習					
その他						

講義コード	11C2113101	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員		開講期	
科目名	News English 1				小沢 奈美恵		第1期		
履修前提条件					備考				
授業の目的	英語のニュースを聞いたり読んだりして理解し、英語でニュース内容について質問に答えたり、説明したり、意見を述べることを目的とします。そうすることで、実践的な英語運用能力の習得を目指します。また、応用として、VOA (Voice of America)、CNN、NHK World News その他の各種ウェブサイトを活用し、世界の様々な事柄に視野を広げ、自分の意見を英語で表現できるようにします。								
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 時事ニュース関連の用語を覚え、英文の新聞記事などを読めるようになる。 2. 英語のニュースを聞いて内容を理解し、英語の問いに答えたり、内容を説明したり、意見を述べられるようになる。 3. ニュース英語を音読して発音やイントネーションを改善できるようになる。 								
授業外学修内容・授業外学修時間数	<p>この科目では、60時間以上の授業外学修を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教科書付属の Web 動画をスマホなどで視聴して予習を行い、授業に備える。 2. ビデオ音声のシャドーイング練習と音声提出。 3. 応用時事ニュース読解、英語による意見表明を行う。 4. 携帯のアプリを利用して日常的に英語ニュースを聞く習慣をつける。 								
授業計画	<p>【第1回】1.Unit 1 Young Boy Seeks to Spread His Love of Literacy 2. シャドーイング、音声提出、意見の発表 (1)</p> <p>【第2回】応用ニュース (1)</p> <p>【第3回】1. Unit 2 Graduation Day Surprise 2. シャドーイング、音声提出、意見の発表 (2)</p> <p>【第4回】応用ニュース (2)</p> <p>【第5回】1. Unit 3 A Mission to Help the Homeless 2. シャドーイング、音声提出、意見の発表 (3)</p> <p>【第6回】応用ニュース (3)</p> <p>【第7回】1. Unit 4 Fly Me to the Moon 2. シャドーイング、音声提出、意見の発表 (4)</p> <p>【第8回】応用ニュース (4)</p> <p>【第9回】1. Unit 5 A Man on the Bench by the Beach 2. シャドーイング、音声提出、意見の発表 (5)</p> <p>【第10回】応用ニュース (5)</p> <p>【第11回】1. Unit 6 COVID Vaccine Inequalities 2. シャドーイング、音声提出、意見の発表 (6)</p> <p>【第12回】応用ニュース (6)</p> <p>【第13回】1. Unit 7 Surfing in Japan 2. シャドーイング、音声提出、意見の発表 (7)</p> <p>【第14回】グループ発表 【第15回】第1期まとめ</p>								
成績評価の方法	課題提出 (50%)、発表 (10%)、授業への取り組み姿勢 (10%)、テスト (30%)								
フィードバックの内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教科書には、自由に英語で意見を書いたり述べたりする箇所があるので、書いて提出したものは、コメントを入れて返します。 2. 予習は LMS を通じて提出し、達成度に関して点数表記して返却します。 3. 発表したときには、発表の仕方や内容について、クラスメイトや教師の感想をフィードバックします。 								
教科書	『CBS News Break 6』熊井信弘/Stephen Timson (成美堂) 2023年								
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ	教科書などの進度は、必ずしも授業計画の通りに行かないこともあるかもしれません。皆さんの進み具合などで臨機応変に進度や内容を変えることがあります。また、質問などがあれば、いつでも e-mail などでも連絡をください。								
オフィスアワー	金曜 4 時限のオフィスアワーに ozawa@ris.ac.jp で予めアポイントを取って、314研究室に質問に来て下さい。LMS でも対応します。								
アクティブラーニングの内容	意見共有、能動的な授業外学修、グループワーク、プレゼンテーション								
その他									

講義コード	11C2113201	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員	小沢 奈美恵	開講期	第2期
科目名	News English 2								
履修前提条件					備考				
授業の目的	英語のニュースを聞いたり読んだりして理解し、英語でニュース内容について質問に答えたり、説明したり、意見を述べることを目的とします。そうすることで、実践的な英語運用能力の習得を目指します。また、応用として、VOA (Voice of America)、CNN、NHK World News その他の各種ウェブサイトを活用し、世界の様々な事柄に視野を広げ、自分の意見を英語で表現できるようにします。								
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 時事ニュース関連の用語を覚え、News English 1 より高いレベルの読解力を身につける。 2. 英語のニュースを聞いて内容を理解し、内容を説明したり、意見を述べられるようになる。 3. 自分の欲しい英語時事ニュースを検索して入手し、英語で要約したり、意見を述べられる。 								
授業外学修内容・授業外学修時間数	<p>この科目では、60時間以上の授業外学修を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教科書付属の Web 動画をスマホなどで視聴して予習を行い、授業に備える。 2. ビデオ音声のシャドーイング練習と音声提出。 3. 応用時事ニュース読解、英語による意見表明を行う。 4. アプリを利用して日常的に英語ニュースを聞く習慣をつける。 								
授業計画	<p>【第1回】1.Unit 8 A New Beat 2. シャドーイング、音声提出、意見の発表 (1)</p> <p>【第2回】応用ニュース (1)</p> <p>【第3回】1.Unit 9 Vintage Office Gear Making a Comeback During Pandemic 2. シャドーイング、音声提出、意見の発表 (2)</p> <p>【第4回】応用ニュース (2)</p> <p>【第5回】1.Unit 10 Virtual Tutors 2. シャドーイング、音声提出、意見の発表 (3)</p> <p>【第6回】応用ニュース (3)</p> <p>【第7回】1.Unit 11 Thanksgiving 2. シャドーイング、音声提出、意見の発表 (4)</p> <p>【第8回】応用ニュース (4)</p> <p>【第9回】1.Unit 12 You've Got a Friend 2. シャドーイング、音声提出、意見の発表 (5)</p> <p>【第10回】応用ニュース (5)</p> <p>【第11回】1.Unit 13 Japan's Love of Vending Machines 2. シャドーイング、音声提出、意見の発表 (6)</p> <p>【第12回】応用ニュース (6)</p> <p>【第13回】1.Unit 14 Dreams Deferred 2. シャドーイング、音声提出、意見の発表 (7)</p> <p>【第14回】応用ニュース (7) グループ発表 (1)</p> <p>【第15回】グループ発表 (2)</p>								
成績評価の方法	課題提出 (50%)、発表 (10%)、授業への取り組み姿勢 (10%) テスト (30%)								
フィードバックの内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教科書には、自由に英語で意見を書いたり述べたりする箇所があるので、書いて提出したものは、コメントを入れて返します。 2. 予習は LMS を通じて提出し、達成度に関して点数表記して返却します。 3. 発表したときには、発表の仕方や内容について、クラスメイトや教師の感想をフィードバックします。 								
教科書	『CBS News Break 6』熊井信弘/Stephen Timson (成美堂) 2023年								
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ	教科書などの進度は、必ずしも授業計画の通りに行かないこともあるかもしれません。皆さんの進み具合などで臨機応変に進度や内容を変えることがあります。								
オフィスアワー	金曜4時限のオフィスアワーに対応します。予め、メールで ozawa@ris.ac.jp 宛てにアポイントを取ってください。あるいは、メールや LMS でも対応します。								
アクティブラーニングの内容その他	意見共有、能動的な授業外学修、グループ・ワーク、プレゼンテーション								

講義コード	11C0117201	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員		開講期	
科目名	農業経済学Ⅰ				北原 克宣		第1期		
履修前提条件					備考				
授業の目的	農業経済学は、現代の農業・食料問題がどのようなかたちで表面化しているのか、その発生メカニズムはどうなっているのか、今後の解決策などについて研究する分野である。本講義では、農業経済の基礎理論、農業生産力の構造、世界の食料需給動向の実態について学ぶことを目的とする。								
到達目標	本講義の到達目標は、次のような能力を養うことである。①農業・食料問題の時事問題について説明できる、②農業・食料問題について歴史具体的に説明できる、③食料・農業政策について説明できる。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	毎回、授業前1週間の社会経済の動きと農業・食料問題のニュースをチェックするとともに、授業中に紹介した書籍に必ず目を通し、60時間以上の授業外学修を行うこと。								
授業計画	【第1回】 農業・食料をめぐる現状 【第2回】 農業と工業はどう違うか 【第3回】 農業と工業はどう違うか（その2） 【第4回】 経済学と土地所有－地代発生メカニズム（差額地代）－ 【第5回】 経済学と土地所有－地代発生メカニズム（差額地代・その2）－ 【第6回】 経済学と土地所有－地代発生メカニズム（絶対地代）－ 【第7回】 資本主義の発展と農業＝土地所有－日本－ 【第8回】 資本主義の発展と農業＝土地所有－日・その2－				【第9回】 資本主義の発展と農業＝土地所有－英・仏・米 【第10回】 農法展開の論理－その1－ 【第11回】 農法展開の論理－その2－ 【第12回】 世界の食料問題－過剰と不足の併存－ 【第13回】 世界の食料問題－食料供給システムの変化－ 【第14回】 世界の食料問題－食料の質的变化－ 【第15回】 農業・食料問題の解決に向けて				
成績評価の方法	期末試験（100％）								
フィードバックの内容	リアクションペーパーに対するフィードバックを翌週の授業内にて行う。								
教科書									
指定図書	『再生産構造と地代理論』 姜昌周（青木書店）1993、『現代資本主義と農業再編の課題』 保志恂 ほか（御茶の水書房）1999、『現代日本資本主義における農業問題』 上原信博（御茶の水書房）1997、『アグリビジネス論』 中野一新編（有斐閣）1998、『現代の経済政策』 田代洋一ほか（有斐閣）2006、『農業問題入門』 田代洋一（大月書店）2003、『日本の農地：所有と制度の略史』 島本富夫（全国農業会議所）2003、『農業・食料問題入門』 田代洋一（大月書店）2012年、『多国籍アグリビジネスと農業・食料支配』 北原克宣・安藤光義編（明石書店）2016年								
参考書									
教員からのお知らせ	農業や農村にゆかりのない人でも、毎日の食事は欠かさないでしょう。本講義の受講を希望する人は、自分が毎日食べている食料が、どこで、どのように作られ、どのようにして食卓まで届いているのかということに興味を持つことから始めて下さい。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談等は随時受け付けます。講義時に声をかけて頂ければ、日程を調整します。Teamsのチャットでも受け付けます。								
アクティブラーニングの内容	能動的な授業外学修								
その他									

講義コード	11C0117301	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員	北原 克宣	開講期	第2期
科目名	農業経済学2				北原 克宣			第2期	
履修前提条件					備考				
授業の目的	農業経済学は、現代の農業・食料問題がどのようなかたちで表面化しているのか、その発生メカニズムはどうなっているのか、今後の解決策などについて研究する分野である。本講義では、「農業経済学1」で学ぶ基礎理論を踏まえ、農業・食料政策について学ぶことを目的とする。								
到達目標	本講義の到達目標は、次のような能力を養うことである。①農業・食料問題の時事問題について説明できる、②農業・食料問題について歴史具体的に説明できる、③食料・農業政策について説明できる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	毎回、授業前1週間の社会経済の動きと農業・食料問題のニュースをチェックするとともに、授業中に紹介した書籍に必ず目を通し、60時間以上の授業外学修を行うこと。								
授業計画	【第1回】現代の農業・食料政策の課題 【第2回】農業問題の発生と農業政策－農業・食料政策はなぜ必要になったか－ 【第3回】戦前日本資本主義における農業・食糧政策 【第4回】戦後日本資本主義における農業・食糧政策－食糧増産政策から基本法農政まで－ 【第5回】戦後日本資本主義における農業・食料政策－食糧増産政策から基本方農政まで（その2）－ 【第6回】戦後日本資本主義における農業・食料政策－総合農政からグローバル化農政まで－ 【第7回】現代資本主義における農業・食料政策－グローバル化農政・第2期－ 【第8回】現代資本主義における農業・食料政策－グローバル化農政・第2期（その2）－ 【第9回】現代資本主義における農業・食料政策－グローバル化農政・第2期（その3）－ 【第10回】農業協同組合の役割と課題－その1－ 【第11回】農業協同組合の役割と課題－その2－ 【第12回】農業協同組合の役割と課題－その3－ 【第13回】食品の安全性に関する政策－食品表示－ 【第14回】食品の安全性に関する政策－トレーサビリティ－ 【第15回】食品の安全性に関するせいさく－HACCPとGAP－								
成績評価の方法	期末試験（100％）								
フィードバックの内容	リアクションペーパーに対するフィードバックを翌週の授業内にて行う。								
教科書									
指定図書	『再生産構造と地地理論』姜昌周（青木書店）1993、『現代資本主義と農業再編の課題』保志恂 ほか（御茶の水書房）1999、『現代日本資本主義における農業問題』上原信博（御茶の水書房）1997、『アグリビジネス論』中野一新編（有斐閣）1998、『現代の経済政策』田代洋一ほか（有斐閣）2006、『農業問題入門』田代洋一（大月書店）2003、『日本の農地：所有と制度の略史』島本富夫（全国農業会議所）2003、『農業・食料問題入門』田代洋一（大月書店）2012年、『多国籍アグリビジネスと農業・食料支配』北原克宣・安藤光義編（明石書店）2016年								
参考書									
教員からのお知らせ	現代の農業は工業化され、大量生産を可能にした反面、環境問題や食品の安全性問題を引き起こしつつあります。このような問題に関心を持つ方の受講をお待ちしております。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談等は随時受け付けます。 Teamsのチャットでも受け付けます。								
アクティブラーニングの内容	能動的な授業外学修								
その他									

講義コード	11C0105701	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員		開講期	
科目名	東アジアの文化と社会1 / 東アジアの文化と社会A				黄 昱		第1期		
履修前提条件					備考				
授業の目的	この授業は中国の歴史や地理、文学、思想、社会生活などさまざまな面を取り上げ、特徴的な文化事象を考察します。中国の古代から近現代までの基本知識を幅広く紹介し、中国の文化・社会の形成と継承を考えた上、古代から現代までに行われてきた中国と日本の交流について学び、中国という他者との比較を通して、東アジア文化圏における文化と社会の共通性と異質性を明らかにします。								
到達目標	中国の文化・社会の基本知識を習得し、その概略を説明できる。 文化の形成、継承と影響について学ぶことによって、異文化と自文化についての理解を深める。 図書館で関連資料を調査し、自らの考えを論理的に述べることができる。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	この授業では60時間以上の授業外学修を行うこと。 参考資料を読み、毎回復習して下さい（2時間×15回＝30時間）。 最終レポートの準備をして下さい（30時間）。								
授業計画	【第1回】イントロダクション 文化とは何か、中国とはどんな国 【第2回】中国の歴史（1） 中国文明の創成：先史～春秋時代 【第3回】中国の歴史（2） 「帝国」の形成：戦国・秦朝 【第4回】中国の歴史（3） 「帝国」の継承：漢代 【第5回】中国の歴史（4） 隋唐帝国①：シルクロード 【第6回】中国の歴史（5） 隋唐帝国②：遣唐使 【第7回】中国の歴史（6） 伝統中国の転成：宋元時代 【第8回】中国の歴史（7） 古代の科挙制度と現代の受験戦争 【第9回】中国の文学（1） 孔子と『詩経』、屈原と『楚辞』 【第10回】中国の文学（2） 中国文学の粋：唐詩宋詞元曲 【第11回】中国の文学（3） 中国の志怪小説と日本の怪談 【第12回】中国の文学（4） 笑話：中国文化の中のユーモア 【第13回】中国の文学（5） 中国四大名著①：『水滸伝』『三国志演義』 【第14回】中国の文学（6） 中国四大名著②：『西遊記』『紅樓夢』 【第15回】前期のまとめ								
成績評価の方法	毎回の授業で行う授業内容理解度の確認テスト（60%）と最終レポート（40%）で評価します。最終レポートの提出は必須です。								
フィードバックの内容	授業中に確認テストの解説と講評を行います。 メールあるいはチャットで授業についての質問を受け付けます。								
教科書 指定図書									
参考書	『中国の歴史を知るための60章』並木頼寿、杉山文彦（明石書店）2011年、『中国の歴史 増補改訂版』山本英史（河出書房新社）2016年、『テーマで読み解く中国の文化』湯浅邦弘（ミネルヴァ書房）2016年、『中国現代文化14講』中国モダニズム研究会（関西学院大学出版会）2014年、『中国文学をつまみ食い』武田雅哉、加部勇一郎、田村容子（ミネルヴァ書房）2022年								
教員からのお知らせ オフィスアワー	木曜日2限								
アクティブラーニングの内容 その他	教員からのフィードバックによる振り返り、能動的な授業外学修、グループ・ディスカッション								

講義コード	11C0105801	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員		開講期	
科目名	東アジアの文化と社会2／東アジアの文化と社会B				黄 昱	第2期			
履修前提条件					備考				
授業の目的	この授業は中国の思想文化、社会生活などさまざまな面を取り上げ、特徴的な文化事象を考察します。中国の古代から近現代までの基本知識を幅広く紹介し、中国の文化・社会の形成と継承を考えます。このように異なる文化の考え方、生活習慣などを幅広く学ぶことで、世界に向けた柔軟な視野を持つことができるようになることを目的とします。授業は基本的にパワーポイントを使用します。適宜、ビジュアル資料なども活用します。								
到達目標	中国の文化・社会の基礎知識を習得し、その概略を説明できる。 文化の形成、継承と影響について学ぶことによって、異文化と自文化についての理解を深める。 図書館で関連資料を調査し、自らの考えを論理的に述べることができる。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	この授業では60時間以上の授業外学修を行うこと。 参考書を読み、毎回復習して下さい（2時間×15回＝30時間）。 最終レポートの準備をして下さい（30時間）。								
授業計画	【第1回】授業ガイダンス、中国の地理（1） 中国の世界遺産 【第2回】中国の地理（2） 中国の北方と南方 【第3回】中国の食文化（1） 八大菜系 【第4回】中国の食文化（2） 古代中国の食卓 【第5回】中国の食文化（3） 「食色性也」：グルメドキュメンタリーのブーム 【第6回】中国の食文化（4） 日本の中華料理 【第7回】中国の思想（1） 儒教の社会観・政治観 【第8回】中国の思想（2） 天下と江湖、中国の武俠小説と時代劇 【第9回】中国の思想（3） 中国の宗教と民間信仰 【第10回】中国の生活（1） 中国の年中行事 【第11回】中国の生活（2） 中国の服飾史と漢服ブーム 【第12回】中国の社会（1） 多民族国家と少数民族 【第13回】中国の社会（2） 一人っ子政策と80後、90後、00後 【第14回】中国の社会（3） 中国における日本像：反日、親日と知日 【第15回】後期のまとめ								
成績評価の方法	毎回の授業で行う授業内容理解度の確認テスト（60%）と最終レポート（40%）で評価します。最終レポートの提出は必須です。								
フィードバックの内容	授業中に確認テストの解説と講評を行います。 メールあるいはチャットで授業についての質問を受け付けます。								
教科書 指定図書									
参考書	『中国の暮らしと文化を知るための40章』東洋文化研究会（明石書店）2005年、『テーマで読み解く中国の文化』湯浅邦弘（ミネルヴァ書房）2016年、『中国現代文化14講』中国モダニズム研究会（関西学院大学出版会）2014年、『よくわかる中国思想』湯浅邦弘（ミネルヴァ書房）2022年、『中国文化 55のキーワード』武田雅哉、加部勇一郎、田村容子（ミネルヴァ書房）2016年								
教員からのお知らせ オフィスアワー	木曜日2限								
アクティブラーニングの内容 その他	教員からのフィードバックによる振り返り、能動的な授業外学修、グループ・ディスカッション								

講義コード	11C2113301	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員	ホームマン 由佳	開講期	第1期
科目名	Business English Skills 1				ホームマン 由佳		第1期		
履修前提条件					備考				
授業の目的	国際社会で活躍する人を目指すにはビジネス英語を習得することが必要だ。授業では、「読む」「聞く」「話す」「書く」の4技能学習を通してビジネスの現場で通用する英語力を身につけるとともに、マーケティングや経営戦略などの基本的な知識を英語で学ぶことを目的とする。授業では日本の代表的な企業のケーススタディを扱うテキストを使用する。								
到達目標	1) ビジネス英語の基本的スキルを身につける。 2) マーケティング、経営戦略、ラグジュアリービジネス、SDGs に関する基本的知識を学ぶ。 3) ビジネスでよく使う英語の言い回しを自分から発信できる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	授業外学修は60時間以上。(授業は教科書を予習していることが前提で進行する。ダウンロードした音声ファイルを必ず聞いておくこと。)								
授業計画	【第1回】 講義概要 【第2回】 グローバルマーケティング (1) 【第3回】 “Marketing Mix in Emerging Countries” 【第4回】 グローバルマーケティング (2) 【第5回】 “Confectionery Marketing in Overseas Business” 【第6回】 グローバルマーケティング (3) 【第7回】 “Exploring global Business and Enhancing People’s Sustainable Value” 【第8回】 グローバルマーケティング (4) 【第9回】 “Globalization or Localization” 【第10回】 グローバル戦略 (1) 【第11回】 “Using a New Guerrilla Marketing Strategy as a Challenger” 【第12回】 グローバル戦略 (2) 【第13回】 “Countering Innovators’ Dilemma” 【第14回】 グローバル戦略 (3) 【第15回】 “Enhancing Internal Communication of a Global Company”								
成績評価の方法	テスト (50%)、プレゼンテーション (30%)、課題 (20%)								
フィードバックの内容	課題のフィードバックを授業内で公開する。								
教科書	『Global Business Case Studies』 Yasuo Nakatani (Seibido) 2023								
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ									
オフィスアワー	金曜2限								
アクティブラーニングの内容	基本的に反転授業型の授業形態をとる。教室では、各自予習しておいた内容や授業で学んだ知識をグループワークで確認し合ったり、プレゼンテーションで意見などを共有する。								
その他									

講義コード	11C2113401	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員	ホームマン 由佳	開講期	第2期
科目名	Business English Skills 2				ホームマン 由佳		第2期		
履修前提条件					備考				
授業の目的	国際社会で活躍する人を目指すにはビジネス英語を習得することが必要だ。授業では、「読む」「聞く」「話す」「書く」の4技能学習を通してビジネスの現場で通用する英語力を身につけるとともに、マーケティングや経営戦略などの基本的な知識を英語で学ぶことを目的とする。授業では日本の代表的な企業のケーススタディを扱うテキストを使用する。								
到達目標	1) ビジネス英語の基本的スキルを身につける。 2) マーケティング、経営戦略、ラグジュアリービジネス、SDGs に関する基本的知識を学ぶ。 3) ビジネスでよく使う英語の言い回しを自分から発信できる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	授業外学修は60時間以上。(授業は教科書を予習していることが前提で進行する。ダウンロードした音声ファイルを必ず聞いておくこと。)								
授業計画	【第1回】 「グローバルリーダーに学ぶビジネス戦略」について 【第2回】 日本のラグジュアリーブランドについて 【第3回】 “Most Luxurious and Practical Accommodations” 【第4回】 “Creating a Japanese Luxury Brand” 【第5回】 “The Species That Survives is the One That is the Most Adaptable to Change” 【第6回】 SDGs (Sustainable Development Goals) について 【第7回】 “BOP Business Enhancing Sustainable Development Goals” (1) 【第8回】 “BOP Business Enhancing Sustainable Development Goals” (2) 【第9回】 “Connecting People with What’s Happening” (1) 【第10回】 “Connecting People with What’s Happening” (2) 【第11回】 “Uniting the World for a Better Tomorrow” (1) 【第12回】 “Uniting the World for a Better Tomorrow” (2) 【第13回】 “Developing a Mobile Platform” (1) 【第14回】 “Developing a Mobile Platform” (2) 【第15回】 まとめ								
成績評価の方法	テスト (50%)、プレゼンテーション (30%)、課題 (20%)								
フィードバックの内容	課題のフィードバックを授業内で公開する。								
教科書	『Global Business Case Studie』 Yasuo Nakatani (Seibido) 2023								
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ									
オフィスアワー	金曜2限								
アクティブラーニングの内容	基本的に反転授業型の授業形態をとる。教室では、各自予習しておいた内容や授業で学んだ知識をグループワークで確認し合ったり、プレゼンテーションで意見などを共有する。								
その他									

講義コード	11C0270901	授業形態	講義・演習	抽選の有無	あり	担当教員		開講期	
科目名	ビジネス英会話1／ビジネス英語1				小沢 奈美恵		第1期		
履修前提条件					備考				
授業の目的	<p>ビジネスの現場で用いられる初歩的な英語表現を身に付け、英字新聞で現代の経済活動の動向を読み、意見を述べることを目指します。</p> <p>具体的には、教科書で、挨拶、アポイントの取り方、履歴書の書き方、面接の受け方、電話の取り方などの実践的会話を学びます。また、ウェブサイトを利用して様々な新しい経済ニュースを学び、ニュースを要約したり、英語の問いに英語で回答したり、感想を述べられるようにします。</p>								
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. ビジネスの現場で利用できる初歩的な会話表現を身に付けることができる。 2. ビジネス英会話のリスニング力をつける。 3. 経済ニュースを読んで理解し、それについて英語で要約したり、簡単な意見を述べられるようになる。 								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	<p>この授業では15時間以上の授業外学修を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教科書を予習して、表現を覚え、リスニング問題を解く。 2. モデル音声をシャドーイングしながら、音読の練習を行い発音やイントネーションを改善する。 3. 英語の経済ニュースを読んで、英語で要約したり感想を書いたりする。 4. グループ発表に備える。 								
授業計画	<p>【第1回】 Job Interviews 1 【第2回】 Job Interviews 2 【第3回】 Job Interview 3 経済ニュース① 【第4回】 Socializing with Confidence 1 【第5回】 Socializing with Confidence 2 【第6回】 Socializing with Confidence 3 経済ニュース② 【第7回】 Communicationg on the Phone 1 【第8回】 Communicationg on the Phone 2 【第9回】 Communicationg on the Phone 3 経済ニュース③ 【第10回】 Job Hunting 1 【第11回】 Job Hunting 2 【第12回】 Job Hunting 3 経済ニュース④ 【第13回】 Business Writing 1 【第14回】 Business Writing 2 【第15回】 Business Writing 3 経済ニュース⑤ 総括</p>								
成績評価の方法	[課題提出 (50%) + 発表 (10%) + 授業への取り組み姿勢 (10%)] (70%) + 期末テスト (30%)								
フィードバックの内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教科書の問題は Teams 通して提出してもらうので、予習してきた人は、ポイントとして授業への取り組み姿勢 (50%) に加算されます。 2. 発表したときには、発表の仕方や内容について、クラスメイトや教師の感想をフィードバックします。 								
教科書 指定図書 参考書	『English at Work 2』 Richard Shearn 他 (Cengage) 2012								
教員からのお知らせ									
オフィスアワー	金曜 4 時限がオフィスアワー。予め、ozawa@ris.ac.jp に連絡しアポイントを取ってください。メールや LMS で質問を送ってくれた場合も対応します。								
アクティブラーニングの内容 その他	意見共有、能動的な授業外学修、グループ・ワーク、プレゼンテーション。								

講義コード	11C0271001	授業形態	講義・演習	抽選の有無	あり	担当教員		開講期	
科目名	ビジネス英会話2／ビジネス英語2				小沢 奈美恵		第2期		
履修前提条件					備考				
授業の目的	ビジネスの現場で用いられる初歩的な英語表現を身に付け、英字新聞を読み、ニュースで現代の経済活動の動向を読み、意見を述べることを目指します。 第1期に学んだ初歩的な会話表現から、交渉、契約などの一歩進んだ表現も身に付けます。また、よりレベルの高い経済ニュースを学んでいきます。								
到達目標	1. ビジネスの現場で利用できる多様な会話表現を身に付けることができる。 2. ビジネス英会話のリスニング力をつける。 3. 経済ニュースを読んで理解し、それについて英語の間に答えたり、英語で要約し、第1期より進歩した表現を用いて意見を述べたり、書いたりできるようになる。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	この授業では15時間以上の授業外学修を行う。 1. 教科書を予習して、表現を覚え、各種問題を解く。 2. モデル音声をシャドーイングしながら、音読の練習を行って発音やイントネーションを改善する。 3. 経済ニュースを読んで理解し、英語で要約したり、意見を書いて述べられるようにする。 4. グループ発表に備える。								
授業計画	【第1回】 Powerful Presentations 1 【第2回】 Powerful Presentations 2 【第3回】 Powerful Presentations 3 経済ニュース① 【第4回】 Participating in a Meeting 1 【第5回】 Participating in a Meeting 2 【第6回】 Participating in a Meeting 3 経済ニュース② 【第7回】 Introducing Companies and Products 1 【第8回】 Introducing Companies and Products 2 【第9回】 Introducing Companies and Products 3 経済ニュース③ 【第10回】 Negotiating for Success 1 【第11回】 Negotiating for Success 2 【第12回】 Negotiating for Success 3 経済ニュース④ 【第13回】 Traveling on Business 1 【第14回】 Traveling on Business 2 【第15回】 Traveling on Business 3 経済ニュース⑤ 総括								
成績評価の方法	[課題提出 (50%)、発表 (10%)、授業への取り組み姿勢 (10%)] (70%) + 期末テスト (30%)								
フィードバックの内容	1. 教科書の問題は Teams の課題を通して提出してもらうので、予習してきた人は、ポイントとして課題提出 (50%) と取り組み姿勢 (10%) に加算されます。 2. 発表したときには、発表の仕方や内容について、クラスメイトや教師の感想をフィードバックします。								
教科書									
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ									
オフィスアワー	金曜 4 時限がオフィスアワー。予め、ozawa@ris.ac.jp に連絡しアポイントを取ってください。メールや Teams のチャットで質問を送ってくれた場合も対応します。								
アクティブラーニングの内容 その他	意見共有、能動的な授業外学修、グループ・ワーク、プレゼンテーション。								

講義コード	11C2113901	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員		開講期	
科目名	Business communication / Business Negotiation				矢倉 真一		第1期		
履修前条件					備考				
授業の目的	世界がグローバル化する中で、世界言語と位置付けられている英語でのコミュニケーションが、ますます重要になってきます。日常会話はもちろん、オフィス内での会話や、海外取引相手とのコミュニケーションは、直接利益に反映します。この授業では、Youtube のビジネス英会話や Office Routineなどを学びながら、いろいろ映画のシーンの中の表現を学んで、リスニングやリーディング、スピーキング、ライティングなどスキルを身に着けます。								
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. ビジネス用語を覚え、ビジネス英語などを読めるようになる。 2. オフィス英会話等を聞いて内容を理解し、英語の問いに英語で答えたり、内容を説明したり、意見を述べられるようになる。 3. ビジネスで使う英会話や経済ニュース、記事を音読して発音やイントネーションを改善できるようになる。 								
授業外学修内容・授業外学修時間数	教員の提示する資料や教材をもとに予習と復習を行い、合わせて60時間以上の授業外学修を行うこと。								
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> 【第1回】 日常会話とビジネス英語の視聴・説明 (ABC/BBC/CNN 等) 【第2回】 オフィスでの日常英会話を学び、表現や使われる単語を学ぶ 【第3回】 会社での一日 (会話パターンを学び・作成) 【第4回】 Hotel 予約・航空券予約における会話 【第5回】 海外旅行先で使う表現や単語を学び、応用 【第6回】 料理のレシピ作成・発表 (料理やレストランのアピール) 【第7回】 天気予報に関する単語や表現を学び、天気予報を作成 【第8回】 海外での shopping における価格交渉で使う単語や表現、応用・会議での会話 【第9回】 Business Email (presentation) 【第10回】 英語の常識や非常識 (使ってはいけない英語表現や英単語) を説明 【第11回】 電話を使った英語表現や単語を学んで、応用・発表 【第12回】 映画などを視聴し、起業におけるコミュニケーションを説明、応用 【第13回】 英語のリズムを説明・学ぶ 【第14回】 英文契約書 (ESL Intermediate レベル) に関して、読解力を付けるためによく使われる単語や表現を学び応用 【第15回】 Project の規格 【第15回】 まとめ 								
成績評価の方法	課題提出 (50%)、発表 (10%)、授業への取り組み姿勢 (10%) などのオンラインテスト (30%) どれか一つを全く行わない場合は、不可とします。								
フィードバックの内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 書いて提出したものは、文法や言葉の使い方をチェックして、翌週返します。 2. 予習は Teams の課題を通じて提出し、達成度に関して点数表記して返却します。 3. 発表したときには、発表の仕方や内容について、Forms のアンケート機能を使って、クラスメイトや教師の感想をフィードバックします。 								
教科書									
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ	発表に関しては密を避けて、少人数ごともしくは一人一人行います。また、ディスカッション等は、なるべく少人数で意見をそれぞれ、離れた場所で行えるようにしていきたいと思えます。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。								
アクティブラーニングの内容	教員からのフィードバックによる振り返り								
その他									

講義コード	11C2113501	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員		開講期	
科目名	Business Discussion 1				マイケル クボ		第1期		
履修前提条件					備考				
授業の目的	This class helps students open their minds to talking about business discussions with fluency and confidence. Each week, and step by step, the teacher will challenge the students with practical, active and real-world lessons. In this class, students will get the confidence and ability to have basic but effective English discussions. The method of study involves active learning and active participation. A lot of role-play in class makes this class fun, memorable, and meaningful.								
到達目標	Students of this class will study current events related to business. They will learn how to share and discuss business-related matters effectively and dynamically. They will enjoy effective business-level talks in class. Students will also be encouraged and motivated by the teacher to do their best to advance their English skills, including critical thinking skills.								
授業外学修内容・授業外学修時間数	Students must spend more than 60 hours outside of class in preparation for this course.								
授業計画	【第1回】 Getting acquainted and setting goals 【第2回】 Introducing yourself 【第3回】 Student presentations 1 【第4回】 Student presentations 2 【第5回】 Talking about yourself and what you do 【第6回】 Student Role-plays 1 (graded) 【第7回】 Asking questions and confirming comprehension 【第8回】 Asking hard questions 【第9回】 Your "English Personality" 【第10回】 Student presentations 1 【第11回】 Student presentations 2 【第12回】 Review 1 【第13回】 Review 2 【第14回】 Student Role-plays 2 (graded) 【第15回】 Final speeches								
成績評価の方法	effort: 25%, participation: 25%, homework: 25%, quizzes, tests and/or projects: 25%								
フィードバックの内容									
教科書									
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ									
オフィスアワー	The teacher is always available via LINE. Special meeting between student and teacher can be made easily. Traditional office hours are Wednesdays after 16:00, and Thursdays 10:40 to 12:30. Please contact the teacher directly via LINE or email (michaelkubo@ris.ac.jp)								
アクティブラーニングの内容	Students will regularly be asked to share their opinions on topics and make presentations.								
その他									

講義コード	11C2113601	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員		開講期	
科目名	Business Discussion 2				マイケル クボ		第2期		
履修前提条件					備考				
授業の目的	This class helps students open their minds to talking about business discussions with fluency and confidence. Each week, and step by step, the teacher will challenge the students with practical, active and real-world lessons. In this class, students will get the confidence and ability to have basic but effective English discussions. The method of study involves active learning and active participation. A lot of role-play in class makes this class fun, memorable, and meaningful.								
到達目標	Students of this class will study current events related to business. They will learn how to share and discuss business-related matters effectively and dynamically. They will enjoy effective business-level talks in class. Students will also be encouraged and motivated by the teacher to do their best to advance their English skills, including critical thinking skills.								
授業外学修内容・授業外学修時間数	Students must spend more than 60 hours outside of class in preparation for this course.								
授業計画	【第1回】 Getting reacquainted and setting new goals 【第2回】 Negotiation skills 1 【第3回】 Negotiation skills 2 【第4回】 Student presentations 【第5回】 Student presentations 【第6回】 Student Role-plays 1 (graded) 【第7回】 Say it clear: Agreeing and Disagreeing 【第8回】 How to say no politely 【第9回】 Whistle while you work: how to be casual yet professional 【第10回】 Student presentations 1 【第11回】 Student presentations 2 【第12回】 Review 1 【第13回】 Review 2 【第14回】 Student Role-plays 2 (graded) 【第15回】 Final speeches								
成績評価の方法	effort: 25%, participation: 25%, homework: 25%, quizzes, tests and/or projects: 25%								
フィードバックの内容									
教科書									
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ									
オフィスアワー	The teacher is always available via LINE. Special meeting between student and teacher can be made easily. Traditional office hours are Wednesdays after 16:00, and Thursdays 10:40 to 12:30. Please contact the teacher directly via LINE or email (michaelkubo@ris.ac.jp)								
アクティブラーニングの内容	Students will regularly be asked to share their opinions on topics and make presentations.								
その他									

講義コード	11C2113701	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員	開講期
科目名	Business Presentation 1				ジュリー トーゲソン		第1期
履修前提条件					備考		
授業の目的	The purpose of this class is to help students gain the knowledge and skills to give an effective business presentation in English.						
到達目標	By the end of the course, students will be able to: deliver a variety of presentations (informative, layout, demonstration, and persuasive) with acceptable posture, eye contact, and voice inflection; structure a presentation with an introduction, body, and conclusion with appropriate transitions; make and use a variety of visuals including graphs, diagrams, flow charts and bullet points.						
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	Students should preview the contents of the next lesson, including vocabulary and activities to prepare for in-class activities, which will include pair and group work (30 minutes). Students will need to review after each class and do homework activities, including watching the textbook videos & preparing for a presentation (30 - 60 minutes). Students must spend at least 15 hours outside of class in preparation for this course.						
授業計画	【第1回】 Course introduction; self-introductions 【第2回】 The Three Messages: Physical, Visual, and Story Message 【第3回】 Physical Message: 8 posture and eye contact problems 【第4回】 The Informative Speech: teaching something to the audience; speech evaluation form 【第5回】 Informative Speech presentations & evaluations 【第6回】 Gestures: sequence; emphasis, illustration, and comparison/contrast groups 【第7回】 The Layout Speech 【第8回】 Layout Speech presentations & evaluations 【第9回】 Voice inflection 【第10回】 The Demonstration Speech 【第11回】 Demonstration Speech presentations & evaluations 【第12回】 Physical message review & tests 【第13回】 Five Tips for Effective Visuals 【第14回】 I.I.E: Introducing, Explaining and Emphasizing Visuals 【第15回】 Comparison Speech presentations & evaluations						
成績評価の方法	Class participation: 30% Homework & performances: 45% Quizzes: 25%						
フィードバックの内容	Periodic quizzes will be conducted during the class and discussed afterwards. Presentations will also be evaluated by the teacher and other students using presentation evaluation forms and returned to the students in the following class.						
教科書	『Speaking of Speech Premium Edition』 Charles LeBeau (Cengage) 2021						
指定図書							
参考書							
教員からのお知らせ	Textbook must be NEW! Used textbooks are not acceptable. This will be a fun, fast-paced, interactive class requiring active participation, a positive, cooperative attitude, and significant homework and class preparation.						
オフィスアワー	Questions and consultations on this lesson will be handled within the class as long as there is no hindrance to the next lesson after the class or by appointment if needed. My contact information will be shared in the first class.						
アクティブラーニングの内容	Think-pair-share; Q & A; presentation skills practice; class presentations; peer & self-evaluation						
その他							

講義コード	11C2113801	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員	開講期
科目名	Business Presentation 2				ジュリー トーゲソン		第2期
履修前提条件					備考		
授業の目的	The purpose of this class is to help students gain the knowledge and skills to give an effective business presentation in English.						
到達目標	By the end of the course, students will be able to: deliver a variety of presentations (informative, layout, demonstration, and persuasive) with acceptable posture, eye contact, and voice inflection; structure a presentation with an introduction, body, and conclusion with appropriate transitions; make and use a variety of visuals including graphs, diagrams, flow charts and bullet points.						
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	Students should preview the contents of the next lesson, including vocabulary and activities to prepare for in-class activities, which will include pair and group work (30 minutes). Students will need to review after each class and do homework activities, including watching the textbook videos & preparing for a presentation (30 - 60 minutes). Students must spend at least hour per week of study outside of class for this course.						
授業計画	【第1回】 Spring semester review; Fall semester preview 【第2回】 The Story Message & story presentation outline with transitions 【第3回】 Restaurant review speech & evaluations 【第4回】 How to make an introduction; introductory phrases 【第5回】 Persuasive speeches: what, why, and overview in introductions 【第6回】 Persuasive product comparison introduction presentations and evaluations 【第7回】 The Body: explaining main points with evidence such as numbers and examples 【第8回】 Understanding & using transitions 【第9回】 The body of a persuasive product comparison 【第10回】 Product comparison body presentations & evaluations 【第11回】 The Conclusion: summarizing & emphasizing main points 【第12回】 Preparing the conclusion of a persuasive product comparison 【第13回】 Conclusions of product comparison presentations & evaluations 【第14回】 The Story Message review & tests 【第15回】 Final performances						
成績評価の方法	Class participation: 30% Homework & performances: 45% Tests: 25%						
フィードバックの内容	Periodic tests will be given in class. Feedback will be in written form with answers discussed in class. Presentations will also be evaluated by the teacher and other students using presentation evaluation forms and returned to the students by the following class.						
教科書 指定図書 参考書	『Speaking of Speech Premium Edition』 Charles LeBeau (Cengage) 2021						
教員からのお知らせ	Textbook must be NEW, unless used the the same student in the spring Business Presentations 1 class. This will be a fun, fast-paced, interactive class requiring active participation, a positive, cooperative attitude, and significant homework and class preparation.						
オフィスアワー	Questions and consultations on this lesson will be handled within the classroom as long as there is no hindrance to the next lesson after the class or by appointment if needed.						
アクティブラーニングの内容 その他	Think-pair-share; Q & A; class presentations; self & peer evaluation						

講義コード	11C2112801	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員		開講期	
科目名	Preparation for Studying Abroad 1				マイケル クボ		第1期		
履修前提条件					備考				
授業の目的	This class helps students prepare for studying abroad. Each week, and step by step, the teacher will challenge the students with practical, active and real-world lessons. In this class, students will get the confidence and ability to study abroad. The method of study involves active learning and active participation. A lot of role-play in class makes this class fun, memorable, and meaningful.								
到達目標	In this class, students will prepare to study abroad, and the teacher will encourage and motivate them as well. Students will learn a variety of skills that will prepare them for overseas study. Students will be encouraged to speak up in class, enjoy pair and group work and learn how to give speeches and presentations in English, and with confidence.								
授業外学修内容・授業外学修時間数	Students must spend more than 60 hours outside of class in preparation for this course.								
授業計画	【第1回】 Introduction to course; self introductions 【第2回】 The joy of studying abroad; finding purpose to study abroad 【第3回】 Setting goals, destination 【第4回】 Planning and preparations 【第5回】 Safe and smooth travels 【第6回】 When in Rome... 【第7回】 Student Role-plays 1 (graded) 【第8回】 How to speak up in class or at your homestay 【第9回】 The sharing economy and spending money wisely 【第10回】 Self reliance, self defence 【第11回】 Making friends abroad 【第12回】 Student Role-plays 2 (graded) 【第13回】 Study habits and techniques 【第14回】 Loud & Proud: Public Speaking 【第15回】 Midterm Test/Project								
成績評価の方法	participation: 25%, attitude: 25%, effort: 25%, speeches/presentations: 25%								
フィードバックの内容									
教科書									
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ									
オフィスアワー	The teacher is always available via LINE. Special meeting between student and teacher can be made easily. Traditional office hours are Wednesdays after 16:00, and Thursdays 10:40 to 12:30. Please contact the teacher directly via LINE or email (michaelkubo@ris.ac.jp)								
アクティブラーニングの内容	Students will regularly be asked to share their opinions on topics and make presentations.								
その他									

講義コード	11C2112901	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員		開講期	
科目名	Preparation for Studying Abroad 2				マイケル クボ		第2期		
履修前提条件					備考				
授業の目的	This class helps students prepare for studying abroad. Each week, and step by step, the teacher will challenge the students with practical, active and real-world lessons. In this class, students will get the confidence and ability to study abroad. The method of study involves active learning and active participation. A lot of role-play in class makes this class fun, memorable, and meaningful.								
到達目標	In this class, students will prepare to study abroad, and the teacher will encourage and motivate them as well. Students will learn a variety of skills that will prepare them for overseas study. Students will be encouraged to speak up in class, enjoy pair and group work and learn how to give speeches and presentations in English, and with confidence.								
授業外学修内容・授業外学修時間数	Students must spend more than 60 hours outside of class in preparation for this course.								
授業計画	【第1回】 Getting reacquainted and setting new goals 【第2回】 Reflecting on experiences abroad, or redefining your purpose to study abroad 【第3回】 Student presentations 【第4回】 Student presentations 【第5回】 What can go right; what can go wrong? 【第6回】 Student Role-plays 3 (graded) 【第7回】 How to inspire others 【第8回】 How to maintain communication with friends abroad 【第9回】 Planning your next study abroad experience 【第10回】 Student presentations 【第11回】 Student presentations 【第12回】 Review 【第13回】 Review 【第14回】 Student Role-plays 4 (graded) 【第15回】 Final speeches								
成績評価の方法	participation: 25%, attitude: 25%, effort: 25%, speeches/presentations: 25%								
フィードバックの内容									
教科書									
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ									
オフィスアワー	The teacher is always available via LINE. Special meeting between student and teacher can be made easily. Traditional office hours are Wednesdays after 16:00, and Thursdays 10:40 to 12:30. Please contact the teacher directly via LINE or email (michaelkubo@ris.ac.jp)								
アクティブラーニングの内容	Students will regularly be asked to share their opinions on topics and make presentations.								
その他									

講義コード	11C0123201	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員	鄭 裕静	開講期	第1期
科目名	法学								
履修前条件					備考				
授業の目的	法の社会に生きている我々は、「法」というものに対して漠然と考えている。しかし、法を知らずに生活することは混乱であることを認識しながら、「法」というものは硬いもので難しく分りにくいというイメージがある。また、法学という領域は極めて広く様々な分野が存在している。本講義では、法学を学ぶことと共に、「法的ものの見方」という大切に基本的な考え方を身につけることを目的とする。								
到達目標	法学を学ぶ上で最も大切な「法的思考」及び法制度に対する幅広い素養を身につけることができる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	この講義は、60時間以上の授業外学修を行うこと。各回の授業で扱うテーマについて、事前に配布した資料を読み、テーマの背景などを理解した上で、授業を受けること。授業中に指示した問題などを考察し、レスポンスやレポートを授業中に提出すること。								
授業計画	【第1回】オリエンテーション 【第2回】「法学基礎」法とは何か：法と法律・法の体系 【第3回】「法学基礎」法の解釈：法的三段論法とは何か。 【第4回】「法学基礎」法の基本原則（1）：立憲主義 【第5回】「法学基礎」法の基本原則（2）：法の基本原則 【第6回】「憲法入門」憲法とは何か 【第7回】「刑法入門」総論 【第8回】「刑法入門」各論：犯罪の成立要件				【第9回】法と正義（1）：法は誰のものなのか 【第10回】法と正義（2）：どのように分けるか 【第11回】法と正義（3）：罪と罰 【第12回】法と正義（4）：まとめ 【第13回】裁判員制度（1） 【第14回】裁判員制度（2） 【第15回】まとめ				
成績評価の方法	1. 授業中の小テスト（リアクションペーパー）60% 2. 最終レポート30% 3. 授業への取り組み姿勢10%								
フィードバックの内容	小テスト（レスポンス）及びリアクションペーパーに対するフィードバックは翌週授業内にて行う。授業内容に応じて教材のレジュメ及び参考資料を配布します。必要な場合、講義内で説明します。 ★詳しい内容は、第1回オリエンテーションで説明します。								
教科書									
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ	教科書指定はありませんが、講義進行に合わせて参考書や資料を紹介します。講義に関する詳しい内容は、第1回オリエンテーションで説明します。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。								
アクティブラーニングの内容	「意見共有」「教員からのフィードバックによる振り返り」「能動的な授業外学修」「グループ・ディスカッション」「ディベート」「グループ・ワーク」								
その他									

講義コード	11C0123801	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員	原 俊雄	開講期	第1期
科目名	簿記								
履修前条件					備考				
授業の目的	ビジネスパーソンに必須の万国共通のビジネスの言語（Language of Business）といわれる簿記を学習する。簿記とは帳簿記入（bookkeeping）の略語であり、企業などの経済活動、経済事象を継続的に記録し、その結果を、集計・整理する技術です。この授業では、財産の管理と損益の計算を行い、企業の財政状態と経営成績を明らかにする複式簿記を中心に学びます。								
到達目標	1. 複式簿記の基本構造と記帳原理を理解する。 2. 簿記一巡の手続を理解し、記帳処理できる。 3. 各種取引について、正確に記帳処理できる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	この科目では、60時間以上の授業外学修を行うこと。必ずテキストの練習問題、ワークブックで理解度をチェックすること。								
授業計画	【第1回】簿記の意義と仕組み 【第2回】仕訳と転記 【第3回】仕訳帳と元帳 【第4回】決算 【第5回】現金と預金 【第6回】商品売買の処理 【第7回】簿記一巡の手続き（これまでの復習） 【第8回】売掛金と買掛金				【第9回】その他の債権と債務、受取手形と支払手形 【第10回】有形固定資産 【第11回】貸倒損失と貸倒引当金、資本 【第12回】収益と費用、税金 【第13回】伝票 【第14回】財務諸表1 【第15回】財務諸表2				
成績評価の方法	下記の毎回の課題（15%）、期末試験（85%） 課題：授業終了後、次回の授業の前日までに、ワークブックの問題を解き、自己添削したものをWebClassに提出すること。なお、自筆で解答し、押印したものをスキャンまたは撮影し、PDFファイルで提出すること。								
フィードバックの内容	定期試験の解答をWebClassにアップする。								
教科書	『検定簿記講義／3級商業簿記〔2024年度版〕』渡部裕巨・片山覚他（中央経済社）2024年								
指定図書	『検定簿記ワークブック3級商業簿記』渡部裕巨・片山覚他（中央経済社）2024年								
参考書	『テキスト会計学講義（第2版）』原俊雄・高橋賢（中央経済社）2022年								
教員からのお知らせ	簿記だけではなく、会計学を幅広く学びたい人は、参考書で勉強してください。簿記・会計は数値を使ったビジネス社会の言語であり、ビジネス界でコミュニケーションをとるために必須の知識です。算術、言語の習得には、数学、英語と同様に地道な努力が必要です。								
オフィスアワー	WebClassのメッセージ機能にて受付けます。場合によってはZoomでも対応します。								
アクティブラーニングの内容	授業終了後、次回の授業の前日までに、『検定簿記ワークブック3級商業簿記』の問題を解き、自己添削してWebClassに提出してください。なお、自筆で解答し、押印したものをスキャン、または撮影し、PDFファイルで提出すること。								
その他									

講義コード	11C3115601	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員		開講期	
科目名	保険論					茶野 努		第1期	
履修前提条件					備考				
授業の目的	生命保険は人間生活における重要な役目を担っている。生死、病気といった避けられないリスクに対する備えとしてである。講義では生命保険の仕組み・制度について学ぶ。								
到達目標	人に生命保険についての基礎知識を説明できるようになる。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	公開している講義資料を打ち出して、事前に学習の上講義に参加すること。 上記に示した授業外の学修は、60時間以上を目安に行うこと。								
授業計画	【第1回】 ガイダンス 【第2回】 リスクとは何か 【第3回】 リスクを計算する 【第4回】 保険の種類 【第5回】 保険契約の特徴 【第6回】 保険約款 【第7回】 保険の仕組み（1）収支相等の原則、大数の法則 【第8回】 保険の仕組み（2）現価計算 【第9回】 保険の仕組み（3）自然保険料と平準保険料 【第10回】 責任準備金 【第11回】 契約者配当 【第12回】 生命保険会社の破綻 【第13回】 ディスクロージャー 【第14回】 保険会計の特徴 【第15回】 授業内の最終試験								
成績評価の方法	授業内の最終試験（100％）によります。								
フィードバックの内容	解説は最終回であわせて行います。								
教科書	『保険と金融から学ぶ リスクマネジメント（仮）』岡田太・茶野努・平澤敦（中央経済社）2024								
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ	http://chanoppy.wixsite.com/chano に講義資料がアップしてあります。 教科書を購入してください。								
オフィスアワー	授業に関する質問・相談は、授業後に対応します。								
アクティブラーニングの内容	意見共有、能動的な授業外学修								
その他									

講義コード	授業形態	講義・演習	抽選の有無	あり	担当教員	開講期
科目名	マクロ経済学(週2回授業)				各担当教員	第2期
履修前条件				備考		
授業の目的	<p>マクロ経済学は、個別の経済活動を集計した一国経済全体の変動を解き明かす経済学の一分野である。マクロ経済学は、ミクロ経済学と並んで経済学の二大基礎理論を構成しており、そこで学んだ考え方は他のさまざまな応用科目で頻繁に用いられる。</p> <p>この講義では、『マクロ経済学基礎』で学んだマクロ経済学の初歩をやや掘り下げながら、マクロ経済学の基礎理論を学ぶ。GDPの詳しい概念からはじめて、財市場、資産市場（金融市場）および労働市場においてマクロ経済の重要な変数であるGDPと利率がどのように決まるかを考察する。このような基礎理論を踏まえると、不況対策としての財政政策や金融政策がどのように効果を発揮するかを理解することができるようになる。</p>					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・GDPとは何かを説明できる。 ・マクロ経済における金融政策と財政政策の効果を説明できる。 ・マクロ経済学の理論を用いて新聞の経済記事を説明できる。 					
授業外学修内容・授業外学修時間数	<p>【授業外学修】 各回の授業で扱う項目について、教科書の該当箇所を読んでくること。授業の進行に応じて、教科書の練習問題を解きながら復習すること。授業外に計120時間以上の学修を行うこと。</p>					
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> 【第1回】マクロ経済学とは何か 【第2回】経済活動の大きさを測る 【第3回】経済活動の大きさを測る 【第4回】財市場①：45度線 【第5回】財市場①：45度線 【第6回】財市場②：IS曲線 【第7回】財市場②：IS曲線 【第8回】資産市場①：資産としての貨幣と債券 【第9回】資産市場①：資産としての貨幣と債券 【第10回】資産市場②：貨幣市場と債券市場 【第11回】資産市場②：貨幣市場と債券市場 【第12回】資産市場③：資産市場の均衡とLM曲線 【第13回】資産市場③：資産市場の均衡とLM曲線 【第14回】IS-LM分析①：均衡 【第15回】IS-LM分析①：均衡 【第16回】中間試験（予定） 【第17回】IS-LM分析②：財政政策 【第18回】IS-LM分析②：財政政策 【第19回】IS-LM分析③：金融政策 【第20回】IS-LM分析③：金融政策 【第21回】労働市場 【第22回】労働市場 【第23回】AD-ASモデル①：AD曲線とAS曲線の導出 【第24回】AD-ASモデル①：AD曲線とAS曲線の導出 【第25回】AD-ASモデル②：需要ショックと供給ショック 【第26回】AD-ASモデル②：需要ショックと供給ショック 【第27回】新古典派マクロ経済モデル①：労働市場の修正 【第28回】新古典派マクロ経済モデル①：労働市場の修正 【第29回】新古典派マクロ経済モデル②：総需要と総供給の均衡 【第30回】新古典派マクロ経済モデル②：総需要と総供給の均衡 					
成績評価の方法	中間試験（50％）および期末試験（50％）の結果による。					
フィードバックの内容						
教科書	『マクロ経済学15講』河原伸哉・慶田昌之（新世社）2023年					
指定図書						
参考書						
教員からのお知らせ	『マクロ経済学基礎』の単位を修得済みであることが望ましい。					
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部学科にて定めるオフィスアワーにて受け付けます。					
アクティブラーニングの内容	意見共有					
その他	<p>この授業は週2回の授業である。</p> <p>中間試験の日程は、授業内で告知する。</p> <p>学籍番号によるクラス指定有。詳細は時間割およびガイダンス資料を確認すること。</p>					

講義コード	授業形態	講義・演習	抽選の有無	あり	担当教員	開講期
科目名	マクロ経済学演習				各担当教員	第2期
履修前提条件					備考	
授業の目的	この演習では、マクロ経済学の講義内容を正しく理解し、自らの理解度を確認することを目的として、マクロ経済学の講義に合わせて練習問題を解いていく。演習であるので、出席するだけでなく、演習時間に与えられる課題に取り組むことが必要である。一般的なマクロ経済学の問題を、自らの力で解けるようになり、現実の経済を理解できるようになることを目的とする。					
到達目標	この授業を受けることにより、マクロ経済学の内容を理解し、練習問題を解く力をつけ、更に現実の経済を理解できるようになることを目標とする。また、公務員等の各種資格試験の準備としても役立つことを目指している。					
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	授業外学修時間は、60時間以上必要である。毎回の演習前に教科書と講義資料の内容や問題に目を通しておくこと。					
授業計画	【第1回】 演習のガイダンス 【第2回】 経済活動の大きさを測る 【第3回】 財市場①：45度線 【第4回】 財市場②：IS曲線 【第5回】 資産市場①：資産としての貨幣と債券 【第6回】 資産市場②：貨幣市場と債券市場 【第7回】 資産市場③：資産市場の均衡とLM曲線 【第8回】 IS-LM分析①：均衡		【第9回】 IS-LM分析②：財政政策 【第10回】 IS-LM分析③：金融政策 【第11回】 労働市場 【第12回】 AD-ASモデル①：AD曲線とAS曲線の導出 【第13回】 AD-ASモデル②：需要ショックと供給ショック 【第14回】 新古典派マクロ経済モデル①：労働市場の修正 【第15回】 新古典派マクロ経済モデル②：総需要と総供給の均衡			
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢（70%）と、提出課題（30%）によって評価する。					
フィードバックの内容	リアクションペーパーに対するフィードバックについては、翌週の講義内や Teams で行う。					
教科書	『マクロ経済学15講』河原伸哉、慶田昌之（新世社）2023					
指定図書						
参考書						
教員からのお知らせ	教科書とマクロ経済学の授業資料を必ず用意すること。演習用の教材・資料・連絡事項については、以下の方法を利用して掲示するので、それぞれを定期的に確認すること。 ①大学ポータルサイト「オンライン授業」 ②メール（学籍番号@rissho-univ.jp） ③Microsoft Teams（アプリ） なお、③については、パソコンあるいはスマートフォンを持っている人はアプリを事前にダウンロードしておくこと。アプリの利用方法の詳細については、①または②を通じて連絡する。					
オフィスアワー	この授業は複数クラスなので、オフィスアワーあるいは質問対応可能時間の詳細については、各担当教員に問い合わせること。					
アクティブラーニングの内容	教員からのフィードバックによる振り返り					
その他	この演習は『マクロ経済学』と同時に履修することを前提とする。『マクロ経済学基礎』の単位を修得済みであることが望ましい。					

講義コード	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員	開講期
科目名	マクロ経済学基礎			各担当教員		第2期
履修前条件				備考		
授業の目的	この講義では経済学の面白さを知ってもらうことと、社会科学としての厳密性を理解してもらうこと目指している。経済学の考え方をわずかでも身につければ、世の中の見方を大きく変えることができるようになる。これこそが経済学を学ぶことの喜びである。一方、経済学はミクロ経済学、マクロ経済学という2つの側面から経済問題をとらえている。ミクロ経済学では、人間や企業の合理的な判断の結果どのような行動をとるようになるのかを分析している。マクロ経済学では、国全体としての家計や企業の行動を把握することによって、ミクロ経済学では見えていなかった経済システムの整合性を明らかにしている。これらを学ぶことによって、学問としての経済学の意味を分かってもらいたい。					
到達目標	①国内総生産や物価指数といったマクロ経済指標の意味を正しく理解し、計算できる。 ②長期的な経済成長やインフレーションが発生する仕組みについて説明できる。 ③金融システムと中央銀行（ex. 日本銀行）の役割について説明できる。 ④景気後退のような短期的な経済変動が発生する仕組みについて、図を使って説明できる。					
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	この科目では、60時間以上の授業外学修を行うこと。経済学の学修では、講義での説明を聞いたり教科書を読んだりするだけでなく、実際に自分の頭と手を動かして問題演習に取り組むことがとても大切である。授業内容に対応した演習問題を課題として出題するので、ぜひしっかりと取り組んでほしい。					
授業計画	【第1回】講義の概要 【第2回】第8章 国民所得の測定1 【第3回】第8章 国民所得の測定2 【第4回】第9章 生計費の測定1 【第5回】第9章 生計費の測定2 【第6回】第10章 生産と成長1 【第7回】第10章 生産と成長2 【第8回】第11章 貯蓄、投資と金融システム1 【第9回】第11章 貯蓄、投資と金融システム2 【第10回】第11章 貯蓄、投資と金融システム 付論1 【第11回】第11章 貯蓄、投資と金融システム 付論2 【第12回】第12章 総需要と総供給1 【第13回】第12章 総需要と総供給2 【第14回】第12章 総需要と総供給3 【第15回】まとめ					
成績評価の方法	課題への取り組み状況（20%）、小テストの成績（10%）、期末試験の成績（70%）によって評価する。					
フィードバックの内容						
教科書	『マンキュー入門経済学（第3版）』N. グレゴリー・マンキュー（東洋経済新報社）2019					
指定図書						
参考書	『マンキューマクロ経済学第4版入門編』N・グレゴリー・マンキュー（東洋経済新報社）2017年					
教員からのお知らせ	資料や連絡事項については以下の方法を利用して掲示するので、定期的に確認すること： ①大学ポータルサイト「オンライン授業」 ② Microsoft Teams ②の利用方法の詳細については①を通じて連絡する。					
オフィスアワー	この授業は複数クラスなので、オフィスアワー・あるいは質問対応可能時間の詳細については、各担当教員に問い合わせること。					
アクティブラーニングの内容	教員からのフィードバックによる振り返り。					
その他	参考書については、必要に応じて授業中に指示する。 この授業で学ぶ内容についての問題演習を行う授業として、「マクロ経済学基礎演習」という授業が開講されているので、並行して履修することを強く推奨する。					

講義コード		授業形態	講義・演習	抽選の有無	あり	担当教員		開講期	
科目名	マクロ経済学基礎演習				各担当教員		第2期		
履修前提条件					備考				
授業の目的	この演習では、マクロ経済学基礎の講義内容を正しく理解し、自らの理解度を確認することを目的として、マクロ経済学基礎の講義の進み方に合わせて練習問題を解く時間を与え、解説を行う。演習であるので、出席するだけでなく、演習時間に与えられる課題に取り組むことが必要である。特に教科書の章末問題を、自らの力で解けるようになることが演習の重要な目的である。								
到達目標	この演習では、マクロ経済学基礎の講義内容を理解し、練習問題を解く力をつけることができる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	授業外学修時間は、最低でも60時間以上必要である。毎回の演習前に講義内容を復習し、教科書の章末問題に目を通しておくこと。								
授業計画	【第1回】 演習のガイダンス 【第2回】 第8章 国民所得の測定1 【第3回】 第8章 国民所得の測定2 【第4回】 第9章 生計費の測定1 【第5回】 第9章 生計費の測定2 【第6回】 第10章 生産と成長1 【第7回】 第10章 生産と成長2 【第8回】 第11章 貯蓄、投資と金融システム1				【第9回】 第11章 貯蓄、投資と金融システム2 【第10回】 第11章 貯蓄、投資と金融システム3 【第11回】 第11章 貯蓄、投資と金融システム4 【第12回】 第12章 総需要と総供給1 【第13回】 第12章 総需要と総供給2 【第14回】 第12章 総需要と総供給3 【第15回】 まとめ				
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢（70%）と提出課題（30%）によって評価する。								
フィードバックの内容	リアクションペーパーに対するフィードバックは、翌週の講義内やポータルサイトにて行う。								
教科書	『マンキュー入門経済学（第3版）』N. グレゴリー・マンキュー（東洋経済新報社）2019年								
指定図書	『マンキュー マクロ経済学 I 入門篇（第4版）』N・グレゴリー・マンキュー（東洋経済新報社）2017年、『スティグリッツ入門経済学第4版』ジョセフ・E・スティグリッツ カール・E・ウォルシュ（東洋経済新報社）2012年								
参考書	『スティグリッツマクロ経済学第4版』ジョセフ・E・スティグリッツ カール・E・ウォルシュ（東洋経済新報社）2013年、『経済学・入門第3版』塩澤修平（有斐閣）2013年、『マクロ経済学・入門第4版』福田慎一・照山博司（有斐閣）2011年								
教員からのお知らせ	教科書とミクロ経済学基礎の授業資料を必ず持つてくること。演習用の教材・資料および連絡事項を、学内のポータルサイトを利用して掲示する場合がありますので、担当者の指示に従うこと。 教材・資料・連絡事項については以下の方法を利用して掲示するので、それぞれを定期的に確認すること： ・大学ポータルサイト「オンライン授業」								
オフィスアワー	この授業は複数クラスなので、オフィスアワーあるいは質問対応可能時間の詳細については、メールまたは Teams など各担当教員に問い合わせること。								
アクティブラーニングの内容	教員からのフィードバックによる振り返り								
その他									

講義コード	11C0110801	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員	中村 宗之	開講期	第1期
科目名	マルクス経済学1				中村 宗之		第1期		
履修前提条件					備考				
授業の目的	資本主義について、他の経済体制とも比較しつつ、その基本的な仕組みを説明する。K. マルクスの理論を検討する。それらとあわせて、資本主義や現在の経済社会に対する様々な角度からの評価を試みる。								
到達目標	資本主義の基本的な仕組みについて説明できる。マルクスの主要な考えを説明できる。経済社会を評価し論じることができる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	授業内容の予習や復習を行う。新聞などにより時事問題を把握する。これらにより、60時間以上の授業外学修を行う。								
授業計画	【第1回】 ガイダンス 【第2回】 唯物史観 【第3回】 資本主義の段階区分 【第4回】 狩猟採集経済 【第5回】 農耕経済と封建社会 【第6回】 商品交換の起源 【第7回】 商品と貨幣 【第8回】 貨幣の機能 【第9回】 資本の形式 【第10回】 労働価値説（1） 【第11回】 労働価値説（2） 【第12回】 労働過程と生産過程 【第13回】 生産価格論（1） 【第14回】 生産価格論（2） 【第15回】 質問受付								
成績評価の方法	授業内課題レポート（50%）、期末試験（50%）により評価する。								
フィードバックの内容	毎回の課題に対するフィードバックを、翌週以降の授業内で行う。								
教科書									
指定図書									
参考書	『資本主義経済の理論』伊藤誠（岩波書店）1989年、『経済原論講義』山口重克（東京大学出版会）1985年、『経済原論：基礎と演習』小幡道昭（東京大学出版会）2009年								
教員からのお知らせ	講義資料は Teams 等にアップロードします。								
オフィスアワー	本授業に関する質問や相談は、学部学科で定めるオフィスアワーにて受け付けます。Teams 等でも受け付けます。								
アクティブラーニングの内容	教員からのフィードバックによる振り返り、能動的な授業外学修								
その他									

講義コード	11C0110901	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員		開講期	
科目名	マルクス経済学2				中村 宗之		第2期		
履修前条件					備考				
授業の目的	資本主義について、他の経済体制とも比較しつつ、その基本的な仕組みを説明する。K. マルクスの理論を検討する。それらとあわせて、資本主義や現在の経済社会に対する様々な角度からの評価を試みる。								
到達目標	資本主義の基本的な仕組みについて説明できる。マルクスの主要な考えを説明できる。経済社会を評価し論じることができる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	授業内容の予習や復習を行う。新聞などにより時事問題を把握する。これらにより、60時間以上の授業外学修を行う。								
授業計画	【第1回】貨幣と労働の経済学説（1） 【第2回】貨幣と労働の経済学説（2） 【第3回】市場価値論 【第4回】地代論 【第5回】商業資本 【第6回】信用取引 【第7回】銀行組織 【第8回】中央銀行 【第9回】資本蓄積と景気循環（1） 【第10回】資本蓄積と景気循環（2） 【第11回】分析的マルクス主義 【第12回】計画経済と市場社会主義 【第13回】資本主義の現状と評価 【第14回】未来社会論 【第15回】質問受付								
成績評価の方法	授業内課題レポート（50%）、期末試験（50%）により評価する。								
フィードバックの内容	毎回の課題に対するフィードバックを、翌週以降の授業内で行う。								
教科書									
指定図書									
参考書	『資本主義経済の理論』伊藤誠（岩波書店）1989年、『経済原論講義』山口重克（東京大学出版会）1985年、『経済原論：基礎と演習』小幡道昭（東京大学出版会）2009年								
教員からのお知らせ	講義資料は Teams 等にアップロードします。マルクス経済学1を履修済みであることが望ましい。								
オフィスアワー	本授業に関する質問や相談は、学部学科で定めるオフィスアワーにて受け付けます。Teams 等でも受け付けます。								
アクティブラーニングの内容	教員からのフィードバックによる振り返り、能動的な授業外学修								
その他									

講義コード		授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員		開講期	
科目名	マルクス経済学基礎				各担当教員		第2期		
履修前条件					備考				
授業の目的	マルクス経済学基礎は、資本主義経済の基本的な仕組みとその歴史的位置を理論的に明らかにすることを目的とする。そのために、カール・マルクス『資本論』で示された資本主義論をもとに資本主義を説明し、資本主義とその現状に対するさまざまな角度からの検討や評価を行う。								
到達目標	①資本主義経済とその基本的な構成要素について、マルクス経済学の理論を用いて説明できるようになる。 ②現在の経済社会の矛盾を指摘し、これからの社会のあり方を具体的に考え、説明できるようになる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	授業前1週間の社会の動きについて新聞を読み、授業前には授業で習う箇所のテキストや関連図書を読むなど、60時間以上の授業外学修を行うこと。								
授業計画	【第1回】本講義で何を学ぶか 【第2回】マルクス経済学における労働の意味<第1章第1節> 【第3回】マルクス経済学では社会の発展をどう捉えるか<第1章第2節・第3節> 【第4回】商品の価値と使用価値<第2章> 【第5回】貨幣の発生<第3章第1節> 【第6回】貨幣の発展と貨幣の諸機能<第3章第2節・第3節> 【第7回】剰余価値の生産（1）<第4章第1節・第2節> 【第8回】剰余価値の生産（2）<第4章第3節> 【第9回】労働力の価値と賃金<第6章> 【第10回】資本の蓄積過程と雇用・失業問題（1）<第7章第1節・第2節> 【第11回】資本の蓄積過程と雇用・失業問題（2）<第7章第3節> 【第12回】資本の蓄積過程と雇用・失業問題（3）<第7章第4節> 【第13回】資本主義的生産様式の諸段階と現段階<第5章> 【第14回】マルクス経済学から見た日本経済の現状<第14章第2節> 【第15回】まとめ								
成績評価の方法	期末試験（90%）、授業への取り組み姿勢（10%）								
フィードバックの内容	リアクションペーパーに対するフィードバックを翌週の授業にて行う。								
教科書	『改訂新版 現代社会経済学』北村洋基（桜井書店）2013年								
指定図書	『経済と社会』長島誠一（桜井書店）2004年、『マルクス経済学簡易入門』深澤竜人（丸善雄松堂）2020年								
参考書									
教員からのお知らせ	授業で用いるスライド資料は、Teams のフォルダなどで共有します。詳細は、各クラスの担当の担当から最初の授業の際に指示をします。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、各学部・学科にて定めるオフィスアワーまたは授業終了後に受け付けます。詳細は各担当教員から指示します。								
アクティブラーニングの内容	教員からのフィードバックによる振り返り								
その他									

講義コード	授業形態	講義・演習	抽選の有無	あり	担当教員	開講期
科目名	ミクロ経済学(週2回授業)			各担当教員		第1期
履修前条件	備考					
授業の目的	<p>ミクロ経済学は、消費者や企業といった経済を構成する主体がどのように行動するかという考察から出発して、そうした主体から構成される市場経済がどのように機能するか（あるいは機能しなくなるか）を解き明かす経済学の一分野である。ミクロ経済学は、マクロ経済学と並んで経済学の二大基礎理論を構成しており、そこで学んだ考え方は他のさまざまな応用科目で頻繁に用いられる。</p> <p>この講義ではミクロ経済学の基礎理論を学ぶ。『ミクロ経済学基礎』では、需要曲線と供給曲線を中心にミクロ経済学の初歩を学んだ。この講義ではそれをやや理論的に掘り下げて、需要曲線は消費者行動からどのように導き出すことができるか、供給曲線はどのように企業行動から導き出すことができるかについて基礎的な考察を行う。そして、こうした道具立てを通して眺めると市場経済やそれにまつわる経済政策問題がどのように見えるかについて考えていく。</p>					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・市場経済の仕組みを説明できる。 ・市場経済にまつわる政策問題を理解できる。 ・ミクロ経済学の理論を用いて日常の経済問題を説明できる。 					
授業外学修内容・授業外学修時間数	<p>各回の授業で扱う項目について、教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業の進行に応じて、教科書の Active Learning や別途与える練習問題（これらをまとめて、以下では「演習問題」という）を解きながら復習すること。授業外に計120時間以上の学修を行うこと。</p>					
授業計画	<p>【第1回】 ガイダンス 【第2回】 市場の基本的な機能：需要と供給 【第3回】 市場の基本的な機能：価格弾力性（その1） 【第4回】 市場の基本的な機能：価格弾力性（その2） 【第5回】 市場の基本的な機能：市場均衡（その1） 【第6回】 市場の基本的な機能：市場均衡（その2） 【第7回】 第Ⅱ部演習問題の解説 【第8回】 消費者の行動：効用関数と無差別曲線（その1） 【第9回】 消費者の行動：効用関数と無差別曲線（その2） 【第10回】 消費者の行動：予算制約線と効用最大化行動（その1） 【第11回】 消費者の行動：予算制約線と効用最大化行動（その2） 【第12回】 消費者の行動：所得変化とエンゲル曲線 【第13回】 消費者の行動：価格変化と需要曲線（その1） 【第14回】 消費者の行動：価格変化と需要曲線（その2） 【第15回】 第Ⅲ部演習問題の解説</p> <p>【第16回】 中間試験（予定） 【第17回】 生産者の行動：生産関数と等産出量曲線（その1） 【第18回】 生産者の行動：生産関数と等産出量曲線（その2） 【第19回】 生産者の行動：費用最小化と総費用関数（その1） 【第20回】 生産者の行動：費用最小化と総費用関数（その2） 【第21回】 生産者の行動：平均費用と限界費用（その1） 【第22回】 生産者の行動：平均費用と限界費用（その2） 【第23回】 生産者の行動：利潤最大化行動と供給曲線（その1） 【第24回】 生産者の行動：利潤最大化行動と供給曲線（その2） 【第25回】 第Ⅳ部演習問題の解説 【第26回】 余剰による市場分析：市場均衡の評価（その1） 【第27回】 余剰による市場分析：市場均衡の評価（その2） 【第28回】 余剰による市場分析：経済政策の評価（その1） 【第29回】 余剰による市場分析：経済政策の評価（その2） 【第30回】 第Ⅴ部演習問題の解説</p>					
成績評価の方法	中間試験（50％）および前期末試験（50％）の結果による。					
フィードバックの内容						
教科書	『ミクロ経済学15講』小野崎保・山口和男（新世社）2023年					
指定図書						
参考書						
教員からのお知らせ	『ミクロ経済学基礎』の単位を修得済みであることが望ましい。					
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部学科にて定めるオフィスアワーにて受け付けます。					
アクティブラーニングの内容	意見共有、教員からのフィードバックによる振り返り。					
その他	<p>この授業は週2回の授業である。</p> <p>中間試験の日程は、授業内で告知する。</p> <p>学籍番号によるクラス指定有。詳細は時間割およびガイダンス資料を確認すること。</p>					

講義コード	授業形態	講義・演習	抽選の有無	あり	担当教員	開講期
科目名	ミクロ経済学演習				各担当教員	第1期
履修前提条件					備考	
授業の目的	この演習では、ミクロ経済学の講義内容を正しく理解し、自らの理解度を確認することを目的として、ミクロ経済学の講義に合わせて練習問題を解いていく。演習であるので、出席するだけでなく、演習時間に与えられる課題に取り組むことが必要である。一般的なミクロ経済学の問題を、自らの力で解けるようになり、現実の経済を理解できるようになることを目的とする。					
到達目標	この授業を受けることにより、ミクロ経済学の内容を理解し、練習問題を解く力をつけ、更に現実の経済を理解できるようになることを目標とする。また、公務員等の各種資格試験の準備としても役立つことを目指している。					
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	授業外学修時間は、60時間以上必要である。毎回の演習前に教科書と講義資料の内容や問題に目を通しておくこと。					
授業計画	【第1回】 演習のガイダンス 【第2回】 市場の基本的な機能1 【第3回】 市場の基本的な機能2 【第4回】 市場の基本的な機能3 【第5回】 市場の基本的な機能4 【第6回】 消費者の行動1 【第7回】 消費者の行動2 【第8回】 消費者の行動3		【第9回】 消費者の行動4 【第10回】 生産者の行動1 【第11回】 生産者の行動2 【第12回】 生産者の行動3 【第13回】 生産者の行動4 【第14回】 余剰による市場分析1 【第15回】 余剰による市場分析2			
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢（70％）と、提出課題（30％）によって評価する。					
フィードバックの内容	リアクションペーパーに対するフィードバックについては、翌週の講義内や Teams で行う。					
教科書	『ミクロ経済学15講』小野崎保、山口和男（新世社）2023					
指定図書						
参考書						
教員からのお知らせ	教科書とミクロ経済学の授業資料を必ず持ってくる。演習用の教材・資料・連絡事項については、以下の方法を利用して掲示するので、それぞれを定期的に確認すること。 ①大学ポータルサイト「オンライン授業」 ②メール（学籍番号 @rissho-univ.jp） ③ Microsoft Teams（アプリ） なお、③については、パソコンあるいはスマートフォンを持っている人はアプリを事前にダウンロードしておくこと。アプリの利用方法の詳細については、①または②を通じて連絡する。					
オフィスアワー	この授業は複数クラスなので、オフィスアワーあるいは質問対応可能時間の詳細については、各担当教員に問い合わせること。					
アクティブラーニングの内容	教員からのフィードバックによる振り返り					
その他	この演習は『ミクロ経済学』と同時に履修することを前提とする。『ミクロ経済学基礎』の単位を修得済みであることが望ましい。					

講義コード	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員	開講期
科目名	ミクロ経済学基礎			各担当教員		第1期
履修前条件				備考		
授業の目的	この講義では経済学の面白さを知ってもらうことと、社会科学としての厳密性を理解してもらうこと目指している。経済学の考え方をわずかでも身につければ、世の中の見方を大きく変えることができるようになる。これこそが経済学を学ぶことの喜びである。一方、経済学はミクロ経済学、マクロ経済学という2つの側面から経済問題をとらえている。ミクロ経済学では、人間や企業の合理的な判断の結果どのような行動をとるようになるのかを分析している。マクロ経済学では、国全体としての家計や企業の行動を把握することによって、ミクロ経済学では見えていなかった経済システムの整合性を明らかにしている。これらを学ぶことによって、学問としての経済学の意味を分かってもらいたい。					
到達目標	①経済学に特有の用語や考え方を正しく理解し、使うことができる。 ②市場（しじょう）で製品やサービスの価格が決まる仕組みについて、図を使って説明できる。 ③さまざまな出来事や政策が市場に与える影響について、図を使って分析できる。 ④市場経済システムが持つ望ましい性質とその限界について説明できる。					
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	この科目では、60時間以上の授業外学修を行うこと。経済学の学修では、講義での説明を聞いたり教科書を読んだりするだけでなく、実際に自分の頭と手を動かして問題演習に取り組むことがとても大切である。授業内容に対応した演習問題を課題として出題するので、ぜひしっかりと取り組んでほしい。					
授業計画	【第1回】講義の概要 【第2回】第1章 経済学経済学の十大原理1 【第3回】第1章 経済学経済学の十大原理2 【第4回】第2章 経済学者らしく考える1 【第5回】第2章 経済学者らしく考える2 【第6回】第3章 相互依存と貿易からの利益1 【第7回】第3章 相互依存と貿易からの利益2 【第8回】第4章 市場における需要と供給の作用1 【第9回】第4章 市場における需要と供給の作用2 【第10回】第5章 需要、供給、および政府の政策1 【第11回】第5章 需要、供給、および政府の政策2 【第12回】第6章 消費者、生産者、市場の効率性1 【第13回】第6章 消費者、生産者、市場の効率性2 【第14回】第7章 外部性1 【第15回】第7章 外部性2					
成績評価の方法	課題への取り組み状況（20%）、小テストの成績（10%）、期末試験の成績（70%）によって評価する。					
フィードバックの内容						
教科書	『マンキュー入門経済学（第3版）』N. グレゴリー・マンキュー（東洋経済新報社）2019					
指定図書						
参考書						
教員からのお知らせ	資料や連絡事項については以下の方法を利用して掲示するので、定期的に確認すること： ①大学ポータルサイト「オンライン授業」 ② Microsoft Teams ②の利用方法の詳細については①を通じて連絡する。					
オフィスアワー	この授業は複数クラスなので、オフィスアワー・あるいは質問対応可能時間の詳細については、各担当教員に問い合わせること。					
アクティブラーニングの内容	教員からのフィードバックによる振り返り。					
その他	参考書については、必要に応じて授業中に指示する。 この授業で学ぶ内容についての問題演習を行う授業として、「ミクロ経済学基礎演習」という授業が開講されているので、並行して履修することを強く推奨する。					

講義コード	授業形態	講義・演習	抽選の有無	あり	担当教員	開講期
科目名	ミクロ経済学基礎演習			各担当教員		第1期
履修前条件				備考		
授業の目的	この演習では、ミクロ経済学基礎の講義内容を正しく理解し、自らの理解度を確認することを目的として、ミクロ経済学基礎の講義の進み方に合わせて練習問題を解く時間を与え、解説を行う。演習であるので、出席するだけでなく、演習時間に与えられる課題に取り組む必要がある。特に教科書の章末問題を、自らの力で解けるようになることが演習の重要な目的である。					
到達目標	この演習では、ミクロ経済学基礎の講義内容を理解し、練習問題を解く力をつけることができる。					
授業外学修内容・授業外学修時間数	授業外学修時間は、最低でも60時間以上必要である。毎回の演習前に講義内容を復習し、教科書の章末問題に目を通しておくこと。					
授業計画	【第1回】 演習のガイダンス 【第2回】 第1章 経済学の十大原理 1 【第3回】 第1章 経済学の十大原理 2 【第4回】 第2章 経済学者らしく考える 1 【第5回】 第2章 経済学者らしく考える 2 【第6回】 第3章 相互依存と貿易からの利益 1 【第7回】 第3章 相互依存と貿易からの利益 2 【第8回】 第4章 市場における需要と供給の作用 1		【第9回】 第4章 市場における需要と供給の作用 2 【第10回】 第5章 需要、供給、および政府の政策 1 【第11回】 第5章 需要、供給、および政府の政策 2 【第12回】 第6章 消費者、生産者、市場の効率性 1 【第13回】 第6章 消費者、生産者、市場の効率性 2 【第14回】 第7章 外部性 1 【第15回】 第7章 外部性 2			
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢（70%）と提出課題（30%）によって評価する。					
フィードバックの内容	リアクションペーパーに対するフィードバックは、翌週の講義内やポータルサイトにて行う。					
教科書	『マンキュー入門経済学（第3版）』 N. グレゴリー・マンキュー（東洋経済新報社）2019年					
指定図書	『スティグリッツ入門経済学第4版』 ジョセフ・E・スティグリッツ カール・E・ウォルシュ（東洋経済新報社）2012年					
参考書	『スティグリッツミクロ経済学第4版』 ジョセフ・E・スティグリッツ カール・E・ウォルシュ（東洋経済新報社）2013年、 『経済学・入門第3版』 塩澤修平（有斐閣）2013年、『ミクロ経済学・入門：ビジネスと政策を読みとく』 柳川隆・町野和夫・吉野一郎（有斐閣）2008年					
教員からのお知らせ	教科書とミクロ経済学基礎の授業資料を必ず持ってくる。演習用の教材・資料および連絡事項を、学内のポータルサイトを利用して掲示する場合がありますので、担当者の指示に従うこと。 教材・資料・連絡事項については以下の方法を利用して掲示するので、それぞれを定期的に確認すること： ・大学ポータルサイト「オンライン授業」					
オフィスアワー	この授業は複数クラスなので、オフィスアワーあるいは質問対応可能時間の詳細については各担当教員に問い合わせること。 専任）本授業に関する質問・相談は、学部学科にて定めるオフィスアワーにて受け付けます。また、WebClass のメッセージ機能でも受け付けます（利用方法はポータルサイト、ライブラリ内のマニュアルを参照）。 非常勤）本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。					
アクティブラーニングの内容	教員からのフィードバックによる振り返り					
その他						

講義コード	11C0123601	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員		開講期	
科目名	民法				戸田 知行		第1期		
履修前条件					備考				
授業の目的	本年度は、民法の中で特に身近な家族法（親族法、相続法）およびそれに関連する民法総則の一部（第一編第二章「人」）を取り上げる。人は生まれると親子関係に入り、成長・独立して婚姻関係に入り、子供が生まれるとまた親子関係に入る。そして、年をとると、場合によっては後見関係に入り、最後には死亡し相続関係が生じる。本講座は、これらの関係を規律する法の基礎を習得することを目的とする。								
到達目標	親子関係の決め方、親の子に対する権利・義務が分かる。どのような場合に離婚できるのか、また離婚の手続き・効果が分かる。認知症の高齢者を法的にどのように保護するのが分かる。遺言の残し方、書き方が分かる。遺言がない場合の相続の仕組みが分かる。公務員試験や法律関係資格の受験のための民法の知識が身につく。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	この科目では、60時間以上の授業外学修を行うこと。出席者は、テキストを事前に読み、「わからない所」をはっきりさせて、講義に臨むこと。復習として、重要な論点について、講義のノート、配布したレジュメ、テキストなどから自分なりの整理ノートを作成すること。								
授業計画	【第1回】ガイダンス、民法とは？ 【第2回】権利能力1（権利能力の始期、終期（失踪宣告の前まで）） 【第3回】権利能力2（権利能力の終期（失踪宣告以降））、親族とは？ 氏名 【第4回】相続1（相続とは？ 相続人、相続分、代襲相続、相続失格、相続の承認・放棄） 【第5回】行為能力1（意思能力と行為能力、未成年者）、親権・未成年後見 【第6回】親子（実子、養子） 【第7回】行為能力2（成年被後見人・被保佐人・被補助人）、成年後見・保佐・補助、扶養 【第8回】行為能力3（制限能力者の相手方の保護）、任意後見 【第9回】婚姻1（成立） 【第10回】婚姻2（効力） 【第11回】婚姻3（解消）、内縁 【第12回】相続2（相続の効力1） 【第13回】相続3（相続の効力2、相続回復請求権、財産分離・相続人の不存在） 【第14回】相続4（遺留分、遺言、死因贈与） 【第15回】まとめ ・各回の予定は、一応のものであり、変更の可能性がある。								
成績評価の方法	期末テストで評価する（100%）。								
フィードバックの内容	期末テストの解説に該当するものは、毎回配布するレジュメの中に、すでに記載してある。疑問がある人に対しては、出講日に訪ねてもらえれば、個別に対応する。								
教科書	『民法7 親族・相続 [第7版]』高橋朋子・床谷文雄・棚村政行（有斐閣）2023								
指定図書	『民法判例百選Ⅲ 親族・相続 [第3版]』大村敦志・沖野眞己編（有斐閣）2023、『民法判例百選Ⅰ 総則・物権 [第9版]』潮見佳男・道垣内弘人編（有斐閣）2023								
参考書									
教員からのお知らせ									
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応する。								
アクティブラーニングの内容	能動的な授業外学修								
その他									

講義コード	11C3115701	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員	茶野 努	開講期	第2期
科目名	リスク・マネジメント								
履修前提条件					備考				
授業の目的	金融規制の根拠を明らかにしたうえで、銀行監督の枠組みである BIS 規制の変遷とその表裏をなす金融機関におけるリスク管理について概説する。								
到達目標	金融リスク管理についての基礎知識を修得する。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	公開している講義資料を打ち出して、事前に学習の上講義に参加すること。 上記に示した授業外の学修は、60時間以上を目安に行うこと。								
授業計画	【第1回】 ガイダンス 【第2回】 金融規制の根拠 【第3回】 金融規制の新しい流れ 【第4回】 バーゼルⅡ 【第5回】 リーマンショックとバーゼルⅢ 【第6回】 為替先物 【第7回】 先物 【第8回】 オプション 【第9回】 デルタヘッジ、スワップ 【第10回】 ALM (資産負債管理) (1) 【第11回】 ALM (資産負債管理) (2) 【第12回】 バリュエーション・リスク (VaR) (1) 【第13回】 バリュエーション・リスク (VaR) (2) 【第14回】 統合リスク管理 (ERM) 【第15回】 授業内の最終試験								
成績評価の方法	授業内の最終試験 (100%) により評価します。								
フィードバックの内容	授業内に解説等を行い、対応を図ります。								
教科書	『保険と金融から学ぶ リスクマネジメント (仮)』 岡田太・茶野努・平澤敦 (中央経済社) 2024								
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ	http://chanopy.wixsite.com/chano に講義資料がアップしてあります。 教科書を購入してください。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。								
アクティブラーニングの内容	意見共有、能動的な授業外学修								
その他									

講義コード	11C0104401	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員	小川 文子	開講期	第2期
科目名	倫理学とは何か								
履修前提条件					備考				
授業の目的	私たち人間は、何かしらのコミュニティに属し、人倫の中で生きています。「倫理学」とは、人間が社会においていかに行為すべきかという問題を追究する学問です。したがって、この授業では「善」や「正義」について考えていくこととなります。西洋哲学の流れに従って倫理学の歴史について概観しながら、現代ならではの新たな問題についても見ていきます。								
到達目標	①身近な事柄に対して、自発的に問題を見つけることができる ②様々な時代の倫理思想の特徴や難点を説明することができる ③問題に対し、自分なりの意見を発信することができる								
授業外学修内容・授業外学修時間数	この科目では、60時間以上の授業外学修をすること。授業中に、書籍やHP、映画など、参考となるメディアを紹介するので、そうしたものを積極的に取り入れて各自学習を深めて下さい。								
授業計画	【第1回】 ガイダンス・授業の詳しい説明 【第2回】 「正義」って何だろう？：徳倫理について 【第3回】 功利主義とカントの義務論 【第4回】 資本主義の問題：マルクス・ガブリエルと斎藤幸平 【第5回】 環境倫理①未来の環境はどうなるのか 【第6回】 環境倫理②映画『レイチェル・カーソンの感性の森』鑑賞 【第7回】 動物の権利 【第8回】 生命倫理：最先端医療はどこまで許容されるのか 【第9回】 「自殺」と「安楽死」 【第10回】 ドキュメンタリー『彼女は安楽死を選んだ』鑑賞 【第11回】 ベネターの反出生主義 【第12回】 ポリティカル・コレクトネス①社会的に公正とはどういう意味か 【第13回】 ポリティカル・コレクトネス②アニメ『サウスパーク』に見るポリコレ 【第14回】 経営倫理 【第15回】 まとめ：メタ倫理学の観点								
成績評価の方法	平常点 (リアクションペーパーと課題) : 50% 学期末試験 : 50% 平常点として、履修が確定した第2回目より WebClass でリアクションペーパーを回収します。 到達目標の①と③については、リアクションペーパーで確認します。②については、課題と試験で評価します。								
フィードバックの内容	リアクションペーパーのフィードバックを次週の授業内で行います。								
教科書									
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ	特定の教科書は使用せず、毎回資料をデータで配信します。エコロジーの観点から、紙媒体では配布しません。参考文献も適宜ご紹介します。								
オフィスアワー	授業時間後教室にて、もしくは WebClass のメールを使ってご連絡ください。								
アクティブラーニングの内容	教員からのフィードバックによる振り返り。毎回のリアクションペーパーを次の授業時にフィードバックします。								
その他									

講義コード	11C0104901	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員		開講期	
科目名	歴史学の世界				加藤 はるか		第2期		
履修前提条件					備考				
授業の目的	「京都とパリの歴史散歩」 歴史＝暗記物と思っているかもしれませんが、高校までの歴史の授業と歴史学は異なります。この授業では、長い歴史を持つ日本とヨーロッパの2つの都市、京都とパリを例に、都市に残る様々な時代の痕跡を空想旅行でめぐりながら、歴史学の方法論、そして歴史と文化、習慣を紹介する。								
到達目標	この授業を受けることで、歴史学の方法論を理解すると共に、日本とヨーロッパの歴史と文化、そしてその違いを把握し、説明することが出来る。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	授業で適宜提示する参考文献やスライド、ノートを使用して授業内容の予習・復習をすることで、計60時間以上の授業外学修を行うこと。								
授業計画	【第1回】 ガイダンス 【第2回】 京都① 成り立ち～鎌倉時代 【第3回】 パリ① フランス以前のパリ 【第4回】 京都② 武士の時代 【第5回】 パリ② 中世のパリ 【第6回】 京都③ 秀吉の大改革 【第7回】 都市と歴史 *オンライン授業で実施（フィールドワーク&レポート作成） 【第8回】 パリ③ 激動のパリ 【第9回】 京都④ 都市、町人文化 【第10回】 パリ④ パリ大改造 【第11回】 京都⑤ 西洋文化の流入（前編） 【第12回】 京都⑥ 西洋文化の流入（後編） 【第13回】 パリ⑤ 万博とパリ 【第14回】 パリ⑥ 大戦期～現代 【第15回】 全体のまとめ								
成績評価の方法	期末試験（60%）、小レポート＆授業への取り組み姿勢（40%）で評価する。到達目標に記載の内容について、自ら説明できることを評価基準とする。その為には、受講を通して、しっかりと学習することが必要不可欠となり、単位取得のみを目的とする履修には向いていない。								
フィードバックの内容	課題に対する講評を授業内にて行う。								
教科書	なし								
指定図書	なし								
参考書	授業中に指示する								
教員からのお知らせ	高校で日本史の人も、世界史の人も、歴史を取っていない人も受講可能です。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。								
アクティブラーニングの内容	意見共有／能動的な授業外学修／調査学習								
その他									

講義コード	11C0116501	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員		開講期	
科目名	労働経済学Ⅰ				戎野 淑子		第1期		
履修前条件					備考				
授業の目的	<p>人間は、「労働」することによって生活し、それを通じて社会を形成し発展させてきた。労働は、人間にとって基本的かつ重要な営みである。「労働経済学」においては、人々が働き、暮らしていく現実の姿を経済学的視点から焦点を当て、そこに発生する様々な事象や問題を分析し解明するものである。</p> <p>そこで、本講義では、人々の生活に身近で深く関わっている極めて重要な課題を中心に、就業に関わる様々な仕組みやその仕組みの持つ問題について、理論と関連させながら明らかにする。まず、分析枠組みの中心となっている市場の概念を軸に、「労働」という商品の特徴をとらえ、それによって労働に関する基礎的理論を理解する。そして、労働に関する現在の具体的な諸問題を取り上げ、昨今深刻かつ重要な社会問題になっている「雇用」に重点をおいて講義を進めることにしたい。</p> <p>なお、状況により、講義計画を変更・調整することもある。</p>								
到達目標	労働経済学の基礎知識を修得することができ、今日の日本の労働に関する状況や諸問題について、概要を理解することができる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	講義ノートを用いて、復習をすること。(計60時間以上)								
授業計画	<p>【第1回】はじめに：講義の概要と労働経済学の体系</p> <p>【第2回】労働に関する基本的概念：労働力人口、完全失業率等の具体的内容</p> <p>【第3回】労働供給に関する基礎的理論（Ⅰ）：労働と余暇（無差別曲線、労働時間の最適化等）</p> <p>【第4回】労働供給に関する基礎的理論（Ⅱ）：家計の労働供給（ダグラス＝有沢の法則等）</p> <p>【第5回】労働需要に関する基礎的理論（Ⅰ）：企業の労働需要（長期・短期）</p> <p>【第6回】労働需要に関する基礎的理論（Ⅱ）：市場の労働需要（技術進歩と労働需要との関係等）</p> <p>【第7回】労働市場のメカニズム：「労働」という商品の特徴、市場均衡</p> <p>【第8回】採用形態の内容と特徴：新規学卒採用・中途採用の特徴と近年の動向</p> <p>【第9回】労働時間について：日本の労働時間の特徴、近年の動向（年間労働時間、裁量労働等）</p> <p>【第10回】賃金に関する基礎的理論：賃金の硬直性、賃金決定の制度要因、最低賃金等</p> <p>【第11回】賃金水準と格差：賃金水準の国際比較、年齢・職種・企業規模・産業間の賃金格差</p> <p>【第12回】失業に関する基礎的理論：失業の概念と失業の種類、フィリップス曲線</p> <p>【第13回】失業構造と日本の失業の特徴：日本の失業の特徴（失業水準、期間、構造）、失業対策</p> <p>【第14回】日本の雇用関係の特徴：日本的経営の3つの特徴</p> <p>【第15回】まとめ</p>								
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢50%と試験50%。毎回の授業で課題を解答して提出し、授業への取り組み姿勢を評価。最後2回の授業は、まとめの試験（課題）を行い、試験の評価。								
フィードバックの内容	課題の解答（リアクションペーパー）に対するフィードバックを次の授業で行う								
教科書	『労働経済白書』厚生労働省編（日経印刷株式会社）2023年								
指定図書	『労働経済』清家篤・風神佐知子（東洋経済新報社）2021年、『労働経済学』阿部正浩（新世社）2021年								
参考書									
教員からのお知らせ									
オフィスアワー	水曜日お昼休み								
アクティラーニングの内容	毎回、課題行って提出し、その解答（リアクションペーパー）に対するフィードバックを次の授業で行う								
その他									

講義コード	11C0116601	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員	戎野 淑子	開講期	第2期																
科目名	労働経済学2																								
履修前条件					備考																				
授業の目的	<p>人間は、「労働」することによって生活し、それを通じて社会を形成し発展させてきた。労働は、人間にとって基本的かつ重要な営みである。「労働経済学」においては、人々が働き、暮らしていく現実の姿を経済学的視点から焦点を当て、そこに発生する様々な事象や問題を分析し解明するものである。</p> <p>そこで、本講義では、人々の生活に身近で深く関わっている極めて重要な課題を中心に、就業に関わる様々な仕組みやその仕組みの持つ問題について、理論と関連させながら明らかにする。まず、分析枠組みの中心となっている市場の概念を軸に、「労働」という商品の特徴をとらえ、それによって労働に関する基礎的理論を理解する。そして、労働に関する現在の具体的諸問題を取り上げ、昨今深刻かつ重要な社会問題になっている「雇用」に重点をおいて講義を進めることにしたい。</p> <p>なお、状況により、講義計画を変更・調整することもある。</p>																								
到達目標	労働経済学の基礎知識を修得することができ、今日の日本の労働に関する状況や諸問題について、概要を理解することができる。																								
授業外学修内容・授業外学修時間数	講義ノートを用いて、復習をすること。(計60時間以上)																								
授業計画	<table border="0"> <tr> <td>【第1回】労働環境の変化(Ⅰ):少子高齢化</td> <td>【第9回】労働時間(Ⅱ):現状と課題</td> </tr> <tr> <td>【第2回】労働環境の変化(Ⅱ):国際化</td> <td>【第10回】定年・退職・解雇:日本社会における解雇や退職に関する制度や慣行</td> </tr> <tr> <td>【第3回】労働環境の変化(Ⅲ):技術革新</td> <td>【第11回】日本の雇用関係の変容とその背景:日本の経営の変容の具体的内容とその原因</td> </tr> <tr> <td>【第4回】賃金体系と年功賃金(Ⅰ):賃金体系と日本における賃金の特徴</td> <td>【第12回】就業形態の多様化:非正規労働者(パートタイマー、派遣社員等)について</td> </tr> <tr> <td>【第5回】賃金体系と年功賃金(Ⅱ):賃金の具体的内容(基本給・所定内給与等)</td> <td>【第13回】若年層の労働問題:新卒の就職、フリーター、ニート、フリーランス</td> </tr> <tr> <td>【第6回】企業内教育:OJT, off-JTの特徴、実施状況、問題等</td> <td>【第14回】格差と貧困</td> </tr> <tr> <td>【第7回】内部労働市場と査定・昇進:内部労働市場の特性、昇進、配置転換・出向など</td> <td>【第15回】まとめ</td> </tr> <tr> <td>【第8回】労働時間(Ⅰ):国際比較</td> <td></td> </tr> </table>									【第1回】労働環境の変化(Ⅰ):少子高齢化	【第9回】労働時間(Ⅱ):現状と課題	【第2回】労働環境の変化(Ⅱ):国際化	【第10回】定年・退職・解雇:日本社会における解雇や退職に関する制度や慣行	【第3回】労働環境の変化(Ⅲ):技術革新	【第11回】日本の雇用関係の変容とその背景:日本の経営の変容の具体的内容とその原因	【第4回】賃金体系と年功賃金(Ⅰ):賃金体系と日本における賃金の特徴	【第12回】就業形態の多様化:非正規労働者(パートタイマー、派遣社員等)について	【第5回】賃金体系と年功賃金(Ⅱ):賃金の具体的内容(基本給・所定内給与等)	【第13回】若年層の労働問題:新卒の就職、フリーター、ニート、フリーランス	【第6回】企業内教育:OJT, off-JTの特徴、実施状況、問題等	【第14回】格差と貧困	【第7回】内部労働市場と査定・昇進:内部労働市場の特性、昇進、配置転換・出向など	【第15回】まとめ	【第8回】労働時間(Ⅰ):国際比較	
【第1回】労働環境の変化(Ⅰ):少子高齢化	【第9回】労働時間(Ⅱ):現状と課題																								
【第2回】労働環境の変化(Ⅱ):国際化	【第10回】定年・退職・解雇:日本社会における解雇や退職に関する制度や慣行																								
【第3回】労働環境の変化(Ⅲ):技術革新	【第11回】日本の雇用関係の変容とその背景:日本の経営の変容の具体的内容とその原因																								
【第4回】賃金体系と年功賃金(Ⅰ):賃金体系と日本における賃金の特徴	【第12回】就業形態の多様化:非正規労働者(パートタイマー、派遣社員等)について																								
【第5回】賃金体系と年功賃金(Ⅱ):賃金の具体的内容(基本給・所定内給与等)	【第13回】若年層の労働問題:新卒の就職、フリーター、ニート、フリーランス																								
【第6回】企業内教育:OJT, off-JTの特徴、実施状況、問題等	【第14回】格差と貧困																								
【第7回】内部労働市場と査定・昇進:内部労働市場の特性、昇進、配置転換・出向など	【第15回】まとめ																								
【第8回】労働時間(Ⅰ):国際比較																									
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢50%と試験50%。毎回の授業で課題を解答して提出し、授業への取り組み姿勢を評価。最後2回の授業は、まとめの試験(課題)を行い、試験の評価。																								
フィードバックの内容	課題の解答(リアクションペーパー)に対するフィードバックを次の授業で行う																								
教科書	『労働経済白書』厚生労働省編(日経印刷株式会社)2023年																								
指定図書	『労働経済』清家篤・風神佐知子(東洋経済新報社)2021年、『労働経済学』阿部正浩(新世社)2021年																								
参考書																									
教員からのお知らせ																									
オフィスアワー	水曜日お昼休み																								
アクティブラーニングの内容	毎回、課題を行い提出し、その解答(リアクションペーパー)に対するフィードバックを次の授業で行う																								
その他																									

講義コード	11C0125001	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員		開講期	
科目名	労働法				水野 圭子		第2期		
履修前提条件					備考				
授業の目的	将来、社会に出て働く場合はもちろんのこと、アルバイトや就職活動を含め働くという場にかかわる様々な法的問題について学習する。第一には、労働法の基本的な知識を習得することを目的とする。第二には、働く場合にかかわりを持つ法的な問題がどのように解決されるべきか判断し、他者に説明できるようにする。								
到達目標	1・労働法の基本的な概念を理解し、その制度や仕組みについて、簡潔な文章で説明できるようになる。2.労働法の問題を理解し、重要な問題点について法的解決や判例を挙げ説明できるようになる。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	予習復習として、教科書や配布された資料を熟読すること。また、必要に応じて、判例の事実・判例要旨をまとめる等の授業外学修を行うことが必要となる。おおむね、1回の授業につき2時間の予習と2時間の復習といった、半期で60時間以上の授業外学修を行うことが求められる。								
授業計画	【第1回】 ガイダンス 労働法とはどのような法律か 【第2回】 労基法・労災保険法によって守られる者・労基法を守る義務を負う者 アルバイトと労働法 【第3回】 学生と労働法の関係 採用内定・採用内定・本採用拒否 判例の読み方① 【第4回】 学生と労働法の関係 本採用拒否 【第5回】 賃金とはなにか。日本の長期雇用システムと賃金の重要性と法の保護 【第6回】 最低賃金の問題点・賃金の減額・相殺・賞与・退職金の問題 【第7回】 成果主義賃金と年俸制の利点・問題点 【第8回】 労働時間とはなにか。時間外労働/36協定と残業義務・長時間労働規制と過労死やワーク・ライフ・バランス性 【第9回】 長時間労働と過労死・過労自殺について 弁護士・被災労働者遺族の講演を聞く 【第10回】 休憩時間・休息時間・休日 休む時間の意味と可能性。 【第11回】 年次有給休暇 学生アルバイトの年次有給休暇取得・日本の長期休暇の可能性。 【第12回】 労働条件条件の決定 ①労働契約とは何か。 【第13回】 労働条件の決定 ②就業規則 判例の読み方② 【第14回】 労働契約の終了 辞職 解雇 【第15回】 まとめ								
成績評価の方法	ポータル等を利用して、簡単な確認テストを複数回行う（20%）、また、レポート（10%）の提出を求めることがある。その合計点と期末試験（70%）を合計して、成績評価を行う。								
フィードバックの内容	講義の要点や定義等について、オンライン上の確認テストを行う。これについては、一週間の間に回答するものとする。また、簡単なレポートの提出を求める場合もある。これらの点については、次回の講義の初めに再度復習を行う。								
教科書	『テキストブック労働法』高橋賢司・橋本陽子・本庄 淳志（中央経済社）2021年								
指定図書									
参考書	『労働法講義 第3版』高橋賢司（中央経済社）2022年								
教員からのお知らせ									
オフィスアワー	講義の後に、教員に対する質問等の時間をとります。								
アクティブラーニングの内容	外部講師（今年度は労働事件を多く担当している弁護士と労災被災者遺族を予定）の講演を予定している。講演後、質疑応答、コメントの提出を行う予定である。								
その他	パワーポイントを用いて、教科書、資料を利用し、講義形式で進める。新聞記事などの資料を利用し、その単元の問題点を認識する。次に教科書をもちいて定義・用語等を正確に理解し、争点を明らかにし、どのような解決が行われているのか、最高裁判決等を確認する。								

個人情報の取扱い

立正大学では、入学手続時その他大学所定の手続において収集した住所・氏名・電話番号等の個人情報は、法令等に定める一定の場合を除き、利用目的以外には利用しません。なお、利用目的の詳細につきましては本学ホームページ内の「個人情報保護の取り組み」をご覧ください。

https://www.ris.ac.jp/rissho_school/release_information/compliance/personal_info_protection.html



経済学部事務室 〒141-8602 東京都品川区大崎4-2-16 TEL(03)3492-7529

令和6(2024)年度

大学院経済学研究科

講義案内

立正大学大学院

令和6(2024)年度

大学院 経済学研究科

講義案内

 立正大学大学院

講義コード	12C0100101	授業形態	講義	抽選の有無	なし	担当教員	小林 隆史	開講期	第1期
科目名	環境学特論1				小林 隆史			第1期	
履修前提条件					備考				
授業の目的	環境問題を取り上げ、それらが生じる問題の要因を考察し、モデル化を検討する。これによって、課題に対する論理的な思考力を得ること、それを他者に効果的に伝える力を得ることを目的とする。								
到達目標	環境問題における要因について論理的に考察できるようになる。自身で選んだテーマにおけるモデルを発表できるようになる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	60時間以上の授業外学修を行うことが必要である。授業で利用する参考書を事前に読むことが重要である。また、自身にとって興味のある課題を選定するために、社会のニュース等に目を向け、適宜紹介される論文を読むこと。								
授業計画	【第1回】ガイダンス 【第2回】環境問題とモデル化 【第3回】テキスト輪読・発表 【第4回】テキスト輪読・発表 【第5回】テキスト輪読・発表 【第6回】テキスト輪読・発表 【第7回】テキスト輪読・発表 【第8回】レポートテーマ発表 【第9回】論文の分析手法・結果の解説 【第10回】論文の分析手法・結果の解説 【第11回】論文の分析手法・結果の解説 【第12回】レポート発表とディスカッション 【第13回】レポート発表とディスカッション 【第14回】レポート発表とディスカッション 【第15回】まとめ								
成績評価の方法	授業内での発表(30%)と、取り組み姿勢(30%)、レポート等の課題(40%)で評価する。								
フィードバックの内容	発表時へのコメント、及び、レポート、レジュメについてコメントする。								
教科書									
指定図書									
参考書	『スマートモビリティ時代の地域とクルマ：社会工学アプローチによる課題解決』大澤 義明(編集, 著), 他(学芸出版社)2023、『都市モデル読本』栗田 治(著), 古山 正雄(監修)(共立出版)2004、『巨大地震による複合災害-発生メカニズム・被害・都市や地域の復』八木 勇治・大澤 義明(編集, 著), 他(学芸出版社)2015、『思考の方法学』栗田 治(講談社)2023								
教員からのお知らせ	テキストは受講生の興味、関心によって設定する。参考文献については、授業中に説明する。								
オフィスアワー	質問・相談は学部学科にて定めるオフィスアワーにて、対面及び Teams のビデオ通話等にて受付ける。また、Teams の所定の箇所に質問・相談の投稿があれば、オフィスアワーにて返信を行う。								
アクティブラーニングの内容	「プレゼンテーション」・「グループディスカッション」について、授業内で「教員からのフィードバックによる振り返り」を実施する。								
その他									

講義コード	12C0100201	授業形態	講義	抽選の有無	なし	担当教員	小林 隆史	開講期	第2期
科目名	環境学特論2				小林 隆史			第2期	
履修前提条件					備考				
授業の目的	環境問題を取り上げ、それらが生じる問題の要因を考察し、モデル化する。また、そのモデルについてデータによる実証分析を試みる。これによって、課題に対する論理的な思考力を得ること、それを他者に効果的に伝える力を得ること、データの扱い方を目的とする。								
到達目標	環境問題における要因について論理的に考察できるようになる。自身で選んだテーマにおけるモデルにおいて、データを用いた実証分析を行えるようになる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	60時間以上の授業外学修を行うことが必要である。授業で利用する参考書を事前に読むことが重要である。また、自身にとって興味のある課題を選定するために、社会のニュース等に目を向け、適宜紹介される論文を読むこと。データによる実証分析において相応の分析時間を確保すること。								
授業計画	【第1回】ガイダンス 【第2回】環境問題とモデルの実証分析 【第3回】テーマ発表・ディスカッション 【第4回】テーマ発表・ディスカッション 【第5回】データ分析手法の紹介と実習 (GIS) 【第6回】データ分析手法の紹介と実習 (フィッティング) 【第7回】データ分析手法の紹介と実習 (多変量解析) 【第8回】一次発表とディスカッション 【第9回】一次発表とディスカッション 【第10回】論文の分析手法・結果の解説 【第11回】論文の分析手法・結果の解説 【第12回】論文の分析手法・結果の解説 【第13回】二次発表とディスカッション 【第14回】二次発表とディスカッション 【第15回】まとめ								
成績評価の方法	授業内での発表(30%)と、取り組み姿勢(30%)、レポート等の課題(40%)で評価する。								
フィードバックの内容	発表時へのコメント、及び、レポート、レジュメについてコメントする。								
教科書									
指定図書									
参考書	『スマートモビリティ時代の地域とクルマ：社会工学アプローチによる課題解決』大澤 義明(編集, 著), 他(学芸出版社)2023、『都市モデル読本』栗田 治(著), 古山 正雄(監修)(共立出版)2004、『巨大地震による複合災害-発生メカニズム・被害・都市や地域の復』八木 勇治・大澤 義明(編集, 著), 他(学芸出版社)2015、『思考の方法学』栗田 治(講談社)2023								
教員からのお知らせ	テキストは受講生の興味、関心によって設定する。参考文献については、授業中に説明する。								
オフィスアワー	質問・相談は学部学科にて定めるオフィスアワーにて、対面及び Teams のビデオ通話等にて受付ける。また、Teams の所定の箇所に質問・相談の投稿があれば、オフィスアワーにて返信を行う。								
アクティブラーニングの内容	「プレゼンテーション」・「グループディスカッション」について、授業内で「教員からのフィードバックによる振り返り」を実施する。								
その他									

講義コード	12C0100901	授業形態	講義	抽選の有無	なし	担当教員		開講期	
科目名	環境政策特論 1					吉田 友美		第1期	
履修前提条件					備考				
授業の目的	一般的に、外部不経済により環境問題は深刻化するので、市場に対する政府の介入（環境政策の実施）が必要になる。本講義では、環境問題が発生するメカニズム、外部不経済の是正のための環境政策の理論、環境政策の具体的事例、外部性の内部化の手段としての環境評価手法等について学ぶ。 なお、本講義は博士後期課程の「環境政策特研1」との合同授業である。								
到達目標	(1) 環境問題が発生するメカニズムについて、経済理論を用いて説明できるようになる。 (2) それぞれの環境政策について説明できるようになる。 (3) 環境評価手法について説明できるようになる。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	この科目では、60時間以上の授業外学修を行うこと。基本的に輪読の形式をとるので、報告者は事前に教科書を要約しプレゼン資料を作成のうえ、講義中にプレゼンを行うこと。加えて、プレゼン内容について復習も行うこと。								
授業計画	【第1回】 Introduction 【第2回】 The Economic Approach: Property Rights, Externalities, and Environmental Problems 1 【第3回】 The Economic Approach: Property Rights, Externalities, and Environmental Problems 2 【第4回】 Evaluating Trade-Offs: Benefit-Cost Analysis and Other Decision-Making Metrics 1 【第5回】 Evaluating Trade-Offs: Benefit-Cost Analysis and Other Decision-Making Metrics 2 【第6回】 Valuing the Environment Methods 1 【第7回】 Valuing the Environment Methods 2 【第8回】 Valuing the Environment Methods 3 【第9回】 Dynamic Efficiency and Sustainable Development 1 【第10回】 Dynamic Efficiency and Sustainable Development 2 【第11回】 Depletable Resource Allocation: The Role of Longer Time Horizons, Substitutes, and Extraction Cost 1 【第12回】 Depletable Resource Allocation: The Role of Longer Time Horizons, Substitutes, and Extraction Cost 2 【第13回】 Energy: The Transition from Depletable to Renewable Resources 1 【第14回】 Energy: The Transition from Depletable to Renewable Resources 2 【第15回】 Summery								
成績評価の方法	プレゼン資料：40% プレゼン内容：60%								
フィードバックの内容	講義後、講評を実施。								
教科書	『Environmental and Natural Resource Economics』 Thomas H. Tietenberg, Lynne Lewis (Routledge) 2018年								
指定図書	『Environmental and Natural Resource Economics』 Thomas H. Tietenberg, Lynne Lewis (Routledge) 2018年								
参考書	『Environmental Economics』 Charles D. Kolstad (Oxford Univ Pr) 2010年								
教員からのお知らせ									
オフィスアワー	毎週、木曜日5限 ただし、必ず事前にメールでアポイントメントをとること。 メールアドレスは授業中に指示します。								
アクティブラーニングの内容 その他	課題の講評を実施。								

講義コード	12C0101001	授業形態	講義	抽選の有無	なし	担当教員		開講期	
科目名	環境政策特論2				吉田 友美		第2期		
履修前提条件					備考				
授業の目的	一般的に、外部不経済により環境問題は深刻化する中で、市場に対する政府の介入（環境政策の実施）が必要になる。本講義では、環境問題が発生するメカニズム、外部不経済の是正のための環境政策の理論、環境政策の具体的事例、外部性の内部化の手段としての環境評価手法等について学ぶ。 なお、本講義は博士後期課程の「環境政策特研2」との合同授業である。								
到達目標	(1) 環境問題が発生するメカニズムについて、経済理論を用いて説明できるようになる。 (2) それぞれの環境政策について説明できるようになる。 (3) 環境評価手法について説明できるようになる。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	この科目では、60時間以上の授業外学修を行うこと。基本的に輪読の形式をとるので、報告者は事前に教科書を要約しプレゼン資料を作成のうえ、講義中にプレゼンを行うこと。加えて、プレゼン内容について復習も行うこと。								
授業計画	【第1回】 Introduction 【第2回】 Recyclable Resources: Minerals, Paper, Bottles, and E-Waste 1 【第3回】 Recyclable Resources: Minerals, Paper, Bottles, and E-Waste 2 【第4回】 Water: A confluence of Renewable and Depletable Resources 1 【第5回】 Water: A confluence of Renewable and Depletable Resources 2 【第6回】 Water: A confluence of Renewable and Depletable Resources 3 【第7回】 A Locationally Fixed, Multipurpose Resource: Land 1 【第8回】 A Locationally Fixed, Multipurpose Resource: Land 2 【第9回】 A Locationally Fixed, Multipurpose Resource: Land 3 【第10回】 Storable, Renewable Resources: Forests 1 【第11回】 Storable, Renewable Resources: Forests 2 【第12回】 Storable, Renewable Resources: Forests 3 【第13回】 Common-Pool Resources: Commercially Valuable Fisheries 1 【第14回】 Common-Pool Resources: Commercially Valuable Fisheries 2 【第15回】 Summery								
成績評価の方法	プレゼン資料：40% プレゼン内容：60%								
フィードバックの内容	講義後、講評を実施。								
教科書	『Environmental and Natural Resource Economics』 Thomas H. Tietenberg, Lynne Lewis (Routledge) 2018年								
指定図書	『Environmental and Natural Resource Economics』 Thomas H. Tietenberg, Lynne Lewis (Routledge) 2018年								
参考書	『Environmental Economics』 Charles D. Kolstad (Oxford Univ Pr) 2010年								
教員からのお知らせ									
オフィスアワー	毎週、木曜日5限 ただし、必ず事前にメールでアポイントメントをとること。 メールアドレスは授業中に指示します。								
アクティブラーニングの内容 その他	課題の講評を実施								

講義コード	12C0101301	授業形態	講義	抽選の有無	なし	担当教員	佐伯 順子	開講期	第1期
科目名	国際環境特論 1								
履修前提条件					備考				
授業の目的	地球上で現在発生している、生物多様性や生態系機能の低下、水資源不足、地球温暖化、資源枯渇などの様々な環境問題の現状、そしてその発生機構および講じられている緩和・適応策について学びます。そして、これらの環境問題を取り巻く政策、経済活動について学び、課題解決に向けて今後の対策について議論し、理解を深めます。なお、本講義は博士後期課程の「国際環境特研1」との合同授業です。								
到達目標	この講義を通じて、様々な環境問題の深刻さとその発生メカニズムと相互作用を理解できるようになる。そして、現在講じられている対策について、社会がどのように取り組んでいて、課題がどこに残っているのかを認識し、今後人類が種々の環境問題に対してどのように取り組むべきか、議論できるようになる。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	授業で紹介する環境問題の中から、一つ選択し、その問題と講じられている対策について調査します。調査した内容をレポートにまとめ、授業で発表できるように準備します。調査では、特にその対策の効果と課題に着目し、今後どのように対応していくべきかの提案をします。(計60時間)								
授業計画	【第1回】地球上で起こっている環境問題の概要 【第2回】人間活動と環境問題と環境問題の歴史 【第3回】国際的な枠組み 【第4回】地球温暖化(1)メカニズムと現象、研究 【第5回】地球温暖化(2)政策的な取組 【第6回】地球温暖化(3)地球温暖化問題とエネルギー資源 【第7回】地球温暖化(4)対策(省エネ、技術開発)、適応策と緩和策 【第8回】地球温暖化(5)企業の取組 【第9回】環境汚染(1)大気汚染 【第10回】環境汚染(2)土壌汚染、水質汚濁(富栄養化)、残留農薬 【第11回】水資源(1)水の需要と供給 【第12回】水資源(2)環境への影響 【第13回】水資源(3)水マネジメント 【第14回】プレゼンテーション 【第15回】まとめ								
成績評価の方法	授業への取組姿勢(40%)、レポート(20%)、プレゼンテーション(40%)								
フィードバックの内容									
教科書									
指定図書									
参考書	『生態リスク学入門 - 予防的順応的管理 -』松田裕之(共立出版)2008、『地球の論点 —— 現実的な環境主義者のマニフェスト 地球の論点 —— 現実的な環境主義者のマニフェスト』スチュアート(英治出版)2011、『現代の化学環境学 環境の理解と改善のために』御園生 誠(裳華房)2017、『図解 環境バイオテクノロジー入門』軽部 征夫(日刊工業新聞社)2012、『グラフィック環境経済学』浅子 和美(新世社)2015、『資源の循環利用とはなにか—— バツをグッズに変える新しい経済システム』細田 衛士(岩波書店)2015、『沈黙の春』レイチェル カーソン(新潮文庫)1974、『GEO - 5 地球環境概観第5次報告書 - 私達が望む未来の環境(上)』国連環境計画(環境報告研)2015、『持続可能な社会のための環境論・環境政策論』白井 信雄(大学教育出版)2020、『資源と環境の経済学 - ケーススタディで学ぶ』馬奈木 俊介(昭和堂)2012								
教員からのお知らせ									
オフィスアワー	非常勤) 本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。								
アクティブラーニングの内容	意見共有、能動的な授業外学習など								
その他	各授業内では、授業に関する事柄についての意見共有を促進しています。意見や疑問があれば、随時挙手により意見を表明し、ディスカッションを深めます。 プレゼンテーションの課題の際には、各自図書館やインターネットなどで課題に応じて調査し、プレゼンテーションにて調査結果を共有してもらいます。プレゼンテーション後には、教員からフィードバックと問題提起をし、クラス全体でディスカッションを行います。 期のまとめとして、全授業内容を最後にまとめてレポートの課題に反映させます。								

講義コード	12C0101401	授業形態	講義	抽選の有無	なし	担当教員	佐伯 順子	開講期	第2期
科目名	国際環境特論2								
履修前条件					備考				
授業の目的	地球上で現在発生している、生物多様性や生態系機能の低下、水資源不足、地球温暖化、資源枯渇などの様々な環境問題の現状、そしてその発生機構および講じられている緩和・適応策について学びます。そして、これらの環境問題を取り巻く政策、経済活動について学び、課題解決に向けて今後の対策について議論し、理解を深めます。 なお、本講義は博士後期課程の「国際環境特研2」との合同授業です。								
到達目標	この講義を通じて、様々な環境問題の深刻さとその発生メカニズムと相互作用を理解できるようになる。そして、現在講じられている対策について、社会がどのように取り組んでいて、課題がどこに残っているのかを認識し、今後人類が種々の環境問題に対してどのように取り組むべきか、議論できるようになる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	企業の環境経営を調査し、関心のある1企業をピックアップします。その企業の環境に対する取り組みを深掘りして調査し、授業で紹介し、またその調査内容をレポートにまとめます。(計60時間)								
授業計画	【第1回】生態系環境 (1) 生物を取り巻く環境 【第2回】生態系環境 (2) 生物多様性のメカニズムと重要性 【第3回】生態系環境 (3) 生態系のメカニズム 【第4回】生態系環境 (4) 海の生態系 【第5回】生態系環境 (5) 生物資源(バイオマス)の利用と環境保全 【第6回】生態系環境 (6) 外来種 【第7回】資源循環 (1) プラスチック問題 【第8回】資源循環 (2) 資源枯渇 【第9回】資源循環 (3) 廃棄物問題 【第10回】資源循環 (4) リサイクル 【第11回】環境経営 (1) 企業の取組事例 【第12回】環境経営 (2) 環境への影響の評価方法 【第13回】環境経営 (3) 企業に求められる努力 【第14回】プレゼンテーション 【第15回】まとめ								
成績評価の方法	授業への取組姿勢 (40%)、レポート (20%)、プレゼンテーション (40%)								
フィードバックの内容									
教科書									
指定図書									
参考書	『生態リスク学入門 - 予防的順応的管理 -』松田裕之 (共立出版) 2008、『地球の論点 —— 現実的な環境主義者のマニフェスト 地球の論点 —— 現実的な環境主義者のマニフェスト』スチュアート (英治出版) 2011、『現代の化学環境学 環境の理解と改善のために』御園生 誠 (裳華房) 2017、『図解 環境バイオテクノロジー入門』軽部 征夫 (日刊工業新聞社) 2012、『グラフィック環境経済学』浅子 和美 (新世社) 2015、『資源の循環利用とはなにか——バズをグズに変える新しい経済システム』細田 衛士 (岩波書店) 2015、『沈黙の春』レイチェル カーソン (新潮文庫) 1974、『GEO - 5 地球環境概観第5次報告書 - 私達が望む未来の環境 (上)』国連環境計画 (環境報告研) 2015、『持続可能な社会のための環境論・環境政策論』白井 信雄 (大学教育出版) 2020、『資源と環境の経済学 - ケーススタディで学ぶ』馬奈木 俊介 (昭和堂) 2012								
教員からのお知らせ									
オフィスアワー	非常勤) 本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。								
アクティブラーニングの内容	各授業内では、授業に関する事柄についての意見共有を促進しています。意見や疑問があれば、随時挙手により意見を表明し、ディスカッションを深めます。 プレゼンテーションの課題の際には、各自図書館やインターネットなどで課題に応じて調査し、プレゼンテーションにて調査結果を共有してもらいます。プレゼンテーション後には、教員からフィードバックと問題提起をし、クラス全体でディスカッションを行います。 期のまとめとして、全授業内容を最後にまとめてレポートの課題に反映させます。								
その他									

講義コード	12C0101901	授業形態	講義	抽選の有無	なし	担当教員		開講期	
科目名	地域農業環境特論3				北原 克宣		第1期		
履修前提条件					備考				
授業の目的	本講義では、現代資本主義下における農業・食料・環境問題に関する先行研究を学ぶことを通じて、この分野の研究の到達点と課題について学ぶことを目的とする。 ※この授業は、修士・博士後期両課程合同で実施します。								
到達目標	本講義の目標は、研究の方法および農業・食料・環境問題に関する分野の研究の到達点と残された課題について理解し、これらの知識を用いて論文（とりわけ修士論文）が執筆できるようになることである。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	①当該分野の研究書・学術論文を読んでおくこと（毎日1時間） ②テキストは事前に必ず目を通し、疑問点・論点についてあらかじめチェックしておくこと。（1週間のうち1時間以上） 計60時間以上の授業外学修が必要である。								
授業計画	【第1回】講義の進め方について 【第2回】論文①に関する報告・討論 【第3回】論文②に関する報告・討論 【第4回】論文③に関する報告・討論 【第5回】論文④に関する報告・討論 【第6回】論文⑤に関する報告・討論 【第7回】論文⑥に関する報告・討論 【第8回】論文⑦に関する報告・討論 【第9回】論文⑧に関する報告・討論 【第10回】論文⑨に関する報告・討論 【第11回】論文⑩に関する報告・討論 【第12回】論文⑪に関する報告・討論 【第13回】論文⑫に関する報告・討論 【第14回】農業・食料・環境問題に関する研究の動向 【第15回】農業・食料・環境問題に関する研究の動向								
成績評価の方法	発表の内容・回数（50%）、発言の内容・回数（50%）								
フィードバックの内容	発表に対するコメントを授業内で行う。								
教科書									
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ									
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は随時受け付けます。講義の際にお知らせするアドレスに、ご連絡ください。								
アクティブラーニングの内容	プレゼンテーション、ディスカッション								
その他									

講義コード	12C0102001	授業形態	講義	抽選の有無	なし	担当教員		開講期	
科目名	地域農業環境特論4				北原 克宣		第2期		
履修前提条件					備考				
授業の目的	本講義では、現代資本主義下における農業・食料・環境問題に関する先行研究を学ぶことを通じて、この分野の研究の到達点と課題について学ぶことを目的とする。 ※この授業は、修士・博士後期両課程合同で実施します。								
到達目標	本講義の目標は、研究の方法および農業・食料・環境問題に関する分野の研究の到達点と残された課題について理解し、これらの知識を用いて論文（とりわけ修士論文）が執筆できるようになることである。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	①当該分野の研究書・学術論文を読んでおくこと（毎日1時間） ②テキストは事前に必ず目を通し、疑問点・論点についてあらかじめチェックしておくこと。（1週間のうち1時間以上） 計60時間以上の授業外学修が必要である。								
授業計画	【第1回】講義の進め方について 【第2回】論文⑬に関する報告・討論 【第3回】論文⑭に関する報告・討論 【第4回】論文⑮に関する報告・討論 【第5回】論文⑯に関する報告・討論 【第6回】論文⑰に関する報告・討論 【第7回】論文⑱に関する報告・討論 【第8回】論文⑲に関する報告・討論 【第9回】論文⑳に関する報告・討論 【第10回】研究発表・討論 【第11回】研究発表・討論 【第12回】研究発表・討論 【第13回】研究発表・討論 【第14回】研究発表・討論 【第15回】農業・食料・環境問題の現代的課題								
成績評価の方法	発表の内容・回数（50%）、発言の内容・回数（50%）								
フィードバックの内容	発表に対するコメントを授業内にて行う。								
教科書									
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ									
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は随時受け付けます。講義の際にお知らせするアドレスに、ご連絡ください。								
アクティブラーニングの内容	プレゼンテーション、ディスカッション								
その他									

講義コード	12C0102101	授業形態	講義	抽選の有無	なし	担当教員	櫻井 一宏	開講期	第1期
科目名	都市環境特論 1				櫻井 一宏			第1期	
履修前提条件					備考				
授業の目的	本講義では、都市と環境のモデル化を念頭に置いて、都市経済活動や環境問題など都市・地域に関する定量的分析手法を学ぶ。都市とは何か、どのように発展してきたのか、近代以降の都市の捉え方、考え方を概観し、どのように評価できるかを検討する。実際の都市問題による都市環境への影響や、それらへの対策としての都市政策を振り返り、定量的な分析を試みる。都市・地域に関するさまざまなデータを用いた分析手法を学ぶ。								
到達目標	今日的な都市とはどのようなものか、データを用いたさまざまな見方による分析を学び、定量的な考え方やデータ分析を用いた考察ができる。都市問題や都市環境政策について学び、モデル分析を応用することにより、都市や地域を定量的に見ることができ、政策立案につながる分析を具体的にを行うことができる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	授業時に作成したノートをもとにして、当該内容についての確認および理解を深めるための復習を必要とする。また、参考資料やインターネット等を用いて関連する内容についての自主学習を行うことを推奨する。以上の復習および自主学習のために計60時間以上の授業外学修を実施すること。適宜、授業内容に沿って関連する課題を与える場合がある。								
授業計画	【第1回】 イントロダクション 【第2回】 環境の捉え方 【第3回】 都市と環境 【第4回】 都市の発展 【第5回】 都市の要件 【第6回】 都市モデル 【第7回】 都市論 【第8回】 都市問題と都市計画 (1) 【第9回】 都市問題と都市計画 (2) 【第10回】 都市・地域のデータ化 【第11回】 データによる分析 (1) 【第12回】 データによる分析 (2) 【第13回】 都市・地域分析事例 (1) 【第14回】 都市・地域分析事例 (2) 【第15回】 まとめ								
成績評価の方法	原則として期末試験 (100%) で評価する。課題提出・小テスト等を実施した場合は5%の配点とし、期末試験を残り95%の配点とする。ただし、授業および試験時の態度等に問題があった場合は成績評価対象外とすることがある。								
フィードバックの内容	課題や小テストに関する内容等について講評、解説を行う。								
教科書									
指定図書									
参考書	『都市計画の世界史』日端康雄 (講談社) 2008								
教員からのお知らせ	参考資料等は適宜指示する。								
オフィスアワー	本講義に関する質問・相談は、原則として学部学科にて定めるオフィスアワーにて受け付ける。								
アクティブラーニングの内容	授業中に簡単な確認テスト等を実施し、その結果のフィードバック・振り返りを行う。								
その他									

講義コード	12C0102201	授業形態	講義	抽選の有無	なし	担当教員	櫻井 一宏	開講期	第2期
科目名	都市環境特論 2				櫻井 一宏			第2期	
履修前提条件					備考				
授業の目的	本講義では、都市と環境の関係をモデル化し、都市経済活動による環境への影響を定量的に分析することを目的とする。環境問題のメカニズムを理解し、都市の経済活動とそれらから発生する環境負荷物質をデータによって表すことで、環境的な影響を定量的に分析する。実際の環境問題や環境政策について学び、定量的な考え方がどのように活かされているかを考察する。								
到達目標	都市と環境を定量的に捉え、環境問題のメカニズムを理解することができる。都市と環境のデータ分析を行い、経済活動による環境影響、さらには環境政策の政策効果などについて定量的な見方で考察することができる。また、モデル分析を参考にして、実際の環境政策の評価を行い、望ましい政策について検討することができる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	授業時に作成したノートをもとにして、当該内容についての確認および理解を深めるための復習を必要とする。また、参考資料やインターネット等を用いて関連する内容についての自主学習を行うことを推奨する。以上の復習および自主学習のために計60時間以上の授業外学修を実施すること。適宜、授業内容に沿って関連する課題を与える場合がある。								
授業計画	【第1回】 イントロダクション 【第2回】 都市空間と都市環境 【第3回】 モデル分析とは 【第4回】 産業立地 【第5回】 都市・地域モデル 【第6回】 都市・地域の経済活動 【第7回】 都市と環境 【第8回】 環境問題と定量的評価 【第9回】 都市と環境のシステムモデル (1) 【第10回】 都市と環境のシステムモデル (2) 【第11回】 経済指標 【第12回】 環境指標 【第12回】 実際の環境問題 【第13回】 環境政策とは 【第14回】 環境政策の実際 【第15回】 まとめ								
成績評価の方法	原則として期末試験 (100%) で評価する。課題提出・小テスト等を実施した場合は5%の配点とし、期末試験を残り95%の配点とする。ただし、授業および試験時の態度等に問題があった場合は成績評価対象外とすることがある。								
フィードバックの内容	課題や小テストに関する内容等について講評、解説を行う。								
教科書									
指定図書									
参考書	『河川汚濁のモデル解析』国松孝男・村岡浩爾 (技報堂出版) 1989、『ノンポイント汚染源のモデル解析』和田安彦 (技報堂出版) 1990								
教員からのお知らせ	参考資料等は適宜指示する。								
オフィスアワー	本講義に関する質問・相談は、原則として学部学科にて定めるオフィスアワーにて受け付ける。								
アクティブラーニングの内容	授業中に簡単な確認テスト等を実施し、その結果のフィードバック・振り返りを行う。								
その他									

講義コード	12C0102501	授業形態	講義	抽選の有無	なし	担当教員	中村 宗之	開講期	第1期																
科目名	マルクス経済学特論1				中村 宗之		第1期																		
履修前提条件					備考																				
授業の目的	未来社会に関する K. マルクスや他の論者の構想を検討する。必要に応じてマルクス経済学の基本的内容を確認する。なお、本講義は博士後期課程「マルクス経済学特研1」との合同授業である。																								
到達目標	「マルクス経済学特論1」の到達目標： 未来社会に関する K. マルクスや他の論者の構想を説明できる。マルクス経済学の基本的内容を説明できる。 「マルクス経済学特研1」の到達目標： 未来社会に関する K. マルクスや他の論者の構想を説明できる。マルクス経済学の基本的内容を説明できる。未来社会について各自の考えに基づき論じることができる。																								
授業外学修内容・授業外学修時間数	「マルクス経済学特論1」の授業外学修内容・授業外学修時間数： 授業内容の予習や復習を行う。60時間以上の授業外学修を行う。 「マルクス経済学特研1」の授業外学修内容・授業外学修時間数： 授業内容の予習や復習を行う。考えをまとめるために、文章を書く。60時間以上の授業外学修を行う。																								
授業計画	<table border="0"> <tr> <td>【第1回】 ガイダンス</td> <td>【第9回】 教科書の検討と議論 (8)</td> </tr> <tr> <td>【第2回】 教科書の検討と議論 (1)</td> <td>【第10回】 教科書の検討と議論 (9)</td> </tr> <tr> <td>【第3回】 教科書の検討と議論 (2)</td> <td>【第11回】 教科書の検討と議論 (10)</td> </tr> <tr> <td>【第4回】 教科書の検討と議論 (3)</td> <td>【第12回】 参加者による報告 (1)</td> </tr> <tr> <td>【第5回】 教科書の検討と議論 (4)</td> <td>【第13回】 参加者による報告 (2)</td> </tr> <tr> <td>【第6回】 教科書の検討と議論 (5)</td> <td>【第14回】 参加者による報告 (3)</td> </tr> <tr> <td>【第7回】 教科書の検討と議論 (6)</td> <td>【第15回】 まとめ</td> </tr> <tr> <td>【第8回】 教科書の検討と議論 (7)</td> <td></td> </tr> </table>									【第1回】 ガイダンス	【第9回】 教科書の検討と議論 (8)	【第2回】 教科書の検討と議論 (1)	【第10回】 教科書の検討と議論 (9)	【第3回】 教科書の検討と議論 (2)	【第11回】 教科書の検討と議論 (10)	【第4回】 教科書の検討と議論 (3)	【第12回】 参加者による報告 (1)	【第5回】 教科書の検討と議論 (4)	【第13回】 参加者による報告 (2)	【第6回】 教科書の検討と議論 (5)	【第14回】 参加者による報告 (3)	【第7回】 教科書の検討と議論 (6)	【第15回】 まとめ	【第8回】 教科書の検討と議論 (7)	
【第1回】 ガイダンス	【第9回】 教科書の検討と議論 (8)																								
【第2回】 教科書の検討と議論 (1)	【第10回】 教科書の検討と議論 (9)																								
【第3回】 教科書の検討と議論 (2)	【第11回】 教科書の検討と議論 (10)																								
【第4回】 教科書の検討と議論 (3)	【第12回】 参加者による報告 (1)																								
【第5回】 教科書の検討と議論 (4)	【第13回】 参加者による報告 (2)																								
【第6回】 教科書の検討と議論 (5)	【第14回】 参加者による報告 (3)																								
【第7回】 教科書の検討と議論 (6)	【第15回】 まとめ																								
【第8回】 教科書の検討と議論 (7)																									
成績評価の方法	「マルクス経済学特論1」：授業への取り組み姿勢 (50%)、報告および提出レポートの内容 (50%) により評価する。 「マルクス経済学特研1」：授業への取り組み姿勢 (50%)、報告および提出論文の内容 (50%) により評価する。																								
フィードバックの内容	報告内容等に対するフィードバックは、その都度行う。																								
教科書																									
指定図書																									
参考書	『アナーキー・国家・ユートピア』ロバート・ノージック (木鐸社) 1995年、『民主主義と政治的無知』イリヤ・ソミン (信山社) 2016年、『離脱・発言・忠誠』A. O. ハーシュマン (ミネルヴァ書房) 2005年、『世界の多様性』エマニュエル・トッド (藤原書店) 2008年、『完訳 統治二論 (岩波文庫)』ジョン・ロック (岩波書店) 2010年、『国家と革命 (講談社学術文庫)』レーニン (講談社) 2011年、『国家民営化論』笠井潔 (光文社) 2000年、『これからの社会主義 - 市場社会主義の可能性』ジョン・ローマー (青木書店) 1997年、『資本主義経済の理論』伊藤誠 (岩波書店) 1989年、『現代の社会主義 (講談社学術文庫)』伊藤誠 (講談社) 1992年																								
教員からのお知らせ																									
オフィスアワー	本授業に関する質問や相談は、学部学科で定めるオフィスアワーにて受け付けます。Teams 等でも受け付けます。																								
アクティビティの内容	意見共有、教員からのフィードバックによる振り返り、能動的な授業外学習、プレゼンテーション																								
その他																									

講義コード	12C0102601	授業形態	講義	抽選の有無	なし	担当教員	中村 宗之	開講期	第2期																
科目名	マルクス経済学特論2				中村 宗之		第2期																		
履修前提条件					備考																				
授業の目的	未来社会に関する K. マルクスや他の論者の構想を検討する。必要に応じてマルクス経済学の基本的内容を確認する。なお、本講義は博士後期課程「マルクス経済学特研2」との合同授業である。																								
到達目標	「マルクス経済学特論2」の到達目標： 未来社会に関する K. マルクスや他の論者の構想を説明できる。マルクス経済学の基本的内容を説明できる。 「マルクス経済学特研2」の到達目標： 未来社会に関する K. マルクスや他の論者の構想を説明できる。マルクス経済学の基本的内容を説明できる。未来社会について各自の考えに基づき論じることができる。																								
授業外学修内容・授業外学修時間数	「マルクス経済学特論2」の授業外学修内容・授業外学修時間数： 授業内容の予習や復習を行う。60時間以上の授業外学修を行う。 「マルクス経済学特研2」の授業外学修内容・授業外学修時間数： 授業内容の予習や復習を行う。考えをまとめるために、文章を書く。60時間以上の授業外学修を行う。																								
授業計画	<table border="0"> <tr> <td>【第1回】 教科書の検討と議論 (1)</td> <td>【第9回】 教科書の検討と議論 (9)</td> </tr> <tr> <td>【第2回】 教科書の検討と議論 (2)</td> <td>【第10回】 教科書の検討と議論 (10)</td> </tr> <tr> <td>【第3回】 教科書の検討と議論 (3)</td> <td>【第11回】 教科書の検討と議論 (11)</td> </tr> <tr> <td>【第4回】 教科書の検討と議論 (4)</td> <td>【第12回】 参加者による報告 (1)</td> </tr> <tr> <td>【第5回】 教科書の検討と議論 (5)</td> <td>【第13回】 参加者による報告 (2)</td> </tr> <tr> <td>【第6回】 教科書の検討と議論 (6)</td> <td>【第14回】 参加者による報告 (3)</td> </tr> <tr> <td>【第7回】 教科書の検討と議論 (7)</td> <td>【第15回】 まとめ</td> </tr> <tr> <td>【第8回】 教科書の検討と議論 (8)</td> <td></td> </tr> </table>									【第1回】 教科書の検討と議論 (1)	【第9回】 教科書の検討と議論 (9)	【第2回】 教科書の検討と議論 (2)	【第10回】 教科書の検討と議論 (10)	【第3回】 教科書の検討と議論 (3)	【第11回】 教科書の検討と議論 (11)	【第4回】 教科書の検討と議論 (4)	【第12回】 参加者による報告 (1)	【第5回】 教科書の検討と議論 (5)	【第13回】 参加者による報告 (2)	【第6回】 教科書の検討と議論 (6)	【第14回】 参加者による報告 (3)	【第7回】 教科書の検討と議論 (7)	【第15回】 まとめ	【第8回】 教科書の検討と議論 (8)	
【第1回】 教科書の検討と議論 (1)	【第9回】 教科書の検討と議論 (9)																								
【第2回】 教科書の検討と議論 (2)	【第10回】 教科書の検討と議論 (10)																								
【第3回】 教科書の検討と議論 (3)	【第11回】 教科書の検討と議論 (11)																								
【第4回】 教科書の検討と議論 (4)	【第12回】 参加者による報告 (1)																								
【第5回】 教科書の検討と議論 (5)	【第13回】 参加者による報告 (2)																								
【第6回】 教科書の検討と議論 (6)	【第14回】 参加者による報告 (3)																								
【第7回】 教科書の検討と議論 (7)	【第15回】 まとめ																								
【第8回】 教科書の検討と議論 (8)																									
成績評価の方法	「マルクス経済学特論2」：授業への取り組み姿勢 (50%)、報告および提出レポートの内容 (50%) により評価する。 「マルクス経済学特研2」：授業への取り組み姿勢 (50%)、報告および提出論文の内容 (50%) により評価する。																								
フィードバックの内容	報告内容等に対するフィードバックは、その都度行う。																								
教科書																									
指定図書																									
参考書	『アナーキー・国家・ユートピア』ロバート・ノージック (木鐸社) 2014年、『民主主義と政治的無知』イリヤ・ソミン (信山社) 2016年、『離脱・発言・忠誠』A. O. ハーシュマン (ミネルヴァ書房) 2005年、『世界の多様性』エマニュエル・トッド (藤原書店) 2008年、『完訳 統治二論 (岩波文庫)』ジョン・ロック (岩波書店) 2010年、『国家と革命 (講談社学術文庫)』レーニン (講談社) 2011年、『国家民営化論』笠井潔 (光文社) 2000年、『これからの社会主義 - 市場社会主義の可能性』ジョン・ローマー (青木書店) 1997年、『資本主義経済の理論』伊藤誠 (岩波書店) 1989年、『現代の社会主義 (講談社学術文庫)』伊藤誠 (講談社) 1992年																								
教員からのお知らせ																									
オフィスアワー	本授業に関する質問や相談は、学部学科で定めるオフィスアワーにて受け付けます。Teams 等でも受け付けます。																								
アクティビティの内容	意見共有、教員からのフィードバックによる振り返り、能動的な授業外学習、プレゼンテーション																								
その他																									

講義コード	12C0102901	授業形態	講義	抽選の有無	なし	担当教員	王 ゼイ	開講期	第1期
科目名	マクロ経済学特論 1				王 ゼイ		第1期		
履修前提条件					備考				
授業の目的	この授業は大学院初級レベルのマクロ経済学について講義する。主に現代マクロ経済学の基本的な考え方、代表的な動学マクロ経済モデルについて学ぶ。								
到達目標	この授業では、以下の3点を到達目標とする。 ①現代マクロ経済学の基本的な考え方を理解すること。 ②代表的な動学マクロ経済モデルを習得すること。 ③簡単なマクロ経済モデルのシミュレーションができること。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	この科目では、授業時間外に、60時間以上の学修を行うことを必須とする。配布された講義資料と指定された参考書を参照しながら理解を深めて、各回の授業内容をしっかり予習・復習することは望ましい。なお、課題を出すことがあるので、必ず自分で考えて自力で解くようにしてください。								
授業計画	【第1回】 現代マクロ経済学の基本的な考え方 (1) 【第2回】 現代マクロ経済学の基本的な考え方 (2) 【第3回】 数学準備 (1) 【第4回】 数学準備 (2) 【第5回】 数学準備 (3) 【第6回】 ソローモデル (1) 【第7回】 ソローモデル (2) 【第8回】 ソローモデル (3)				【第9回】 ラムゼーモデル (1) 【第10回】 ラムゼーモデル (2) 【第11回】 ラムゼーモデル (3) 【第12回】 世帯重複モデル (1) 【第13回】 世帯重複モデル (2) 【第14回】 世帯重複モデル (3) 【第15回】 復習とまとめ				
成績評価の方法	小テスト (40%) と期末試験 (60%) で評価する。								
フィードバックの内容	この科目では、授業連絡用の Microsoft チームが立ち上げられ、履修者全員にチームに参加していただくことになっている。チームの参加方法は初回の授業時に説明する。事前に Microsoft Outlook と Teams のアプリを所持の端末にインストールしておいて、使用できるような状態にしてください。授業時間外では、授業に関するお知らせ、資料配布、フィードバック等はすべて Microsoft Teams を通じて行われる。課題の提出は WebClass を利用する。								
教科書									
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ	この科目は第2期の「マクロ経済学特論2」と合わせて履修することが望ましい。この科目では特定の教科書は使用せず、講義資料を配布し、その内容に沿ってパワーポイントと板書により、解説を行う。また、この科目の履修にあたって、ミクロ・マクロ経済学と経済数学関係の科目が履修済みであることは望ましい。質問・議論は大歓迎である。必要に応じて、ノートパソコンを持参していただくことがある。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部学科にて定めるオフィスアワーにて受け付けます。そのほかの時間帯に関しては、大学から付与された学籍番号付きの Microsoft 365のメールアドレスで予め教員と連絡してアポを取ってください。								
アクティブラーニングの内容	授業中、教員よりの意見共有や学生から意見発表を行ってもらい、問題の演習も行う。								
その他									

講義コード	12C0103001	授業形態	講義	抽選の有無	なし	担当教員	王 ゼイ	開講期	第2期
科目名	マクロ経済学特論 2				王 ゼイ		第2期		
履修前提条件					備考				
授業の目的	この授業は大学院初級レベルのマクロ経済学について講義する。主に現代マクロ経済学の基本的な考え方、代表的な動学マクロ経済モデルについて学ぶ。								
到達目標	この授業では、以下の3点を到達目標とする。 ①現代マクロ経済学の基本的な考え方を理解すること。 ②代表的な動学マクロ経済モデルを習得すること。 ③簡単なマクロ経済モデルのシミュレーションができること。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	この科目では、授業時間外に、60時間以上の学修を行うことを必須とする。配布された講義資料と指定された参考書を参照しながら理解を深めて、各回の授業内容をしっかり予習・復習することは望ましい。なお、課題を出すことがあるので、必ず自分で考えて自力で解くようにしてください。								
授業計画	【第1回】 リアルビジネスサイクルモデル (1) 【第2回】 リアルビジネスサイクルモデル (2) 【第3回】 リアルビジネスサイクルモデル (3) 【第4回】 リアルビジネスサイクルモデル (4) 【第5回】 ニューケインジアンモデル (1) 【第6回】 ニューケインジアンモデル (2) 【第7回】 ニューケインジアンモデル (3) 【第8回】 ニューケインジアンモデル (4)				【第9回】 失業のサーチ & マッチングモデル (1) 【第10回】 失業のサーチ & マッチングモデル (2) 【第11回】 失業のサーチ & マッチングモデル (3) 【第12回】 動学マクロ経済モデルの数値シミュレーション (1) 【第13回】 動学マクロ経済モデルの数値シミュレーション (2) 【第14回】 動学マクロ経済モデルの数値シミュレーション (3) 【第15回】 復習とまとめ				
成績評価の方法	小テスト (40%) と期末試験 (60%) で評価する。								
フィードバックの内容	この科目では、授業連絡用の Microsoft チームが立ち上げられ、履修者全員にチームに参加していただくことになっている。チームの参加方法は初回の授業時に説明する。事前に Microsoft Outlook と Teams のアプリを所持の端末にインストールしておいて、使用できるような状態にしてください。授業時間外では、授業に関するお知らせ、資料配布、フィードバック等はすべて Microsoft Teams を通じて行われる。課題の提出は WebClass を利用する。								
教科書									
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ	この科目は第1期の「マクロ経済学特論1」と合わせて履修することが望ましい。この科目では特定の教科書は使用せず、講義資料を配布し、その内容に沿ってパワーポイントと板書により、解説を行う。また、この科目の履修にあたって、ミクロ・マクロ経済学と経済数学関係の科目が履修済みであることは望ましい。質問・議論は大歓迎である。必要に応じて、ノートパソコンを持参していただくことがある。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部学科にて定めるオフィスアワーにて受け付けます。そのほかの時間帯に関しては、大学から付与された学籍番号付きの Microsoft 365のメールアドレスで予め教員と連絡してアポを取ってください。								
アクティブラーニングの内容	授業中、教員よりの意見共有や学生から意見発表を行ってもらい、問題の演習も行う。								
その他									

講義コード	12C0103101	授業形態	講義	抽選の有無	なし	担当教員	浅子 和美	開講期	第1期
科目名	マクロ経済学特論3				浅子 和美			第1期	
履修前提条件					備考				
授業の目的	ミクロ経済学、マクロ経済学、計量経済学の基礎知識をもつ大学院生を対象に、景気変動やマクロ経済政策全般をテーマとするが、本年度は特に「経済の持続可能性」及びその関連テーマを中心に、理論・実証両面から分析手法や分析結果の解釈等について、先行研究を例に取り上げ批判的に検討する。								
到達目標	景気変動やマクロ経済政策全般の問題点を把握し、課題解決の方向を理解し政策提言に至る。研究者としての視点から、課題解決や政策提言のための基本技法を応用し、学術論文を作成する。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	授業で指定されるリーディング・リストを読破するのに、相応の準備が必要となるが、それに積極的に取り組む必要がある(授業外学習時間は90時間)。								
授業計画	【第1回】履修者と相談の上でリーディング・リストを作成する(1) 【第2回】履修者と相談の上でリーディング・リストを作成する(2) 【第3回】テキスト論文を対象とし、その分析手法や分析結果を解説する(1) 【第4回】テキスト論文を対象とし、その分析手法や分析結果を解説する(2) 【第5回】テキスト論文を対象とし、その分析手法や分析結果を解説する(3) 【第6回】テキスト論文を対象とし、その分析手法や分析結果を解説する(4) 【第7回】テキスト論文を対象とし、その分析手法や分析結果を解説する(5) 【第8回】テキスト論文を対象とし、その分析手法や分析結果を解説する(6) 【第9回】テキスト論文を対象とし、その分析手法や分析結果を解説する(7) 【第10回】テキスト論文を対象とし、その分析手法や分析結果を解説する(8) 【第11回】テキスト論文を対象とし、その分析手法や分析結果を解説する(9) 【第12回】テキスト論文を対象とし、その分析手法や分析結果を解説する(10) 【第13回】テキスト論文を対象とし、その分析手法や分析結果を解説する(11) 【第14回】テキスト論文を対象とし、その分析手法や分析結果を解説する(12) 【第15回】テキスト論文を対象とし、その分析手法や分析結果を解説する(13) 【第3回】以降、各自は自分なりの分析手法の応用を念頭に、レポートなり学術論文の作成計画を練ること。								
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢(30%)と課題に対する学術論文の提出(70%)。未完でも可だが、それなりのクオリティが要求される。								
フィードバックの内容	レポートや学術論文には丁寧にコメントする。								
教科書									
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ									
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部学科にて定めるオフィスアワーにて受付ける。								
アクティブラーニングの内容									
その他									

講義コード	12C0103201	授業形態	講義	抽選の有無	なし	担当教員	浅子 和美	開講期	第2期
科目名	マクロ経済学特論4				浅子 和美			第2期	
履修前提条件					備考				
授業の目的	ミクロ経済学、マクロ経済学、計量経済学の基礎知識をもつ大学院生を対象に、景気変動やマクロ経済政策全般をテーマとするが、本年度は特に「経済の持続可能性」及びその関連テーマを中心に、理論・実証両面から分析手法や分析結果の解釈等について、先行研究を例に取り上げ批判的に検討する。								
到達目標	景気変動やマクロ経済政策全般の問題点を把握し、課題解決の方向を理解し政策提言に至る。研究者としての視点から、課題解決や政策提言のための基本技法を応用し、学術論文を作成する。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	授業で指定されるリーディング・リストを読破するのに、相応の準備が必要となるが、それに積極的に取り組む必要がある(授業外学習時間は90時間)。								
授業計画	【第1回】履修者と相談の上でリーディング・リストを作成する(1) 【第2回】履修者と相談の上でリーディング・リストを作成する(2) 【第3回】テキスト論文を対象とし、その分析手法や分析結果を解説する(1) 【第4回】テキスト論文を対象とし、その分析手法や分析結果を解説する(2) 【第5回】テキスト論文を対象とし、その分析手法や分析結果を解説する(3) 【第6回】テキスト論文を対象とし、その分析手法や分析結果を解説する(4) 【第7回】テキスト論文を対象とし、その分析手法や分析結果を解説する(5) 【第8回】テキスト論文を対象とし、その分析手法や分析結果を解説する(6) 【第9回】テキスト論文を対象とし、その分析手法や分析結果を解説する(7) 【第10回】テキスト論文を対象とし、その分析手法や分析結果を解説する(8) 【第11回】テキスト論文を対象とし、その分析手法や分析結果を解説する(9) 【第12回】テキスト論文を対象とし、その分析手法や分析結果を解説する(10) 【第13回】テキスト論文を対象とし、その分析手法や分析結果を解説する(11) 【第14回】テキスト論文を対象とし、その分析手法や分析結果を解説する(12) 【第15回】テキスト論文を対象とし、その分析手法や分析結果を解説する(13) 【第3回】以降、各自は自分なりの分析手法の応用を念頭に、レポートなり学術論文の作成計画を練ること。								
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢(30%)と課題に対する学術論文の提出(70%)。未完でも可だが、それなりのクオリティが要求される。								
フィードバックの内容	レポートや学術論文には丁寧にコメントする。								
教科書									
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ									
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部学科にて定めるオフィスアワーにて受付ける。								
アクティブラーニングの内容									
その他									

講義コード	12C0103301	授業形態	講義	抽選の有無	なし	担当教員		開講期	
科目名	ミクロ経済学特論 1				渡部 真弘		第1期		
履修前条件					備考				
授業の目的	本科目では、受講生が経済主体間の相互依存関係を分析するための手段としてのゲーム理論を学習し、経済問題の分析ツールとしてゲーム理論を用いることができるようになることが目的である。なお、本科目は博士後期課程「ミクロ経済学特研1」との合同授業でもある。								
到達目標	「ミクロ経済学特論1」の到達目標：ゲーム理論及びマーケット・デザインに関する知識・技能に基づき、文字式を用いた理論的分析が可能となる。 「ミクロ経済学特研1」の到達目標：ゲーム理論及びマーケット・デザインに関する知識・技能に基づき、文字式を用いた理論的分析が可能となる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	「ミクロ経済学特論1」の授業外学修内容・授業外学修時間：本科目では、授業開始時に実施する小テスト及び期末試験に向けた復習に取り組むために、週に少なくとも4時間（計60時間以上）の授業外学修が必要である。 「ミクロ経済学特研1」の授業外学修内容・授業外学修時間：本科目では、授業開始時に実施する小テスト及び期末試験に向けた復習に取り組むために、週に少なくとも4時間（計60時間以上）の授業外学修が必要である。								
授業計画	【第1回】 ガイダンス 【第2回】 標準型表現：囚人のジレンマ 【第3回】 標準型表現：最適反応とナッシュ均衡 【第4回】 標準型表現：社会的選好，囚人のジレンマの再考（1） 【第5回】 標準型表現：社会的選好，囚人のジレンマの再考（2） 【第6回】 標準型表現：支配される戦略の逐次的消去 【第7回】 標準型表現：弱く支配される戦略を含まないナッシュ均衡（1） 【第8回】 標準型表現：弱く支配される戦略を含まないナッシュ均衡（2） 【第9回】 標準型表現：弱く支配される戦略を含まないナッシュ均衡（3） 【第10回】 展開型表現：後ろ向き帰納法（1） 【第11回】 展開型表現：後ろ向き帰納法（2） 【第12回】 展開型表現：部分ゲーム完全均衡（1） 【第13回】 展開型表現：部分ゲーム完全均衡（2） 【第14回】 展開型表現：部分ゲーム完全均衡（3） 【第15回】 まとめ								
成績評価の方法	講義内容の理解度を確認するために、授業開始時に小テスト（授業第2回～授業第14回）を実施する。 「ミクロ経済学特論1」の評価割合：小テスト50%，期末試験50% 「ミクロ経済学特研1」の評価割合：小テスト50%，期末試験50%								
フィードバックの内容	「ミクロ経済学特論1」のフィードバックの内容：小テストの模範解答・採点結果を配布する。理解が不十分であると判断される内容を次回以降の授業時間内に補足する。 「ミクロ経済学特研1」のフィードバックの内容：小テストの模範解答・採点結果を配布する。理解が不十分であると判断される内容を次回以降の授業時間内に補足する。								
教科書 指定図書									
参考書	『An Introduction to Game Theory』 Martin J. Osborne (Oxford University Press) 2009, 『Game Theory (2nd Edition)』 Michael Maschler, Eilon Solan, Shmuel Zamir (Cambridge University Press) 2020								
教員からのお知らせ	小テストや期末試験は記述式であり、単語を選択するマークシートのような簡易なものではない。試験問題を事前に配布しない。単位数に見合った学修時間を確保するつもりがなければ履修すべきではない。								
オフィスアワー	オフィスアワー：木曜日3時限、2号館516研究室 連絡や資料配布は、Microsoft Teams を通じて行う。Microsoft Teams のチームに参加するためのチームコードを授業第1回のガイダンス時に共有する。								
アクティブラーニングの内容	教員からのフィードバックによる振り返り：小テストの全ての問題において、細分化された各採点項目に対する評価を返却することで、復習が十分ではない内容を学生に認識させる。								
その他									

講義コード	12C0103401	授業形態	講義	抽選の有無	なし	担当教員		開講期																	
科目名	ミクロ経済学特論2				渡部 真弘		第2期																		
履修前条件					備考																				
授業の目的	本科目では、受講生が経済主体間の相互依存関係を分析するための手段としてのゲーム理論を学習し、経済問題の分析ツールとしてゲーム理論を用いることができるようになることが目的である。なお、本科目は博士後期課程「ミクロ経済学特研2」との合同授業でもある。																								
到達目標	「ミクロ経済学特論2」の到達目標：ゲーム理論及びマーケット・デザインに関する知識・技能に基づき、文字式を用いた理論的分析が可能となる。 「ミクロ経済学特研2」の到達目標：ゲーム理論及びマーケット・デザインに関する知識・技能に基づき、文字式を用いた理論的分析が可能となる。																								
授業外学修内容・授業外学修時間数	「ミクロ経済学特論2」の授業外学修内容・授業外学修時間：本科目では、授業開始時に実施する小テスト及び期末試験に向けた復習に取り組むために、週に少なくとも4時間（計60時間以上）の授業外学修が必要である。 「ミクロ経済学特研2」の授業外学修内容・授業外学修時間：本科目では、授業開始時に実施する小テスト及び期末試験に向けた復習に取り組むために、週に少なくとも4時間（計60時間以上）の授業外学修が必要である。																								
授業計画	<table border="0"> <tr> <td>【第1回】ガイダンス</td> <td>【第9回】交互提案交渉（3）</td> </tr> <tr> <td>【第2回】完全ベイジアン均衡（1）</td> <td>【第10回】ナッシュ交渉解（1）</td> </tr> <tr> <td>【第3回】完全ベイジアン均衡（2）</td> <td>【第11回】ナッシュ交渉解（2）</td> </tr> <tr> <td>【第4回】完全ベイジアン均衡（3）</td> <td>【第12回】ナッシュ交渉解（3）</td> </tr> <tr> <td>【第5回】シグナリング（1）</td> <td>【第13回】シャプレー値、コア（1）</td> </tr> <tr> <td>【第6回】シグナリング（2）</td> <td>【第14回】シャプレー値、コア（2）</td> </tr> <tr> <td>【第7回】交互提案交渉（1）</td> <td>【第15回】まとめ</td> </tr> <tr> <td>【第8回】交互提案交渉（2）</td> <td></td> </tr> </table>									【第1回】ガイダンス	【第9回】交互提案交渉（3）	【第2回】完全ベイジアン均衡（1）	【第10回】ナッシュ交渉解（1）	【第3回】完全ベイジアン均衡（2）	【第11回】ナッシュ交渉解（2）	【第4回】完全ベイジアン均衡（3）	【第12回】ナッシュ交渉解（3）	【第5回】シグナリング（1）	【第13回】シャプレー値、コア（1）	【第6回】シグナリング（2）	【第14回】シャプレー値、コア（2）	【第7回】交互提案交渉（1）	【第15回】まとめ	【第8回】交互提案交渉（2）	
【第1回】ガイダンス	【第9回】交互提案交渉（3）																								
【第2回】完全ベイジアン均衡（1）	【第10回】ナッシュ交渉解（1）																								
【第3回】完全ベイジアン均衡（2）	【第11回】ナッシュ交渉解（2）																								
【第4回】完全ベイジアン均衡（3）	【第12回】ナッシュ交渉解（3）																								
【第5回】シグナリング（1）	【第13回】シャプレー値、コア（1）																								
【第6回】シグナリング（2）	【第14回】シャプレー値、コア（2）																								
【第7回】交互提案交渉（1）	【第15回】まとめ																								
【第8回】交互提案交渉（2）																									
成績評価の方法	講義内容の理解度を確認するために、授業開始時に小テスト（授業第2回～授業第14回）を実施する。 「ミクロ経済学特論2」の評価割合：小テスト50%、期末試験50% 「ミクロ経済学特研2」の評価割合：小テスト50%、期末試験50%																								
フィードバックの内容	「ミクロ経済学特論2」のフィードバックの内容：小テストの模範解答・採点結果を配布する。理解が不十分であると判断される内容を次回以降の授業時間内に補足する。 「ミクロ経済学特研2」のフィードバックの内容：小テストの模範解答・採点結果を配布する。理解が不十分であると判断される内容を次回以降の授業時間内に補足する。																								
教科書																									
指定図書																									
参考書	『An Introduction to Game Theory』 Martin J. Osborne (Oxford University Press) 2009、『Game Theory (2nd Edition)』 Michael Maschler, Eilon Solan, Shmuel Zamir (Cambridge University Press) 2020																								
教員からのお知らせ	小テストや期末試験は記述式であり、単語を選択するマークシートのような簡易なものではない。試験問題を事前に配布しない。単位数に見合った学修時間を確保するつもりがなければ履修すべきではない。																								
オフィスアワー	オフィスアワー：木曜日3時限、2号館516研究室 連絡や資料配布は、Microsoft Teamsを通じて行う。Microsoft Teamsのチームに参加するためのチームコードを授業第1回のガイダンス時に共有する。																								
アクティブラーニングの内容	教員からのフィードバックによる振り返り：小テストの全ての問題において、細分化された各採点項目に対する評価を返却することで、復習が十分ではない内容を学生に認識させる。																								
その他																									

講義コード	12C0103501	授業形態	講義	抽選の有無	なし	担当教員		開講期																	
科目名	ミクロ経済学特論3				小野崎 保		第1期																		
履修前提条件					備考																				
授業の目的	複雑に発達した現代の経済社会において生起する経済現象を理解するためには、ただデータなどを観察するだけでは不十分であり、それらの背後に共通して潜む論理を理解することが必要不可欠である。ミクロ経済学はこのような論理を読み解く上で重要な役割を果たす。本講義では、各自の研究に役立つようなミクロ経済学的分析手法について、文献輪読の形式で学ぶ。必要に応じて、関連するテーマとしてゲーム理論や産業組織論の内容などを扱うこともある。 なお、本講義は博士後期課程「ミクロ経済学特研3」との合同授業である。																								
到達目標	(1) 市場経済の仕組みを説明できる。 (2) 市場経済にまつわる政策問題を理解できる。 (3) 各自の研究テーマをミクロ経済学の視点から考えることができる。																								
授業外学修内容・授業外学修時間数	(1) レポーターを担当するしないに拘わらず、輪読文献を事前および事後に熟読すること。 (2) 授業内容に関連する練習問題に取り組むこと。 これらを併せて授業外に合計60時間以上の学習をおこなうこと。																								
授業計画	<table border="0"> <tr> <td>【第1回】 ガイダンス (授業の進め方、文献の選択など)</td> <td>【第9回】 文献の輪読および討論 (8)</td> </tr> <tr> <td>【第2回】 文献の輪読および討論 (1)</td> <td>【第10回】 文献の輪読および討論 (9)</td> </tr> <tr> <td>【第3回】 文献の輪読および討論 (2)</td> <td>【第11回】 文献の輪読および討論 (10)</td> </tr> <tr> <td>【第4回】 文献の輪読および討論 (3)</td> <td>【第12回】 文献の輪読および討論 (11)</td> </tr> <tr> <td>【第5回】 文献の輪読および討論 (4)</td> <td>【第13回】 文献の輪読および討論 (12)</td> </tr> <tr> <td>【第6回】 文献の輪読および討論 (5)</td> <td>【第14回】 文献の輪読および討論 (13)</td> </tr> <tr> <td>【第7回】 文献の輪読および討論 (6)</td> <td>【第15回】 文献の輪読および討論 (14)</td> </tr> <tr> <td>【第8回】 文献の輪読および討論 (7)</td> <td></td> </tr> </table>									【第1回】 ガイダンス (授業の進め方、文献の選択など)	【第9回】 文献の輪読および討論 (8)	【第2回】 文献の輪読および討論 (1)	【第10回】 文献の輪読および討論 (9)	【第3回】 文献の輪読および討論 (2)	【第11回】 文献の輪読および討論 (10)	【第4回】 文献の輪読および討論 (3)	【第12回】 文献の輪読および討論 (11)	【第5回】 文献の輪読および討論 (4)	【第13回】 文献の輪読および討論 (12)	【第6回】 文献の輪読および討論 (5)	【第14回】 文献の輪読および討論 (13)	【第7回】 文献の輪読および討論 (6)	【第15回】 文献の輪読および討論 (14)	【第8回】 文献の輪読および討論 (7)	
【第1回】 ガイダンス (授業の進め方、文献の選択など)	【第9回】 文献の輪読および討論 (8)																								
【第2回】 文献の輪読および討論 (1)	【第10回】 文献の輪読および討論 (9)																								
【第3回】 文献の輪読および討論 (2)	【第11回】 文献の輪読および討論 (10)																								
【第4回】 文献の輪読および討論 (3)	【第12回】 文献の輪読および討論 (11)																								
【第5回】 文献の輪読および討論 (4)	【第13回】 文献の輪読および討論 (12)																								
【第6回】 文献の輪読および討論 (5)	【第14回】 文献の輪読および討論 (13)																								
【第7回】 文献の輪読および討論 (6)	【第15回】 文献の輪読および討論 (14)																								
【第8回】 文献の輪読および討論 (7)																									
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢 (20%) および試験 (80%)																								
フィードバックの内容	文献輪読における発表の内容や方法について、随時口頭によりコメントする。																								
教科書																									
指定図書																									
参考書																									
教員からのお知らせ	教科書は履修生と相談して決める。 参考文献は、履修生の研究テーマに応じて適宜指示する。																								
オフィスアワー	メール (onozaki@ris.ac.jp) にて随時受け付ける。																								
アクティブラーニングの内容	教員からのフィードバックによる振り返り、ゼミナール、プレゼンテーション、ディベートなど																								
その他																									

講義コード	12C0103601	授業形態	講義	抽選の有無	なし	担当教員		開講期																	
科目名	ミクロ経済学特論4				小野崎 保		第2期																		
履修前提条件					備考																				
授業の目的	複雑に発達した現代の経済社会において生起する経済現象を理解するためには、ただデータなどを観察するだけでは不十分であり、それらの背後に共通して潜む論理を理解することが必要不可欠である。ミクロ経済学はこのような論理を読み解く上で重要な役割を果たす。本講義では、各自の研究に役立つようなミクロ経済学的分析手法について、文献輪読の形式で学ぶ。必要に応じて、関連するテーマとしてゲーム理論や産業組織論の内容などを扱うこともある。 なお、本講義は博士後期課程「ミクロ経済学特研4」との合同授業である。																								
到達目標	(1) 市場経済の仕組みを説明できる。 (2) 市場経済にまつわる政策問題を理解できる。 (3) 各自の研究テーマをミクロ経済学的に分析し、課題を見つけ政策提言をすることができる。																								
授業外学修内容・授業外学修時間数	(1) レポーターを担当するしないに拘わらず、輪読文献を事前および事後に熟読すること。 (2) 授業内容に関連する練習問題に取り組むこと。 これらを併せて授業外に合計60時間以上の学習をおこなうこと。																								
授業計画	<table border="0"> <tr> <td>【第1回】 ガイダンス (授業の進め方、文献の選択など)</td> <td>【第9回】 文献の輪読および討論 (8)</td> </tr> <tr> <td>【第2回】 文献の輪読および討論 (1)</td> <td>【第10回】 文献の輪読および討論 (9)</td> </tr> <tr> <td>【第3回】 文献の輪読および討論 (2)</td> <td>【第11回】 文献の輪読および討論 (10)</td> </tr> <tr> <td>【第4回】 文献の輪読および討論 (3)</td> <td>【第12回】 文献の輪読および討論 (11)</td> </tr> <tr> <td>【第5回】 文献の輪読および討論 (4)</td> <td>【第13回】 文献の輪読および討論 (12)</td> </tr> <tr> <td>【第6回】 文献の輪読および討論 (5)</td> <td>【第14回】 文献の輪読および討論 (13)</td> </tr> <tr> <td>【第7回】 文献の輪読および討論 (6)</td> <td>【第15回】 文献の輪読および討論 (14)</td> </tr> <tr> <td>【第8回】 文献の輪読および討論 (7)</td> <td></td> </tr> </table>									【第1回】 ガイダンス (授業の進め方、文献の選択など)	【第9回】 文献の輪読および討論 (8)	【第2回】 文献の輪読および討論 (1)	【第10回】 文献の輪読および討論 (9)	【第3回】 文献の輪読および討論 (2)	【第11回】 文献の輪読および討論 (10)	【第4回】 文献の輪読および討論 (3)	【第12回】 文献の輪読および討論 (11)	【第5回】 文献の輪読および討論 (4)	【第13回】 文献の輪読および討論 (12)	【第6回】 文献の輪読および討論 (5)	【第14回】 文献の輪読および討論 (13)	【第7回】 文献の輪読および討論 (6)	【第15回】 文献の輪読および討論 (14)	【第8回】 文献の輪読および討論 (7)	
【第1回】 ガイダンス (授業の進め方、文献の選択など)	【第9回】 文献の輪読および討論 (8)																								
【第2回】 文献の輪読および討論 (1)	【第10回】 文献の輪読および討論 (9)																								
【第3回】 文献の輪読および討論 (2)	【第11回】 文献の輪読および討論 (10)																								
【第4回】 文献の輪読および討論 (3)	【第12回】 文献の輪読および討論 (11)																								
【第5回】 文献の輪読および討論 (4)	【第13回】 文献の輪読および討論 (12)																								
【第6回】 文献の輪読および討論 (5)	【第14回】 文献の輪読および討論 (13)																								
【第7回】 文献の輪読および討論 (6)	【第15回】 文献の輪読および討論 (14)																								
【第8回】 文献の輪読および討論 (7)																									
成績評価の方法	「ミクロ経済学特論4」： 授業への取り組み姿勢 (20%) および試験 (80%)																								
フィードバックの内容	文献輪読における発表の内容や方法について、随時口頭によりコメントする。																								
教科書																									
指定図書																									
参考書																									
教員からのお知らせ	教科書は履修生と相談して決める。 参考文献は、履修生の研究テーマに応じて適宜指示する。																								
オフィスアワー	メール (onozaki@ris.ac.jp) にて随時受け付ける。																								
アクティブラーニングの内容	教員からのフィードバックによる振り返り、ゼミナール、プレゼンテーション、ディベートなど																								
その他																									

講義コード	12C0103901	授業形態	講義	抽選の有無	なし	担当教員	王 在喆	開講期	第1期																
科目名	経済統計学特論3				王 在喆			第1期																	
履修前提条件					備考																				
授業の目的	<p>一国の各家計は、いろいろな財やサービスを購入している。購入に必要とした所得は、主として企業から給料として得ている。このような所得等の経済循環をモデル化したものに、マクロ経済モデルがある。この授業では、マクロ経済モデルより、生産部門を分割し、より一層、経済構造の分析に適した産業連関モデルを取り上げる。最初に分析手法と経済データについて学習し、その上で、日本経済や中国経済などを対象にした理論的・実証的分析を学習する。産業連関表のデータとコンピュータソフト、例えば、EXCEL などを使って数量分析に興味を持ち、授業に継続的に出席することができる受講生の履修が望ましい。</p> <p>本講義は修士課程院生と博士後期課程の院生との合同授業である。修士課程の受講生は産業連関分析理論と産業連関分析手法の習得に力点を置くことが望ましいが、博士後期課程の受講生は、むしろ本講義で勉強した産業連関分析の知識を如何にして自分の研究に応用させるかに力点を置くことが望まれる。</p>																								
到達目標	<p>受講生は産業連関表によって表現される生産、分配、支出の経済循環の意味をよく理解することができる。また、EXCELの関数式を使って行列の演算が行えるようになる。</p>																								
授業外学修内容・授業外学修時間数	<p>①経済社会の産業構造とその時系列変化を学習すること。 ②産業連関表の概念や構造などについて学習すること。 ③産業連関分析モデルを使った具体的な経済分析を学習すること。 授業外学修時間は180時間以上が必要である。</p>																								
授業計画	<table border="0"> <tr> <td>【第1回】 経済循環とモデル分析①</td> <td>【第9回】 Excel を使ってベクトル・行列の計算①</td> </tr> <tr> <td>【第2回】 経済循環とモデル分析②</td> <td>【第10回】 Excel を使ってベクトル・行列の計算②掛け算</td> </tr> <tr> <td>【第3回】 社会会計①</td> <td>【第11回】 Excel を使ってベクトル・行列の計算③逆行列</td> </tr> <tr> <td>【第4回】 社会会計②</td> <td>【第12回】 Excel を使ってベクトル・行列の計算④連立方程式の解法</td> </tr> <tr> <td>【第5回】 産業連関表①見方</td> <td>【第13回】 生産量決定モデル①</td> </tr> <tr> <td>【第6回】 産業連関表②基本構造</td> <td>【第14回】 生産量決定モデル②</td> </tr> <tr> <td>【第7回】 産業連関表③使い方</td> <td>【第15回】 生産量決定モデル③</td> </tr> <tr> <td>【第8回】 産業連関表④総括</td> <td></td> </tr> </table>									【第1回】 経済循環とモデル分析①	【第9回】 Excel を使ってベクトル・行列の計算①	【第2回】 経済循環とモデル分析②	【第10回】 Excel を使ってベクトル・行列の計算②掛け算	【第3回】 社会会計①	【第11回】 Excel を使ってベクトル・行列の計算③逆行列	【第4回】 社会会計②	【第12回】 Excel を使ってベクトル・行列の計算④連立方程式の解法	【第5回】 産業連関表①見方	【第13回】 生産量決定モデル①	【第6回】 産業連関表②基本構造	【第14回】 生産量決定モデル②	【第7回】 産業連関表③使い方	【第15回】 生産量決定モデル③	【第8回】 産業連関表④総括	
【第1回】 経済循環とモデル分析①	【第9回】 Excel を使ってベクトル・行列の計算①																								
【第2回】 経済循環とモデル分析②	【第10回】 Excel を使ってベクトル・行列の計算②掛け算																								
【第3回】 社会会計①	【第11回】 Excel を使ってベクトル・行列の計算③逆行列																								
【第4回】 社会会計②	【第12回】 Excel を使ってベクトル・行列の計算④連立方程式の解法																								
【第5回】 産業連関表①見方	【第13回】 生産量決定モデル①																								
【第6回】 産業連関表②基本構造	【第14回】 生産量決定モデル②																								
【第7回】 産業連関表③使い方	【第15回】 生産量決定モデル③																								
【第8回】 産業連関表④総括																									
成績評価の方法	<p>修士課程受講生：授業への取り組み30%、授業内発表40%、レポート（1回）30%。 博士後期課程受講生：授業への取り組み30%、研究報告70%。</p>																								
フィードバックの内容	<p>授業内外で学習と研究について適宜に指導を行う。</p>																								
教科書																									
指定図書																									
参考書	<p>『産業連関分析入門』藤川清史（日本評論社）2005、『日本の産業構造』尾崎 巖（慶応義塾大学出版会）2004、『産業連関分析ハンドブック』宍戸俊太郎監修 環太平洋産業連関分析学会編（東洋経済新報社）2010</p>																								
教員からのお知らせ																									
オフィスアワー	<p>時間：水曜日6限目（18：00-19：30） 場所：2号棟511研究室（5月末まではネットで行うこと；事前にメールで予約すること）。</p>																								
アクティブラーニングの内容																									
その他																									

講義コード	12C0104001	授業形態	講義	抽選の有無	なし	担当教員	王 在喆	開講期	第2期																
科目名	経済統計学特論4				王 在喆			第2期																	
履修前提条件					備考																				
授業の目的	<p>一国の各家計は、いろいろな財やサービスを購入している。購入に必要とした所得は、主として企業から給料として得ている。このような所得等の経済循環をモデル化したものに、マクロ経済モデルがある。この授業では、マクロ経済モデルより、生産部門を分割し、より一層、経済構造の分析に適した産業連関モデルを取り上げる。最初に分析手法と経済データについて復習した上で、日本経済や中国経済などを対象にした理論的・実証的分析を学習する。産業連関表のデータとコンピュータソフト、例えば、EXCEL などを使って数量分析に興味を持ち、授業に継続的に出席することができる受講生の履修が望ましい。</p> <p>本講義は修士課程院生と博士後期課程の院生との合同授業である。修士課程の受講生は産業連関分析理論と産業連関分析手法の習得に力点を置くことが望ましいが、博士後期課程の受講生は、むしろ本講義で勉強した産業連関分析の知識を如何にして自分の研究に応用させるかに力点を置くことが望まれる。</p>																								
到達目標	<p>受講生は産業連関表によって表現される生産、分配、支出の経済循環の意味をよく理解することができる。また産業連関表を使って一国あるいは一地域の産業構造の姿を数値的に分析するようになる。</p>																								
授業外学修内容・授業外学修時間数	<p>①経済社会の産業構造とその時系列変化を学習すること。 ②産業連関表の概念や構造などについて学習すること。 ③産業連関分析モデルを使った具体的な経済分析を学習すること。 授業外学修時間は180時間以上が必要である。</p>																								
授業計画	<table border="0"> <tr> <td>【第1回】 生産量決定モデル④輸入外生化</td> <td>【第9回】 産業連関分析の実際④</td> </tr> <tr> <td>【第2回】 生産量決定モデル⑤輸入内生化</td> <td>【第10回】 産業連関分析の応用①</td> </tr> <tr> <td>【第3回】 価格モデル①</td> <td>【第11回】 産業連関分析の応用②</td> </tr> <tr> <td>【第4回】 価格モデル②</td> <td>【第12回】 産業連関分析の応用③各自テーマ別事例分析</td> </tr> <tr> <td>【第5回】 価格モデル③</td> <td>【第13回】 産業連関分析の応用④各自テーマ別事例分析</td> </tr> <tr> <td>【第6回】 産業連関分析の実際①</td> <td>【第14回】 産業連関分析の応用⑤各自テーマ別事例分析</td> </tr> <tr> <td>【第7回】 産業連関分析の実際②</td> <td>【第15回】 一般均衡モデルの展開</td> </tr> <tr> <td>【第8回】 産業連関分析の実際③</td> <td></td> </tr> </table>									【第1回】 生産量決定モデル④輸入外生化	【第9回】 産業連関分析の実際④	【第2回】 生産量決定モデル⑤輸入内生化	【第10回】 産業連関分析の応用①	【第3回】 価格モデル①	【第11回】 産業連関分析の応用②	【第4回】 価格モデル②	【第12回】 産業連関分析の応用③各自テーマ別事例分析	【第5回】 価格モデル③	【第13回】 産業連関分析の応用④各自テーマ別事例分析	【第6回】 産業連関分析の実際①	【第14回】 産業連関分析の応用⑤各自テーマ別事例分析	【第7回】 産業連関分析の実際②	【第15回】 一般均衡モデルの展開	【第8回】 産業連関分析の実際③	
【第1回】 生産量決定モデル④輸入外生化	【第9回】 産業連関分析の実際④																								
【第2回】 生産量決定モデル⑤輸入内生化	【第10回】 産業連関分析の応用①																								
【第3回】 価格モデル①	【第11回】 産業連関分析の応用②																								
【第4回】 価格モデル②	【第12回】 産業連関分析の応用③各自テーマ別事例分析																								
【第5回】 価格モデル③	【第13回】 産業連関分析の応用④各自テーマ別事例分析																								
【第6回】 産業連関分析の実際①	【第14回】 産業連関分析の応用⑤各自テーマ別事例分析																								
【第7回】 産業連関分析の実際②	【第15回】 一般均衡モデルの展開																								
【第8回】 産業連関分析の実際③																									
成績評価の方法	<p>修士課程受講生：授業への取り組み30%、授業内発表40%、レポート（1回）30%。 博士後期課程受講生：授業への取り組み30%、研究報告70%。</p>																								
フィードバックの内容	<p>授業内外で学習と研究について適宜に指導を行う。</p>																								
教科書																									
指定図書																									
参考書	<p>『産業連関分析入門』藤川清史（日本評論社）2005、『日本の産業構造』尾崎 巖（慶応義塾大学出版会）2004、『産業連関分析ハンドブック』宍戸俊太郎監修 環太平洋産業連関分析学会編（東洋経済新報社）2010</p>																								
教員からのお知らせ																									
オフィスアワー	<p>時間：水曜日6限目（18：00-19：30）、オンラインで（事前にメールで予約すること）。</p>																								
アクティブラーニングの内容																									
その他																									

講義コード	12C0104101	授業形態	講義	抽選の有無	なし	担当教員	浅子 和美	開講期	第1期
科目名	景気循環論特論 1					浅子 和美		第1期	
履修前条件						備考			
授業の目的	ミクロ経済学、マクロ経済学、計量経済学の基礎知識をもつ大学院生を対象に、景気循環全般をテーマとするが、本年度は特に「景気循環・経済成長と持続可能な経済発展」及びその関連テーマを中心に、理論・実証両面から分析手法や分析結果の解釈等について、先行研究を例に取り上げ批判的に検討する。 なお、本講義は博士後期課程「景気循環論特研1」との合同授業でもある。								
到達目標	「景気循環論特論1」の到達目標 景気循環の理論・歴史や現状の問題点を把握し、課題解決の方向を理解する。 課題解決や政策提言のための基本技法を修得し、レポート等を作成する。 「景気循環論特研1」の到達目標 景気循環の理論・歴史や現状の問題点を把握し、課題解決の方向を理解し、政策提言に至る。 研究者としての視点から、課題解決や政策提言のための基本技法を応用し、学術論文を作成する。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	授業で指定されるリーディング・リストを読むのに、相応の準備が必要となるが、それに積極的に取り組む必要がある（「景気循環論特論1」では60時間、「景気循環論特研1」では90時間）。								
授業計画	【第1回】履修者が確定した段階で、履修者の希望に合わせたリーディング・リストを作成し、それに合わせた授業計画を立てる。その目的で、各自の希望を話してもらう。(1) 【第2回】履修者が確定した段階で、履修者の希望に合わせたリーディング・リストを作成し、それに合わせた授業計画を立てる。その目的で、各自の希望を話してもらう。(2) 【第3回】順次、取り上げるテキスト論文を対象に、それぞれの分析手法や分析結果を解説し、問題点や発展方向を示す。この際、各自は自分なりの分析手法の応用を念頭に、レポートなり学術論文の作成計画を練る。(1) 【第4回】順次、取り上げるテキスト論文を対象に、それぞれの分析手法や分析結果を解説し、問題点や発展方向を示す。この際、各自は自分なりの分析手法の応用を念頭に、レポートなり学術論文の作成計画を練る。(2) 【第5回】順次、取り上げるテキスト論文を対象に、それぞれの分析手法や分析結果を解説し、問題点や発展方向を示す。この際、各自は自分なりの分析手法の応用を念頭に、レポートなり学術論文の作成計画を練る。(3) 【第6回】順次、取り上げるテキスト論文を対象に、それぞれの分析手法や分析結果を解説し、問題点や発展方向を示す。この際、各自は自分なりの分析手法の応用を念頭に、レポートなり学術論文の作成計画を練る。(4) 【第7回】順次、取り上げるテキスト論文を対象に、それぞれの分析手法や分析結果を解説し、問題点や発展方向を示す。この際、各自は自分なりの分析手法の応用を念頭に、レポートなり学術論文の作成計画を練る。(5) 【第8回】順次、取り上げるテキスト論文を対象に、それぞれの分析手法や分析結果を解説し、問題点や発展方向を示す。この際、各自は自分なりの分析手法の応用を念頭に、レポートなり学術論文の作成計画を練る。(6) 【第9回】順次、取り上げるテキスト論文を対象に、それぞれの分析手法や分析結果を解説し、問題点や発展方向を示す。この際、各自は自分なりの分析手法の応用を念頭に、レポートなり学術論文の作成計画を練る。(7) 【第10回】順次、取り上げるテキスト論文を対象に、それぞれの分析手法や分析結果を解説し、問題点や発展方向を示す。この際、各自は自分なりの分析手法の応用を念頭に、レポートなり学術論文の作成計画を練る。(8) 【第11回】順次、取り上げるテキスト論文を対象に、それぞれの分析手法や分析結果を解説し、問題点や発展方向を示す。この際、各自は自分なりの分析手法の応用を念頭に、レポートなり学術論文の作成計画を練る。(9) 【第12回】順次、取り上げるテキスト論文を対象に、それぞれの分析手法や分析結果を解説し、問題点や発展方向を示す。この際、各自は自分なりの分析手法の応用を念頭に、レポートなり学術論文の作成計画を練る。(10) 【第13回】順次、取り上げるテキスト論文を対象に、それぞれの分析手法や分析結果を解説し、問題点や発展方向を示す。この際、各自は自分なりの分析手法の応用を念頭に、レポートなり学術論文の作成計画を練る。(11) 【第14回】順次、取り上げるテキスト論文を対象に、それぞれの分析手法や分析結果を解説し、問題点や発展方向を示す。この際、各自は自分なりの分析手法の応用を念頭に、レポートなり学術論文の作成計画を練る。(12) 【第15回】順次、取り上げるテキスト論文を対象に、それぞれの分析手法や分析結果を解説し、問題点や発展方向を示す。この際、各自は自分なりの分析手法の応用を念頭に、レポートなり学術論文の作成計画を練る。(13)								
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢 (30%) と課題に対するレポート提出 (70%)。								
フィードバックの内容	レポートや学術論文には丁寧にコメントする。								
教科書									
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ									
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部学科にて定めるオフィスアワーにて受付ける。								
アクティブラーニングの内容									
その他									

講義コード	12C0104201	授業形態	講義	抽選の有無	なし	担当教員	浅子 和美	開講期	第2期
科目名	景気循環論特論2								
履修前条件					備考				
授業の目的	ミクロ経済学、マクロ経済学、計量経済学の基礎知識をもつ大学院生を対象に、景気循環全般をテーマとするが、本年度は特に「景気循環・経済成長と持続可能性」及びその関連テーマを中心に、理論・実証両面から分析手法や分析結果の解釈等について、先行研究を例に取り上げ批判的に検討する。 なお、本講義は博士後期課程「景気循環論特研2」との合同授業でもある。								
到達目標	「景気循環論特論2」の到達目標 景気循環の理論・歴史や現状の問題点を把握し、課題解決の方向を理解する。 課題解決や政策提言のための基本技法を修得し、レポート等を作成する。 「景気循環論特研2」の到達目標 景気循環の理論・歴史や現状の問題点を把握し、課題解決の方向を理解し、政策提言に至る。 研究者としての視点から、課題解決や政策提言のための基本技法を応用し、学術論文を作成する。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	授業で指定されるリーディング・リストを読むのに、相応の準備が必要となるが、それに積極的に取り組む必要がある（「景気循環論特論2」では60時間、「景気循環論特研2」では90時間）。								
授業計画	【第1回】履修者が確定した段階で、履修者の希望に合わせたリーディング・リストを作成し、それに合わせた授業計画を立てる。その目的で、各自の希望を話してもらう。(1) 【第2回】履修者が確定した段階で、履修者の希望に合わせたリーディング・リストを作成し、それに合わせた授業計画を立てる。その目的で、各自の希望を話してもらう。(2) 【第3回】順次、取り上げるテキスト論文を対象に、それぞれの分析手法や分析結果を解説し、問題点や発展方向を示す。この際、各自は自分なりの分析手法の応用を念頭に、レポートなり学術論文の作成計画を練る。(1) 【第4回】順次、取り上げるテキスト論文を対象に、それぞれの分析手法や分析結果を解説し、問題点や発展方向を示す。この際、各自は自分なりの分析手法の応用を念頭に、レポートなり学術論文の作成計画を練る。(2) 【第5回】順次、取り上げるテキスト論文を対象に、それぞれの分析手法や分析結果を解説し、問題点や発展方向を示す。この際、各自は自分なりの分析手法の応用を念頭に、レポートなり学術論文の作成計画を練る。(3) 【第6回】順次、取り上げるテキスト論文を対象に、それぞれの分析手法や分析結果を解説し、問題点や発展方向を示す。この際、各自は自分なりの分析手法の応用を念頭に、レポートなり学術論文の作成計画を練る。(4) 【第7回】順次、取り上げるテキスト論文を対象に、それぞれの分析手法や分析結果を解説し、問題点や発展方向を示す。この際、各自は自分なりの分析手法の応用を念頭に、レポートなり学術論文の作成計画を練る。(5) 【第8回】順次、取り上げるテキスト論文を対象に、それぞれの分析手法や分析結果を解説し、問題点や発展方向を示す。この際、各自は自分なりの分析手法の応用を念頭に、レポートなり学術論文の作成計画を練る。(6) 【第9回】順次、取り上げるテキスト論文を対象に、それぞれの分析手法や分析結果を解説し、問題点や発展方向を示す。この際、各自は自分なりの分析手法の応用を念頭に、レポートなり学術論文の作成計画を練る。(7) 【第10回】順次、取り上げるテキスト論文を対象に、それぞれの分析手法や分析結果を解説し、問題点や発展方向を示す。この際、各自は自分なりの分析手法の応用を念頭に、レポートなり学術論文の作成計画を練る。(8) 【第11回】順次、取り上げるテキスト論文を対象に、それぞれの分析手法や分析結果を解説し、問題点や発展方向を示す。この際、各自は自分なりの分析手法の応用を念頭に、レポートなり学術論文の作成計画を練る。(9) 【第12回】順次、取り上げるテキスト論文を対象に、それぞれの分析手法や分析結果を解説し、問題点や発展方向を示す。この際、各自は自分なりの分析手法の応用を念頭に、レポートなり学術論文の作成計画を練る。(10) 【第13回】順次、取り上げるテキスト論文を対象に、それぞれの分析手法や分析結果を解説し、問題点や発展方向を示す。この際、各自は自分なりの分析手法の応用を念頭に、レポートなり学術論文の作成計画を練る。(11) 【第14回】順次、取り上げるテキスト論文を対象に、それぞれの分析手法や分析結果を解説し、問題点や発展方向を示す。この際、各自は自分なりの分析手法の応用を念頭に、レポートなり学術論文の作成計画を練る。(12) 【第15回】順次、取り上げるテキスト論文を対象に、それぞれの分析手法や分析結果を解説し、問題点や発展方向を示す。この際、各自は自分なりの分析手法の応用を念頭に、レポートなり学術論文の作成計画を練る。(13)								
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢 (30%) と課題に対するレポート提出 (70%)								
フィードバックの内容	レポートや学術論文には丁寧にコメントする。								
教科書									
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ									
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部学科にて定めるオフィスアワーにて受付ける。								
アクティブラーニングの内容									
その他									

講義コード	12C0104501	授業形態	講義	抽選の有無	なし	担当教員	開講期
科目名	金融論特論1				林 康史		第1期
履修前条件					備考		
授業の目的	金融論が取り扱う分野の重要性が増し、金融・証券分野が全人類・汎地球規模で重要になっている。そうした中で、株式・証券市場に関する文献【Stocks for the Long Run (6th edition)】を輪読し、討議する授業とする。 ※ この授業は、修士・博士後期両課程合同で実施する。						
到達目標	株式・証券市場の機能・構造を理解し、その歴史的展開を説明できることである。						
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	授業外学修時間数は、60時間以上。						
授業計画	Stocks for the Long Run (6th edition) の前半を翻訳し、講読する。 【第1回】 第1章 【第2回】 第2章 【第3回】 第3章 【第4回】 第4章 【第5回】 第5章 【第6回】 第6章 【第7回】 第7章 【第8回】 第8章 【第9回】 第9章 【第10回】 第10章 【第11回】 第11章 【第12回】 第12章 【第13回】 第13章 【第14回】 第14章 【第15回】 総括						
成績評価の方法	報告・研究発表（レポートの提出を求める場合もある）・討議の内容に基づき、総合的に評価（予定）。						
フィードバックの内容	随時行う（「Q&A」等を順次ウェブにアップする）。						
教科書	『Stocks for the Long Run (6th edition)』 Jeremy J. Siegel (McGraw Hill) 2022年						
指定図書							
参考書							
教員からのお知らせ	授業計画等は、受講人数によって若干の変更がありうる。また、学外・学部にも聴講を許可する場合がある（受講資格等は別途、案内する）。						
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、メールまたは電話で受付ける。						
アクティブラーニングの内容							
その他							

講義コード	12C0104601	授業形態	講義	抽選の有無	なし	担当教員	開講期
科目名	金融論特論2				林 康史		第2期
履修前条件					備考		
授業の目的	金融論が取り扱う分野の重要性が増し、金融・証券分野が全人類・汎地球規模で重要になっている。そうした中で、株式・証券市場に関する文献【Stocks for the Long Run (6th edition)】を輪読し、討議する授業とする。 ※ この授業は、修士・博士後期両課程合同で実施する。						
到達目標	株式・証券市場の機能・構造を理解し、その歴史的展開を説明できることである。						
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	授業外学修時間数は、60時間以上。						
授業計画	Stocks for the Long Run (6th edition) の後半を翻訳し、講読する。 【第1回】 第15章 【第2回】 第16章 【第3回】 第17章 【第4回】 第18章 【第5回】 第19章 【第6回】 第20章 【第7回】 第21章 【第8回】 第22章 【第9回】 第23章 【第10回】 第24章 【第11回】 第25章 【第12回】 第26章 【第13回】 第27章 【第14回】 第28章 【第15回】 総括						
成績評価の方法	報告・研究発表（レポートの提出を求める場合もある）・討議の内容に基づき、総合的に評価（予定）。						
フィードバックの内容	随時行う（「Q&A」等を順次ウェブにアップする）。						
教科書	『Stocks for the Long Run (6th edition)』 Jeremy J. Siegel (McGraw Hill) 2022年						
指定図書							
参考書							
教員からのお知らせ	授業計画等は、受講人数によって若干の変更がありうる。また、学外・学部にも聴講を許可する場合がある（受講資格等は別途、案内する）。						
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、メールまたは電話で受付ける。						
アクティブラーニングの内容							
その他							

講義コード	12C0105501	授業形態	講義	抽選の有無	なし	担当教員	河原 伸哉	開講期	第1期
科目名	国際経済学特論3				河原 伸哉			第1期	
履修前提条件					備考				
授業の目的	国際貿易論における理論的・実証的テーマについて、主に出席者の発表を中心にして議論する。授業は修士課程「国際経済学特論3」と博士後期課程「国際経済学特研3」を合同で実施する。								
到達目標	修士： (1) 国際貿易論の基礎的概念を理解している (2) 基礎的概念を用いて国際貿易に関する現実の諸問題を説明できる 博士後期： (1) 国際貿易論の基礎的概念を理解している (2) 基礎的概念を用いて国際貿易に関する現実の諸問題を説明できる (3) 国際貿易論の分野における最近の理論的・実証的研究を批判的に検討できる								
授業外学修内容・授業外学修時間数	修士：各回の授業で扱うトピックについて、参考書の該当部分を読み予習を行うこと。授業後は配付資料を用いて復習を行うこと。上記の予習・復習など授業外に計60時間以上の学修を行うこと。 博士後期：各回の授業で扱うトピックについて、参考書の該当部分および文献リストの論文を読み予習を行うこと。授業後は論文・配付資料を用いて復習を行うこと。上記の予習・復習など授業外に計60時間以上の学修を行うこと。								
授業計画	初回授業時に指定した教科書について輪読形式で学ぶ。適宜、国際貿易論分野の学術論文についても取り上げる。 【第1回】 イントロダクション 【第9回】 教科書の発表と討論8 【第2回】 教科書の発表と討論1 【第10回】 教科書の発表と討論9 【第3回】 教科書の発表と討論2 【第11回】 教科書の発表と討論10 【第4回】 教科書の発表と討論3 【第12回】 教科書の発表と討論11 【第5回】 教科書の発表と討論4 【第13回】 教科書の発表と討論12 【第6回】 教科書の発表と討論5 【第14回】 教科書の発表と討論13 【第7回】 教科書の発表と討論6 【第15回】 まとめ 【第8回】 教科書の発表と討論7								
成績評価の方法	修士：平常点(30%)、発表(30%)、レポート(40%)により成績を評価する。 博士後期：平常点(20%)、発表(20%)、レポート(40%)に加えて、研究報告(20%)により成績を評価する。								
フィードバックの内容	課題や報告に対するコメントを授業時に行う。								
教科書									
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ	使用する教科書については、初回授業時に協議の上、決定する。指定図書・参考書は初回授業時に提示する。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、研究科にて定めるオフィスアワーにて受け付ける。								
アクティブラーニングの内容	プレゼンテーション								
その他									

講義コード	12C0105601	授業形態	講義	抽選の有無	なし	担当教員	河原 伸哉	開講期	第2期
科目名	国際経済学特論4				河原 伸哉			第2期	
履修前提条件					備考				
授業の目的	国際貿易論における理論的・実証的テーマについて、主に出席者の発表を中心にして議論する。授業は修士課程「国際経済学特論4」と博士後期課程「国際経済学特研4」を合同で実施する。								
到達目標	修士： (1) 国際貿易論の基礎的概念を理解している。 (2) 基礎的概念を用いて国際貿易に関する現実の諸問題を説明できる。 博士後期： (1) 国際貿易論の基礎的概念を理解している。 (2) 基礎的概念を用いて国際貿易に関する現実の諸問題を説明できる。 (3) 国際貿易論の分野における最近の理論的・実証的研究を批判的に検討できる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	修士：各回の授業で扱うトピックについて、参考書の該当部分を読み予習を行うこと。授業後は配付資料を用いて復習を行うこと。上記の予習・復習など授業外に計60時間以上の学修を行うこと。 博士後期：各回の授業で扱うトピックについて、参考書の該当部分および文献リストの論文を読み予習を行うこと。授業後は論文・配付資料を用いて復習を行うこと。上記の予習・復習など授業外に計60時間以上の学修を行うこと。								
授業計画	初回授業時に指定した教科書について輪読形式で学ぶ。適宜、国際貿易論分野の学術論文についても取り上げる。 【第1回】 イントロダクション 【第9回】 教科書の発表と討論8 【第2回】 教科書の発表と討論1 【第10回】 教科書の発表と討論9 【第3回】 教科書の発表と討論2 【第11回】 教科書の発表と討論10 【第4回】 教科書の発表と討論3 【第12回】 教科書の発表と討論11 【第5回】 教科書の発表と討論4 【第13回】 教科書の発表と討論12 【第6回】 教科書の発表と討論5 【第14回】 教科書の発表と討論13 【第7回】 教科書の発表と討論6 【第15回】 まとめ 【第8回】 教科書の発表と討論7								
成績評価の方法	修士：平常点(30%)、発表(30%)、レポート(40%)により成績を評価する。 博士後期：平常点(20%)、発表(20%)、レポート(40%)に加えて、研究報告(20%)により成績を評価する。								
フィードバックの内容	課題や報告に対するコメントを授業時に行う。								
教科書									
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ	使用する教科書については、初回授業時に協議の上、決定する。指定図書・参考書は初回授業時に提示する。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、研究科にて定めるオフィスアワーにて受け付ける。								
アクティブラーニングの内容	プレゼンテーション								
その他									

講義コード	12C0105701	授業形態	講義	抽選の有無	なし	担当教員	開講期
科目名	国際金融論特論 1				外木 好美		第1期
履修前提条件					備考		
授業の目的	金融の仕組みや制度、経済政策等について、為替レートや国際収支を通じた影響も踏まえて、理論的なアプローチで理解することを目的とする。主に出席者の発表を中心にして、議論する。 なお、本授業は博士後期課程の「国際金融特研究1」との合同授業である。						
到達目標	修士： (1) 国際金融論の基礎的概念を理解している (2) 国際金融論の基本理論を理解している (3) 国際金融論の理論を使って、現実の諸問題を理解できる 博士後期： (1) 国際金融論の基礎的概念を説明できる (2) 国際金融論の基本理論を説明できる (3) 国際金融論の理論に基づいて現実の諸問題を検討できる						
授業外学修内容・授業外学修時間数	修士：各回で扱うトピックについて、教科書や参考書の当該部分を読み、予習を行うこと。授業後は、授業資料や議論を踏まえて、復習を行うこと。上記の予習・復習など授業外に計60時間以上の学修を行うこと。 博士後期：各回で扱うトピックについて、教科書や参考書の当該部分を読み、予習を行うこと。授業後は、授業資料や議論を踏まえて、復習を行うこと。関連する論文を読むこと。上記の予習・復習など授業外に計60時間以上の学修を行うこと。						
授業計画	指定した教科書について輪読形式で学ぶ。適宜、参考書や学術論文についても取り上げる。 【第1回】 イントロダクション 【第2回】 教科書の発表と討論1 【第3回】 教科書の発表と討論2 【第4回】 教科書の発表と討論3 【第5回】 教科書の発表と討論4 【第6回】 教科書の発表と討論5 【第7回】 教科書の発表と討論6 【第8回】 教科書の発表と討論7 【第9回】 教科書の発表と討論8 【第10回】 教科書の発表と討論9 【第11回】 教科書の発表と討論10 【第12回】 教科書の発表と討論11 【第13回】 教科書の発表と討論12 【第14回】 教科書の発表と討論13 【第15回】 まとめ						
成績評価の方法	修士：平常点 (50%)、発表 (50%) により成績を評価する。 修士：平常点 (40%)、発表 (40%)、研究報告 (20%) により成績を評価する。						
フィードバックの内容	課題や報告に対するコメントを授業時に行う。						
教科書	『クルーグマン国際経済学 理論と政策〔原書第10版〕下：金融編』 Paul R. Krugman (著), Maurice Obstfeld (著), Marc J. Melitz (著), 山形 浩生 (翻訳), 守岡 桜 (翻訳) (丸善出版) 2017/ 1 /19						
指定図書	『コア・テキスト国際金融論』 藤井 英次 (著) (新世社) 2014/ 1 / 6、『International Macroeconomics and Finance: Theory and Econometric Methods』 Nelson C. Mark (著) (John Wiley & Sons) 2001/ 8 / 8						
参考書							
教員からのお知らせ	マクロ経済学を履修していることが望ましい。						
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、研究科にて定めるオフィスアワーにて受け付ける。						
アクティブラーニングの内容	プレゼンテーション						
その他							

講義コード	12C0105801	授業形態	講義	抽選の有無	なし	担当教員	外木 好美	開講期	第2期
科目名	国際金融論特論2				担当教員		外木 好美		
履修前提条件					備考				
授業の目的	金融の仕組みや制度、経済政策等について、為替レートや国際収支を通じた影響も踏まえて、理論的なアプローチで理解することを目的とする。主に出席者の発表を中心にして、議論する。 なお、本授業は修士後期課程の「国際金融特研究2」との合同授業である。								
到達目標	修士： (1) 国際金融論の基礎的概念を理解している (2) 国際金融論の基本理論を理解している (3) 国際金融論の理論を使って、現実の諸問題を理解できる 修士後期： (1) 国際金融論の基礎的概念を説明できる (2) 国際金融論の基本理論を説明できる (3) 国際金融論の理論に基づいて現実の諸問題を検討できる								
授業外学修内容・授業外学修時間数	修士：各回で扱うトピックについて、教科書や参考書の当該部分を読み、予習を行うこと。授業後は、授業資料や議論を踏まえて、復習を行うこと。上記の予習・復習など授業外に計60時間以上の学修を行うこと。 修士後期：各回で扱うトピックについて、教科書や参考書の当該部分を読み、予習を行うこと。授業後は、授業資料や議論を踏まえて、復習を行うこと。関連する論文を読むこと。上記の予習・復習など授業外に計60時間以上の学修を行うこと。								
授業計画	指定した教科書について輪読形式で学ぶ。適宜、参考書や学術論文についても取り上げる。 【第1回】 イントロダクション 【第2回】 教科書の発表と討論1 【第3回】 教科書の発表と討論2 【第4回】 教科書の発表と討論3 【第5回】 教科書の発表と討論4 【第6回】 教科書の発表と討論5 【第7回】 教科書の発表と討論6 【第8回】 教科書の発表と討論7 【第9回】 教科書の発表と討論8 【第10回】 教科書の発表と討論9 【第11回】 教科書の発表と討論10 【第12回】 教科書の発表と討論11 【第13回】 教科書の発表と討論12 【第14回】 教科書の発表と討論13 【第15回】 まとめ								
成績評価の方法	修士：平常点 (50%)、発表 (50%) により成績を評価する。 修士後期：平常点 (40%)、発表 (40%)、研究報告 (20%) により成績を評価する。								
フィードバックの内容	課題や報告に対するコメントを授業時に行う。								
教科書	『クルーグマン国際経済学 理論と政策 [原書第10版] 下:金融編』 Paul R. Krugman (著), Maurice Obstfeld (著), Marc J. Melitz (著), 山形 浩生 (翻訳), 守岡 桜 (翻訳) (丸善出版) 2017/ 1 /19								
指定図書	『コア・テキスト国際金融論』 藤井 英次 (著) (新世社) 2014/ 1 / 6、『International Macroeconomics and Finance: Theory and Econometric Methods』 Nelson C. Mark (著) (John Wiley & Sons) 2001/ 8 / 8								
参考書									
教員からのお知らせ	マクロ経済学を履修していることが望ましい。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、研究科にて定めるオフィスアワーにて受け付ける。								
アクティブラーニングの内容	プレゼンテーション								
その他									

講義コード	12C0105901	授業形態	講義	抽選の有無	なし	担当教員	畠山 久志	開講期	第1期
科目名	国際金融論特論3								
履修前提条件					備考				
授業の目的	現代の国際金融論は、これまでの単純な国家間の貿易や為替相場の数値的分析に終点を持たない。むしろ主権国家や統合組織などの政治的影響力や経済力規模の表現の場となっている国際金融を多角的に分析し、位置付けすることが課題となっている。そこで、授業はこれまでの基礎的な事項の確認と現代の国際金融が動いている背景を歴史的に捉えようとするものである。なお、本授業は博士後期課程の「国際金融論特研3」との合同授業である。								
到達目標	国際金融論の理解に不可欠な金融に係る基礎事項を歴史から習得し①外国為替仕組み、②中央政府の為替介入、③デリバティブ、④国際収支、⑤国際業務規制、⑥国際通貨制度、⑦ユーロ、⑧経済協力などを把握し、今後の研究及び論文作成に向けた知見を獲得することができる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	基礎事項の予習復習をおこなうこと。必要な教科書以外の図書はその都度指定・配布するので、時間を十分に取ってほしい。必要な時間は60時間とする。国内のみならず、海外の国際金融情勢をウォッチしてほしい。								
授業計画	国際金融の理解に必要な事項について学びます。 【第1回】 国際金融とは何か。 【第9回】 外国為替相場の決定理論2 【第2回】 国際収支1 【第10回】 国際通貨制度 【第3回】 国際収支2 【第11回】 変動相場制における経済政策の効果 【第4回】 対外決済の仕組み1 【第12回】 固定相場における経済政策の効果 【第5回】 対外決済の仕組み2 【第13回】 外国為替相場の輸出入価格へのパススルー 【第6回】 外国為替市場1 【第14回】 通貨危機、ソブリンリスク 【第7回】 外国為替市場2 【第15回】 形状数詞の調整と新しいオープンマクロ経済学 【第8回】 外国為替相場の決定理論1								
成績評価の方法	講義内容に関する期末レポート(80%)、質問や意見など授業に対する参加態度(20%)で評価します。								
フィードバックの内容	講義内容は、事前にオンライン授業に資料掲示します。また質問や意見、追加説明などは、まとめて期末にペーパー化し、共有します。								
教科書	『国際金融論入門』佐々木百合(新世社)2017								
指定図書	『金融の世界現代史』国際銀行史研究会(一色出版)2018、『金融の世界史』板谷俊彦(新潮社)2013、『ウォール街の歴史』チャールズ・ガイスト(フォレスト出版)2010、『ロンバート街』バジロウット(岩波書店)1994								
参考書	『通貨の悪戯』ミルトンフリードマン(三田出版会)1993、『貨幣と通貨の法文化』林康史(国際書院)2016								
教員からのお知らせ									
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後教室内にて対応します。								
アクティブラーニングの内容	項目ごとの解説・プレゼンテーションに基づき、内容、考え方、分析方法等についてディスカッションをする。								
その他									

講義コード	12C0106001	授業形態	講義	抽選の有無	なし	担当教員	畠山 久志	開講期	第2期
科目名	国際金融論特論4								
履修前提条件					備考				
授業の目的	現代の国際金融論は、これまでの単純な国家間の貿易や為替相場の数値的分析に終点を持たない。むしろ主権国家や統合組織などの政治的影響力や経済力規模の表現の場となっている国際金融を多角的に分析し、位置付けすることが課題となっている。そこで、本授業は前期の学習(国際金融の基礎知識)を前提にこれまでの国際金融上のイベントについて、論理的な分析力を習得し、歴史的な位置付け等について理解を深める。イベントは基本的に近世、近代の貿易を中心とした国際金融上の事象である。なお、本授業は博士後期課程の「国際金融論特研4」との合同授業である。								
到達目標	国際金融論の理解に不可欠な基礎事項である①外国為替仕組み、②中央政府の為替介入、③デリバティブ、④国際収支、⑤国際業務規制、⑥国際通貨制度、⑦ユーロ、⑧経済協力などを市場参加者の視点から把握し、国際金融全体の課題を考え今後の研究及び論文作成に向けた知見を獲得することができる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	基礎事項の予習復習をおこなうこと。教科書は当然であるが、以外の図書をその都度指定・配布するので、時間を十分に取ってほしい。必要な時間は60時間とする。国内のみならず、海外の国際金融情勢をウォッチしてほしい。								
授業計画	【第1回】 国際金融論の論理とイベント 【第9回】 黄金期のオランダ1(東インド会社 西インド会社) 【第2回】 古代ギリシアの国際金融 【第10回】 黄金期のオランダ2(アムステルダム証券取引所とアムステルダム為替銀行) 【第3回】 中世の国際金融1(キリスト教 金融の否定) 【第11回】 産業革命期のイギリスとフランス(重商主義 重農主義) 【第4回】 中世の国際金融2(地中海交易と保険) 【第12回】 覇権国イギリス1(株式会社制度の法定 中央銀行制度の確立) 【第5回】 中世の国際金融3(イスラム金融 金利の否定) 【第13回】 覇権国イギリス2(損害保険会社) 【第6回】 中世の国際金融4(十字軍 為替と信託) 【第14回】 覇権国イギリス3(海外投資 ロンバート街) 【第7回】 中世の国際金融5(会社と複式簿記) 【第15回】 債権国アメリカ(ウォールストリート) 【第8回】 大航海時代の国際貿易(新大陸への進出)								
成績評価の方法	期末レポート(80%)と質問や意見など授業に対する参加態度(20%)で評価します。								
フィードバックの内容	授業の内容を事前にオンライン授業で掲示します。また質問や意見、追加説明などはまとめて期末にペーパー化し、共有します。								
教科書	『金融の世界史』板谷敏彦(新潮社)2013								
指定図書	『マネーセンターの興亡』高橋琢磨(日経出版社)1999、『ヘゲモニー国家と世界システム』松田武・秋田茂(山川出版)2002、『最初の近代経済』J・ド・フリース(名古屋大学出版会)2009								
参考書									
教員からのお知らせ									
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。								
アクティブラーニングの内容	講義の内容について、質問、意見交換等、ディスカッションをします。卒業論文(修士論文等)の作成手順等の情報交換をする。								
その他									

講義コード	12C0106301	授業形態	講義	抽選の有無	なし	担当教員	苑 志佳	開講期	第1期
科目名	地域経済特論3						苑 志佳	第1期	
履修前提条件					備考				
授業の目的	本講義では、構造転換中の中国経済を研究する。過去40数年間における中国経済成長はどのように実現されたか、これまでの高度成長は何故成長低下し始まったか、中国経済はこれから、どのように転換していくか。今年度の授業では、最新の著書を輪読することによって上記の諸問題を院生諸君と一緒に考える。授業運営は、院生諸君の報告、問題提起、論点をめぐる討論を中心に行う予定である。出席者には、レベルの高いコメントと価値のあるディスカッションを活発にしていきたい。								
到達目標	本授業を履修することによって中国経済の諸問題を理解することができる。したがって、中国経済の関連課題を研究するテクニックを身につけることもできる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	1. この科目では、60時間以上の授業外学修を行うこと。 2. 毎週の授業終了後に参考文献や予習資料などを指定するので、これを予習する。 3. 授業時に配布される教材や資料を復習し、次回の授業時に問題提起を考える。 4. 授業の予定テーマに関連する資料を自ら収集し、これを持って授業討論に臨む。								
授業計画	【第1回】イントロダクション 【第2回】最新研究書籍の輪読・討論(1) 【第3回】最新研究書籍の輪読・討論(2) 【第4回】最新研究書籍の輪読・討論(3) 【第5回】最新研究書籍の輪読・討論(4) 【第6回】最新研究書籍の輪読・討論(5) 【第7回】最新研究書籍の輪読・討論(6) 【第8回】最新研究書籍の輪読・討論(7)				【第9回】最新研究書籍の輪読・討論(8) 【第10回】最新研究書籍の輪読・討論(9) 【第11回】最新研究書籍の輪読・討論(10) 【第12回】最新研究書籍の輪読・討論(11) 【第13回】最新研究書籍の輪読・討論(12) 【第14回】最新研究書籍の輪読・討論(13) 【第15回】総括				
成績評価の方法	1. 授業への取り組み姿勢 50%、 2. プレゼンテーション30%、 3. 討論参加20%。								
フィードバックの内容	毎週の輪読課題、テーマに対する講評を翌週授業内冒頭にて行う。								
教科書	『中国の産業発展とイノベーション政策』李春霞(専修大学出版局)2018年								
指定図書	『世界進出する中国型多国籍企業』苑志佳(創成社)2023年								
参考書									
教員からのお知らせ	輪読図書、書籍は、最初授業の時に指示する。								
オフィスアワー	- 月曜日3限 - 品川キャンパス2号館508室 - 事前に<0918@ris.ac.jp>に連絡すること								
アクティブラーニングの内容	意見共有、能動的な授業外学習など								
その他									

講義コード	12C0106401	授業形態	講義	抽選の有無	なし	担当教員	苑 志佳	開講期	第2期
科目名	地域経済特論4						苑 志佳	第2期	
履修前提条件					備考				
授業の目的	本講義では、構造転換する中国経済を研究する。今年度の授業では、「地域経済特論3」に続き、数冊の著書を輪読する。授業運営は、院生諸君の報告、問題提起、論点をめぐる討論を中心に行う予定である。出席者には、レベルの高いコメントと価値のあるディスカッションを活発にしていきたい。								
到達目標	本授業を履修することによって中国経済の諸問題を理解することができる。したがって、中国経済の関連課題を研究するテクニックを身につけることもできる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	1. この科目では、60時間以上の授業外学修を行うこと。 2. 毎週の授業終了後に参考文献や予習資料などを指定するので、これを予習する。 3. 授業時に配布される教材や資料を復習し、次回の授業時に問題提起を考える。 4. 授業の予定テーマに関連する資料を自ら収集し、これを持って授業討論に臨む。								
授業計画	【第1回】イントロダクション 【第2回】最新研究書籍の輪読・討論(1) 【第3回】最新研究書籍の輪読・討論(2) 【第4回】最新研究書籍の輪読・討論(3) 【第5回】最新研究書籍の輪読・討論(4) 【第6回】最新研究書籍の輪読・討論(5) 【第7回】最新研究書籍の輪読・討論(6) 【第8回】最新研究書籍の輪読・討論(7)				【第9回】最新研究書籍の輪読・討論(8) 【第10回】最新研究書籍の輪読・討論(9) 【第11回】最新研究書籍の輪読・討論(10) 【第12回】最新研究書籍の輪読・討論(11) 【第13回】最新研究書籍の輪読・討論(12) 【第14回】最新研究書籍の輪読・討論(13) 【第15回】総括				
成績評価の方法	1. 授業への取り組み姿勢 50%、 2. プレゼンテーション30%、 3. 討論参加20%。								
フィードバックの内容	毎週の輪読課題、テーマに対する講評を翌週授業内冒頭にて行う。								
教科書	『一带一路は何をもたらしたか』廣野美和(勁草書房)2021年								
指定図書	『米中経済摩擦の政治経済学』中本 悟・松村博行(晃洋書房)2022年								
参考書									
教員からのお知らせ	輪読図書、書籍は、最初授業の時に指示する。								
オフィスアワー	- 月曜日3限 - 品川キャンパス2号館508室 - 事前に<0918@ris.ac.jp>に連絡すること								
アクティブラーニングの内容	意見共有、能動的な授業外学習など								
その他									

講義コード	12C0107101	授業形態	講義	抽選の有無	なし	担当教員	小沢 佳史	開講期	第1期
科目名	経済学史特論3								
履修前提条件					備考				
授業の目的	この授業の目的は、経済学が現在の姿をとるに至った過程——経済学の歴史——を詳しく理解すること、そしてそれを通じて現在の経済学や自分の研究テーマに関する理解をさらに深めることである。そのためにこの授業では、主に19世紀の後半からの経済学の歴史をめぐり、履修者による報告と議論に基づいて教科書を輪読する。 なおこの授業は、博士後期課程「経済学史特研3」との合同授業である。								
到達目標	1. 現在の経済学が誕生するまでのプロセスを、詳しく説明できる。 2. 現在の経済学や自分の研究テーマについて、多様な概念・見解の関係やそれらの背景を説明できる。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	この科目では、60時間以上の授業外学修を行うこと。授業外学修では、各回の授業の前に、全員が教科書の該当箇所を熟読し、報告者は報告を入念に準備すること。また各回の授業の後に、全員が授業の内容を振り返りながら、ノートや教科書・指定図書該当箇所を何回もじっくりと読み込むこと。								
授業計画	<p>【第1回】 ガイダンス</p> <p>【第2回】 新古典派経済学①——ジェヴォンズ</p> <p>【第3回】 新古典派経済学②——ローザンヌ学派</p> <p>【第4回】 新古典派経済学③——オーストリア学派</p> <p>【第5回】 ケンブリッジ学派①——マーシャル</p> <p>【第6回】 ケンブリッジ学派②——マーシャルからケンブリッジ学派の展開へ</p> <p>【第7回】 ケンブリッジ学派③——ケインズの洞察力</p> <p>【第8回】 ケンブリッジ学派④——ケインズの『雇用・利子および貨幣の一般理論』</p> <p>【第9回】 新古典派経済学の成熟とそれに対する批判①——IS-LM表</p> <p>【第10回】 新古典派経済学の成熟とそれに対する批判②——経済成長論</p> <p>【第11回】 新古典派経済学の成熟とそれに対する批判③——不完全競争論</p> <p>【第12回】 新古典派経済学の成熟とそれに対する批判④——スラッファ、ポスト・ケインジアン</p> <p>【第13回】 現代経済学の展開①——現代マクロ経済学</p> <p>【第14回】 現代経済学の展開②——情報と不確実性、ゲーム理論、進化経済学</p> <p>【第15回】 現代経済学の展開③——経済人類学、レギュラシオン、分析的マルクス経済学</p> <p>※この進捗や内容は目安であり、履修者と相談しながら進捗や内容を適宜調整する。</p>								
成績評価の方法	報告（50%）と、議論を含む授業への取り組み姿勢（50%）によって評価する。								
フィードバックの内容	報告や議論について、授業内でフィードバックする。								
教科書	『経済学史』喜多見洋, 水田健 編著 (ミネルヴァ書房) 2012								
指定図書	『学ぶほどおもしろい 経済学史』木村雄一, 瀬尾崇, 益永淳 著 (晃洋書房) 2022, 『経済学史』小峯敦 著 (ミネルヴァ書房) 2021, 『経済学史への招待』柳沢哲哉 著 (社会評論社) 2018, 『経済思想』猪木武徳 著 (岩波書店) 2017, 『新版 経済思想史——社会認識の諸類型』大田一廣, 鈴木信雄, 高哲男, 八木紀一郎 編 (名古屋大学出版会) 2006, 『経済学の歴史——市場経済を読み解く』中村達也, 八木紀一郎, 新村聡, 井上義明 著 (有斐閣) 2001, 『経済学史』馬渡尚憲 著 (有斐閣) 1997, 『経済学史』三土修平 著 (新世社) 1993, 『若い読者のための経済学史』ナイアル・キシテイニー 著; 月沢李歌子 訳 (すばる舎) 2018, 『入門経済思想史 世俗の思想家たち』ロバート・L. ハイルブローナー 著; 八木甫 [ほか] 訳 (筑摩書房) 2001								
参考書	『私は、経済学をどう読んできたか』ロバート・L. ハイルブローナー 著; 中村達也 [ほか] 訳 (筑摩書房) 2003, 『写真で見る ヴィクトリア朝ロンドンの都市と生活』アレックス・ワーナー, トニー・ウィリアムズ 著; 松尾恭子 訳 (原書房) 2013, 『有斐閣経済辞典 第5版』金森久雄, 荒憲治郎, 森口親司 編 (有斐閣) 2013								
教員からのお知らせ	履修者による報告と議論に基づいて授業が進められるため、無断で欠席したり遅刻したりすることは基本的に認められない。								
オフィスアワー	この授業に関する質問・相談は、学部学科で定めるオフィスアワーにて受け付ける。また授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内でも対応する。								
アクティブラーニングの内容 その他	意見共有、教員からのフィードバックによる振り返り、ディベート、プレゼンテーション。								

講義コード	12C0107201	授業形態	講義	抽選の有無	なし	担当教員	小沢 佳史	開講期	第2期
科目名	経済学史特論4								
履修前提条件					備考				
授業の目的	この授業の目的は、経済学が現在の姿をとるに至った過程——経済学の歴史——を詳しく理解すること、そしてそれを通じて現在の経済学や自分の研究テーマに関する理解をさらに深めることである。そのためこの授業では、主に19世紀の後半からの経済学の歴史をめぐり、履修者による報告と議論に基づいて古典を輪読する。 なおこの授業は、博士後期課程「経済学史特研4」との合同授業である。								
到達目標	1. 現在の経済学が誕生するまでのプロセスを、古典に基づいて詳しく説明できる。 2. 現在の経済学や自分の研究テーマについて、多様な概念・見解の関係やそれらの背景を説明できる。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	この科目では、60時間以上の授業外学修を行うこと。授業外学修では、各回の授業の前に、全員が古典の該当箇所を熟読し、報告者は報告を入念に準備すること。また各回の授業の後に、全員が授業の内容を振り返りながら、ノートや古典・指定図書該当箇所を何回もじっくりと読み込むこと。								
授業計画	<p>【第1回】 ガイダンス</p> <p>【第2回】 19世紀の後半からの経済学の大まかな歴史</p> <p>【第3回】 ケインズの思想と経済学</p> <p>【第4回】 ケインズの『雇用・利子および貨幣の一般理論』①——第1編（前半）</p> <p>【第5回】 ケインズの『雇用・利子および貨幣の一般理論』②——第1編（後半）</p> <p>【第6回】 ケインズの『雇用・利子および貨幣の一般理論』③——第2編（前半）</p> <p>【第7回】 ケインズの『雇用・利子および貨幣の一般理論』④——第2編（後半）</p> <p>【第8回】 ケインズの『雇用・利子および貨幣の一般理論』⑤——第3編（前半）</p> <p>【第9回】 ケインズの『雇用・利子および貨幣の一般理論』⑥——第3編（後半）</p> <p>【第10回】 ケインズの『雇用・利子および貨幣の一般理論』⑦——第4編（前半）</p> <p>【第11回】 ケインズの『雇用・利子および貨幣の一般理論』⑧——第4編（後半）</p> <p>【第12回】 ケインズの『雇用・利子および貨幣の一般理論』⑨——第5編（前半）</p> <p>【第13回】 ケインズの『雇用・利子および貨幣の一般理論』⑩——第5編（後半）</p> <p>【第14回】 ケインズの『雇用・利子および貨幣の一般理論』⑪——第6編（前半）</p> <p>【第15回】 ケインズの『雇用・利子および貨幣の一般理論』⑫——第6編（後半）</p> <p>※この進捗や内容は目安であり、履修者と相談しながら進捗や内容を適宜調整・変更する。</p>								
成績評価の方法	報告（50%）と、議論を含む授業への取り組み姿勢（50%）によって評価する。								
フィードバックの内容	報告や議論について、授業内でフィードバックする。								
教科書	『雇用、金利、通貨の一般理論』ジョン・メイナード・ケインズ 著；大野一 訳（日経BP）2021、『雇用、利子、お金の一般理論』ジョン・メイナード・ケインズ 著；山形浩生 訳（講談社）2012、『雇用、利子および貨幣の一般理論上』ジョン・メイナード・ケインズ 著；間宮陽介 訳（岩波書店）2008、『雇用、利子および貨幣の一般理論下』ジョン・メイナード・ケインズ 著；間宮陽介 訳（岩波書店）2008、『雇用・利子および貨幣の一般理論普及版』ジョン・メイナード・ケインズ 著；塩野谷祐一 訳（東洋経済新報社）1995								
指定図書	『経済学史』喜多見洋、水田健 編著（ミネルヴァ書房）2012、『経済思想』猪木武徳 著（岩波書店）2017、『新版 経済思想史——社会認識の諸類型』大田一廣、鈴木信雄、高哲男、八木紀一郎 編（名古屋大学出版会）2006、『経済学史』馬渡尚憲 著（有斐閣）1997、『経済学史』三土修平 著（新世社）1993、『私は、経済学をどう読んできたか』ロバート・L.ハイルブローナー 著；中村達也 [ほか] 訳（筑摩書房）2003、『The History of Economic Thought: A Reader (Second Edition)』Steven G Medema, Warren J. Samuels (eds.) (Routledge) 2013、『ケインズ——危機の時代の実践家』伊藤宣広 著（岩波書店）2023、『ケインズ 説得論集』ジョン・メイナード・ケインズ 著；山岡洋一 訳（日経BP 日本経済新聞出版本部）2021、『ケインズ——時代と経済学』吉川洋 著（筑摩書房）1995								
参考書	『写真で見る ヴィクトリア朝ロンドンの都市と生活』アレックス・ワーナー、トニー・ウィリアムズ 著；松尾恭子 訳（原書房）2013、『有斐閣経済辞典 第5版』金森久雄、荒憲治郎、森口親司 編（有斐閣）2013								
教員からのお知らせ	履修者による報告と議論に基づいて授業が進められるため、無断で欠席したり遅刻したりすることは基本的に認められない。またこの授業は、「経済学史特論3」の内容を前提にして進められる。								
オフィスアワー	この授業に関する質問・相談は、学部学科で定めるオフィスアワーにて受け付ける。また授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内でも対応する。								
アクティブラーニングの内容 その他	意見共有、教員からのフィードバックによる振り返り、ディベート、プレゼンテーション。								

講義コード	12C0107501	授業形態	講義	抽選の有無	なし	担当教員	村田 啓子	開講期	第1期
科目名	日本経済論特論3								
履修前条件					備考				
授業の目的	経済学の理論を実体経済に応用するには、理論、データ、制度を踏まえた論考が必要となる。本講義では、ミクロ経済学・マクロ経済学及び計量経済学の基礎知識を持つ学生を対象に、現代日本経済の動向とその背景を理解するとともに、実施された政策や問題点についても学ぶ。それにより実体経済について自らの問題意識を持ちつつ主体的に考えていく能力を養い、併せて自らの研究課題について鳥瞰的な視野からも思考する能力の育成を目指す。 なお、本講義は博士後期課程の「日本経済特研3」との合同授業である。								
到達目標	日本経済の現状と課題及びそれらに関する基本データを理解した上で批判的に検討・分析するための能力が身につく、併せて論文執筆のための研究課題の選定及び論考能力が向上する。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	授業で指定されるリーディングリストを事前に読み、理解する。自身の学習・研究目的も踏まえ予習・復習を行う。授業外に合計60時間以上の学修を行うこと。								
授業計画	【第1回】 概論・ガイダンス 【第2回】 国民経済計算からみた日本経済 【第3回】 文献等の輪読、質問及び討論 (1) 【第4回】 文献等の輪読、質問及び討論 (2) 【第5回】 文献等の輪読、質問及び討論 (3) 【第6回】 文献等の輪読、質問及び討論 (4) 【第7回】 文献等の輪読、質問及び討論 (5) 【第8回】 文献等の輪読、質問及び討論 (6) 【第9回】 文献等の輪読、質問及び討論 (7) 【第10回】 文献等の輪読、質問及び討論 (8) 【第11回】 文献等の輪読、質問及び討論 (9) 【第12回】 文献等の輪読、質問及び討論 (10) 【第13回】 文献等の輪読、質問及び討論 (11) 【第14回】 文献等の輪読、質問及び討論 (12) 【第15回】 文献等の輪読、質問及び討論 (13)								
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢 (40%) 及び期末レポート (60%) により総合的に判定します。第1回講義で説明します。								
フィードバックの内容	輪読、討論などの内容について講義内で講評・解説を行います。								
教科書									
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ									
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部学科にて定めるオフィスアワーにて受付ける (事前にメールで連絡すること)。								
アクティブラーニングの内容	講義内容に関するディスカッションを行います。								
その他									

講義コード	12C0107601	授業形態	講義	抽選の有無	なし	担当教員	村田 啓子	開講期	第2期
科目名	日本経済論特論4								
履修前条件					備考				
授業の目的	経済学の理論を実体経済に応用するには、理論、データ、制度を踏まえた論考が必要となる。本講義では、ミクロ経済学・マクロ経済学及び計量経済学の基礎知識を持つ学生を対象に、現代日本経済の動向とその背景を理解するとともに、実施された政策や問題点についても学ぶ。それにより実体経済について自らの問題意識を持ちつつ主体的に考えていく能力を養い、併せて自らの研究課題について鳥瞰的な視野からも思考する能力の育成を目指す。 なお、本講義は博士後期課程の「日本経済特研4」との合同授業である。								
到達目標	日本経済の現状と課題及びそれらに関する基本データを理解した上で批判的に検討・分析するための能力が身につく、併せて論文執筆のための研究課題の選定及び論考能力が向上する。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	各自がテーマを選定し、自身の学習・研究を進め発表の準備を行う。発表後は得た質問、討議なども踏まえ自らの理解を適宜修正・発展させる。授業外に合計60時間以上の学修を行うこと。								
授業計画	【第1回】 概論・ガイダンス 【第2回】 文献等の輪読、質問及び討論 (1) 【第3回】 文献等の輪読、質問及び討論 (2) 【第4回】 文献等の輪読、質問及び討論 (3) 【第5回】 文献等の輪読、質問及び討論 (4) 【第6回】 文献等の輪読、質問及び討論 (5) 【第7回】 文献等の輪読、質問及び討論 (6) 【第8回】 文献等の輪読、質問及び討論 (7) 【第9回】 文献等の輪読、質問及び討論 (8) 【第10回】 文献等の輪読、質問及び討論 (9) 【第11回】 文献等の輪読、質問及び討論 (10) 【第12回】 文献等の輪読、質問及び討論 (11) 【第13回】 文献等の輪読、質問及び討論 (12) 【第14回】 文献等の輪読、質問及び討論 (13) 【第15回】 文献等の輪読、質問及び討論 (14)								
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢 (40%) 及び期末レポート (60%) により総合的に判定します。第1回講義で説明します。								
フィードバックの内容	学生が選定したテーマやそれに関するリーディングリスト等を配布するほか、発表・質問・討論内容についてコメントを行う。								
教科書									
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ									
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部学科にて定めるオフィスアワーにて受付ける (事前にメールで連絡すること)。								
アクティブラーニングの内容	講義内容に関するディスカッションを行います。								
その他									

講義コード	12C0107901	授業形態	講義	抽選の有無	なし	担当教員		開講期	
科目名	労働経済学特論3				戎野 淑子		第1期		
履修前提条件					備考				
授業の目的	受講生の研究テーマに基づき、内容を検討したい。具体的な授業については、毎回輪読を実施し、実態調査なども資料にし ながら、議論を行う。 なお、本講義は、大学院博士後期課程「労働経済学特研1」との合同である。								
到達目標	「労働経済学特論3」 各自の研究テーマに関連する労働事情や労働問題等について理解できる。 「労働経済学特研3」 各自の研究テーマに関連する労働事情や労働問題等について理解できる。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	「労働経済学特論3」 輪読の準備、自分の研究課題についての発表準備 (60時間を必要とする) 「労働経済学特研3」 輪読の準備、自分の研究課題についての発表準備 (60時間を必要とする)								
授業計画	<p>【第1回】 ガイダンス：ゼミの進め方を説明し、テーマ等について相談し決める。</p> <p>【第2回】 順次テキストを輪読し発表を行う。概ね1講義で1/2chapter 進み、1年間で一冊勉強する予定。(1)</p> <p>【第3回】 順次テキストを輪読し発表を行う。概ね1講義で1/2chapter 進み、1年間で一冊勉強する予定。(2)</p> <p>【第4回】 順次テキストを輪読し発表を行う。概ね1講義で1/2chapter 進み、1年間で一冊勉強する予定。(3)</p> <p>【第5回】 順次テキストを輪読し発表を行う。概ね1講義で1/2chapter 進み、1年間で一冊勉強する予定。(4)</p> <p>【第6回】 順次テキストを輪読し発表を行う。概ね1講義で1/2chapter 進み、1年間で一冊勉強する予定。(5)</p> <p>【第7回】 順次テキストを輪読し発表を行う。概ね1講義で1/2chapter 進み、1年間で一冊勉強する予定。(6)</p> <p>【第8回】 順次テキストを輪読し発表を行う。概ね1講義で1/2chapter 進み、1年間で一冊勉強する予定。(7)</p> <p>【第9回】 順次テキストを輪読し発表を行う。概ね1講義で1/2chapter 進み、1年間で一冊勉強する予定。(8)</p> <p>【第10回】 順次テキストを輪読し発表を行う。概ね1講義で1/2chapter 進み、1年間で一冊勉強する予定。(9)</p> <p>【第11回】 順次テキストを輪読し発表を行う。概ね1講義で1/2chapter 進み、1年間で一冊勉強する予定。(10)</p> <p>【第12回】 順次テキストを輪読し発表を行う。概ね1講義で1/2chapter 進み、1年間で一冊勉強する予定。(11)</p> <p>【第13回】 順次テキストを輪読し発表を行う。概ね1講義で1/2chapter 進み、1年間で一冊勉強する予定。(12)</p> <p>【第14回】 順次テキストを輪読し発表を行う。概ね1講義で1/2chapter 進み、1年間で一冊勉強する予定。(13)</p> <p>【第15回】 順次テキストを輪読し発表を行う。概ね1講義で1/2chapter 進み、1年間で一冊勉強する予定。(14)</p>								
成績評価の方法	レポート50%、授業での発表・討論50%								
フィードバックの内容	フィードバックは次回授業までに行う								
教科書	『Employment Relations』 Ed Rose (Printice Hall) 2008、『雇用システム論』 佐口和郎 (有斐閣) 2018								
指定図書	『労働経済白書』 厚生労働省 (日経印刷株式会社) 2023年								
参考書									
教員からのお知らせ									
オフィスアワー	水曜日お昼休み								
アクティブラーニングの内容	毎回課題を行い、次週にそのフィードバックを行う。								
その他									

講義コード	12C0108001	授業形態	講義	抽選の有無	なし	担当教員		開講期	
科目名	労働経済学特論4				戎野 淑子		第2期		
履修前条件					備考				
授業の目的	受講生と相談し、興味関心あるテーマを選びたい。ただ、まず、広く雇用問題に焦点をあて、文献研究を行い、特に、日本の雇用関係の変容について、歴史的な比較分析とともに国際比較を行う。そして、その中で、具体的テーマを絞っていく予定である。授業の進め方は、毎回輪読を実施し、実態調査なども資料にしながらか、議論を行う。 ※この授業は、修士・博士後期両課程合同で実施します。								
到達目標	「労働経済学特論4」 自分の研究テーマに関連のある労働事情や労働問題について理解を深めることができる。 「労働経済学特研4」 自分の研究テーマに関連のある労働事情や労働問題について理解を深めることができる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	「労働経済学特論4」 輪読の準備、自分の論文の研究の準備 (60時間を必要とする) 「労働経済学特研4」 輪読の準備、自分の論文の研究の準備 (60時間を必要とする)								
授業計画	【第1回】 順次輪読を行い発表する。労働経済、人的資源管理について学ぶ。適宜、労働経済白書を活用しながら、労働状況やそこにおける諸問題についても確認する。(1) 【第2回】 順次輪読を行い発表する。労働経済、人的資源管理について学ぶ。適宜、労働経済白書を活用しながら、労働状況やそこにおける諸問題についても確認する。(2) 【第3回】 順次輪読を行い発表する。労働経済、人的資源管理について学ぶ。適宜、労働経済白書を活用しながら、労働状況やそこにおける諸問題についても確認する。(3) 【第4回】 順次輪読を行い発表する。労働経済、人的資源管理について学ぶ。適宜、労働経済白書を活用しながら、労働状況やそこにおける諸問題についても確認する。(4) 【第5回】 順次輪読を行い発表する。労働経済、人的資源管理について学ぶ。適宜、労働経済白書を活用しながら、労働状況やそこにおける諸問題についても確認する。(5) 【第6回】 順次輪読を行い発表する。労働経済、人的資源管理について学ぶ。適宜、労働経済白書を活用しながら、労働状況やそこにおける諸問題についても確認する。(6) 【第7回】 順次輪読を行い発表する。労働経済、人的資源管理について学ぶ。適宜、労働経済白書を活用しながら、労働状況やそこにおける諸問題についても確認する。(7) 【第8回】 順次輪読を行い発表する。労働経済、人的資源管理について学ぶ。適宜、労働経済白書を活用しながら、労働状況やそこにおける諸問題についても確認する。(8) 【第9回】 順次輪読を行い発表する。労働経済、人的資源管理について学ぶ。適宜、労働経済白書を活用しながら、労働状況やそこにおける諸問題についても確認する。(9) 【第10回】 順次輪読を行い発表する。労働経済、人的資源管理について学ぶ。適宜、労働経済白書を活用しながら、労働状況やそこにおける諸問題についても確認する。(10) 【第11回】 順次輪読を行い発表する。労働経済、人的資源管理について学ぶ。適宜、労働経済白書を活用しながら、労働状況やそこにおける諸問題についても確認する。(11) 【第12回】 順次輪読を行い発表する。労働経済、人的資源管理について学ぶ。適宜、労働経済白書を活用しながら、労働状況やそこにおける諸問題についても確認する。(12) 【第13回】 各自の論文についての発表 (1) 【第14回】 各自の論文についての発表 (2) 【第15回】 各自の論文についての発表 (3)								
成績評価の方法	レポート70%、授業での発表・討論30%								
フィードバックの内容	フィードバックは次回授業までに行う								
教科書	『人的資本管理の力』白木三秀編著(文真堂)2024年、『Employment Relations』Ed Rose (Printice Hall) 2008								
指定図書	『雇用システム論』佐口和郎(有斐閣)2018年								
参考書	『労働経済白書』厚生労働省(日経印刷)2022年								
教員からのお知らせ									
オフィスアワー	水曜日お昼休み								
アクティブラーニングの内容	毎回課題を行い、次週にそのフィードバックを行う。								
その他									

講義コード	12C0108301	授業形態	講義	抽選の有無	なし	担当教員	宮川 幸三	開講期	第1期
科目名	計量経済学特論3				宮川 幸三		第1期		
履修前条件					備考				
授業の目的	本講義では、産業構造分析の手法の1つとして産業連関分析を取り上げ、基礎的な分析手法を学ぶとともに、経済理論と経済データおよび現実の経済現象の結びつきを理解し、実証分析の考え方を習得することを目的としている。講義だけでなく、統計解析ソフトを用いた演習も行う。 なお、本講義は博士後期課程「計量経済学特研3」との合同授業である。								
到達目標	産業連関分析の基礎的な手法を習得できる。 産業連関表および産業関連統計に関する体系的知識を身につけることができる。 統計解析用ソフトウェアの基礎的な使用方法を習得できる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	この科目では、60時間以上の授業外学修を行うこと。 授業外学修では、授業の内容を理解するために予習・復習をすること。 またPCの操作方法について独学すること。								
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> 【第1回】 本講義の目的と概要 【第2回】 産業構造とは何かーレオンティエフの分析視点 【第3回】 産業連関表の見方 【第4回】 均衡産出高モデル1 【第5回】 均衡産出高モデル2 【第6回】 輸入内生モデル1 【第7回】 輸入内生モデル2 【第8回】 スカイライン分析1 【第9回】 スカイライン分析2 【第10回】 経済センサスと産業連関表 【第11回】 供給・使用表(SUT)とシンメトリック産業連関表の体系 【第12回】 RAS法 【第13回】 産業連関表とGDP統計 【第14回】 分類体系と産業連関表 【第15回】 まとめ 								
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢(30%)、授業中に課された課題(30%)、期末レポート(40%)によって評価する。								
フィードバックの内容	課題に対する講評を授業時に行う。								
教科書	『日中連関構造の経済分析』日中連関構造の経済分析(勁草書房)2016								
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ	経済学部レベルで習得すべき統計学、経済学およびパソコンの操作に関する知識を前提として授業を行う。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、講義案内で示したオフィスアワーにおいて受付ける。								
アクティブラーニングの内容	意見共有、教員からのフィードバックによる振り返り、演習								
その他									

講義コード	12C0108401	授業形態	講義	抽選の有無	なし	担当教員	宮川 幸三	開講期	第2期
科目名	計量経済学特論4				宮川 幸三		第2期		
履修前条件					備考				
授業の目的	本講義では、産業構造分析の手法の1つとして産業連関分析を取り上げ、基礎的な分析手法を学ぶとともに、経済理論と経済データおよび現実の経済現象の結びつきを理解し、実証分析の考え方を習得することを目的としている。計量経済学特論3で学んだ内容を前提としながら、産業構造分析の応用事例を紹介すると同時に、実際のデータを用いて分析演習を行う。 なお、本講義は博士後期課程「計量経済学特研4」との合同授業である。								
到達目標	様々な応用分析の手法を習得できる。 適切な手法を用いて実証分析を行うことができる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	この科目では、60時間以上の授業外学修を行うこと。 授業外学修では、授業の内容を理解するために予習・復習をすること。 またPCの操作方法について独学すること。								
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> 【第1回】 国際貿易の効果ー日中国際産業連関表による波及効果分析1 【第2回】 国際貿易の効果ー日中国際産業連関表による波及効果分析2 【第3回】 地域格差と国際貿易ー日中国際地域間産業連関表による分析1 【第4回】 地域格差と国際貿易ー日中国際地域間産業連関表による分析2 【第5回】 貿易と産業構造変化ー規模別日中国際産業連関表による分析1 【第6回】 貿易と産業構造変化ー規模別日中国際産業連関表による分析2 【第7回】 PPPと競争力評価ー日米国際産業連関表による価格分析1 【第8回】 PPPと競争力評価ー日米国際産業連関表による価格分析2 【第9回】 PPPと競争力評価ー日米国際産業連関表による価格分析3 【第10回】 経済発展の構造分析ー接続産業連関表による要因分析1 【第11回】 経済発展の構造分析ー接続産業連関表による要因分析2 【第12回】 マイクロデータを用いた産業構造分析1 【第13回】 マイクロデータを用いた産業構造分析2 【第14回】 マイクロデータを用いた産業構造分析3 【第15回】 まとめ 								
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢(30%)、授業中に課された課題(30%)、期末レポート(40%)によって評価する。								
フィードバックの内容	課題に対する講評を授業時に行う。								
教科書	『日中連関構造の経済分析』日中連関構造の経済分析(勁草書房)2016								
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ	経済学部レベルで習得すべき統計学、経済学およびパソコンの操作に関する知識と計量経済学特論3の内容を前提として授業を行う。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、講義案内で示したオフィスアワーにおいて受付ける。								
アクティブラーニングの内容	意見共有、教員からのフィードバックによる振り返り、演習								
その他									

講義コード	12C0109101	授業形態	講義	抽選の有無	なし	担当教員	高橋 美由紀	開講期	第1期
科目名	日本経済史特論3				高橋 美由紀		第1期		
履修前提条件					備考				
授業の目的	日本経済の歴史を学ぶ。この授業では、19世紀後半から20世紀前半までを取り扱い、教科書を一緒に音読しながら考えていく。ただし、履修者の希望に添った内容に変更することもある。 ※この授業は、修士・博士後期両課程合同で実施する。								
到達目標	日本経済の歴史（19世紀後半初頭から20世紀前半まで）について多面的な視点から論述できること。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	教科書を講義前に予習しておくこと。また、講義で提示された内容について復習しておくこと。 (計65時間)								
授業計画	教科書 第二部・第三部（19世紀後半から20世紀前半の日本経済） 【第1回】環境と経済活動 【第2回】商法の制定と金本位制 【第3回】国際収支の天井と経済政策 【第4回】産業革命と工業化 【第5回】地主制の展開と植民地農業 【第6回】交通網の変容と商品流通 【第7回】都市化と生活環境 【第8回】ジェンダー・労働市場研究の新展開 【第9回】モダニズムと大衆消費社会 【第10回】ブロック経済から金ドル本位制へ 【第11回】高橋財政から戦後経済政策へ 【第12回】財界論 【第13回】「内需」主導の重化学工業化 【第14回】地主制の後退と戦後農政 【第15回】大規模小売商と流通系列								
成績評価の方法	講義における報告（60%）、授業態度（40%）。								
フィードバックの内容	講義内で質問を確認し回答する。また、提出物がある場合は翌週に返却する。								
教科書	『日本経済の歴史 列島経済史入門』中西 聡（名古屋大学出版会）2013								
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ	講義内容は、履修者の希望等により変更する可能性がある。Microsoft Teams で Team を作るの、ポータルサイトで案内する Team コードを確認して、授業開始までにメンバー登録をすること。 教科書は初版の物でも構わないが、新しく購入する場合は極力2018年発行の第3刷を購入すること。								
オフィスアワー	月曜2限。事前に必ず連絡すること。 メールやチャットにても受け付ける。								
アクティブラーニングの内容	授業内で自分の意見を述べることを毎回行っている。								
その他									

講義コード	12C0109201	授業形態	講義	抽選の有無	なし	担当教員	高橋 美由紀	開講期	第2期
科目名	日本経済史特論4				高橋 美由紀		第2期		
履修前提条件					備考				
授業の目的	20世紀の日本経済の歴史を中心に学ぶ。また、履修者の希望に添った内容に変更することもある。 ※この授業は、修士・博士後期両課程合同で実施する。								
到達目標	20世紀の日本経済の歴史について具体的に論述できること。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	教科書の該当部分を講義前に予習しておくこと。また、講義で提示された内容について復習しておくこと。 (計65時間)								
授業計画	教科書『日本経済の歴史』第三部を中心に扱う（20世紀の日本経済） 【第1回】大衆消費社会の実像 【第2回】国際通貨システムの動揺と円高の進展 ① 【第3回】国際通貨システムの動揺と円高の進展 ② 【第4回】財政再建と金融・証券の自由化 【第5回】「外需」主導の産業構造 ① 【第6回】「外需」主導の産業構造 ② 【第7回】トヨタ生産方式の展開 【第8回】国際化のなかの日本農業 【第9回】流通再編と消費の多様化 【第10回】日本経済の新しい課題 【第11回】日本における社会福祉研究の新展開 【第12回】科学技術と経済活動 ① 【第13回】科学技術と経済活動 ② 【第14回】明日への模索 【第15回】日本経済の歴史を学ぶ 各授業では関係する著作等について一緒に輪読をおこなう。								
成績評価の方法	講義における報告（60%）、授業態度（40%）。								
フィードバックの内容	毎回の講義で質疑応答をおこなう。また、提出物を課した場合には翌週に添削をして返却する。								
教科書	『日本経済の歴史 列島経済史入門』中西 聡（名古屋大学出版会）2013								
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ	講義内容は、履修者の希望等により変更する可能性がある。Microsoft Teams で Team を作るの、ポータルサイトで案内する Team コードを確認して、授業開始までにメンバー登録をすること。 教科書を新たに購入する場合は、2018年発行の第3刷を購入すること。								
オフィスアワー	月曜2限。事前に必ず連絡すること。 メールおよびチャット等で随時受け付ける。								
アクティブラーニングの内容	毎回の授業においては自己の考えを述べてもらっている。								
その他									

講義コード	12C0109501	授業形態	講義	抽選の有無	なし	担当教員	平 伊佐雄	開講期	第1期
科目名	西洋経済史特論3				平 伊佐雄		第1期		
履修前提条件					備考				
授業の目的	本特論は、ヨーロッパ中世の商業活動の実態を学ぶことによって、前近代における経済活動の歴史の外殻をその一端であれ捉えることを目的とする。								
到達目標	中世ヨーロッパにおける商業活動（仕組みやネットワーク性）が現在の商業活動とどのように関連しているのか、また、その理論的な要素を歴史の中から見だし説明できるようになる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	事前事後学修に4時間（計60時間）以上が必要である。 授業外学修では、本講義の内容の復習、次回内容の予習を行うこと。								
授業計画	【第1回】 Power and Profit, chap. 1 の解説 【第2回】 Power and Profit, chap. 1 の解説 【第3回】 Power and Profit, chap. 1 の解説 【第4回】 Power and Profit, chap. 1 の解説 【第5回】 Power and Profit, chap. 1 の解説 【第6回】 Power and Profit, chap. 1 の解説 【第7回】 Power and Profit, chap. 1 の解説 【第8回】 Power and Profit, chap. 1 の解説 【第9回】 Power and Profit, chap. 1 の解説 【第10回】 Power and Profit, chap. 2 の解説 【第11回】 Power and Profit, chap. 2 の解説 【第12回】 Power and Profit, chap. 2 の解説 【第13回】 Power and Profit, chap. 2 の解説 【第14回】 Power and Profit, chap. 2 の解説 【第15回】 Power and Profit, chap. 2 の解説								
成績評価の方法	講義中のレポートにて評価する（100%）。								
フィードバックの内容	講義中の疑問点や学生の講義内容レポートに対して、次回以降の講義で講評を加える。								
教科書	『Power and Profit. The Merchant in Medieval Europe』 P.Spufford (Thames & Hudson) 2002, 『The Cambridge Economic History, II-V』 M.M.Postan (Cambridge) 1987, 『Deutsche Rechtsgeschichte』 U. Eisenhardt (Beck) 2004, 『Handbuch der Wirtschafts- und Sozialgeschichte』 F.W.Henning (Schoenigh) 1991, 『The New Cambridge Medieval History V&VI』 D.Abulafia, M.Jones (Cambridge) 1999-2000, 『A History of Business in Medieval Europe, 1200-1550』 E.Hunt, J. Murray (Cambridge) 1999, 『An Economic and Social History of Later Medieval Europe, 1000-1500』 Steven.A.Epstein (Cambridge) 2009, 『Why the Middle Ages Matter:Medieval Light on Modern Injustice.』 C.Chazelle, S.Doubleday, F.Lifshitz (Routledge) 2012								
指定図書	『西洋中世史事典 I』 シュルツェ（ミネルヴァ書房）1997, 『西洋中世史事典 II』 シュルツェ（ミネルヴァ書房）2005, 『ドイツ法制史概説 改訂版』 ミッターイス・リーベリッヒ（創文社）1971, 『概説西洋法制史』 勝田編（ミネルヴァ書房）2004, 『フランス法制史概説』 マルタン（創文社）1986, 『イングランド法制史概説』 ベイカー（創文社）1975, 『中世の商業革命』 ロベス（法政大学出版局）2007								
参考書									
教員からのお知らせ	適切な訳語や概念、その意味などは講義中に解説するが、受講者は、各自、日本語訳をあらかじめ授業外で行い、質問事項を用意しておくことが望ましい。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、経済学部にて定めるオフィスアワーにて受け付けます。								
アクティブラーニングの内容	受講生側でこちらから提供した課題についての反転授業や講義内容についての意見共有を行う。								
その他									

講義コード	12C0109601	授業形態	講義	抽選の有無	なし	担当教員	平 伊佐雄	開講期	第2期
科目名	西洋経済史特論4				平 伊佐雄		第2期		
履修前提条件					備考				
授業の目的	本特論は、ヨーロッパ中世の商業活動の実態を学ぶことによって、前近代における経済活動の歴史の外殻をその一端であれ捉えることを目的とする。								
到達目標	中世ヨーロッパにおける商業活動（仕組みやネットワーク性）が現在の商業活動とどのように関連しているのか、また、その理論的な要素を歴史の中から見だし説明できるようになる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	事前事後学修に4時間（計60時間）以上が必要である。 授業外学修では、本講義の内容の復習、次回内容の予習を行うこと。								
授業計画	【第1回】 Power and Profit, chap. 2 の解説 【第2回】 Power and Profit, chap. 2 の解説 【第3回】 Power and Profit, chap. 2 の解説 【第4回】 Power and Profit, chap. 3 の解説 【第5回】 Power and Profit, chap. 3 の解説 【第6回】 Power and Profit, chap. 3 の解説 【第7回】 Power and Profit, chap. 3 の解説 【第8回】 Power and Profit, chap. 3 の解説 【第9回】 Power and Profit, chap. 3 の解説 【第10回】 Power and Profit, chap. 3 の解説 【第11回】 Power and Profit, chap. 3 の解説 【第12回】 Power and Profit, chap. 3 の解説 【第13回】 Power and Profit, chap. 3 の解説 【第14回】 Power and Profit, chap. 3 の解説 【第15回】 Power and Profit, chap. 3 の解説								
成績評価の方法	講義中に課した小レポートにて評価する（100%）。								
フィードバックの内容	講義中の疑問点や学生の講義内容レポートに対して、次回以降の講義で講評を加える。								
教科書	『Power and Profit. The Merchant in Medieval Europe』 P.Spufford (Thames & Hudson) 2002, 『The Cambridge Economic History, II-V』 M.M.Postan (Cambridge) 1987, 『Deutsche Rechtsgeschichte』 U. Eisenhardt (Beck) 2004, 『Handbuch der Wirtschafts- und Sozialgeschichte』 F.W.Henning (Schoenigh) 1991, 『The New Cambridge Medieval History V&VI』 D.Abulafia, M.Jones (Cambridge) 1999-2000, 『A History of Business in Medieval Europe, 1200-1550』 E.Hunt, J. Murray (Cambridge) 1999, 『An Economic and Social History of Later Medieval Europe, 1000-1500』 Steven.A.Epstein (Cambridge) 2009, 『Why the Middle Ages Matter:Medieval Light on Modern Injustice.』 C.Chazelle, S.Doubleday, F.Lifshitz (Routledge) 2012								
指定図書	『西洋中世史事典 I』 シュルツェ（ミネルヴァ書房）1997, 『西洋中世史事典 II』 シュルツェ（ミネルヴァ書房）2005, 『ドイツ法制史概説 改訂版』 ミッターイス・リーベリッヒ（創文社）1971, 『概説西洋法制史』 勝田編（ミネルヴァ書房）2004, 『フランス法制史概説』 マルタン（創文社）1986, 『イングランド法制史概説』 ベイカー（創文社）1975, 『中世の商業革命』 ロベス（法政大学出版局）2007								
参考書									
教員からのお知らせ	適切な訳語や概念、その意味などは講義中に解説するが、受講者は、各自、日本語訳をあらかじめ授業外で行い、質問事項を用意しておくことが望ましい。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部学科にて定めるオフィスアワーにて受け付けます。								
アクティブラーニングの内容	反転授業や講義内容についての意見共有を行う。								
その他									

講義コード	12C0109901	授業形態	講義	抽選の有無	なし	担当教員		開講期	
科目名	経済数学特論3				小林 幹		第1期		
履修前提条件					備考				
授業の目的	本講義では、微分と積分の基礎知識と計算力を身に付けることを主な目的とする。 さらに、それらの知識を経済学の問題に応用出来ることも目的とする。								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 数学的思考を身に付ける。 ・ 微分積分の知識を身に付ける。 ・ 計算問題が解ける。 ・ 応用問題が解ける。 								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	上記に記した授業外の学修は60時間以上行うこと。特に毎授業後の復習は欠かさずに行うこと。								
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> 【第1回】 ガイダンス（微分について） 【第2回】 数列、関数の極限 【第3回】 微分の定義と計算 【第4回】 微分係数、導関数 【第5回】 高次微分、関数の極大極小、グラフの描き方 【第6回】 Taylor の定理とその応用 【第7回】 微分の経済学への応用1 【第8回】 微分の経済学への応用2 【第9回】 ガイダンス（積分について） 【第10回】 積分の定義（不定積分と定積分） 【第11回】 積分の計算1 【第12回】 積分の計算2 【第13回】 積分の応用 【第14回】 積分の経済学への応用 【第15回】 まとめ 								
成績評価の方法	講義中に出题するレポート課題（20%）と最終レポート課題（80%）により評価する。								
フィードバックの内容									
教科書	『経済数学15講』 小林幹、吉田博之（新世社）2020年								
指定図書									
参考書	『明解演習 微分積分』 小寺平治（共立出版）1984								
教員からのお知らせ									
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部学科にて定めるオフィスアワーにて受付けます。								
アクティブラーニングの内容	教員からのフィードバックによる振り返り。								
その他									

講義コード	12C0110001	授業形態	講義	抽選の有無	なし	担当教員		開講期	
科目名	経済数学特論4				小林 幹		第2期		
履修前提条件					備考				
授業の目的	本講義では、多変数関数の微分に関する知識と計算力を身に付けることを主な目的とする。 さらに、それらの知識を経済学の問題に応用出来ることも目的とする。								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 数学的思考を身に付ける。 ・ 偏微分の知識を身に付ける。 ・ 計算問題が解ける。 ・ 簡単な応用問題が解ける。 								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	上記に記した授業外の学修は60時間以上行うこと。とくに毎授業後の復習は欠かさず行うこと。								
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> 【第1回】 ガイダンス（1変数関数の微分についての復習） 【第2回】 多変数関数 【第3回】 多変数関数の極限と連続性 【第4回】 偏微分の定義 【第5回】 全微分の定義 【第6回】 偏微分と接平面 【第7回】 種々の多変数関数における偏導関数1 【第8回】 種々の多変数関数における偏導関数2 【第9回】 高階偏微分 【第10回】 テイラーの定理 【第11回】 多変数関数の極大極小 【第12回】 ラグランジュの未定乗数法 【第13回】 経済学への応用 1 【第14回】 経済学への応用 2 【第15回】 まとめ 								
成績評価の方法	講義で課される課題（20%）と最終レポート（80%）により総評価する。								
フィードバックの内容									
教科書	『経済数学15講』 小林幹、吉田博之（新世社）2020年								
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ									
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部学科にて定めるオフィスアワーにて受付けます。								
アクティブラーニングの内容	教員からのフィードバックによる振り返り。								
その他									

講義コード	12C0110101	授業形態	講義	抽選の有無	なし	担当教員	田中 有紀	開講期	第1期
科目名	国際文化特論 1				田中 有紀		第1期		
履修前提条件					備考				
授業の目的	この授業では、儒家による音楽に関する様々な理論をとりあげ、音楽とは何か、芸術とは何かを考えていきます。								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・中国音楽史の特徴をつかみ、説明することができる。 ・音楽や芸術に関する様々な論文を読み、的確に要約し、批判することができる。 ・自分なりの音楽観・芸術観と授業で学んだことを関連付けながら議論することができる。 								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	<p>この科目では、60時間以上の授業外学修を行うこと。</p> <p>授業外学修では、あらかじめ論文を読解し、その内容をまとめた資料を作成すること。</p> <p>また、第14回・15回は参加者によるプレゼンテーションを予定しており、その準備をしておくこと。</p>								
授業計画	<p>【第1回】 ガイダンス</p> <p>【第2回】 国楽とは何か (論文) 榎本泰子『楽人の都・上海』</p> <p>【第3回】 音楽の「正しさ」 (論文) 田中有紀「朱子学における孟子の今楽思想の展開」</p> <p>【第4回】 荀子における礼と楽 (論文) 池田知久「荀子の性悪説」</p> <p>【第5回】 音楽と喜怒哀楽 (論文) 張前著、石黒健一訳『「声無哀楽論」を読む』、嵯康『声無哀楽論』、シンフォニア、1998、pp.33-50</p> <p>【第6回】 中華とは何か (論文) 中純子『詩人と音楽』、知泉書館、2008、pp.241-264</p> <p>【第7回】 楽器を並べるとはどういうことか (論文) 田中有紀「北宋雅楽における八音の思想：北宋楽器論と陳暘『楽書』、大晟楽』、『中国哲学研究』23、2008、pp.38-94</p> <p>【第8回】 【第9回】 朱子語類「楽」を読む (史料) 朱子語類「楽」</p> <p>【第10回】 「伝統音楽」とは何か (論文) 長井尚子「琴瑟和せず：音楽考古学のバイオリンたちの視点から再考する」、川原秀城編『中国の音楽文化：三千年の歴史と理論』、勉誠出版、2016、pp.45-67</p> <p>【第11回】 実証は理論を越えられるか (論文) 田中有紀「朱載堉の十二平均律における理論と実験」、同上、pp.88-119</p> <p>【第12回】 「踊ること」の意味 (史料) 朱載堉『律呂精義』外篇卷九</p> <p>【第13回】 徐復観の美学研究 (論文) 田中有紀「音楽と修養：移風易俗をめぐる考察」、『UP』566、2019.12、pp.16-22</p> <p>【第14回】 【第15回】 参加者によるプレゼンテーション</p>								
成績評価の方法	論文をまとめた資料の内容 (70%) プレゼンテーションの内容 (30%)								
フィードバックの内容	毎回の課題に対し、メールあるいは授業内で講評を行う。								
教科書									
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ	第1回の授業時に、授業で用いる論文を配布します。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。								
アクティブラーニングの内容	ディスカッション								
その他									

講義コード	12C0110201	授業形態	講義	抽選の有無	なし	担当教員	田中 有紀	開講期	第2期
科目名	国際文化特論2				田中 有紀			第2期	
履修前提条件					備考				
授業の目的	この授業では、中国の科学や技術に関する様々なテーマを扱い、科学とは何か、技術とは何か、またこれらの問題を通して、人間とは何かを考えていきます。								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・中国科学史に関する様々な論文を読み、的確に要約し、批判することができる。 ・科学や技術と人間の関わりについて自分なりの見解を持ち、発表することができる。 								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	この科目では、60時間以上の授業外学修を行うこと。 授業外学修では、あらかじめ論文を読解し、その論文の内容を要約した資料を作成すること。 また、第14回・15回は参加者によるプレゼンテーションを予定しており、その準備をしておくこと。								
授業計画	<p>【第1回】 ガイダンス「中国科学の哲学化」</p> <p>【第2回】 中国の科学思想 (論文) 藪内清「中国の科学思想」</p> <p>【第3回】 【第4回】 技術と科学 (論文) 村田純一『技術の哲学』、岩波書店、2009、p.39-71</p> <p>【第5回】 鉄の思想史 (論文) 田中有紀「鉄の思想史」</p> <p>【第6回】 天文暦法1：漢代の学術と律暦思想 (論文) 川原秀城「三統暦の世界」</p> <p>【第7回】 【第8回】 天文暦法2：中国人の宇宙観 (論文) 藪内清「中国の天文学の発達とその限界」「中国の宇宙構造論」、『藪内清著作集』第3巻、pp.246-258、pp.259-284、臨川書店、2018年</p> <p>【第9回】 天文暦法3：明末清初の天文学 (論文) 藪内清「近世中国に伝えられた西洋天文学」、『藪内清著作集』第3巻、pp.237-245、臨川書店、2018年</p> <p>【第10回】 中国度量衡史 (論文) 「朱子学の楽律思想」、『知のユーラシア：宇宙を駆ける知』、明治書院、2014</p> <p>【第11回】 『周礼』考工記の技術論 (論文) 田中有紀「朱載堉の楽律論における『周礼』考工記・嘉量の制」、『経済学季報』63巻4号、pp.119-155</p> <p>【第12回】 数学：朱子学は術数学か (論文) 川原秀城「朱子学は術数学か」、『数と易の中国思想史』、勉誠出版、2018、pp.39-63</p> <p>【第13回】 新儒家の環境論 (論文) 杜維明《存有の連続性：中国人的自然観》</p> <p>【第14回】 参加者によるプレゼンテーション</p> <p>【第15回】 参加者によるプレゼンテーション</p>								
成績評価の方法	論文を要約した資料の内容 (70%) プレゼンテーションの内容 (30%)								
フィードバックの内容	毎回の課題に対し、メールあるいは授業内で講評を行う。								
教科書									
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ	第1回の授業時に授業で用いる論文を配布します。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。								
アクティブラーニングの内容	ディスカッション								
その他									

講義コード	12C0110501	授業形態	講義	抽選の有無	なし	担当教員	真田 治子	開講期	第1期																
科目名	地域文化特論1				真田 治子		第1期																		
履修前提条件					備考																				
授業の目的	看板や歌詞、誤変換など身近な素材を使って、日本語の構造・意味・用法を学ぶ。また受講者が収集した実例と合わせて討論や要約を行うことで、現代日本語の特徴について学び、正しい日本語で論文が書けるようにする。合わせて学術論文の基本的な構成と各章の役割について学び、研究目的を明確な表現で記述したり、研究目的に合わせた調査内容を設定したりする力を養成する。																								
到達目標	実際に社会の中で使用されている日本語表現について、実例と理論を照合しながら適切な分析を行うことができる。研究目的を、調査内容と不一致がないように、明確な表現で記述できる。日本語の学術論文の記述にふさわしい表現や語彙を正しく使用できる。																								
授業外学修内容・授業外学修時間数	この科目では60時間以上の授業外学修を行うこと。 毎回の授業の前には、次に読む章を下読みし、わからない語句は辞書等で確認しておくこと。 毎回の授業の後には、その授業で読んだ箇所についての要約を完成させ、自分で収集した実例についてコメントをまとめておくこと。 毎回の授業で学んだ表現・語彙、論文の書き方のポイントなどを、自分の論文作成にどのように生かすかを考えてコメントをまとめておくこと。																								
授業計画	<table border="0"> <tr> <td>【第1回】 ガイダンス</td> <td>【第9回】 誤変換・言いまちがい (2)</td> </tr> <tr> <td>【第2回】 看板の日本語 (1)</td> <td>【第10回】 誤変換・言いまちがい (3)</td> </tr> <tr> <td>【第3回】 看板の日本語 (2)</td> <td>【第11回】 学術論文の構成 (1)</td> </tr> <tr> <td>【第4回】 看板の日本語 (3)</td> <td>【第12回】 学術論文の構成 (2)</td> </tr> <tr> <td>【第5回】 直訳日本語の特徴・無料翻訳サイトによる直訳 (1)</td> <td>【第13回】 学術論文の研究計画 (1)</td> </tr> <tr> <td>【第6回】 直訳日本語の特徴・無料翻訳サイトによる直訳 (2)</td> <td>【第14回】 学術論文の研究計画 (2)</td> </tr> <tr> <td>【第7回】 直訳日本語の特徴・無料翻訳サイトによる直訳 (3)</td> <td>【第15回】 まとめ</td> </tr> <tr> <td>【第8回】 誤変換・言いまちがい (1)</td> <td></td> </tr> </table>									【第1回】 ガイダンス	【第9回】 誤変換・言いまちがい (2)	【第2回】 看板の日本語 (1)	【第10回】 誤変換・言いまちがい (3)	【第3回】 看板の日本語 (2)	【第11回】 学術論文の構成 (1)	【第4回】 看板の日本語 (3)	【第12回】 学術論文の構成 (2)	【第5回】 直訳日本語の特徴・無料翻訳サイトによる直訳 (1)	【第13回】 学術論文の研究計画 (1)	【第6回】 直訳日本語の特徴・無料翻訳サイトによる直訳 (2)	【第14回】 学術論文の研究計画 (2)	【第7回】 直訳日本語の特徴・無料翻訳サイトによる直訳 (3)	【第15回】 まとめ	【第8回】 誤変換・言いまちがい (1)	
【第1回】 ガイダンス	【第9回】 誤変換・言いまちがい (2)																								
【第2回】 看板の日本語 (1)	【第10回】 誤変換・言いまちがい (3)																								
【第3回】 看板の日本語 (2)	【第11回】 学術論文の構成 (1)																								
【第4回】 看板の日本語 (3)	【第12回】 学術論文の構成 (2)																								
【第5回】 直訳日本語の特徴・無料翻訳サイトによる直訳 (1)	【第13回】 学術論文の研究計画 (1)																								
【第6回】 直訳日本語の特徴・無料翻訳サイトによる直訳 (2)	【第14回】 学術論文の研究計画 (2)																								
【第7回】 直訳日本語の特徴・無料翻訳サイトによる直訳 (3)	【第15回】 まとめ																								
【第8回】 誤変換・言いまちがい (1)																									
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢 (30%)、授業中や授業後に作成する要約 (40%)、レポート (30%)																								
フィードバックの内容	課題に対する講評を後の授業の中で行う。																								
教科書	『私たちの日本語』定延利之・森篤嗣・茂木俊伸・金田純平(朝倉書店)2012年、『大学生と留学生のための論文ワークブック』浜田麻里・平尾得子・由井紀久子(くろしお出版)1997年																								
指定図書																									
参考書																									
教員からのお知らせ	上記以外の参考書は授業中に適宜指示する。																								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部学科にて定めるオフィスアワーにて受付けます。																								
アクティブラーニングの内容	意見共有、能動的な授業外学習など																								
その他																									

講義コード	12C0110601	授業形態	講義	抽選の有無	なし	担当教員	真田 治子	開講期	第2期																
科目名	地域文化特論2				真田 治子		第2期																		
履修前提条件					備考																				
授業の目的	「はくはうなぎだ」(うなぎ文)や、「チョー」(超)のようなカタカナ表記など身近な素材を使って、日本語の構造・意味・用法を学ぶ。また受講者が収集した実例と合わせて討論や要約を行うことで、現代日本語の特徴について学び、正しい日本語で論文が書けるようにする。合わせて学術論文の基本的な構成と各章の役割について学び、研究目的を明確な表現で記述したり、研究目的に合わせた調査内容を設定したりする力を養成する。																								
到達目標	実際に社会の中で使用されている日本語表現について、実例と理論を照合しながら適切な分析を行うことができる。研究目的を、調査内容と不一致がないように、明確な表現で記述できる。日本語の学術論文の記述にふさわしい表現や語彙を正しく使用できる。																								
授業外学修内容・授業外学修時間数	この科目では60時間以上の授業外学修を行うこと。 毎回の授業の前には、次に読む章を下読みし、わからない語句は辞書等で確認しておくこと。 毎回の授業の後には、その授業で読んだ箇所についての要約を完成させ、自分で収集した実例についてコメントをまとめておくこと。 毎回の授業で学んだ表現・語彙、論文の書き方のポイントなどを、自分の論文作成にどのように生かすかを考えてコメントをまとめておくこと。																								
授業計画	<table border="0"> <tr> <td>【第1回】 ガイダンス</td> <td>【第9回】 カタカナ表記の特徴 (1)</td> </tr> <tr> <td>【第2回】 学術論文の目的の書き方 (1)</td> <td>【第10回】 カタカナ表記の特徴 (2)</td> </tr> <tr> <td>【第3回】 学術論文の目的の書き方 (2)</td> <td>【第11回】 カタカナ表記の特徴 (3)</td> </tr> <tr> <td>【第4回】 学術論文にふさわしい表現 (1)</td> <td>【第12回】 文字表現・フォントと声の対応 (1)</td> </tr> <tr> <td>【第5回】 学術論文にふさわしい表現 (2)</td> <td>【第13回】 文字表現・フォントと声の対応 (2)</td> </tr> <tr> <td>【第6回】 うなぎ文・話しことばと書きことば (1)</td> <td>【第14回】 文字表現・フォントと声の対応 (3)</td> </tr> <tr> <td>【第7回】 うなぎ文・話しことばと書きことば (2)</td> <td>【第15回】 まとめ</td> </tr> <tr> <td>【第8回】 うなぎ文・話しことばと書きことば (3)</td> <td></td> </tr> </table>									【第1回】 ガイダンス	【第9回】 カタカナ表記の特徴 (1)	【第2回】 学術論文の目的の書き方 (1)	【第10回】 カタカナ表記の特徴 (2)	【第3回】 学術論文の目的の書き方 (2)	【第11回】 カタカナ表記の特徴 (3)	【第4回】 学術論文にふさわしい表現 (1)	【第12回】 文字表現・フォントと声の対応 (1)	【第5回】 学術論文にふさわしい表現 (2)	【第13回】 文字表現・フォントと声の対応 (2)	【第6回】 うなぎ文・話しことばと書きことば (1)	【第14回】 文字表現・フォントと声の対応 (3)	【第7回】 うなぎ文・話しことばと書きことば (2)	【第15回】 まとめ	【第8回】 うなぎ文・話しことばと書きことば (3)	
【第1回】 ガイダンス	【第9回】 カタカナ表記の特徴 (1)																								
【第2回】 学術論文の目的の書き方 (1)	【第10回】 カタカナ表記の特徴 (2)																								
【第3回】 学術論文の目的の書き方 (2)	【第11回】 カタカナ表記の特徴 (3)																								
【第4回】 学術論文にふさわしい表現 (1)	【第12回】 文字表現・フォントと声の対応 (1)																								
【第5回】 学術論文にふさわしい表現 (2)	【第13回】 文字表現・フォントと声の対応 (2)																								
【第6回】 うなぎ文・話しことばと書きことば (1)	【第14回】 文字表現・フォントと声の対応 (3)																								
【第7回】 うなぎ文・話しことばと書きことば (2)	【第15回】 まとめ																								
【第8回】 うなぎ文・話しことばと書きことば (3)																									
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢 (30%)、授業中や授業後に作成する要約 (40%)、レポート (30%)																								
フィードバックの内容	課題に対する講評を後の授業の中で行う。																								
教科書	『私たちの日本語』定延利之・森篤嗣・茂木俊伸・金田純平(朝倉書店)2012年、『大学生と留学生のための論文ワークブック』浜田麻里・平尾得子・由井紀久子(くろしお出版)1997年																								
指定図書																									
参考書																									
教員からのお知らせ	上記以外の参考書は授業中に適宜指示する。																								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部学科にて定めるオフィスアワーにて受付けます。																								
アクティブラーニングの内容	意見共有、能動的な授業外学習など																								
その他																									

講義コード	12C0110701	授業形態	講義	抽選の有無	なし	担当教員	森山 秀二	開講期	第1期																
科目名	地域文化特論3																								
履修前提条件					備考																				
授業の目的	<p>現在、中国は資本主義的な経済手法を導入して、社会主義体制を維持しつつ経済発展を実現させようという壮大な実験に取りかかって、はや三十数年を経過しました。いささか矛盾を孕んだ船出を疑問視する声をよそに、世界の「製造工場」とまで呼ばれた一時期も乗り越え、世界経済の動向を大きく左右する巨大市場へと成長を遂げました。もはや中国抜きに世界経済を語ることはできないでしょう。</p> <p>超近代的なビル群の建ちならぶ経済発展を実現した中国諸都市の景観を眺めていると、儒教文化や道徳を背景とする伝統的な中国社会との大きな落差、隔たりを感じがちですが、伝統中国から現代に至る、一つの連続した国家・地域・民族の歴史文化として改めて見直してみると、それほど隔たりがあるわけではなく、初期の漢民族のみの国家から、周辺諸民族との闘争や融合を通して、よりグローバルな多民族が共生し合う巨大国家へと、まさに「中華思想」を体現しつつ、この「中国」が形成されてきたことが理解されることでしょう。</p> <p>しかし、習近平政権となった現在、アメリカとの貿易、経済を巡る対立が深刻化し、世界経済にも暗い影を落としています。こうした世界の主導権や最先端技術をめぐって、しのぎを削る対立の中で、中国は果たしてどこに向かって行こうとしているのでしょうか、みなさんとともに考えたいと思います。</p>																								
到達目標	<p>この授業では、伝統中国社会のあり方を意識しつつ、現在の中国社会に起こる諸問題を取り上げて、それらを巨視的な解析することを通して、改めて現代「中国」に起こりつつあることの意味を問い直してみたいと思います。この授業を通して、みなさんには①中国の伝統社会における政治的な思想を理解でき、②中国における現在の経済社会情勢を理解でき、③現代世界における中国に対する考え方を認識できるよう取り組みたいと思います。十分にはできないとは思いますが、よろしくお願ひします。</p>																								
授業外学修内容・授業外学修時間数	<p>この授業では主に新聞や雑誌等を資料（毎回教員が準備配布します）に、中国を中心とした現代社会の動向を追っかけたいと思っています。参加者は各自の参加意識に応じて、積極的にそうした資料や情報を検索、収集して、自身の問題意識を高めてください。この科目では60時間以上の授業外学修を行うこと。</p>																								
授業計画	<table border="0"> <tr> <td>【第1回】 授業ガイダンス</td> <td>【第9回】 中国現代社会の実状、資料読解⑤</td> </tr> <tr> <td>【第2回】 現代中国と伝統中国、概観①</td> <td>【第10回】 中国現代社会の実状、資料読解⑥</td> </tr> <tr> <td>【第3回】 現代中国と伝統中国、概観②</td> <td>【第11回】 中国現代社会の実状、資料読解⑦</td> </tr> <tr> <td>【第4回】 現代中国と伝統中国、概観③</td> <td>【第12回】 中国現代社会の実状、資料読解⑧</td> </tr> <tr> <td>【第5回】 中国現代社会の実状、資料読解①</td> <td>【第13回】 受講生発表①</td> </tr> <tr> <td>【第6回】 中国現代社会の実状、資料読解②</td> <td>【第14回】 受講生発表②</td> </tr> <tr> <td>【第7回】 中国現代社会の実状、資料読解③</td> <td>【第15回】 前期講義のまとめ</td> </tr> <tr> <td>【第8回】 中国現代社会の実状、資料読解④</td> <td></td> </tr> </table>									【第1回】 授業ガイダンス	【第9回】 中国現代社会の実状、資料読解⑤	【第2回】 現代中国と伝統中国、概観①	【第10回】 中国現代社会の実状、資料読解⑥	【第3回】 現代中国と伝統中国、概観②	【第11回】 中国現代社会の実状、資料読解⑦	【第4回】 現代中国と伝統中国、概観③	【第12回】 中国現代社会の実状、資料読解⑧	【第5回】 中国現代社会の実状、資料読解①	【第13回】 受講生発表①	【第6回】 中国現代社会の実状、資料読解②	【第14回】 受講生発表②	【第7回】 中国現代社会の実状、資料読解③	【第15回】 前期講義のまとめ	【第8回】 中国現代社会の実状、資料読解④	
【第1回】 授業ガイダンス	【第9回】 中国現代社会の実状、資料読解⑤																								
【第2回】 現代中国と伝統中国、概観①	【第10回】 中国現代社会の実状、資料読解⑥																								
【第3回】 現代中国と伝統中国、概観②	【第11回】 中国現代社会の実状、資料読解⑦																								
【第4回】 現代中国と伝統中国、概観③	【第12回】 中国現代社会の実状、資料読解⑧																								
【第5回】 中国現代社会の実状、資料読解①	【第13回】 受講生発表①																								
【第6回】 中国現代社会の実状、資料読解②	【第14回】 受講生発表②																								
【第7回】 中国現代社会の実状、資料読解③	【第15回】 前期講義のまとめ																								
【第8回】 中国現代社会の実状、資料読解④																									
成績評価の方法	<p>授業中の発表1回（40%）、レポート1回（40%）を主な評価とするが、毎回の授業への取り組み（10%）や、授業中の質問や意見・説明等も（10%）評価に取り入れる。</p>																								
フィードバックの内容	<p>授業は一方的な講義形式ではなく、参考資料と一緒に読解しつつ、意見交換する形で進めます。その都度、進め方や資料探索、提供、解説等、希望に応じて対応する予定。</p>																								
教科書																									
指定図書																									
参考書																									
教員からのお知らせ																									
オフィスアワー	<p>本授業に関する質問・相談は、学部学科にて定めるオフィスアワーにて受付けます。森山のオフィスアワーは金曜日2時限を予定しています。その他、希望に応じ随時対応します。</p>																								
アクティブラーニングの内容	<p>この授業は Teams を使って資料提供したり、関連情報を検索したりしながら進めます。皆さんに発表頂く場合も、Teams に自身のデータや情報を UP していただく形で、行います。</p> <p>実質的には資料を読みながら、演習のような形で、意見交換や理解の確認をしながら進めます。みなさんの積極的な発言を期待しています。</p>																								
その他																									

講義コード	12C0110801	授業形態	講義	抽選の有無	なし	担当教員	森山 秀二	開講期	第2期																
科目名	地域文化特論4																								
履修前提条件					備考																				
授業の目的	<p>現在、中国は資本主義的な経済手法を導入して、社会主義体制を維持しつつ経済発展を実現させようという壮大な実験に取りかかって、はや三十年が経過しました。いささか矛盾を孕んだ船出を疑問視する声をよそに、世界の「製造工場」とまで呼ばれた一時期も乗り越え、世界経済の動向を大きく左右する巨大市場へと成長を遂げました。もはや中国抜きに世界経済を語ることはできないでしょう。</p> <p>超近代的なビル群の建ちならぶ経済発展を実現した中国諸都市の景観を眺めていると、儒教文化や道徳を背景とする伝統的な中国社会との大きな落差、隔たりを感じがちですが、伝統中国から現代に至る、一つの連続した国家・地域・民族の歴史文化として改めて見直してみると、それほど隔たりがあるわけではなく、初期の漢民族のみの国家から、周辺諸民族との闘争や融合を通して、よりグローバルな多民族が共生し合う巨大国家へと、まさに「中華思想」を体現しつつ、この「中国」が形成されてきたことが理解されることでしょう。</p> <p>しかし、習近平政権となった現在、アメリカとの貿易、経済を巡る対立が深刻化し、世界経済にも暗い影を落としています。こうした世界の主導権や最先端技術をめぐって、しのぎを削る対立の中で、中国は果たしてどこに向かって行こうとしているのでしょうか、みなさんとともに考えたいと思います。</p>																								
到達目標	<p>この授業では、伝統中国社会のあり方を意識しつつ、現在の中国社会に起こる諸問題を取り上げて、それらを巨視的な解析することを通して、改めて現代「中国」に起こりつつあることの意味を問い直してみたいと思います。この授業を通して、みなさんには①中国の伝統社会における政治的な思想を理解でき、②中国における現在の経済社会情勢を理解でき、③現代世界における中国に対する考え方を認識できるよう取り組みたいと思います。十分にはできないとは思いますが、よろしくお願ひします。</p>																								
授業外学修内容・授業外学修時間数	<p>この授業では主に新聞や雑誌等を資料（毎回教員が準備配布します）に、中国を中心とした現代社会の動向を追っかけたいと思っています。参加者は各自の参加意識に応じて、積極的にそうした資料や情報を検索、収集して、自身の問題意識を高めてください。この科目では、60時間以上の授業外学修を行うこと。</p>																								
授業計画	<table border="0"> <tr> <td>【第1回】 初回ガイダンス 中国現代社会の実状、資料読解①</td> <td>【第9回】 中国現代社会の実状、資料読解⑨</td> </tr> <tr> <td>【第2回】 中国現代社会の実状、資料読解②</td> <td>【第10回】 中国現代社会の実状、資料読解⑩</td> </tr> <tr> <td>【第3回】 中国現代社会の実状、資料読解③</td> <td>【第11回】 中国現代社会の実状、資料読解⑪</td> </tr> <tr> <td>【第4回】 中国現代社会の実状、資料読解④</td> <td>【第12回】 中国現代社会の実状、資料読解⑫</td> </tr> <tr> <td>【第5回】 中国現代社会の実状、資料読解⑤</td> <td>【第13回】 受講生発表①</td> </tr> <tr> <td>【第6回】 中国現代社会の実状、資料読解⑥</td> <td>【第14回】 受講生発表②</td> </tr> <tr> <td>【第7回】 中国現代社会の実状、資料読解⑦</td> <td>【第15回】 後期授業のまとめ、講評</td> </tr> <tr> <td>【第8回】 中国現代社会の実状、資料読解⑧</td> <td></td> </tr> </table>									【第1回】 初回ガイダンス 中国現代社会の実状、資料読解①	【第9回】 中国現代社会の実状、資料読解⑨	【第2回】 中国現代社会の実状、資料読解②	【第10回】 中国現代社会の実状、資料読解⑩	【第3回】 中国現代社会の実状、資料読解③	【第11回】 中国現代社会の実状、資料読解⑪	【第4回】 中国現代社会の実状、資料読解④	【第12回】 中国現代社会の実状、資料読解⑫	【第5回】 中国現代社会の実状、資料読解⑤	【第13回】 受講生発表①	【第6回】 中国現代社会の実状、資料読解⑥	【第14回】 受講生発表②	【第7回】 中国現代社会の実状、資料読解⑦	【第15回】 後期授業のまとめ、講評	【第8回】 中国現代社会の実状、資料読解⑧	
【第1回】 初回ガイダンス 中国現代社会の実状、資料読解①	【第9回】 中国現代社会の実状、資料読解⑨																								
【第2回】 中国現代社会の実状、資料読解②	【第10回】 中国現代社会の実状、資料読解⑩																								
【第3回】 中国現代社会の実状、資料読解③	【第11回】 中国現代社会の実状、資料読解⑪																								
【第4回】 中国現代社会の実状、資料読解④	【第12回】 中国現代社会の実状、資料読解⑫																								
【第5回】 中国現代社会の実状、資料読解⑤	【第13回】 受講生発表①																								
【第6回】 中国現代社会の実状、資料読解⑥	【第14回】 受講生発表②																								
【第7回】 中国現代社会の実状、資料読解⑦	【第15回】 後期授業のまとめ、講評																								
【第8回】 中国現代社会の実状、資料読解⑧																									
成績評価の方法	<p>授業中の発表1回（40%）、レポート1回（40%）を主な評価とするが、毎回の授業への取り組み（10%）や、授業中の質問や意見・説明等も（10%）評価に取り入れる。</p>																								
フィードバックの内容	<p>授業は一方的な講義形式ではなく、参考資料と一緒に読解しつつ、意見交換する形で進めます。その都度、進め方や資料探索、提供、解説等、希望に応じて対応する予定。</p>																								
教科書																									
指定図書																									
参考書																									
教員からのお知らせ																									
オフィスアワー	<p>本授業に関する質問・相談は、学部学科にて定めるオフィスアワーにて受け付けます。 森山のオフィスアワーは金曜日2時限を予定しています。その他、希望に応じ随時対応します。</p>																								
アクティブラーニングの内容	<p>この授業は Teams を使って資料提供したり、関連情報を検索したりしながら進めます。皆さんに発表頂く場合も、Teams に自身のデータや情報を UP していただく形で、行います。 実質的には資料を読みながら、演習のような形で、意見交換や理解の確認をしながら進めます。みなさんの積極的な発言を期待しています。</p>																								
その他																									

講義コード	12C0110901	授業形態	講義	抽選の有無	なし	担当教員	開講期
科目名	特講1(通時的マクロ経済理論1)				慶田 昌之		第1期
履修前提条件					備考		
授業の目的	経済成長と景気循環に関する通時的マクロ経済モデルの理解を深める。						
到達目標	通時的マクロ経済モデルを用いて経済成長と景気循環に関する分析が可能となるように、モデルに習熟する。						
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	この講義の授業外学習時間は60時間必要である。教科書を読み、理解できない点を明らかにして講義に臨むこと。						
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> 【第1回】 合理的期待形成仮説 (1) 【第2回】 合理的期待形成仮説 (2) 【第3回】 資産価格と資本蓄積 【第4回】 新古典派成長モデル (1) 【第5回】 新古典派成長モデル (2) 【第6回】 新古典派成長モデルの実証的含意 【第7回】 世代重複モデル (1) 【第8回】 世代重複モデル (2) 【第9回】 世代重複モデル (3) 【第8回】 消費の恒常所得仮説 【第9回】 調整費用とトービンのq (1) 【第10回】 調整費用とトービンのq (2) 【第11回】 消費パターンの平準化と資産価格 【第12回】 不確実性と資産価格 (1) 【第13回】 不確実性と資産価格 (2) 【第14回】 資産市場と情報の伝達 【第15回】 資産価格決定モデルの実証研究 						
成績評価の方法	講義内の小テストの成績による (100%)。						
フィードバックの内容							
教科書	『新しいマクロ経済学：クラシカルとケインジアン邂逅』 齊藤 誠 (有斐閣) 2006						
指定図書							
参考書							
教員からのお知らせ	この講義内容を理解するためには、数学、特に微分の知識を必要とする。						
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部学科にて定めるオフィスアワーにて受付けます。						
アクティブラーニングの内容	意見共有						
その他							

講義コード	12C0110902	授業形態	講義	抽選の有無	なし	担当教員	開講期
科目名	特講2(通時的マクロ経済理論2)				慶田 昌之		第2期
履修前提条件					備考		
授業の目的	経済成長と景気循環に関する通時的マクロ経済モデルの理解を深める。						
到達目標	通時的マクロ経済モデルを用いて経済成長と景気循環に関する分析が可能となるように、モデルに習熟する。						
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	この講義の授業外学習時間は60時間必要である。教科書を読み、理解できない点を明らかにして講義に臨むこと。						
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> 【第1回】 新古典派成長モデルの含意と実証的事実 (1) 【第2回】 新古典派成長モデルの含意と実証的事実 (2) 【第3回】 情報の非対称性と資金調達 (1) 【第4回】 情報の非対称性と資金調達 (2) 【第5回】 担保と資金調達 (1) 【第6回】 担保と資金調達 (2) 【第7回】 協調の失敗：サーチ・モデル (1) 【第8回】 協調の失敗：サーチ・モデル (2) 【第9回】 内生的成長モデル (1) 【第10回】 内生的成長モデル (2) 【第11回】 内生的成長モデル (3) 【第12回】 情報の不完全性と金融政策 (1) 【第13回】 情報の不完全性と金融政策 (2) 【第14回】 名目価格の硬直性と金融政策 (1) 【第15回】 名目価格の硬直性と金融政策 (2) 						
成績評価の方法	講義内の小テストの成績による (100%)。						
フィードバックの内容							
教科書	『新しいマクロ経済学：クラシカルとケインジアン邂逅』 齊藤 誠 (有斐閣) 2006						
指定図書							
参考書							
教員からのお知らせ	この講義内容を理解するためには、数学、特に微分の知識を必要とする。						
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部学科にて定めるオフィスアワーにて受付けます。						
アクティブラーニングの内容	意見共有						
その他							

講義コード	12C0111702	授業形態	演習	抽選の有無	なし	担当教員	戎野 淑子	開講期	通年
科目名	演習 I (戎野)				担当教員		戎野 淑子	開講期	
履修前提条件					備考				
授業の目的	本演習は、修士課程の新入生を対象とし、履修者の問題意識に沿いつつ、学位論文作成準備のための研究指導を行うものである。授業の目的は、各自の研究分野に関する諸問題の発見能力およびそれら諸問題を解決するための分析能力を涵養することにある。具体的な演習内容と授業の実施方式は各開講教員に委ねられている。								
到達目標	1. 自らの研究分野に関わる重要な問題について説明できる。 2. 自らの研究分野に関わる諸問題を発見し、それらを適切な方法で分析できる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	1. 研究課題に関する文献を幅広く渉猟し、当該研究分野における重要な問題の発見に努めること。 2. 授業時に出されたコメントや助言をよく理解し、これらを踏まえつつ問題解決に向けて複数の分析手法の修得に努めること。 これらを併せて、合計120時間以上の授業外学修を行うこと。								
授業計画	【第1回】第1期授業日程と授業運営方法の説明 【第2回】研究課題選定の技法1 【第3回】研究課題選定の技法2 【第4回】研究課題選定の技法3 【第5回】学位論文の構想1 【第6回】学位論文の構想2 【第7回】学位論文の構想3 【第8回】学位論文の資料収集と読解1 【第9回】学位論文の資料収集と読解2 【第10回】学位論文の資料収集と読解3 【第11回】学位論文の資料収集と読解4 【第12回】学位論文の資料作成法1 【第13回】学位論文の資料作成法2 【第14回】学位論文の資料作成法3 【第15回】総括				【第16回】第2期授業日程と授業運営方法の説明 【第17回】学位論文の作成技法1 【第18回】学位論文の作成技法2 【第19回】学位論文の作成技法3 【第20回】学位論文の作成技法4 【第21回】論文作成1 【第22回】論文作成2 【第23回】論文作成3 【第24回】論文作成4 【第25回】論文作成5 【第26回】論文作成6 【第27回】論文作成7 【第28回】論文作成8 【第29回】論文作成9 【第30回】総括				
成績評価の方法	原則としては、授業への取り組み姿勢(30%)、発表・討論(50%)および最終課題(レポート等)(20%)によって評価するが、各担当教員によって変更の可能性があるので事前に確認しておくこと。								
フィードバックの内容	報告や論文に対するコメントを授業時に行う。								
教科書									
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ									
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部にて定めている各教員のオフィスアワーにて受け付ける。また、WebClassのメッセージ機能でも受け付ける(利用方法はポータルサイト、ライブラリ内のマニュアルを参照)。								
アクティブラーニングの内容	演習、教員からのフィードバックによる振り返り、ディベート、プレゼンテーション								
その他									

講義コード	12C0111703	授業形態	演習	抽選の有無	なし	担当教員	苑 志佳	開講期	通年
科目名	演習 I (苑)				担当教員		苑 志佳	開講期	
履修前提条件					備考				
授業の目的	本演習は、修士課程の新入生を対象とし、履修者の問題意識に沿いつつ、学位論文作成準備のための研究指導を行うものである。授業の目的は、各自の研究分野に関する諸問題の発見能力およびそれら諸問題を解決するための分析能力を涵養することにある。具体的な演習内容と授業の実施方式は各開講教員に委ねられている。								
到達目標	1. 自らの研究分野に関わる重要な問題について説明できる。 2. 自らの研究分野に関わる諸問題を発見し、それらを適切な方法で分析できる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	1. 研究課題に関する文献を幅広く渉猟し、当該研究分野における重要な問題の発見に努めること。 2. 授業時に出されたコメントや助言をよく理解し、これらを踏まえつつ問題解決に向けて複数の分析手法の修得に努めること。 これらを併せて、合計120時間以上の授業外学修を行うこと。								
授業計画	【第1回】第1期授業日程と授業運営方法の説明 【第2回】研究課題選定の技法1 【第3回】研究課題選定の技法2 【第4回】研究課題選定の技法3 【第5回】学位論文の構想1 【第6回】学位論文の構想2 【第7回】学位論文の構想3 【第8回】学位論文の資料収集と読解1 【第9回】学位論文の資料収集と読解2 【第10回】学位論文の資料収集と読解3 【第11回】学位論文の資料収集と読解4 【第12回】学位論文の資料作成法1 【第13回】学位論文の資料作成法2 【第14回】学位論文の資料作成法3 【第15回】総括				【第16回】第2期授業日程と授業運営方法の説明 【第17回】学位論文の作成技法1 【第18回】学位論文の作成技法2 【第19回】学位論文の作成技法3 【第20回】学位論文の作成技法4 【第21回】論文作成1 【第22回】論文作成2 【第23回】論文作成3 【第24回】論文作成4 【第25回】論文作成5 【第26回】論文作成6 【第27回】論文作成7 【第28回】論文作成8 【第29回】論文作成9 【第30回】総括				
成績評価の方法	原則としては、授業への取り組み姿勢(30%)、発表・討論(50%)および最終課題(レポート等)(20%)によって評価するが、各担当教員によって変更の可能性があるので事前に確認しておくこと。								
フィードバックの内容	報告や論文に対するコメントを授業時に行う。								
教科書									
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ									
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部にて定めている各教員のオフィスアワーにて受け付ける。また、WebClassのメッセージ機能でも受け付ける(利用方法はポータルサイト、ライブラリ内のマニュアルを参照)。								
アクティブラーニングの内容	演習、教員からのフィードバックによる振り返り、ディベート、プレゼンテーション								
その他									

講義コード	12C0111704	授業形態	演習	抽選の有無	なし	担当教員	王 在詰	開講期	通年
科目名	演習 I (王在詰)								
履修前提条件					備考				
授業の目的	本演習は、修士課程の新入生を対象とし、履修者の問題意識に沿いつつ、学位論文作成準備のための研究指導を行うものである。授業の目的は、各自の研究分野に関する諸問題の発見能力およびそれら諸問題を解決するための分析能力を涵養することにある。具体的な演習内容と授業の実施方式は各開講教員に委ねられている。								
到達目標	1. 自らの研究分野に関わる重要な問題について説明できる。 2. 自らの研究分野に関わる諸問題を発見し、それらを適切な方法で分析できる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	1. 研究課題に関する文献を幅広く渉猟し、当該研究分野における重要な問題の発見に努めること。 2. 授業時に出されたコメントや助言をよく理解し、これらを踏まえつつ問題解決に向けて複数の分析手法の修得に努めること。 これらを併せて、合計120時間以上の授業外学修を行うこと。								
授業計画	【第1回】 第1期授業日程と授業運営方法の説明 【第2回】 研究課題選定の技法1 【第3回】 研究課題選定の技法2 【第4回】 研究課題選定の技法3 【第5回】 学位論文の構想1 【第6回】 学位論文の構想2 【第7回】 学位論文の構想3 【第8回】 学位論文の資料収集と読解1 【第9回】 学位論文の資料収集と読解2 【第10回】 学位論文の資料収集と読解3 【第11回】 学位論文の資料収集と読解4 【第12回】 学位論文の資料作成法1 【第13回】 学位論文の資料作成法2 【第14回】 学位論文の資料作成法3 【第15回】 総括				【第16回】 第2期授業日程と授業運営方法の説明 【第17回】 学位論文の作成技法1 【第18回】 学位論文の作成技法2 【第19回】 学位論文の作成技法3 【第20回】 学位論文の作成技法4 【第21回】 論文作成1 【第22回】 論文作成2 【第23回】 論文作成3 【第24回】 論文作成4 【第25回】 論文作成5 【第26回】 論文作成6 【第27回】 論文作成7 【第28回】 論文作成8 【第29回】 論文作成9 【第30回】 総括				
成績評価の方法	原則としては、授業への取り組み姿勢 (30%)、発表・討論 (50%) および最終課題 (レポート等) (20%) によって評価するが、各担当教員によって変更の可能性があるので事前に確認しておくこと。								
フィードバックの内容	報告や論文に対するコメントを授業時に行う。								
教科書									
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ									
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部にて定めている各教員のオフィスアワーにて受け付ける。また、WebClass のメッセージ機能でも受け付ける (利用方法はポータルサイト、ライブラリ内のマニュアルを参照)。								
アクティブラーニングの内容	演習、教員からのフィードバックによる振り返り、ディベート、プレゼンテーション								
その他									

講義コード	12C0111705	授業形態	演習	抽選の有無	なし	担当教員	王 ゼイ	開講期	通年
科目名	演習 I (王ゼイ)								
履修前提条件					備考				
授業の目的	本演習は、修士課程の新入生を対象とし、履修者の問題意識に沿いつつ、学位論文作成準備のための研究指導を行うものである。授業の目的は、各自の研究分野に関する諸問題の発見能力およびそれら諸問題を解決するための分析能力を涵養することにある。具体的な演習内容と授業の実施方式は各開講教員に委ねられている。								
到達目標	1. 自らの研究分野に関わる重要な問題について説明できる。 2. 自らの研究分野に関わる諸問題を発見し、それらを適切な方法で分析できる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	1. 研究課題に関する文献を幅広く渉猟し、当該研究分野における重要な問題の発見に努めること。 2. 授業時に出されたコメントや助言をよく理解し、これらを踏まえつつ問題解決に向けて複数の分析手法の修得に努めること。 これらを併せて、合計120時間以上の授業外学修を行うこと。								
授業計画	【第1回】 第1期授業日程と授業運営方法の説明 【第2回】 研究課題選定の技法1 【第3回】 研究課題選定の技法2 【第4回】 研究課題選定の技法3 【第5回】 学位論文の構想1 【第6回】 学位論文の構想2 【第7回】 学位論文の構想3 【第8回】 学位論文の資料収集と読解1 【第9回】 学位論文の資料収集と読解2 【第10回】 学位論文の資料収集と読解3 【第11回】 学位論文の資料収集と読解4 【第12回】 学位論文の資料作成法1 【第13回】 学位論文の資料作成法2 【第14回】 学位論文の資料作成法3 【第15回】 総括				【第16回】 第2期授業日程と授業運営方法の説明 【第17回】 学位論文の作成技法1 【第18回】 学位論文の作成技法2 【第19回】 学位論文の作成技法3 【第20回】 学位論文の作成技法4 【第21回】 論文作成1 【第22回】 論文作成2 【第23回】 論文作成3 【第24回】 論文作成4 【第25回】 論文作成5 【第26回】 論文作成6 【第27回】 論文作成7 【第28回】 論文作成8 【第29回】 論文作成9 【第30回】 総括				
成績評価の方法	原則としては、授業への取り組み姿勢 (30%)、発表・討論 (50%) および最終課題 (レポート等) (20%) によって評価するが、各担当教員によって変更の可能性があるので事前に確認しておくこと。								
フィードバックの内容	報告や論文に対するコメントを授業時に行う。								
教科書									
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ									
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部にて定めている各教員のオフィスアワーにて受け付ける。また、WebClass のメッセージ機能でも受け付ける (利用方法はポータルサイト、ライブラリ内のマニュアルを参照)。								
アクティブラーニングの内容	演習、教員からのフィードバックによる振り返り、ディベート、プレゼンテーション								
その他									

講義コード	12C0111707	授業形態	演習	抽選の有無	なし	担当教員	小沢 佳史	開講期	通年
科目名	演習 I (小沢佳)				小沢 佳史		通年		
履修前提条件					備考				
授業の目的	本演習は、修士課程の新入生を対象とし、履修者の問題意識に沿いつつ、学位論文作成準備のための研究指導を行うものである。授業の目的は、各自の研究分野に関する諸問題の発見能力およびそれら諸問題を解決するための分析能力を涵養することにある。具体的な演習内容と授業の実施方式は各開講教員に委ねられている。								
到達目標	1. 自らの研究分野に関わる重要な問題について説明できる。 2. 自らの研究分野に関わる諸問題を発見し、それらを適切な方法で分析できる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	1. 研究課題に関する文献を幅広く渉猟し、当該研究分野における重要な問題の発見に努めること。 2. 授業時に出されたコメントや助言をよく理解し、これらを踏まえつつ問題解決に向けて複数の分析手法の修得に努めること。 これらを併せて、合計120時間以上の授業外学修を行うこと。								
授業計画	【第1回】第1期授業日程と授業運営方法の説明 【第2回】研究課題選定の技法1 【第3回】研究課題選定の技法2 【第4回】研究課題選定の技法3 【第5回】学位論文の構想1 【第6回】学位論文の構想2 【第7回】学位論文の構想3 【第8回】学位論文の資料収集と読解1 【第9回】学位論文の資料収集と読解2 【第10回】学位論文の資料収集と読解3 【第11回】学位論文の資料収集と読解4 【第12回】学位論文の資料作成法1 【第13回】学位論文の資料作成法2 【第14回】学位論文の資料作成法3 【第15回】総括				【第16回】第2期授業日程と授業運営方法の説明 【第17回】学位論文の作成技法1 【第18回】学位論文の作成技法2 【第19回】学位論文の作成技法3 【第20回】学位論文の作成技法4 【第21回】論文作成1 【第22回】論文作成2 【第23回】論文作成3 【第24回】論文作成4 【第25回】論文作成5 【第26回】論文作成6 【第27回】論文作成7 【第28回】論文作成8 【第29回】論文作成9 【第30回】総括				
成績評価の方法	原則としては、授業への取り組み姿勢(30%)、発表・討論(50%)および最終課題(レポート等)(20%)によって評価するが、各担当教員によって変更の可能性があるので事前に確認しておくこと。								
フィードバックの内容	報告や論文に対するコメントを授業時に行う。								
教科書									
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ									
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部にて定めている各教員のオフィスアワーにて受け付ける。また、WebClassのメッセージ機能でも受け付ける(利用方法はポータルサイト、ライブラリ内のマニュアルを参照)。								
アクティブラーニングの内容	演習、教員からのフィードバックによる振り返り、ディベート、プレゼンテーション								
その他									

講義コード	12C0111709	授業形態	演習	抽選の有無	なし	担当教員	小野崎 保	開講期	通年
科目名	演習 I (小野崎)				小野崎 保		通年		
履修前提条件					備考				
授業の目的	本演習は、修士課程の新入生を対象とし、履修者の問題意識に沿いつつ、学位論文作成準備のための研究指導を行うものである。授業の目的は、各自の研究分野に関する諸問題の発見能力およびそれら諸問題を解決するための分析能力を涵養することにある。具体的な演習内容と授業の実施方式は各開講教員に委ねられている。								
到達目標	1. 自らの研究分野に関わる重要な問題について説明できる。 2. 自らの研究分野に関わる諸問題を発見し、それらを適切な方法で分析できる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	1. 研究課題に関する文献を幅広く渉猟し、当該研究分野における重要な問題の発見に努めること。 2. 授業時に出されたコメントや助言をよく理解し、これらを踏まえつつ問題解決に向けて複数の分析手法の修得に努めること。 これらを併せて、合計120時間以上の授業外学修を行うこと。								
授業計画	【第1回】第1期授業日程と授業運営方法の説明 【第2回】研究課題選定の技法1 【第3回】研究課題選定の技法2 【第4回】研究課題選定の技法3 【第5回】学位論文の構想1 【第6回】学位論文の構想2 【第7回】学位論文の構想3 【第8回】学位論文の資料収集と読解1 【第9回】学位論文の資料収集と読解2 【第10回】学位論文の資料収集と読解3 【第11回】学位論文の資料収集と読解4 【第12回】学位論文の資料作成法1 【第13回】学位論文の資料作成法2 【第14回】学位論文の資料作成法3 【第15回】総括				【第16回】第2期授業日程と授業運営方法の説明 【第17回】学位論文の作成技法1 【第18回】学位論文の作成技法2 【第19回】学位論文の作成技法3 【第20回】学位論文の作成技法4 【第21回】論文作成1 【第22回】論文作成2 【第23回】論文作成3 【第24回】論文作成4 【第25回】論文作成5 【第26回】論文作成6 【第27回】論文作成7 【第28回】論文作成8 【第29回】論文作成9 【第30回】総括				
成績評価の方法	原則としては、授業への取り組み姿勢(30%)、発表・討論(50%)および最終課題(レポート等)(20%)によって評価するが、各担当教員によって変更の可能性があるので事前に確認しておくこと。								
フィードバックの内容	報告や論文に対するコメントを授業時に行う。								
教科書									
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ									
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部にて定めている各教員のオフィスアワーにて受け付ける。また、WebClassのメッセージ機能でも受け付ける(利用方法はポータルサイト、ライブラリ内のマニュアルを参照)。								
アクティブラーニングの内容	演習、教員からのフィードバックによる振り返り、ディベート、プレゼンテーション								
その他									

講義コード	12C0111711	授業形態	演習	抽選の有無	なし	担当教員	河原 伸哉	開講期	通年
科目名	演習 I (河原)								
履修前条件					備考				
授業の目的	本演習は、修士課程の新入生を対象とし、履修者の問題意識に沿いつつ、学位論文作成準備のための研究指導を行うものである。授業の目的は、各自の研究分野に関する諸問題の発見能力およびそれら諸問題を解決するための分析能力を涵養することにある。具体的な演習内容と授業の実施方式は各開講教員に委ねられている。								
到達目標	1. 自らの研究分野に関わる重要な問題について説明できる。 2. 自らの研究分野に関わる諸問題を発見し、それらを適切な方法で分析できる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	1. 研究課題に関する文献を幅広く渉猟し、当該研究分野における重要な問題の発見に努めること。 2. 授業時に出されたコメントや助言をよく理解し、これらを踏まえつつ問題解決に向けて複数の分析手法の修得に努めること。 これらを併せて、合計120時間以上の授業外学修を行うこと。								
授業計画	【第1回】 第1期授業日程と授業運営方法の説明 【第2回】 研究課題選定の技法1 【第3回】 研究課題選定の技法2 【第4回】 研究課題選定の技法3 【第5回】 学位論文の構想1 【第6回】 学位論文の構想2 【第7回】 学位論文の構想3 【第8回】 学位論文の資料収集と読解1 【第9回】 学位論文の資料収集と読解2 【第10回】 学位論文の資料収集と読解3 【第11回】 学位論文の資料収集と読解4 【第12回】 学位論文の資料作成法1 【第13回】 学位論文の資料作成法2 【第14回】 学位論文の資料作成法3 【第15回】 総括				【第16回】 第2期授業日程と授業運営方法の説明 【第17回】 学位論文の作成技法1 【第18回】 学位論文の作成技法2 【第19回】 学位論文の作成技法3 【第20回】 学位論文の作成技法4 【第21回】 論文作成1 【第22回】 論文作成2 【第23回】 論文作成3 【第24回】 論文作成4 【第25回】 論文作成5 【第26回】 論文作成6 【第27回】 論文作成7 【第28回】 論文作成8 【第29回】 論文作成9 【第30回】 総括				
成績評価の方法	原則としては、授業への取り組み姿勢 (30%)、発表・討論 (50%) および最終課題 (レポート等) (20%) によって評価するが、各担当教員によって変更の可能性があるので事前に確認しておくこと。								
フィードバックの内容	報告や論文に対するコメントを授業時に行う。								
教科書									
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ									
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部にて定めている各教員のオフィスアワーにて受け付ける。また、WebClass のメッセージ機能でも受け付ける (利用方法はポータルサイト、ライブラリ内のマニュアルを参照)。								
アクティブラーニングの内容	演習、教員からのフィードバックによる振り返り、ディベート、プレゼンテーション								
その他									

講義コード	12C0111712	授業形態	演習	抽選の有無	なし	担当教員	北原 克宣	開講期	通年
科目名	演習 I (北原)								
履修前条件					備考				
授業の目的	本演習は、修士課程の新入生を対象とし、履修者の問題意識に沿いつつ、学位論文作成準備のための研究指導を行うものである。授業の目的は、各自の研究分野に関する諸問題の発見能力およびそれら諸問題を解決するための分析能力を涵養することにある。具体的な演習内容と授業の実施方式は各開講教員に委ねられている。								
到達目標	1. 自らの研究分野に関わる重要な問題について説明できる。 2. 自らの研究分野に関わる諸問題を発見し、それらを適切な方法で分析できる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	1. 研究課題に関する文献を幅広く渉猟し、当該研究分野における重要な問題の発見に努めること。 2. 授業時に出されたコメントや助言をよく理解し、これらを踏まえつつ問題解決に向けて複数の分析手法の修得に努めること。 これらを併せて、合計120時間以上の授業外学修を行うこと。								
授業計画	【第1回】 第1期授業日程と授業運営方法の説明 【第2回】 研究課題選定の技法1 【第3回】 研究課題選定の技法2 【第4回】 研究課題選定の技法3 【第5回】 学位論文の構想1 【第6回】 学位論文の構想2 【第7回】 学位論文の構想3 【第8回】 学位論文の資料収集と読解1 【第9回】 学位論文の資料収集と読解2 【第10回】 学位論文の資料収集と読解3 【第11回】 学位論文の資料収集と読解4 【第12回】 学位論文の資料作成法1 【第13回】 学位論文の資料作成法2 【第14回】 学位論文の資料作成法3 【第15回】 総括				【第16回】 第2期授業日程と授業運営方法の説明 【第17回】 学位論文の作成技法1 【第18回】 学位論文の作成技法2 【第19回】 学位論文の作成技法3 【第20回】 学位論文の作成技法4 【第21回】 論文作成1 【第22回】 論文作成2 【第23回】 論文作成3 【第24回】 論文作成4 【第25回】 論文作成5 【第26回】 論文作成6 【第27回】 論文作成7 【第28回】 論文作成8 【第29回】 論文作成9 【第30回】 総括				
成績評価の方法	原則としては、授業への取り組み姿勢 (30%)、発表・討論 (50%) および最終課題 (レポート等) (20%) によって評価するが、各担当教員によって変更の可能性があるので事前に確認しておくこと。								
フィードバックの内容	報告や論文に対するコメントを授業時に行う。								
教科書									
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ									
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部にて定めている各教員のオフィスアワーにて受け付ける。また、WebClass のメッセージ機能でも受け付ける (利用方法はポータルサイト、ライブラリ内のマニュアルを参照)。								
アクティブラーニングの内容	演習、教員からのフィードバックによる振り返り、ディベート、プレゼンテーション								
その他									

講義コード	12C0111713	授業形態	演習	抽選の有無	なし	担当教員	慶田 昌之	開講期	通年
科目名	演習 I (慶田)				慶田 昌之		通年		
履修前提条件					備考				
授業の目的	本演習は、修士課程の新入生を対象とし、履修者の問題意識に沿いつつ、学位論文作成準備のための研究指導を行うものである。授業の目的は、各自の研究分野に関する諸問題の発見能力およびそれら諸問題を解決するための分析能力を涵養することにある。具体的な演習内容と授業の実施方式は各開講教員に委ねられている。								
到達目標	1. 自らの研究分野に関わる重要な問題について説明できる。 2. 自らの研究分野に関わる諸問題を発見し、それらを適切な方法で分析できる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	1. 研究課題に関する文献を幅広く渉猟し、当該研究分野における重要な問題の発見に努めること。 2. 授業時に出されたコメントや助言をよく理解し、これらを踏まえつつ問題解決に向けて複数の分析手法の修得に努めること。 これらを併せて、合計120時間以上の授業外学修を行うこと。								
授業計画	【第1回】第1期授業日程と授業運営方法の説明 【第2回】研究課題選定の技法1 【第3回】研究課題選定の技法2 【第4回】研究課題選定の技法3 【第5回】学位論文の構想1 【第6回】学位論文の構想2 【第7回】学位論文の構想3 【第8回】学位論文の資料収集と読解1 【第9回】学位論文の資料収集と読解2 【第10回】学位論文の資料収集と読解3 【第11回】学位論文の資料収集と読解4 【第12回】学位論文の資料作成法1 【第13回】学位論文の資料作成法2 【第14回】学位論文の資料作成法3 【第15回】総括				【第16回】第2期授業日程と授業運営方法の説明 【第17回】学位論文の作成技法1 【第18回】学位論文の作成技法2 【第19回】学位論文の作成技法3 【第20回】学位論文の作成技法4 【第21回】論文作成1 【第22回】論文作成2 【第23回】論文作成3 【第24回】論文作成4 【第25回】論文作成5 【第26回】論文作成6 【第27回】論文作成7 【第28回】論文作成8 【第29回】論文作成9 【第30回】総括				
成績評価の方法	原則としては、授業への取り組み姿勢(30%)、発表・討論(50%)および最終課題(レポート等)(20%)によって評価するが、各担当教員によって変更の可能性があるので事前に確認しておくこと。								
フィードバックの内容	報告や論文に対するコメントを授業時に行う。								
教科書									
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ									
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部にて定めている各教員のオフィスアワーにて受け付ける。また、WebClassのメッセージ機能でも受け付ける(利用方法はポータルサイト、ライブラリ内のマニュアルを参照)。								
アクティブラーニングの内容	演習、教員からのフィードバックによる振り返り、ディベート、プレゼンテーション								
その他									

講義コード	12C0111714	授業形態	演習	抽選の有無	なし	担当教員	小林 隆史	開講期	通年
科目名	演習 I (小林隆)				小林 隆史		通年		
履修前提条件					備考				
授業の目的	本演習は、修士課程の新入生を対象とし、履修者の問題意識に沿いつつ、学位論文作成準備のための研究指導を行うものである。授業の目的は、各自の研究分野に関する諸問題の発見能力およびそれら諸問題を解決するための分析能力を涵養することにある。具体的な演習内容と授業の実施方式は各開講教員に委ねられている。								
到達目標	1. 自らの研究分野に関わる重要な問題について説明できる。 2. 自らの研究分野に関わる諸問題を発見し、それらを適切な方法で分析できる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	1. 研究課題に関する文献を幅広く渉猟し、当該研究分野における重要な問題の発見に努めること。 2. 授業時に出されたコメントや助言をよく理解し、これらを踏まえつつ問題解決に向けて複数の分析手法の修得に努めること。 これらを併せて、合計120時間以上の授業外学修を行うこと。								
授業計画	【第1回】第1期授業日程と授業運営方法の説明 【第2回】研究課題選定の技法1 【第3回】研究課題選定の技法2 【第4回】研究課題選定の技法3 【第5回】学位論文の構想1 【第6回】学位論文の構想2 【第7回】学位論文の構想3 【第8回】学位論文の資料収集と読解1 【第9回】学位論文の資料収集と読解2 【第10回】学位論文の資料収集と読解3 【第11回】学位論文の資料収集と読解4 【第12回】学位論文の資料作成法1 【第13回】学位論文の資料作成法2 【第14回】学位論文の資料作成法3 【第15回】総括				【第16回】第2期授業日程と授業運営方法の説明 【第17回】学位論文の作成技法1 【第18回】学位論文の作成技法2 【第19回】学位論文の作成技法3 【第20回】学位論文の作成技法4 【第21回】論文作成1 【第22回】論文作成2 【第23回】論文作成3 【第24回】論文作成4 【第25回】論文作成5 【第26回】論文作成6 【第27回】論文作成7 【第28回】論文作成8 【第29回】論文作成9 【第30回】総括				
成績評価の方法	原則としては、授業への取り組み姿勢(30%)、発表・討論(50%)および最終課題(レポート等)(20%)によって評価するが、各担当教員によって変更の可能性があるので事前に確認しておくこと。								
フィードバックの内容	報告や論文に対するコメントを授業時に行う。								
教科書									
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ									
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部にて定めている各教員のオフィスアワーにて受け付ける。また、WebClassのメッセージ機能でも受け付ける(利用方法はポータルサイト、ライブラリ内のマニュアルを参照)。								
アクティブラーニングの内容	演習、教員からのフィードバックによる振り返り、ディベート、プレゼンテーション								
その他									

講義コード	12C0111715	授業形態	演習	抽選の有無	なし	担当教員	小林 幹	開講期	通年
科目名	演習 I (小林幹)				小林 幹			通年	
履修前条件					備考				
授業の目的	本演習は、修士課程の新入生を対象とし、履修者の問題意識に沿いつつ、学位論文作成準備のための研究指導を行うものである。授業の目的は、各自の研究分野に関する諸問題の発見能力およびそれら諸問題を解決するための分析能力を涵養することにある。具体的な演習内容と授業の実施方式は各開講教員に委ねられている。								
到達目標	1. 自らの研究分野に関わる重要な問題について説明できる。 2. 自らの研究分野に関わる諸問題を発見し、それらを適切な方法で分析できる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	1. 研究課題に関する文献を幅広く渉猟し、当該研究分野における重要な問題の発見に努めること。 2. 授業時に出されたコメントや助言をよく理解し、これらを踏まえつつ問題解決に向けて複数の分析手法の修得に努めること。 これらを併せて、合計120時間以上の授業外学修を行うこと。								
授業計画	【第1回】 第1期授業日程と授業運営方法の説明 【第2回】 研究課題選定の技法1 【第3回】 研究課題選定の技法2 【第4回】 研究課題選定の技法3 【第5回】 学位論文の構想1 【第6回】 学位論文の構想2 【第7回】 学位論文の構想3 【第8回】 学位論文の資料収集と読解1 【第9回】 学位論文の資料収集と読解2 【第10回】 学位論文の資料収集と読解3 【第11回】 学位論文の資料収集と読解4 【第12回】 学位論文の資料作成法1 【第13回】 学位論文の資料作成法2 【第14回】 学位論文の資料作成法3 【第15回】 総括				【第16回】 第2期授業日程と授業運営方法の説明 【第17回】 学位論文の作成技法1 【第18回】 学位論文の作成技法2 【第19回】 学位論文の作成技法3 【第20回】 学位論文の作成技法4 【第21回】 論文作成1 【第22回】 論文作成2 【第23回】 論文作成3 【第24回】 論文作成4 【第25回】 論文作成5 【第26回】 論文作成6 【第27回】 論文作成7 【第28回】 論文作成8 【第29回】 論文作成9 【第30回】 総括				
成績評価の方法	原則としては、授業への取り組み姿勢 (30%)、発表・討論 (50%) および最終課題 (レポート等) (20%) によって評価するが、各担当教員によって変更の可能性があるので事前に確認しておくこと。								
フィードバックの内容	報告や論文に対するコメントを授業時に行う。								
教科書									
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ									
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部にて定めている各教員のオフィスアワーにて受け付ける。また、WebClass のメッセージ機能でも受け付ける (利用方法はポータルサイト、ライブラリ内のマニュアルを参照)。								
アクティブラーニングの内容	演習、教員からのフィードバックによる振り返り、ディベート、プレゼンテーション								
その他									

講義コード	12C0111716	授業形態	演習	抽選の有無	なし	担当教員	櫻井 一宏	開講期	通年
科目名	演習 I (櫻井)				櫻井 一宏			通年	
履修前条件					備考				
授業の目的	本演習は、修士課程の新入生を対象とし、履修者の問題意識に沿いつつ、学位論文作成準備のための研究指導を行うものである。授業の目的は、各自の研究分野に関する諸問題の発見能力およびそれら諸問題を解決するための分析能力を涵養することにある。具体的な演習内容と授業の実施方式は各開講教員に委ねられている。								
到達目標	1. 自らの研究分野に関わる重要な問題について説明できる。 2. 自らの研究分野に関わる諸問題を発見し、それらを適切な方法で分析できる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	1. 研究課題に関する文献を幅広く渉猟し、当該研究分野における重要な問題の発見に努めること。 2. 授業時に出されたコメントや助言をよく理解し、これらを踏まえつつ問題解決に向けて複数の分析手法の修得に努めること。 これらを併せて、合計120時間以上の授業外学修を行うこと。								
授業計画	【第1回】 第1期授業日程と授業運営方法の説明 【第2回】 研究課題選定の技法1 【第3回】 研究課題選定の技法2 【第4回】 研究課題選定の技法3 【第5回】 学位論文の構想1 【第6回】 学位論文の構想2 【第7回】 学位論文の構想3 【第8回】 学位論文の資料収集と読解1 【第9回】 学位論文の資料収集と読解2 【第10回】 学位論文の資料収集と読解3 【第11回】 学位論文の資料収集と読解4 【第12回】 学位論文の資料作成法1 【第13回】 学位論文の資料作成法2 【第14回】 学位論文の資料作成法3 【第15回】 総括				【第16回】 第2期授業日程と授業運営方法の説明 【第17回】 学位論文の作成技法1 【第18回】 学位論文の作成技法2 【第19回】 学位論文の作成技法3 【第20回】 学位論文の作成技法4 【第21回】 論文作成1 【第22回】 論文作成2 【第23回】 論文作成3 【第24回】 論文作成4 【第25回】 論文作成5 【第26回】 論文作成6 【第27回】 論文作成7 【第28回】 論文作成8 【第29回】 論文作成9 【第30回】 総括				
成績評価の方法	原則としては、授業への取り組み姿勢 (30%)、発表・討論 (50%) および最終課題 (レポート等) (20%) によって評価するが、各担当教員によって変更の可能性があるので事前に確認しておくこと。								
フィードバックの内容	報告や論文に対するコメントを授業時に行う。								
教科書									
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ									
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部にて定めている各教員のオフィスアワーにて受け付ける。また、WebClass のメッセージ機能でも受け付ける (利用方法はポータルサイト、ライブラリ内のマニュアルを参照)。								
アクティブラーニングの内容	演習、教員からのフィードバックによる振り返り、ディベート、プレゼンテーション								
その他									

講義コード	12C0111717	授業形態	演習	抽選の有無	なし	担当教員	真田 治子	開講期	通年
科目名	演習 I (真田)								
履修前提条件					備考				
授業の目的	本演習は、修士課程の新入生を対象とし、履修者の問題意識に沿いつつ、学位論文作成準備のための研究指導を行うものである。授業の目的は、各自の研究分野に関する諸問題の発見能力およびそれら諸問題を解決するための分析能力を涵養することにある。具体的な演習内容と授業の実施方式は各開講教員に委ねられている。								
到達目標	1. 自らの研究分野に関わる重要な問題について説明できる。 2. 自らの研究分野に関わる諸問題を発見し、それらを適切な方法で分析できる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	1. 研究課題に関する文献を幅広く渉猟し、当該研究分野における重要な問題の発見に努めること。 2. 授業時に出されたコメントや助言をよく理解し、これらを踏まえつつ問題解決に向けて複数の分析手法の修得に努めること。 これらを併せて、合計120時間以上の授業外学修を行うこと。								
授業計画	【第1回】第1期授業日程と授業運営方法の説明 【第2回】研究課題選定の技法1 【第3回】研究課題選定の技法2 【第4回】研究課題選定の技法3 【第5回】学位論文の構想1 【第6回】学位論文の構想2 【第7回】学位論文の構想3 【第8回】学位論文の資料収集と読解1 【第9回】学位論文の資料収集と読解2 【第10回】学位論文の資料収集と読解3 【第11回】学位論文の資料収集と読解4 【第12回】学位論文の資料作成法1 【第13回】学位論文の資料作成法2 【第14回】学位論文の資料作成法3 【第15回】総括				【第16回】第2期授業日程と授業運営方法の説明 【第17回】学位論文の作成技法1 【第18回】学位論文の作成技法2 【第19回】学位論文の作成技法3 【第20回】学位論文の作成技法4 【第21回】論文作成1 【第22回】論文作成2 【第23回】論文作成3 【第24回】論文作成4 【第25回】論文作成5 【第26回】論文作成6 【第27回】論文作成7 【第28回】論文作成8 【第29回】論文作成9 【第30回】総括				
成績評価の方法	原則としては、授業への取り組み姿勢(30%)、発表・討論(50%)および最終課題(レポート等)(20%)によって評価するが、各担当教員によって変更の可能性があるので事前に確認しておくこと。								
フィードバックの内容	報告や論文に対するコメントを授業時に行う。								
教科書									
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ									
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部にて定めている各教員のオフィスアワーにて受け付ける。また、WebClassのメッセージ機能でも受け付ける(利用方法はポータルサイト、ライブラリ内のマニュアルを参照)。								
アクティブラーニングの内容	演習、教員からのフィードバックによる振り返り、ディベート、プレゼンテーション								
その他									

講義コード	12C0111719	授業形態	演習	抽選の有無	なし	担当教員	平 伊佐雄	開講期	通年
科目名	演習 I (平)								
履修前提条件					備考				
授業の目的	本演習は、修士課程の新入生を対象とし、履修者の問題意識に沿いつつ、学位論文作成準備のための研究指導を行うものである。授業の目的は、各自の研究分野に関する諸問題の発見能力およびそれら諸問題を解決するための分析能力を涵養することにある。具体的な演習内容と授業の実施方式は各開講教員に委ねられている。								
到達目標	1. 自らの研究分野に関わる重要な問題について説明できる。 2. 自らの研究分野に関わる諸問題を発見し、それらを適切な方法で分析できる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	1. 研究課題に関する文献を幅広く渉猟し、当該研究分野における重要な問題の発見に努めること。 2. 授業時に出されたコメントや助言をよく理解し、これらを踏まえつつ問題解決に向けて複数の分析手法の修得に努めること。 これらを併せて、合計120時間以上の授業外学修を行うこと。								
授業計画	【第1回】第1期授業日程と授業運営方法の説明 【第2回】研究課題選定の技法1 【第3回】研究課題選定の技法2 【第4回】研究課題選定の技法3 【第5回】学位論文の構想1 【第6回】学位論文の構想2 【第7回】学位論文の構想3 【第8回】学位論文の資料収集と読解1 【第9回】学位論文の資料収集と読解2 【第10回】学位論文の資料収集と読解3 【第11回】学位論文の資料収集と読解4 【第12回】学位論文の資料作成法1 【第13回】学位論文の資料作成法2 【第14回】学位論文の資料作成法3 【第15回】総括				【第16回】第2期授業日程と授業運営方法の説明 【第17回】学位論文の作成技法1 【第18回】学位論文の作成技法2 【第19回】学位論文の作成技法3 【第20回】学位論文の作成技法4 【第21回】論文作成1 【第22回】論文作成2 【第23回】論文作成3 【第24回】論文作成4 【第25回】論文作成5 【第26回】論文作成6 【第27回】論文作成7 【第28回】論文作成8 【第29回】論文作成9 【第30回】総括				
成績評価の方法	原則としては、授業への取り組み姿勢(30%)、発表・討論(50%)および最終課題(レポート等)(20%)によって評価するが、各担当教員によって変更の可能性があるので事前に確認しておくこと。								
フィードバックの内容	報告や論文に対するコメントを授業時に行う。								
教科書									
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ									
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部にて定めている各教員のオフィスアワーにて受け付ける。また、WebClassのメッセージ機能でも受け付ける(利用方法はポータルサイト、ライブラリ内のマニュアルを参照)。								
アクティブラーニングの内容	演習、教員からのフィードバックによる振り返り、ディベート、プレゼンテーション								
その他									

講義コード	12C0111720	授業形態	演習	抽選の有無	なし	担当教員	高橋 美由紀	開講期	通年
科目名	演習 I (高橋)					高橋 美由紀		通年	
履修前条件						備考			
授業の目的	本演習は、修士課程の新入生を対象とし、履修者の問題意識に沿いつつ、学位論文作成準備のための研究指導を行うものである。授業の目的は、各自の研究分野に関する諸問題の発見能力およびそれら諸問題を解決するための分析能力を涵養することにある。具体的な演習内容と授業の実施方式は各開講教員に委ねられている。								
到達目標	1. 自らの研究分野に関わる重要な問題について説明できる。 2. 自らの研究分野に関わる諸問題を発見し、それらを適切な方法で分析できる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	1. 研究課題に関する文献を幅広く渉猟し、当該研究分野における重要な問題の発見に努めること。 2. 授業時に出されたコメントや助言をよく理解し、これらを踏まえつつ問題解決に向けて複数の分析手法の修得に努めること。 これらを併せて、合計120時間以上の授業外学修を行うこと。								
授業計画	【第1回】 第1期授業日程と授業運営方法の説明 【第2回】 研究課題選定の技法1 【第3回】 研究課題選定の技法2 【第4回】 研究課題選定の技法3 【第5回】 学位論文の構想1 【第6回】 学位論文の構想2 【第7回】 学位論文の構想3 【第8回】 学位論文の資料収集と読解1 【第9回】 学位論文の資料収集と読解2 【第10回】 学位論文の資料収集と読解3 【第11回】 学位論文の資料収集と読解4 【第12回】 学位論文の資料作成法1 【第13回】 学位論文の資料作成法2 【第14回】 学位論文の資料作成法3 【第15回】 総括				【第16回】 第2期授業日程と授業運営方法の説明 【第17回】 学位論文の作成技法1 【第18回】 学位論文の作成技法2 【第19回】 学位論文の作成技法3 【第20回】 学位論文の作成技法4 【第21回】 論文作成1 【第22回】 論文作成2 【第23回】 論文作成3 【第24回】 論文作成4 【第25回】 論文作成5 【第26回】 論文作成6 【第27回】 論文作成7 【第28回】 論文作成8 【第29回】 論文作成9 【第30回】 総括				
成績評価の方法	原則としては、授業への取り組み姿勢 (30%)、発表・討論 (50%) および最終課題 (レポート等) (20%) によって評価するが、各担当教員によって変更の可能性があるので事前に確認しておくこと。								
フィードバックの内容	報告や論文に対するコメントを授業時に行う。								
教科書									
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ									
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部にて定めている各教員のオフィスアワーにて受け付ける。また、WebClass のメッセージ機能でも受け付ける (利用方法はポータルサイト、ライブラリ内のマニュアルを参照)。								
アクティブラーニングの内容	演習、教員からのフィードバックによる振り返り、ディベート、プレゼンテーション								
その他									

講義コード	12C0111722	授業形態	演習	抽選の有無	なし	担当教員	外木 好美	開講期	通年
科目名	演習 I (外木)					外木 好美		通年	
履修前条件						備考			
授業の目的	本演習は、修士課程の新入生を対象とし、履修者の問題意識に沿いつつ、学位論文作成準備のための研究指導を行うものである。授業の目的は、各自の研究分野に関する諸問題の発見能力およびそれら諸問題を解決するための分析能力を涵養することにある。具体的な演習内容と授業の実施方式は各開講教員に委ねられている。								
到達目標	1. 自らの研究分野に関わる重要な問題について説明できる。 2. 自らの研究分野に関わる諸問題を発見し、それらを適切な方法で分析できる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	1. 研究課題に関する文献を幅広く渉猟し、当該研究分野における重要な問題の発見に努めること。 2. 授業時に出されたコメントや助言をよく理解し、これらを踏まえつつ問題解決に向けて複数の分析手法の修得に努めること。 これらを併せて、合計120時間以上の授業外学修を行うこと。								
授業計画	【第1回】 第1期授業日程と授業運営方法の説明 【第2回】 研究課題選定の技法1 【第3回】 研究課題選定の技法2 【第4回】 研究課題選定の技法3 【第5回】 学位論文の構想1 【第6回】 学位論文の構想2 【第7回】 学位論文の構想3 【第8回】 学位論文の資料収集と読解1 【第9回】 学位論文の資料収集と読解2 【第10回】 学位論文の資料収集と読解3 【第11回】 学位論文の資料収集と読解4 【第12回】 学位論文の資料作成法1 【第13回】 学位論文の資料作成法2 【第14回】 学位論文の資料作成法3 【第15回】 総括				【第16回】 第2期授業日程と授業運営方法の説明 【第17回】 学位論文の作成技法1 【第18回】 学位論文の作成技法2 【第19回】 学位論文の作成技法3 【第20回】 学位論文の作成技法4 【第21回】 論文作成1 【第22回】 論文作成2 【第23回】 論文作成3 【第24回】 論文作成4 【第25回】 論文作成5 【第26回】 論文作成6 【第27回】 論文作成7 【第28回】 論文作成8 【第29回】 論文作成9 【第30回】 総括				
成績評価の方法	原則としては、授業への取り組み姿勢 (30%)、発表・討論 (50%) および最終課題 (レポート等) (20%) によって評価するが、各担当教員によって変更の可能性があるので事前に確認しておくこと。								
フィードバックの内容	報告や論文に対するコメントを授業時に行う。								
教科書									
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ									
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部にて定めている各教員のオフィスアワーにて受け付ける。また、WebClass のメッセージ機能でも受け付ける (利用方法はポータルサイト、ライブラリ内のマニュアルを参照)。								
アクティブラーニングの内容	演習、教員からのフィードバックによる振り返り、ディベート、プレゼンテーション								
その他									

講義コード	12C0111723	授業形態	演習	抽選の有無	なし	担当教員	中村 宗之	開講期	通年
科目名	演習 I (中村)				中村 宗之		通年		
履修前提条件					備考				
授業の目的	本演習は、修士課程の新入生を対象とし、履修者の問題意識に沿いつつ、学位論文作成準備のための研究指導を行うものである。授業の目的は、各自の研究分野に関する諸問題の発見能力およびそれら諸問題を解決するための分析能力を涵養することにある。具体的な演習内容と授業の実施方式は各開講教員に委ねられている。								
到達目標	1. 自らの研究分野に関わる重要な問題について説明できる。 2. 自らの研究分野に関わる諸問題を発見し、それらを適切な方法で分析できる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	1. 研究課題に関する文献を幅広く渉猟し、当該研究分野における重要な問題の発見に努めること。 2. 授業時に出されたコメントや助言をよく理解し、これらを踏まえつつ問題解決に向けて複数の分析手法の修得に努めること。 これらを併せて、合計120時間以上の授業外学修を行うこと。								
授業計画	【第1回】第1期授業日程と授業運営方法の説明 【第2回】研究課題選定の技法1 【第3回】研究課題選定の技法2 【第4回】研究課題選定の技法3 【第5回】学位論文の構想1 【第6回】学位論文の構想2 【第7回】学位論文の構想3 【第8回】学位論文の資料収集と読解1 【第9回】学位論文の資料収集と読解2 【第10回】学位論文の資料収集と読解3 【第11回】学位論文の資料収集と読解4 【第12回】学位論文の資料作成法1 【第13回】学位論文の資料作成法2 【第14回】学位論文の資料作成法3 【第15回】総括				【第16回】第2期授業日程と授業運営方法の説明 【第17回】学位論文の作成技法1 【第18回】学位論文の作成技法2 【第19回】学位論文の作成技法3 【第20回】学位論文の作成技法4 【第21回】論文作成1 【第22回】論文作成2 【第23回】論文作成3 【第24回】論文作成4 【第25回】論文作成5 【第26回】論文作成6 【第27回】論文作成7 【第28回】論文作成8 【第29回】論文作成9 【第30回】総括				
成績評価の方法	原則としては、授業への取り組み姿勢(30%)、発表・討論(50%)および最終課題(レポート等)(20%)によって評価するが、各担当教員によって変更の可能性があるので事前に確認しておくこと。								
フィードバックの内容	報告や論文に対するコメントを授業時に行う。								
教科書									
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ									
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部にて定めている各教員のオフィスアワーにて受け付ける。また、WebClassのメッセージ機能でも受け付ける(利用方法はポータルサイト、ライブラリ内のマニュアルを参照)。								
アクティブラーニングの内容	演習、教員からのフィードバックによる振り返り、ディベート、プレゼンテーション								
その他									

講義コード	12C0111724	授業形態	演習	抽選の有無	なし	担当教員	林 康史	開講期	通年
科目名	演習 I (林)				林 康史		通年		
履修前提条件					備考				
授業の目的	本演習は、修士課程の新入生を対象とし、履修者の問題意識に沿いつつ、学位論文作成準備のための研究指導を行うものである。授業の目的は、各自の研究分野に関する諸問題の発見能力およびそれら諸問題を解決するための分析能力を涵養することにある。具体的な演習内容と授業の実施方式は各開講教員に委ねられている。								
到達目標	1. 自らの研究分野に関わる重要な問題について説明できる。 2. 自らの研究分野に関わる諸問題を発見し、それらを適切な方法で分析できる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	1. 研究課題に関する文献を幅広く渉猟し、当該研究分野における重要な問題の発見に努めること。 2. 授業時に出されたコメントや助言をよく理解し、これらを踏まえつつ問題解決に向けて複数の分析手法の修得に努めること。 これらを併せて、合計120時間以上の授業外学修を行うこと。								
授業計画	【第1回】第1期授業日程と授業運営方法の説明 【第2回】研究課題選定の技法1 【第3回】研究課題選定の技法2 【第4回】研究課題選定の技法3 【第5回】学位論文の構想1 【第6回】学位論文の構想2 【第7回】学位論文の構想3 【第8回】学位論文の資料収集と読解1 【第9回】学位論文の資料収集と読解2 【第10回】学位論文の資料収集と読解3 【第11回】学位論文の資料収集と読解4 【第12回】学位論文の資料作成法1 【第13回】学位論文の資料作成法2 【第14回】学位論文の資料作成法3 【第15回】総括				【第16回】第2期授業日程と授業運営方法の説明 【第17回】学位論文の作成技法1 【第18回】学位論文の作成技法2 【第19回】学位論文の作成技法3 【第20回】学位論文の作成技法4 【第21回】論文作成1 【第22回】論文作成2 【第23回】論文作成3 【第24回】論文作成4 【第25回】論文作成5 【第26回】論文作成6 【第27回】論文作成7 【第28回】論文作成8 【第29回】論文作成9 【第30回】総括				
成績評価の方法	原則としては、授業への取り組み姿勢(30%)、発表・討論(50%)および最終課題(レポート等)(20%)によって評価するが、各担当教員によって変更の可能性があるので事前に確認しておくこと。								
フィードバックの内容	報告や論文に対するコメントを授業時に行う。								
教科書									
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ									
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部にて定めている各教員のオフィスアワーにて受け付ける。また、WebClassのメッセージ機能でも受け付ける(利用方法はポータルサイト、ライブラリ内のマニュアルを参照)。								
アクティブラーニングの内容	演習、教員からのフィードバックによる振り返り、ディベート、プレゼンテーション								
その他									

講義コード	12C0111725	授業形態	演習	抽選の有無	なし	担当教員	宮岡 暁	開講期	通年
科目名	演習 I (宮岡)								
履修前提条件					備考				
授業の目的	本演習は、修士課程の新入生を対象とし、履修者の問題意識に沿いつつ、学位論文作成準備のための研究指導を行うものである。授業の目的は、各自の研究分野に関する諸問題の発見能力およびそれら諸問題を解決するための分析能力を涵養することにある。具体的な演習内容と授業の実施方式は各開講教員に委ねられている。								
到達目標	1. 自らの研究分野に関わる重要な問題について説明できる。 2. 自らの研究分野に関わる諸問題を発見し、それらを適切な方法で分析できる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	1. 研究課題に関する文献を幅広く渉猟し、当該研究分野における重要な問題の発見に努めること。 2. 授業時に出されたコメントや助言をよく理解し、これらを踏まえつつ問題解決に向けて複数の分析手法の修得に努めること。 これらを併せて、合計120時間以上の授業外学修を行うこと。								
授業計画	【第1回】 第1期授業日程と授業運営方法の説明 【第2回】 研究課題選定の技法1 【第3回】 研究課題選定の技法2 【第4回】 研究課題選定の技法3 【第5回】 学位論文の構想1 【第6回】 学位論文の構想2 【第7回】 学位論文の構想3 【第8回】 学位論文の資料収集と読解1 【第9回】 学位論文の資料収集と読解2 【第10回】 学位論文の資料収集と読解3 【第11回】 学位論文の資料収集と読解4 【第12回】 学位論文の資料作成法1 【第13回】 学位論文の資料作成法2 【第14回】 学位論文の資料作成法3 【第15回】 総括				【第16回】 第2期授業日程と授業運営方法の説明 【第17回】 学位論文の作成技法1 【第18回】 学位論文の作成技法2 【第19回】 学位論文の作成技法3 【第20回】 学位論文の作成技法4 【第21回】 論文作成1 【第22回】 論文作成2 【第23回】 論文作成3 【第24回】 論文作成4 【第25回】 論文作成5 【第26回】 論文作成6 【第27回】 論文作成7 【第28回】 論文作成8 【第29回】 論文作成9 【第30回】 総括				
成績評価の方法	原則としては、授業への取り組み姿勢 (30%)、発表・討論 (50%) および最終課題 (レポート等) (20%) によって評価するが、各担当教員によって変更の可能性があるので事前に確認しておくこと。								
フィードバックの内容	報告や論文に対するコメントを授業時に行う。								
教科書									
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ									
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部にて定めている各教員のオフィスアワーにて受け付ける。また、WebClass のメッセージ機能でも受け付ける (利用方法はポータルサイト、ライブラリ内のマニュアルを参照)。								
アクティブラーニングの内容	演習、教員からのフィードバックによる振り返り、ディベート、プレゼンテーション								
その他									

講義コード	12C0111726	授業形態	演習	抽選の有無	なし	担当教員	宮川 幸三	開講期	通年
科目名	演習 I (宮川)								
履修前提条件					備考				
授業の目的	本演習は、修士課程の新入生を対象とし、履修者の問題意識に沿いつつ、学位論文作成準備のための研究指導を行うものである。授業の目的は、各自の研究分野に関する諸問題の発見能力およびそれら諸問題を解決するための分析能力を涵養することにある。具体的な演習内容と授業の実施方式は各開講教員に委ねられている。								
到達目標	1. 自らの研究分野に関わる重要な問題について説明できる。 2. 自らの研究分野に関わる諸問題を発見し、それらを適切な方法で分析できる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	1. 研究課題に関する文献を幅広く渉猟し、当該研究分野における重要な問題の発見に努めること。 2. 授業時に出されたコメントや助言をよく理解し、これらを踏まえつつ問題解決に向けて複数の分析手法の修得に努めること。 これらを併せて、合計120時間以上の授業外学修を行うこと。								
授業計画	【第1回】 第1期授業日程と授業運営方法の説明 【第2回】 研究課題選定の技法1 【第3回】 研究課題選定の技法2 【第4回】 研究課題選定の技法3 【第5回】 学位論文の構想1 【第6回】 学位論文の構想2 【第7回】 学位論文の構想3 【第8回】 学位論文の資料収集と読解1 【第9回】 学位論文の資料収集と読解2 【第10回】 学位論文の資料収集と読解3 【第11回】 学位論文の資料収集と読解4 【第12回】 学位論文の資料作成法1 【第13回】 学位論文の資料作成法2 【第14回】 学位論文の資料作成法3 【第15回】 総括				【第16回】 第2期授業日程と授業運営方法の説明 【第17回】 学位論文の作成技法1 【第18回】 学位論文の作成技法2 【第19回】 学位論文の作成技法3 【第20回】 学位論文の作成技法4 【第21回】 論文作成1 【第22回】 論文作成2 【第23回】 論文作成3 【第24回】 論文作成4 【第25回】 論文作成5 【第26回】 論文作成6 【第27回】 論文作成7 【第28回】 論文作成8 【第29回】 論文作成9 【第30回】 総括				
成績評価の方法	原則としては、授業への取り組み姿勢 (30%)、発表・討論 (50%) および最終課題 (レポート等) (20%) によって評価するが、各担当教員によって変更の可能性があるので事前に確認しておくこと。								
フィードバックの内容	報告や論文に対するコメントを授業時に行う。								
教科書									
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ									
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部にて定めている各教員のオフィスアワーにて受け付ける。また、WebClass のメッセージ機能でも受け付ける (利用方法はポータルサイト、ライブラリ内のマニュアルを参照)。								
アクティブラーニングの内容	演習、教員からのフィードバックによる振り返り、ディベート、プレゼンテーション								
その他									

講義コード	12C0111727	授業形態	演習	抽選の有無	なし	担当教員	村田 啓子	開講期	通年
科目名	演習 I (村田)								
履修前提条件					備考				
授業の目的	本演習は、修士課程の新入生を対象とし、履修者の問題意識に沿いつつ、学位論文作成準備のための研究指導を行うものである。授業の目的は、各自の研究分野に関する諸問題の発見能力およびそれら諸問題を解決するための分析能力を涵養することにある。具体的な演習内容と授業の実施方式は各開講教員に委ねられている。								
到達目標	1. 自らの研究分野に関わる重要な問題について説明できる。 2. 自らの研究分野に関わる諸問題を発見し、それらを適切な方法で分析できる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	1. 研究課題に関する文献を幅広く渉猟し、当該研究分野における重要な問題の発見に努めること。 2. 授業時に出されたコメントや助言をよく理解し、これらを踏まえつつ問題解決に向けて複数の分析手法の修得に努めること。 これらを併せて、合計120時間以上の授業外学修を行うこと。								
授業計画	【第1回】第1期授業日程と授業運営方法の説明 【第2回】研究課題選定の技法1 【第3回】研究課題選定の技法2 【第4回】研究課題選定の技法3 【第5回】学位論文の構想1 【第6回】学位論文の構想2 【第7回】学位論文の構想3 【第8回】学位論文の資料収集と読解1 【第9回】学位論文の資料収集と読解2 【第10回】学位論文の資料収集と読解3 【第11回】学位論文の資料収集と読解4 【第12回】学位論文の資料作成法1 【第13回】学位論文の資料作成法2 【第14回】学位論文の資料作成法3 【第15回】総括				【第16回】第2期授業日程と授業運営方法の説明 【第17回】学位論文の作成技法1 【第18回】学位論文の作成技法2 【第19回】学位論文の作成技法3 【第20回】学位論文の作成技法4 【第21回】論文作成1 【第22回】論文作成2 【第23回】論文作成3 【第24回】論文作成4 【第25回】論文作成5 【第26回】論文作成6 【第27回】論文作成7 【第28回】論文作成8 【第29回】論文作成9 【第30回】総括				
成績評価の方法	原則としては、授業への取り組み姿勢(30%)、発表・討論(50%)および最終課題(レポート等)(20%)によって評価するが、各担当教員によって変更の可能性があるので事前に確認しておくこと。								
フィードバックの内容	報告や論文に対するコメントを授業時に行う。								
教科書									
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ									
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部にて定めている各教員のオフィスアワーにて受け付ける。また、WebClassのメッセージ機能でも受け付ける(利用方法はポータルサイト、ライブラリ内のマニュアルを参照)。								
アクティブラーニングの内容	演習、教員からのフィードバックによる振り返り、ディベート、プレゼンテーション								
その他									

講義コード	12C0111728	授業形態	演習	抽選の有無	なし	担当教員	森山 秀二	開講期	通年
科目名	演習 I (森山)								
履修前提条件					備考				
授業の目的	本演習は、修士課程の新入生を対象とし、履修者の問題意識に沿いつつ、学位論文作成準備のための研究指導を行うものである。授業の目的は、各自の研究分野に関する諸問題の発見能力およびそれら諸問題を解決するための分析能力を涵養することにある。具体的な演習内容と授業の実施方式は各開講教員に委ねられている。								
到達目標	1. 自らの研究分野に関わる重要な問題について説明できる。 2. 自らの研究分野に関わる諸問題を発見し、それらを適切な方法で分析できる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	1. 研究課題に関する文献を幅広く渉猟し、当該研究分野における重要な問題の発見に努めること。 2. 授業時に出されたコメントや助言をよく理解し、これらを踏まえつつ問題解決に向けて複数の分析手法の修得に努めること。 これらを併せて、合計120時間以上の授業外学修を行うこと。								
授業計画	【第1回】第1期授業日程と授業運営方法の説明 【第2回】研究課題選定の技法1 【第3回】研究課題選定の技法2 【第4回】研究課題選定の技法3 【第5回】学位論文の構想1 【第6回】学位論文の構想2 【第7回】学位論文の構想3 【第8回】学位論文の資料収集と読解1 【第9回】学位論文の資料収集と読解2 【第10回】学位論文の資料収集と読解3 【第11回】学位論文の資料収集と読解4 【第12回】学位論文の資料作成法1 【第13回】学位論文の資料作成法2 【第14回】学位論文の資料作成法3 【第15回】総括				【第16回】第2期授業日程と授業運営方法の説明 【第17回】学位論文の作成技法1 【第18回】学位論文の作成技法2 【第19回】学位論文の作成技法3 【第20回】学位論文の作成技法4 【第21回】論文作成1 【第22回】論文作成2 【第23回】論文作成3 【第24回】論文作成4 【第25回】論文作成5 【第26回】論文作成6 【第27回】論文作成7 【第28回】論文作成8 【第29回】論文作成9 【第30回】総括				
成績評価の方法	原則としては、授業への取り組み姿勢(30%)、発表・討論(50%)および最終課題(レポート等)(20%)によって評価するが、各担当教員によって変更の可能性があるので事前に確認しておくこと。								
フィードバックの内容	報告や論文に対するコメントを授業時に行う。								
教科書									
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ									
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部にて定めている各教員のオフィスアワーにて受け付ける。また、WebClassのメッセージ機能でも受け付ける(利用方法はポータルサイト、ライブラリ内のマニュアルを参照)。								
アクティブラーニングの内容	演習、教員からのフィードバックによる振り返り、ディベート、プレゼンテーション								
その他									

講義コード	12C0111729	授業形態	演習	抽選の有無	なし	担当教員	山口 和男	開講期	通年
科目名	演習 I (山口)				山口 和男			通年	
履修前条件					備考				
授業の目的	本演習は、修士課程の新入生を対象とし、履修者の問題意識に沿いつつ、学位論文作成準備のための研究指導を行うものである。授業の目的は、各自の研究分野に関する諸問題の発見能力およびそれら諸問題を解決するための分析能力を涵養することにある。具体的な演習内容と授業の実施方式は各開講教員に委ねられている。								
到達目標	1. 自らの研究分野に関わる重要な問題について説明できる。 2. 自らの研究分野に関わる諸問題を発見し、それらを適切な方法で分析できる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	1. 研究課題に関する文献を幅広く渉猟し、当該研究分野における重要な問題の発見に努めること。 2. 授業時に出されたコメントや助言をよく理解し、これらを踏まえつつ問題解決に向けて複数の分析手法の修得に努めること。 これらを併せて、合計120時間以上の授業外学修を行うこと。								
授業計画	【第1回】 第1期授業日程と授業運営方法の説明 【第2回】 研究課題選定の技法1 【第3回】 研究課題選定の技法2 【第4回】 研究課題選定の技法3 【第5回】 学位論文の構想1 【第6回】 学位論文の構想2 【第7回】 学位論文の構想3 【第8回】 学位論文の資料収集と読解1 【第9回】 学位論文の資料収集と読解2 【第10回】 学位論文の資料収集と読解3 【第11回】 学位論文の資料収集と読解4 【第12回】 学位論文の資料作成法1 【第13回】 学位論文の資料作成法2 【第14回】 学位論文の資料作成法3 【第15回】 総括				【第16回】 第2期授業日程と授業運営方法の説明 【第17回】 学位論文の作成技法1 【第18回】 学位論文の作成技法2 【第19回】 学位論文の作成技法3 【第20回】 学位論文の作成技法4 【第21回】 論文作成1 【第22回】 論文作成2 【第23回】 論文作成3 【第24回】 論文作成4 【第25回】 論文作成5 【第26回】 論文作成6 【第27回】 論文作成7 【第28回】 論文作成8 【第29回】 論文作成9 【第30回】 総括				
成績評価の方法	原則としては、授業への取り組み姿勢 (30%)、発表・討論 (50%) および最終課題 (レポート等) (20%) によって評価するが、各担当教員によって変更の可能性があるので事前に確認しておくこと。								
フィードバックの内容	報告や論文に対するコメントを授業時に行う。								
教科書									
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ									
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部にて定めている各教員のオフィスアワーにて受け付ける。また、WebClass のメッセージ機能でも受け付ける (利用方法はポータルサイト、ライブラリ内のマニュアルを参照)。								
アクティブラーニングの内容	演習、教員からのフィードバックによる振り返り、ディベート、プレゼンテーション								
その他									

講義コード	12C0111730	授業形態	演習	抽選の有無	なし	担当教員	吉田 友美	開講期	通年
科目名	演習 I (吉田)				吉田 友美			通年	
履修前条件					備考				
授業の目的	本演習は、修士課程の新入生を対象とし、履修者の問題意識に沿いつつ、学位論文作成準備のための研究指導を行うものである。授業の目的は、各自の研究分野に関する諸問題の発見能力およびそれら諸問題を解決するための分析能力を涵養することにある。具体的な演習内容と授業の実施方式は各開講教員に委ねられている。								
到達目標	1. 自らの研究分野に関わる重要な問題について説明できる。 2. 自らの研究分野に関わる諸問題を発見し、それらを適切な方法で分析できる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	1. 研究課題に関する文献を幅広く渉猟し、当該研究分野における重要な問題の発見に努めること。 2. 授業時に出されたコメントや助言をよく理解し、これらを踏まえつつ問題解決に向けて複数の分析手法の修得に努めること。 これらを併せて、合計120時間以上の授業外学修を行うこと。								
授業計画	【第1回】 第1期授業日程と授業運営方法の説明 【第2回】 研究課題選定の技法1 【第3回】 研究課題選定の技法2 【第4回】 研究課題選定の技法3 【第5回】 学位論文の構想1 【第6回】 学位論文の構想2 【第7回】 学位論文の構想3 【第8回】 学位論文の資料収集と読解1 【第9回】 学位論文の資料収集と読解2 【第10回】 学位論文の資料収集と読解3 【第11回】 学位論文の資料収集と読解4 【第12回】 学位論文の資料作成法1 【第13回】 学位論文の資料作成法2 【第14回】 学位論文の資料作成法3 【第15回】 総括				【第16回】 第2期授業日程と授業運営方法の説明 【第17回】 学位論文の作成技法1 【第18回】 学位論文の作成技法2 【第19回】 学位論文の作成技法3 【第20回】 学位論文の作成技法4 【第21回】 論文作成1 【第22回】 論文作成2 【第23回】 論文作成3 【第24回】 論文作成4 【第25回】 論文作成5 【第26回】 論文作成6 【第27回】 論文作成7 【第28回】 論文作成8 【第29回】 論文作成9 【第30回】 総括				
成績評価の方法	原則としては、授業への取り組み姿勢 (30%)、発表・討論 (50%) および最終課題 (レポート等) (20%) によって評価するが、各担当教員によって変更の可能性があるので事前に確認しておくこと。								
フィードバックの内容	報告や論文に対するコメントを授業時に行う。								
教科書									
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ									
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部にて定めている各教員のオフィスアワーにて受け付ける。また、WebClass のメッセージ機能でも受け付ける (利用方法はポータルサイト、ライブラリ内のマニュアルを参照)。								
アクティブラーニングの内容	演習、教員からのフィードバックによる振り返り、ディベート、プレゼンテーション								
その他									

講義コード	12C0111731	授業形態	演習	抽選の有無	なし	担当教員	渡部 真弘	開講期	通年	
科目名	演習Ⅰ(渡部)				渡部 真弘		通年			
履修前提条件					備考					
授業の目的	本演習は、修士課程の新入生を対象とし、履修者の問題意識に沿いつつ、学位論文作成準備のための研究指導を行うものである。授業の目的は、各自の研究分野に関する諸問題の発見能力およびそれら諸問題を解決するための分析能力を涵養することにある。具体的な演習内容と授業の実施方法は各開講教員に委ねられている。									
到達目標	1. 自らの研究分野に関わる重要な問題について説明できる。 2. 自らの研究分野に関わる諸問題を発見し、それらを適切な方法で分析できる。									
授業外学修内容・授業外学修時間数	1. 研究課題に関する文献を幅広く渉猟し、当該研究分野における重要な問題の発見に努めること。 2. 授業時に出されたコメントや助言をよく理解し、これらを踏まえつつ問題解決に向けて複数の分析手法の修得に努めること。 これらを併せて、合計120時間以上の授業外学修を行うこと。									
授業計画	【第1回】第1期授業日程と授業運営方法の説明 【第2回】研究課題選定の技法1 【第3回】研究課題選定の技法2 【第4回】研究課題選定の技法3 【第5回】学位論文の構想1 【第6回】学位論文の構想2 【第7回】学位論文の構想3 【第8回】学位論文の資料収集と読解1 【第9回】学位論文の資料収集と読解2 【第10回】学位論文の資料収集と読解3 【第11回】学位論文の資料収集と読解4 【第12回】学位論文の資料作成法1 【第13回】学位論文の資料作成法2 【第14回】学位論文の資料作成法3 【第15回】総括			【第16回】第2期授業日程と授業運営方法の説明 【第17回】学位論文の作成技法1 【第18回】学位論文の作成技法2 【第19回】学位論文の作成技法3 【第20回】学位論文の作成技法4 【第21回】論文作成1 【第22回】論文作成2 【第23回】論文作成3 【第24回】論文作成4 【第25回】論文作成5 【第26回】論文作成6 【第27回】論文作成7 【第28回】論文作成8 【第29回】論文作成9 【第30回】総括						
成績評価の方法	原則としては、授業への取り組み姿勢(30%)、発表・討論(50%)および最終課題(レポート等)(20%)によって評価するが、各担当教員によって変更の可能性があるので事前に確認しておくこと。									
フィードバックの内容	報告や論文に対するコメントを授業時に行う。									
教科書										
指定図書										
参考書										
教員からのお知らせ										
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部にて定めている各教員のオフィスアワーにて受け付ける。また、WebClassのメッセージ機能でも受け付ける(利用方法はポータルサイト、ライブラリ内のマニュアルを参照)。									
アクティブラーニングの内容	演習、教員からのフィードバックによる振り返り、ディベート、プレゼンテーション									
その他										

講義コード	12C0111801	授業形態	演習	抽選の有無	なし	担当教員	苑 志佳	開講期	通年	
科目名	演習Ⅱ(苑)				苑 志佳		通年			
履修前提条件					備考					
授業の目的	本演習は、学位論文を作成する修士課程の学生を対象とし、履修者の問題意識に沿いつつ、学位論文作成のための研究指導を行うものである。授業の目的は、各自の研究分野に関する諸問題の発見能力およびそれら諸問題を解決するための分析能力を高め、延いては自らの研究課題を達成するに足る総合的な研究能力を獲得することにある。具体的な演習内容と授業の実施方法は各開講教員に委ねられている。									
到達目標	1. 自らの研究分野に関わる諸問題を発見し、それらを適切な方法で分析できる。 2. 自らの研究課題を達成し、その成果を学術論文として結実させることができる。									
授業外学修内容・授業外学修時間数	1. 研究課題に関する文献を幅広く渉猟し、当該研究分野における重要な問題の発見に努めること。 2. 授業時に出されたコメントや助言をよく理解し、これらを踏まえつつ問題解決に向けて複数の分析手法の修得に努めること。 これらを併せて、合計120時間以上の授業外学修を行うこと。									
授業計画	【第1回】第1期授業日程と授業運営方法の説明 【第2回】論文作成(1) 【第3回】論文作成(2) 【第4回】論文作成(3) 【第5回】論文作成(4) 【第6回】論文作成(5) 【第7回】論文作成(6) 【第8回】論文作成(7) 【第9回】論文作成(8) 【第10回】論文作成(9) 【第11回】論文作成(10) 【第12回】論文作成(11) 【第13回】論文作成(12) 【第14回】論文作成(13) 【第15回】総括			【第16回】第2期授業日程と授業運営方法の説明 【第17回】論文作成(1) 【第18回】論文作成(2) 【第19回】論文作成(3) 【第20回】論文作成(4) 【第21回】論文作成(5) 【第22回】論文作成(6) 【第23回】論文作成(7) 【第24回】論文作成(8) 【第25回】論文作成(9) 【第26回】論文作成(10) 【第27回】論文作成(11) 【第28回】論文作成(12) 【第29回】論文作成(13) 【第30回】総括						
成績評価の方法	原則としては、授業への取り組み姿勢(30%)、発表・討論(50%)および最終課題(レポート等)(20%)によって評価するが、各担当教員によって変更の可能性があるので事前に確認しておくこと。									
フィードバックの内容	報告や論文に対するコメントを授業時に行う。									
教科書										
指定図書										
参考書										
教員からのお知らせ										
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部にて定めている各教員のオフィスアワーにて受け付ける。また、WebClassのメッセージ機能でも受け付ける(利用方法はポータルサイト、ライブラリ内のマニュアルを参照)。									
アクティブラーニングの内容	演習、教員からのフィードバックによる振り返り、ディベート、プレゼンテーション									
その他										

講義コード	12C0111802	授業形態	演習	抽選の有無	なし	担当教員	戎野 淑子	開講期	通年
科目名	演習Ⅱ(戎野)								
履修前提条件						備考			
授業の目的	本演習は、学位論文を作成する修士課程の学生を対象とし、履修者の問題意識に沿いつつ、学位論文作成のための研究指導を行うものである。授業の目的は、各自の研究分野に関する諸問題の発見能力およびそれら諸問題を解決するための分析能力を高め、延いては自らの研究課題を達成するに足る総合的な研究能力を獲得することにある。具体的な演習内容と授業の実施方式は各開講教員に委ねられている。								
到達目標	1. 自らの研究分野に関わる諸問題を発見し、それらを適切な方法で分析できる。 2. 自らの研究課題を達成し、その成果を学術論文として結実させることができる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	1. 研究課題に関する文献を幅広く渉猟し、当該研究分野における重要な問題の発見に努めること。 2. 授業時に出されたコメントや助言をよく理解し、これらを踏まえつつ問題解決に向けて複数の分析手法の修得に努めること。 これらを併せて、合計120時間以上の授業外学修を行うこと。								
授業計画	【第1回】第1期授業日程と授業運営方法の説明 【第2回】論文作成(1) 【第3回】論文作成(2) 【第4回】論文作成(3) 【第5回】論文作成(4) 【第6回】論文作成(5) 【第7回】論文作成(6) 【第8回】論文作成(7) 【第9回】論文作成(8) 【第10回】論文作成(9) 【第11回】論文作成(10) 【第12回】論文作成(11) 【第13回】論文作成(12) 【第14回】論文作成(13) 【第15回】総括				【第16回】第2期授業日程と授業運営方法の説明 【第17回】論文作成(1) 【第18回】論文作成(2) 【第19回】論文作成(3) 【第20回】論文作成(4) 【第21回】論文作成(5) 【第22回】論文作成(6) 【第23回】論文作成(7) 【第24回】論文作成(8) 【第25回】論文作成(9) 【第26回】論文作成(10) 【第27回】論文作成(11) 【第28回】論文作成(12) 【第29回】論文作成(13) 【第30回】総括				
成績評価の方法	原則としては、授業への取り組み姿勢(30%)、発表・討論(50%)および最終課題(レポート等)(20%)によって評価するが、各担当教員によって変更の可能性があるので事前に確認しておくこと。								
フィードバックの内容	報告や論文に対するコメントを授業時に行う。								
教科書									
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ									
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部にて定めている各教員のオフィスアワーにて受け付ける。また、WebClassのメッセージ機能でも受け付ける(利用方法はポータルサイト、ライブラリ内のマニュアルを参照)。								
アクティブラーニングの内容	演習、教員からのフィードバックによる振り返り、ディベート、プレゼンテーション								
その他									

講義コード	12C0111803	授業形態	演習	抽選の有無	なし	担当教員	北原 克宣	開講期	通年
科目名	演習Ⅱ(北原)								
履修前提条件						備考			
授業の目的	本演習は、学位論文を作成する修士課程の学生を対象とし、履修者の問題意識に沿いつつ、学位論文作成のための研究指導を行うものである。授業の目的は、各自の研究分野に関する諸問題の発見能力およびそれら諸問題を解決するための分析能力を高め、延いては自らの研究課題を達成するに足る総合的な研究能力を獲得することにある。具体的な演習内容と授業の実施方式は各開講教員に委ねられている。								
到達目標	1. 自らの研究分野に関わる諸問題を発見し、それらを適切な方法で分析できる。 2. 自らの研究課題を達成し、その成果を学術論文として結実させることができる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	1. 研究課題に関する文献を幅広く渉猟し、当該研究分野における重要な問題の発見に努めること。 2. 授業時に出されたコメントや助言をよく理解し、これらを踏まえつつ問題解決に向けて複数の分析手法の修得に努めること。 これらを併せて、合計120時間以上の授業外学修を行うこと。								
授業計画	【第1回】第1期授業日程と授業運営方法の説明 【第2回】論文作成(1) 【第3回】論文作成(2) 【第4回】論文作成(3) 【第5回】論文作成(4) 【第6回】論文作成(5) 【第7回】論文作成(6) 【第8回】論文作成(7) 【第9回】論文作成(8) 【第10回】論文作成(9) 【第11回】論文作成(10) 【第12回】論文作成(11) 【第13回】論文作成(12) 【第14回】論文作成(13) 【第15回】総括				【第16回】第2期授業日程と授業運営方法の説明 【第17回】論文作成(1) 【第18回】論文作成(2) 【第19回】論文作成(3) 【第20回】論文作成(4) 【第21回】論文作成(5) 【第22回】論文作成(6) 【第23回】論文作成(7) 【第24回】論文作成(8) 【第25回】論文作成(9) 【第26回】論文作成(10) 【第27回】論文作成(11) 【第28回】論文作成(12) 【第29回】論文作成(13) 【第30回】総括				
成績評価の方法	原則としては、授業への取り組み姿勢(30%)、発表・討論(50%)および最終課題(レポート等)(20%)によって評価するが、各担当教員によって変更の可能性があるので事前に確認しておくこと。								
フィードバックの内容	報告や論文に対するコメントを授業時に行う。								
教科書									
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ									
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部にて定めている各教員のオフィスアワーにて受け付ける。また、WebClassのメッセージ機能でも受け付ける(利用方法はポータルサイト、ライブラリ内のマニュアルを参照)。								
アクティブラーニングの内容	演習、教員からのフィードバックによる振り返り、ディベート、プレゼンテーション								
その他									

講義コード	12C0111805	授業形態	演習	抽選の有無	なし	担当教員	王 在詰	開講期	通年
科目名	演習Ⅱ(王在詰)				王 在詰			通年	
履修前提条件					備考				
授業の目的	本演習は、学位論文を作成する修士課程の学生を対象とし、履修者の問題意識に沿いつつ、学位論文作成のための研究指導を行うものである。授業の目的は、各自の研究分野に関する諸問題の発見能力およびそれら諸問題を解決するための分析能力を高め、延いては自らの研究課題を達成するに足る総合的な研究能力を獲得することにある。具体的な演習内容と授業の実施方式は各開講教員に委ねられている。								
到達目標	1. 自らの研究分野に関わる諸問題を発見し、それらを適切な方法で分析できる。 2. 自らの研究課題を達成し、その成果を学術論文として結実させることができる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	1. 研究課題に関する文献を幅広く渉猟し、当該研究分野における重要な問題の発見に努めること。 2. 授業時に出されたコメントや助言をよく理解し、これらを踏まえて問題解決に向けて複数の分析手法の修得に努めること。 これらを併せて、合計120時間以上の授業外学修を行うこと。								
授業計画	【第1回】第1期授業日程と授業運営方法の説明 【第2回】論文作成(1) 【第3回】論文作成(2) 【第4回】論文作成(3) 【第5回】論文作成(4) 【第6回】論文作成(5) 【第7回】論文作成(6) 【第8回】論文作成(7) 【第9回】論文作成(8) 【第10回】論文作成(9) 【第11回】論文作成(10) 【第12回】論文作成(11) 【第13回】論文作成(12) 【第14回】論文作成(13) 【第15回】総括				【第16回】第2期授業日程と授業運営方法の説明 【第17回】論文作成(1) 【第18回】論文作成(2) 【第19回】論文作成(3) 【第20回】論文作成(4) 【第21回】論文作成(5) 【第22回】論文作成(6) 【第23回】論文作成(7) 【第24回】論文作成(8) 【第25回】論文作成(9) 【第26回】論文作成(10) 【第27回】論文作成(11) 【第28回】論文作成(12) 【第29回】論文作成(13) 【第30回】総括				
成績評価の方法	原則としては、授業への取り組み姿勢(30%)、発表・討論(50%)および最終課題(レポート等)(20%)によって評価するが、各担当教員によって変更の可能性があるので事前に確認しておくこと。								
フィードバックの内容	報告や論文に対するコメントを授業時に行う。								
教科書									
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ									
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部にて定めている各教員のオフィスアワーにて受け付ける。また、WebClassのメッセージ機能でも受け付ける(利用方法はポータルサイト、ライブラリ内のマニュアルを参照)。								
アクティブラーニングの内容	演習、教員からのフィードバックによる振り返り、ディベート、プレゼンテーション								
その他									

講義コード	12C0111808	授業形態	演習	抽選の有無	なし	担当教員	河原 伸哉	開講期	通年
科目名	演習Ⅱ(河原)				河原 伸哉			通年	
履修前提条件					備考				
授業の目的	本演習は、学位論文を作成する修士課程の学生を対象とし、履修者の問題意識に沿いつつ、学位論文作成のための研究指導を行うものである。授業の目的は、各自の研究分野に関する諸問題の発見能力およびそれら諸問題を解決するための分析能力を高め、延いては自らの研究課題を達成するに足る総合的な研究能力を獲得することにある。具体的な演習内容と授業の実施方式は各開講教員に委ねられている。								
到達目標	1. 自らの研究分野に関わる諸問題を発見し、それらを適切な方法で分析できる。 2. 自らの研究課題を達成し、その成果を学術論文として結実させることができる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	1. 研究課題に関する文献を幅広く渉猟し、当該研究分野における重要な問題の発見に努めること。 2. 授業時に出されたコメントや助言をよく理解し、これらを踏まえて問題解決に向けて複数の分析手法の修得に努めること。 これらを併せて、合計120時間以上の授業外学修を行うこと。								
授業計画	【第1回】第1期授業日程と授業運営方法の説明 【第2回】論文作成(1) 【第3回】論文作成(2) 【第4回】論文作成(3) 【第5回】論文作成(4) 【第6回】論文作成(5) 【第7回】論文作成(6) 【第8回】論文作成(7) 【第9回】論文作成(8) 【第10回】論文作成(9) 【第11回】論文作成(10) 【第12回】論文作成(11) 【第13回】論文作成(12) 【第14回】論文作成(13) 【第15回】総括				【第16回】第2期授業日程と授業運営方法の説明 【第17回】論文作成(1) 【第18回】論文作成(2) 【第19回】論文作成(3) 【第20回】論文作成(4) 【第21回】論文作成(5) 【第22回】論文作成(6) 【第23回】論文作成(7) 【第24回】論文作成(8) 【第25回】論文作成(9) 【第26回】論文作成(10) 【第27回】論文作成(11) 【第28回】論文作成(12) 【第29回】論文作成(13) 【第30回】総括				
成績評価の方法	原則としては、授業への取り組み姿勢(30%)、発表・討論(50%)および最終課題(レポート等)(20%)によって評価するが、各担当教員によって変更の可能性があるので事前に確認しておくこと。								
フィードバックの内容	報告や論文に対するコメントを授業時に行う。								
教科書									
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ									
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部にて定めている各教員のオフィスアワーにて受け付ける。また、WebClassのメッセージ機能でも受け付ける(利用方法はポータルサイト、ライブラリ内のマニュアルを参照)。								
アクティブラーニングの内容	演習、教員からのフィードバックによる振り返り、ディベート、プレゼンテーション								
その他									

講義コード	12C0111809	授業形態	演習	抽選の有無	なし	担当教員		開講期	
科目名	演習Ⅱ(小林幹)				小林 幹		通年		
履修前提条件					備考				
授業の目的	本演習は、学位論文を作成する修士課程の学生を対象とし、履修者の問題意識に沿いつつ、学位論文作成のための研究指導を行うものである。授業の目的は、各自の研究分野に関する諸問題の発見能力およびそれら諸問題を解決するための分析能力を高め、延いては自らの研究課題を達成するに足る総合的な研究能力を獲得することにある。具体的な演習内容と授業の実施方式は各開講教員に委ねられている。								
到達目標	1. 自らの研究分野に関わる諸問題を発見し、それらを適切な方法で分析できる。 2. 自らの研究課題を達成し、その成果を学術論文として結実させることができる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	1. 研究課題に関する文献を幅広く渉猟し、当該研究分野における重要な問題の発見に努めること。 2. 授業時に出されたコメントや助言をよく理解し、これらを踏まえつつ問題解決に向けて複数の分析手法の修得に努めること。 これらを併せて、合計120時間以上の授業外学修を行うこと。								
授業計画	【第1回】第1期授業日程と授業運営方法の説明 【第2回】論文作成(1) 【第3回】論文作成(2) 【第4回】論文作成(3) 【第5回】論文作成(4) 【第6回】論文作成(5) 【第7回】論文作成(6) 【第8回】論文作成(7) 【第9回】論文作成(8) 【第10回】論文作成(9) 【第11回】論文作成(10) 【第12回】論文作成(11) 【第13回】論文作成(12) 【第14回】論文作成(13) 【第15回】総括				【第16回】第2期授業日程と授業運営方法の説明 【第17回】論文作成(1) 【第18回】論文作成(2) 【第19回】論文作成(3) 【第20回】論文作成(4) 【第21回】論文作成(5) 【第22回】論文作成(6) 【第23回】論文作成(7) 【第24回】論文作成(8) 【第25回】論文作成(9) 【第26回】論文作成(10) 【第27回】論文作成(11) 【第28回】論文作成(12) 【第29回】論文作成(13) 【第30回】総括				
成績評価の方法	原則としては、授業への取り組み姿勢(30%)、発表・討論(50%)および最終課題(レポート等)(20%)によって評価するが、各担当教員によって変更の可能性があるので事前に確認しておくこと。								
フィードバックの内容	報告や論文に対するコメントを授業時に行う。								
教科書									
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ									
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部にて定めている各教員のオフィスアワーにて受け付ける。また、WebClassのメッセージ機能でも受け付ける(利用方法はポータルサイト、ライブラリ内のマニュアルを参照)。								
アクティブラーニングの内容	演習、教員からのフィードバックによる振り返り、ディベート、プレゼンテーション								
その他									

講義コード	12C0111810	授業形態	演習	抽選の有無	なし	担当教員		開講期	
科目名	演習Ⅱ(高橋)				高橋 美由紀		通年		
履修前提条件					備考				
授業の目的	本演習は、学位論文を作成する修士課程の学生を対象とし、履修者の問題意識に沿いつつ、学位論文作成のための研究指導を行うものである。授業の目的は、各自の研究分野に関する諸問題の発見能力およびそれら諸問題を解決するための分析能力を高め、延いては自らの研究課題を達成するに足る総合的な研究能力を獲得することにある。具体的な演習内容と授業の実施方式は各開講教員に委ねられている。								
到達目標	1. 自らの研究分野に関わる諸問題を発見し、それらを適切な方法で分析できる。 2. 自らの研究課題を達成し、その成果を学術論文として結実させることができる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	1. 研究課題に関する文献を幅広く渉猟し、当該研究分野における重要な問題の発見に努めること。 2. 授業時に出されたコメントや助言をよく理解し、これらを踏まえつつ問題解決に向けて複数の分析手法の修得に努めること。 これらを併せて、合計120時間以上の授業外学修を行うこと。								
授業計画	【第1回】第1期授業日程と授業運営方法の説明 【第2回】論文作成(1) 【第3回】論文作成(2) 【第4回】論文作成(3) 【第5回】論文作成(4) 【第6回】論文作成(5) 【第7回】論文作成(6) 【第8回】論文作成(7) 【第9回】論文作成(8) 【第10回】論文作成(9) 【第11回】論文作成(10) 【第12回】論文作成(11) 【第13回】論文作成(12) 【第14回】論文作成(13) 【第15回】総括				【第16回】第2期授業日程と授業運営方法の説明 【第17回】論文作成(1) 【第18回】論文作成(2) 【第19回】論文作成(3) 【第20回】論文作成(4) 【第21回】論文作成(5) 【第22回】論文作成(6) 【第23回】論文作成(7) 【第24回】論文作成(8) 【第25回】論文作成(9) 【第26回】論文作成(10) 【第27回】論文作成(11) 【第28回】論文作成(12) 【第29回】論文作成(13) 【第30回】総括				
成績評価の方法	原則としては、授業への取り組み姿勢(30%)、発表・討論(50%)および最終課題(レポート等)(20%)によって評価するが、各担当教員によって変更の可能性があるので事前に確認しておくこと。								
フィードバックの内容	報告や論文に対するコメントを授業時に行う。								
教科書									
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ									
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部にて定めている各教員のオフィスアワーにて受け付ける。また、WebClassのメッセージ機能でも受け付ける(利用方法はポータルサイト、ライブラリ内のマニュアルを参照)。								
アクティブラーニングの内容	演習、教員からのフィードバックによる振り返り、ディベート、プレゼンテーション								
その他									

講義コード	12C0111901	授業形態	演習	抽選の有無	なし	担当教員	王 在詰	開講期	通年
科目名	演習Ⅲ(王在詰)				王 在詰			通年	
履修前提条件					備考				
授業の目的	本演習は、学位論文を作成する修士課程の学生を対象とし、履修者の問題意識に沿いつつ、学位論文作成のための研究指導を行うものである。授業の目的は、各自の研究分野に関する諸問題の発見能力およびそれら諸問題を解決するための分析能力を高め、延いては自らの研究課題を達成するに足る総合的な研究能力を獲得することにある。具体的な演習内容と授業の実施方式は各開講教員に委ねられている。								
到達目標	1. 自らの研究分野に関わる諸問題を発見し、それらを適切な方法で分析できる。 2. 自らの研究課題を達成し、その成果を学術論文として結実させることができる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	1. 研究課題に関する文献を幅広く渉猟し、当該研究分野における重要な問題の発見に努めること。 2. 授業時に出されたコメントや助言をよく理解し、これらを踏まえつつ問題解決に向けて複数の分析手法の修得に努めること。 これらを併せて、合計120時間以上の授業外学修を行うこと。								
授業計画	【第1回】第1期授業日程と授業運営方法の説明 【第2回】論文作成(1) 【第3回】論文作成(2) 【第4回】論文作成(3) 【第5回】論文作成(4) 【第6回】論文作成(5) 【第7回】論文作成(6) 【第8回】論文作成(7) 【第9回】論文作成(8) 【第10回】論文作成(9) 【第11回】論文作成(10) 【第12回】論文作成(11) 【第13回】論文作成(12) 【第14回】論文作成(13) 【第15回】総括				【第16回】第2期授業日程と授業運営方法の説明 【第17回】論文作成(1) 【第18回】論文作成(2) 【第19回】論文作成(3) 【第20回】論文作成(4) 【第21回】論文作成(5) 【第22回】論文作成(6) 【第23回】論文作成(7) 【第24回】論文作成(8) 【第25回】論文作成(9) 【第26回】論文作成(10) 【第27回】論文作成(11) 【第28回】論文作成(12) 【第29回】論文作成(13) 【第30回】総括				
成績評価の方法	原則としては、授業への取り組み姿勢(30%)、発表・討論(50%)および最終課題(レポート等)(20%)によって評価するが、各担当教員によって変更の可能性があるので事前に確認しておくこと。								
フィードバックの内容	報告や論文に対するコメントを授業時に行う。								
教科書									
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ									
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部にて定めている各教員のオフィスアワーにて受け付ける。また、WebClassのメッセージ機能でも受け付ける(利用方法はポータルサイト、ライブラリ内のマニュアルを参照)。								
アクティブラーニングの内容	演習、教員からのフィードバックによる振り返り、ディベート、プレゼンテーション								
その他									

講義コード	12C0111903	授業形態	演習	抽選の有無	なし	担当教員	櫻井 一宏	開講期	通年
科目名	演習Ⅲ(櫻井)				櫻井 一宏			通年	
履修前提条件					備考				
授業の目的	本演習は、学位論文を作成する修士課程の学生を対象とし、履修者の問題意識に沿いつつ、学位論文作成のための研究指導を行うものである。授業の目的は、各自の研究分野に関する諸問題の発見能力およびそれら諸問題を解決するための分析能力を高め、延いては自らの研究課題を達成するに足る総合的な研究能力を獲得することにある。具体的な演習内容と授業の実施方式は各開講教員に委ねられている。								
到達目標	1. 自らの研究分野に関わる諸問題を発見し、それらを適切な方法で分析できる。 2. 自らの研究課題を達成し、その成果を学術論文として結実させることができる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	1. 研究課題に関する文献を幅広く渉猟し、当該研究分野における重要な問題の発見に努めること。 2. 授業時に出されたコメントや助言をよく理解し、これらを踏まえつつ問題解決に向けて複数の分析手法の修得に努めること。 これらを併せて、合計120時間以上の授業外学修を行うこと。								
授業計画	【第1回】第1期授業日程と授業運営方法の説明 【第2回】論文作成(1) 【第3回】論文作成(2) 【第4回】論文作成(3) 【第5回】論文作成(4) 【第6回】論文作成(5) 【第7回】論文作成(6) 【第8回】論文作成(7) 【第9回】論文作成(8) 【第10回】論文作成(9) 【第11回】論文作成(10) 【第12回】論文作成(11) 【第13回】論文作成(12) 【第14回】論文作成(13) 【第15回】総括				【第16回】第2期授業日程と授業運営方法の説明 【第17回】論文作成(1) 【第18回】論文作成(2) 【第19回】論文作成(3) 【第20回】論文作成(4) 【第21回】論文作成(5) 【第22回】論文作成(6) 【第23回】論文作成(7) 【第24回】論文作成(8) 【第25回】論文作成(9) 【第26回】論文作成(10) 【第27回】論文作成(11) 【第28回】論文作成(12) 【第29回】論文作成(13) 【第30回】総括				
成績評価の方法	原則としては、授業への取り組み姿勢(30%)、発表・討論(50%)および最終課題(レポート等)(20%)によって評価するが、各担当教員によって変更の可能性があるので事前に確認しておくこと。								
フィードバックの内容	報告や論文に対するコメントを授業時に行う。								
教科書									
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ									
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部にて定めている各教員のオフィスアワーにて受け付ける。また、WebClassのメッセージ機能でも受け付ける(利用方法はポータルサイト、ライブラリ内のマニュアルを参照)。								
アクティブラーニングの内容	演習、教員からのフィードバックによる振り返り、ディベート、プレゼンテーション								
その他									

講義コード	13C0100901	授業形態	講義	抽選の有無	なし	担当教員		開講期	
科目名	環境政策特研1				吉田 友美		第1期		
履修前提条件					備考				
授業の目的	一般的に、外部不経済により環境問題は深刻化する中で、市場に対する政府の介入（環境政策の実施）が必要になる。本講義では、環境問題が発生するメカニズム、外部不経済の是正のための環境政策の理論、環境政策の具体的事例、外部性の内部化の手段としての環境評価手法等について学ぶ。 なお、本講義は修士課程の「環境政策特論1」との合同授業である。								
到達目標	(1) 環境問題が発生するメカニズムについて、経済理論を用いて説明できるようになる。 (2) それぞれの環境政策について説明できるようになる。 (3) 環境評価手法について説明できるようになる。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	この科目では、60時間以上の授業外学修を行うこと。基本的に輪読の形式をとるので、報告者は事前に教科書を要約しプレゼン資料を作成のうえ、講義中にプレゼンを行うこと。加えて、プレゼン内容について復習も行うこと。								
授業計画	【第1回】 Introduction 【第2回】 The Economic Approach: Property Rights, Externalities, and Environmental Problems 1 【第3回】 The Economic Approach: Property Rights, Externalities, and Environmental Problems 2 【第4回】 Evaluating Trade-Offs: Benefit-Cost Analysis and Other Decision-Making Metrics 1 【第5回】 Evaluating Trade-Offs: Benefit-Cost Analysis and Other Decision-Making Metrics 2 【第6回】 Valuing the Environment Methods 1 【第7回】 Valuing the Environment Methods 2 【第8回】 Valuing the Environment Methods 3 【第9回】 Dynamic Efficiency and Sustainable Development 1 【第10回】 Dynamic Efficiency and Sustainable Development 2 【第11回】 Depletable Resource Allocation: The Role of Longer Time Horizons, Substitutes, and Extraction Cost 1 【第12回】 Depletable Resource Allocation: The Role of Longer Time Horizons, Substitutes, and Extraction Cost 2 【第13回】 Energy: The Transition from Depletable to Renewable Resources 1 【第14回】 Energy: The Transition from Depletable to Renewable Resources 2 【第15回】 Summery								
成績評価の方法	プレゼン資料：40% プレゼン内容：60%								
フィードバックの内容	講義後、講評を実施。								
教科書	『Environmental and Natural Resource Economics』 Thomas H. Tietenberg, Lynne Lewis (Routledge) 2018年								
指定図書	『Environmental and Natural Resource Economics』 Thomas H. Tietenberg, Lynne Lewis (Routledge) 2018年								
参考書	『Environmental Economics』 Charles D. Kolstad (Oxford Univ Pr) 2010年								
教員からのお知らせ									
オフィスアワー	毎週、木曜日5限 ただし、必ず事前にメールにてアポイントメントをとること。 メールアドレスは授業中に指示します。								
アクティブラーニングの内容 その他	課題の講評を実施								

講義コード	13C0101001	授業形態	講義	抽選の有無	なし	担当教員		開講期	
科目名	環境政策特研2				吉田 友美		第2期		
履修前提条件					備考				
授業の目的	一般的に、外部不経済により環境問題は深刻化する中で、市場に対する政府の介入（環境政策の実施）が必要になる。本講義では、環境問題が発生するメカニズム、外部不経済の是正のための環境政策の理論、環境政策の具体的事例、外部性の内部化の手段としての環境評価手法等について学ぶ。 なお、本講義は修士課程の「環境政策特論2」との合同授業である。								
到達目標	(1) 環境問題が発生するメカニズムについて、経済理論を用いて説明できるようになる。 (2) それぞれの環境政策について説明できるようになる。 (3) 環境評価手法について説明できるようになる。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	この科目では、60時間以上の授業外学修を行うこと。基本的に輪読の形式をとるので、報告者は事前に教科書を要約しプレゼン資料作成のうえ、講義中にプレゼンを行うこと。加えて、プレゼン内容について復習も行うこと。								
授業計画	【第1回】 Introduction 【第2回】 Recyclable Resources: Minerals, Paper, Bottles, and E-Waste 1 【第3回】 Recyclable Resources: Minerals, Paper, Bottles, and E-Waste 2 【第4回】 Water: A confluence of Renewable and Depletable Resources 1 【第5回】 Water: A confluence of Renewable and Depletable Resources 2 【第6回】 Water: A confluence of Renewable and Depletable Resources 3 【第7回】 A Locationally Fixed, Multipurpose Resource: Land 1 【第8回】 A Locationally Fixed, Multipurpose Resource: Land 2 【第9回】 A Locationally Fixed, Multipurpose Resource: Land 3 【第10回】 Storable, Renewable Resources: Forests 1 【第11回】 Storable, Renewable Resources: Forests 2 【第12回】 Storable, Renewable Resources: Forests 3 【第13回】 Common-Pool Resources: Commercially Valuable Fisheries 1 【第14回】 Common-Pool Resources: Commercially Valuable Fisheries 2 【第15回】 Summery								
成績評価の方法	プレゼン資料：40% プレゼン内容：60%								
フィードバックの内容	講義後、講評を実施。								
教科書	『Environmental and Natural Resource Economics』 Thomas H. Tietenberg, Lynne Lewis (Routledge) 2018年								
指定図書	『Environmental and Natural Resource Economics』 Thomas H. Tietenberg, Lynne Lewis (Routledge) 2018年								
参考書	『Environmental Economics』 Charles D. Kolstad (Oxford Univ Pr) 2010年								
教員からのお知らせ									
オフィスアワー	毎週、木曜日5限 ただし、必ず事前にメールにてアポイントメントをとること。 メールアドレスは授業中に指示する。								
アクティブラーニングの内容 その他	課題の講評を実施								

講義コード	13C0101301	授業形態	講義	抽選の有無	なし	担当教員	佐伯 順子	開講期	第1期
科目名	国際環境特研1								
履修前条件					備考				
授業の目的	地球上で現在発生している、生物多様性や生態系機能の低下、水資源不足、地球温暖化、資源枯渇などの様々な環境問題の現状、そしてその発生機構および講じられている緩和・適応策について学びます。そして、これらの環境問題を取り巻く政策、経済活動について学び、課題解決に向けて今後の対策について議論し、理解を深めます。なお、本講義は博士後期課程の「国際環境特研1」との合同授業です。								
到達目標	この講義を通じて、様々な環境問題の深刻さとその発生メカニズムと相互作用を理解できるようになる。そして、現在講じられている対策について、社会がどのように取り組んでいて、課題がどこに残っているのかを認識し、今後人類が種々の環境問題に対してどのように取り組むべきか、議論できるようになる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	授業で紹介する環境問題の中から、一つ選択し、その問題と講じられている対策について調査します。調査した内容をレポートにまとめ、授業で発表できるように準備します。調査では、特にその対策の効果と課題に着目し、今後どのように対応していくべきかの提案をします。(計60時間)								
授業計画	【第1回】地球上で起こっている環境問題の概要 【第2回】人間活動と環境問題と環境問題の歴史 【第3回】国際的な枠組み 【第4回】地球温暖化(1)メカニズムと現象、研究 【第5回】地球温暖化(2)政策的な取組 【第6回】地球温暖化(3)地球温暖化問題とエネルギー資源 【第7回】地球温暖化(4)対策(省エネ、技術開発)、適応策と緩和策 【第8回】地球温暖化(5)企業の取組 【第9回】環境汚染(1)大気汚染 【第10回】環境汚染(2)土壌汚染、水質汚濁(富栄養化)、残留農薬 【第11回】水資源(1)水の需要と供給 【第12回】水資源(2)環境への影響 【第13回】水資源(3)水マネジメント 【第14回】プレゼンテーション 【第15回】まとめ								
成績評価の方法	授業への取組姿勢(40%)、レポート(20%)、プレゼンテーション(40%)								
フィードバックの内容									
教科書									
指定図書									
参考書	『生態リスク学入門 - 予防的順応的管理 -』松田裕之(共立出版)2008、『地球の論点 —— 現実的な環境主義者のマニフェスト 地球の論点 —— 現実的な環境主義者のマニフェスト』スチュアート(英治出版)2011、『現代の化学環境学 環境の理解と改善のために』御園生 誠(裳華房)2017、『図解 環境バイオテクノロジー入門』軽部 征夫(日刊工業新聞社)2012、『グラフィック環境経済学』浅子 和美(新世社)2015、『資源の循環利用とはなにか—— バツをグッズに変える新しい経済システム』細田 衛士(岩波書店)2015、『沈黙の春』レイチェル カーソン(新潮文庫)1974、『GEO - 5 地球環境概観第5次報告書 - 私達が望む未来の環境(上)』国連環境計画(環境報告研)2015、『持続可能な社会のための環境論・環境政策論』白井 信雄(大学教育出版)2020、『資源と環境の経済学 - ケーススタディで学ぶ』馬奈木 俊介(昭和堂)2012								
教員からのお知らせ									
オフィスアワー	非常勤) 本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。								
アクティブラーニングの内容	意見共有、能動的な授業外学習など								
その他	各授業内では、授業に関する事柄についての意見共有を促進しています。意見や疑問があれば、随時挙手により意見を表明し、ディスカッションを深めます。 プレゼンテーションの課題の際には、各自図書館やインターネットなどで課題に応じて調査し、プレゼンテーションにて調査結果を共有してもらいます。プレゼンテーション後には、教員からフィードバックと問題提起をし、クラス全体でディスカッションを行います。 期のまとめとして、全授業内容を最後にまとめてレポートの課題に反映させます。								

講義コード	13C0101401	授業形態	講義	抽選の有無	なし	担当教員		開講期	
科目名	国際環境特研2				佐伯 順子		第2期		
履修前条件					備考				
授業の目的	地球上で現在発生している、生物多様性や生態系機能の低下、水資源不足、地球温暖化、資源枯渇などの様々な環境問題の現状、そしてその発生機構および講じられている緩和・適応策について学びます。そして、これらの環境問題を取り巻く政策、経済活動について学び、課題解決に向けて今後の対策について議論し、理解を深めます。 なお、本講義は博士後期課程の「国際環境特論2」との合同授業です。								
到達目標	この講義を通じて、様々な環境問題の深刻さとその発生メカニズムと相互作用を理解できるようになる。そして、現在講じられている対策について、社会がどのように取り組んでいて、課題がどこに残っているのかを認識し、今後人類が種々の環境問題に対してどのように取り組むべきか、議論できるようになる。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	企業の環境経営を調査し、関心のある1企業をピックアップします。その企業の環境に対する取り組みを深掘りして調査し、授業で紹介し、またその調査内容をレポートにまとめます。(計60時間)								
授業計画	【第1回】生態系環境 (1) 生物を取り巻く環境 【第2回】生態系環境 (2) 生物多様性のメカニズムと重要性 【第3回】生態系環境 (3) 生態系のメカニズム 【第4回】生態系環境 (4) 海の生態系 【第5回】生態系環境 (5) 生物資源(バイオマス)の利用と環境保全 【第6回】生態系環境 (6) 外来種 【第7回】資源循環 (1) プラスチック問題 【第8回】資源循環 (2) 資源枯渇 【第9回】資源循環 (3) 廃棄物問題 【第10回】資源循環 (4) リサイクル 【第11回】環境経営 (1) 企業の取組事例 【第12回】環境経営 (2) 環境への影響の評価方法 【第13回】環境経営 (3) 企業に求められる努力 【第14回】プレゼンテーション 【第15回】まとめ								
成績評価の方法	授業への取組姿勢 (40%)、レポート (20%)、プレゼンテーション (40%)								
フィードバックの内容									
教科書									
指定図書									
参考書	『生態リスク学入門 - 予防的順応的管理 -』松田裕之 (共立出版) 2008、『地球の論点 —— 現実的な環境主義者のマニフェスト 地球の論点 —— 現実的な環境主義者のマニフェスト』スチュアート (英治出版) 2011、『現代の化学環境学 環境の理解と改善のために』御園生 誠 (裳華房) 2017、『図解 環境バイオテクノロジー入門』軽部 征夫 (日刊工業新聞社) 2012、『グラフィック環境経済学』浅子 和美 (新世社) 2015、『資源の循環利用とはなにか——バズをグズに変える新しい経済システム』細田 衛士 (岩波書店) 2015、『沈黙の春』レイチェル カーソン (新潮文庫) 1974、『GEO - 5 地球環境概観第5次報告書 - 私達が望む未来の環境 (上)』国連環境計画 (環境報告研) 2015、『持続可能な社会のための環境論・環境政策論』白井 信雄 (大学教育出版) 2020、『資源と環境の経済学 - ケーススタディで学ぶ』馬奈木 俊介 (昭和堂) 2012								
教員からのお知らせ									
オフィスアワー	非常勤) 本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。								
アクティブラーニングの内容	各授業内では、授業に関する事柄についての意見共有を促進しています。意見や疑問があれば、随時挙手により意見を表明し、ディスカッションを深めます。 プレゼンテーションの課題の際には、各自図書館やインターネットなどで課題に応じて調査し、プレゼンテーションにて調査結果を共有してもらいます。プレゼンテーション後には、教員からフィードバックと問題提起をし、クラス全体でディスカッションを行います。 期のまとめとして、全授業内容を最後にまとめてレポートの課題に反映させます。								
その他									

講義コード	13C0101901	授業形態	講義	抽選の有無	なし	担当教員	北原 克宣	開講期	第1期
科目名	地域農業環境特研3				北原 克宣			第1期	
履修前提条件					備考				
授業の目的	本講義では、現代資本主義下における農業・食料・環境問題に関する先行研究を学ぶことを通じて、この分野の研究の到達点と課題について学ぶことを目的とする。 ※この授業は、修士・博士後期両課程合同で実施します。								
到達目標	本講義の目標は、研究の方法および農業・食料・環境問題に関する分野の研究の到達点と残された課題について理解し、これらの知識を用いて論文（とりわけ博士論文）の執筆ができるようになることである。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	①当該分野の研究書・学術論文を読んでおくこと（毎日1時間） ②テキストは事前に必ず目を通し、疑問点・論点についてあらかじめチェックしておくこと。（1週間のうち1時間以上） 計60時間以上の授業外学修が必要である。								
授業計画	【第1回】講義の進め方について 【第2回】論文①に関する報告・討論 【第3回】論文②に関する報告・討論 【第4回】論文③に関する報告・討論 【第5回】論文④に関する報告・討論 【第6回】論文⑤に関する報告・討論 【第7回】論文⑥に関する報告・討論 【第8回】論文⑦に関する報告・討論 【第9回】論文⑧に関する報告・討論 【第10回】論文⑨に関する報告・討論 【第11回】論文⑩に関する報告・討論 【第12回】論文⑪に関する報告・討論 【第13回】論文⑫に関する報告・討論 【第14回】農業・食料・環境問題に関する研究の動向 【第15回】農業・食料・環境問題に関する研究の動向								
成績評価の方法	発表の内容・回数（50%）、発言の内容・回数（50%）								
フィードバックの内容	各発表について、講義内にてコメントをする。								
教科書									
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ									
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は随時受け付けます。講義時にお知らせするアドレスに、ご連絡ください。								
アクティブラーニングの内容	プレゼンテーション、ディスカッション								
その他									

講義コード	13C0102001	授業形態	講義	抽選の有無	なし	担当教員	北原 克宣	開講期	第2期
科目名	地域農業環境特研4				北原 克宣			第2期	
履修前提条件					備考				
授業の目的	本講義では、現代資本主義下における農業・食料・環境問題に関する先行研究を学ぶことを通じて、この分野の研究の到達点と課題について学ぶことを目的とする。 ※この授業は、修士・博士後期両課程合同で実施します。								
到達目標	本講義の目標は、研究の方法および農業・食料・環境問題に関する分野の研究の到達点と残された課題について理解し、これらの知識を用いて論文（とりわけ博士論文）の執筆ができるようになることである。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	①当該分野の研究書・学術論文を読んでおくこと（毎日1時間） ②テキストは事前に必ず目を通し、疑問点・論点についてあらかじめチェックしておくこと。（1週間のうち1時間以上） 計60時間以上の授業外学修が必要である。								
授業計画	【第1回】論文⑬に関する報告・討論 【第2回】論文⑭に関する報告・討論 【第3回】論文⑮に関する報告・討論 【第4回】論文⑯に関する報告・討論 【第5回】論文⑰に関する報告・討論 【第6回】論文⑱に関する報告・討論 【第7回】論文⑲に関する報告・討論 【第8回】論文⑳に関する報告・討論 【第9回】研究発表・討論 【第10回】研究発表・討論 【第11回】研究発表・討論 【第12回】研究発表・討論 【第13回】研究発表・討論 【第14回】農業・食料・環境問題の現代的課題 【第15回】農業・食料・環境問題の現代的課題								
成績評価の方法	発表の内容・回数（50%）、発言の内容・回数（50%）								
フィードバックの内容	各発表について、講義内にてコメントする。								
教科書									
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ									
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は随時受け付けます。講義時にお知らせするアドレスに、ご連絡ください。								
アクティブラーニングの内容	プレゼンテーション、ディスカッション								
その他									

講義コード	13C0102501	授業形態	講義	抽選の有無	なし	担当教員	中村 宗之	開講期	第1期																
科目名	マルクス経済学特研1				中村 宗之		第1期																		
履修前提条件					備考																				
授業の目的	未来社会に関する K. マルクスや他の論者の構想を検討する。必要に応じてマルクス経済学の基本的内容を確認する。なお、本講義は修士課程「マルクス経済学特論1」との合同授業である。																								
到達目標	「マルクス経済学特論1」の到達目標： 未来社会に関する K. マルクスや他の論者の構想を説明できる。マルクス経済学の基本的内容を説明できる。 「マルクス経済学特研1」の到達目標： 未来社会に関する K. マルクスや他の論者の構想を説明できる。マルクス経済学の基本的内容を説明できる。未来社会について各自の考えに基づき論じることができる。																								
授業外学修内容・授業外学修時間数	「マルクス経済学特論1」の授業外学修内容・授業外学修時間数： 授業内容の予習や復習を行う。60時間以上の授業外学修を行う。 「マルクス経済学特研1」の授業外学修内容・授業外学修時間数： 授業内容の予習や復習を行う。考えをまとめるために、文章を書く。60時間以上の授業外学修を行う。																								
授業計画	<table border="0"> <tr> <td>【第1回】 ガイダンス</td> <td>【第9回】 教科書の検討と議論 (8)</td> </tr> <tr> <td>【第2回】 教科書の検討と議論 (1)</td> <td>【第10回】 教科書の検討と議論 (9)</td> </tr> <tr> <td>【第3回】 教科書の検討と議論 (2)</td> <td>【第11回】 教科書の検討と議論 (10)</td> </tr> <tr> <td>【第4回】 教科書の検討と議論 (3)</td> <td>【第12回】 参加者による報告 (1)</td> </tr> <tr> <td>【第5回】 教科書の検討と議論 (4)</td> <td>【第13回】 参加者による報告 (2)</td> </tr> <tr> <td>【第6回】 教科書の検討と議論 (5)</td> <td>【第14回】 参加者による報告 (3)</td> </tr> <tr> <td>【第7回】 教科書の検討と議論 (6)</td> <td>【第15回】 まとめ</td> </tr> <tr> <td>【第8回】 教科書の検討と議論 (7)</td> <td></td> </tr> </table>									【第1回】 ガイダンス	【第9回】 教科書の検討と議論 (8)	【第2回】 教科書の検討と議論 (1)	【第10回】 教科書の検討と議論 (9)	【第3回】 教科書の検討と議論 (2)	【第11回】 教科書の検討と議論 (10)	【第4回】 教科書の検討と議論 (3)	【第12回】 参加者による報告 (1)	【第5回】 教科書の検討と議論 (4)	【第13回】 参加者による報告 (2)	【第6回】 教科書の検討と議論 (5)	【第14回】 参加者による報告 (3)	【第7回】 教科書の検討と議論 (6)	【第15回】 まとめ	【第8回】 教科書の検討と議論 (7)	
【第1回】 ガイダンス	【第9回】 教科書の検討と議論 (8)																								
【第2回】 教科書の検討と議論 (1)	【第10回】 教科書の検討と議論 (9)																								
【第3回】 教科書の検討と議論 (2)	【第11回】 教科書の検討と議論 (10)																								
【第4回】 教科書の検討と議論 (3)	【第12回】 参加者による報告 (1)																								
【第5回】 教科書の検討と議論 (4)	【第13回】 参加者による報告 (2)																								
【第6回】 教科書の検討と議論 (5)	【第14回】 参加者による報告 (3)																								
【第7回】 教科書の検討と議論 (6)	【第15回】 まとめ																								
【第8回】 教科書の検討と議論 (7)																									
成績評価の方法	「マルクス経済学特論1」：授業への取り組み姿勢 (50%)、報告および提出レポートの内容 (50%) により評価する。 「マルクス経済学特研1」：授業への取り組み姿勢 (50%)、報告および提出論文の内容 (50%) により評価する。																								
フィードバックの内容	報告内容等に対するフィードバックは、その都度行う。																								
教科書																									
指定図書																									
参考書	『アナーキー・国家・ユートピア』ロバート・ノージック (木鐸社) 2014年、『民主主義と政治的無知』イリヤ・ソミン (信山社) 2016年、『離脱・発言・忠誠』A. O. ハーシュマン (ミネルヴァ書房) 2005年、『世界の多様性』エマニュエル・トッド (藤原書店) 2008年、『完訳 統治二論 (岩波文庫)』ジョン・ロック (岩波書店) 2010年、『国家と革命 (講談社学術文庫)』レーニン (講談社) 2011年、『国家民営化論』笠井潔 (光文社) 2000年、『これからの社会主義 - 市場社会主義の可能性』ジョン・ローマー (青木書店) 1997年、『資本主義経済の理論』伊藤誠 (岩波書店) 1989年、『現代の社会主義 (講談社学術文庫)』伊藤誠 (講談社) 1992年																								
教員からのお知らせ																									
オフィスアワー	本授業に関する質問や相談は、学部学科で定めるオフィスアワーにて受け付けます。Teams 等でも受け付けます。																								
アクティビティの内容	意見共有、教員からのフィードバックによる振り返り、能動的な授業外学習、プレゼンテーション																								
その他																									

講義コード	13C0102601	授業形態	講義	抽選の有無	なし	担当教員	中村 宗之	開講期	第2期																
科目名	マルクス経済学特研2				中村 宗之		第2期																		
履修前提条件					備考																				
授業の目的	未来社会に関する K. マルクスや他の論者の構想を検討する。必要に応じてマルクス経済学の基本的内容を確認する。なお、本講義は修士課程「マルクス経済学特論2」との合同授業である。																								
到達目標	「マルクス経済学特論2」の到達目標： 未来社会に関する K. マルクスや他の論者の構想を説明できる。マルクス経済学の基本的内容を説明できる。 「マルクス経済学特研2」の到達目標： 未来社会に関する K. マルクスや他の論者の構想を説明できる。マルクス経済学の基本的内容を説明できる。未来社会について各自の考えに基づき論じることができる。																								
授業外学修内容・授業外学修時間数	「マルクス経済学特論2」の授業外学修内容・授業外学修時間数： 授業内容の予習や復習を行う。60時間以上の授業外学修を行う。 「マルクス経済学特研2」の授業外学修内容・授業外学修時間数： 授業内容の予習や復習を行う。考えをまとめるために、文章を書く。60時間以上の授業外学修を行う。																								
授業計画	<table border="0"> <tr> <td>【第1回】 教科書の検討と議論 (1)</td> <td>【第9回】 教科書の検討と議論 (9)</td> </tr> <tr> <td>【第2回】 教科書の検討と議論 (2)</td> <td>【第10回】 教科書の検討と議論 (10)</td> </tr> <tr> <td>【第3回】 教科書の検討と議論 (3)</td> <td>【第11回】 教科書の検討と議論 (11)</td> </tr> <tr> <td>【第4回】 教科書の検討と議論 (4)</td> <td>【第12回】 参加者による報告 (1)</td> </tr> <tr> <td>【第5回】 教科書の検討と議論 (5)</td> <td>【第13回】 参加者による報告 (2)</td> </tr> <tr> <td>【第6回】 教科書の検討と議論 (6)</td> <td>【第14回】 参加者による報告 (3)</td> </tr> <tr> <td>【第7回】 教科書の検討と議論 (7)</td> <td>【第15回】 まとめ</td> </tr> <tr> <td>【第8回】 教科書の検討と議論 (8)</td> <td></td> </tr> </table>									【第1回】 教科書の検討と議論 (1)	【第9回】 教科書の検討と議論 (9)	【第2回】 教科書の検討と議論 (2)	【第10回】 教科書の検討と議論 (10)	【第3回】 教科書の検討と議論 (3)	【第11回】 教科書の検討と議論 (11)	【第4回】 教科書の検討と議論 (4)	【第12回】 参加者による報告 (1)	【第5回】 教科書の検討と議論 (5)	【第13回】 参加者による報告 (2)	【第6回】 教科書の検討と議論 (6)	【第14回】 参加者による報告 (3)	【第7回】 教科書の検討と議論 (7)	【第15回】 まとめ	【第8回】 教科書の検討と議論 (8)	
【第1回】 教科書の検討と議論 (1)	【第9回】 教科書の検討と議論 (9)																								
【第2回】 教科書の検討と議論 (2)	【第10回】 教科書の検討と議論 (10)																								
【第3回】 教科書の検討と議論 (3)	【第11回】 教科書の検討と議論 (11)																								
【第4回】 教科書の検討と議論 (4)	【第12回】 参加者による報告 (1)																								
【第5回】 教科書の検討と議論 (5)	【第13回】 参加者による報告 (2)																								
【第6回】 教科書の検討と議論 (6)	【第14回】 参加者による報告 (3)																								
【第7回】 教科書の検討と議論 (7)	【第15回】 まとめ																								
【第8回】 教科書の検討と議論 (8)																									
成績評価の方法	「マルクス経済学特論2」：授業への取り組み姿勢 (50%)、報告および提出レポートの内容 (50%) により評価する。 「マルクス経済学特研2」：授業への取り組み姿勢 (50%)、報告および提出論文の内容 (50%) により評価する。																								
フィードバックの内容	報告内容等に対するフィードバックは、その都度行う。																								
教科書																									
指定図書																									
参考書	『アナーキー・国家・ユートピア』ロバート・ノージック (木鐸社) 2014年、『民主主義と政治的無知』イリヤ・ソミン (信山社) 2016年、『離脱・発言・忠誠』A. O. ハーシュマン (ミネルヴァ書房) 2005年、『世界の多様性』エマニュエル・トッド (藤原書店) 2008年、『完訳 統治二論 (岩波文庫)』ジョン・ロック (岩波書店) 2010年、『国家と革命 (講談社学術文庫)』レーニン (講談社) 2011年、『国家民営化論』笠井潔 (光文社) 2000年、『これからの社会主義 - 市場社会主義の可能性』ジョン・ローマー (青木書店) 1997年、『資本主義経済の理論』伊藤誠 (岩波書店) 1989年、『現代の社会主義 (講談社学術文庫)』伊藤誠 (講談社) 1992年																								
教員からのお知らせ																									
オフィスアワー	本授業に関する質問や相談は、学部学科で定めるオフィスアワーにて受け付けます。Teams 等でも受け付けます。																								
アクティビティの内容	意見共有、教員からのフィードバックによる振り返り、能動的な授業外学習、プレゼンテーション																								
その他																									

講義コード	13C0103101	授業形態	講義	抽選の有無	なし	担当教員	浅子 和美	開講期	第1期
科目名	マクロ経済学特研3				浅子 和美			第1期	
履修前条件					備考				
授業の目的	ミクロ経済学、マクロ経済学、計量経済学の基礎知識をもつ大学院生を対象に、景気変動やマクロ経済政策全般をテーマとするが、本年度は特に「経済の持続可能性」及びその関連テーマを中心に、理論・実証両面から分析手法や分析結果の解釈等について、先行研究を例に取り上げ批判的に検討する。								
到達目標	景気変動やマクロ経済政策全般の問題点を把握し、課題解決の方向を理解し政策提言に至る。研究者としての視点から、課題解決や政策提言のための基本技法を応用し、学術論文を作成する。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	授業で指定されるリーディング・リストを読破するのに、相応の準備が必要となるが、それに積極的に取り組む必要がある(授業外学習時間は90時間)。								
授業計画	【第1回】履修者と相談の上でリーディング・リストを作成する(1) 【第2回】履修者と相談の上でリーディング・リストを作成する(2) 【第3回】テキスト論文を対象とし、その分析手法や分析結果を解説する(1) 【第4回】テキスト論文を対象とし、その分析手法や分析結果を解説する(2) 【第5回】テキスト論文を対象とし、その分析手法や分析結果を解説する(3) 【第6回】テキスト論文を対象とし、その分析手法や分析結果を解説する(4) 【第7回】テキスト論文を対象とし、その分析手法や分析結果を解説する(5) 【第8回】テキスト論文を対象とし、その分析手法や分析結果を解説する(6) 【第9回】テキスト論文を対象とし、その分析手法や分析結果を解説する(7) 【第10回】テキスト論文を対象とし、その分析手法や分析結果を解説する(8) 【第11回】テキスト論文を対象とし、その分析手法や分析結果を解説する(9) 【第12回】テキスト論文を対象とし、その分析手法や分析結果を解説する(10) 【第13回】テキスト論文を対象とし、その分析手法や分析結果を解説する(11) 【第14回】テキスト論文を対象とし、その分析手法や分析結果を解説する(12) 【第15回】テキスト論文を対象とし、その分析手法や分析結果を解説する(13) 【第3回】以降、各自は自分なりの分析手法の応用を念頭に、レポートなり学術論文の作成計画を練ること。								
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢(30%)と課題に対する学術論文の提出(70%)。未完でも可だが、それなりのクオリティが要求される。								
フィードバックの内容	レポートや学術論文には丁寧にコメントする。								
教科書									
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ									
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部学科にて定めるオフィスアワーにて受付ける。								
アクティブラーニングの内容									
その他									

講義コード	13C0103201	授業形態	講義	抽選の有無	なし	担当教員	浅子 和美	開講期	第2期
科目名	マクロ経済学特研4				浅子 和美			第2期	
履修前条件					備考				
授業の目的	ミクロ経済学、マクロ経済学、計量経済学の基礎知識をもつ大学院生を対象に、景気変動やマクロ経済政策全般をテーマとするが、本年度は特に「経済の持続可能性」及びその関連テーマを中心に、理論・実証両面から分析手法や分析結果の解釈等について、先行研究を例に取り上げ批判的に検討する。								
到達目標	景気変動やマクロ経済政策全般の問題点を把握し、課題解決の方向を理解し政策提言に至る。研究者としての視点から、課題解決や政策提言のための基本技法を応用し、学術論文を作成する。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	授業で指定されるリーディング・リストを読破するのに、相応の準備が必要となるが、それに積極的に取り組む必要がある(授業外学習時間は90時間)。								
授業計画	【第1回】履修者と相談の上でリーディング・リストを作成する(1) 【第2回】履修者と相談の上でリーディング・リストを作成する(2) 【第3回】テキスト論文を対象とし、その分析手法や分析結果を解説する(1) 【第4回】テキスト論文を対象とし、その分析手法や分析結果を解説する(2) 【第5回】テキスト論文を対象とし、その分析手法や分析結果を解説する(3) 【第6回】テキスト論文を対象とし、その分析手法や分析結果を解説する(4) 【第7回】テキスト論文を対象とし、その分析手法や分析結果を解説する(5) 【第8回】テキスト論文を対象とし、その分析手法や分析結果を解説する(6) 【第9回】テキスト論文を対象とし、その分析手法や分析結果を解説する(7) 【第10回】テキスト論文を対象とし、その分析手法や分析結果を解説する(8) 【第11回】テキスト論文を対象とし、その分析手法や分析結果を解説する(9) 【第12回】テキスト論文を対象とし、その分析手法や分析結果を解説する(10) 【第13回】テキスト論文を対象とし、その分析手法や分析結果を解説する(11) 【第14回】テキスト論文を対象とし、その分析手法や分析結果を解説する(12) 【第15回】テキスト論文を対象とし、その分析手法や分析結果を解説する(13) 【第3回】以降、各自は自分なりの分析手法の応用を念頭に、レポートなり学術論文の作成計画を練ること。								
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢(30%)と課題に対する学術論文の提出(70%)。未完でも可だが、それなりのクオリティが要求される。								
フィードバックの内容	レポートや学術論文には丁寧にコメントする。								
教科書									
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ									
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部学科にて定めるオフィスアワーにて受付ける。								
アクティブラーニングの内容									
その他									

講義コード	13C0103301	授業形態	講義	抽選の有無	なし	担当教員	渡部 真弘	開講期	第1期
科目名	ミクロ経済学特研1								
履修前条件					備考				
授業の目的	本科目では、受講生が経済主体間の相互依存関係を分析するための手段としてのゲーム理論を学習し、経済問題の分析ツールとしてゲーム理論を用いることができるようになることが目的である。なお、本科目は修士課程「ミクロ経済学特論1」との合同授業でもある。								
到達目標	「ミクロ経済学特研1」の到達目標：ゲーム理論及びマーケット・デザインに関する知識・技能に基づき、文字式を用いた理論的分析が可能となる。 「ミクロ経済学特論1」の到達目標：ゲーム理論及びマーケット・デザインに関する知識・技能に基づき、文字式を用いた理論的分析が可能となる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	「ミクロ経済学特研1」のフィードバックの内容：本科目では、授業開始時に実施する小テスト及び期末試験に向けた復習に取り組むために、週に少なくとも4時間（計60時間以上）の授業外学修が必要である。 「ミクロ経済学特論1」のフィードバックの内容：本科目では、授業開始時に実施する小テスト及び期末試験に向けた復習に取り組むために、週に少なくとも4時間（計60時間以上）の授業外学修が必要である。								
授業計画	【第1回】 ガイダンス 【第2回】 標準型表現：囚人のジレンマ 【第3回】 標準型表現：最適反応とナッシュ均衡 【第4回】 標準型表現：社会的選好，囚人のジレンマの再考（1） 【第5回】 標準型表現：社会的選好，囚人のジレンマの再考（2） 【第6回】 標準型表現：支配される戦略の逐次的消去 【第7回】 標準型表現：弱く支配される戦略を含まないナッシュ均衡（1） 【第8回】 標準型表現：弱く支配される戦略を含まないナッシュ均衡（2） 【第9回】 標準型表現：弱く支配される戦略を含まないナッシュ均衡（3） 【第10回】 展開型表現：後ろ向き帰納法（1） 【第11回】 展開型表現：後ろ向き帰納法（2） 【第12回】 展開型表現：部分ゲーム完全均衡（1） 【第13回】 展開型表現：部分ゲーム完全均衡（2） 【第14回】 展開型表現：部分ゲーム完全均衡（3） 【第15回】 まとめ								
成績評価の方法	講義内容の理解度を確認するために、授業開始時に小テスト（授業第2回～授業第14回）を実施する。 「ミクロ経済学特研1」の評価割合：小テスト50%，期末試験50% 「ミクロ経済学特論1」の評価割合：小テスト50%，期末試験50%								
フィードバックの内容	「ミクロ経済学特研1」のフィードバックの内容：小テストの模範解答・採点結果を配布する。理解が不十分であると判断される内容を次回以降の授業時間内に補足する。 「ミクロ経済学特論1」のフィードバックの内容：小テストの模範解答・採点結果を配布する。理解が不十分であると判断される内容を次回以降の授業時間内に補足する。								
教科書 指定図書									
参考書	『An Introduction to Game Theory』 Martin J. Osborne (Oxford University Press) 2009, 『Game Theory (2nd Edition)』 Michael Maschler, Eilon Solan, Shmuel Zamir (Cambridge University Press) 2020								
教員からのお知らせ	小テストや期末試験は記述式であり、単語を選択するマークシートのような簡易なものではない。試験問題を事前に配布しない。単位数に見合った学修時間を確保するつもりがなければ履修すべきではない。								
オフィスアワー	オフィスアワー：木曜日3時限、2号館516研究室 連絡や資料配布は、Microsoft Teamsを通じて行う。Microsoft Teamsのチームに参加するためのチームコードを授業第1回のガイダンス時に共有する。								
アクティブラーニングの内容	教員からのフィードバックによる振り返り：小テストの全ての問題において、細分化された各採点項目に対する評価を返却することで、復習が十分ではない内容を学生に認識させる。								
その他									

講義コード	13C0103401	授業形態	講義	抽選の有無	なし	担当教員		開講期	
科目名	ミクロ経済学特研2				渡部 真弘		第2期		
履修前提条件					備考				
授業の目的	本科目では、受講生が経済主体間の相互依存関係を分析するための手段としてのゲーム理論を学習し、経済問題の分析ツールとしてゲーム理論を用いることができるようになることが目的である。なお、本科目は修士課程「ミクロ経済学特論2」との合同授業でもある。								
到達目標	「ミクロ経済学特研2」の到達目標：ゲーム理論及びマーケット・デザインに関する知識・技能に基づき、文字式を用いた理論的分析が可能となる。 「ミクロ経済学特論2」の到達目標：ゲーム理論及びマーケット・デザインに関する知識・技能に基づき、文字式を用いた理論的分析が可能となる。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	「ミクロ経済学特研2」のフィードバックの内容：本科目では、授業開始時に実施する小テスト及び期末試験に向けた復習に取り組むために、週に少なくとも4時間（計60時間以上）の授業外学修が必要である。 「ミクロ経済学特論2」のフィードバックの内容：本科目では、授業開始時に実施する小テスト及び期末試験に向けた復習に取り組むために、週に少なくとも4時間（計60時間以上）の授業外学修が必要である。								
授業計画	【第1回】 ガイダンス 【第2回】 完全ベイジアン均衡（1） 【第3回】 完全ベイジアン均衡（2） 【第4回】 完全ベイジアン均衡（3） 【第5回】 シグナリング（1） 【第6回】 シグナリング（2） 【第7回】 交互提案交渉（1） 【第8回】 交互提案交渉（2） 【第9回】 交互提案交渉（3） 【第10回】 ナッシュ交渉解（1） 【第11回】 ナッシュ交渉解（2） 【第12回】 ナッシュ交渉解（3） 【第13回】 シャプレー値、コア（1） 【第14回】 シャプレー値、コア（2） 【第15回】 まとめ								
成績評価の方法	講義内容の理解度を確認するために、授業開始時に小テスト（授業第2回～授業第14回）を実施する。 「ミクロ経済学特研2」の評価割合：小テスト50%，期末試験50% 「ミクロ経済学特論2」の評価割合：小テスト50%，期末試験50%								
フィードバックの内容	「ミクロ経済学特研2」のフィードバックの内容：小テストの模範解答・採点結果を配布する。理解が不十分であると判断される内容を次回以降の授業時間内に補足する。 「ミクロ経済学特論2」のフィードバックの内容：小テストの模範解答・採点結果を配布する。理解が不十分であると判断される内容を次回以降の授業時間内に補足する。								
教科書 指定図書									
参考書	『An Introduction to Game Theory』 Martin J. Osborne (Oxford University Press) 2009、『Game Theory (2nd Edition)』 Michael Maschler, Eilon Solan, Shmuel Zamir (Cambridge University Press) 2020								
教員からのお知らせ	小テストや期末試験は記述式であり、単語を選択するマークシートのような簡易なものではない。試験問題を事前に配布しない。単位数に見合った学修時間を確保するつもりがなければ履修すべきではない。								
オフィスアワー	オフィスアワー：木曜日3時限、2号館516研究室 連絡や資料配布は、Microsoft Teams を通じて行う。Microsoft Teams のチームに参加するためのチームコードを授業第1回のガイダンス時に共有する。								
アクティブラーニングの内容	教員からのフィードバックによる振り返り：小テストの全ての問題において、細分化された各採点項目に対する評価を返却することで、復習が十分ではない内容を学生に認識させる。								
その他									

講義コード	13C0103501	授業形態	講義	抽選の有無	なし	担当教員	小野崎 保	開講期	第1期																
科目名	ミクロ経済学特研3																								
履修前条件					備考																				
授業の目的	<p>複雑に発達した現代の経済社会において生起する経済現象を理解するためには、ただデータなどを観察するだけでは不十分であり、それらの背後に共通して潜む論理を理解することが必要不可欠である。ミクロ経済学はこのような論理を読み解く上で重要な役割を果たす。本講義では、各自の研究に役立つようなミクロ経済学的分析手法について、文献輪読の形式で学ぶ。必要に応じて、関連するテーマとしてゲーム理論や産業組織論の内容などを扱うこともある。</p> <p>なお、本講義は修士課程「ミクロ経済学特論3」との合同授業である。</p>																								
到達目標	<p>(1) 市場経済の仕組みを説明できる。 (2) 市場経済にまつわる政策問題を理解できる。 (3) 各自の研究テーマをミクロ経済学の視点から考えることができる。</p>																								
授業外学修内容・授業外学修時間数	<p>(1) レポーターを担当するしないに拘わらず、輪読文献を事前および事後に熟読すること。 (2) ミクロ経済学をより深く理解するために、適宜紹介する関連文献などを読むこと。 (3) 研究レポート [ターム・ペーパー] 作成に向けて文献調査および分析を自主的に行うこと。 これらを併せて授業外に合計60時間以上の学習をおこなうこと。</p>																								
授業計画	<table border="0"> <tr> <td>【第1回】ガイダンス (授業の進め方、文献の選択など)</td> <td>【第9回】文献の輪読および討論 (8)</td> </tr> <tr> <td>【第2回】文献の輪読および討論 (1)</td> <td>【第10回】文献の輪読および討論 (9)</td> </tr> <tr> <td>【第3回】文献の輪読および討論 (2)</td> <td>【第11回】文献の輪読および討論 (10)</td> </tr> <tr> <td>【第4回】文献の輪読および討論 (3)</td> <td>【第12回】文献の輪読および討論 (11)</td> </tr> <tr> <td>【第5回】文献の輪読および討論 (4)</td> <td>【第13回】文献の輪読および討論 (12)</td> </tr> <tr> <td>【第6回】文献の輪読および討論 (5)</td> <td>【第14回】文献の輪読および討論 (13)</td> </tr> <tr> <td>【第7回】文献の輪読および討論 (6)</td> <td>【第15回】文献の輪読および討論 (14)</td> </tr> <tr> <td>【第8回】文献の輪読および討論 (7)</td> <td></td> </tr> </table>									【第1回】ガイダンス (授業の進め方、文献の選択など)	【第9回】文献の輪読および討論 (8)	【第2回】文献の輪読および討論 (1)	【第10回】文献の輪読および討論 (9)	【第3回】文献の輪読および討論 (2)	【第11回】文献の輪読および討論 (10)	【第4回】文献の輪読および討論 (3)	【第12回】文献の輪読および討論 (11)	【第5回】文献の輪読および討論 (4)	【第13回】文献の輪読および討論 (12)	【第6回】文献の輪読および討論 (5)	【第14回】文献の輪読および討論 (13)	【第7回】文献の輪読および討論 (6)	【第15回】文献の輪読および討論 (14)	【第8回】文献の輪読および討論 (7)	
【第1回】ガイダンス (授業の進め方、文献の選択など)	【第9回】文献の輪読および討論 (8)																								
【第2回】文献の輪読および討論 (1)	【第10回】文献の輪読および討論 (9)																								
【第3回】文献の輪読および討論 (2)	【第11回】文献の輪読および討論 (10)																								
【第4回】文献の輪読および討論 (3)	【第12回】文献の輪読および討論 (11)																								
【第5回】文献の輪読および討論 (4)	【第13回】文献の輪読および討論 (12)																								
【第6回】文献の輪読および討論 (5)	【第14回】文献の輪読および討論 (13)																								
【第7回】文献の輪読および討論 (6)	【第15回】文献の輪読および討論 (14)																								
【第8回】文献の輪読および討論 (7)																									
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢 (20%) および研究レポート [ターム・ペーパー] (80%)																								
フィードバックの内容	文献輪読における発表の内容や方法について、随時口頭によりコメントする。																								
教科書																									
指定図書																									
参考書																									
教員からのお知らせ	教科書は履修生と相談して決める。 参考文献は、履修生の研究テーマに応じて適宜指示する。																								
オフィスアワー	メール (onozaki@ris.ac.jp) にて随時受け付ける。																								
アクティブラーニングの内容	教員からのフィードバックによる振り返り、ゼミナール、プレゼンテーション、ディベートなど																								
その他																									

講義コード	13C0103601	授業形態	講義	抽選の有無	なし	担当教員	小野崎 保	開講期	第2期																
科目名	ミクロ経済学特研4																								
履修前条件					備考																				
授業の目的	<p>複雑に発達した現代の経済社会において生起する経済現象を理解するためには、ただデータなどを観察するだけでは不十分であり、それらの背後に共通して潜む論理を理解することが必要不可欠である。ミクロ経済学はこのような論理を読み解く上で重要な役割を果たす。本講義では、各自の研究に役立つようなミクロ経済学的分析手法について、文献輪読の形式で学ぶ。必要に応じて、関連するテーマとしてゲーム理論や産業組織論の内容などを扱うこともある。</p> <p>なお、本講義は博士後期課程「ミクロ経済学特研4」との合同授業である。</p> <p>なお、本講義は修士課程「ミクロ経済学特論4」との合同授業である。</p>																								
到達目標	<p>(1) 市場経済の仕組みを説明できる。 (2) 市場経済にまつわる政策問題を理解できる。 (3) 各自の研究テーマをミクロ経済学的に分析し、課題を見つけ政策提言をすることができる。</p>																								
授業外学修内容・授業外学修時間数	<p>(1) レポーターを担当するしないに拘わらず、輪読文献を事前および事後に熟読すること。 (2) ミクロ経済学をより深く理解するために、適宜紹介する関連文献などを読むこと。 (3) 研究レポート [ターム・ペーパー] 作成に向けて文献調査および分析を自主的に行うこと。 これらを併せて授業外に合計60時間以上の学習をおこなうこと。</p>																								
授業計画	<table border="0"> <tr> <td>【第1回】ガイダンス (授業の進め方、文献の選択など)</td> <td>【第9回】文献の輪読および討論 (8)</td> </tr> <tr> <td>【第2回】文献の輪読および討論 (1)</td> <td>【第10回】文献の輪読および討論 (9)</td> </tr> <tr> <td>【第3回】文献の輪読および討論 (2)</td> <td>【第11回】文献の輪読および討論 (10)</td> </tr> <tr> <td>【第4回】文献の輪読および討論 (3)</td> <td>【第12回】文献の輪読および討論 (11)</td> </tr> <tr> <td>【第5回】文献の輪読および討論 (4)</td> <td>【第13回】文献の輪読および討論 (12)</td> </tr> <tr> <td>【第6回】文献の輪読および討論 (5)</td> <td>【第14回】文献の輪読および討論 (13)</td> </tr> <tr> <td>【第7回】文献の輪読および討論 (6)</td> <td>【第15回】文献の輪読および討論 (14)</td> </tr> <tr> <td>【第8回】文献の輪読および討論 (7)</td> <td></td> </tr> </table>									【第1回】ガイダンス (授業の進め方、文献の選択など)	【第9回】文献の輪読および討論 (8)	【第2回】文献の輪読および討論 (1)	【第10回】文献の輪読および討論 (9)	【第3回】文献の輪読および討論 (2)	【第11回】文献の輪読および討論 (10)	【第4回】文献の輪読および討論 (3)	【第12回】文献の輪読および討論 (11)	【第5回】文献の輪読および討論 (4)	【第13回】文献の輪読および討論 (12)	【第6回】文献の輪読および討論 (5)	【第14回】文献の輪読および討論 (13)	【第7回】文献の輪読および討論 (6)	【第15回】文献の輪読および討論 (14)	【第8回】文献の輪読および討論 (7)	
【第1回】ガイダンス (授業の進め方、文献の選択など)	【第9回】文献の輪読および討論 (8)																								
【第2回】文献の輪読および討論 (1)	【第10回】文献の輪読および討論 (9)																								
【第3回】文献の輪読および討論 (2)	【第11回】文献の輪読および討論 (10)																								
【第4回】文献の輪読および討論 (3)	【第12回】文献の輪読および討論 (11)																								
【第5回】文献の輪読および討論 (4)	【第13回】文献の輪読および討論 (12)																								
【第6回】文献の輪読および討論 (5)	【第14回】文献の輪読および討論 (13)																								
【第7回】文献の輪読および討論 (6)	【第15回】文献の輪読および討論 (14)																								
【第8回】文献の輪読および討論 (7)																									
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢 (20%) および研究レポート [ターム・ペーパー] (80%)																								
フィードバックの内容	文献輪読における発表の内容や方法について、随時口頭によりコメントする。																								
教科書																									
指定図書																									
参考書																									
教員からのお知らせ	教科書は履修生と相談して決める。 参考文献は、履修生の研究テーマに応じて適宜指示する。																								
オフィスアワー	メール (onozaki@ris.ac.jp) にて随時受け付ける。																								
アクティブラーニングの内容	教員からのフィードバックによる振り返り、ゼミナール、プレゼンテーション、ディベートなど																								
その他																									

講義コード	13C0103901	授業形態	講義	抽選の有無	なし	担当教員	王 在喆	開講期	第1期																
科目名	経済統計学特研3																								
履修前提条件					備考																				
授業の目的	<p>一国の各家計は、いろいろな財やサービスを購入している。購入に必要とした所得は、主として企業から給料として得ている。このような所得等の経済循環をモデル化したものに、マクロ経済モデルがある。この授業では、マクロ経済モデルより、生産部門を分割し、より一層、経済構造の分析に適した産業連関モデルを取り上げる。最初に分析手法と経済データについて復習した上で、日本経済や中国経済などを対象にした理論的・実証的分析を学習する。産業連関表のデータとコンピュータソフト、例えば、EXCEL などを使って数量分析に興味を持ち、授業に継続的に出席することができる受講生の履修が望ましい。</p> <p>本講義は修士課程院生と博士後期課程の院生との合同授業である。修士課程の受講生は産業連関分析理論と産業連関分析手法の習得に力点を置くことが望ましいが、博士後期課程の受講生は、むしろ本講義で勉強した産業連関分析の知識を如何にして自分の研究に応用させるかに力点を置くことが望まれる。</p>																								
到達目標	<p>受講生は産業連関表によって表現される生産、分配、支出の経済循環の意味をよく理解することができる。また産業連関表を使って一国あるいは一地域の産業構造の姿を数値的に分析するようになる。</p>																								
授業外学修内容・授業外学修時間数	<p>①経済社会の産業構造とその時系列変化を学習すること。 ②産業連関表の概念や構造などについて学習すること。 ③産業連関分析モデルを使った具体的な経済分析を学習すること。 授業外学修時間は180時間以上が必要である。</p>																								
授業計画	<table border="0"> <tr> <td>【第1回】生産量決定モデル④輸入外生化</td> <td>【第9回】産業連関分析の実際④</td> </tr> <tr> <td>【第2回】生産量決定モデル⑤輸入内生化</td> <td>【第10回】産業連関分析の応用①</td> </tr> <tr> <td>【第3回】価格モデル①</td> <td>【第11回】産業連関分析の応用②</td> </tr> <tr> <td>【第4回】価格モデル②</td> <td>【第12回】産業連関分析の応用③各自テーマ別事例分析</td> </tr> <tr> <td>【第5回】価格モデル③</td> <td>【第13回】産業連関分析の応用④各自テーマ別事例分析</td> </tr> <tr> <td>【第6回】産業連関分析の実際①</td> <td>【第14回】産業連関分析の応用⑤各自テーマ別事例分析</td> </tr> <tr> <td>【第7回】産業連関分析の実際②</td> <td>【第15回】一般均衡モデルの展開</td> </tr> <tr> <td>【第8回】産業連関分析の実際③</td> <td></td> </tr> </table>									【第1回】生産量決定モデル④輸入外生化	【第9回】産業連関分析の実際④	【第2回】生産量決定モデル⑤輸入内生化	【第10回】産業連関分析の応用①	【第3回】価格モデル①	【第11回】産業連関分析の応用②	【第4回】価格モデル②	【第12回】産業連関分析の応用③各自テーマ別事例分析	【第5回】価格モデル③	【第13回】産業連関分析の応用④各自テーマ別事例分析	【第6回】産業連関分析の実際①	【第14回】産業連関分析の応用⑤各自テーマ別事例分析	【第7回】産業連関分析の実際②	【第15回】一般均衡モデルの展開	【第8回】産業連関分析の実際③	
【第1回】生産量決定モデル④輸入外生化	【第9回】産業連関分析の実際④																								
【第2回】生産量決定モデル⑤輸入内生化	【第10回】産業連関分析の応用①																								
【第3回】価格モデル①	【第11回】産業連関分析の応用②																								
【第4回】価格モデル②	【第12回】産業連関分析の応用③各自テーマ別事例分析																								
【第5回】価格モデル③	【第13回】産業連関分析の応用④各自テーマ別事例分析																								
【第6回】産業連関分析の実際①	【第14回】産業連関分析の応用⑤各自テーマ別事例分析																								
【第7回】産業連関分析の実際②	【第15回】一般均衡モデルの展開																								
【第8回】産業連関分析の実際③																									
成績評価の方法	<p>修士課程受講生：授業への取り組み30%、授業内発表40%、レポート（1回）30%。 博士後期課程受講生：授業への取り組み30%、研究報告70%。</p>																								
フィードバックの内容	<p>授業内外で学習と研究について適宜に指導を行う。</p>																								
教科書																									
指定図書																									
参考書	<p>『産業連関分析入門』藤川清史（日本評論社）2005、『日本の産業構造』尾崎 巖（慶応義塾大学出版会）2004、『産業連関分析ハンドブック』宍戸俊太郎監修 環太平洋産業連関分析学会編（東洋経済新報社）2010</p>																								
教員からのお知らせ																									
オフィスアワー	<p>時間：水曜日6限目（18：00-19：30）、オンラインで（事前にメールで予約すること）。</p>																								
アクティブラーニングの内容																									
その他																									

講義コード	13C0104001	授業形態	講義	抽選の有無	なし	担当教員	王 在喆	開講期	第2期																
科目名	経済統計学特研4																								
履修前提条件					備考																				
授業の目的	<p>一国の各家計は、いろいろな財やサービスを購入している。購入に必要とした所得は、主として企業から給料として得ている。このような所得等の経済循環をモデル化したものに、マクロ経済モデルがある。この授業では、マクロ経済モデルより、生産部門を分割し、より一層、経済構造の分析に適した産業連関モデルを取り上げる。最初に分析手法と経済データについて復習した上で、日本経済や中国経済などを対象にした理論的・実証的分析を学習する。産業連関表のデータとコンピュータソフト、例えば、EXCEL などを使って数量分析に興味を持ち、授業に継続的に出席することができる受講生の履修が望ましい。</p> <p>本講義は修士課程院生と博士後期課程の院生との合同授業である。修士課程の受講生は産業連関分析理論と産業連関分析手法の習得に力点を置くことが望ましいが、博士後期課程の受講生は、むしろ本講義で勉強した産業連関分析の知識を如何にして自分の研究に応用させるかに力点を置くことが望まれる。</p>																								
到達目標	<p>受講生は産業連関表によって表現される生産、分配、支出の経済循環の意味をよく理解することができる。また産業連関表を使って一国あるいは一地域の産業構造の姿を数値的に分析するようになる。</p>																								
授業外学修内容・授業外学修時間数	<p>①経済社会の産業構造とその時系列変化を学習すること。 ②産業連関表の概念や構造などについて学習すること。 ③産業連関分析モデルを使った具体的な経済分析を学習すること。 授業外学修時間は180時間以上が必要である。</p>																								
授業計画	<table border="0"> <tr> <td>【第1回】生産量決定モデル④輸入外生化</td> <td>【第9回】産業連関分析の実際④</td> </tr> <tr> <td>【第2回】生産量決定モデル⑤輸入内生化</td> <td>【第10回】産業連関分析の応用①</td> </tr> <tr> <td>【第3回】価格モデル①</td> <td>【第11回】産業連関分析の応用②</td> </tr> <tr> <td>【第4回】価格モデル②</td> <td>【第12回】産業連関分析の応用③各自テーマ別事例分析</td> </tr> <tr> <td>【第5回】価格モデル③</td> <td>【第13回】産業連関分析の応用④各自テーマ別事例分析</td> </tr> <tr> <td>【第6回】産業連関分析の実際①</td> <td>【第14回】産業連関分析の応用⑤各自テーマ別事例分析</td> </tr> <tr> <td>【第7回】産業連関分析の実際②</td> <td>【第15回】一般均衡モデルの展開</td> </tr> <tr> <td>【第8回】産業連関分析の実際③</td> <td></td> </tr> </table>									【第1回】生産量決定モデル④輸入外生化	【第9回】産業連関分析の実際④	【第2回】生産量決定モデル⑤輸入内生化	【第10回】産業連関分析の応用①	【第3回】価格モデル①	【第11回】産業連関分析の応用②	【第4回】価格モデル②	【第12回】産業連関分析の応用③各自テーマ別事例分析	【第5回】価格モデル③	【第13回】産業連関分析の応用④各自テーマ別事例分析	【第6回】産業連関分析の実際①	【第14回】産業連関分析の応用⑤各自テーマ別事例分析	【第7回】産業連関分析の実際②	【第15回】一般均衡モデルの展開	【第8回】産業連関分析の実際③	
【第1回】生産量決定モデル④輸入外生化	【第9回】産業連関分析の実際④																								
【第2回】生産量決定モデル⑤輸入内生化	【第10回】産業連関分析の応用①																								
【第3回】価格モデル①	【第11回】産業連関分析の応用②																								
【第4回】価格モデル②	【第12回】産業連関分析の応用③各自テーマ別事例分析																								
【第5回】価格モデル③	【第13回】産業連関分析の応用④各自テーマ別事例分析																								
【第6回】産業連関分析の実際①	【第14回】産業連関分析の応用⑤各自テーマ別事例分析																								
【第7回】産業連関分析の実際②	【第15回】一般均衡モデルの展開																								
【第8回】産業連関分析の実際③																									
成績評価の方法	<p>修士課程受講生：授業への取り組み30%、授業内発表40%、レポート（1回）30%。 博士後期課程受講生：授業への取り組み30%、研究報告70%。</p>																								
フィードバックの内容	<p>授業内外で学習と研究について適宜に指導を行う。</p>																								
教科書																									
指定図書																									
参考書	<p>『産業連関分析入門』藤川清史（日本評論社）2005、『日本の産業構造』尾崎 巖（慶応義塾大学出版会）2004、『産業連関分析ハンドブック』宍戸俊太郎監修 環太平洋産業連関分析学会編（東洋経済新報社）2010</p>																								
教員からのお知らせ																									
オフィスアワー	<p>時間：水曜日6限目（18：00-19：30）、オンラインで（事前にメールで予約すること）。</p>																								
アクティブラーニングの内容																									
その他																									

講義コード	13C0104101	授業形態	講義	抽選の有無	なし	担当教員		開講期	
科目名	景気循環論特研1				担当教員		浅子 和美	開講期	
履修前条件					備考				
授業の目的	<p>ミクロ経済学、マクロ経済学、計量経済学の基礎知識をもつ大学院生を対象に、景気循環全般をテーマとするが、本年度は特に「景気循環・経済成長と持続可能な経済発展」及びその関連テーマを中心に、理論・実証両面から分析手法や分析結果の解釈等について、先行研究を例に取り上げ批判的に検討する。</p> <p>なお、本講義は修士課程「景気循環論特論1」との合同授業でもある。</p>								
到達目標	<p>「景気循環論特研1」の到達目標 景気循環の理論・歴史や現状の問題点を把握し、課題解決の方向を理解する。 課題解決や政策提言のための基本技法を修得し、レポート等を作成する。</p> <p>「景気循環論特研1」の到達目標 景気循環の理論・歴史や現状の問題点を把握し、課題解決の方向を理解し、政策提言に至る。 研究者としての視点から、課題解決や政策提言のための基本技法を応用し、学術論文を作成する。</p>								
授業外学修内容・授業外学修時間数	<p>授業で指定されるリーディング・リストを読破するのに、相応の準備が必要となるが、それに積極的に取り組む必要がある（「景気循環論特論1」では60時間、「景気循環論特研1」では90時間）。</p>								
授業計画	<p>【第1回】履修者が確定した段階で、履修者の希望に合わせたリーディング・リストを作成し、それに合わせた授業計画を立てる。その目的で、各自の希望を話してもらう。(1)</p> <p>【第2回】履修者が確定した段階で、履修者の希望に合わせたリーディング・リストを作成し、それに合わせた授業計画を立てる。その目的で、各自の希望を話してもらう。(2)</p> <p>【第3回】順次、取り上げるテキスト論文を対象に、それぞれの分析手法や分析結果を解説し、問題点や発展方向を示す。この際、各自は自分なりの分析手法の応用を念頭に、レポートなり学術論文の作成計画を練る。(1)</p> <p>【第4回】順次、取り上げるテキスト論文を対象に、それぞれの分析手法や分析結果を解説し、問題点や発展方向を示す。この際、各自は自分なりの分析手法の応用を念頭に、レポートなり学術論文の作成計画を練る。(2)</p> <p>【第5回】順次、取り上げるテキスト論文を対象に、それぞれの分析手法や分析結果を解説し、問題点や発展方向を示す。この際、各自は自分なりの分析手法の応用を念頭に、レポートなり学術論文の作成計画を練る。(3)</p> <p>【第6回】順次、取り上げるテキスト論文を対象に、それぞれの分析手法や分析結果を解説し、問題点や発展方向を示す。この際、各自は自分なりの分析手法の応用を念頭に、レポートなり学術論文の作成計画を練る。(4)</p> <p>【第7回】順次、取り上げるテキスト論文を対象に、それぞれの分析手法や分析結果を解説し、問題点や発展方向を示す。この際、各自は自分なりの分析手法の応用を念頭に、レポートなり学術論文の作成計画を練る。(5)</p> <p>【第8回】順次、取り上げるテキスト論文を対象に、それぞれの分析手法や分析結果を解説し、問題点や発展方向を示す。この際、各自は自分なりの分析手法の応用を念頭に、レポートなり学術論文の作成計画を練る。(6)</p> <p>【第9回】順次、取り上げるテキスト論文を対象に、それぞれの分析手法や分析結果を解説し、問題点や発展方向を示す。この際、各自は自分なりの分析手法の応用を念頭に、レポートなり学術論文の作成計画を練る。(7)</p> <p>【第10回】順次、取り上げるテキスト論文を対象に、それぞれの分析手法や分析結果を解説し、問題点や発展方向を示す。この際、各自は自分なりの分析手法の応用を念頭に、レポートなり学術論文の作成計画を練る。(8)</p> <p>【第11回】順次、取り上げるテキスト論文を対象に、それぞれの分析手法や分析結果を解説し、問題点や発展方向を示す。この際、各自は自分なりの分析手法の応用を念頭に、レポートなり学術論文の作成計画を練る。(9)</p> <p>【第12回】順次、取り上げるテキスト論文を対象に、それぞれの分析手法や分析結果を解説し、問題点や発展方向を示す。この際、各自は自分なりの分析手法の応用を念頭に、レポートなり学術論文の作成計画を練る。(10)</p> <p>【第13回】順次、取り上げるテキスト論文を対象に、それぞれの分析手法や分析結果を解説し、問題点や発展方向を示す。この際、各自は自分なりの分析手法の応用を念頭に、レポートなり学術論文の作成計画を練る。(11)</p> <p>【第14回】順次、取り上げるテキスト論文を対象に、それぞれの分析手法や分析結果を解説し、問題点や発展方向を示す。この際、各自は自分なりの分析手法の応用を念頭に、レポートなり学術論文の作成計画を練る。(12)</p> <p>【第15回】順次、取り上げるテキスト論文を対象に、それぞれの分析手法や分析結果を解説し、問題点や発展方向を示す。この際、各自は自分なりの分析手法の応用を念頭に、レポートなり学術論文の作成計画を練る。(13)</p>								
成績評価の方法	<p>授業への取り組み姿勢（30%）と課題に対する学術論文の提出（70%）。未完でも可だが、それなりのクオリティが要求される。</p>								
フィードバックの内容	<p>レポートや学術論文には丁寧コメントする。</p>								
教科書									
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ									
オフィスアワー	<p>本授業に関する質問・相談は、学部学科にて定めるオフィスアワーにて受付ける。</p>								
アクティブラーニングの内容									
その他									

博士後期課程

講義コード	13C0104201	授業形態	講義	抽選の有無	なし	担当教員		開講期	
科目名	景気循環論特研2				浅子 和美		第2期		
履修前提条件					備考				
授業の目的	<p>ミクロ経済学、マクロ経済学、計量経済学の基礎知識をもつ大学院生を対象に、景気循環全般をテーマとするが、本年度は特に「景気循環・経済成長と持続可能な経済発展」及びその関連テーマを中心に、理論・実証両面から分析手法や分析結果の解釈等について、先行研究を例に取り上げ批判的に検討する。</p> <p>なお、本講義は修士課程「景気循環論特論2」との合同授業でもある。</p>								
到達目標	<p>「景気循環論特論2」の到達目標 景気循環の理論・歴史や現状の問題点を把握し、課題解決の方向を理解する。 課題解決や政策提言のための基本技法を修得し、レポート等を作成する。</p> <p>「景気循環論特研2」の到達目標 景気循環の理論・歴史や現状の問題点を把握し、課題解決の方向を理解し、政策提言に至る。 研究者としての視点から、課題解決や政策提言のための基本技法を応用し、学術論文を作成する。</p>								
授業外学修内容・授業外学修時間数	<p>授業で指定されるリーディング・リストを読破するのに、相応の準備が必要となるが、それに積極的に取り組む必要がある（「景気循環論特論2」では60時間、「景気循環論特研2」では90時間）。</p>								
授業計画	<p>【第1回】履修者が確定した段階で、履修者の希望に合わせたリーディング・リストを作成し、それに合わせた授業計画を立てる。その目的で、各自の希望を話してもらう。(1)</p> <p>【第2回】履修者が確定した段階で、履修者の希望に合わせたリーディング・リストを作成し、それに合わせた授業計画を立てる。その目的で、各自の希望を話してもらう。(2)</p> <p>【第3回】順次、取り上げるテキスト論文を対象に、それぞれの分析手法や分析結果を解説し、問題点や発展方向を示す。この際、各自は自分なりの分析手法の応用を念頭に、レポートなり学術論文の作成計画を練る。(1)</p> <p>【第4回】順次、取り上げるテキスト論文を対象に、それぞれの分析手法や分析結果を解説し、問題点や発展方向を示す。この際、各自は自分なりの分析手法の応用を念頭に、レポートなり学術論文の作成計画を練る。(2)</p> <p>【第5回】順次、取り上げるテキスト論文を対象に、それぞれの分析手法や分析結果を解説し、問題点や発展方向を示す。この際、各自は自分なりの分析手法の応用を念頭に、レポートなり学術論文の作成計画を練る。(3)</p> <p>【第6回】順次、取り上げるテキスト論文を対象に、それぞれの分析手法や分析結果を解説し、問題点や発展方向を示す。この際、各自は自分なりの分析手法の応用を念頭に、レポートなり学術論文の作成計画を練る。(4)</p> <p>【第7回】順次、取り上げるテキスト論文を対象に、それぞれの分析手法や分析結果を解説し、問題点や発展方向を示す。この際、各自は自分なりの分析手法の応用を念頭に、レポートなり学術論文の作成計画を練る。(5)</p> <p>【第8回】順次、取り上げるテキスト論文を対象に、それぞれの分析手法や分析結果を解説し、問題点や発展方向を示す。この際、各自は自分なりの分析手法の応用を念頭に、レポートなり学術論文の作成計画を練る。(6)</p> <p>【第9回】順次、取り上げるテキスト論文を対象に、それぞれの分析手法や分析結果を解説し、問題点や発展方向を示す。この際、各自は自分なりの分析手法の応用を念頭に、レポートなり学術論文の作成計画を練る。(7)</p> <p>【第10回】順次、取り上げるテキスト論文を対象に、それぞれの分析手法や分析結果を解説し、問題点や発展方向を示す。この際、各自は自分なりの分析手法の応用を念頭に、レポートなり学術論文の作成計画を練る。(8)</p> <p>【第11回】順次、取り上げるテキスト論文を対象に、それぞれの分析手法や分析結果を解説し、問題点や発展方向を示す。この際、各自は自分なりの分析手法の応用を念頭に、レポートなり学術論文の作成計画を練る。(9)</p> <p>【第12回】順次、取り上げるテキスト論文を対象に、それぞれの分析手法や分析結果を解説し、問題点や発展方向を示す。この際、各自は自分なりの分析手法の応用を念頭に、レポートなり学術論文の作成計画を練る。(10)</p> <p>【第13回】順次、取り上げるテキスト論文を対象に、それぞれの分析手法や分析結果を解説し、問題点や発展方向を示す。この際、各自は自分なりの分析手法の応用を念頭に、レポートなり学術論文の作成計画を練る。(11)</p> <p>【第14回】順次、取り上げるテキスト論文を対象に、それぞれの分析手法や分析結果を解説し、問題点や発展方向を示す。この際、各自は自分なりの分析手法の応用を念頭に、レポートなり学術論文の作成計画を練る。(12)</p> <p>【第15回】順次、取り上げるテキスト論文を対象に、それぞれの分析手法や分析結果を解説し、問題点や発展方向を示す。この際、各自は自分なりの分析手法の応用を念頭に、レポートなり学術論文の作成計画を練る。(13)</p>								
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢 (30%) と課題に対するレポート提出 (70%)								
フィードバックの内容	レポートや学術論文には丁寧にコメントする。								
教科書									
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ									
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部学科にて定めるオフィスアワーにて受付ける。								
アクティブラーニングの内容									
その他									

講義コード	13C0104501	授業形態	講義	抽選の有無	なし	担当教員		開講期	
科目名	金融論特研1				林 康史		第1期		
履修前条件					備考				
授業の目的	金融論が取り扱う分野の重要性が増し、金融・証券分野が全人類・汎地球規模で重要になっている。そうした中で、株式・証券市場に関する文献【Stocks for the Long Run (6th edition)】を輪読し、討議する授業とする。 ※ この授業は、修士・博士後期両課程合同で実施する。								
到達目標	株式・証券市場の機能・構造を理解し、その歴史的展開を説明できることである。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	授業外学修時間数は、60時間以上。								
授業計画	Stocks for the Long Run (6th edition) の前半を翻訳し、講読する。 【第1回】 第1章 【第2回】 第2章 【第3回】 第3章 【第4回】 第4章 【第5回】 第5章 【第6回】 第6章 【第7回】 第7章 【第8回】 第8章 【第9回】 第9章 【第10回】 第10章 【第11回】 第11章 【第12回】 第12章 【第13回】 第13章 【第14回】 第14章 【第15回】 総括								
成績評価の方法	報告・研究発表（レポートの提出を求める場合もある）・討議の内容に基づき、総合的に評価（予定）。								
フィードバックの内容	随時行う（「Q&A」等を順次ウェブにアップする）。								
教科書	『Stocks for the Long Run (6th edition)』 Jeremy J. Siegel (McGraw Hill) 2022年								
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ	授業計画等は、受講人数によって若干の変更がありうる。また、学外・学部にも聴講を許可する場合がある（受講資格等は別途、案内する）。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、メールまたは電話で受付ける。								
アクティブラーニングの内容									
その他									

講義コード	13C0104601	授業形態	講義	抽選の有無	なし	担当教員		開講期	
科目名	金融論特研2				林 康史		第2期		
履修前条件					備考				
授業の目的	金融論が取り扱う分野の重要性が増し、金融・証券分野が全人類・汎地球規模で重要になっている。そうした中で、株式・証券市場に関する文献【Stocks for the Long Run (6th edition)】を輪読し、討議する授業とする。 ※ この授業は、修士・博士後期両課程合同で実施する。								
到達目標	株式・証券市場の機能・構造を理解し、その歴史的展開を説明できることである。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	授業外学修時間数は、60時間以上。								
授業計画	Stocks for the Long Run (6th edition) の後半を翻訳し、講読する。 【第1回】 第15章 【第2回】 第16章 【第3回】 第17章 【第4回】 第18章 【第5回】 第19章 【第6回】 第20章 【第7回】 第21章 【第8回】 第22章 【第9回】 第23章 【第10回】 第24章 【第11回】 第25章 【第12回】 第26章 【第13回】 第27章 【第14回】 第28章 【第15回】 総括								
成績評価の方法	報告・研究発表（レポートの提出を求める場合もある）・討議の内容に基づき、総合的に評価（予定）。								
フィードバックの内容	随時行う（「Q&A」等を順次ウェブにアップする）。								
教科書	『Stocks for the Long Run (6th edition)』 Jeremy J. Siegel (McGraw Hill) 2022年								
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ	授業計画等は、受講人数によって若干の変更がありうる。また、学外・学部にも聴講を許可する場合がある（受講資格等は別途、案内する）。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、メールまたは電話で受付ける。								
アクティブラーニングの内容									
その他									

講義コード	13C0105501	授業形態	講義	抽選の有無	なし	担当教員	河原 伸哉	開講期	第1期
科目名	国際経済学特研3					河原 伸哉		第1期	
履修前提条件						備考			
授業の目的	国際貿易論における理論的・実証的テーマについて、主に出席者の発表を中心にして議論する。授業は修士課程「国際経済学特論3」と博士後期課程「国際経済学特研3」を合同で実施する。								
到達目標	修士： (1) 国際貿易論の基礎的概念を理解している (2) 基礎的概念を用いて国際貿易に関する現実の諸問題を説明できる 博士後期： (1) 国際貿易論の基礎的概念を理解している (2) 基礎的概念を用いて国際貿易に関する現実の諸問題を説明できる (3) 国際貿易論の分野における最近の理論的・実証的研究を批判的に検討できる								
授業外学修内容・授業外学修時間数	修士：各回の授業で扱うトピックについて、参考書の該当部分を読み予習を行うこと。授業後は配付資料を用いて復習を行うこと。上記の予習・復習など授業外に計60時間以上の学修を行うこと。 博士後期：各回の授業で扱うトピックについて、参考書の該当部分および文献リストの論文を読み予習を行うこと。授業後は論文・配付資料を用いて復習を行うこと。上記の予習・復習など授業外に計60時間以上の学修を行うこと。								
授業計画	初回授業時に指定した教科書について輪読形式で学ぶ。適宜、国際貿易論分野の学術論文についても取り上げる。 【第1回】 イントロダクション 【第2回】 教科書の発表と討論1 【第3回】 教科書の発表と討論2 【第4回】 教科書の発表と討論3 【第5回】 教科書の発表と討論4 【第6回】 教科書の発表と討論5 【第7回】 教科書の発表と討論6 【第8回】 教科書の発表と討論7 【第9回】 教科書の発表と討論8 【第10回】 教科書の発表と討論9 【第11回】 教科書の発表と討論10 【第12回】 教科書の発表と討論11 【第13回】 教科書の発表と討論12 【第14回】 教科書の発表と討論13 【第15回】 まとめ								
成績評価の方法	修士：平常点(30%)、発表(30%)、レポート(40%)により成績を評価する。 博士後期：平常点(20%)、発表(20%)、レポート(40%)に加えて、研究報告(20%)により成績を評価する。								
フィードバックの内容	課題や報告に対するコメントを授業時に行う。								
教科書									
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ	使用する教科書については、初回授業時に協議の上、決定する。指定図書・参考書は初回授業時に提示する。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、研究科にて定めるオフィスアワーにて受け付ける。								
アクティブラーニングの内容	プレゼンテーション								
その他									

講義コード	13C0105601	授業形態	講義	抽選の有無	なし	担当教員	河原 伸哉	開講期	第2期
科目名	国際経済学特研4					河原 伸哉		第2期	
履修前提条件						備考			
授業の目的	国際貿易論における理論的・実証的テーマについて、主に出席者の発表を中心にして議論する。授業は修士課程「国際経済学特論4」と博士後期課程「国際経済学特研4」を合同で実施する。								
到達目標	修士： (1) 国際貿易論の基礎的概念を理解している。 (2) 基礎的概念を用いて国際貿易に関する現実の諸問題を説明できる。 博士後期： (1) 国際貿易論の基礎的概念を理解している。 (2) 基礎的概念を用いて国際貿易に関する現実の諸問題を説明できる。 (3) 国際貿易論の分野における最近の理論的・実証的研究を批判的に検討できる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	修士：各回の授業で扱うトピックについて、参考書の該当部分を読み予習を行うこと。授業後は配付資料を用いて復習を行うこと。上記の予習・復習など授業外に計60時間以上の学修を行うこと。 博士後期：各回の授業で扱うトピックについて、参考書の該当部分および文献リストの論文を読み予習を行うこと。授業後は論文・配付資料を用いて復習を行うこと。上記の予習・復習など授業外に計60時間以上の学修を行うこと。								
授業計画	初回授業時に指定した教科書について輪読形式で学ぶ。適宜、国際貿易論分野の学術論文についても取り上げる。 【第1回】 イントロダクション 【第2回】 教科書の発表と討論1 【第3回】 教科書の発表と討論2 【第4回】 教科書の発表と討論3 【第5回】 教科書の発表と討論4 【第6回】 教科書の発表と討論5 【第7回】 教科書の発表と討論6 【第8回】 教科書の発表と討論7 【第9回】 教科書の発表と討論8 【第10回】 教科書の発表と討論9 【第11回】 教科書の発表と討論10 【第12回】 教科書の発表と討論11 【第13回】 教科書の発表と討論12 【第14回】 教科書の発表と討論13 【第15回】 まとめ								
成績評価の方法	修士：平常点(30%)、発表(30%)、レポート(40%)により成績を評価する。 博士後期：平常点(20%)、発表(20%)、レポート(40%)に加えて、研究報告(20%)により成績を評価する。								
フィードバックの内容	課題や報告に対するコメントを授業時に行う。								
教科書									
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ	使用する教科書については、初回授業時に協議の上、決定する。指定図書・参考書は初回授業時に提示する。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、研究科にて定めるオフィスアワーにて受け付ける。								
アクティブラーニングの内容	プレゼンテーション								
その他									

講義コード	13C0105701	授業形態	講義	抽選の有無	なし	担当教員		開講期	
科目名	国際金融論特研1				担当教員		外木 好美	開講期	
履修前条件					備考				
授業の目的	金融の仕組みや制度、経済政策等について、為替レートや国際収支を通じた影響も踏まえて、理論的なアプローチで理解することを目的とする。主に出席者の発表を中心に、議論する。 なお、本授業は博士後期課程の「国際金融特研究1」との合同授業である。								
到達目標	修士： (1) 国際金融論の基礎的概念を理解している (2) 国際金融論の基本理論を理解している (3) 国際金融論の理論を使って、現実の諸問題を理解できる 博士後期： (1) 国際金融論の基礎的概念を説明できる (2) 国際金融論の基本理論を説明できる (3) 国際金融論の理論に基づいて現実の諸問題を検討できる								
授業外学修内容・授業外学修時間数	修士：各回で扱うトピックについて、教科書や参考書の当該部分を読み、予習を行うこと。授業後は、授業資料や議論を踏まえて、復習を行うこと。上記の予習・復習など授業外に計60時間以上の学修を行うこと。 博士後期：各回で扱うトピックについて、教科書や参考書の当該部分を読み、予習を行うこと。授業後は、授業資料や議論を踏まえて、復習を行うこと。関連する論文を読むこと。上記の予習・復習など授業外に計60時間以上の学修を行うこと。								
授業計画	指定した教科書について輪読形式で学ぶ。適宜、参考書や学術論文についても取り上げる。 【第1回】 イントロダクション 【第2回】 教科書の発表と討論1 【第3回】 教科書の発表と討論2 【第4回】 教科書の発表と討論3 【第5回】 教科書の発表と討論4 【第6回】 教科書の発表と討論5 【第7回】 教科書の発表と討論6 【第8回】 教科書の発表と討論7 【第9回】 教科書の発表と討論8 【第10回】 教科書の発表と討論9 【第11回】 教科書の発表と討論10 【第12回】 教科書の発表と討論11 【第13回】 教科書の発表と討論12 【第14回】 教科書の発表と討論13 【第15回】 まとめ								
成績評価の方法	修士：平常点(50%)、発表(50%)により成績を評価する。 修士：平常点(40%)、発表(40%)、研究報告(20%)により成績を評価する。								
フィードバックの内容	課題や報告に対するコメントを授業時に行う。								
教科書	『クルーグマン国際経済学 理論と政策〔原書第10版〕下：金融編』 Paul R. Krugman (著), Maurice Obstfeld (著), Marc J. Melitz (著), 山形 浩生 (翻訳), 守岡 桜 (翻訳) (丸善出版) 2017/ 1 /19								
指定図書	『コア・テキスト国際金融論』 藤井 英次 (著) (新世社) 2014/ 1 / 6、『International Macroeconomics and Finance: Theory and Econometric Methods』 Nelson C. Mark (著) (John Wiley & Sons) 2001/ 8 / 8								
参考書									
教員からのお知らせ	マクロ経済学を履修していることが望ましい。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、研究科にて定めるオフィスアワーにて受け付ける。								
アクティブラーニングの内容	プレゼンテーション								
その他									

講義コード	13C0105801	授業形態	講義	抽選の有無	なし	担当教員		開講期	
科目名	国際金融論特研2				担当教員		外木 好美	開講期	
履修前条件					備考				
授業の目的	金融の仕組みや制度、経済政策等について、為替レートや国際収支を通じた影響も踏まえて、理論的なアプローチで理解することを目的とする。主に出席者の発表を中心に、議論する。 なお、本授業は博士後期課程の「国際金融特研究2」との合同授業である。								
到達目標	修士： (1) 国際金融論の基礎的概念を理解している (2) 国際金融論の基本理論を理解している (3) 国際金融論の理論を使って、現実の諸問題を理解できる 博士後期： (1) 国際金融論の基礎的概念を説明できる (2) 国際金融論の基本理論を説明できる (3) 国際金融論の理論に基づいて現実の諸問題を検討できる								
授業外学修内容・授業外学修時間数	修士：各回で扱うトピックについて、教科書や参考書の当該部分を読み、予習を行うこと。授業後は、授業資料や議論を踏まえて、復習を行うこと。上記の予習・復習など授業外に計60時間以上の学修を行うこと。 博士後期：各回で扱うトピックについて、教科書や参考書の当該部分を読み、予習を行うこと。授業後は、授業資料や議論を踏まえて、復習を行うこと。関連する論文を読むこと。上記の予習・復習など授業外に計60時間以上の学修を行うこと。								
授業計画	指定した教科書について輪読形式で学ぶ。適宜、参考書や学術論文についても取り上げる。 【第1回】 イントロダクション 【第2回】 教科書の発表と討論1 【第3回】 教科書の発表と討論2 【第4回】 教科書の発表と討論3 【第5回】 教科書の発表と討論4 【第6回】 教科書の発表と討論5 【第7回】 教科書の発表と討論6 【第8回】 教科書の発表と討論7 【第9回】 教科書の発表と討論8 【第10回】 教科書の発表と討論9 【第11回】 教科書の発表と討論10 【第12回】 教科書の発表と討論11 【第13回】 教科書の発表と討論12 【第14回】 教科書の発表と討論13 【第15回】 まとめ								
成績評価の方法	修士：平常点 (50%)、発表 (50%) により成績を評価する。 修士：平常点 (40%)、発表 (40%)、研究報告 (20%) により成績を評価する。								
フィードバックの内容	課題や報告に対するコメントを授業時に行う。								
教科書	『クルーグマン国際経済学 理論と政策 [原書第10版] 下:金融編』 Paul R. Krugman (著), Maurice Obstfeld (著), Marc J. Melitz (著), 山形 浩生 (翻訳), 守岡 桜 (翻訳) (丸善出版) 2017/ 1 /19								
指定図書	『コア・テキスト国際金融論』 藤井 英次 (著) (新世社) 2014/ 1 / 6、『International Macroeconomics and Finance: Theory and Econometric Methods』 Nelson C. Mark (著) (John Wiley & Sons) 2001/ 8 / 8								
参考書									
教員からのお知らせ	マクロ経済学を履修していることが望ましい。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、研究科にて定めるオフィスアワーにて受け付ける。								
アクティブラーニングの内容	プレゼンテーション								
その他									

講義コード	13C0105901	授業形態	講義	抽選の有無	なし	担当教員	畠山 久志	開講期	第1期
科目名	国際金融論特研3				畠山 久志			第1期	
履修前提条件					備考				
授業の目的	現代の国際金融論は、これまでの単純な国家間の貿易や為替相場の数値的分析に終点を持たない。むしろ主権国家や統合組織などの政治的影響力や経済力規模の表現の場となっている国際金融を多角的に分析し、位置付けすることが課題となっている。そこで、授業はこれまでの基礎的な事項の確認と現代の国際金融が動いている背景を歴史的に捉えようとするものである。なお、本授業は博士後期課程の「国際金融論特研3」との合同授業である。								
到達目標	国際金融論の理解に不可欠な金融に係る基礎事項を歴史から習得し①外国為替仕組み、②中央政府の為替介入、③デリバティブ、④国際収支、⑤国際業務規制、⑥国際通貨制度、⑦ユーロ、⑧経済協力などを把握し、今後の研究及び論文作成に向けた知見を獲得することができる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	基礎事項の予習復習をおこなうこと。必要な教科書以外の図書はその都度指定・配布するので、時間を十分に取ってほしい。必要な時間は60時間とする。国内のみならず、海外の国際金融情勢をウォッチしてほしい。								
授業計画	国際金融の理解に必要な事項について学びます。 【第1回】 国際金融とは何か。 【第9回】 外国為替相場の決定理論2 【第2回】 国際収支1 【第10回】 国際通貨制度 【第3回】 国際収支2 【第11回】 変動相場制における経済政策の効果 【第4回】 対外決済の仕組み1 【第12回】 固定相場における経済政策の効果 【第5回】 対外決済の仕組み2 【第13回】 外国為替相場の輸出入価格へのパススルー 【第6回】 外国為替市場1 【第14回】 通貨危機、ソブリンリスク 【第7回】 外国為替市場2 【第15回】 形状数詞の調整と新しいオープンマクロ経済学 【第8回】 外国為替相場の決定理論1								
成績評価の方法	講義内容に関する期末レポート(80%)、質問や意見など授業に対する参加態度(20%)で評価します。								
フィードバックの内容	講義内容は、事前にオンライン授業に資料掲示します。また質問や意見、追加説明などは、まとめて期末にペーパー化し、共有します。								
教科書	『国際金融論入門』佐々木百合(新世社)2017								
指定図書	『金融の世界現代史』国際銀行史研究会(一色出版)2018、『金融の世界史』板谷俊彦(新潮社)2013、『ウォール街の歴史』チャールズ・ガイスト(フォレスト出版)2010、『ロンバート街』バジロウット(岩波書店)1994								
参考書	『通貨の悪戯』ミルトンフリードマン(三田出版会)1993、『貨幣と通貨の法文化』林康史(国際書院)2016								
教員からのお知らせ									
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後教室内にて対応します。								
アクティブラーニングの内容	項目ごとの解説・プレゼンテーションに基づき、内容、考え方、分析方法等についてディスカッションをする。								
その他									

講義コード	13C0106001	授業形態	講義	抽選の有無	なし	担当教員	畠山 久志	開講期	第2期
科目名	国際金融論特研4				畠山 久志			第2期	
履修前提条件					備考				
授業の目的	現代の国際金融論は、これまでの単純な国家間の貿易や為替相場の数値的分析に終点を持たない。むしろ主権国家や統合組織などの政治的影響力や経済規模の表現の場となっている国際金融を多角的に分析し、位置付けすることが課題となっている。そこで、本授業は前期の学習(国際金融の基礎知識)を前提にこれまでの国際金融上のイベントについて、論理的な分析力を習得し、歴史的な位置付け等について理解を深める。イベントは基本的に近世、近代の貿易を中心とした国際金融上の事象である。なお、本授業は博士後期課程の「国際金融論特研4」との合同授業である。								
到達目標	国際金融論の理解に不可欠な基礎事項である①外国為替仕組み、②中央政府の為替介入、③デリバティブ、④国際収支、⑤国際業務規制、⑥国際通貨制度、⑦ユーロ、⑧経済協力などを市場参加者の視点から把握し、国際金融全体の課題を考え今後の研究及び論文作成に向けた知見を獲得することができる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	基礎事項の予習復習をおこなうこと。教科書は当然であるが、以外の図書をその都度指定・配布するので、時間を十分に取ってほしい。必要な時間は60時間とする。国内のみならず、海外の国際金融情勢をウォッチしてほしい。								
授業計画	【第1回】 国際金融論の論理とイベント 【第9回】 黄金期のオランダ1(東インド会社 西インド会社) 【第2回】 古代ギリシアの国際金融 【第10回】 黄金期のオランダ2(アムステルダム証券取引所とアムステルダム為替銀行) 【第3回】 中世の国際金融1(キリスト教 金融の否定) 【第11回】 産業革命期のイギリスとフランス(重商主義 重農主義) 【第4回】 中世の国際金融2(地中海交易と保険) 【第12回】 覇権国イギリス1(株式会社制度の法定 中央銀行制度の確立) 【第5回】 中世の国際金融3(イスラム金融 金利の否定) 【第13回】 覇権国イギリス2(損害保険会社) 【第6回】 中世の国際金融4(十字軍 為替と信託) 【第14回】 覇権国イギリス3(海外投資 ロンバート街) 【第7回】 中世の国際金融5(会社と複式簿記) 【第15回】 債権国アメリカ(ウォールストリート) 【第8回】 大航海時代の国際貿易(新大陸への進出)								
成績評価の方法	期末レポート(80%)と質問や意見など授業に対する参加態度(20%)で評価します。								
フィードバックの内容	授業の内容を事前にオンライン授業で掲示します。また質問や意見、追加説明などはまとめて期末にペーパー化し、共有します。								
教科書	『金融の世界史』板谷敏彦(新潮社)2013								
指定図書	『マネーセンターの興亡』高橋琢磨(日経出版社)1999、『ヘゲモニー国家と世界システム』松田武・秋田茂(山川出版)2002、『最初の近代経済』J・ド・フリース(名古屋大学出版会)2009								
参考書									
教員からのお知らせ									
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。								
アクティブラーニングの内容	講義の内容について、質問、意見交換等、ディスカッションをします。卒業論文(修士論文等)の作成手順等の情報交換をする。								
その他									

講義コード	13C0106301	授業形態	講義	抽選の有無	なし	担当教員	開講期
科目名	地域経済特研3				苑 志佳		第1期
履修前提条件					備考		
授業の目的	本講義では、構造転換中の中国経済を研究する。過去40数年間における中国経済成長はどのように実現されたか、これまでの高度成長は何故成長低下し始まったか、中国経済はこれから、どのように転換していくか。今年度の授業では、最新の著書を輪読することによって上記の諸問題を院生諸君と一緒に考える。授業運営は、院生諸君の報告、問題提起、論点をめぐる討論を中心に行う予定である。出席者には、レベルの高いコメントと価値のあるディスカッションを活発にしていきたい。						
到達目標	本授業を履修することによって中国経済の諸問題を理解することができる。したがって、中国経済の関連課題を研究するテクニックを身につけることもできる。						
授業外学修内容・授業外学修時間数	1. この科目では、60時間以上の授業外学修を行うこと。 2. 毎週の授業終了後に参考文献や予習資料などを指定するので、これを予習する。 3. 授業時に配布される教材や資料を復習し、次回の授業時に問題提起を考える。 4. 授業の予定テーマに関連する資料を自ら収集し、これを持って授業討論に臨む。						
授業計画	【第1回】イントロダクション 【第2回】最新研究書籍の輪読・討論(1) 【第3回】最新研究書籍の輪読・討論(2) 【第4回】最新研究書籍の輪読・討論(3) 【第5回】最新研究書籍の輪読・討論(4) 【第6回】最新研究書籍の輪読・討論(5) 【第7回】最新研究書籍の輪読・討論(6) 【第8回】最新研究書籍の輪読・討論(7)		【第9回】最新研究書籍の輪読・討論(8) 【第10回】最新研究書籍の輪読・討論(9) 【第11回】最新研究書籍の輪読・討論(10) 【第12回】最新研究書籍の輪読・討論(11) 【第13回】最新研究書籍の輪読・討論(12) 【第14回】最新研究書籍の輪読・討論(13) 【第15回】総括				
成績評価の方法	1. 授業への取り組み姿勢 50%、 2. プレゼンテーション30%、 3. 討論参加20%。						
フィードバックの内容	毎週の輪読課題、テーマに対する講評を翌週授業内冒頭にて行う。						
教科書							
指定図書							
参考書							
教員からのお知らせ	輪読図書、書籍は、最初授業の時に指示する。						
オフィスアワー	- 月曜日3限 - 品川キャンパス2号館508室 - 事前に〈0918@ris.ac.jp〉に連絡すること						
アクティブラーニングの内容	意見共有、能動的な授業外学習など						
その他							

講義コード	13C0106401	授業形態	講義	抽選の有無	なし	担当教員	開講期
科目名	地域経済特研4				苑 志佳		第2期
履修前提条件					備考		
授業の目的	本講義では、構造転換する中国経済を研究する。今年度の授業では、「地域経済特論3」に続き、数冊の著書を輪読する。授業運営は、院生諸君の報告、問題提起、論点をめぐる討論を中心に行う予定である。出席者には、レベルの高いコメントと価値のあるディスカッションを活発にしていきたい。						
到達目標	本授業を履修することによって中国経済の諸問題を理解することができる。したがって、中国経済の関連課題を研究するテクニックを身につけることもできる。						
授業外学修内容・授業外学修時間数	1. この科目では、60時間以上の授業外学修を行うこと。 2. 毎週の授業終了後に参考文献や予習資料などを指定するので、これを予習する。 3. 授業時に配布される教材や資料を復習し、次回の授業時に問題提起を考える。 4. 授業の予定テーマに関連する資料を自ら収集し、これを持って授業討論に臨む。						
授業計画	【第1回】イントロダクション 【第2回】最新研究書籍の輪読・討論(1) 【第3回】最新研究書籍の輪読・討論(2) 【第4回】最新研究書籍の輪読・討論(3) 【第5回】最新研究書籍の輪読・討論(4) 【第6回】最新研究書籍の輪読・討論(5) 【第7回】最新研究書籍の輪読・討論(6) 【第8回】最新研究書籍の輪読・討論(7)		【第9回】最新研究書籍の輪読・討論(8) 【第10回】最新研究書籍の輪読・討論(9) 【第11回】最新研究書籍の輪読・討論(10) 【第12回】最新研究書籍の輪読・討論(11) 【第13回】最新研究書籍の輪読・討論(12) 【第14回】最新研究書籍の輪読・討論(13) 【第15回】総括				
成績評価の方法	1. 授業への取り組み姿勢 50%、 2. プレゼンテーション30%、 3. 討論参加20%。						
フィードバックの内容	毎週の輪読課題、テーマに対する講評を翌週授業内冒頭にて行う。						
教科書							
指定図書							
参考書							
教員からのお知らせ	輪読図書、書籍は、最初授業の時に指示する。						
オフィスアワー	- 月曜日3限 - 品川キャンパス2号館508室 - 事前に〈0918@ris.ac.jp〉に連絡すること						
アクティブラーニングの内容	意見共有、能動的な授業外学習など						
その他							

講義コード	13C0107101	授業形態	講義	抽選の有無	なし	担当教員	小沢 佳史	開講期	第1期
科目名	経済学史特研3								
履修前条件					備考				
授業の目的	この授業の目的は、経済学が現在の姿をとるに至った過程——経済学の歴史——を詳しく理解すること、そしてそれを通じて現在の経済学や自分の研究テーマに関する理解をさらに深めることである。そのためにこの授業では、主に19世紀の後半からの経済学の歴史をめぐり、履修者による報告と議論に基づいて教科書を輪読する。 なおこの授業は、博士前期課程「経済学史特論3」との合同授業である。								
到達目標	1. 現在の経済学が誕生するまでのプロセスを、研究者として詳しく説明できる。 2. 現在の経済学や自分の研究テーマについて、多様な概念・見解の関係やそれらの背景を研究者として説明できる。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	この科目では、60時間以上の授業外学修を行うこと。授業外学修では、各回の授業の前に、全員が教科書の該当箇所を熟読し、報告者は報告を入念に準備すること。また各回の授業の後に、全員が授業の内容を振り返りながら、ノートや教科書・指定図書該当箇所を何回もじっくりと読み込むこと。								
授業計画	<p>【第1回】 ガイダンス</p> <p>【第2回】 新古典派経済学①——ジェヴォンズ</p> <p>【第3回】 新古典派経済学②——ローザンヌ学派</p> <p>【第4回】 新古典派経済学③——オーストリア学派</p> <p>【第5回】 ケンブリッジ学派①——マーシャル</p> <p>【第6回】 ケンブリッジ学派②——マーシャルからケンブリッジ学派の展開へ</p> <p>【第7回】 ケンブリッジ学派③——ケインズの洞察力</p> <p>【第8回】 ケンブリッジ学派④——ケインズの『雇用・利子および貨幣の一般理論』</p> <p>【第9回】 新古典派経済学の成熟とそれに対する批判①——IS-LM表</p> <p>【第10回】 新古典派経済学の成熟とそれに対する批判②——経済成長論</p> <p>【第11回】 新古典派経済学の成熟とそれに対する批判③——不完全競争論</p> <p>【第12回】 新古典派経済学の成熟とそれに対する批判④——スラッファ、ポスト・ケインジアン</p> <p>【第13回】 現代経済学の展開①——現代マクロ経済学</p> <p>【第14回】 現代経済学の展開②——情報と不確実性、ゲーム理論、進化経済学</p> <p>【第15回】 現代経済学の展開③——経済人類学、レギュラシオン、分析的マルクス経済学</p> <p>※この進捗や内容は目安であり、履修者と相談しながら進捗や内容を適宜調整する。</p>								
成績評価の方法	報告(30%)、議論を含む授業への取り組み姿勢(20%)、およびレポート(50%)によって評価する。								
フィードバックの内容	報告や議論について、授業内でフィードバックする。								
教科書	『経済学史』喜多見洋, 水田健 編著(ミネルヴァ書房)2012								
指定図書	『学ぶほどおもしろい 経済学史』木村雄一, 瀬尾崇, 益永淳 著(晃洋書房)2022、『経済学史』小峯敦 著(ミネルヴァ書房)2021、『経済学史への招待』柳沢哲哉 著(社会評論社)2018、『経済思想』猪木武徳 著(岩波書店)2017、『新版 経済思想史——社会認識の諸類型』大田一廣, 鈴木信雄, 高哲男, 八木紀一郎 編(名古屋大学出版会)2006、『経済学の歴史——市場経済を読み解く』中村達也, 八木紀一郎, 新村聡, 井上義明 著(有斐閣)2001、『経済学史』馬渡尚憲 著(有斐閣)1997、『経済学史』三土修平 著(新世社)1993、『A Brief History of Economic Thought』Alessandro Roncaglia (Cambridge University Press) 2017、『History of Economic Thought: A Critical Perspective (3rd edition)』E. K. Hunt, Mark Lautzenheiser (Routledge) 2011								
参考書	『私は、経済学をどう読んできたか』ロバート・L.ハイルブローナー 著;中村達也 [ほか] 訳(筑摩書房)2003、『The History of Economic Thought: A Reader (Second Edition)』Steven G Medema, Warren J. Samuels (eds.) (Routledge) 2013、『写真で見る ヴィクトリア朝ロンドンの都市と生活』アレックス・ワーナー, トニー・ウィリアムズ 著;松尾恭子 訳(原書房)2013、『有斐閣経済辞典 第5版』金森久雄, 荒憲治郎, 森口親司 編(有斐閣)2013								
教員からのお知らせ	履修者による報告と議論に基づいて授業が進められるため、無断で欠席したり遅刻したりすることは基本的に認められない。								
オフィスアワー	この授業に関する質問・相談は、学部学科で定めるオフィスアワーにて受け付ける。また授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内でも対応する。								
アクティブラーニングの内容 その他	意見共有、教員からのフィードバックによる振り返り、ディベート、プレゼンテーション。								

講義コード	13C0107201	授業形態	講義	抽選の有無	なし	担当教員	小沢 佳史	開講期	第2期
科目名	経済学史特研4								
履修前条件						備考			
授業の目的	この授業の目的は、経済学が現在の姿をとるに至った過程——経済学の歴史——を詳しく理解すること、そしてそれを通じて現在の経済学や自分の研究テーマに関する理解をさらに深めることである。そのためにこの授業では、主に19世紀の後半からの経済学の歴史をめぐり、履修者による報告と議論に基づいて古典を輪読する。 なおこの授業は、博士前期課程「経済学史特論4」との合同授業である。								
到達目標	1. 現在の経済学が誕生するまでのプロセスを、古典に基づき、研究者として詳しく説明できる。 2. 現在の経済学や自分の研究テーマについて、多様な概念・見解の関係やそれらの背景を研究者として説明できる。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	この科目では、60時間以上の授業外学修を行うこと。授業外学修では、各回の授業の前に、全員が古典の該当箇所を熟読し、報告者は報告を入念に準備すること。また各回の授業の後に、全員が授業の内容を振り返りながら、ノートや古典・指定図書の該当箇所を何回もじっくりと読み込むこと。								
授業計画	<p>【第1回】 ガイダンス</p> <p>【第2回】 19世紀の後半からの経済学の大まかな歴史</p> <p>【第3回】 ケインズの思想と経済学</p> <p>【第4回】 ケインズの『雇用・利子および貨幣の一般理論』①——第1編（前半）</p> <p>【第5回】 ケインズの『雇用・利子および貨幣の一般理論』②——第1編（後半）</p> <p>【第6回】 ケインズの『雇用・利子および貨幣の一般理論』③——第2編（前半）</p> <p>【第7回】 ケインズの『雇用・利子および貨幣の一般理論』④——第2編（後半）</p> <p>【第8回】 ケインズの『雇用・利子および貨幣の一般理論』⑤——第3編（前半）</p> <p>【第9回】 ケインズの『雇用・利子および貨幣の一般理論』⑥——第3編（後半）</p> <p>【第10回】 ケインズの『雇用・利子および貨幣の一般理論』⑦——第4編（前半）</p> <p>【第11回】 ケインズの『雇用・利子および貨幣の一般理論』⑧——第4編（後半）</p> <p>【第12回】 ケインズの『雇用・利子および貨幣の一般理論』⑨——第5編（前半）</p> <p>【第13回】 ケインズの『雇用・利子および貨幣の一般理論』⑩——第5編（後半）</p> <p>【第14回】 ケインズの『雇用・利子および貨幣の一般理論』⑪——第6編（前半）</p> <p>【第15回】 ケインズの『雇用・利子および貨幣の一般理論』⑫——第6編（後半）</p> <p>※この進捗や内容は目安であり、履修者と相談しながら進捗や内容を適宜調整・変更する。</p>								
成績評価の方法	報告（30%）、議論を含む授業への取り組み姿勢（20%）、およびレポート（50%）によって評価する。								
フィードバックの内容	報告や議論について、授業内でフィードバックする。								
教科書	『雇用、金利、通貨の一般理論』ジョン・メイナード・ケインズ 著；大野一 訳（日経 BP）2021、『雇用、利子、お金の一般理論』ジョン・メイナード・ケインズ 著；山形浩生 訳（講談社）2012、『雇用、利子および貨幣の一般理論上』ジョン・メイナード・ケインズ 著；間宮陽介 訳（岩波書店）2008、『雇用、利子および貨幣の一般理論下』ジョン・メイナード・ケインズ 著；間宮陽介 訳（岩波書店）2008、『雇用・利子および貨幣の一般理論普及版』ジョン・メイナード・ケインズ 著；塩野谷祐一 訳（東洋経済新報社）1995								
指定図書	『経済学史』喜多見洋、水田健 編著（ミネルヴァ書房）2012、『新版 経済思想史——社会認識の諸類型』大田一廣、鈴木信雄、高哲男、八木紀一郎 編（名古屋大学出版会）2006、『経済学史』馬渡尚憲 著（有斐閣）1997、『経済学史』三土修平 著（新世社）1993、『A Brief History of Economic Thought』Alessandro Roncaglia (Cambridge University Press) 2017、『私は、経済学をどう読んできたか』ロバート・L. ハイブローナー 著；中村達也 [ほか] 訳（筑摩書房）2003、『The History of Economic Thought: A Reader (Second Edition)』Steven G Medema, Warren J. Samuels (eds.) (Routledge) 2013、『ケインズ——危機の時代の実践家』伊藤宣広 著（岩波書店）2023、『ケインズ 説得論集』ジョン・メイナード・ケインズ 著；山岡洋一 訳（日経 BP 日本経済新聞出版本部）2021、『ケインズ——時代と経済学』吉川洋 著（筑摩書房）1995								
参考書	『写真で見る ヴィクトリア朝ロンドンの都市と生活』アレックス・ワーナー、トニー・ウィリアムズ 著；松尾恭子 訳（原書房）2013、『有斐閣経済辞典 第5版』金森久雄、荒憲治郎、森口親司 編（有斐閣）2013								
教員からのお知らせ	履修者による報告と議論に基づいて授業が進められるため、無断で欠席したり遅刻したりすることは基本的に認められない。またこの授業は、「経済学史特研3」の内容を前提にして進められる。								
オフィスアワー	この授業に関する質問・相談は、学部学科で定めるオフィスアワーにて受け付ける。また授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内でも対応する。								
アクティブラーニングの内容 その他	意見共有、教員からのフィードバックによる振り返り、ディベート、プレゼンテーション。								

講義コード	13C0107501	授業形態	講義	抽選の有無	なし	担当教員	村田 啓子	開講期	第1期
科目名	日本経済論特研3								
履修前提条件					備考				
授業の目的	経済学の理論を実体経済に応用するには、理論、データ、制度を踏まえた論考が必要となる。本講義では、ミクロ経済学・マクロ経済学及び計量経済学の基礎知識を持つ学生を対象に、現代日本経済の動向とその背景を理解するとともに、実施された政策や問題点についても学ぶ。それにより実体経済について自らの問題意識を持ちつつ主体的に考えていく能力を養い、併せて自らの研究課題について鳥瞰的な視野からも思考する能力の育成を目指す。 なお、本講義は修士課程の「日本経済特論3」との合同授業である。								
到達目標	日本経済の現状と課題及びそれらに関する基本データを理解した上で批判的に検討・分析するための能力が身につく、併せて論文執筆のための研究課題の選定及び論考能力が向上する。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	授業で指定されるリーディングリストを事前に読み、理解する。自身の学習・研究目的も踏まえ予習・復習を行う。授業外に合計60時間以上の学修を行うこと。								
授業計画	【第1回】 概論・ガイダンス 【第2回】 国民経済計算からみた日本経済 【第3回】 文献等の輪読、質問及び討論 (1) 【第4回】 文献等の輪読、質問及び討論 (2) 【第5回】 文献等の輪読、質問及び討論 (3) 【第6回】 文献等の輪読、質問及び討論 (4) 【第7回】 文献等の輪読、質問及び討論 (5) 【第8回】 文献等の輪読、質問及び討論 (6) 【第9回】 文献等の輪読、質問及び討論 (7) 【第10回】 文献等の輪読、質問及び討論 (8) 【第11回】 文献等の輪読、質問及び討論 (9) 【第12回】 文献等の輪読、質問及び討論 (10) 【第13回】 文献等の輪読、質問及び討論 (11) 【第14回】 文献等の輪読、質問及び討論 (12) 【第15回】 文献等の輪読、質問及び討論 (13)								
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢 (40%) 及び期末レポート (60%) により総合的に判定します。第1回講義で説明します。								
フィードバックの内容	学生が選定したテーマやそれに関するリーディングリスト等を配布するほか、発表・質問・討論内容についてコメントを行う。								
教科書									
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ									
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部学科にて定めるオフィスアワーにて受付ける (事前にメールで連絡すること)。								
アクティブラーニングの内容	講義内容に関するディスカッションを行います。								
その他									

講義コード	13C0107601	授業形態	講義	抽選の有無	なし	担当教員	村田 啓子	開講期	第2期
科目名	日本経済論特研4								
履修前提条件					備考				
授業の目的	経済学の理論を実体経済に応用するには、理論、データ、制度を踏まえた論考が必要となる。本講義では、ミクロ経済学・マクロ経済学及び計量経済学の基礎知識を持つ学生を対象に、現代日本経済の動向とその背景を理解するとともに、実施された政策や問題点についても学ぶ。それにより実体経済について自らの問題意識を持ちつつ主体的に考えていく能力を養い、併せて自らの研究課題について鳥瞰的な視野からも思考する能力の育成を目指す。 なお、本講義は修士課程の「日本経済特論4」との合同授業である。								
到達目標	日本経済の現状と課題及びそれらに関する基本データを理解した上で批判的に検討・分析するための能力が身につく、併せて論文執筆のための研究課題の選定及び論考能力が向上する。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	各自がテーマを選定し、自身の学習・研究を進め発表の準備を行う。発表後は得た質問なども踏まえ自らの理解を適宜修正・発展させる。授業外に合計60時間以上の学修を行うこと。								
授業計画	【第1回】 概論・ガイダンス 【第2回】 文献等の輪読、質問及び討論 (1) 【第3回】 文献等の輪読、質問及び討論 (2) 【第4回】 文献等の輪読、質問及び討論 (3) 【第5回】 文献等の輪読、質問及び討論 (4) 【第6回】 文献等の輪読、質問及び討論 (5) 【第7回】 文献等の輪読、質問及び討論 (6) 【第8回】 文献等の輪読、質問及び討論 (7) 【第9回】 文献等の輪読、質問及び討論 (8) 【第10回】 文献等の輪読、質問及び討論 (9) 【第11回】 文献等の輪読、質問及び討論 (10) 【第12回】 文献等の輪読、質問及び討論 (11) 【第13回】 文献等の輪読、質問及び討論 (12) 【第14回】 文献等の輪読、質問及び討論 (13) 【第15回】 文献等の輪読、質問及び討論 (14)								
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢 (40%) 及び期末レポート (60%) により総合的に判定します。第1回講義で説明します。								
フィードバックの内容	学生が選定したテーマやそれに関するリーディングリスト等を配布し、発表・質問・討論内容についてコメントを行う。								
教科書									
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ									
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部学科にて定めるオフィスアワーにて受付ける (事前にメールで連絡すること)。								
アクティブラーニングの内容	講義内容に関するディスカッションを行います。								
その他									

講義コード	13C0107901	授業形態	講義	抽選の有無	なし	担当教員		開講期	
科目名	労働経済学特研3					戎野 淑子	第1期		
履修前条件						備考			
授業の目的	受講生の研究テーマに基づき、内容を検討したい。具体的な授業については、毎回輪読を実施し、実態調査なども資料にし ながら、議論を行う。 なお、本講義は、大学院博士後期課程「労働経済学特研1」との合同である。								
到達目標	「労働経済学特論1」 各自の研究テーマに関連する労働事情や労働問題等について理解できる。 「労働経済学特研1」 各自の研究テーマに関連する労働事情や労働問題等について理解できる。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	「労働経済学特論3」 輪読の準備、自分の研究課題についての発表準備 (60時間を必要とする) 「労働経済特研3」 輪読の準備、自分の研究課題についての発表準備 (60時間を必要とする)								
授業計画	【第1回】 ガイダンス：ゼミの進め方を説明し、テーマ等について相談し決める。 【第2回】 順次テキストを輪読し発表を行う。概ね1講義で1/2chapter 進み、1年間で一冊勉強する予定。(1) 【第3回】 順次テキストを輪読し発表を行う。概ね1講義で1/2chapter 進み、1年間で一冊勉強する予定。(2) 【第4回】 順次テキストを輪読し発表を行う。概ね1講義で1/2chapter 進み、1年間で一冊勉強する予定。(3) 【第5回】 順次テキストを輪読し発表を行う。概ね1講義で1/2chapter 進み、1年間で一冊勉強する予定。(4) 【第6回】 順次テキストを輪読し発表を行う。概ね1講義で1/2chapter 進み、1年間で一冊勉強する予定。(5) 【第7回】 順次テキストを輪読し発表を行う。概ね1講義で1/2chapter 進み、1年間で一冊勉強する予定。(6) 【第8回】 順次テキストを輪読し発表を行う。概ね1講義で1/2chapter 進み、1年間で一冊勉強する予定。(7) 【第9回】 順次テキストを輪読し発表を行う。概ね1講義で1/2chapter 進み、1年間で一冊勉強する予定。(8) 【第10回】 順次テキストを輪読し発表を行う。概ね1講義で1/2chapter 進み、1年間で一冊勉強する予定。(9) 【第11回】 順次テキストを輪読し発表を行う。概ね1講義で1/2chapter 進み、1年間で一冊勉強する予定。(10) 【第12回】 順次テキストを輪読し発表を行う。概ね1講義で1/2chapter 進み、1年間で一冊勉強する予定。(11) 【第13回】 順次テキストを輪読し発表を行う。概ね1講義で1/2chapter 進み、1年間で一冊勉強する予定。(12) 【第14回】 順次テキストを輪読し発表を行う。概ね1講義で1/2chapter 進み、1年間で一冊勉強する予定。(13) 【第15回】 順次テキストを輪読し発表を行う。概ね1講義で1/2chapter 進み、1年間で一冊勉強する予定。(14)								
成績評価の方法	レポート50%、授業での発表・討論50%								
フィードバックの内容	フィードバックは次回授業までに行う								
教科書	『Employment Relations』 Ed Rose (Printice Hall) 2008、『雇用システム論』 佐口和郎 (有斐閣) 2018								
指定図書	『労働経済白書』 厚生労働省 (日経印刷株式会社) 2023年								
参考書									
教員からのお知らせ									
オフィスアワー	水曜日お昼休み								
アクティブラーニングの内容	毎回、課題を行い、次週にフィードバックを行う。								
その他									

講義コード	13C0108001	授業形態	講義	抽選の有無	なし	担当教員		開講期	
科目名	労働経済学特研4				戎野 淑子		第2期		
履修前提条件					備考				
授業の目的	受講生と相談し、興味関心あるテーマを選びたい。ただ、まず、広く雇用問題に焦点をあて、文献研究を行い、特に、日本の雇用関係の変容について、歴史的な比較分析とともに国際比較を行う。そして、その中で、具体的テーマを絞っていく予定である。授業の進め方は、毎回輪読を実施し、実態調査なども資料にしながら、議論を行う。 ※この授業は、修士・博士後期両課程合同で実施します。								
到達目標	「労働経済学特研4」 自分の研究テーマに関連のある労働事情や労働問題について理解を深めることができる。 「労働経済学特論4」 自分の研究テーマに関連のある労働事情や労働問題について理解を深めることができる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	「労働経済学特研2」 輪読の準備、自分の論文の研究の準備 (60時間を必要とする) 「労働経済学特論2」 輪読の準備、自分の論文の研究の準備 (60時間を必要とする)								
授業計画	<p>【第1回】 順次輪読を行い発表する。労働経済、人的資源管理について学ぶ。適宜、労働経済白書を活用しながら、労働状況やそこにおける諸問題についても確認する。(1)</p> <p>【第2回】 順次輪読を行い発表する。労働経済、人的資源管理について学ぶ。適宜、労働経済白書を活用しながら、労働状況やそこにおける諸問題についても確認する。(2)</p> <p>【第3回】 順次輪読を行い発表する。労働経済、人的資源管理について学ぶ。適宜、労働経済白書を活用しながら、労働状況やそこにおける諸問題についても確認する。(3)</p> <p>【第4回】 順次輪読を行い発表する。労働経済、人的資源管理について学ぶ。適宜、労働経済白書を活用しながら、労働状況やそこにおける諸問題についても確認する。(4)</p> <p>【第5回】 順次輪読を行い発表する。労働経済、人的資源管理について学ぶ。適宜、労働経済白書を活用しながら、労働状況やそこにおける諸問題についても確認する。(5)</p> <p>【第6回】 順次輪読を行い発表する。労働経済、人的資源管理について学ぶ。適宜、労働経済白書を活用しながら、労働状況やそこにおける諸問題についても確認する。(6)</p> <p>【第7回】 順次輪読を行い発表する。労働経済、人的資源管理について学ぶ。適宜、労働経済白書を活用しながら、労働状況やそこにおける諸問題についても確認する。(7)</p> <p>【第8回】 順次輪読を行い発表する。労働経済、人的資源管理について学ぶ。適宜、労働経済白書を活用しながら、労働状況やそこにおける諸問題についても確認する。(8)</p> <p>【第9回】 順次輪読を行い発表する。労働経済、人的資源管理について学ぶ。適宜、労働経済白書を活用しながら、労働状況やそこにおける諸問題についても確認する。(9)</p> <p>【第10回】 順次輪読を行い発表する。労働経済、人的資源管理について学ぶ。適宜、労働経済白書を活用しながら、労働状況やそこにおける諸問題についても確認する。(10)</p> <p>【第11回】 順次輪読を行い発表する。労働経済、人的資源管理について学ぶ。適宜、労働経済白書を活用しながら、労働状況やそこにおける諸問題についても確認する。(11)</p> <p>【第12回】 順次輪読を行い発表する。労働経済、人的資源管理について学ぶ。適宜、労働経済白書を活用しながら、労働状況やそこにおける諸問題についても確認する。(12)</p> <p>【第13回】 各自の論文についての発表 (1)</p> <p>【第14回】 各自の論文についての発表 (2)</p> <p>【第15回】 各自の論文についての発表 (3)</p>								
成績評価の方法	レポート70%、授業での発表・討論30%								
フィードバックの内容	フィードバックは次回授業までに行う								
教科書	『人的資本管理の力』白木三秀編著(文真堂)2024年、『Employment Relations』Ed Rose (Printice Hall) 2008								
指定図書									
参考書	『労働経済白書』厚生労働省(日経印刷)2023年								
教員からのお知らせ									
オフィスアワー	水曜日お昼休み								
アクティブラーニングの内容	毎回、課題を行い、次週にそのフィードバックを行う								
その他									

博士後期課程

講義コード	13C0108301	授業形態	講義	抽選の有無	なし	担当教員	高橋 美由紀	開講期	第1期
科目名	日本経済史特研3								
履修前提条件						備考			
授業の目的	19世紀後半から20世紀前半までの日本経済の歴史を学ぶ。教科書の輪読を中心に、実際に授業内で読みながら討論をおこなう。履修者の希望に添った内容に変更することもある。 ※この授業は、修士・博士後期両課程合同で実施する。								
到達目標	19世紀後半から20世紀前半までの日本経済の歴史について多様な観点から客観的に論述できること。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	教科書の指定箇所を講義前に予習しておくこと。また、講義で提示された内容について復習しておくこと。 (計65時間)								
授業計画	教科書 第二部・第三部（19世紀後半から20世紀前半の日本経済） 【第1回】環境と経済活動 【第9回】モダニズムと大衆消費社会 【第2回】商法の制定と金本位制 【第10回】ブロック経済から金ドル本位制へ 【第3回】国際収支の天井と経済政策 【第11回】高橋財政から戦後経済政策へ 【第4回】産業革命と工業化 【第12回】財界論 【第5回】地主制の展開と植民地農業 【第13回】「内需」主導の重化学工業化 【第6回】交通網の変容と商品流通 【第14回】地主制の後退と戦後農政 【第7回】都市化と生活環境 【第15回】大規模小売商と流通系列 【第8回】ジェンダー・労働市場研究の新展開								
成績評価の方法	博士課程で研究するものとして必要な基礎知識の習得度合い（40%）、それを基礎に講義に参加し自分の主張が述べられているか（60%）。								
フィードバックの内容	講義内で質疑応答をおこなう。レポート等を課した場合は、翌週にコメントを付して返却する。								
教科書	『日本経済の歴史 列島経済史入門』中西 聡（名古屋大学出版会）2013								
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ	講義内容は、履修者の希望等により変更する可能性がある。Microsoft Teams で Team を作るの、ポータルサイトで案内する Team コードを確認して、授業開始までにメンバー登録をすること。 教科書を初めて購入する場合は、極力2018年発行の第3刷を購入すること。								
オフィスアワー	月曜2限。事前に必ず連絡すること。 メールやチャットにても受け付ける。								
アクティブラーニングの内容 その他	毎回の授業の中で、自己の意見を述べてもらっている。								

講義コード	13C0108401	授業形態	講義	抽選の有無	なし	担当教員	高橋 美由紀	開講期	第2期
科目名	日本経済史特研4								
履修前提条件						備考			
授業の目的	20世紀を中心とした日本経済の歴史を学ぶ。また、履修者の希望に添った内容に変更することもある。 ※この授業は、修士・博士後期両課程合同で実施する。								
到達目標	20世紀を中心とした日本経済の歴史について具体的に論述でき、自己の意見として論理的にプレゼンテーションも出来ること。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	参考資料を講義前に予習しておくこと。また、講義で提示された内容について復習しておくこと。 (計65時間)								
授業計画	教科書『日本経済の歴史』第三部を中心に扱う（20世紀の日本経済） 【第1回】大衆消費社会の実像 【第9回】流通再編と消費の多様化 【第2回】国際通貨システムの動揺と円高の進展 ① 【第10回】日本経済の新しい課題 【第3回】国際通貨システムの動揺と円高の進展 ② 【第11回】日本における社会福祉研究の新展開 【第4回】財政再建と金融・証券の自由化 【第12回】科学技術と経済活動 ① 【第5回】「外需」主導の産業構造 ① 【第13回】科学技術と経済活動 ② 【第6回】「外需」主導の産業構造 ② 【第14回】明日への模索 【第7回】トヨタ生産方式の展開 【第15回】日本経済の歴史を学ぶ 【第8回】国際化のなかの日本農業 各授業では関係する著作等について一緒に輪読をおこなう。								
成績評価の方法	講義における大学院で習得した知識を踏まえた報告（60%）、授業態度（40%）。								
フィードバックの内容	毎回の講義で質疑応答をおこなう。また、提出物を課した場合には翌週に添削をして返却する。								
教科書	『日本経済の歴史 列島経済史入門』中西 聡（名古屋大学出版会）2013								
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ	講義内容は、履修者の希望等により変更する可能性がある。Microsoft Teams で Team を作るの、ポータルサイトで案内する Team コードを確認して、授業開始までにメンバー登録をすること。 教科書を新たに購入する場合は、2018年発行の第3刷を購入すること。								
オフィスアワー	月曜2限。事前に必ず連絡すること。 メールおよびチャット等でも随時受け付ける。								
アクティブラーニングの内容 その他	毎回の授業の中では、各自の意見を述べてもらう。								

講義コード	13C0109501	授業形態	講義	抽選の有無	なし	担当教員	宮川 幸三	開講期	第1期
科目名	計量経済学特研3				宮川 幸三		第1期		
履修前条件					備考				
授業の目的	本講義では、産業構造分析の手法の1つとして産業連関分析を取り上げ、その背景にある理論や応用分析の手法について理解を深めることを目的としている。また講義だけでなく、統計解析ソフトを用いた演習を行うことによって、高度な実証分析能力を養うことを目指している。 なお、本講義は修士課程「計量経済学特論3」との合同授業である。								
到達目標	産業連関分析の手法を習得し、自らの研究に応用することができる。 産業連関表および産業関連統計に関する体系的知識を身につけ、自らの研究に応用することができる。 統計解析用ソフトウェアの使用方法を習得し、自らの研究に応用することができる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	授業の内容を理解するために予習・復習すること。 授業内容に関する論文を読むこと。 この科目では、60時間以上の授業外学修を行うこと。								
授業計画	【第1回】本講義の目的と概要 【第2回】産業構造とは何かーレオンティエフの分析視点 【第3回】産業連関表の見方 【第4回】均衡産出高モデル1 【第5回】均衡産出高モデル2 【第6回】輸入内生モデル1 【第7回】輸入内生モデル2 【第8回】スカイライン分析1 【第9回】スカイライン分析2 【第10回】経済センサスと産業連関表 【第11回】供給・使用表(SUT)とシンメトリック産業連関表の体系 【第12回】RAS法 【第13回】産業連関表とGDP統計 【第14回】分類体系と産業連関表 【第15回】まとめ								
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢(30%)、授業中に課された課題(30%)、各自の研究テーマに関するレポート(40%)によって評価する。								
フィードバックの内容	課題に対する講評を授業時に行う。								
教科書	『日中連関構造の経済分析』日中連関構造の経済分析(勁草書房)2016								
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ	経済学研究科修士課程レベルで習得すべき統計学、経済学およびパソコンの操作に関する知識を前提として授業を行う。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、講義案内で示したオフィスアワーにおいて受付ける。								
アクティブラーニングの内容	意見共有、教員からのフィードバックによる振り返り、演習								
その他									

講義コード	13C0109601	授業形態	講義	抽選の有無	なし	担当教員	宮川 幸三	開講期	第2期
科目名	計量経済学特研4				宮川 幸三		第2期		
履修前条件					備考				
授業の目的	本講義では、産業構造分析の手法の1つとして産業連関分析を取り上げ、その背景にある理論や応用分析の手法について理解を深めることを目的としている。計量経済学特研3で学んだ内容を前提としながら、産業構造分析の応用事例を紹介すると同時に、学生自らの研究テーマに従って分析および発表を行う。 なお、本講義は修士課程「計量経済学特論4」との合同授業である。								
到達目標	様々な応用分析の手法を習得し、自らの研究に応用することができる。 自ら設定した分析目的に従って、適切な手法を用いて分析を行うことができる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	授業の内容を理解するために予習・復習すること。 授業内容に関する論文を読むこと。 この科目では、60時間以上の授業外学修を行うこと。								
授業計画	【第1回】国際貿易の効果ー日中国際産業連関表による波及効果分析1 【第2回】国際貿易の効果ー日中国際産業連関表による波及効果分析2 【第3回】地域格差と国際貿易ー日中国際地域間産業連関表による分析1 【第4回】地域格差と国際貿易ー日中国際地域間産業連関表による分析2 【第5回】貿易と産業構造変化ー規模別日中国際産業連関表による分析1 【第6回】貿易と産業構造変化ー規模別日中国際産業連関表による分析2 【第7回】PPPと競争力評価ー日米国際産業連関表による価格分析1 【第8回】PPPと競争力評価ー日米国際産業連関表による価格分析2 【第9回】PPPと競争力評価ー日米国際産業連関表による価格分析3 【第10回】経済発展の構造分析ー接続産業連関表による要因分析1 【第11回】経済発展の構造分析ー接続産業連関表による要因分析2 【第12回】マイクロデータを用いた産業構造分析1 【第13回】マイクロデータを用いた産業構造分析2 【第14回】マイクロデータを用いた産業構造分析3 【第15回】まとめ								
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢(30%)、授業中に課された課題(30%)、各自の研究テーマに関するレポート(40%)によって評価する。								
フィードバックの内容	課題に対する講評を授業時に行う。								
教科書	『日中連関構造の経済分析』日中連関構造の経済分析(勁草書房)2016								
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ	経済学研究科修士課程レベルで習得すべき統計学、経済学およびパソコンの操作に関する知識と計量経済学特研3の内容を前提として授業を行う。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、講義案内で示したオフィスアワーにおいて受付ける。								
アクティブラーニングの内容	意見共有、教員からのフィードバックによる振り返り、演習								
その他									

講義コード	13C0109704	授業形態	演習	抽選の有無	なし	担当教員	戎野 淑子	開講期	通年
科目名	研究演習 I (戎野)								
履修前提条件						備考			
授業の目的	本演習は、学位論文を作成する博士後期課程の学生を対象とし、履修者の問題意識に沿いつつ、学位論文作成のための研究指導を行うものである。授業の目的は、各自の研究分野において独創的な着眼点に基づく研究課題を設定する能力を高め、その課題の達成に向けてさまざまな分析手法を駆使することのできる高度な研究能力を獲得することにある。具体的な演習内容と授業の実施方式は各開講教員に委ねられている。								
到達目標	1. 自らの研究分野に関わる諸問題およびそれらを解決するためのさまざまな分析手法に精通している。 2. 独創的な研究課題を設定し、その課題をさまざまな分析手法を用いて達成し、その成果を学術論文として結実させることができる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	1. 研究課題に関する文献を幅広く渉猟し、当該研究分野における重要な問題の発見に努めること。 2. 授業時に出されたコメントや助言をよく理解し、これらを踏まえつつ問題解決に向けて複数の分析手法の修得に努めること。 これらを併せて、合計120時間以上の授業外学修を行うこと。								
授業計画	【第1回】 第1期授業日程と授業運営方法の説明 【第2回】 論文作成1 【第3回】 論文作成2 【第4回】 論文作成3 【第5回】 論文作成4 【第6回】 論文作成5 【第7回】 論文作成6 【第8回】 論文作成7 【第9回】 論文作成8 【第10回】 論文作成9 【第11回】 論文作成10 【第12回】 論文作成11 【第13回】 論文作成12 【第14回】 論文作成13 【第15回】 論文作成14						【第16回】 第2期授業日程と運営方法の説明 【第17回】 論文作成1 【第18回】 論文作成2 【第19回】 論文作成3 【第20回】 論文作成4 【第21回】 論文作成5 【第22回】 論文作成6 【第23回】 論文作成7 【第24回】 論文作成8 【第25回】 論文作成9 【第26回】 論文作成10 【第27回】 論文作成11 【第28回】 論文作成12 【第29回】 論文作成13 【第30回】 総括		
成績評価の方法	原則としては、授業への取り組み姿勢 (30%)、発表・討論 (50%) および最終課題 (レポート等) (20%) によって評価するが、各担当教員によって変更の可能性があるので事前に確認しておくこと。								
フィードバックの内容	報告や論文に対するコメントを授業時に行う。								
教科書									
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ									
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部にて定めている各教員のオフィスアワーにて受け付ける。また、WebClass のメッセージ機能でも受け付ける (利用方法はポータルサイト、ライブラリ内のマニュアルを参照)。								
アクティブラーニングの内容	演習、教員からのフィードバックによる振り返り、ディベート、プレゼンテーション								
その他									

講義コード	13C0109705	授業形態	演習	抽選の有無	なし	担当教員	苑 志佳	開講期	通年
科目名	研究演習 I (苑)								
履修前提条件						備考			
授業の目的	本演習は、学位論文を作成する博士後期課程の学生を対象とし、履修者の問題意識に沿いつつ、学位論文作成のための研究指導を行うものである。授業の目的は、各自の研究分野において独創的な着眼点に基づく研究課題を設定する能力を高め、その課題の達成に向けてさまざまな分析手法を駆使することのできる高度な研究能力を獲得することにある。具体的な演習内容と授業の実施方式は各開講教員に委ねられている。								
到達目標	1. 自らの研究分野に関わる諸問題およびそれらを解決するためのさまざまな分析手法に精通している。 2. 独創的な研究課題を設定し、その課題をさまざまな分析手法を用いて達成し、その成果を学術論文として結実させることができる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	1. 研究課題に関する文献を幅広く渉猟し、当該研究分野における重要な問題の発見に努めること。 2. 授業時に出されたコメントや助言をよく理解し、これらを踏まえつつ問題解決に向けて複数の分析手法の修得に努めること。 これらを併せて、合計120時間以上の授業外学修を行うこと。								
授業計画	【第1回】 第1期授業日程と授業運営方法の説明 【第2回】 論文作成1 【第3回】 論文作成2 【第4回】 論文作成3 【第5回】 論文作成4 【第6回】 論文作成5 【第7回】 論文作成6 【第8回】 論文作成7 【第9回】 論文作成8 【第10回】 論文作成9 【第11回】 論文作成10 【第12回】 論文作成11 【第13回】 論文作成12 【第14回】 論文作成13 【第15回】 論文作成14						【第16回】 第2期授業日程と運営方法の説明 【第17回】 論文作成1 【第18回】 論文作成2 【第19回】 論文作成3 【第20回】 論文作成4 【第21回】 論文作成5 【第22回】 論文作成6 【第23回】 論文作成7 【第24回】 論文作成8 【第25回】 論文作成9 【第26回】 論文作成10 【第27回】 論文作成11 【第28回】 論文作成12 【第29回】 論文作成13 【第30回】 総括		
成績評価の方法	原則としては、授業への取り組み姿勢 (30%)、発表・討論 (50%) および最終課題 (レポート等) (20%) によって評価するが、各担当教員によって変更の可能性があるので事前に確認しておくこと。								
フィードバックの内容	報告や論文に対するコメントを授業時に行う。								
教科書									
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ									
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部にて定めている各教員のオフィスアワーにて受け付ける。また、WebClass のメッセージ機能でも受け付ける (利用方法はポータルサイト、ライブラリ内のマニュアルを参照)。								
アクティブラーニングの内容	演習、教員からのフィードバックによる振り返り、ディベート、プレゼンテーション								
その他									

講義コード	13C0109706	授業形態	演習	抽選の有無	なし	担当教員	王 在喆	開講期	通年
科目名	研究演習 I (王在喆)				王 在喆			通年	
履修前提条件					備考				
授業の目的	本演習は、学位論文を作成する博士後期課程の学生を対象とし、履修者の問題意識に沿いつつ、学位論文作成のための研究指導を行うものである。授業の目的は、各自の研究分野において独創的な着眼点に基づく研究課題を設定する能力を高め、その課題の達成に向けてさまざまな分析手法を駆使することのできる高度な研究能力を獲得することにある。具体的な演習内容と授業の実施方式は各開講教員に委ねられている。								
到達目標	1. 自らの研究分野に関わる諸問題およびそれらを解決するためのさまざまな分析手法に精通している。 2. 独創的な研究課題を設定し、その課題をさまざまな分析手法を用いて達成し、その成果を学術論文として結実させることができる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	1. 研究課題に関する文献を幅広く渉猟し、当該研究分野における重要な問題の発見に努めること。 2. 授業時に出されたコメントや助言をよく理解し、これらを踏まえつつ問題解決に向けて複数の分析手法の修得に努めること。 これらを併せて、合計120時間以上の授業外学修を行うこと。								
授業計画	【第1回】第1期授業日程と授業運営方法の説明 【第2回】論文作成1 【第3回】論文作成2 【第4回】論文作成3 【第5回】論文作成4 【第6回】論文作成5 【第7回】論文作成6 【第8回】論文作成7 【第9回】論文作成8 【第10回】論文作成9 【第11回】論文作成10 【第12回】論文作成11 【第13回】論文作成12 【第14回】論文作成13 【第15回】論文作成14				【第16回】第2期授業日程と運営方法の説明 【第17回】論文作成1 【第18回】論文作成2 【第19回】論文作成3 【第20回】論文作成4 【第21回】論文作成5 【第22回】論文作成6 【第23回】論文作成7 【第24回】論文作成8 【第25回】論文作成9 【第26回】論文作成10 【第27回】論文作成11 【第28回】論文作成12 【第29回】論文作成13 【第30回】総括				
成績評価の方法	原則としては、授業への取り組み姿勢(30%)、発表・討論(50%)および最終課題(レポート等)(20%)によって評価するが、各担当教員によって変更の可能性があるので事前に確認しておくこと。								
フィードバックの内容	報告や論文に対するコメントを授業時に行う。								
教科書									
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ									
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部にて定めている各教員のオフィスアワーにて受け付ける。また、WebClassのメッセージ機能でも受け付ける(利用方法はポータルサイト、ライブラリ内のマニュアルを参照)。								
アクティブラーニングの内容	演習、教員からのフィードバックによる振り返り、ディベート、プレゼンテーション								
その他									

講義コード	13C0109707	授業形態	演習	抽選の有無	なし	担当教員	小野崎 保	開講期	通年
科目名	研究演習 I (小野崎)				小野崎 保			通年	
履修前提条件					備考				
授業の目的	本演習は、学位論文を作成する博士後期課程の学生を対象とし、履修者の問題意識に沿いつつ、学位論文作成のための研究指導を行うものである。授業の目的は、各自の研究分野において独創的な着眼点に基づく研究課題を設定する能力を高め、その課題の達成に向けてさまざまな分析手法を駆使することのできる高度な研究能力を獲得することにある。具体的な演習内容と授業の実施方式は各開講教員に委ねられている。								
到達目標	1. 自らの研究分野に関わる諸問題およびそれらを解決するためのさまざまな分析手法に精通している。 2. 独創的な研究課題を設定し、その課題をさまざまな分析手法を用いて達成し、その成果を学術論文として結実させることができる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	1. 研究課題に関する文献を幅広く渉猟し、当該研究分野における重要な問題の発見に努めること。 2. 授業時に出されたコメントや助言をよく理解し、これらを踏まえつつ問題解決に向けて複数の分析手法の修得に努めること。 これらを併せて、合計120時間以上の授業外学修を行うこと。								
授業計画	【第1回】第1期授業日程と授業運営方法の説明 【第2回】論文作成1 【第3回】論文作成2 【第4回】論文作成3 【第5回】論文作成4 【第6回】論文作成5 【第7回】論文作成6 【第8回】論文作成7 【第9回】論文作成8 【第10回】論文作成9 【第11回】論文作成10 【第12回】論文作成11 【第13回】論文作成12 【第14回】論文作成13 【第15回】論文作成14				【第16回】第2期授業日程と運営方法の説明 【第17回】論文作成1 【第18回】論文作成2 【第19回】論文作成3 【第20回】論文作成4 【第21回】論文作成5 【第22回】論文作成6 【第23回】論文作成7 【第24回】論文作成8 【第25回】論文作成9 【第26回】論文作成10 【第27回】論文作成11 【第28回】論文作成12 【第29回】論文作成13 【第30回】総括				
成績評価の方法	原則としては、授業への取り組み姿勢(30%)、発表・討論(50%)および最終課題(レポート等)(20%)によって評価するが、各担当教員によって変更の可能性があるので事前に確認しておくこと。								
フィードバックの内容	報告や論文に対するコメントを授業時に行う。								
教科書									
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ									
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部にて定めている各教員のオフィスアワーにて受け付ける。また、WebClassのメッセージ機能でも受け付ける(利用方法はポータルサイト、ライブラリ内のマニュアルを参照)。								
アクティブラーニングの内容	演習、教員からのフィードバックによる振り返り、ディベート、プレゼンテーション								
その他									

講義コード	13C0109709	授業形態	演習	抽選の有無	なし	担当教員	河原 伸哉	開講期	通年
科目名	研究演習 I (河原)								
履修前提条件					備考				
授業の目的	本演習は、学位論文を作成する博士後期課程の学生を対象とし、履修者の問題意識に沿いつつ、学位論文作成のための研究指導を行うものである。授業の目的は、各自の研究分野において独創的な着眼点に基づく研究課題を設定する能力を高め、その課題の達成に向けてさまざまな分析手法を駆使することのできる高度な研究能力を獲得することにある。具体的な演習内容と授業の実施方式は各開講教員に委ねられている。								
到達目標	1. 自らの研究分野に関わる諸問題およびそれらを解決するためのさまざまな分析手法に精通している。 2. 独創的な研究課題を設定し、その課題をさまざまな分析手法を用いて達成し、その成果を学術論文として結実させることができる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	1. 研究課題に関する文献を幅広く渉猟し、当該研究分野における重要な問題の発見に努めること。 2. 授業時に出されたコメントや助言をよく理解し、これらを踏まえつつ問題解決に向けて複数の分析手法の修得に努めること。 これらを併せて、合計120時間以上の授業外学修を行うこと。								
授業計画	【第1回】 第1期授業日程と授業運営方法の説明 【第2回】 論文作成1 【第3回】 論文作成2 【第4回】 論文作成3 【第5回】 論文作成4 【第6回】 論文作成5 【第7回】 論文作成6 【第8回】 論文作成7 【第9回】 論文作成8 【第10回】 論文作成9 【第11回】 論文作成10 【第12回】 論文作成11 【第13回】 論文作成12 【第14回】 論文作成13 【第15回】 論文作成14				【第16回】 第2期授業日程と運営方法の説明 【第17回】 論文作成1 【第18回】 論文作成2 【第19回】 論文作成3 【第20回】 論文作成4 【第21回】 論文作成5 【第22回】 論文作成6 【第23回】 論文作成7 【第24回】 論文作成8 【第25回】 論文作成9 【第26回】 論文作成10 【第27回】 論文作成11 【第28回】 論文作成12 【第29回】 論文作成13 【第30回】 総括				
成績評価の方法	原則としては、授業への取り組み姿勢 (30%)、発表・討論 (50%) および最終課題 (レポート等) (20%) によって評価するが、各担当教員によって変更の可能性があるので事前に確認しておくこと。								
フィードバックの内容	報告や論文に対するコメントを授業時に行う。								
教科書									
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ									
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部にて定めている各教員のオフィスアワーにて受け付ける。また、WebClass のメッセージ機能でも受け付ける (利用方法はポータルサイト、ライブラリ内のマニュアルを参照)。								
アクティブラーニングの内容	演習、教員からのフィードバックによる振り返り、ディベート、プレゼンテーション								
その他									

講義コード	13C0109710	授業形態	演習	抽選の有無	なし	担当教員	北原 克宣	開講期	通年
科目名	研究演習 I (北原)								
履修前提条件					備考				
授業の目的	本演習は、学位論文を作成する博士後期課程の学生を対象とし、履修者の問題意識に沿いつつ、学位論文作成のための研究指導を行うものである。授業の目的は、各自の研究分野において独創的な着眼点に基づく研究課題を設定する能力を高め、その課題の達成に向けてさまざまな分析手法を駆使することのできる高度な研究能力を獲得することにある。具体的な演習内容と授業の実施方式は各開講教員に委ねられている。								
到達目標	1. 自らの研究分野に関わる諸問題およびそれらを解決するためのさまざまな分析手法に精通している。 2. 独創的な研究課題を設定し、その課題をさまざまな分析手法を用いて達成し、その成果を学術論文として結実させることができる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	1. 研究課題に関する文献を幅広く渉猟し、当該研究分野における重要な問題の発見に努めること。 2. 授業時に出されたコメントや助言をよく理解し、これらを踏まえつつ問題解決に向けて複数の分析手法の修得に努めること。 これらを併せて、合計120時間以上の授業外学修を行うこと。								
授業計画	【第1回】 第1期授業日程と授業運営方法の説明 【第2回】 論文作成1 【第3回】 論文作成2 【第4回】 論文作成3 【第5回】 論文作成4 【第6回】 論文作成5 【第7回】 論文作成6 【第8回】 論文作成7 【第9回】 論文作成8 【第10回】 論文作成9 【第11回】 論文作成10 【第12回】 論文作成11 【第13回】 論文作成12 【第14回】 論文作成13 【第15回】 論文作成14				【第16回】 第2期授業日程と運営方法の説明 【第17回】 論文作成1 【第18回】 論文作成2 【第19回】 論文作成3 【第20回】 論文作成4 【第21回】 論文作成5 【第22回】 論文作成6 【第23回】 論文作成7 【第24回】 論文作成8 【第25回】 論文作成9 【第26回】 論文作成10 【第27回】 論文作成11 【第28回】 論文作成12 【第29回】 論文作成13 【第30回】 総括				
成績評価の方法	原則としては、授業への取り組み姿勢 (30%)、発表・討論 (50%) および最終課題 (レポート等) (20%) によって評価するが、各担当教員によって変更の可能性があるので事前に確認しておくこと。								
フィードバックの内容	報告や論文に対するコメントを授業時に行う。								
教科書									
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ									
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部にて定めている各教員のオフィスアワーにて受け付ける。また、WebClass のメッセージ機能でも受け付ける (利用方法はポータルサイト、ライブラリ内のマニュアルを参照)。								
アクティブラーニングの内容	演習、教員からのフィードバックによる振り返り、ディベート、プレゼンテーション								
その他									

講義コード	13C0109712	授業形態	演習	抽選の有無	なし	担当教員	高橋 美由紀	開講期	通年
科目名	研究演習 I (高橋)					高橋 美由紀		通年	
履修前提条件						備考			
授業の目的	本演習は、学位論文を作成する博士後期課程の学生を対象とし、履修者の問題意識に沿いつつ、学位論文作成のための研究指導を行うものである。授業の目的は、各自の研究分野において独創的な着眼点に基づく研究課題を設定する能力を高め、その課題の達成に向けてさまざまな分析手法を駆使することのできる高度な研究能力を獲得することにある。具体的な演習内容と授業の実施方式は各開講教員に委ねられている。								
到達目標	1. 自らの研究分野に関わる諸問題およびそれらを解決するためのさまざまな分析手法に精通している。 2. 独創的な研究課題を設定し、その課題をさまざまな分析手法を用いて達成し、その成果を学術論文として結実させることができる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	1. 研究課題に関する文献を幅広く渉猟し、当該研究分野における重要な問題の発見に努めること。 2. 授業時に出されたコメントや助言をよく理解し、これらを踏まえつつ問題解決に向けて複数の分析手法の修得に努めること。 これらを併せて、合計120時間以上の授業外学修を行うこと。								
授業計画	【第1回】 第1期授業日程と授業運営方法の説明 【第2回】 論文作成1 【第3回】 論文作成2 【第4回】 論文作成3 【第5回】 論文作成4 【第6回】 論文作成5 【第7回】 論文作成6 【第8回】 論文作成7 【第9回】 論文作成8 【第10回】 論文作成9 【第11回】 論文作成10 【第12回】 論文作成11 【第13回】 論文作成12 【第14回】 論文作成13 【第15回】 論文作成14			【第16回】 第2期授業日程と運営方法の説明 【第17回】 論文作成1 【第18回】 論文作成2 【第19回】 論文作成3 【第20回】 論文作成4 【第21回】 論文作成5 【第22回】 論文作成6 【第23回】 論文作成7 【第24回】 論文作成8 【第25回】 論文作成9 【第26回】 論文作成10 【第27回】 論文作成11 【第28回】 論文作成12 【第29回】 論文作成13 【第30回】 総括					
成績評価の方法	原則としては、授業への取り組み姿勢 (30%)、発表・討論 (50%) および最終課題 (レポート等) (20%) によって評価するが、各担当教員によって変更の可能性があるので事前に確認しておくこと。								
フィードバックの内容	報告や論文に対するコメントを授業時に行う。								
教科書									
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ									
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部にて定めている各教員のオフィスアワーにて受け付ける。また、WebClass のメッセージ機能でも受け付ける (利用方法はポータルサイト、ライブラリ内のマニュアルを参照)。								
アクティブラーニングの内容	演習、教員からのフィードバックによる振り返り、ディベート、プレゼンテーション								
その他									

講義コード	13C0109715	授業形態	演習	抽選の有無	なし	担当教員	林 康史	開講期	通年
科目名	研究演習 I (林)					林 康史		通年	
履修前提条件						備考			
授業の目的	本演習は、学位論文を作成する博士後期課程の学生を対象とし、履修者の問題意識に沿いつつ、学位論文作成のための研究指導を行うものである。授業の目的は、各自の研究分野において独創的な着眼点に基づく研究課題を設定する能力を高め、その課題の達成に向けてさまざまな分析手法を駆使することのできる高度な研究能力を獲得することにある。具体的な演習内容と授業の実施方式は各開講教員に委ねられている。								
到達目標	1. 自らの研究分野に関わる諸問題およびそれらを解決するためのさまざまな分析手法に精通している。 2. 独創的な研究課題を設定し、その課題をさまざまな分析手法を用いて達成し、その成果を学術論文として結実させることができる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	1. 研究課題に関する文献を幅広く渉猟し、当該研究分野における重要な問題の発見に努めること。 2. 授業時に出されたコメントや助言をよく理解し、これらを踏まえつつ問題解決に向けて複数の分析手法の修得に努めること。 これらを併せて、合計120時間以上の授業外学修を行うこと。								
授業計画	【第1回】 第1期授業日程と授業運営方法の説明 【第2回】 論文作成1 【第3回】 論文作成2 【第4回】 論文作成3 【第5回】 論文作成4 【第6回】 論文作成5 【第7回】 論文作成6 【第8回】 論文作成7 【第9回】 論文作成8 【第10回】 論文作成9 【第11回】 論文作成10 【第12回】 論文作成11 【第13回】 論文作成12 【第14回】 論文作成13 【第15回】 論文作成14			【第16回】 第2期授業日程と運営方法の説明 【第17回】 論文作成1 【第18回】 論文作成2 【第19回】 論文作成3 【第20回】 論文作成4 【第21回】 論文作成5 【第22回】 論文作成6 【第23回】 論文作成7 【第24回】 論文作成8 【第25回】 論文作成9 【第26回】 論文作成10 【第27回】 論文作成11 【第28回】 論文作成12 【第29回】 論文作成13 【第30回】 総括					
成績評価の方法	原則としては、授業への取り組み姿勢 (30%)、発表・討論 (50%) および最終課題 (レポート等) (20%) によって評価するが、各担当教員によって変更の可能性があるので事前に確認しておくこと。								
フィードバックの内容	報告や論文に対するコメントを授業時に行う。								
教科書									
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ									
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部にて定めている各教員のオフィスアワーにて受け付ける。また、WebClass のメッセージ機能でも受け付ける (利用方法はポータルサイト、ライブラリ内のマニュアルを参照)。								
アクティブラーニングの内容	演習、教員からのフィードバックによる振り返り、ディベート、プレゼンテーション								
その他									

講義コード	13C0109717	授業形態	演習	抽選の有無	なし	担当教員	宮川 幸三	開講期	通年
科目名	研究演習 I (宮川)					宮川 幸三		通年	
履修前提条件						備考			
授業の目的	本演習は、学位論文を作成する博士後期課程の学生を対象とし、履修者の問題意識に沿いつつ、学位論文作成のための研究指導を行うものである。授業の目的は、各自の研究分野において独創的な着眼点に基づく研究課題を設定する能力を高め、その課題の達成に向けてさまざまな分析手法を駆使することのできる高度な研究能力を獲得することにある。具体的な演習内容と授業の実施方式は各開講教員に委ねられている。								
到達目標	1. 自らの研究分野に関わる諸問題およびそれらを解決するためのさまざまな分析手法に精通している。 2. 独創的な研究課題を設定し、その課題をさまざまな分析手法を用いて達成し、その成果を学術論文として結実させることができる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	1. 研究課題に関する文献を幅広く渉猟し、当該研究分野における重要な問題の発見に努めること。 2. 授業時に出されたコメントや助言をよく理解し、これらを踏まえつつ問題解決に向けて複数の分析手法の修得に努めること。 これらを併せて、合計120時間以上の授業外学修を行うこと。								
授業計画	【第1回】 第1期授業日程と授業運営方法の説明 【第2回】 論文作成1 【第3回】 論文作成2 【第4回】 論文作成3 【第5回】 論文作成4 【第6回】 論文作成5 【第7回】 論文作成6 【第8回】 論文作成7 【第9回】 論文作成8 【第10回】 論文作成9 【第11回】 論文作成10 【第12回】 論文作成11 【第13回】 論文作成12 【第14回】 論文作成13 【第15回】 論文作成14			【第16回】 第2期授業日程と運営方法の説明 【第17回】 論文作成1 【第18回】 論文作成2 【第19回】 論文作成3 【第20回】 論文作成4 【第21回】 論文作成5 【第22回】 論文作成6 【第23回】 論文作成7 【第24回】 論文作成8 【第25回】 論文作成9 【第26回】 論文作成10 【第27回】 論文作成11 【第28回】 論文作成12 【第29回】 論文作成13 【第30回】 総括					
成績評価の方法	原則としては、授業への取り組み姿勢 (30%)、発表・討論 (50%) および最終課題 (レポート等) (20%) によって評価するが、各担当教員によって変更の可能性があるので事前に確認しておくこと。								
フィードバックの内容	報告や論文に対するコメントを授業時に行う。								
教科書									
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ									
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部にて定めている各教員のオフィスアワーにて受け付ける。また、WebClass のメッセージ機能でも受け付ける (利用方法はポータルサイト、ライブラリ内のマニュアルを参照)。								
アクティブラーニングの内容	演習、教員からのフィードバックによる振り返り、ディベート、プレゼンテーション								
その他									

講義コード	13C0109718	授業形態	演習	抽選の有無	なし	担当教員	村田 啓子	開講期	通年
科目名	研究演習 I (村田)					村田 啓子		通年	
履修前提条件						備考			
授業の目的	本演習は、学位論文を作成する博士後期課程の学生を対象とし、履修者の問題意識に沿いつつ、学位論文作成のための研究指導を行うものである。授業の目的は、各自の研究分野において独創的な着眼点に基づく研究課題を設定する能力を高め、その課題の達成に向けてさまざまな分析手法を駆使することのできる高度な研究能力を獲得することにある。具体的な演習内容と授業の実施方式は各開講教員に委ねられている。								
到達目標	1. 自らの研究分野に関わる諸問題およびそれらを解決するためのさまざまな分析手法に精通している。 2. 独創的な研究課題を設定し、その課題をさまざまな分析手法を用いて達成し、その成果を学術論文として結実させることができる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	1. 研究課題に関する文献を幅広く渉猟し、当該研究分野における重要な問題の発見に努めること。 2. 授業時に出されたコメントや助言をよく理解し、これらを踏まえつつ問題解決に向けて複数の分析手法の修得に努めること。 これらを併せて、合計120時間以上の授業外学修を行うこと。								
授業計画	【第1回】 第1期授業日程と授業運営方法の説明 【第2回】 論文作成1 【第3回】 論文作成2 【第4回】 論文作成3 【第5回】 論文作成4 【第6回】 論文作成5 【第7回】 論文作成6 【第8回】 論文作成7 【第9回】 論文作成8 【第10回】 論文作成9 【第11回】 論文作成10 【第12回】 論文作成11 【第13回】 論文作成12 【第14回】 論文作成13 【第15回】 論文作成14			【第16回】 第2期授業日程と運営方法の説明 【第17回】 論文作成1 【第18回】 論文作成2 【第19回】 論文作成3 【第20回】 論文作成4 【第21回】 論文作成5 【第22回】 論文作成6 【第23回】 論文作成7 【第24回】 論文作成8 【第25回】 論文作成9 【第26回】 論文作成10 【第27回】 論文作成11 【第28回】 論文作成12 【第29回】 論文作成13 【第30回】 総括					
成績評価の方法	原則としては、授業への取り組み姿勢 (30%)、発表・討論 (50%) および最終課題 (レポート等) (20%) によって評価するが、各担当教員によって変更の可能性があるので事前に確認しておくこと。								
フィードバックの内容	報告や論文に対するコメントを授業時に行う。								
教科書									
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ									
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部にて定めている各教員のオフィスアワーにて受け付ける。また、WebClass のメッセージ機能でも受け付ける (利用方法はポータルサイト、ライブラリ内のマニュアルを参照)。								
アクティブラーニングの内容	演習、教員からのフィードバックによる振り返り、ディベート、プレゼンテーション								
その他									

講義コード	13C0109801	授業形態	演習	抽選の有無	なし	担当教員	苑 志佳	開講期	通年
科目名	研究演習Ⅱ(苑)					苑 志佳		通年	
履修前提条件						備考			
授業の目的	本演習は、学位論文を作成する博士後期課程の学生を対象とし、履修者の問題意識に沿いつつ、学位論文作成のための研究指導を行うものである。授業の目的は、各自の研究分野において独創的な着眼点に基づく研究課題を設定する能力を高め、その課題の達成に向けてさまざまな分析手法を駆使することのできる高度な研究能力を獲得することにある。具体的な演習内容と授業の実施方式は各開講教員に委ねられている。								
到達目標	1. 自らの研究分野に関わる諸問題およびそれらを解決するためのさまざまな分析手法に精通している。 2. 独創的な研究課題を設定し、その課題をさまざまな分析手法を用いて達成し、その成果を学術論文として結実させることができる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	1. 研究課題に関する文献を幅広く渉猟し、当該研究分野における重要な問題の発見に努めること。 2. 授業時に出されたコメントや助言をよく理解し、これらを踏まえつつ問題解決に向けて複数の分析手法の修得に努めること。 これらを併せて、合計120時間以上の授業外学修を行うこと。								
授業計画	【第1回】第1期授業日程と授業運営方法の説明 【第2回】論文作成1 【第3回】論文作成2 【第4回】論文作成3 【第5回】論文作成4 【第6回】論文作成5 【第7回】論文作成6 【第8回】論文作成7 【第9回】論文作成8 【第10回】論文作成9 【第11回】論文作成10 【第12回】論文作成11 【第13回】論文作成12 【第14回】論文作成13 【第15回】論文作成14			【第16回】第2期授業日程と運営方法の説明 【第17回】論文作成1 【第18回】論文作成2 【第19回】論文作成3 【第20回】論文作成4 【第21回】論文作成5 【第22回】論文作成6 【第23回】論文作成7 【第24回】論文作成8 【第25回】論文作成9 【第26回】論文作成10 【第27回】論文作成11 【第28回】論文作成12 【第29回】論文作成13 【第30回】総括					
成績評価の方法	原則としては、授業への取り組み姿勢(30%)、発表・討論(50%)および最終課題(レポート等)(20%)によって評価するが、各担当教員によって変更の可能性があるので事前に確認しておくこと。								
フィードバックの内容	報告や論文に対するコメントを授業時に行う。								
教科書									
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ									
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部にて定めている各教員のオフィスアワーにて受け付ける。また、WebClassのメッセージ機能でも受け付ける(利用方法はポータルサイト、ライブラリ内のマニュアルを参照)。								
アクティブラーニングの内容	演習、教員からのフィードバックによる振り返り、ディベート、プレゼンテーション								
その他									

講義コード	13C0109803	授業形態	演習	抽選の有無	なし	担当教員	戎野 淑子	開講期	通年
科目名	研究演習Ⅱ(戎野)					戎野 淑子		通年	
履修前提条件						備考			
授業の目的	本演習は、学位論文を作成する博士後期課程の学生を対象とし、履修者の問題意識に沿いつつ、学位論文作成のための研究指導を行うものである。授業の目的は、各自の研究分野において独創的な着眼点に基づく研究課題を設定する能力を高め、その課題の達成に向けてさまざまな分析手法を駆使することのできる高度な研究能力を獲得することにある。具体的な演習内容と授業の実施方式は各開講教員に委ねられている。								
到達目標	1. 自らの研究分野に関わる諸問題およびそれらを解決するためのさまざまな分析手法に精通している。 2. 独創的な研究課題を設定し、その課題をさまざまな分析手法を用いて達成し、その成果を学術論文として結実させることができる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	1. 研究課題に関する文献を幅広く渉猟し、当該研究分野における重要な問題の発見に努めること。 2. 授業時に出されたコメントや助言をよく理解し、これらを踏まえつつ問題解決に向けて複数の分析手法の修得に努めること。 これらを併せて、合計120時間以上の授業外学修を行うこと。								
授業計画	【第1回】第1期授業日程と授業運営方法の説明 【第2回】論文作成1 【第3回】論文作成2 【第4回】論文作成3 【第5回】論文作成4 【第6回】論文作成5 【第7回】論文作成6 【第8回】論文作成7 【第9回】論文作成8 【第10回】論文作成9 【第11回】論文作成10 【第12回】論文作成11 【第13回】論文作成12 【第14回】論文作成13 【第15回】論文作成14			【第16回】第2期授業日程と運営方法の説明 【第17回】論文作成1 【第18回】論文作成2 【第19回】論文作成3 【第20回】論文作成4 【第21回】論文作成5 【第22回】論文作成6 【第23回】論文作成7 【第24回】論文作成8 【第25回】論文作成9 【第26回】論文作成10 【第27回】論文作成11 【第28回】論文作成12 【第29回】論文作成13 【第30回】総括					
成績評価の方法	原則としては、授業への取り組み姿勢(30%)、発表・討論(50%)および最終課題(レポート等)(20%)によって評価するが、各担当教員によって変更の可能性があるので事前に確認しておくこと。								
フィードバックの内容	報告や論文に対するコメントを授業時に行う。								
教科書									
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ									
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部にて定めている各教員のオフィスアワーにて受け付ける。また、WebClassのメッセージ機能でも受け付ける(利用方法はポータルサイト、ライブラリ内のマニュアルを参照)。								
アクティブラーニングの内容	演習、教員からのフィードバックによる振り返り、ディベート、プレゼンテーション								
その他									

講義コード	13C0109804	授業形態	演習	抽選の有無	なし	担当教員	林 康史	開講期	通年
科目名	研究演習Ⅱ(林)					林 康史		通年	
履修前提条件						備考			
授業の目的	本演習は、学位論文を作成する博士後期課程の学生を対象とし、履修者の問題意識に沿いつつ、学位論文作成のための研究指導を行うものである。授業の目的は、各自の研究分野において独創的な着眼点に基づく研究課題を設定する能力を高め、その課題の達成に向けてさまざまな分析手法を駆使することのできる高度な研究能力を獲得することにある。具体的な演習内容と授業の実施方式は各開講教員に委ねられている。								
到達目標	1. 自らの研究分野に関わる諸問題およびそれらを解決するためのさまざまな分析手法に精通している。 2. 独創的な研究課題を設定し、その課題をさまざまな分析手法を用いて達成し、その成果を学術論文として結実させることができる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	1. 研究課題に関する文献を幅広く渉猟し、当該研究分野における重要な問題の発見に努めること。 2. 授業時に出されたコメントや助言をよく理解し、これらを踏まえつつ問題解決に向けて複数の分析手法の修得に努めること。 これらを併せて、合計120時間以上の授業外学修を行うこと。								
授業計画	【第1回】 第1期授業日程と授業運営方法の説明 【第2回】 論文作成1 【第3回】 論文作成2 【第4回】 論文作成3 【第5回】 論文作成4 【第6回】 論文作成5 【第7回】 論文作成6 【第8回】 論文作成7 【第9回】 論文作成8 【第10回】 論文作成9 【第11回】 論文作成10 【第12回】 論文作成11 【第13回】 論文作成12 【第14回】 論文作成13 【第15回】 論文作成14			【第16回】 第2期授業日程と運営方法の説明 【第17回】 論文作成1 【第18回】 論文作成2 【第19回】 論文作成3 【第20回】 論文作成4 【第21回】 論文作成5 【第22回】 論文作成6 【第23回】 論文作成7 【第24回】 論文作成8 【第25回】 論文作成9 【第26回】 論文作成10 【第27回】 論文作成11 【第28回】 論文作成12 【第29回】 論文作成13 【第30回】 総括					
成績評価の方法	原則としては、授業への取り組み姿勢(30%)、発表・討論(50%)および最終課題(レポート等)(20%)によって評価するが、各担当教員によって変更の可能性があるので事前に確認しておくこと。								
フィードバックの内容	報告や論文に対するコメントを授業時に行う。								
教科書									
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ									
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部にて定めている各教員のオフィスアワーにて受け付ける。また、WebClassのメッセージ機能でも受け付ける(利用方法はポータルサイト、ライブラリ内のマニュアルを参照)。								
アクティブラーニングの内容	演習、教員からのフィードバックによる振り返り、ディベート、プレゼンテーション								
その他									

講義コード	13C0205802	授業形態	演習	抽選の有無	なし	担当教員	小野崎 保	開講期	通年
科目名	研究演習Ⅲ(小野崎)					小野崎 保		通年	
履修前提条件						備考			
授業の目的	本演習は、学位論文を作成する博士後期課程の学生を対象とし、履修者の問題意識に沿いつつ、学位論文作成のための研究指導を行うものである。授業の目的は、各自の研究分野において独創的な着眼点に基づく研究課題を設定する能力を高め、その課題の達成に向けてさまざまな分析手法を駆使することのできる高度な研究能力を獲得することにある。具体的な演習内容と授業の実施方式は各開講教員に委ねられている。								
到達目標	1. 自らの研究分野に関わる諸問題およびそれらを解決するためのさまざまな分析手法に精通している。 2. 独創的な研究課題を設定し、その課題をさまざまな分析手法を用いて達成し、その成果を学術論文として結実させることができる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	1. 研究課題に関する文献を幅広く渉猟し、当該研究分野における重要な問題の発見に努めること。 2. 授業時に出されたコメントや助言をよく理解し、これらを踏まえつつ問題解決に向けて複数の分析手法の修得に努めること。 これらを併せて、合計120時間以上の授業外学修を行うこと。								
授業計画	【第1回】 第1期授業日程と授業運営方法の説明 【第2回】 論文作成1 【第3回】 論文作成2 【第4回】 論文作成3 【第5回】 論文作成4 【第6回】 論文作成5 【第7回】 論文作成6 【第8回】 論文作成7 【第9回】 論文作成8 【第10回】 論文作成9 【第11回】 論文作成10 【第12回】 論文作成11 【第13回】 論文作成12 【第14回】 論文作成13 【第15回】 論文作成14			【第16回】 第2期授業日程と運営方法の説明 【第17回】 論文作成1 【第18回】 論文作成2 【第19回】 論文作成3 【第20回】 論文作成4 【第21回】 論文作成5 【第22回】 論文作成6 【第23回】 論文作成7 【第24回】 論文作成8 【第25回】 論文作成9 【第26回】 論文作成10 【第27回】 論文作成11 【第28回】 論文作成12 【第29回】 論文作成13 【第30回】 総括					
成績評価の方法	原則としては、授業への取り組み姿勢(30%)、発表・討論(50%)および最終課題(レポート等)(20%)によって評価するが、各担当教員によって変更の可能性があるので事前に確認しておくこと。								
フィードバックの内容	報告や論文に対するコメントを授業時に行う。								
教科書									
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ									
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部にて定めている各教員のオフィスアワーにて受け付ける。また、WebClassのメッセージ機能でも受け付ける(利用方法はポータルサイト、ライブラリ内のマニュアルを参照)。								
アクティブラーニングの内容	演習、教員からのフィードバックによる振り返り、ディベート、プレゼンテーション								
その他									

講義コード	13C0205902	授業形態	演習	抽選の有無	なし	担当教員	苑 志佳	開講期	通年
科目名	研究演習Ⅲ(苑)								
履修前提条件					備考				
授業の目的	本演習は、学位論文を作成する博士後期課程の学生を対象とし、履修者の問題意識に沿いつつ、学位論文作成のための研究指導を行うものである。授業の目的は、各自の研究分野において独創的な着眼点に基づく研究課題を設定する能力を高め、その課題の達成に向けてさまざまな分析手法を駆使することのできる高度な研究能力を獲得することにある。具体的な演習内容と授業の実施方式は各開講教員に委ねられている。								
到達目標	1. 自らの研究分野に関わる諸問題およびそれらを解決するためのさまざまな分析手法に精通している。 2. 独創的な研究課題を設定し、その課題をさまざまな分析手法を用いて達成し、その成果を学術論文として結実させることができる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	1. 研究課題に関する文献を幅広く渉猟し、当該研究分野における重要な問題の発見に努めること。 2. 授業時に出されたコメントや助言をよく理解し、これらを踏まえつつ問題解決に向けて複数の分析手法の修得に努めること。 これらを併せて、合計120時間以上の授業外学修を行うこと。								
授業計画	【第1回】 第1期授業日程と授業運営方法の説明			【第16回】 第2期授業日程と運営方法の説明					
	【第2回】 論文作成1			【第17回】 論文作成1					
	【第3回】 論文作成2			【第18回】 論文作成2					
	【第4回】 論文作成3			【第19回】 論文作成3					
	【第5回】 論文作成4			【第20回】 論文作成4					
	【第6回】 論文作成5			【第21回】 論文作成5					
	【第7回】 論文作成6			【第22回】 論文作成6					
	【第8回】 論文作成7			【第23回】 論文作成7					
	【第9回】 論文作成8			【第24回】 論文作成8					
	【第10回】 論文作成9			【第25回】 論文作成9					
	【第11回】 論文作成10			【第26回】 論文作成10					
	【第12回】 論文作成11			【第27回】 論文作成11					
	【第13回】 論文作成12			【第28回】 論文作成12					
	【第14回】 論文作成13			【第29回】 論文作成13					
	【第15回】 論文作成14			【第30回】 総括					
成績評価の方法	原則としては、授業への取り組み姿勢(30%)、発表・討論(50%)および最終課題(レポート等)(20%)によって評価するが、各担当教員によって変更の可能性があるので事前に確認しておくこと。								
フィードバックの内容	報告や論文に対するコメントを授業時に行う。								
教科書									
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ									
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部にて定めている各教員のオフィスアワーにて受け付ける。また、WebClassのメッセージ機能でも受け付ける(利用方法はポータルサイト、ライブラリ内のマニュアルを参照)。								
アクティブラーニングの内容	演習、教員からのフィードバックによる振り返り、ディベート、プレゼンテーション								
その他									

講義コード	13C0206001	授業形態	演習	抽選の有無	なし	担当教員	苑 志佳	開講期	通年
科目名	研究演習Ⅳ(苑)								
履修前提条件					備考				
授業の目的	本演習は、学位論文を作成する博士後期課程の学生を対象とし、履修者の問題意識に沿いつつ、学位論文作成のための研究指導を行うものである。授業の目的は、各自の研究分野において独創的な着眼点に基づく研究課題を設定する能力を高め、その課題の達成に向けてさまざまな分析手法を駆使することのできる高度な研究能力を獲得することにある。具体的な演習内容と授業の実施方式は各開講教員に委ねられている。								
到達目標	1. 自らの研究分野に関わる諸問題およびそれらを解決するためのさまざまな分析手法に精通している。 2. 独創的な研究課題を設定し、その課題をさまざまな分析手法を用いて達成し、その成果を学術論文として結実させることができる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	1. 研究課題に関する文献を幅広く渉猟し、当該研究分野における重要な問題の発見に努めること。 2. 授業時に出されたコメントや助言をよく理解し、これらを踏まえつつ問題解決に向けて複数の分析手法の修得に努めること。 これらを併せて、合計120時間以上の授業外学修を行うこと。								
授業計画	【第1回】 第1期授業日程と授業運営方法の説明			【第16回】 第2期授業日程と運営方法の説明					
	【第2回】 論文作成1			【第17回】 論文作成1					
	【第3回】 論文作成2			【第18回】 論文作成2					
	【第4回】 論文作成3			【第19回】 論文作成3					
	【第5回】 論文作成4			【第20回】 論文作成4					
	【第6回】 論文作成5			【第21回】 論文作成5					
	【第7回】 論文作成6			【第22回】 論文作成6					
	【第8回】 論文作成7			【第23回】 論文作成7					
	【第9回】 論文作成8			【第24回】 論文作成8					
	【第10回】 論文作成9			【第25回】 論文作成9					
	【第11回】 論文作成10			【第26回】 論文作成10					
	【第12回】 論文作成11			【第27回】 論文作成11					
	【第13回】 論文作成12			【第28回】 論文作成12					
	【第14回】 論文作成13			【第29回】 論文作成13					
	【第15回】 論文作成14			【第30回】 総括					
成績評価の方法	原則としては、授業への取り組み姿勢(30%)、発表・討論(50%)および最終課題(レポート等)(20%)によって評価するが、各担当教員によって変更の可能性があるので事前に確認しておくこと。								
フィードバックの内容	報告や論文に対するコメントを授業時に行う。								
教科書									
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ									
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部にて定めている各教員のオフィスアワーにて受け付ける。また、WebClassのメッセージ機能でも受け付ける(利用方法はポータルサイト、ライブラリ内のマニュアルを参照)。								
アクティブラーニングの内容	演習、教員からのフィードバックによる振り返り、ディベート、プレゼンテーション								
その他									

講義コード	13C0206002	授業形態	演習	抽選の有無	なし	担当教員	小野崎 保	開講期	通年
科目名	研究演習Ⅳ(小野崎)								
履修前提条件					備考				
授業の目的	本演習は、学位論文を作成する博士後期課程の学生を対象とし、履修者の問題意識に沿いつつ、学位論文作成のための研究指導を行うものである。授業の目的は、各自の研究分野において独創的な着眼点に基づく研究課題を設定する能力を高め、その課題の達成に向けてさまざまな分析手法を駆使することのできる高度な研究能力を獲得することにある。具体的な演習内容と授業の実施方式は各開講教員に委ねられている。								
到達目標	1. 自らの研究分野に関わる諸問題およびそれらを解決するためのさまざまな分析手法に精通している。 2. 独創的な研究課題を設定し、その課題をさまざまな分析手法を用いて達成し、その成果を学術論文として結実させることができる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	1. 研究課題に関する文献を幅広く渉猟し、当該研究分野における重要な問題の発見に努めること。 2. 授業時に出されたコメントや助言をよく理解し、これらを踏まえつつ問題解決に向けて複数の分析手法の修得に努めること。 これらを併せて、合計120時間以上の授業外学修を行うこと。								
授業計画	【第1回】第1期授業日程と授業運営方法の説明 【第2回】論文作成1 【第3回】論文作成2 【第4回】論文作成3 【第5回】論文作成4 【第6回】論文作成5 【第7回】論文作成6 【第8回】論文作成7 【第9回】論文作成8 【第10回】論文作成9 【第11回】論文作成10 【第12回】論文作成11 【第13回】論文作成12 【第14回】論文作成13 【第15回】論文作成14			【第16回】第2期授業日程と運営方法の説明 【第17回】論文作成1 【第18回】論文作成2 【第19回】論文作成3 【第20回】論文作成4 【第21回】論文作成5 【第22回】論文作成6 【第23回】論文作成7 【第24回】論文作成8 【第25回】論文作成9 【第26回】論文作成10 【第27回】論文作成11 【第28回】論文作成12 【第29回】論文作成13 【第30回】総括					
成績評価の方法	原則としては、授業への取り組み姿勢(30%)、発表・討論(50%)および最終課題(レポート等)(20%)によって評価するが、各担当教員によって変更の可能性があるので事前に確認しておくこと。								
フィードバックの内容	報告や論文に対するコメントを授業時に行う。								
教科書									
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ									
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部にて定めている各教員のオフィスアワーにて受け付ける。また、WebClassのメッセージ機能でも受け付ける(利用方法はポータルサイト、ライブラリ内のマニュアルを参照)。								
アクティブラーニングの内容	演習、教員からのフィードバックによる振り返り、ディベート、プレゼンテーション								
その他									

講義コード	13C0206202	授業形態	演習	抽選の有無	なし	担当教員	宮川 幸三	開講期	通年
科目名	研究演習Ⅴ(宮川)								
履修前提条件					備考				
授業の目的	本演習は、学位論文を作成する博士後期課程の学生を対象とし、履修者の問題意識に沿いつつ、学位論文作成のための研究指導を行うものである。授業の目的は、各自の研究分野において独創的な着眼点に基づく研究課題を設定する能力を高め、その課題の達成に向けてさまざまな分析手法を駆使することのできる高度な研究能力を獲得することにある。具体的な演習内容と授業の実施方式は各開講教員に委ねられている。								
到達目標	1. 自らの研究分野に関わる諸問題およびそれらを解決するためのさまざまな分析手法に精通している。 2. 独創的な研究課題を設定し、その課題をさまざまな分析手法を用いて達成し、その成果を学術論文として結実させることができる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	1. 研究課題に関する文献を幅広く渉猟し、当該研究分野における重要な問題の発見に努めること。 2. 授業時に出されたコメントや助言をよく理解し、これらを踏まえつつ問題解決に向けて複数の分析手法の修得に努めること。 これらを併せて、合計120時間以上の授業外学修を行うこと。								
授業計画	【第1回】第1期授業日程と授業運営方法の説明 【第2回】論文作成1 【第3回】論文作成2 【第4回】論文作成3 【第5回】論文作成4 【第6回】論文作成5 【第7回】論文作成6 【第8回】論文作成7 【第9回】論文作成8 【第10回】論文作成9 【第11回】論文作成10 【第12回】論文作成11 【第13回】論文作成12 【第14回】論文作成13 【第15回】論文作成14			【第16回】第2期授業日程と運営方法の説明 【第17回】論文作成1 【第18回】論文作成2 【第19回】論文作成3 【第20回】論文作成4 【第21回】論文作成5 【第22回】論文作成6 【第23回】論文作成7 【第24回】論文作成8 【第25回】論文作成9 【第26回】論文作成10 【第27回】論文作成11 【第28回】論文作成12 【第29回】論文作成13 【第30回】総括					
成績評価の方法	原則としては、授業への取り組み姿勢(30%)、発表・討論(50%)および最終課題(レポート等)(20%)によって評価するが、各担当教員によって変更の可能性があるので事前に確認しておくこと。								
フィードバックの内容	報告や論文に対するコメントを授業時に行う。								
教科書									
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ									
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部にて定めている各教員のオフィスアワーにて受け付ける。また、WebClassのメッセージ機能でも受け付ける(利用方法はポータルサイト、ライブラリ内のマニュアルを参照)。								
アクティブラーニングの内容	演習、教員からのフィードバックによる振り返り、ディベート、プレゼンテーション								
その他									

講義コード	13C0206301	授業形態	演習	抽選の有無	なし	担当教員		開講期	
科目名	研究演習Ⅵ(小野崎)				小野崎 保		通年		
履修前条件					備考				
授業の目的	本演習は、学位論文を作成する博士後期課程の学生を対象とし、履修者の問題意識に沿いつつ、学位論文作成のための研究指導を行うものである。授業の目的は、各自の研究分野において独創的な着眼点に基づく研究課題を設定する能力を高め、その課題の達成に向けてさまざまな分析手法を駆使することのできる高度な研究能力を獲得することにある。具体的な演習内容と授業の実施方式は各開講教員に委ねられている。								
到達目標	1. 自らの研究分野に関わる諸問題およびそれらを解決するためのさまざまな分析手法に精通している。 2. 独創的な研究課題を設定し、その課題をさまざまな分析手法を用いて達成し、その成果を学術論文として結実させることができる。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	1. 研究課題に関する文献を幅広く渉猟し、当該研究分野における重要な問題の発見に努めること。 2. 授業時に出されたコメントや助言をよく理解し、これらを踏まえつつ問題解決に向けて複数の分析手法の修得に努めること。 これらを併せて、合計120時間以上の授業外学修を行うこと。								
授業計画	【第1回】 第1期授業日程と授業運営方法の説明			【第16回】 第2期授業日程と運営方法の説明					
	【第2回】 論文作成1			【第17回】 論文作成1					
	【第3回】 論文作成2			【第18回】 論文作成2					
	【第4回】 論文作成3			【第19回】 論文作成3					
	【第5回】 論文作成4			【第20回】 論文作成4					
	【第6回】 論文作成5			【第21回】 論文作成5					
	【第7回】 論文作成6			【第22回】 論文作成6					
	【第8回】 論文作成7			【第23回】 論文作成7					
	【第9回】 論文作成8			【第24回】 論文作成8					
	【第10回】 論文作成9			【第25回】 論文作成9					
	【第11回】 論文作成10			【第26回】 論文作成10					
	【第12回】 論文作成11			【第27回】 論文作成11					
	【第13回】 論文作成12			【第28回】 論文作成12					
	【第14回】 論文作成13			【第29回】 論文作成13					
	【第15回】 論文作成14			【第30回】 総括					
成績評価の方法	原則としては、授業への取り組み姿勢(30%)、発表・討論(50%)および最終課題(レポート等)(20%)によって評価するが、各担当教員によって変更の可能性があるので事前に確認しておくこと。								
フィードバックの内容	報告や論文に対するコメントを授業時に行う。								
教科書									
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ									
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部にて定めている各教員のオフィスアワーにて受け付ける。また、WebClassのメッセージ機能でも受け付ける(利用方法はポータルサイト、ライブラリ内のマニュアルを参照)。								
アクティブラーニングの内容	演習、教員からのフィードバックによる振り返り、ディベート、プレゼンテーション								
その他									

博士後期課程